

宿横手三波川遺跡

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2001

日 本 道 路 公 団
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

宿横手三波川遺跡

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2001

日 本 道 路 公 団
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

北関東自動車道は、本県高崎市の関越自動車道から分岐し、茨城県那珂港にいたる延長約150kmの高速自動車国道であります。その間、群馬・栃木・茨城各県の主要都市及び東北自動車道・常磐自動車道を結び、地域社会の発展に大きな役割を果たすものと期待されております。

この北関東自動車道の高崎～伊勢崎間約15kmの建設に先立って、平成7年6月から36の遺跡で発掘調査が行われておりますが、当事業団ではその内、31の遺跡の発掘調査を担当しております。本書は、その遺跡の一つ、高崎市宿横手町に所在する『宿横手三波川遺跡』の発掘調査報告書です。

本遺跡は、近世・中世・古代・古墳時代の火山灰や洪水層に覆われたそれぞれの水田跡等が確認され、当時の農業経営や火山の噴火という自然災害と人間との関わりを知る上で、また、古代の群馬県平野部の土地利用を知る上で貴重な遺跡であると確信しております。さらに東に延びる北関東自動車道地域の各遺跡で発見されている水田跡研究の出発点となる遺跡でもあります。

この報告書は、考古学研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様の研究にも大いに役立つものと確信しております。

最後になりますが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、高崎市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成13年2月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は北関東自動車道路建設に伴い事前調査された宿横手三波川遺跡（遺跡略号KT-020）の発掘調査報告書である。
2. 宿横手三波川遺跡は、群馬県高崎市宿横手町58-1、59-1、60、61、62、163-1、164、165、166、171-1・5、172、173-1、177-1、178-1・2、179、180-2、216-1、217、219-1・2、220、221、255-1・2、256-1・2・3、259、354-1に所在する。
3. 遺跡名は大字名の「宿横手」に、小字名の「三波川」を付したものである。
4. 発掘調査及び平成10年度の整理事業は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に再委託して実施されたものである。平成11・12年度の整理事業は、日本道路公団から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託を受け実施されたものである。
5. 発掘調査期間、整理事業期間は以下のとおりである。

発掘調査 平成8年度 平成8年7月1日～平成9年3月31日
平成9年度 平成9年4月1日～平成10年3月31日

整理事業 平成10年4月1日～平成13年3月31日
6. 発掘調査、整理事業の体制は以下のとおりである。

事務担当 菅野 清・小野宇三郎・原田恒弘・赤山容造・蜂巢 実・渡辺 健・住谷 進・
神保侑史・水田 稔・小淵 淳・坂本敏夫・中束耕志・西田健彦・井上 剛・小山建夫・
笠原秀樹・国定 均・須田朋子・吉田有光・柳岡良宏・岡島伸昌・森下弘美・宮崎忠司・
片岡徳雄・大澤友治・吉田恵子・並木綾子・今井もと子・松井美智代・内山佳子・
星野美智子・羽鳥京子・菅原淑子・山口陽子・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・
本地友美・狩野真子・若田 誠・松下次男・浅見宜記・山本正司・吉田 茂・蘓原正義

発掘調査担当 平成8年度 高井佳弘・廣津英一・岩崎琢郎（A区・B区南半・C区）
平成9年度 高井佳弘・今泉 晃・岩崎琢郎・木村 収・勢藤暁美（旧姓瀧野）（C～E区）
同 上 相京建史・小林利夫（B区北半）

整理担当 平成10～11年度 岩崎琢郎 平成12年度 熊谷 健
7. 本書作成の担当は以下のとおりである。

編 集 岩崎琢郎

本文執筆 第1章第1節 中束耕志 第5章第3節 高井佳弘 同第4節 矢口裕之
その他 岩崎琢郎（第4章の自然科学分析結果を除く。）

遺物観察 綿貫邦男・坂口 一・大西雅弘・松村和男、平成10～11年度整理担当、嘱託員、補助員

写真撮影 遺構：各発掘調査担当 遺物：佐藤元彦

遺物保存処理 関 邦一・土橋まり子・小村浩一・高橋初美・伊東博子・田中のぶ子

整理嘱託員 平成10～12年度 鹿沼敏子

整理補助員 平成10～11年度 茂木範子・馬場信子・儘田澄子・横坂英実・石関富美代・萩原妙子
平成12年度 儘田澄子・猪野熊洋子・堀米弘美・勅使川原操子・石関富美代・萩原妙子
8. 自然科学分析は、株式会社古環境研究所に業務委託をして行った。

9. 出土遺物、記録資料の一切は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管されている。
10. 発掘調査及び報告書作成では次の方々にご指導・ご協力を頂いた。記して感謝の意を表す。(敬称略)
- 岡村道雄・坂井秀弥・家田淳一・吉永陽三・大橋康二・原田保則・高崎市教育委員会・高崎土木事務所・地元関係者各位

凡 例

1. 調査面の名称は、その面の遺構の時代名を用いた。同じ時代の面が複数ある場合、時代名の後に上位より「第1面」、「第2面」……を付した。また、特別な場合は名称の付け方を本文中に明記した。
2. 遺構名称については以下のように表現した。
 - ①発掘調査時のものを簡略化した形で用い、調査区名・調査面番号・番号・種類の順で表記した。
 - ②遺構全体図や遺構配置図、その他省略可能な場合は番号・種類略称のみを記した。水田区画については番号のみを記した。調査区名・調査面番号はまとめて()付きで示した。(例) 発掘調査時：A区1面1号水田 A区1面2号土坑
本報告書 : A1-1区画 A1-2土坑 風倒木
省略形 : 1 2坑 木
※種類略称例 柱列―「柱穴列」、灰―「灰掻き」、踏分―「踏み分け道」
 - ③整理作業段階で名称が変更された遺構については、「遺構名対照表」に記した。
 - ④本遺跡は北関東自動車道側道建設工事に伴う宿横手三波川遺跡(以下側道部)と同時に発掘調査を行ったため、遺構名称を連続して付した。従って、本報告書内で遺構番号が連続しない場合がある。
3. 挿図の方位記号は、国家座標上の北を基準としている。
4. 遺構全体図は、1/400の縮尺で掲載した。
5. 遺構図の縮尺は、原則的に以下の通りとする。その他各図のスケールを参照されたい。

○遺構概念図	1:2,000	○遺構配置図	1:800	○水田等拡大図	1:200		
○掘立柱建物	1:60	○土坑	1:60	○溝断面	1:40	○自然河川断面	1:60
6. 遺物実測図の縮尺は、原則的に以下のとおりとする。陶磁器等を含む土器等は、器種に応じて縮尺を変えている。その他各図のスケールを参照されたい。

○土器(陶磁器等含む)	1:3 / 1:4 / 断面実測	1:2	○錢貨	1:1	○金属製品	1:2
○石器・石製品	1:2 / 1:6	○木製品	1:6			
7. 各図版にはスクリーントーンを用いている。遺構図では、農具痕や足跡の確認範囲や上位面の遺構の位置などを表現している。それぞれに凡例を付してあるので参照されたい。遺物図では、陶器の施釉部分を表現している。「染付」の文様と重なる場合は省略してある。青磁は、施釉部分にスクリーントーンを貼布している。
8. 等高線、断面基準線の数値は海拔高度で示した。
9. 遺構の方位は、北を基準とした傾きを計測した。表記は、東に傾く場合をN-○○°-E、西に傾く場合をN-△△°-Wと表した。この角度は90°を越えない。また、方位が南北方向の場合はN-0°、東西方向の場合はN-90°と表した。なお、これらは溝底面等が傾斜する方向を示すものではない。

10. 位置の表示は、国家座標第Ⅳ系に従った。本遺跡の位置は、 $X=36,000$ 番台、 $Y=-67,000$ 番台の範囲であり、その下3桁の数値をそのまま用いて以下のように表示した。

①X軸、Y軸の座標を表記する場合、それぞれ「 $X=○○○$ 」、「 $Y=△△△$ 」となるが、調査区設定図や遺構全体図等では3桁の数値のみを表示した。

②各地点の座標は、「(X軸座標) — (Y軸座標)」と表記した。

③各遺構の位置は、5 mピッチのグリッドを用いて表示した。グリッド名は南東隅の座標で示し、末尾に「G」を付した。また、より正確な位置が必要となる場合は1 m単位の座標を用いた。

11. 水田区画の計測・表記は以下のように行った。

①面積計測は畦畔の下端、則ち「耕作面積」で求め、プランメータで3回計測し、その平均値を求めた。

②計測結果は表にして示した。その際、復元して求めた面積には※印を付し、計測できた径が長径か短径か不明な場合は長径の欄に()付きで記した。

12. 各テフラ等は以下のように表記した。

主なテフラ等の名称	年 代	表 記
浅間A軽石	1783 (天明三) 年	As—A
浅間Bテフラ	1108 (天仁元) 年	As—B
榛名二ツ岳洪川テフラに伴う泥流	6世紀中葉?	Hr—FP 泥流・FP 泥流
榛名二ツ岳洪川テフラ	6世紀中葉	Hr—FP・FP
榛名二ツ岳伊香保テフラ	6世紀初頭	Hr—FA・FA
浅間C軽石	4世紀初頭	As—C

13. その他、本報告書では以下のような表現や記述を行ったので、参考にされたい。

①水田区画の番号は、確認された状態から推定して付けた。そのため、特に残存度の低い水田跡など、実際に機能していた状態を表していない可能性がある。

②出土遺物のうち水田面や耕土中から採取したものは、実際にその水田に投棄されたりしたものであるのか、他から混入したものであるのか判断できない。そのため、「遺構外出土」として扱った。

目 次

序

例言

凡例

目次

挿図等目次

写真図版目次

第1章 調査の経緯・方法・経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査区の設定と調査の方法	2
第3節 調査の経過	3
第2章 遺跡の位置・周辺の遺跡・基本層序	5
第1節 遺跡の位置	5
第2節 周辺の遺跡	5
第3節 基本層序の設定	9
第3章 各時代の調査	13
第1節 調査概要	13
第2節 近世以降の遺構と遺物	14
第3節 中世の遺構と遺物	64
第4節 古代の遺構と遺物	115
第5節 古墳時代の遺構と遺物	140
第6節 古墳時代以前の遺構と遺物	178
第4章 自然化学分析	188
第5章 考 察	
第1節 As—A 混土下水田の農具痕について	210
第2節 古代以降の土地区画について	212
第3節 As—B 下水田と「かたあらし」農法	215
第4節 宿横手三波川遺跡出土の肥前陶器について	218

宿横手三波川遺跡・遺構名称対照表

発掘調査報告書抄録

写真図版

挿図等目次

第1図	宿横手三波川遺跡位置図	1	第60図	「中世第2面—1」土坑(3)	91
第2図	宿横手三波川遺跡調査区設定図	2	第61図	「中世第2面—1」土坑(4)	92
第3図	周辺遺跡位置図	6	第62図	「中世第2面—1」土坑(5)	93
第4図	宿横手三波川遺跡土層図	11・12	第63図	「中世第2面—2」土坑(1)	98
第5図	近世遺構概念図	14	第64図	「中世第2面—2」土坑(2)	99
第6図	近世遺構配置図(1)	15	第65図	「中世第2面—2」土坑(3)	100
第7図	近世遺構配置図(2)	16	第66図	「中世第2面—2」土坑(4)	101
第8図	近世遺構配置図(3)	17	第67図	「中世第2面—2」土坑(5)	102
第9図	As—A混土下水田 A区南西部	21	第68図	「中世第2面—2」土坑(6)	103
第10図	As—A混土下水田 B区南部	22	第69図	「中世第2面—2」土坑(7)	104
第11図	As—A混土下水田 B区北西部	23	第70図	「中世第2面—2」土坑(8)	105
第12図	As—A混土下水田 B区北部	24	第71図	「中世第2面—2」土坑(9)	106
第13図	As—A混土下水田 C区北東部	24	第72図	E4—1道跡	107・108
第14図	As—A混土下水田 C区北部・南東部	25・26	第73図	E4—1道跡断面	109
第15図	As—A混土下水田 D区南部	27	第74図	中世の遺物(1)	111
第16図	As—A混土下水田 D区北部～南東部	28	第75図	中世の遺物(2)	112
第17図	「近世第1面」溝断面	29	第76図	中世の遺物(3)	113
第18図	近世第2面水田 B区中央部	30	第77図	中世の遺物(4)	114
第19図	E1—1溝	31・32	第78図	古代遺構概念図	115
第20図	E1—15井戸	34	第79図	古代遺構配置図(1)	116
第21図	「近世第1面」E区北部	35	第80図	古代遺構配置図(2)	117
第22図	「近世第1面」土坑(1)	37	第81図	古代遺構配置図(3)	118
第23図	「近世第1面」土坑(2)	38	第82図	古代遺構配置図(4)	119
第24図	「近世第1面」灰掻穴・灰掻穴群	39	第83図	古代遺構配置図(5)	120
第25図	近世以降の遺物(1)	48	第84図	As—B下水田 A区北東部	122
第26図	近世以降の遺物(2)	49	第85図	As—B下水田 B区北部・中央部	124
第27図	近世以降の遺物(3)	50	第86図	As—B下水田 C区北部～北西部	125・126
第28図	近世以降の遺物(4)	51	第87図	As—B下水田 D区南西部	127
第29図	近世以降の遺物(5)	52	第88図	As—B下水田 E区南東部・北東部	128
第30図	近世以降の遺物(6)	53	第89図	A3—1・10溝	131
第31図	近世以降の遺物(7)	54	第90図	B9—3・4溝	131
第32図	近世以降の遺物(8)	55	第91図	C3—1・2溝	132
第33図	近世以降の遺物(9)	56	第92図	「古代面基底」E区北東部	132
第34図	近世以降の遺物(10)	57	第93図	「古代面基底」溝断面	133
第35図	近世以降の遺物(11)	58	第94図	「古代面」、「古代面基底」土坑(1)	135
第36図	近世以降の遺物(12)	59	第95図	「古代面」、「古代面基底」土坑(2)	136
第37図	近世以降の遺物(13)	60	第96図	古代の遺物(1)	138
第38図	近世以降の遺物(14)	61	第97図	古代の遺物(2)	139
第39図	近世以降の遺物(15)	62	第98図	古墳時代遺構概念図	140
第40図	近世以降の遺物(16)	63	第99図	古墳時代遺構配置図(1)	141
第41図	中世遺構概念図	64	第100図	古墳時代遺構配置図(2)	142
第42図	中世遺構配置図(1)	65	第101図	古墳時代遺構配置図(3)	143
第43図	中世遺構配置図(2)	66	第102図	古墳時代遺構配置図(4)	144
第44図	中世遺構配置図(3)	67	第103図	古墳時代遺構配置図(5)	145
第45図	中世遺構配置図(4)	68	第104図	古墳時代遺構配置図(6)	146
第46図	中世遺構配置図(5)	69	第105図	Hr—FP下水田 C区中央部～東部	148
第47図	中世第1面水田 E区南東部	72	第106図	Hr—FA下水田 C区南東部	149
第48図	中世第2面水田 E区南東部	73	第107図	古墳時代各水田 D区北部	151・152
第49図	中世第2面水田 D区北西部	77	第108図	古墳時代各水田 E区北西部・北東部	153・154
第50図	中世第2面水田 D区中央部	78	第109図	Hr—FP下水田 C区概念図	156
第51図	中世第2面水田 B区中央部	79	第110図	Hr—FP下水田 D区概念図	157
第52図	「中世第1面・第2面—1」溝断面	80	第111図	Hr—FP下水田 E区概念図	158
第53図	「中世第2面—1」E区北部	82	第112図	古墳時代溝断面	172
第54図	「中世第2面—1」掘立柱建物、柱穴列	83	第113図	古墳時代土坑	172
第55図	A2—1掘立柱建物	84	第114図	古墳時代前期の遺物(1)	173
第56図	「中世第2面—2」溝断面	85	第115図	古墳時代前期の遺物(2)	174
第57図	「中世第2面—1」井戸	86	第116図	古墳時代中期～後期の遺物	177
第58図	「中世第2面—1」土坑(1)	89	第117図	古墳時代以前遺構概念図	178
第59図	「中世第2面—1」土坑(2)	90	第118図	古墳時代以前遺構配置図(1)	179

第119図	古墳時代以前遺構配置図(2)	180	図表4	宿横手三波川遺跡植物珪酸体分析結果(2)	206
第120図	古墳時代以前遺構配置図(3)	181	図表5	宿横手三波川遺跡植物珪酸体分析結果(3)	207
第121図	古墳時代以前溝断面	182	図表6	宿横手三波川遺跡植物珪酸体分析結果(4)	208
第122図	自然河川断面	185	写真1	宿横手三波川遺跡植物珪酸体写真	209
第123図	古墳時代以前の遺物	187	写真2	小山路窯跡と出土遺物	220
第124図	宿横手三波川遺跡自然科学分析ポイント図	189	付図1	宿横手三波川遺跡近世以降全体図	
第125図	宿横手三波川遺跡周辺「条里地割り」推定図	214	付図2	宿横手三波川遺跡中世全体図	
第126図	小山路窯跡出土遺物の実測図	220	付図3	宿横手三波川遺跡古代全体図	
図表1	宿横手三波川遺跡土層柱状図(1)	203	付図4	宿横手三波川遺跡古墳時代(1)全体図	
図表2	宿横手三波川遺跡土層柱状図(2)	204	付図5	宿横手三波川遺跡古墳時代(2)、古墳時代以前全体図	
図表3	宿横手三波川遺跡植物珪酸体分析結果(1)	205			

写真図版目次

P L . 1	1 宿横手三波川遺跡全景(南より)		P L . 9	1 D1-8区画ヒト足跡(南より)	
	2 宿横手三波川遺跡全景(北より)		2 D1-1・2溝(北より)		
P L . 2	1 As-A混土下水田A区(西より)		3 D1-2溝北部石組(東より)		
	2 A1-1区画(上が北)		4 D1-2溝南部石組(南より)		
	3 A1-1区画農具痕(東より)		5 D1-5溝(北より)		
	4 A1-2溝(南より)		6 D1-3溝(北より)		
P L . 3	1 As-A混土下水田B区北半(西より)		P L . 10	1 D1-4溝(東より)	
	2 As-A混土下水田B区南半(左上が北)		2 D1-6溝(西より)		
	3 B1-4区画農具痕(北西より)		3 近世第2面水田B区(上が北)		
	4 B1-18・19区画農具痕(北より)		4 B3-1溝(南東より)		
P L . 4	1 B1-1溝北半(北より)		5 近世第2面水田B区北~中央部(北より)		
	2 B1-2~4溝(南東より)		P L . 11	1 近世第2面水田B区西部(東より)	
	3 B1-5溝(東より)		2 近世第2面水田B区北部石列(南東より)		
	4 As-A混土下水田C区西半(北東より)		3 近世第1面E区北部(上が北)		
P L . 5	1 As-A混土下水田C区東半(南より)		4 E1-1溝確認状態(西より)		
	2 C1-2区画農具痕(北西より)		5 E1-1溝確認状態(南西より)		
	3 C1-7・8区画(下が北)		6 E1-1溝石組(南東より)		
	4 C1-8区画農具痕(南より)		7 E1-1溝出入口部分(南より)		
	5 C1-7区画農具痕(東より)		P L . 12	1 E1-1溝石組西部(南より)	
	6 C1-14区画(南より)		2 E1-1溝石組東部(南より)		
	7 C1-14区画農具痕(南西より)		3 E1-1溝掘り形(東より)		
P L . 6	1 C1-10区画(下が北)		4 E1-1溝出入口部分掘り形(南より)		
	2 C1-15区画(東より)		5 E1-1溝断面(西より)		
	3 C1-1溝北半(北西より)		6 E1-2・3溝(東より)		
	4 C1-1溝南半(北西より)		7 E1-2溝断面(西より)		
	5 C1-1溝北西部石組(南より)		8 E1-3溝断面(西より)		
	6 C1-1溝中央部石組(南より)		P L . 13	1 E1-2井戸(東より)	
	7 C1-1溝南東部石組(北より)		2 E1-3井戸(東より)		
P L . 7	1 C1-2溝(南より)		3 E1-15井戸(南より)		
	2 C1-1・2溝(東より)		4 E1-1土坑(東より)		
	3 C1-6・7溝(東より)		5 E1-4土坑(南より)		
	4 C1-5溝(西より)		6 E1-5土坑(南より)		
P L . 8	1 As-A混土下水田D区(下が北)		7 E1-6・7土坑(南より)		
	2 As-A混土下水田D区北部(東より)		8 E1-8・9土坑(南より)		
	3 D1-3・4区画農具痕(北西より)		P L . 14	1 E1-10土坑(南より)	
	4 D1-5区画農具痕(南より)		2 E1-11土坑(南より)		
	5 D1-6区画農具痕(西より)		3 E1-12・13土坑(南より)		
			4 E1-14土坑(南より)		
			5 E1-16・17土坑(南より)		

- 6 E1—18土坑 (南より)
7 E1—19土坑 (東より)
- P L. 15
1 C1—1灰掻 (東より)
2 C1—1灰掻西側断面 (東より)
3 C1—1灰掻東側断面 (東より)
4 D1—1灰掻群 (左が北)
5 D1—1灰掻群 (南東より)
6 D1—1灰掻群1～3 (西より)
- P L. 16
1 D1—1灰掻群4・5 (西より)
2 D1—1灰掻群6・7 (西より)
3 D1—1灰掻群12～14 (西より)
4 D1—1灰掻群15～17 (西より)
5 D1—1灰掻群18～20 (西より)
6 D1—1灰掻群20～22 (西より)
7 D1—1灰掻群22～24 (西より)
8 D1—1灰掻群断面南部 (西より)
- P L. 17
1 D1—2灰掻群 (上が北)
2 D1—2灰掻群 (北より)
3 D1—2灰掻群 (東より)
4 D1—2灰掻群東部 (北より)
5 D1—2灰掻群西部 (北より)
6 D1—2灰掻群断面西部 (南より)
- P L. 18
1 中世第1面水田E区 (上が北)
2 E2—1サク状遺構 (南より)
3 中世第1面水田E区南部 (南東より)
4 E2—3溝 (東より)
5 E2—1・2溝 (北東より)
- P L. 19
1 中世第2面水田B区 (上が北)
2 中世第2面水田B区北西部 (南東より)
3 B4—3・4溝 (北東より)
4 B4—1溝 (北西より)
5 B4—2溝 (北西より)
- P L. 20
1 中世第2面水田D区 (上が北)
2 中世第2面水田D区北部 (北西より)
- P L. 21
1 中世第2面水田D区北東部 (東より)
2 中世第2面水田D区北東部農具痕 (東より)
3 中世第2面水田D区北東部農具痕 (北西より)
4 中世第2面水田D区中央部 (西より)
5 中世第2面水田D区北西部ヒト足跡 (東より)
6 D2—1～3溝 (南より)
- P L. 22
1 D2—6～8溝 (東より)
2 D2—6～8溝近撮 (東より)
3 D2—9・10・20溝 (西より)
4 D2—11・12溝 (北より)
5 D2—11溝 (西より)
6 D2—12溝 (南より)
- P L. 23
1 D2—18溝 (北より)
2 D2—17溝 (南より)
3 中世第2面水田E区 (上が北)
- P L. 24
1 中世第2面水田E区東部ヒト足跡 (南西より)
2 中世第2面水田E区東部ヒト足跡 (南西より)
3 中世第2面水田E区北部ヒト足跡 (北より)
- 4 E3—3区画 (南西より)
5 E3—4・5区画 (南より)
6 中世第2面水田E区南西端 (南より)
7 中世第2面水田E区北東部 (南より)
8 中世第2面水田E区北東部 (西より)
- P L. 25
1 中世第2面水田E区北東部ヒト足跡 (東より)
2 中世第2面水田E区北東部ヒト足跡 (北より)
3 E3—1・2溝 (東より)
4 E3—4・35溝 (南西より)
5 E3—3溝 (南より)
6 E3—5・6溝 (南より)
- P L. 26
1 E3—7溝 (南より)
2 E3—8・9溝 (南より)
3 E3—10溝 (南西より)
4 E3—12溝 (南より)
5 E3—11溝 (南西より)
- P L. 27
1 E3—13溝 (南東より)
2 E3—14～16溝 (南より)
3 E3—17溝 (西より)
4 E3—28溝 (東より)
5 E3—27溝 (南西より)
- P L. 28
1 E3—29溝 (南より)
2 E3—30溝 (南西より)
3 E3—31溝 (南より)
4 E3—32溝 (南より)
5 「中世第2面—1」E区北部掘立柱建物跡、柱穴群 (上が北)
- P L. 29
1 E3—1掘立柱建物跡 (南より)
2 E3—2掘立柱建物跡 (南より)
3 E3—3掘立柱建物跡 (南より)
4 E3—1柱穴列 (北より)
5 E3—2柱穴列 (北より)
6 E3—19溝 (西より)
7 E3—23溝 (北東より)
8 E3—25・26溝 (北より)
- P L. 30
1 A2—1掘立柱建物跡 (南より)
2 D3—1溝 (西より)
3 D3—1溝西端 (北より)
4 D3—1溝中段東側 (北より)
5 D3—1溝中段西側 (北より)
6 E4—7溝 (南より)
- P L. 31
1 E3—1井戸 (東より)
2 E3—1井戸土器出土状態 (東より)
3 E3—1井戸曲物遺物出土状態 (東より)
4 E3—5井戸 (南より)
5 E3—5井戸板碑等出土状態 (東より)
6 E3—15井戸 (南より)
7 E3—15井戸炭化米出土状態 (東より)
8 D2—13井戸 (南より)
- P L. 32
1 D2—1土坑 (南より)
2 D2—2・3土坑 (下が南)
3 D2—5土坑 (南より)
4 D2—6土坑 (南より)
5 D2—8土坑 (南より)
6 D2—9土坑 (南より)

- 7 D2-10土坑 (南より)
- P L. 33
- 1 D2-11土坑 (南より)
- 2 D2-12土坑 (東より)
- 3 D2-14土坑 (南より)
- 4 D2-15土坑 (南より)
- 5 D2-17土坑 (南より)
- 6 D2-16土坑 (南より)
- P L. 34
- 1 D2-18土坑 (南より)
- 2 D2-19土坑 (南より)
- 3 E3-2土坑 (南より)
- 4 E3-3土坑 (西より)
- 5 E3-4土坑 (南より)
- 6 E3-6土坑 (西より)
- 7 E3-9土坑 (西より)
- 8 E3-10土坑 (西より)
- P L. 35
- 1 E3-11土坑 (西より)
- 2 E3-12土坑 (南より)
- 3 E3-13土坑 (西より)
- 4 E3-14土坑 (西より)
- 5 E3-16土坑 (南より)
- 6 E3-17土坑 (南より)
- 7 E3-18土坑 (南より)
- 8 E3-19土坑 (南より)
- P L. 36
- 1 E3-20土坑 (南より)
- 2 E3-21土坑 (東より)
- 3 E3-23土坑 (南より)
- 4 E3-24土坑 (東より)
- 5 E3-25土坑 (南より)
- 6 E3-26土坑 (東より)
- 7 E3-27土坑 (南より)
- P L. 37
- 1 A2-1土坑 (南より)
- 2 A2-2土坑 (西より)
- 3 A2-3土坑 (南より)
- 4 A2-4土坑 (南より)
- 5 A2-5土坑 (南より)
- 6 A2-6土坑 (南より)
- 7 A2-7土坑 (南より)
- 8 A2-8土坑 (南より)
- P L. 38
- 1 A2-9土坑 (南より)
- 2 A2-10土坑 (南より)
- 3 A2-11土坑 (東より)
- 4 A2-12土坑 (南より)
- 5 A2-13土坑 (南より)
- 6 A2-14土坑 (東より)
- 7 A2-15土坑 (南より)
- 8 B6-1土坑 (南より)
- P L. 39
- 1 B6-2土坑 (東より)
- 2 B6-3土坑 (東より)
- 3 B6-4土坑 (東より)
- 4 B6-6土坑 (東より)
- 5 B6-5土坑 (西より)
- 6 B6-7土坑 (東より)
- 7 B6-8土坑 (南より)
- P L. 40
- 1 B6-10土坑 (南より)
- 2 B6-11・22~24土坑 (西より)
- 3 B6-12土坑 (南より)
- 4 B6-13・14土坑 (西より)
- 5 B6-15・16土坑 (西より)
- 6 B6-17土坑 (南より)
- 7 B6-18土坑 (西より)
- 8 B6-19土坑 (南より)
- P L. 41
- 1 B6-20土坑 (西より)
- 2 B6-21土坑 (西より)
- 3 C2-1土坑 (南より)
- 4 C2-2土坑 (東より)
- 5 C2-3土坑 (北より)
- 6 C2-4土坑 (北より)
- 7 C2-5土坑 (南より)
- 8 D3-1土坑 (南より)
- P L. 42
- 1 D3-2土坑 (南より)
- 2 D3-4土坑 (南東より)
- 3 D3-5土坑 (南東より)
- 4 D3-6土坑 (南より)
- 5 D3-7土坑 (南より)
- 6 D3-8土坑 (北西より)
- 7 D3-9土坑 (東より)
- 8 D3-10土坑 (東より)
- P L. 43
- 1 D3-11土坑 (西より)
- 2 D3-12土坑 (南より)
- 3 D3-13土坑 (東より)
- 4 D3-14土坑 (南より)
- 5 D3-15土坑 (南より)
- 6 D3-16土坑 (東より)
- 7 D3-17土坑 (南より)
- 8 D3-18土坑 (南より)
- P L. 44
- 1 D3-19土坑 (南より)
- 2 D3-20土坑 (西より)
- 3 D3-21土坑 (北より)
- 4 D3-22土坑 (南東より)
- 5 D3-23土坑 (南東より)
- 6 D3-24土坑 (南東より)
- 7 D3-25土坑 (南より)
- 8 D3-26土坑 (南より)
- P L. 45
- 1 E4-1土坑 (南より)
- 2 E4-3土坑 (南より)
- 3 E4-5土坑 (南より)
- 4 E4-6土坑 (南より)
- 5 E4-8土坑 (南より)
- 6 E4-9土坑南部 (西より)
- 7 E4-10土坑 (南より)
- P L. 46
- 1 E4-1道跡 (北東より)
- 2 E4-1道跡 (南東より)
- 3 E4-1道跡凹凸西端 (北東より)
- 4 E4-1道跡凹凸近撮 (北東より)
- 5 E4-1道跡凹凸 (北より)
- P L. 47
- 1 As-B下水田A区 (上が北)
- 2 As-B下水田A区北端 (東より)
- 3 As-B下水田A区南西端 (南より)
- 4 A2-1溝 (東より)

- 5 A2—1 溝水口 (南より)
- P L. 48
- 1 As—B 下水田B区北半 (上が北)
 - 2 As—B 下水田B区南半 (左上が北)
- P L. 49
- 1 As—B 下水田B区北部 (東より)
 - 2 As—B 下水田B区北部 (北より)
 - 3 As—B 下水田B区北西部水口 (東南より)
 - 4 As—B 下水田B区南部 (西より)
 - 5 As—B 下水田B区東西大型畦畔 (西より)
 - 6 B6—1 溝西部 (南より)
 - 7 B6—1 溝断面 (東より)
- P L. 50
- 1 As—B 下水田C区西半 (上が北)
 - 2 As—B 下水田C区東半 (上が北)
 - 3 As—B 下水田C区東西大型畦畔西半 (東より)
 - 4 As—B 下水田C区東西大型畦畔東半 (東より)
- P L. 51
- 1 As—B 下水田C区南北大型畦畔 (南より)
 - 2 C2—10・13区画 (北より)
 - 3 C2—10区画ヒト足跡 (西より)
 - 4 C2—13区画ヒト、ウマ足跡 (北より)
 - 5 C2—2 踏分道 (西より)
- P L. 52
- 1 C2—3 踏分道 (北より)
 - 2 C2—1 踏分道 (北東より)
 - 3 C2—4 踏分道 (北東より)
 - 4 C2—4 踏分道底部ピット列 (北東より)
 - 5 C2—12区画基底部ピット列 (北東より)
- P L. 53
- 1 As—B 下水田D区 (上が北)
 - 2 As—B 下水田D区東～北部 (南東より)
 - 3 As—B 下水田D区西部 (北より)
 - 4 D3—3区画ヒト、ウマ足跡 (西より)
- P L. 54
- 1 As—B 下水田E区 (上が北)
 - 2 E4—17区画農具痕 (東より)
 - 3 As—B 下水田E区南部ウマ足跡 (南西より)
 - 4 E4—8 溝底部ピット列 (南より)
- P L. 55
- 1 古代面基底B区南半 (北東より)
 - 2 古代面基底B区南部畦畔? (北より)
 - 3 古代面基底C区北東部 (上が北)
 - 4 古代面基底C区北東部畦畔? (南より)
 - 5 古代面基底A区中央～北部 (南より)
 - 6 古代面基底A区南～東部 (南より)
 - 7 A3—1 溝 (西より)
 - 8 A3—10溝 (南東より)
- P L. 56
- 1 A3—2 溝 (北西より)
 - 2 A3—4 溝 (北西より)
 - 3 古代面基底B区北半 (東より)
 - 4 B9—5 溝 (東より)
 - 5 B9—9 溝 (南より)
 - 6 B9—3・4 溝 (西より)
 - 7 B9—3・4 溝 (東より)
- P L. 57
- 1 古代面基底C区西半 (東より)
 - 2 古代面基底C区東半 (東より)
 - 3 C3—1 溝西半 (西より)
 - 4 C3—1 溝東半・2 溝 (西より)
 - 5 C3—3 溝 (北西より)
- 6 C3—4 溝 (西より)
- P L. 58
- 1 古代面基底E区 (東より)
 - 2 古代面基底E区北西部 (北より)
 - 3 E5—1 溝 (北西より)
 - 4 E5—3 溝 (南西より)
 - 5 E5—2 溝 (北より)
 - 6 E5—4 溝 (南より)
 - 7 E5—5 溝、E5—2 ピット列 (東より)
- P L. 59
- 1 E4—4 土坑 (南東より)
 - 2 E4—11土坑 (南より)
 - 3 B3—1 土坑 (東南より)
 - 4 C3—2 土坑 (南西より)
 - 5 C3—1 土坑 (西より)
 - 6 D5—1 土坑 (南より)
 - 7 D5—2 土坑 (南より)
- P L. 60
- 1 D5—3 土坑 (南より)
 - 2 D5—4 土坑 (南より)
 - 3 D5—5 土坑 (南より)
 - 4 D5—6・7 土坑 (北より)
 - 5 D5—8 土坑 (南より)
 - 6 D5—9 土坑 (南より)
 - 7 D5—10土坑 (南東より)
 - 8 D5—11土坑 (南より)
- P L. 61
- 1 D5—12土坑 (南西より)
 - 2 D5—13土坑 (東より)
 - 3 D5—14土坑 (南より)
 - 4 E5—1 土坑 (南より)
 - 5 E5—2 土坑 (南より)
 - 6 E5—3 土坑 (東より)
 - 7 E5—4 土坑 (南より)
- P L. 62
- 1 Hr—FP 下水田B区 (南東より)
 - 2 Hr—FP 下水田C区西半 (南西より)
 - 3 Hr—FP 下水田C区東半 (上が北)
 - 4 Hr—FP 下水田C区西部 (南東より)
 - 5 Hr—FP 下水田C区南端 (西より)
 - 6 Hr—FP 下水田C区中央部 (南東より)
 - 7 Hr—FP 下水田C区東部ヒト足跡 (南より)
- P L. 63
- 1 Hr—FP 下水田D区 (左が北)
 - 2 Hr—FP 下水田D区北東部 (東より)
- P L. 64
- 1 Hr—FP 下水田D区西～中央部 (北西より)
 - 2 D5—1 大畦周辺 (北西より)
 - 3 D5—1 大畦周辺 (南より)
 - 4 D5—2 大畦周辺 (南西より)
 - 5 D5—2 大畦周辺 (北西より)
- P L. 65
- 1 Hr—FP 下水田E区 (右が北)
 - 2 Hr—FP 下水田E区中央～西部 (北より)
- P L.—66
- 1 E6—1 大畦周辺 (北より)
 - 2 E6—1 大畦周辺 (南より)
 - 3 E6—2 大畦周辺 (南東より)
 - 4 Hr—FP 下水田E区中央部 (東より)
 - 5 Hr—FP 下水田E区北部 (北西より)
 - 6 Hr—FP 下水田E区北東部 (南東より)
 - 7 Hr—FP 下水田E区北西部 (南東より)

- 8 Hr-FP 下水田E区北東部 (南東より)
- P L. 67
- 1 Hr-FA 下水田A区 (南より)
 - 2 Hr-FA 下水田B区 (西より)
 - 3 Hr-FA 下水田C区西半 (上が北)
 - 4 Hr-FA 下水田C区東半 (上が北)
 - 5 C4-2 大畦 (東より)
 - 6 C4-1 大畦 (北西より)
 - 7 Hr-FA 下水田C区南東部 (南東より)
 - 8 Hr-FA 下水田C区南西部ヒト足跡 (南より)
- P L. 68
- 1 Hr-FA 下水田D区 (右が北)
 - 2 D6-1 大畦 (北西より)
 - 3 D6-2 大畦 (南東より)
 - 4 Hr-FA 下水田D区中央部 (南西より)
 - 5 Hr-FA 下水田D区南端 (南西より)
- P L. 69
- 1 Hr-FA 下水田E区 (東より)
 - 2 Hr-FA 下水田E区北東部 (南より)
 - 3 E7-1 大畦 (南より)
 - 4 E7-1 大畦中央部 (西より)
- P L. 70
- 1 E7-1 大畦北部水口 (東より)
 - 2 E7-1 大畦南部水口 (東より)
 - 3 E7-2 大畦 (北より)
 - 4 Hr-FA 水田E区南部 (南東より)
 - 5 Hr-FA 水田E区北部 (南東より)
 - 6 Hr-FA 水田E区東部 (南東より)
 - 7 As-C 混土上面水田E区 (南より)
 - 8 As-C 混土上面水田E区 (北より)
- P L. 71
- 1 As-C 混土水田D区 (東より)
 - 2 As-C 混土水田D区北部 (北西より)
 - 3 D7-2 溝周辺 (北より)
 - 4 D7-1 溝周辺 (西より)
 - 5 As-C 混土水田D区南部 (北西より)
- P L. 72
- 1 As-C 混土水田E区 (東より)
 - 2 As-C 混土水田E区北東部 (南より)
 - 3 As-C 混土水田E区東部 (南東より)
 - 4 As-C 混土水田E区北部
As-C 混土層除去状態 (南東より)
 - 5 As-C 混土水田E区北部
As-C 混土層除去状態 (南東より)
- P L. 73
- 1 時期不明水田畦畔? A区 (東より)
 - 2 時期不明水田畦畔? A区 (南より)
 - 3 A3-3 溝 (西より)
 - 4 A3-9 溝 (西より)
 - 5 C4-1 土坑 (南より)
 - 6 A3-1 土坑 (南より)
- P L. 74
- 1 古墳時代以前面A区 (南より)
 - 2 A5-1 溝 (西より)
 - 3 古墳時代以前面B区北半 (東より)
 - 4 古墳時代以前面B区南半 (北より)
 - 5 B10-2 溝 (西より)
 - 6 B10-3 溝 (南より)
 - 7 B10-4 溝 (南西より)
 - 8 B10-5 溝 (南東より)
- P L. 75
- 1 B10-6 溝 (南西より)
 - 2 B10-7 溝 (東南より)
 - 3 B10-8~11 溝 (北西より)
 - 4 B10-12 溝 (北より)
 - 5 古墳時代以前面C区西半 (上が北)
 - 6 古墳時代以前面C区東半 (南西より)
 - 7 C6-6 溝 (北より)
- P L. 76
- 1 C6-8・9 溝 (北より)
 - 2 C6-10 溝 (南より)
 - 3 古墳時代以前面D区北部 (南東より)
 - 4 古墳時代以前面D区南部 (東より)
 - 5 D8-1 溝 (西より)
 - 6 D8-3 溝 (北西より)
 - 7 D8-4 溝 (南より)
 - 8 D8-5 溝 (北東より)
- P L. 77
- 1 古墳時代以前面E区 (北東より)
 - 2 古墳時代以前面E区北東部 (南より)
 - 3 E10-1 溝 (北西より)
 - 4 E10-2 溝 (南東より)
 - 5 E10-3 溝 (西より)
 - 6 E10-4 溝 (南より)
 - 7 C6-1 河川西半 (南より)
 - 8 C6-1 河川東半 (西より)
- P L. 78
- 1 C6-1 河川断面南部 (東より)
 - 2 C6-1 河川断面中央部 (東より)
 - 3 C6-1 河川断面北部 (東より)
 - 4 C6-2 河川 (南東より)
 - 5 D8-1 河川 (東より)
 - 6 D8-1 河川断面 (西より)
 - 7 E10-1 河川 (東より)
 - 8 E10-1 河川断面 (南東より)
- P L. 79 近世以降の遺物
- P L. 80 近世以降の遺物
- P L. 81 近世以降の遺物
- P L. 82 近世以降の遺物
- P L. 83 近世以降の遺物
- P L. 84 近世以降の遺物
- P L. 85 近世以降の遺物
- P L. 86 近世以降の遺物
- P L. 87 近世以降の遺物
- P L. 88 近世以降の遺物
- P L. 89 近世以降の遺物
- P L. 90 近世以降の遺物
- P L. 91 近世以降の遺物
- P L. 92 近世以降の遺物
- P L. 93 近世以降の遺物
- P L. 94 近世以降の遺物
- P L. 95 中世の遺物
- P L. 96 中世の遺物
- P L. 97 中世の遺物
- P L. 98 古代の遺物
- P L. 99 古代の遺物
- P L. 100 古墳時代前期の遺物
- P L. 101 古墳時代前期の遺物
- P L. 102 古墳時代前期の遺物
古墳時代中~後期の遺物
- P L. 103 古墳時代以前の遺物

第1章 調査の経緯・方法・経過

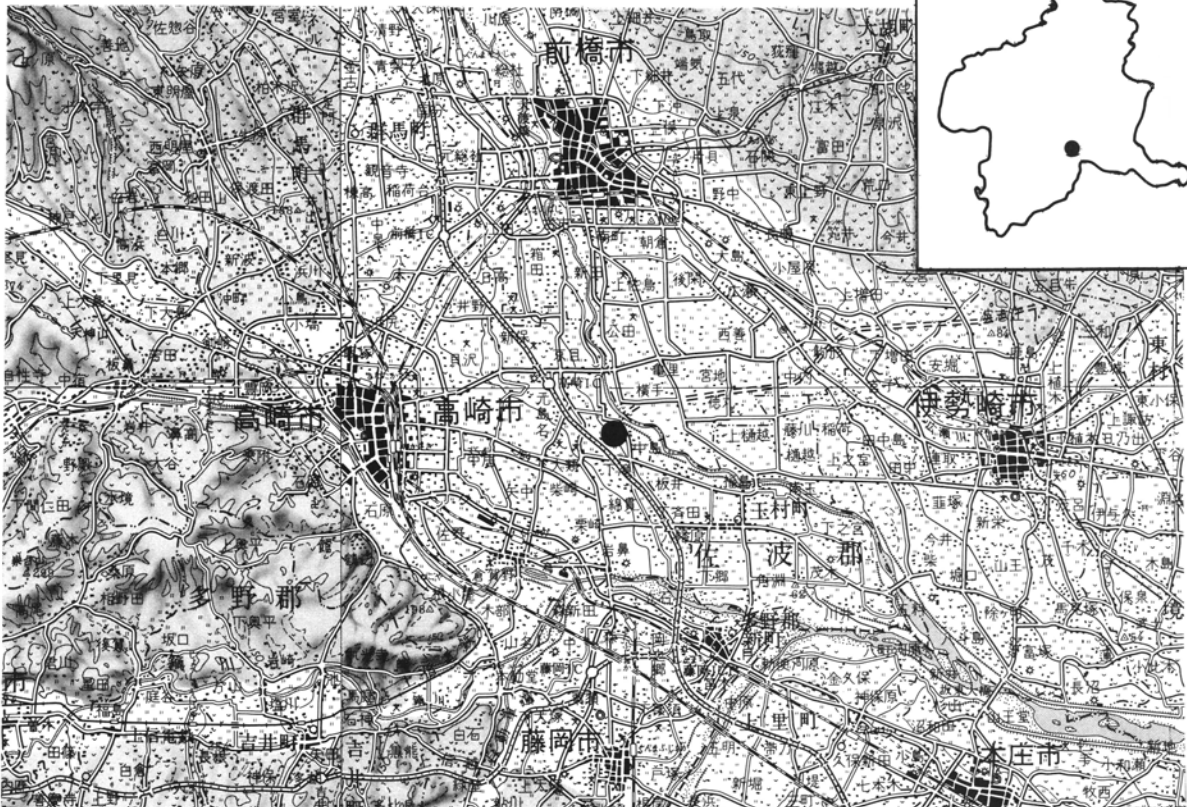
第1節 調査に至る経緯

平成8年2月22日に県教育委員会文化財保護課主催による、「第1回北関東自動車道地域埋蔵文化財発掘調査に関する沿線市町村連絡調整会議」が開催された。関連市町教育委員会と当事業団が出席した。その結果、高崎市地域の側道については、本線部分の調査と同時に当事業団が実施することになった。本会議により、赤堀町地内の4遺跡は、赤堀町教育委員会が実施することになり、それ以外の部分については、当事業団が実施することになった。よって、高崎市地内が4遺跡、前橋市地内が15遺跡、伊勢崎市地内が12遺跡で合わせ31遺跡を当事業団が対応することに決定した。

本遺跡の発掘調査は、平成8年4月1日付け県教育委員会と当事業団の間で締結された、「北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査」についての契約に基づいて、平成8年6月26日文化財保護課と当事業団の協議により、7月から宿横手三波川遺跡の調査を実施することになった。本遺跡と側道及び西横手遺跡群を含め、推定水田5面で3年3カ月（1班対応）の調査期間が算定された。また、側道部分については、平成8年6月25日付けで、高崎市と当事業団で発掘調査についての契約が締結された。

本遺跡の調査は、滝川橋梁工事関連で滝川の両岸から着手した。また、本遺跡と西横手遺跡群との間の、高崎市東部幹線道路及び水道本管の付け替え工事関連の調整・協議が、平成9年度下半期になされた。

なお、平成9年4月26日に日本道路公団、前橋・高崎土木事務所、及び文化財保護課、当事業団主催による「北関東自動車道及び主要地方道前橋長瀬線バイパスの建設工事・埋蔵文化財発掘調査の現場見学会」を実施した。対象となった遺跡は、本遺跡と上滝榎町北・横手湯田遺跡であった。



第1図 宿横手三波川遺跡位置図（国土地理院 20万分の1地勢図「宇都宮」「長野」使用）

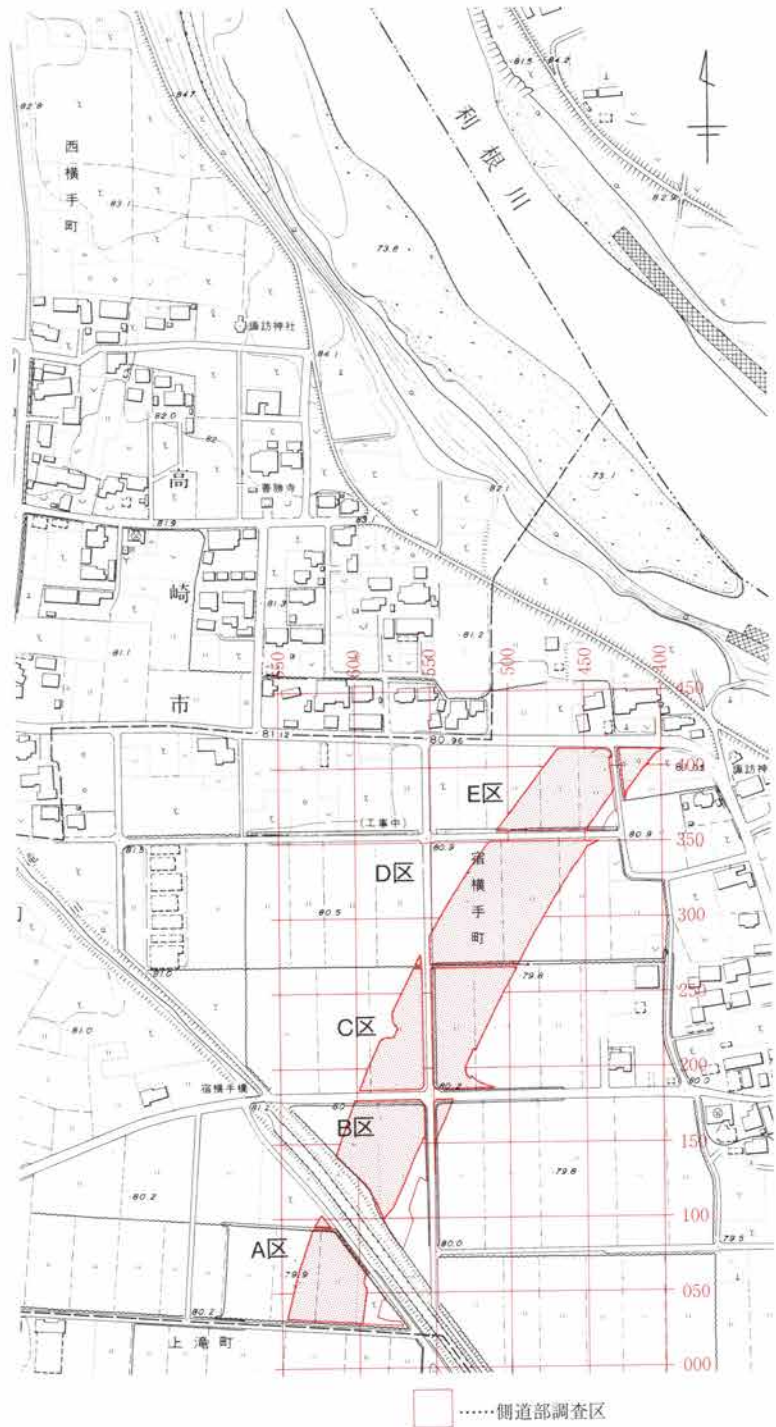
第2節 調査区の設定と調査の方法

本遺跡の調査区の設定は、遺跡内を東西方向の道路や水路で区切った区画を用い、南からA区～E区とした。さらに、C区、E区は南北方向の道路で分断される部分をそれぞれC-1区、C-2区、またE-1区、E-2区と呼び分けた。なお、本報告書では、必要がある場合を除き、この細分化した調査区名は用いない。

次に基本的な調査方法を記す。

1. 調査効率を考え、側道部や北関東自動車道建設に伴う西横手遺跡群（以下、西横手遺跡群）と平行して調査を行い、土層や遺構の状態を比較検討した。
2. テフラ層や洪水層等に着目し、各層の下面で遺構確認を試みた。
3. 表土や各層の掘削には重機を用いた。ただし、層中から遺構や遺物の出土が予想される場合など、状況に応じて人力による掘削も適宜行った。
4. 面ごとに遺構の性格、残存状態等が異なるため、それぞれに適した方法で遺構確認作業を行った。
5. 平面測量は、空中写真測量と平板測量を併用した。縮尺はそれぞれ1/40を原則とした。
6. 作成した遺構実測図には、遺跡名または遺跡略号（KT-020）・実測図名・縮尺・実測者名・レベル高・ベンチマーク高・作成年月日を記入し、1枚ごとに通し番号を付し、台帳を作成した。
7. 記録写真の撮影は35mm、6×7

判のモノクロ及び35mmのリバーサルを用いた。各区の全景や広範囲の遺構に対しては、気球や高所作業車からの撮影を行った。



第2図 宿横手三波川遺跡調査区設定図

8. 記録写真のうちモノクロはベタ焼きを行い、ネガ検索台紙に調査面、遺構ごとに貼り付け、撮影対象・撮影方向・撮影日・ネガ番号を付した。また、リバーサルはコマごとに遺跡略号・遺跡名・撮影対象・撮影方向・撮影日を記入し、番号を付した。番号はモノクロと同じ検索台紙に記録した。
9. 遺物の注記は遺跡名、または遺跡略号・調査面・遺構名・必要に応じて取り上げ番号を記入した。
10. 遺構の時代や水田耕作の可否を推定するため、必要に応じてテフラ分析やプラントオパール分析等の自然科学分析を行った。

第3節 調査の経過

本遺跡の発掘調査は平成8年7月から始まった。工事行程上、滝川を跨ぐ「滝川橋」橋脚部分の調査が優先されたため、該当するA区及びB区南半の調査を行い、その後C区に移行した。なお、西横手遺跡群の一部の調査も行っている。平成9年度は、C区からそれ以北の調査を行った。西横手遺跡群の調査も本格的に開始されるため、先年度より調査班を増やし、二遺跡が効率よく調査できるようにした。またB区北半については別の調査班で対応した。

以下、発掘調査の内容を示す。実際には複数の調査区や、同一区内の異なる確認面を同時に調査しているが、煩雑さを避けるためおおよその順序のみを示した。また、各土層名については第2章第3節を参照されたい。調査区名は発掘調査時のもので示してある。

[平成8年度]

- ①本遺跡の調査開始。A区の調査開始。As—A 混土層を除去。農具痕の残る水田跡、溝を確認。
- ②B区南半の調査開始。As—A 混土層を除去。農具痕の残る水田跡、溝を確認。
- ③B区南半、As—B層を除去。水田跡、溝、土坑を確認。
- ④B区南半、As—B層下の水田跡の基盤層を除去。溝、土坑、水田痕跡?等を確認。
- ⑤A区、As—B層を除去。水田跡、掘立柱建物跡、溝、土坑を確認。
- ⑥A区、As—B層下の水田跡の基盤層を除去。溝、土坑等を確認。
- ⑦A区、Hr—FA層?を除去。水田痕跡を確認。
- ⑧B区南半、灰色シルト層の上面を調査。溝、倒木痕を確認。
- ⑨A区、灰色シルト層上面を調査。溝、倒木痕を確認。
- ⑩C区—2区の調査開始。As—A 混土層を除去。農具痕の残る水田跡、溝、As—Aを埋めた土坑を確認。
- ⑪A区・B区南半、下層確認のトレンチ設定。遺構は確認できないためA区、B区南半の調査終了。
- ⑫C—1区の調査開始。As—A 混土層を除去。農具痕の残る水田跡、溝を確認。
- ⑬C—2区、As—B層を除去。足跡の残る水田跡、土坑等を確認。
- ⑭C—1区、As—B層を除去。水田跡、土坑等を確認。
- ⑮C—2区、As—B層下の水田跡の基盤層を除去。Hr—FP泥流層が部分的に残存。これを除去し足跡残る水田痕跡等を確認。その他の部分では溝、土坑等を確認。
- ⑯C—2区、部分的に残存するHr—FAを除去。水田痕跡、土坑を確認。
- ⑰C—2区、トレンチを設定し、As—C混土の上面を調査。遺構は確認できない。
- ⑱C—2区、灰色シルト層の上面を調査。自然河川、溝、倒木痕を確認。
- ⑲C—2区、下層確認のためのトレンチ設定。次年度へ継続。

[平成9年度 C区～E区]

第1章 調査の経緯・方法・経過

- ①C—2区、先年度からの継続のトレンチ調査。遺構は確認できないためC—2区の調査終了。
- ②C—1区、As—B層下の水田跡の基盤層を除去。Hr—FP泥流層、Hr—FA層が部分的に残存。
まずHr—FP泥流層を除去。水田痕跡を確認。
- ③C—1区、Hr—FA層を除去。足跡の残る水田痕跡を確認。
- ④E区の調査開始。As—A混土層を除去。E—1区では石組みを伴う溝、井戸等を、E—2区では溝をそれぞれ確認。
- ⑤C—1区、トレンチを設定し、As—C混土の上面を調査。遺構は確認できない。
- ⑥C—1区、灰色シルト層の上面を調査。自然河川、溝、倒木痕を確認。
- ⑦C—1区、下層確認のためのトレンチ設定。遺構は確認できないためC—1区の調査終了。
- ⑧E区、灰褐色～明橙色土層内の上位の洪水層を除去。E—1区で水田跡、サク状遺構等を、E—2区で溝を確認。
- ⑨D区、As—A混土を除去。農具痕や足跡の残る水田跡、溝、As—Aを埋めた土坑群を確認。
- ⑩E区、灰褐色～明橙色土層内の下位の洪水層を除去。水田跡、掘立柱建物跡、溝、土坑等を確認。
- ⑪E区、As—B層を除去。水田跡、土坑、溝、道跡を確認。
- ⑫E区、As—B層直下の水田基盤を除去。下面（Hr—FP泥流層）では溝、土坑等を確認。
- ⑬E区、Hr—FP泥流層及びHr—FP層を除去。水田跡を確認。
- ⑭E区、Hr—FA層を除去。水田跡を確認。
- ⑮E区、トレンチを設定し、As—C混土の上面を調査。大型畦畔を確認。
- ⑯E区、As—C混土層を上位から平面掘削。水田跡を確認。
- ⑰E区、灰白色シルト層の上面の調査。自然河川、溝、倒木痕を確認。
- ⑱D区、灰褐色～明橙色土層内の下位の洪水層を除去。足跡の残る水田跡、農具痕、溝、土坑を確認。
- ⑲E区、下層確認のためのトレンチ設定。遺構は確認できないためE区の調査終了。
- ⑳D区、As—B層を除去。水田跡、土坑、溝を確認。
- ㉑D区、As—B層直下の水田基盤を除去。下面（Hr—FP泥流層）で遺構は確認できない。
- ㉒D区、Hr—FP泥流層及びHr—FP層を除去。水田跡、土坑を確認。
- ㉓D区、Hr—FA層を除去。水田跡を確認。
- ㉔D区、トレンチを設定し、As—C混土の上面を調査。大型畦畔を確認。
- ㉕D区、As—C混土層を上位から平面掘削。水田跡を確認。
- ㉖D区、灰白色シルト層の上面の調査。自然河川、溝、倒木痕を確認。
- ㉗D区、下層確認のためのトレンチ設定。遺構は確認できないためD区の調査終了。本遺跡の調査終了。

[平成9年度 B区北半]

- ①As—A混土を除去。農具痕や足跡の残る水田跡、溝を確認。
- ②灰褐色～明橙色土層内の上位の洪水層を除去。水田跡、溝を確認。
- ③灰褐色～明橙色土層内の下位の洪水層を除去。足跡の残る水田跡、溝を確認。
- ④As—B層を除去。水田跡、土坑を確認。
- ⑤As—B層直下の水田基盤を除去。溝を確認。北東部のHr—FP泥流層の下面では、大型畦畔を確認。
- ⑥北東部でHr—FA層を除去。大型畦畔を確認。
- ⑦灰白色シルト層の上面の調査。自然河川、溝、倒木痕を確認。B区北半の調査終了。

第2章 遺跡の位置・周辺の遺跡・基本層序

第1節 遺跡の位置

宿横手三波川遺跡は、高崎市を中心部から東へ約4.5kmの宿横手町に所在し、利根川右岸の前橋台地上に位置する。標高は約80mである。北西から南東方向にごく僅かに傾斜しているが、ほぼ平坦といってよい。遺跡周辺は水田地帯であり、北西に西横手町の集落、北及び東には宿横手町の集落が展開する。南部には近世に開削された滝川（天狗岩用水・代官堀）が北西から南東方向に流れ、周辺の水田を潤している。

第2節 周辺の遺跡

〔近世・中世〕

近世の遺構として、まず天明三（1783）年の浅間山噴火時のAs—A軽石を耕土に含む水田跡が、本遺跡から南の上滝五反畑遺跡（4）等で確認されている。また、この軽石や泥流を溝や土坑に埋めた跡が玉村町の福島大島遺跡（同町福島団：調査'97・'98／「年報16・17」）や福島曲戸遺跡（同町福島団：調査'98～／「年報18」）、利根川対岸の横手湯田遺跡（24）周辺などで発見が相次いでいる。さらに、上滝五反畑遺跡や高崎市街の東町Ⅳ遺跡（同市東町市：調査'95・報告'96）ではこの軽石を地中に鋤込んで処理した跡も報告されている。その他、横手湯田遺跡等では天明三年以前の洪水で埋没した水田跡が、また福島曲戸遺跡では洪水の土砂を溝に埋めた跡がそれぞれ確認されている。一方、西横手遺跡群（2）では屋敷跡や墓墳群が見つかっている。

次に、中世の遺構では各地に城館・居館跡が分布し、代表例として元島名城（①）が挙げられる。本遺跡近辺には新居屋敷（③）、中島内出（④）があり、その他の屋敷跡の調査事例も横手井戸南遺跡（21）等で相次いでいる。また、洪水で埋没した水田跡が横手湯田遺跡、亀里平塚遺跡（28）等で確認されている。本遺跡の北を流れる利根川は、応永三（1396）年秋の大洪水等が原因で現位置に変流したとされる。見つかった水田跡もこれらの洪水で被災したものであろうか。

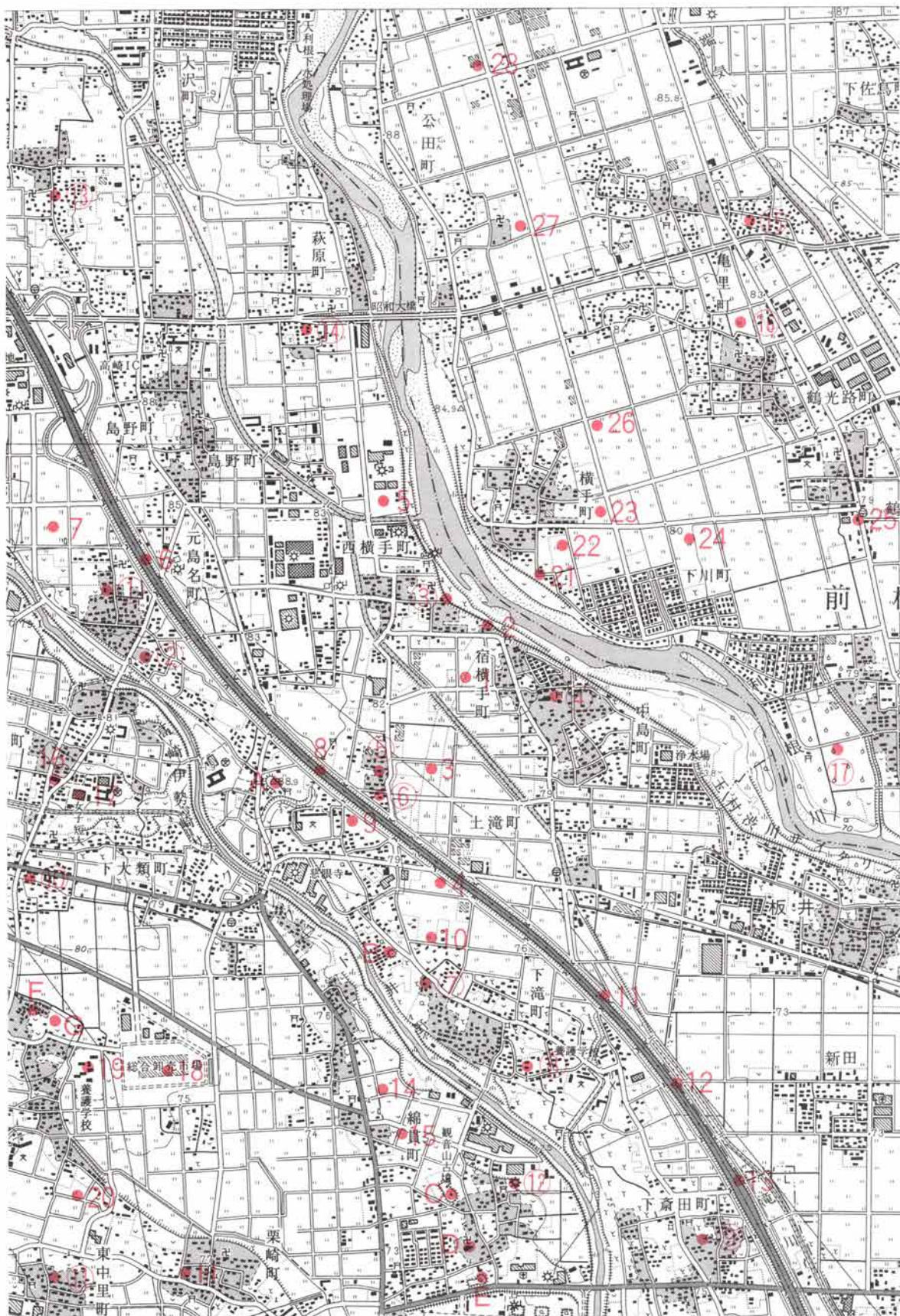
その他、本遺跡近辺には関東と越後を結ぶ「佐渡奉行街道」が通っていた。起源は中世後期に遡るとされる。経路は南南東から本遺跡に向かう現道から、利根川の堤防上または西横手遺跡群との境を通り西横手の集落に抜けて北上するラインが推定されている。現在でも経路沿いには道祖神や道標等の石像物が見られる。また、周辺にはこの時代に起源を持つ寺社及び寺社跡も多く、本遺跡のすぐ西側には西横手町にあった西福寺跡より移された明德元（1390）年建立の宝篋印塔がある（高崎市指定文化財）。

〔古代〕

古代の遺跡のうち、集落や住居跡は上滝遺跡（8）で奈良期、綿貫遺跡（15）や下大類遺跡（18）その他で奈良・平安期のものが確認されている。西横手遺跡群では古代末の住居跡や居館の周濠と思われる溝複数が調査されている。また、平安末期の天仁元（1108）年の浅間山の噴火で埋没した水田跡（As—B下水田）が第3図範囲外でも相次いで確認されており、この噴火で「国内の田畠が滅亡」（『右中記』）したとの記録を裏付けるものとなっている。この水田跡は、いわゆる「条里型水田」である事例が多く、近隣の西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱ（5）でも条里型地割りが推定されている。

〔古墳時代〕

この時代には、烏川・井野川流域に古墳が集中する。前期では元島名將軍塚古墳（A）や蟹沢古墳（F）、中期では普賢寺裏古墳（D）、不動山古墳（E）、後期では県下で最大級の綿貫観音山古墳（C）がそれぞれ



第3図 周辺遺跡位置図

第2節 周辺の遺跡

れ代表的なものとなる。また、方形周溝墓も矢中村東遺跡近辺（20）、西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱその他で確認されている。集落や住居跡は、前期のものが下斉田滝川A遺跡（13）や綿貫遺跡等で、また後期のものが中大類金井遺跡（17）、下大類遺跡（18）、綿貫遺跡等でそれぞれ確認されている。

また、水田跡も相次いで見つかっている。これらは4世紀初頭の浅間山の噴火時のAs—C軽石を耕土に含む水田跡や、6世紀初頭と6世紀中葉の2回の榛名山噴火時の泥流や火山灰で埋没した水田跡（Hr—FA下水田・Hr—FP下水田）等であり、本遺跡から南側の下滝天水遺跡（10）にかけてや、北側の西横手遺跡群や横手湯田遺跡周辺でも調査されている。

〔弥生・縄文・その他〕

古墳時代を遡る時期の遺構は希薄であるが、元鳥名遺跡（7）では弥生期、縄文後期の住居が確認されている。また、公田池尻遺跡（27）では弥生期の水田が存在した可能性もある。その他、本遺跡周辺では自然河川や倒木痕等が見つかる事例も多く、水田その他の開発がなされる以前の環境を示唆している。

No.	遺跡名	所在地	遺跡の概要	調査年次・報告書等
1	宿横手三波川跡群	高崎市宿横手町	本遺跡	本報告書
2	西横手遺跡群	高崎市宿横手町	(近)屋敷跡・墓塚群(中)溝・井戸(古代)住居・居館周濠?・As—B下水田(古墳)Hr—FP下・Hr—FA下・その他の各水田	団：調査'96～'98 報告'00
3	上滝榎町北遺跡	高崎市上滝町	(近)水田(中)居館(古代)As—B下水田(古墳)Hr—FA下・As—C下の各水田	団：調査'95～ 「年報」15～19
4	上滝五反畑遺跡	高崎市上滝町	(近)水田(中)溝・土坑(古代)As—B下水田(古墳)Hr—FA下水田	団：調査'97 報告'99
5	西横手遺跡群Ⅰ	高崎市西横手町	(中)畠・備前堀(古代)As—B下水田(古墳)Hr—FP下・Hr—FA下の各水田	市：調査'88 報告'89
	同Ⅱ	同 萩原町	(古墳)前期の方形周溝墓・Hr—FA下水田・水路	市：調査'89 報告'90
6	元鳥名B遺跡	高崎市元鳥名町	(中)元鳥名城の堀・溝	県：調査'76 団：報告'77
7	元鳥名遺跡	高崎市元鳥名町	(中)掘立柱建物跡・井戸(古墳)前期の竪穴式住居(弥)竪穴式住居	市：調査'78 報告'79
8	上滝遺跡	高崎市上滝町	(中)居館周濠(古代)奈良期の竪穴式住居(古墳)前期、後期の竪穴式住居	団：調査'75・'78 報告'81
9	上滝Ⅱ遺跡	高崎市上滝町	(中)堀切(古墳)Hr—FP下・Hr—FA下の各水田	団：調査'99 「年報」19
10	下滝天水遺跡	高崎市下滝町	(近)水田・畠(中)掘立柱建物・屋敷周濠?(古代)奈良期の竪穴式住居・As—B下水田(古墳)Hr—FP下・Hr—FA下の各水田	団：調査'99 「年報」19
11	滝川C遺跡	高崎市上滝町	(古墳)前期の土坑	県：調査'74
12	滝川B遺跡	高崎市上滝町	(平)As—B下水田?	報告'87
13	下斉田滝川A遺跡	高崎市斉田町	(古代)集落・As—B下水田(古墳)初頭の集落・方形周溝墓	
14	綿貫小林前遺跡	高崎市綿貫町	(中世)居館周濠?(古代)平安期の集落(古墳)前期・後期の集落	団：調査'99 「年報」19
15	綿貫遺跡	高崎市綿貫町	(古代)奈良平安期の竪穴式住居・平安期の瓦葺建物(古墳)観音山古墳周濠・前後期の竪穴式住居・方形周溝墓	市：調査'83 報告'85
16	中大類金井遺跡	高崎市中大類町	(古代)平安期の土坑(古墳)後期の竪穴式住居	市：調査'88 報告'89
17	中大類金井分遺跡	高崎市中大類町	(古代)奈良期の竪穴式住居(古墳)後期の竪穴式住居	市：調査'91 報告'92
18	下大類遺跡	高崎市大類町他	(古代)竪穴式住居・井戸(古墳)後期の竪穴式住居	市：調査'78
19	柴崎熊野前遺跡	高崎市柴崎町	(古代)平安期の竪穴式住居・As—B下水田(古墳)自然河川	団：調査'96 報告'98
20	矢中村東遺跡	高崎市矢中町	(古代)As—B下水田(古墳)前期の前方後方形・円形周溝墓	市：調査'83 報告'84
	矢中村東B遺跡	高崎市矢中町	(古代)As—B下水田・水路(古墳)前期の方形周溝墓	市：調査'84 報告'85
	村東C遺跡	高崎市矢中町	(中)居館周濠(古墳)方形周溝墓	市：調査'86～'87 報告'88
21	横手井戸南遺跡	前橋市横手町	(近)泥流処理遺構(中)屋敷・水田(古代)As—B下水田	団：調査'98～'99 「年報18」
22	横手早稲田遺跡	前橋市横手町	(中)水田(古代)As—B下水田(古墳)Hr—FA下水田	団：調査'98 「年報18」
23	横手宮田遺跡	前橋市横手町	(中)水田(古代)As—B下水田(古墳)Hr—FA下・その他の各水田	団：調査'96～'98 「年報16～18」

第2章 遺跡の位置・周辺の遺跡・基本層序

No.	遺跡名	所在地	遺跡の概要	調査年次・報告書等		
24	横手湯田遺跡	前橋市横手町	(近)泥流処理遺構・水田(中)屋敷・水田(古代)平安期の住居・方形周溝墓・As-B下水田(古墳)前期の集落・Hr-FP下・Hr-FA下の各水田	団：調査'96～'98 「年報16～18」		
25	村中遺跡	前橋市鶴小路町	(中)屋敷周濠・掘立柱建物跡(古代)As-B下水田(古墳)As-C混土下水田	団：調査'98～'99 「年報18」		
26	亀里平塚遺跡	前橋市亀里町	(中)水田(古代)As-B下水田(古墳)Hr-FA下水田	団：調査'98～'99 「年報17・18」		
27	公田池尻遺跡	前橋市公田町 ・上佐鳥町	(中)居館(古代)奈良期の竪穴式住居・As-B下水田(古墳)前期、後期の竪穴式住居・Hr-FP下・Hr-FA下その他の各水田(弥)用水路?(縄)土坑	団：調査'90～'96 「年報9～15」		
28	公田東遺跡	前橋市公田町 ・上佐鳥町	(近)畠?・溝(中)居館周濠・畠・井戸(古代)平安期の竪穴式住居・掘立柱建物・As-B下水田(古墳)方形周溝墓・Hr-FA下水田畠?	団：調査'95～'96 「年報14・15」		
No.	古墳名	所在地	概要その他			
A	元島名将軍塚古墳	高崎市元島名町	前方後方墳。周濠は前方部に大きく開く。粘土郭内より鏡、石釧、刀等が出土。周濠より二重口縁壺が出土。市重要文化財。市：調査'79～80 報告'81。			
B	御伊勢山古墳	高崎市下滝町	前方後円墳。全長30m。横穴式両袖型石室。			
C	綿貫観音山古墳	高崎市綿貫町	前方後円墳。全長97.2m、高さ9.4m。墳丘頂他に埴輪多数を配する。横穴式石室内部から鏡、銅製水瓶、金銅製鈴付大帯その他武馬具、装飾具が出土。国重要文化財。国指定史跡。調査'67～68・'76～'79 報告'98～			
D	普賢寺裏古墳	高崎市綿貫町	前方後円墳。全長71m、高さ6.6m。竪穴式石室。葺石。			
E	不動山古墳	高崎市綿貫町	前方後円墳。全長91m。墳丘は二段、前方部に造り出し。葺石。			
F	蟹沢古墳	高崎市柴崎町	正始元年陳是作四神四獣鏡、獣文帯三神三獣鏡、製内行花纹鏡2面、その他鉄器が出土。削平により形状不明。			
G	浅間山古墳	高崎市柴崎町	円墳。径30m、高さ5m。横穴式石室か。鏡、勾玉、大刀等が出土。			
H	飯玉山古墳	高崎市栗崎町	前方後円墳。横穴式石室。刀剣、勾玉、金環が出土。			
No.	城館跡・居館跡	所在地	年代	築・在城者名	概要	備考
①	元島名城	高崎市元島名町	15C	島名伊豆守	堀・土居・戸口・根小屋・板碑	
			16C	長井豊前守政実		
②	元島名内出	高崎市元島名町	16C	阿久沢氏	堀・土居・戸口	小環濠遺構
③	新居屋敷	高崎市西横手町		新居喜左右衛門		
④	中島内出	高崎市中島町	16C	田口業祐	堀・土居・板碑	
⑤	江原屋敷	高崎市上滝町	16C末	江原源左右衛門	堀	火雷天若御子神社
⑥	上滝中屋敷	高崎市上滝町	南北朝		堀・陶磁器	
⑦	下滝館	高崎市下滝町	文明九	足利成氏	堀・土居・戸口・井戸・別郭	近世天田氏居住
				大井田氏		
⑧	下滝屋敷	高崎市下滝町			二重堀	
⑨	下斉田城	高崎市下斉田町		田口氏	堀・土居・戸口	
⑩	大類寄居	高崎市柴崎町		柴崎地衆	堀・土居・戸口	
⑪	東中里城	高崎市東中里町		太田氏		
⑫	堀米屋敷	高崎市綿貫町	16C	堀籠大学		
⑬	深沢屋敷	高崎市京目町		深沢氏	堀・土居・戸口	長楽寺
⑭	萩原城	高崎市萩原町	16C	萩原地衆	堀・土居・戸口	
⑮	宿阿内城	前橋市亀里町	16C	三輪右丹	堀・土居・戸口・槽台・根小屋	
⑯	前田屋敷	前橋市亀里町			二重堀	
	鶴小路亀里環濠遺構	前橋市亀里町 ・鶴小路町			堀・14カ所の環濠遺構	
⑰	新堀城	前橋市新堀町	16C	和田正盛	武田氏築城か。利根川氾濫で消滅。	

(略称) (近)—近世・(中)—中世・(弥)—弥生・(縄)—縄文

県—群馬県教育委員会・市—高崎市教育委員会・団—(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

[参考文献]

- ・『上滝五反畑遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999
- ・『群馬県の中世城館』 群馬県教育委員会 1988
- ・『利根川の変流と民俗』『群馬文化』第257号 井野修二 1999
- ・『滝川村史』 田口輝美 1984
- ・『玉村町の遺跡』 玉村町教育委員会 1992
- ・『歴史の道調査報告書第7集 佐渡奉行街道』 群馬県教育委員会 1981

第3節 基本層序の設定

本遺跡に堆積する土層の状態を第4図に示す。各時代のテフラ層やテフラ混入層、洪水層等が数多く堆積しており、周辺地域が火山災害や大小の洪水災害を繰り返し受けてきた様子が窺える。さらに、これらの堆積状態は各調査区間で著しい差異があることも判る。

そこで、それぞれの土層を整理し次のような基本層序を設定した。

I層 表土		現代
II層 褐色～橙色土〔As—A 混土〕	最大5層に分層。	近世・中世
III層 灰褐色～明橙色土	最大9層に分層。	
IV層 暗褐色土〔As—B 混土〕	最大2層に分層。	
V層 As—B (天仁元・1180年浅間山起源)		古代
VI層 黒褐色・灰色粘土	2層に分層。	古墳時代
VII層 Hr—FP 泥流 (6世紀中葉?)	最大4層に分層。	
VIII層 Hr—FP (6世紀中葉榛名山起源)		
IX層 明褐灰色シルト		
X層 Hr—FA (6世紀初頭榛名山起源)		
XI層 灰褐色シルト		
XII層 黒色粘土〔As—C 混土〕		古墳時代以前
XIII層 暗灰色シルト		
XIV層 灰色シルト	3層に分層。	
XV層 灰白色シルト	3層に分層。	
XVI層 褐灰色砂礫質土〔前橋泥流層 (約2万年前)〕		

以下、これら各層の概要を分類して記す。

〔テフラ層〕

テフラ層は古墳時代から古代の3層が堆積している。いずれも一次堆積層であり、これらの層下面はそれぞれの火山噴火で被災した当時の地表面と考えてよい。

その他、本来ならばII～III層間にはAs—A (天明三・1783年浅間山噴火時の降下軽石)が、またXII～XIII層間にはAs—C (4世紀初頭?浅間山噴火時の降下軽石)がそれぞれ堆積していたはずであるが、後世の攪拌等により現在では確認できないものと考えられる。なお、古墳時代を遡る時期のテフラ層も確認したが、遺構確認に直接関係しないために示していない。

- ・As—B (V層) : 天仁元 (1108) 年の浅間山噴火に伴うテフラ層である。大部分は暗褐色軽石であるが、底部に灰色火山灰薄層を伴うことで一次堆積層であることが判る。E区の一部を除き残存状態は良好である。
- ・Hr—FP (VII層) : 6世紀中葉の榛名山噴火に伴う降下火山灰層で、灰色を呈している。層厚5mm未満と薄く、上下には炭化物層の可能性もある層厚数mmの黒色土を伴う。D区中央部以北で良好に残存している。
- ・Hr—FA (X層) : 6世紀初頭の榛名山噴火に伴う降下火山灰層で、黄橙色を呈している。B区以北で残

第2章 遺跡の位置・周辺の遺跡・基本層序

存しているが、層厚数cm程度である。なおA区南西隅には、VI層下位に黄褐色土が堆積している。周辺の遺跡の状態からこの土層も Hr—FA と判断した。

〔テフラ混入層〕

テフラ混入層は古墳時代以降の3層が堆積している。それぞれの状態から、降下したテフラと他の土層とが人為的な攪拌を受けることにより形成されたと思われ、テフラを巻き込んだ洪水層の可能性は薄い。

- ・As—A 混土（II層）： As—A を大量に含む褐色～橙色土である。全調査区で堆積している。
- ・As—B 混土（IV層）： As—B を大量に含む暗灰褐色土である。
- ・As—C 混土（XII層）： As—C を含む黒褐色土である。A区からC区では部分的に残存するが、D区以北では比較的安定している。

〔火山性泥流層〕

前橋泥流層（XVI層）は約2万年前の浅間山の山体崩壊により引き起こされた泥流であり、前橋台地の基盤層と言える。遺構確認に関係した土層で、明確に火山性泥流層と判断できるものは1層である。

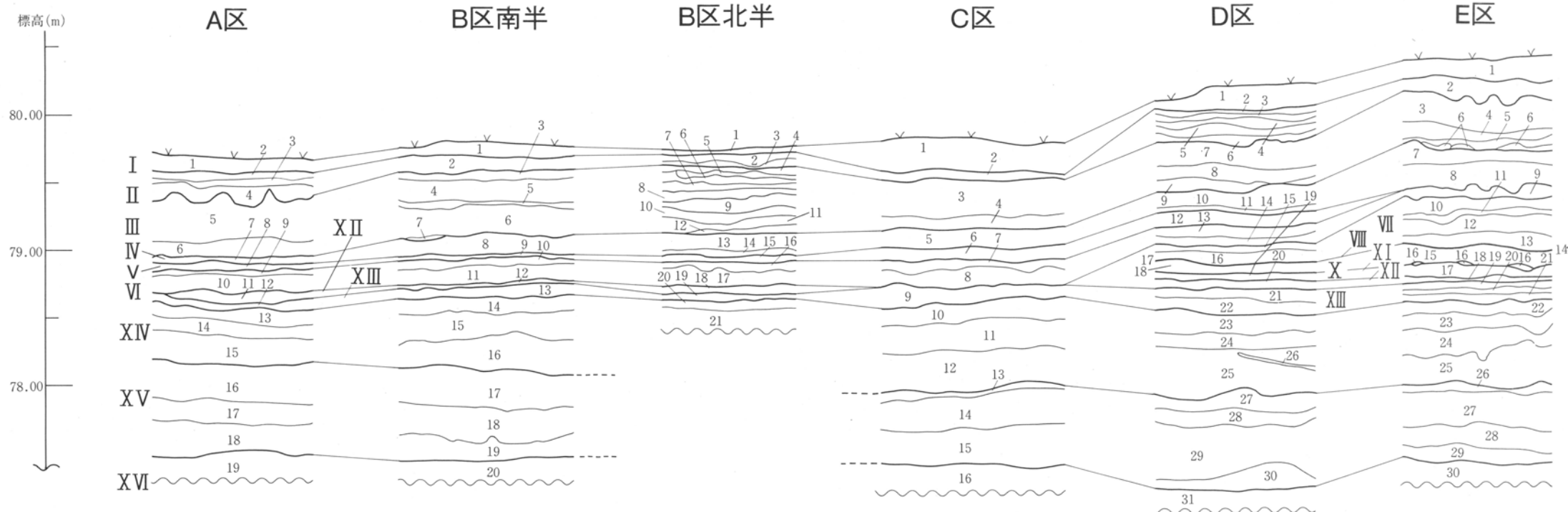
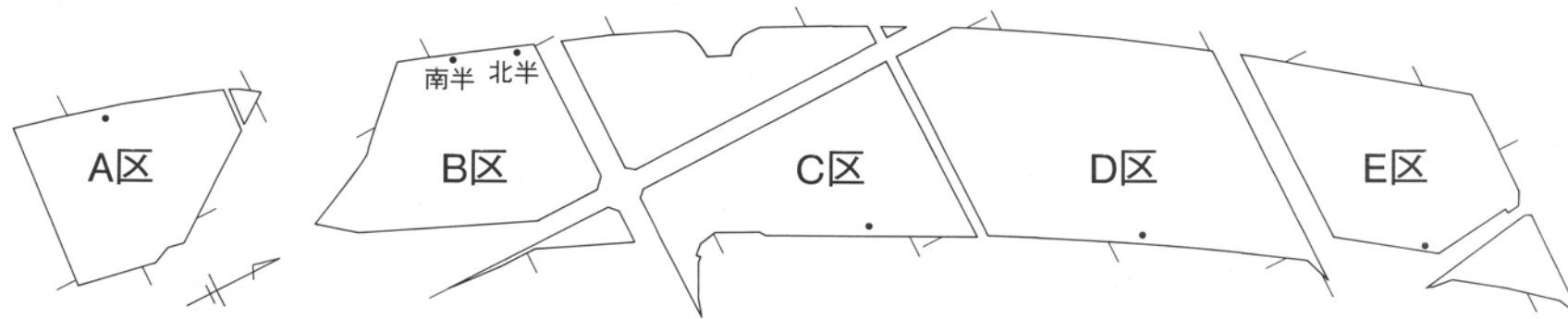
- ・Hr—FP 泥流（VIII層）： Hr—FP に伴う火山性泥流層である。B区、C区では部分的に残存するのみである。しかし、D区中央部以北では状態は良好で、灰白～橙色を呈しシルトや砂粒が互層堆積している。底部では Hr—FP が良好に残存している。

〔洪水層〕

洪水層と思われるものは複数確認されているが、いずれも具体的な年代は不明である。このうち発掘調査の際に手掛かりとなった2層を記す。

- ・灰褐色～明橙色土（III層）：中世から近世にかけての複数回の洪水により形成されたものと思われる。この内部のそれぞれの層は調査区間、さらには調査区内でも対応させることは極めて困難である。利根川は中世に現位置に変流したとされるが、その前後から現代に至るまで、大小の洪水が繰り返し発生してきたことが知られている。本層もこれらによるものであろうか。
- ・黒褐色・灰色粘土（VI層）：古代の洪水層と思われる。層内に Hr—FP 軽石小粒や砂粒を均一に含んでおり、堆積後かなりの攪拌を受けた様子が判る。この層上半部は黒色粘土（VI—1層）、下半部は灰色粘土（VI—2層）でこの間に漸移的な部分もあることから、これら二層は本来は同一の土層であり上半部が変色したものの可能性もある。全調査区で堆積している。

このように、土層の堆積状態が複雑になった原因としては、それぞれの洪水の規模の違いの他に、旧地形に起伏があったことで各層が一様には堆積しなかったこと、また土地を耕地として利用し続けたことで土層が常に人為的な攪拌を受けてきたこと等の可能性が考えられる。



Zone	Layer No.	Soil Description	Classification	
A区	1	表土	I	
	2	赤褐色土 As-Aを含む。	II	
	3	明褐色土 As-Aを含む。	III	
	4	暗褐色土 As-Aを含む。	III	
	5	灰褐色土 褐色シルト、灰色砂を層状に含む。	III	
	6	明褐色土	III	
	7	暗褐色土 As-Bを含む。	IV	
	8	As-B	V	
	9	灰色粘土	VI-1	
	10	黒色粘土	VI-2	
	11	暗灰色シルト As-Cを含む。	XII	
	12	暗灰色シルト	XIII	
	13	灰色シルト	XIV	
	14	灰色シルト 黄色粘土を含む。	XV	
	15	黒灰色シルト	XVI	
	16	灰白色シルト 軽石を含む。	XVII	
	17	灰白色シルト	XVIII	
	18	灰白色シルト 礫を含む。	XIX	
	19	褐色砂礫 [前橋泥流層]	XX	
B区南半	1	表土	I	
	2	暗褐色土 As-Aを含む。	II	
	3	明褐色土	III	
	4	灰褐色砂質土	III	
	5	明褐色砂質土	III	
	6	明褐色土	III	
	7	灰褐色砂	III	
	8	暗褐色土 As-Bを含む。	IV	
	9	As-B	V	
	10	黒色粘土	VI-1	
	11	灰色粘土	VI-2	
	12	暗灰色シルト As-Cを含む。	XII	
	13	暗灰色シルト	XIII	
	14	灰色シルト	XIV	
	15	灰色シルト 黄色粘土を含む。	XV	
	16	黒灰色シルト	XVI	
	17	灰白色シルト 軽石を含む。	XVII	
	18	灰白色シルト	XVIII	
	19	灰白色シルト 礫を含む。	XIX	
20	褐色砂礫 [前橋泥流層]	XX		
B区北半	1	表土	I	
	2	赤褐色土 As-Aを含む。	II	
	3	灰白色土 As-Aを含む。	III	
	4	赤褐色+褐色砂質土	III	
	5	明褐色土	III	
	6	褐色砂質土 赤褐色砂を含む。	III	
	7	褐色砂質土 明褐色土を含む。	III	
	8	明褐色土	III	
	9	暗褐色土 Hr-FPを含む。	III	
	10	暗褐色砂質土	III	
	11	鈍い黄褐色砂	III	
	12	黄褐色砂質土	III	
	13	暗褐色土 As-Bを含む。	IV	
	14	黒褐色土 As-Bを含む。	IV	
	15	As-B	V	
	16	黒色粘土	VI-1	
	17	灰白色シルト 軽石を含む。	VI-2	
	18	暗灰色土 As-Cを含む。	XII	
	19	暗灰色シルト	XIII	
20	暗褐色土	XIII		
C区	1	表土	I	
	2	灰白色土 As-Aを含む。	II	
	3	灰褐色砂質土	III	
	4	灰褐色土	III	
	5	暗褐色土	IV	
	6	As-B	V	
	7	黒色粘土	VI-1	
	8	灰色粘土	VI-2	
	9	暗灰色シルト	XIII	
	10	灰色シルト	XIV	
	11	灰色シルト 黄色粘土を含む。	XV	
	12	黒灰色シルト	XVI	
	13	灰白色シルト	XVII	
	14	灰白色シルト 軽石を含む。	XVIII	
	15	灰白色シルト 礫を含む。	XIX	
	16	褐色砂礫 [前橋泥流層]	XX	
	D区	1	表土	I
		2	褐色土 As-Aを含む。	II
		3	橙色砂質土 As-Aを含む。	III
4		灰色砂質土 As-Aを含む。	III	
5		橙色砂質土 As-Aを含む。	III	
6		灰褐色土 As-Aを含む。	III	
7		灰褐色砂質土	III	
8		灰色土	III	
9		灰色砂質土 褐色砂を含む。	III	
10		灰褐色土 As-Bを含む。	IV	
11		暗褐色土 As-Bを含む。	IV	
12		As-B	V	
13		黒色粘土	VI-1	
14		灰色粘土	VI-2	
15		黄色砂 Hr-FP泥流	VII	
16		灰白色砂 Hr-FP泥流	VII	
17		Hr-FP	VIII	
18		明褐色シルト	IX	
19		黒灰色シルト	XI	
20	黒色シルト As-Cを含む。	XII		
21	暗褐色土	XIII		
22	黒灰色粘土	XIII		
23	灰色シルト	XIV		
24	灰色シルト 黄色粘土を含む。	XV		
25	黒灰色シルト	XVI		
26	黄褐色砂 (噴砂)	XVII		
27	灰白色シルト 軽石を少量含む。	XVIII		
28	灰白色シルト 軽石を含む。	XIX		
29	灰白色シルト	XIX		
30	灰白色シルト 礫を含む。	XIX		
31	褐色砂礫 [前橋泥流層]	XX		
E区	1	表土	I	
	2	灰色土 As-Aを含む。	II	
	3	灰褐色砂質土	III	
	4	灰褐色土	III	
	5	橙色砂質土	III	
	6	褐色~灰色砂	III	
	7	暗褐色土 As-Bを含む。	IV	
	8	暗褐色土 As-Bを含む。	IV	
	9	灰色粘土	VI-1	
	10	黄褐色砂 Hr-FP泥流	VII	
	11	淡黄色~黄色土 Hr-FP泥流	VII	
	12	褐色~灰色砂 Hr-FP泥流	VII	
	13	黄色~淡褐色土 Hr-FP泥流	VII	
	14	Hr-FP	VIII	
	15	明褐色シルト	IX	
	16	Hr-FA	X	
	17	灰褐色シルト	XI	
	18	黒色粘土As-Cを含む。	XII	
	19	暗褐色シルト	XIII	
20	暗褐色シルト	XIII		
21	暗褐色シルト	XIII		
22	灰色シルト 軽石を含む。	XIV		
23	灰色シルト	XIV		
24	灰色シルト 黄色粘土を含む。	XV		
25	黒灰色シルト	XVI		
26	灰白色シルト 軽石を含む。	XVII		
27	灰白色シルト 軽石を少量含む。	XVIII		
28	灰白色シルト 軽石を含む。	XIX		
29	灰白色シルト	XIX		
30	灰白色シルト 礫を含む。	XIX		
31	褐色砂礫 [前橋泥流層]	XX		

第4図 宿横手三波川遺跡土層図

第3章 各時代の調査

第1節 調査概要

本遺跡の土層は第2章第3節に示したとおり、テフラ層、テフラ混土層、洪水層等が十数層堆積する状態である。断面観察やトレンチ調査により、各層下面や層内に遺構が存在する可能性を判断して調査を進めた。その概略を以下に示す。予想された主な遺構は、近世から古墳時代の水田・畠跡である。

[近世以降]

As—A 混土（Ⅱ層）の下面では、D区以南で農具痕の残存する水田跡、降下したAs—Aを処理した土坑（灰掻き穴）を、またE区で屋敷周濠その他の溝、井戸や土坑をそれぞれ確認した。次に灰褐色～明橙色土（以下Ⅲ層）内の洪水層下面からは、B区北半で残存度の低い水田跡を確認した。

[中世]

Ⅲ層内の洪水層下面2面で遺構を確認した。上位面ではE区で水田跡及び畠跡と思われるサク状遺構を、また下位面ではB区北半及びD区以北で水田跡、掘立柱建物跡その他の柱穴群や土坑等をそれぞれ確認した。次にAs—B（Ⅴ層）を除去する時点で各調査区で土坑多数を確認した。その他掘立柱建物跡、溝、道路跡が見つかった調査区もある。これらはAs—Bを完全に除去して精査したが、いずれも埋土に大量のAs—Bを含んでいる。このような遺構は古代末ないしは中世に比定されるが、本遺跡では古代の遺構との関連が希薄であったため、中世のものとして扱った。

[古代]

As—Bの下面では、各調査区で水田跡を確認した。さらに、この水田跡の基盤層といえる黒褐色・灰色粘土（Ⅵ層）を除去し、各調査区で溝や土坑を確認した。水田痕跡が残存していた調査区もある。これらの確認面となる土層は各調査区で異なっており、年代が不明なものも多い。しかし、As—B下面の水田跡と関連付けられる溝も複数ある。

[古墳時代]

Hr—FP 泥流（Ⅶ層）及びHr—FP（Ⅷ層）の下面、Hr—FA（Ⅹ層）の下面では、それぞれB区以北で水田跡を確認した。A区の一部にはHr—FAと思われる層が堆積しており、この下面でも水田痕跡が残存していた。次にAs—C 混土（Ⅺ層）の上位ではE区で大型畦畔、中位からはD区以北で水田跡や溝を確認した。前述したⅥ層下面のA区の遺構には、この時代のものと思われる溝や土坑も含まれている。

[古墳時代以前]

最終面である灰色シルト（Ⅻ層）上面では全調査区で倒木痕、溝、さらにC区以北では大規模な自然河川を確認した。この面の調査終了後、各調査区で前橋泥流（Ⅻ層）上部に至る確認トレンチを設定し調査したが、遺構や遺物は確認されなかった。

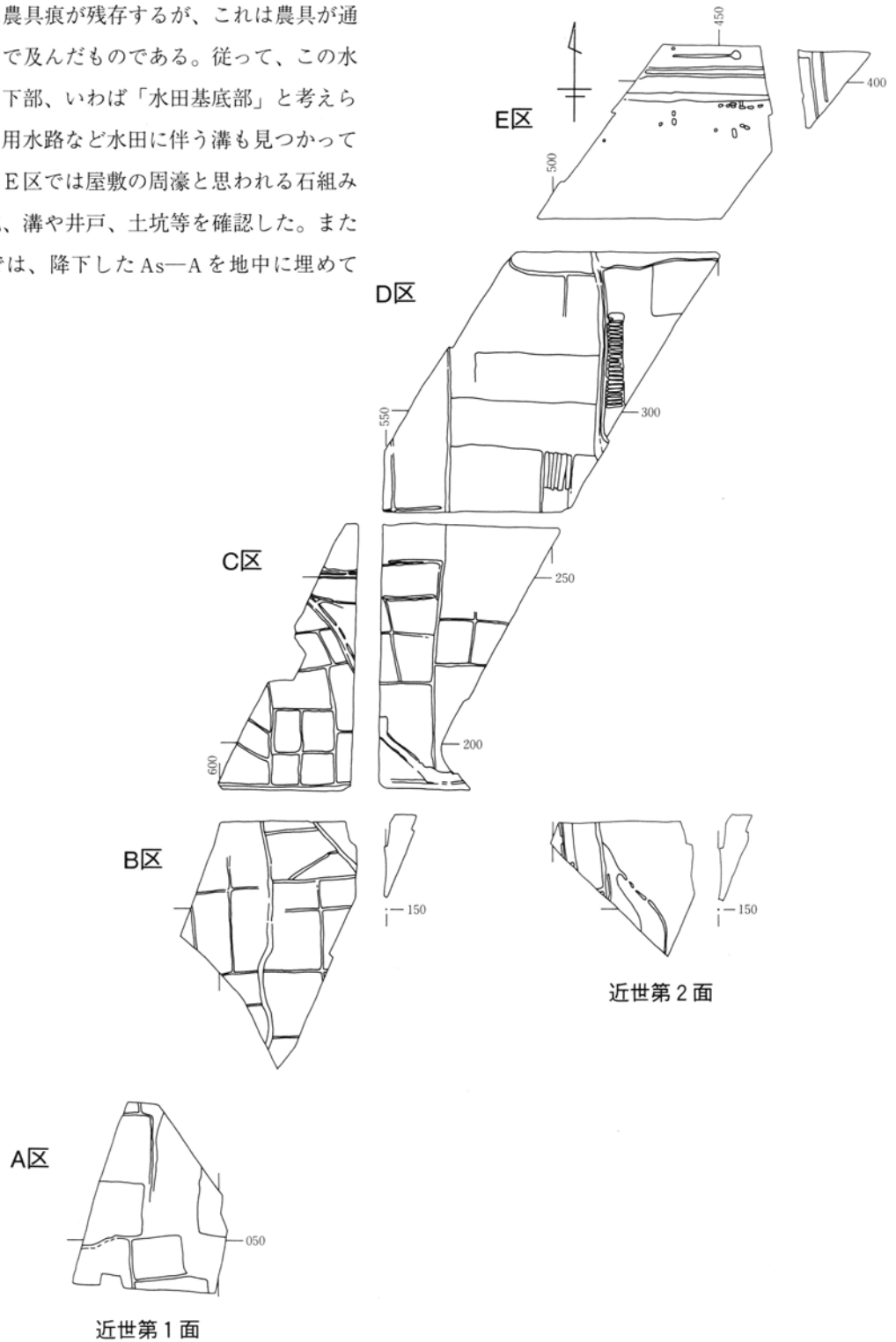
以上、各調査面の年代は主にテフラ層その他の層序により判断した。出土遺物については、縄文時代から近世以降までの各時代のものが見られる。しかし大部分が小破片であり、特に須恵器や土師器は器種や器形が不明なものも多い。さらに、各土層が耕作による攪拌を受け続けてきたため、同一層内に異なった年代の遺物が混入するような状態である。これらの状況から、遺物を手掛かりに個々の遺構の具体的な年代を判断することは不可能であった。

第2節 近世以降の遺構と遺物

1. 概要

本遺跡の発掘調査で最初に着目した土層はAs—A 混土（Ⅱ層）である。この層を除去した結果、A区からD区で水田跡を確認した（As—A 混土下水田）。

多くの区画に農具痕が残存するが、これは農具が通常より深くまで及んだものである。従って、この水田跡は耕土の下部、いわば「水田基底部」と考えられる。また、用水路など水田に伴う溝も見つかっている。一方、E区では屋敷の周濠と思われる石組みを伴う溝の他、溝や井戸、土坑等を確認した。またC区、D区では、降下したAs—Aを地中に埋めて

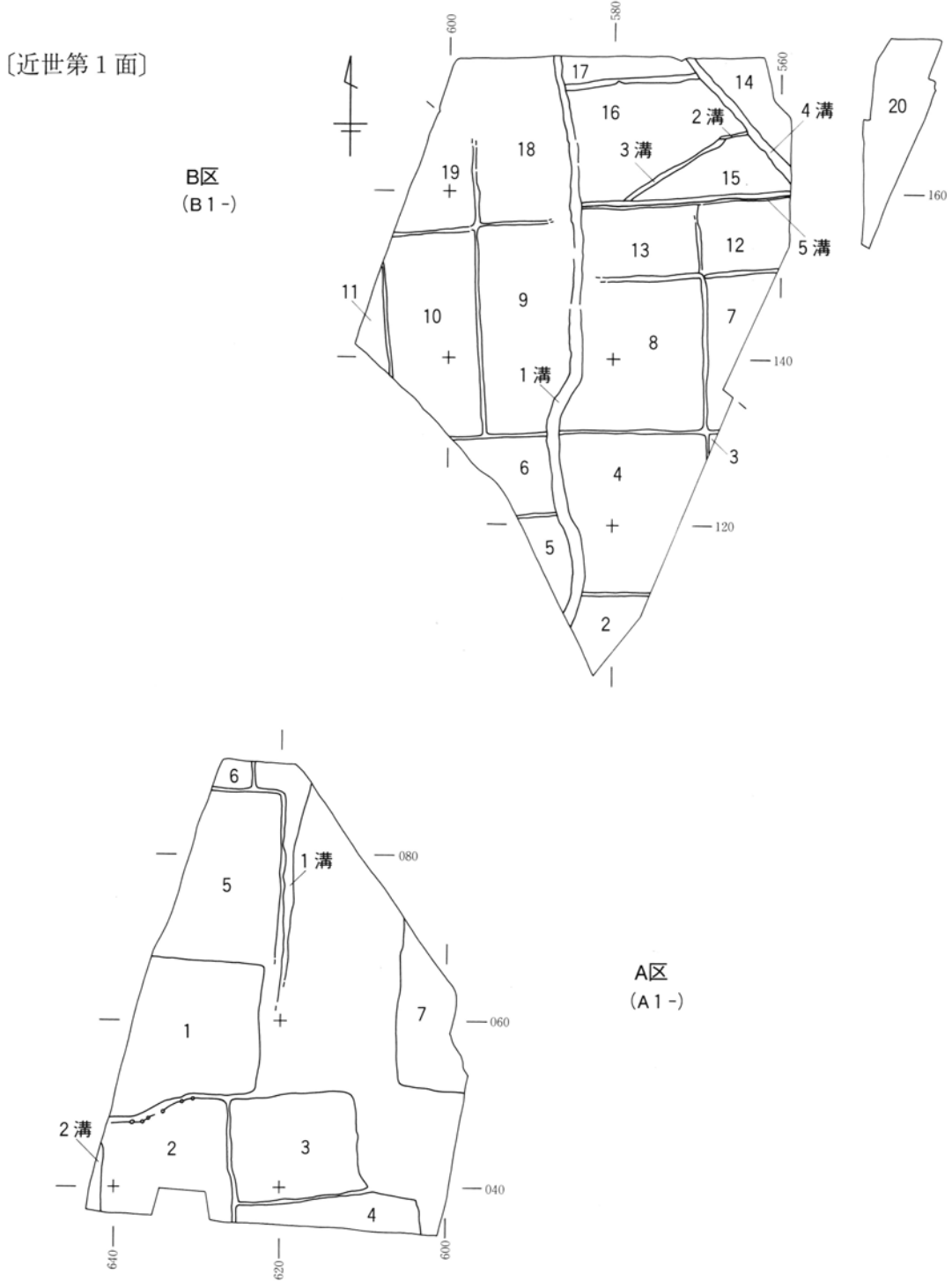


第5図 近世遺構概念図

処理した「灰掻き(穴)」も見つかっている。以上、As—A 混土を除去した面を「近世第1面」と呼ぶ。

次に、「近世第1面」の調査終了後、中世から近世にかけての複数の洪水により形成されたとされる灰褐色～明橙色土（以下Ⅲ層）から As—B 混土（Ⅳ層）に至るトレンチを設定し調査した。

その結果、B区北部では明褐色土（B区北部8層）の下面で残存度の低い水田跡を確認した。層序や出土遺物から近世の所産と判断した。この面を「近世第2面」、確認された水田跡を近世第2面水田と呼ぶ。



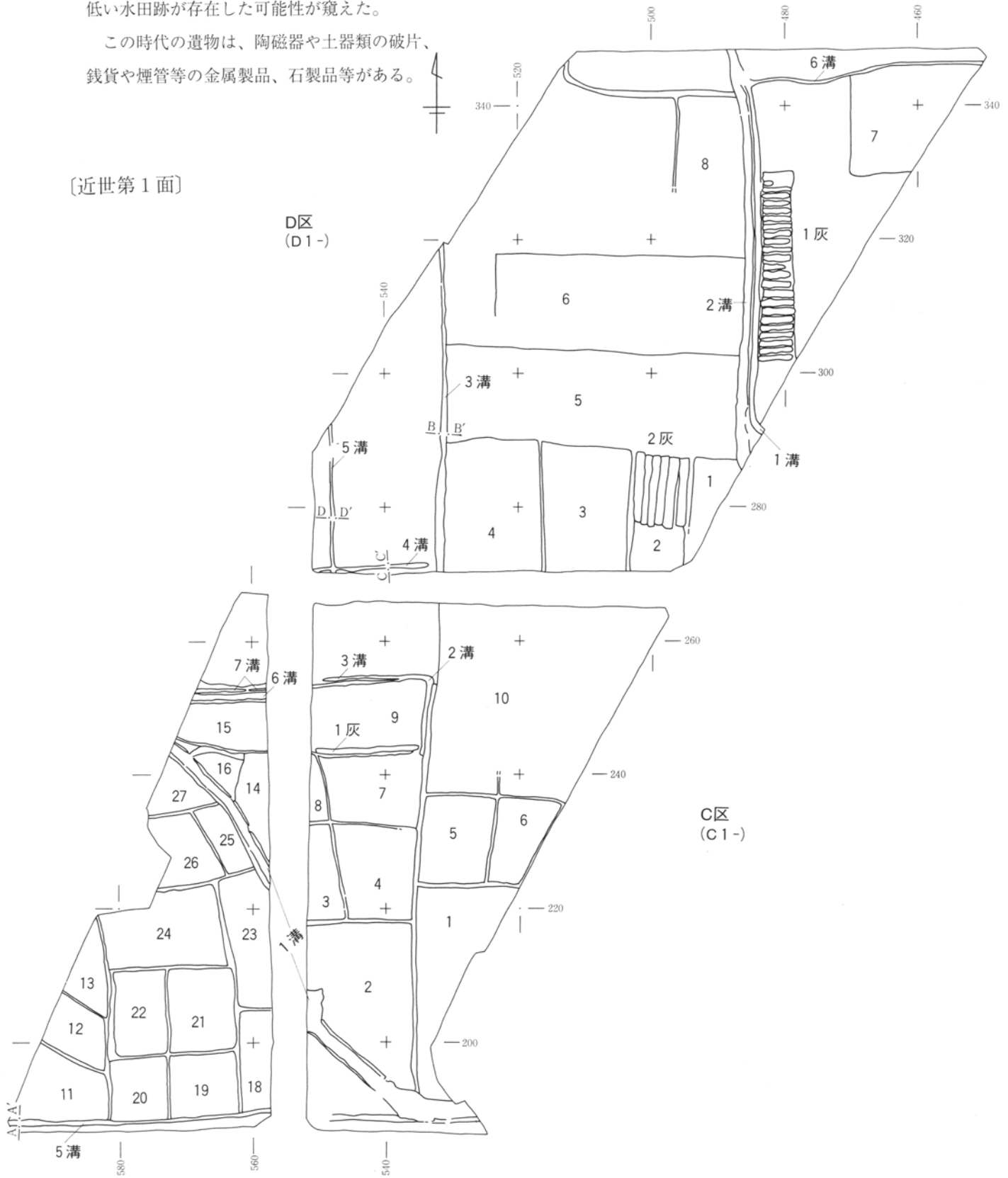
第6図 近世遺構配置図(1)

第3章 各時代の調査

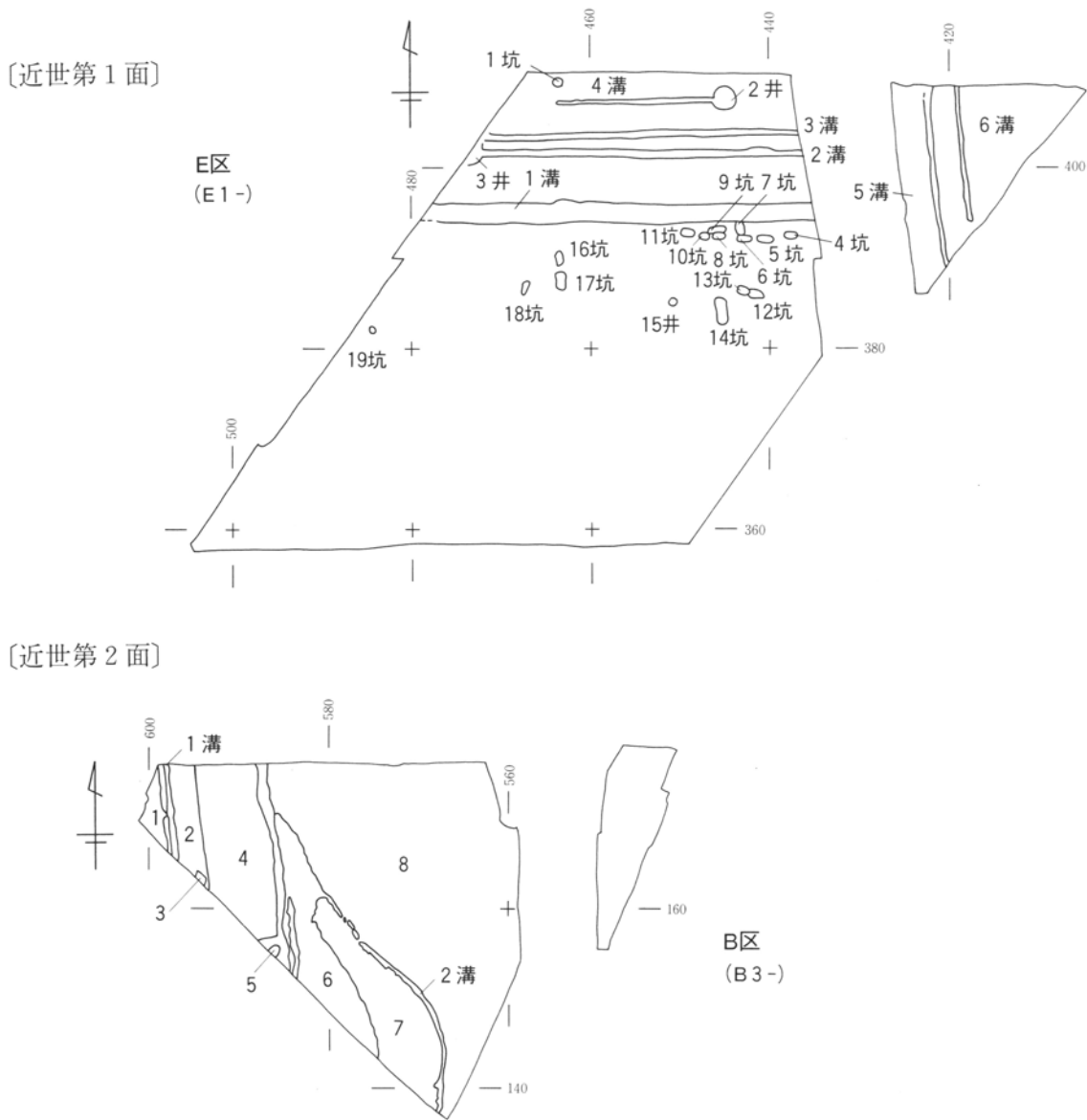
その他、Ⅲ層内の断面観察により、遺構が確認されなかった調査区でも中世から近世に相当する残存度の低い水田跡が存在した可能性が窺えた。

この時代の遺物は、陶磁器や土器類の破片、
銭貨や煙管等の金属製品、石製品等がある。

〔近世第1面〕



第7図 近世遺構配置図(2)



第8図 近世遺構配置図(3)

2. 遺 構

(1) 水田跡

水田跡は、近世両面で上位からAs—A 混土下水田、近世第2面水田の2時期の水田跡を確認した。

①As—A 混土下水田 (第9～17図 PL. 2～10)

A区からD区で確認した。全体的に東西、南北方向の畦畔で区切られるものが多く、それぞれの畦畔は底部幅30cm前後、確認面からの高さ10cm前後である。

まずA区では推定7区画を確認した。完形はA 1—3区画のみであり、これを含め台形や不正方形のものが多い。多くが段差で区切られ、おおよそ北部から南部に向けて低くなっている。またA 1—1区画の南辺には楕円形の礫が約1～3m間隔で残存しており、畦畔を補強したものか、地境を示したものと思われる。なお、水田に伴う溝は2条を確認した。

またB区では、推定20区画を確認した。北部にはB 1—2～4溝で区切られる三角形や台形の部分もある。

第3章 各時代の調査

水田に伴う溝は計5条を数える。このうちB1—1溝は調査区を南北に縦断する大規模なもので、この付近の主要な用水路と思われる。

次にC区では、推定27区画を確認した。このうちC1—18~27区画は土色の違いにより認識した。また、東部から西部にかけては台形や平行四辺形状の区画が見られる。このうちC1—2・14・16・23~27区画はC1—1溝の走向に合わせた形状となっている。このC1—1溝は両岸に畦畔を伴う大規模なもので、この周辺の中心的な用水路であったと思われる。その他、水田に伴う溝は合計で7条を数える。

一方D区では、推定8区画を確認した。北部には残存度の低い畦畔が見られるが、他の部分では東西に幅の広い段差で区切られており(D1—1~6区画)、北部から南部に向けて低くなっている。水田に伴う溝は5条を確認した。このうちD1—1・2溝は調査区を南北に縦断するもので、主要な用水路と考えられる。なお、この溝を南部のC区側に延長したライン上(座標値でY=533)には、調査区を南北に縦断する畦畔が位置しており、この位置が地割りの上で重要なものである可能性もある。

この水田跡で特筆すべきは、多くの区画で農具痕が残存していることである。埋土には大量のAs—Aが含まれており、天明三年の浅間山噴火以降の作業によるものと考えられる。これらは、いずれも一連の直線的な作業の痕跡として捉えられ、その形状から次のように大きく三種類に分類できる。

a型：区画内に幅約20cmの農具痕が直線的に連続し、溝状の凹凸を形成するものである。これはA1—1区画、B1—2・3・4区画、C1—2・7・8・10・14区画の計9区画で観察できた。作業方向はB1—2区画で南北、またC1—8・14区画でそれぞれN—10°—W、N—15°—Eの斜方向、その他の区画では東西を示す。溝内には長方形ないしは丸みを持った刃先の痕跡が残る部分も多く、断面は緩やかな「V」字状または「U」字状に傾斜している。特にB区の3区画では、個々の農具痕は楕円形に変形するものの、状態の良好な部分では細長い長方形を呈している。これに対しC1—8・14区画では、溝は深さ約10cm前後で約10cm間隔で並走しており、畝の畝のような状態である。また、埋土底部には大量のAs—Aが残存していることもあり、他の区画の農具痕とは状態が異なっている。

b型：幅約20cm前後の細長い長方形の農具痕が直線的に並ぶものである。これはB1—10・18・19区画、C1—2・15区画の計5区画で観察できた。a型のような溝の形成はないが、B区の3区画では南北、C区の2区画では東西にそれぞれ作業されたと思われる。これらは、いずれも区画の長径方向に合わせたものである。それぞれの農具痕の底部は斜方向に緩やかに傾斜している。

c型：径約15~20cmの楕円形や半円形の農具痕が直線的に並ぶ状態のものである。これはD1—3~6区画で観察できた。それぞれの断面は「V」字状を呈しており、並び方から南北方向に作業されたものと思われる。

これらのうち、a型のA1—1区画やb型のB1—10区画以外の区画には、一部の畦畔や段差のすぐ脇にこれと直交するような農具痕の列が見られる。これらは、区画内を連続して作業していく動きのなかではカバーしきれない部分を別個に作業したことを示している。その他、農具痕と思われる凹凸が見られる区画は多い。しかし残存度が低いため具体的な形状等は不明である。

以上、それぞれの農具痕の状態を記したが、これらはいずれも農具が通常より深い部分に及んだために残存したものと考えられる。従って、この水田跡の耕作面はより上位に存在したと思われ、確認されたのは耕土の下部、いわば「水田基底部」である可能性が強い。As—A混土はこの水田の耕土と考えられ、水田面に降下したAs—Aが、その後の耕作により当時の耕土と攪拌されたものと思われる。水田の造成、廃絶の時期は不明であるが、As—Aの噴火以前からの継続が当然考えられる。

これに対し、D1—8区画とその近辺には人の足跡が残存していた。この部分には耕土が残存していたとも思われるが、状態が悪いため判断はできなかった。

以下に既出のものも含めてこの水田に伴う溝を記す。これらの溝から各区画への具体的な配水の経路については特定できなかった。

A1—1溝 A区中央部から北部の065—615G～085—615Gに位置する。南北走し、走向はN—8°—E。南北端は不明瞭。確認長22.6m、幅70～260cm、深さ5～6cmで、断面は浅い皿状。陶器の破片が出土。

A1—2溝 A区南西隅の035—640G～040—640Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—2°—W。西岸が調査区外に懸かり、確認長8.8m、深さ19～20cmで、幅は200cm前後か。断面は皿状で、同じ場所に複数回掘削されたか。陶磁器、土器の破片が出土。

B1—1溝 B区南端から北端の105—585G～175—585Gに位置する。走向は、南半がN—6°—W、130—587G付近からN—26°—W、136—585G付近から北半はN—5°—W。確認長68.0m、幅60～170cm、深さ10～31cmである。断面は皿状で、同じ場所に複数回掘削されたか。北部では西岸付近に護岸目的と思われる礫数個が約1m間隔で並ぶ。陶磁器や土器の破片、火打ち石等が大量に出土。

B1—2溝 B区北東部の165—565G～165—560Gに位置する。走向はN—77°—E。確認長3.3m、幅25～48cm、深さ7cmで、断面は皿状。B1—3・4溝と合流、新旧関係は不明。陶磁器の破片が出土。

B1—3溝 B区北部から北東部の155—575G～165—565Gに位置する。直線的で、走向はN—56°—E。確認長13.5m、幅28～88cm、深さ8cmで、断面は浅い皿状。B1—2溝との新旧関係は不明。

B1—4溝 B区北東部の160—555G～175—570Gに位置する。直線的で、走向はN—44°—W。確認長19.9m、幅72～136cm、深さ14cmで、断面は皿状。B1—2溝との新旧関係は不明。陶磁器の破片が出土。

B1—5溝 B区北東部から北部の155—555G～155—580Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—86°—E。確認長24.5m、幅39cm、深さ3cmで、断面はごく浅い皿状。

C1—1溝 C区南東端から西端の185・190—520G～240—570Gに位置する。現道により二分され、走向は北西部がN—48°—W、236—563G付近から南はN—28°—W。南東部がN—51°—W、191—564G付近から東へN—90°。確認長計48.2m、幅132～300cm、深さ41～60cmで、断面は深い皿状。北西部で3カ所、南東部で1カ所の計4カ所で、約50cmの楕円形の礫が残存する。北西部のものは水口か。南東部のものは護岸目的か、何らかの設備の基礎か。陶磁器等の破片、金属製品、火打ち石等が大量に出土。ビニール片もあり、近現代まで使用されたか。

C1—2溝 C区北部の240—530G～250—545Gに位置する。東西—南北方向に「L」字状に屈曲し、走向はN—5°—E、255—533G付近から西がN—83°—E。確認長28.6m、幅36～104cm、深さ17cmで、断面はU字状。C1—3溝と合流、新旧関係は不明。陶磁器や土器の破片、火打ち石が出土。

C1—3溝 C区北部の250—545G～255—535Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—85°—E。確認長11.8m、幅32～44cm、深さ14cmで、断面は皿状。C1—2溝との新旧関係は不明。陶磁器、青磁器等の破片が出土。

C1—5溝 C区南端から南西端の185—595G～190—555Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—87°—E。確認長39.2m、幅58～96cm、深さ6～16cmで、断面は逆台形。陶磁器や土器の破片が出土。

C1—6溝 C区北部から北西端の250—555G～250—565Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—90°を示す。確認長11.8m、幅88～112cm、深さ4～7cmで、断面は浅い皿状。陶磁器や土器の破片が出土。

C1—7溝 C区北部から北西端の250—555G～250—565Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—

第3章 各時代の調査

90°を示す。確認長10.7m、幅12~60cm、深さ4~16cmで、断面は浅い皿状。陶磁器や土器の破片が出土。

D1-1溝 D区南東端から北端の290-480G~345-485Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN-0°だが、南端部の292-484G以南はN-56°-W。確認長56.4m、幅54~184cm、深さ7~26cmで、断面は皿状。陶磁器や土器の破片、砥石等が大量に出土。北部でD1-6溝と直交、新旧関係は不明。

D1-2溝 D区南東端から北端の290-480G~345-485Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN-2°-W。確認長60.3m、幅98~200cm、深さ25~32cmで、断面は皿状。北部の西岸、南部の東岸には30~40cm程度の楕円形の礫が複数残存。北部のものは護岸目的か。陶磁器や土器の破片、銭貨や砥石が出土。

D1-3溝 D区南端から西端の270-530G~315-530Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN-0°。確認長48.8m、幅30~140cm、深さ8~16cmで、断面は浅い皿状。陶磁器や土器の破片が出土。

D1-4溝 D区南西隅の270-550G~270-530Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN-86°-E。確認長17.4m、幅30~70cm、深さ3~6cmで、断面は浅い逆台形。D1-5溝と直交、同時期のものか。

D1-5溝 D区南西隅の270-545G~295-545Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN-0°。確認長19.6m、幅28~60cm、深さ3~16cmで、断面は浅い箱形。D1-4溝と同時期のものか。

D1-6溝 D区北東部の345-450G~345-480Gに位置する。D1-1溝との新旧関係は不明。

【As-A 混土下水田・区画計測表】

①A区 (A1-)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	18.8	—	N-2°-E	2	—	15.6	—	N-89°-E	3	193.2	15.4	13.0	N-86°-E
4	—	(22.2)	—	—	5	—	(20.4)	—	—	6	—	—	—	—
7	—	—	—	—										

②B区 (B1-)

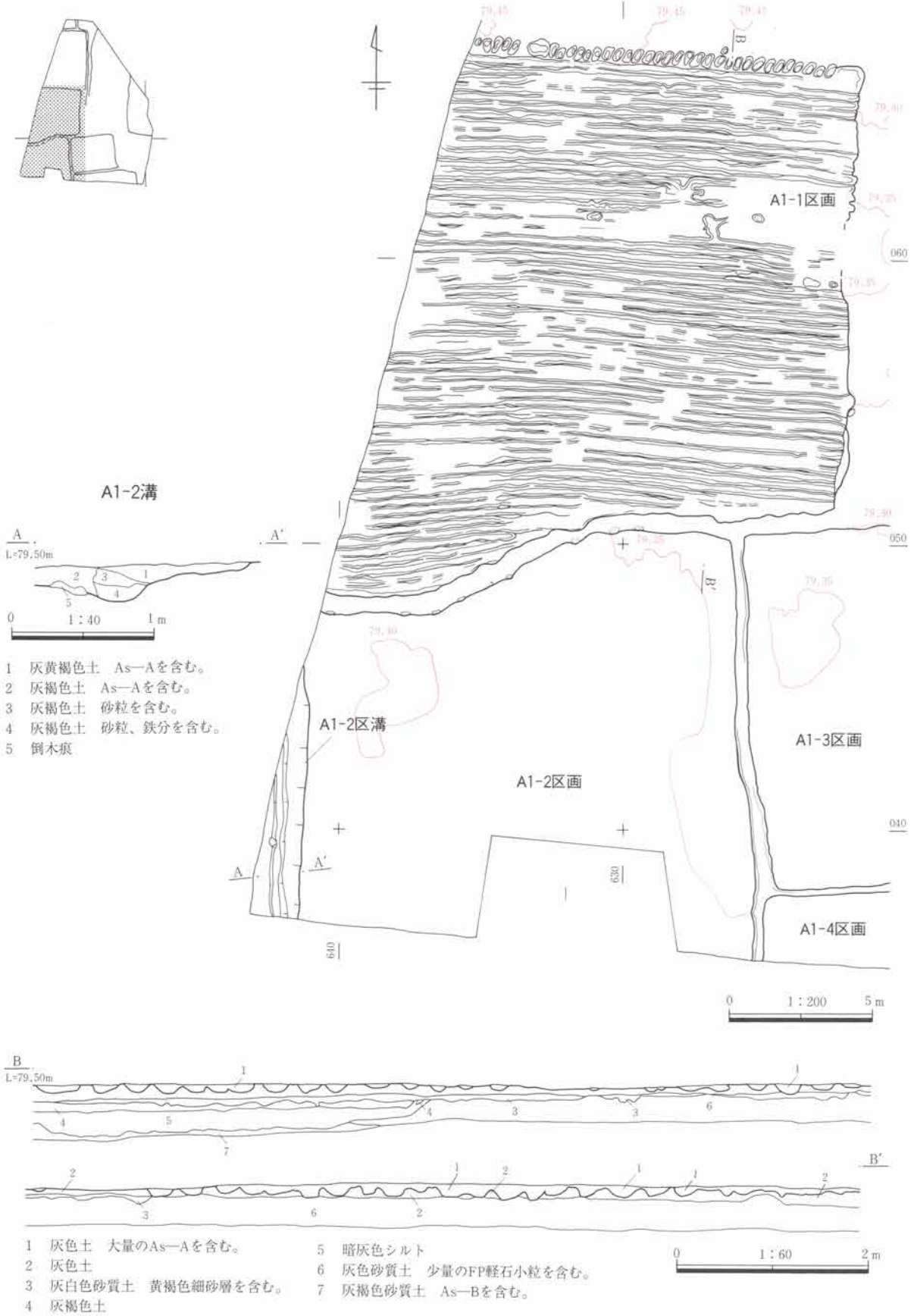
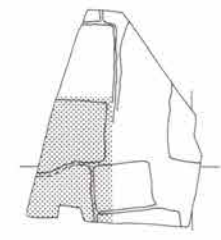
番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
2	—	—	—	—	3	—	—	—	—	4	317.5※	19.4	17.8	N-2°-W
5	—	—	—	—	6	—	—	9.6	N-90°	7	—	(18.2)	—	—
8	226.5	17.2	13.9	N-0°	9	260.0	24.7	10.7	N-3°-W	10	265.3※	24.7	10.6	N-3°-W
11	—	—	—	—	12	85.4※	10.6	8.5	N-3°-E	13	110.6	13.5	8.2	N-90°
14	—	—	—	—	15	80.0	19.8	8.7	—	16	206.4	20.3	14.2	N-84°-E
17	—	(15.2)	—	—	18	—	—	11.0	N-2°-W	19	—	—	—	—
20	—	—	—	—										

③C区 (C1-)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	(31.9)	—	—	2	—	(24.6)	—	—	3	—	(14.6)	—	—
4	154.3	13.9	11.9	N-2°-E	5	140.3	13.5	10.6	N-5°-E	6	95.4	13.0	7.0	N-5°-E
7	152.9	11.4	10.3	N-88°-W	8	—	(10.5)	—	—	9	—	—	9.8	N-86°-E
10	—	—	—	—	11	—	—	9.8	N-89°-E	12	—	—	8.6	N-65°-W
13	—	—	—	—	14	—	—	—	N-13°-E	15	—	—	7.1	N-88°-E
16	26.0	7.1	4.2	N-57°-W	18	—	(14.9)	—	—	19	93.7	10.1	9.2	N-87°-E
20	81.2	9.4	8.6	N-2°-W	21	—	(20.3)	6.6	—	22	123.6	12.6	9.7	N-2°-W
23	100.9	12.9	8.2	N-3°-W	24	199.4※	17.8	11.4	N-86°-E	25	46.1	10.5	4.6	N-27°-W
26	—	(10.7)	—	—	27	—	—	—	—					

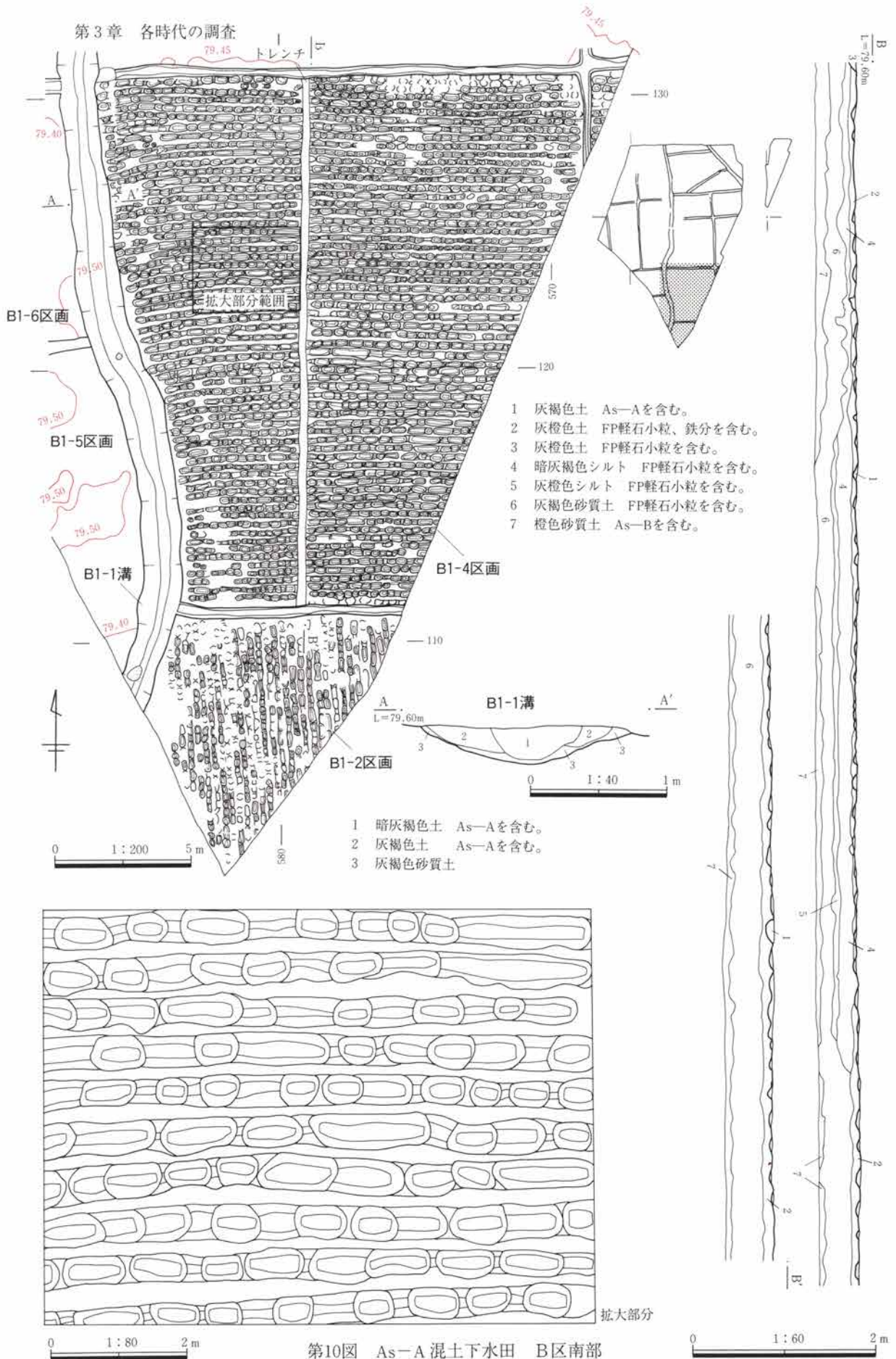
④D区 (D1-)

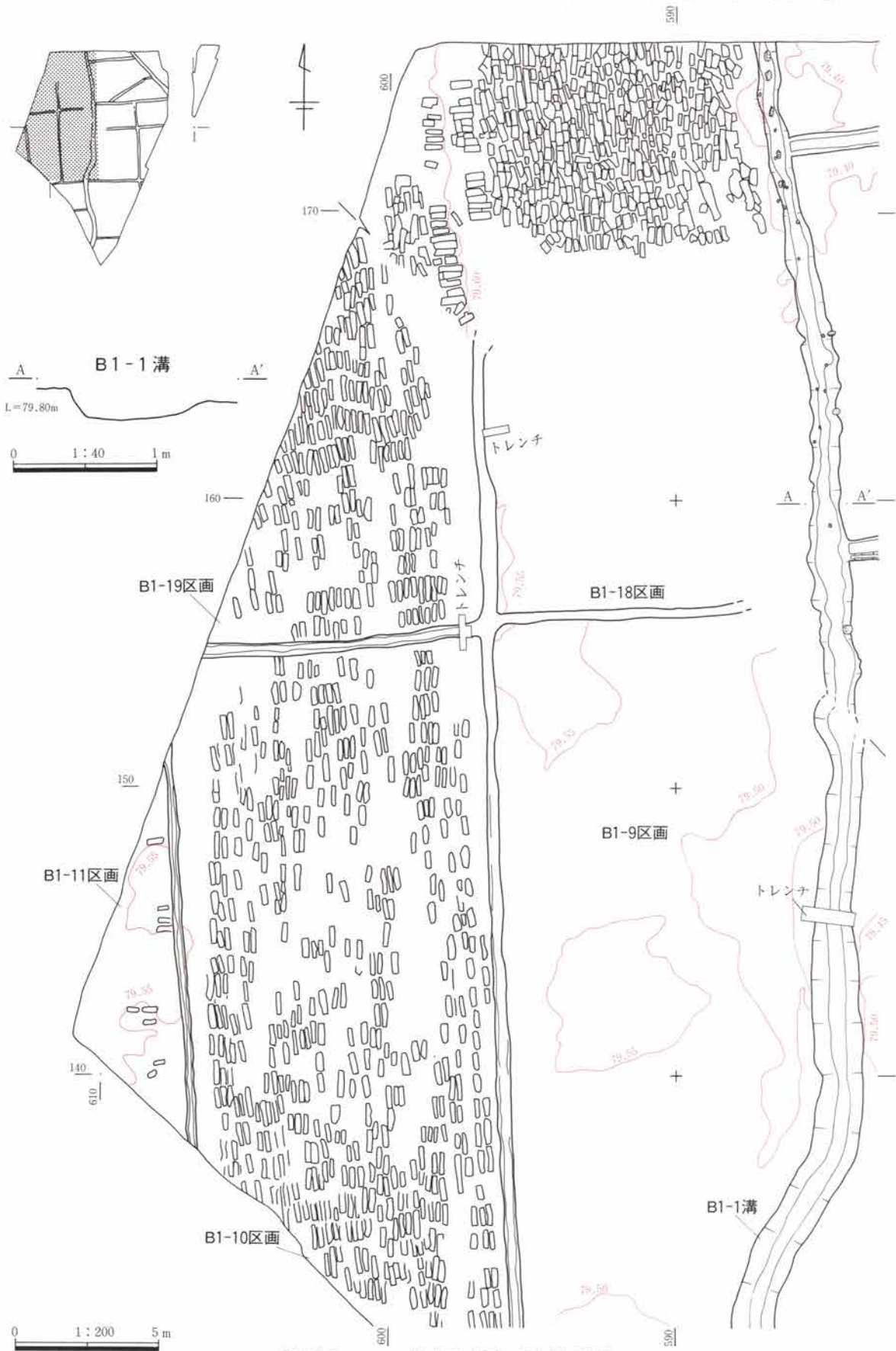
番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	—	6.7	N-4°-E	2	—	—	8.1	N-3°-E	3	—	—	13.0	N-2°-W
4	—	—	14.6	N-3°-W	5	611.9	43.2	15.2	N-88°-W	6	533.5※	37.1	14.6	N-88°-W
7	—	(15.3)	—	—	8	—	—	—	N-1°-W					



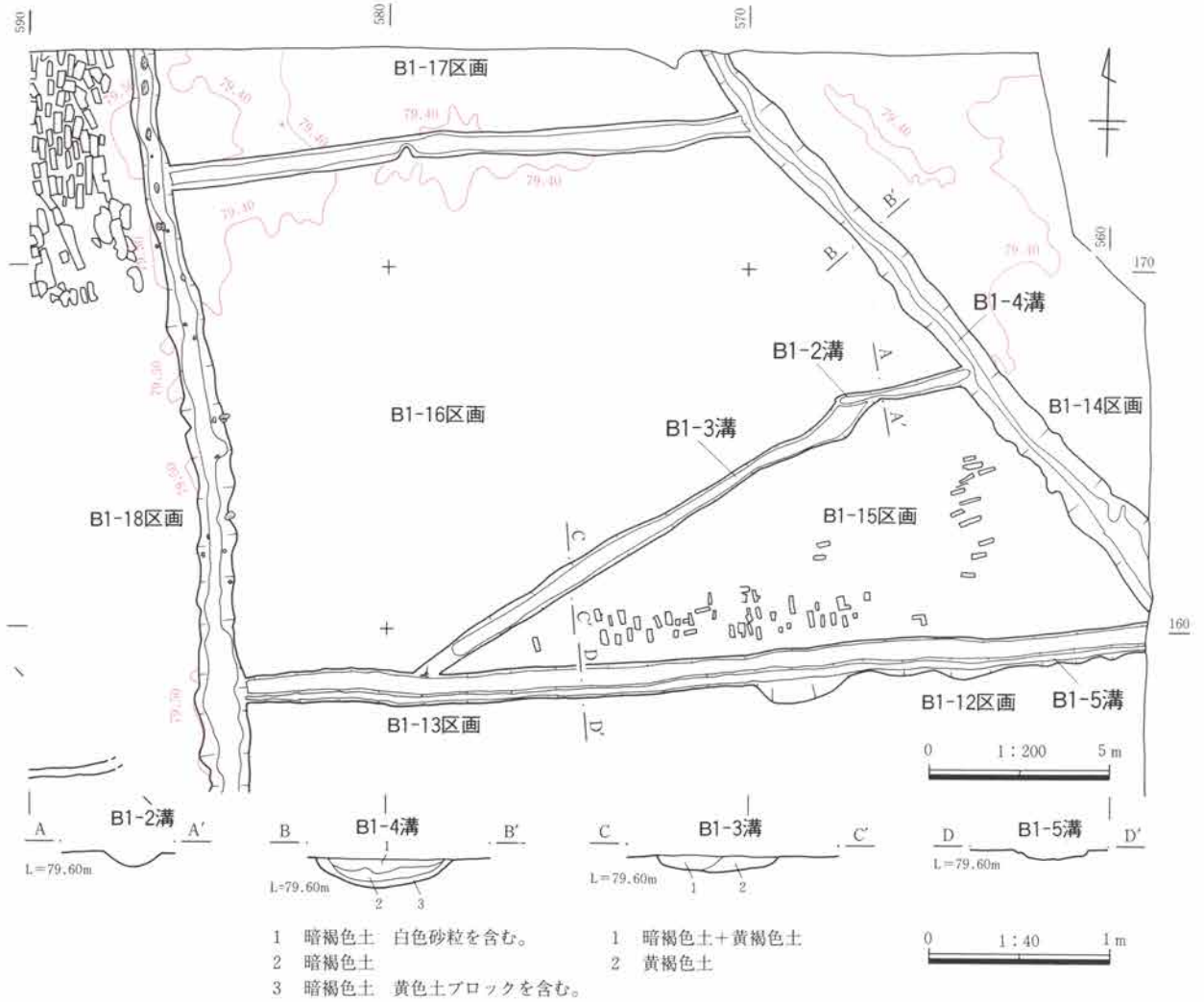
第9図 As-A混土下水田 A区南西部

第3章 各時代の調査

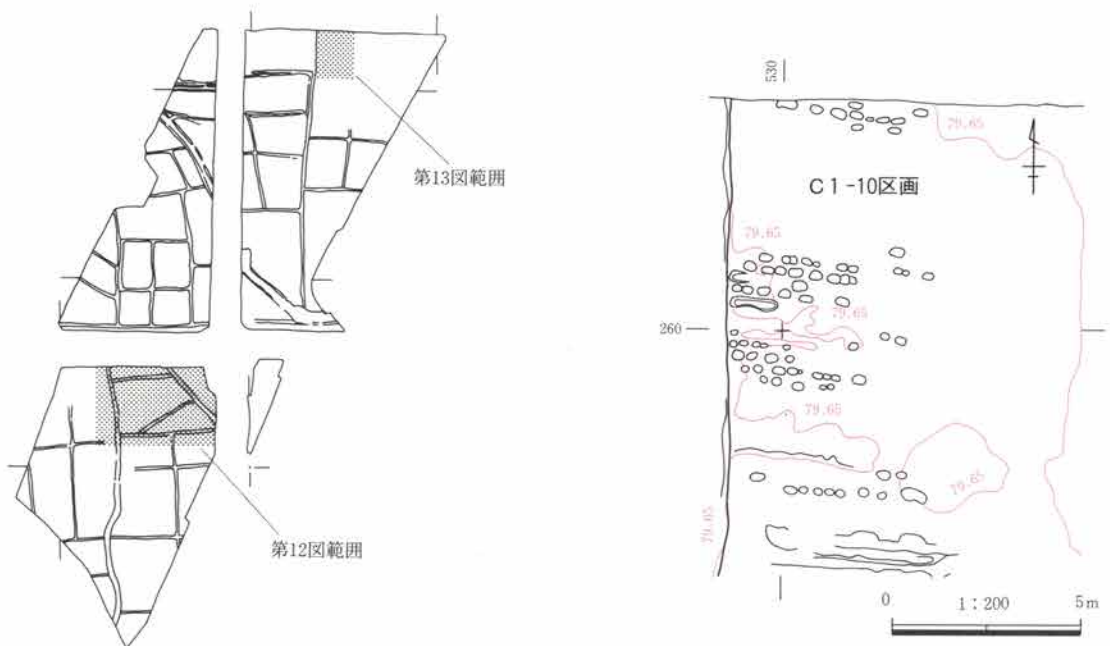




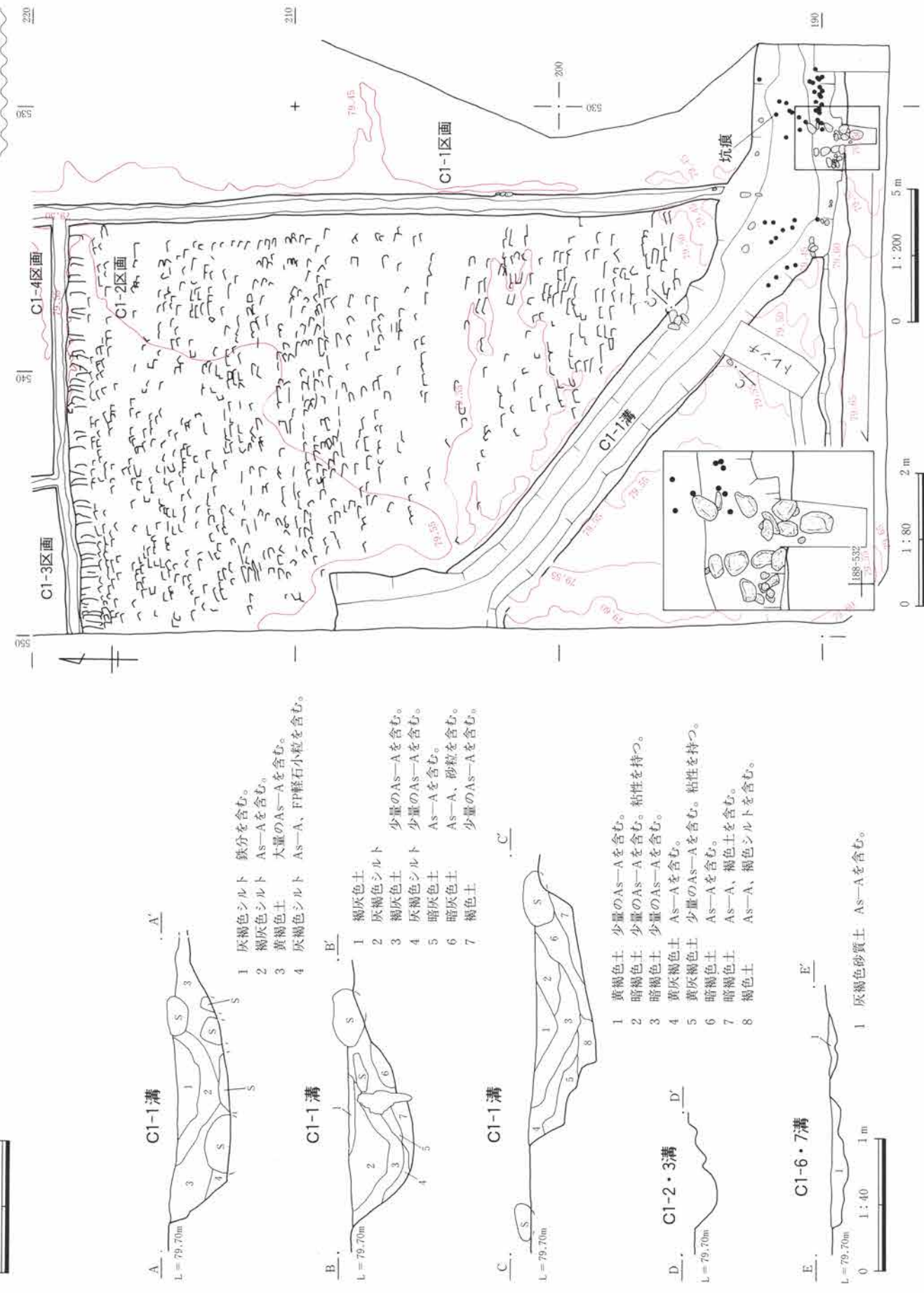
第11図 As-A 混凝土下水田 B区北西部



第12図 As—A混土下水田 B区北部



第13図 As—A混土下水田 C区北東部



- A-A
- 1 灰褐色シルト 鉄分を含む。
 - 2 褐灰色シルト As-Aを含む。
 - 3 黄褐色土 大量のAs-Aを含む。
 - 4 灰褐色シルト As-A, FP軽石小粒を含む。

- B-B
- 1 褐灰色土
 - 2 灰褐色シルト
 - 3 褐灰色土 少量のAs-Aを含む。
 - 4 灰褐色シルト 少量のAs-Aを含む。
 - 5 暗灰色土 As-Aを含む。
 - 6 暗灰色土 As-A, 砂粒を含む。
 - 7 褐色土 少量のAs-Aを含む。

- D-D
- 1 黄褐色土 少量のAs-Aを含む。
 - 2 暗褐色土 少量のAs-Aを含む。粘性を持つ。
 - 3 暗褐色土 少量のAs-Aを含む。
 - 4 黄灰褐色土 As-Aを含む。
 - 5 黄灰褐色土 少量のAs-Aを含む。粘性を持つ。
 - 6 暗褐色土 As-Aを含む。
 - 7 暗褐色土 As-A, 褐色土を含む。
 - 8 褐色土 As-A, 褐色シルトを含む。

- E-E
- 1 灰褐色砂質土 As-Aを含む。

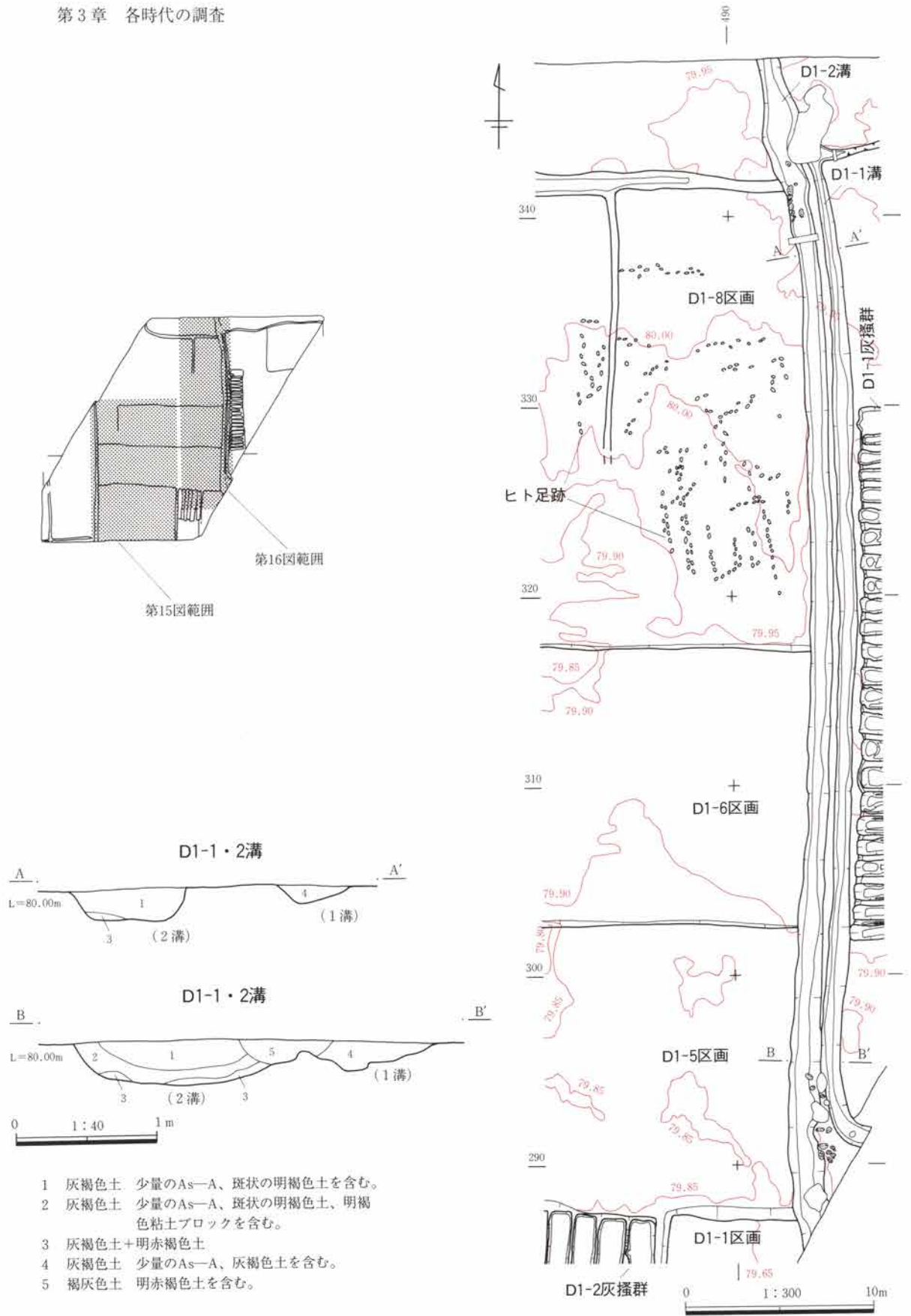
- F-F
- 1 黄褐色土
 - 2 灰褐色土 大量のAs-Aを含む。
 - 3 AS-A 二次堆積層。

第14図 As-A混土下水田 C区北部・南東部



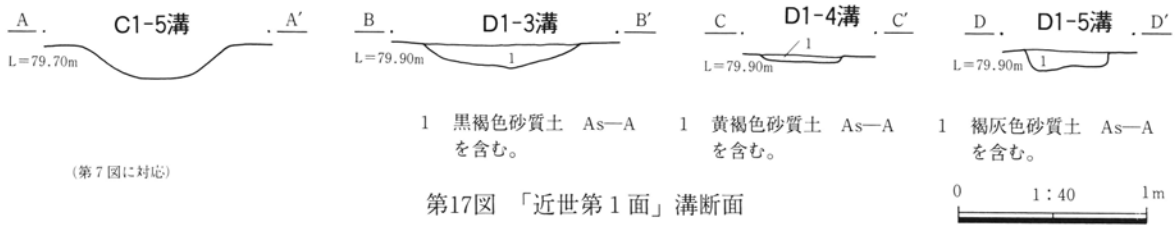
第15図 As—A混土下水田 D区南部

0 1:200 5m



第16図 As-A 混土下水田 D区北部～南東部

第2節 近世以降の遺構と遺物



第17図 「近世第1面」溝断面

②近世第2面水田(第18図 P L. 10・11)

B区北半で確認した。全体的に区画西から東に向かい低くなる階段状に造成されており、地形の傾斜に合わせたものと思われる。しかし、洪水で被災したためか、流水で浸食されたような状態であり、残存度は良好ではない。畦畔や段差、溝で区切られた部分を水田区画と捉えたと区画数は推定8を数えるが、完形のものではなく、水田として利用するには極めて不自然な形状を呈する部分も見られる。その他、各部分を観察すると、まずB3-4・8区画を区切る南北方向の段差状の畦畔には、東に一段下がったB3-8区画側に楕円形の礫が約1.5m間隔で並んでいる。これは、この畦畔を補強したものと思われる。また、この畦畔は「近世第1面」B1-1溝の直下にあり、これより西側のB3-2~4区画と同一1区画は、As-A混土水田のB1-18と同一19区画のそれぞれ直下に位置することが判った。この部分では同じ地割りを踏襲しながら、今までは畦畔であった位置に溝を設けたり、段差や溝をなくして一区画を造ったりした様子が窺える。

水田に伴う溝は2条である。B3-2溝は形状が不明瞭で、機能は特定できない。

B3-1溝B区北西隅の165-595G~175-595Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN-7°-W。確認長10.6m、幅52~80cm、深さ6~7cmで、断面は浅い皿状。

B3-2溝B区中央部から北部の135-565G~155-575Gに位置する。走向は、南部がN-0°、146-568G付近から北がN-41°-W。確認長22.6m、幅28~76cm、深さ12~27cmで、断面は浅い皿状。

【近世第2面水田 区画計測表】

①B区(B3-)

番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位
1	—	—	—	—	2	—	—	2.4	N-6°-W	3	—	—	—	—
4	—	—	7.7	N-6°-W	5	—	—	—	—	6	—	—	—	N-2°-W
7	—	—	—	N-27°-W	8	—	—	—	—					

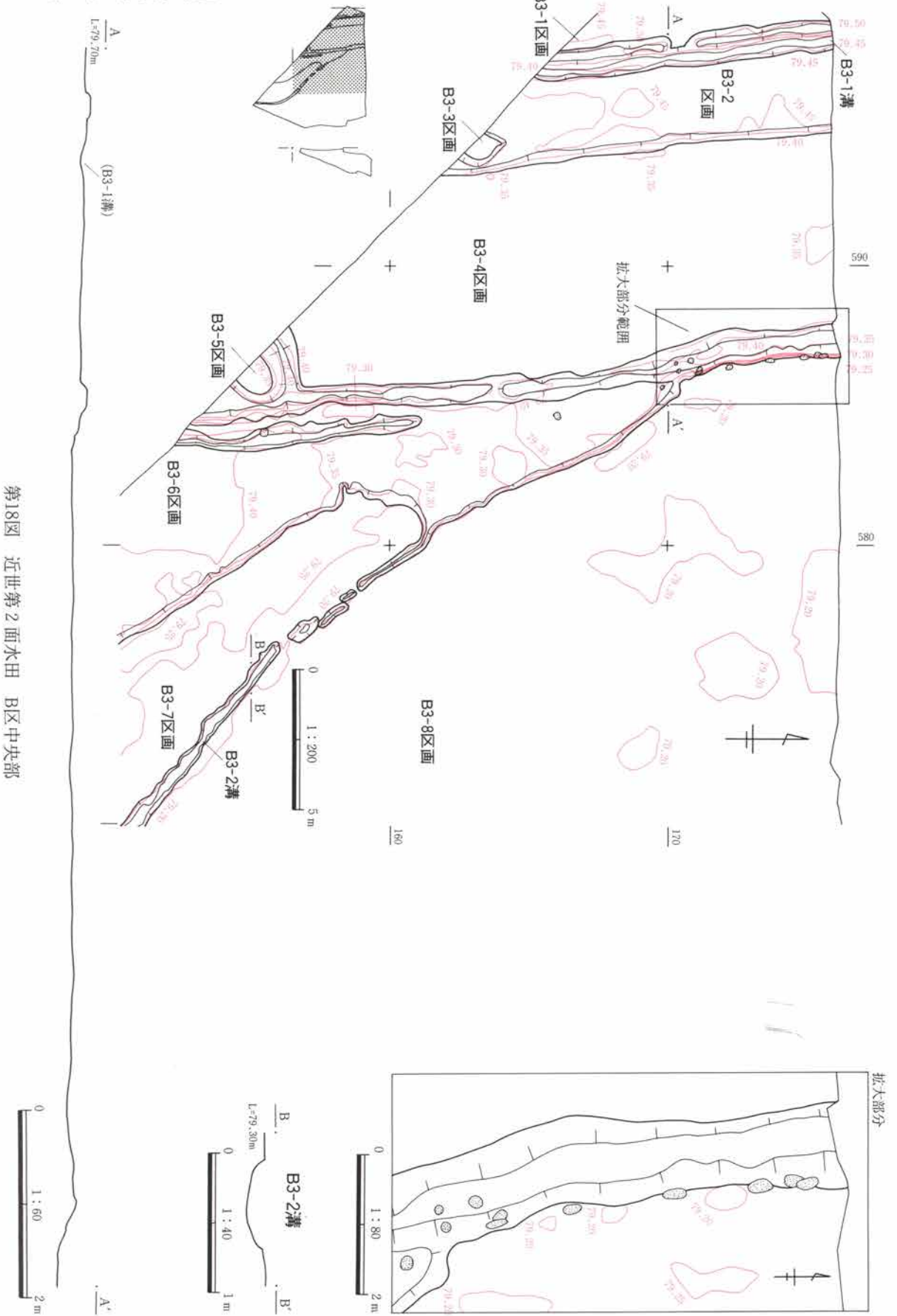
③その他の水田跡

Ⅲ層内の断面観察を行った結果、前述した以外の水田跡が存在する可能性が考えられた。まずB区北半の近世第2面水田より上位では、一部畦畔状の高まりが見られたが、面調査はできなかった。一方、このB区北半の「近世第2面」より下位、D区、E区では水田跡等を確認した。これらは面調査の結果、中世の所産と判断した。(本章第3節参照) またA区、B区南半、C区ではⅢ層内が砂質が著しく強く、面調査は行わなかった。しかし、東に隣接する「側道部」A区の東壁では畦畔状の高まりが確認された。従って、これらの区でもAs-A混土水田を遡り、近世から中世に相当する残存度の低い水田跡が存在したと思われる。

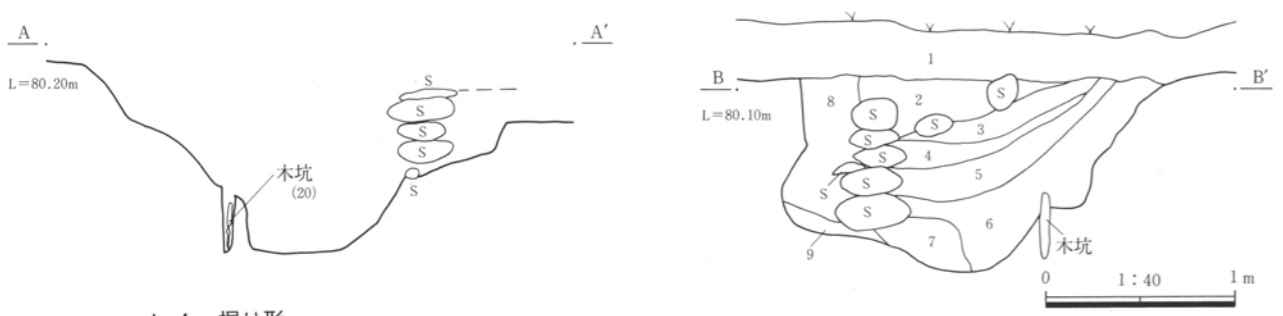
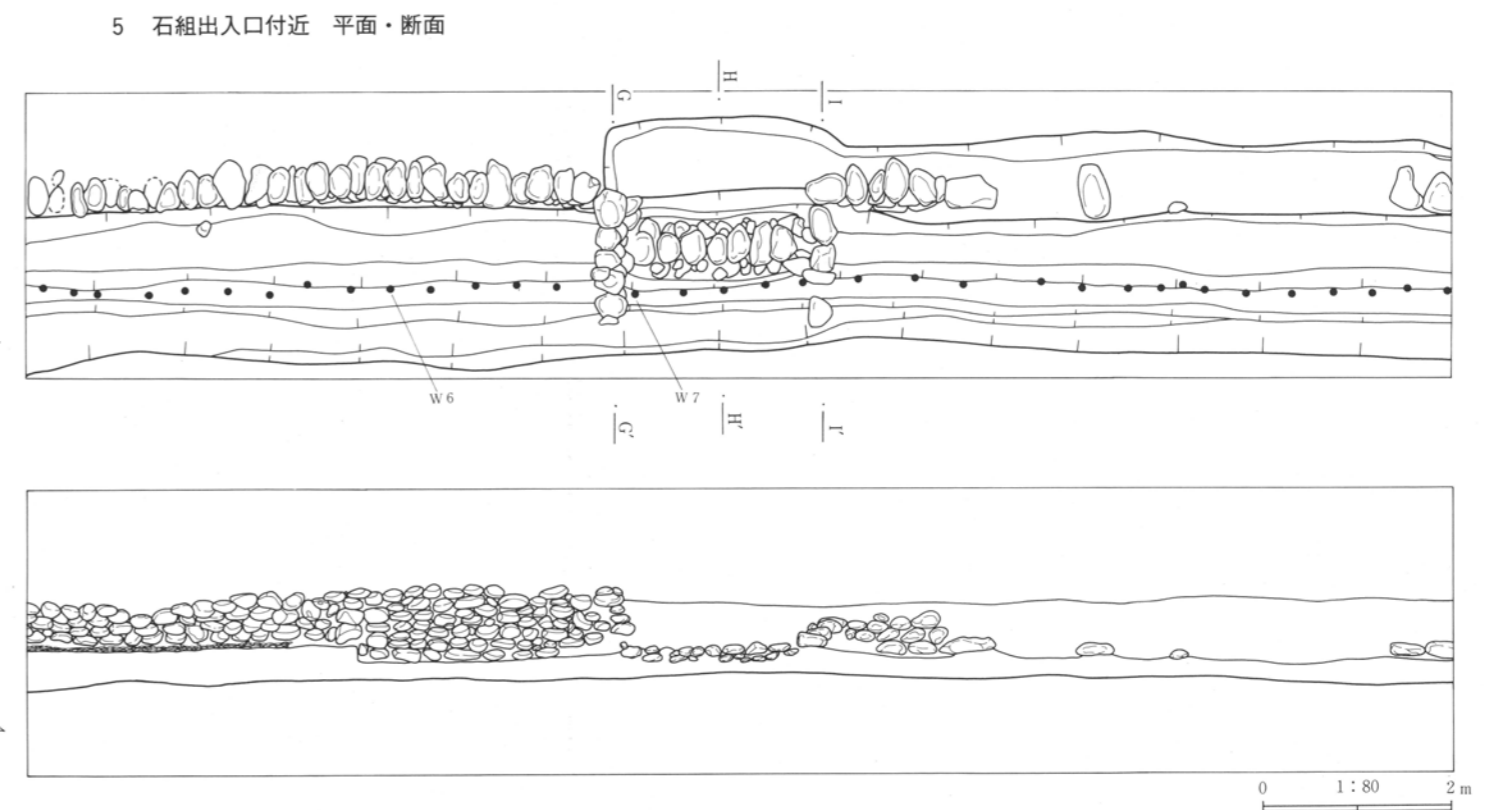
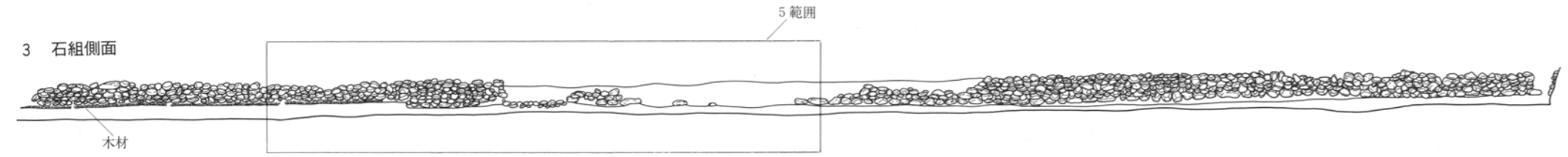
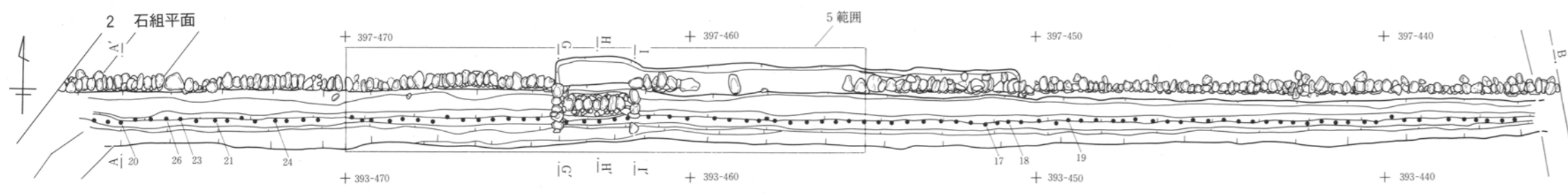
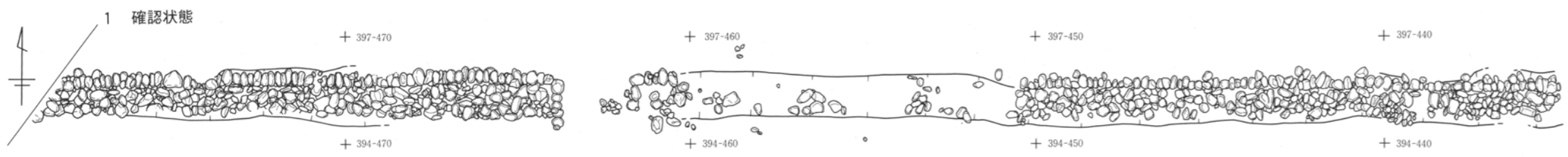
(2) 溝(第19・20図 P L. 11・12)

水田に伴う以外の溝は、「近世第1面」のE区で6条を確認した。

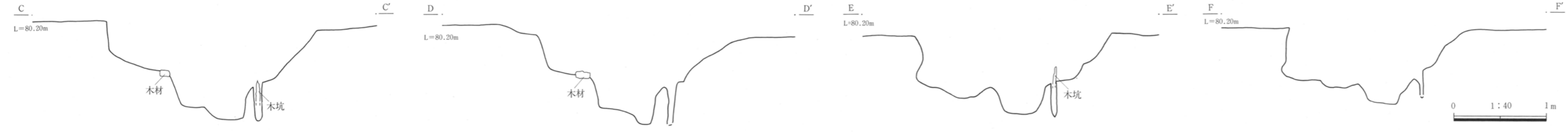
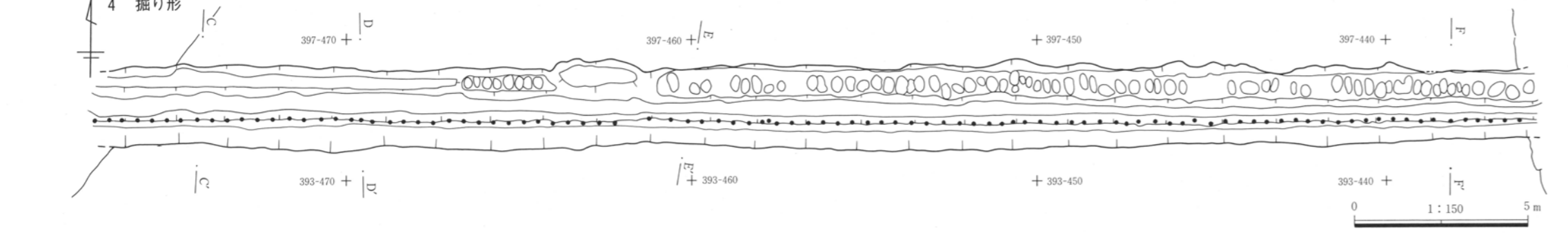
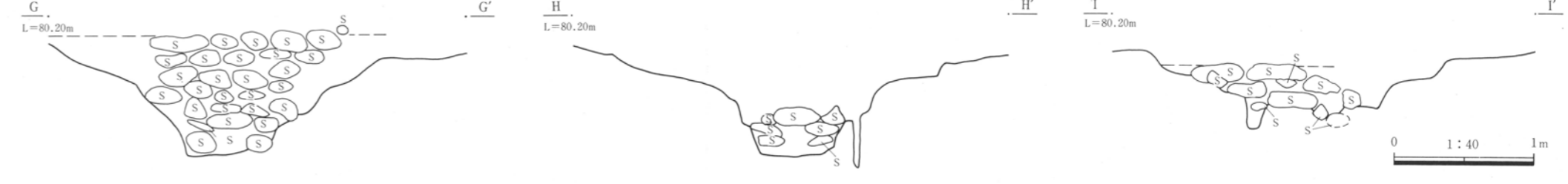
このうちのE1-1溝は直線的に東西走する大規模なものである。As-A混土を除去した段階では、礫が東西方向に直線的に並んでいる状態を確認した。その後、トレンチを設定し調査したところ、この石列を



第18図 近世第2面水田 B区中央部



- 1 表土
- 2 暗褐色砂質土 軽石を含む。
- 3 灰褐色砂質土
- 4 黒褐色砂質土
- 5 黒褐色砂質土 粘性を持つ。
- 6 灰褐色砂質土 軽石を含む。
- 7 灰褐色砂質土
- 8 灰褐色砂質土 少量の軽石を含む。
- 9 明黄褐色土



第19図 E1-1溝

北辺とする溝のプランを確認し、埋土内に大量の礫が残存していることも判った。これらの礫を除去し精査した結果、溝北岸に石組みの一部を確認した。当初、石列と見られていた部分はこの石組みの先端部に当たる。さらに、この溝の西部には出入口（橋）と思われる構造を確認した他、南岸には護岸用と思われる木杭やその痕跡が残存していた。

以上のような状態から、この溝は屋敷を区画した周濠である可能性が極めて高い。溝を埋めていた大量の礫はこの石組みが崩壊したものとされる。実際の建物跡は確認できなかったが、この溝北側が屋敷の内部、南側が外部と考えられる。

また、E1-2～4溝はこの屋敷の内部に位置することになる。このうちE1-2・4溝はそれぞれ井戸と接続しており、井戸からの配水のために使用されたと思われる。

一方、E1-5・6溝は直線的にほぼ南北走している。E1-1溝との位置関係からは前述した屋敷に関連していた可能性は低い。また、走向から水路とも考えられるが、この付近で水田区画は確認されていないために断定はできない。

なお、これらの溝はいずれも埋土にAs-Aを含んでおらず、天明三年以前の掘削、廃絶が考えられる。それぞれの新旧関係は不明であるが、このうちのE1-2・3溝は埋土の状態が同様であることではほぼ同時期のものと思われる。

E1-1溝 調査区北部から北西端の390・395—435G～390・395—475Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—90°。確認長37.7m、幅90～200cm、深さ80～86cmである。断面は両岸に段差を持つ逆台形である。

北壁に明瞭な中段を持ち、中央の一部を除き上部に石組みが残存する。径約40cm程度の楕円形の礫を用い、残存の良い部分では最高で7～8段に積んでいる。北壁との隙間には、いわゆる「裏込め」とされる土層が見られる他、西側の底部には木製板が残存する。それぞれこの石組みを補強したものとされる。また、中央部やや西の390—460G～390—465Gには、東西幅約2mの出入口（橋）と思われる構造がある。両側に6～7段の石組みを設ける他、溝底部の南北両岸に沿いやや小型の礫を2段に積み、その上を大型の礫で蓋を被せて暗渠を造っている。一方、南壁にも緩やかな中段が数段あり、護岸目的と思われる木杭を約40～50cm間隔で打ち込む。しかし、「矢板」と呼ばれる護岸用の横板は見つからなかった。

陶磁器類の破片多数の他、青磁器、土器の破片や大型の石製品が出土。

E1-2溝 E区北部から北西端の400—453G～400—470Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—90°。確認長37.6m、幅48～100cm、深さ36～84cmで、断面は深い逆台形。西端がE1-3井戸と接続。この井戸からの配水に使用されたか。

E1-3溝 E区北部から北西端の400—453G～400—470Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—90°。確認長35.6m、幅20～44cm、深さ55～78cmで、断面は深い逆台形。陶器、土器の破片が出土。

E1-4溝 E区北部から北西部の405—445G～405—460Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—90°。確認長19.4m、幅17～46cm、深さ4～14cmで、断面は浅い皿状。東端でE1-2井戸と接続。この井戸からの配水に使用されたか。

E1-5溝 E区北東部の385—415・420G～405—420Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—8°—W。確認長18.7m、幅36cm。

E1-6溝 E区北東部の390—415G～405—415Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—11°—W。確認長15.1m、幅22cm。

第3章 各時代の調査

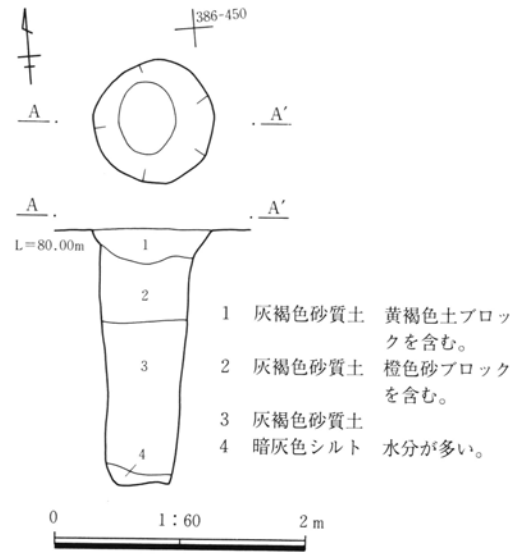
(3) 井戸 (第20・21図 P.L. 13)

「近世第1面」のE区で3基を確認した。いずれも木枠や石組みはなく素掘りの井戸と思われる。このうちのE1—2・3井戸はそれぞれ東西走る溝と連続した状態である。

E1—2井戸 E区北東隅の405—440・445Gに位置する。安全対策工事のため全形は不明であるが、長径2.79m、短径2.52mの円形か。西側でE1—4溝と連続。遺物は陶磁器や瓦の破片の他、ガラス製品も出土。近現代まで使用されたか。

E1—3井戸 E区北西隅の390—435Gに位置する。大部分が調査区外に掛かり、全形は不明。長径2.85m、短径2.57mの円形か。東側でE1—2溝と連続。

E1—15井戸 E区中央部の385—450G上に位置する。長径0.98m、短径0.94m、深さ2mの円形で、長径方位はN—15°—E。断面は円筒形。



第20図 E1—15井戸

(4) 土坑 (第22・23図 P.L. 13・14)

土坑は、「近世第1面」のE区で16基を確認した。E1—1土坑以外はいずれもE1—1溝より南、即ち屋敷外部にある。このうちE1—4～11土坑はこの溝の南岸に沿って並んでいる。加えてE1—12～18土坑は長径方位が南北または東西を示す隅丸長方形ないしは楕円形で、規模も同程度のものが多い。

これらの方向性からは水田区画などに関連する可能性も窺えるが、具体的に水田跡が確認されていないため詳細は不明である。

また、E1—18土坑は小動物の骨が残存しており、家畜を葬ったものと思われる。

E1—1土坑 E区北西隅の405—460Gに位置する。長径1.04m、短径0.93m、深さ17cmの不整形円で、長径方位はN—85°—E。断面は浅い箱形。比較的残存の良い陶器四方鉢、その他土器の破片が出土。

E1—4土坑 E区北東部の390—435Gに位置する。長径1.47m、短径0.7m、深さ8cmの長楕円形で、長径方位はN—86°—E。断面は浅い皿状。

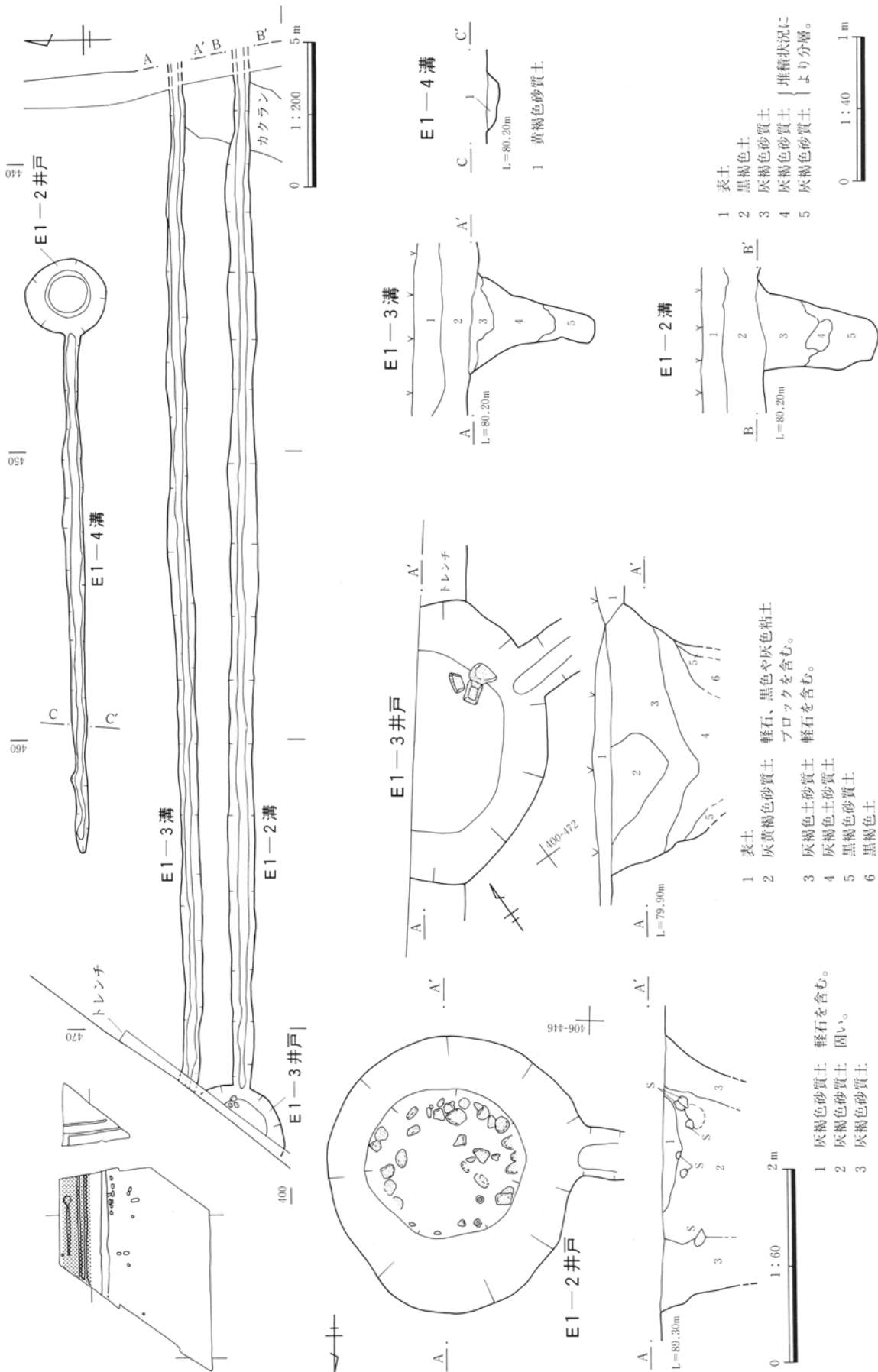
E1—5土坑 E区北東部の390—435・440Gに位置する。長径1.87m、短径0.75m、深さ5cmの隅丸長方形で、長径方位はN—89°—W。断面はごく浅い皿状。

E1—6土坑 E区北東部の390—440Gに位置する。長径1.53m、短径0.53m、深さ5cm隅丸長方形で、長径方位はN—89°—E。断面は浅い皿状。

E1—7土坑 E区北東部の390—440Gに位置する。長径1.53m、短径0.67m、深さ3cmの隅丸長方形で、長径方位はN—4°—W。断面は浅い皿状。

E1—8土坑 E区北東部の390—440・445Gに位置する。長径1.5m、短径0.56m、深さ5cmの隅丸長方形で長径方位はN—89°—E。断面は浅い皿状。

E1—9土坑 E区北東部の390—440・445Gに位置する。長径2.02m、短径0.59m、深さ6cmの隅丸長方形で長径方位はN—89°—E。断面は浅い皿状。



第21図 「近世第1面」 E区北部

第3章 各時代の調査

E1—10土坑 E区北東部の390—445Gに位置する。長径1.14m、短径0.75m、深さ10cmの隅丸長方形で、長径方位はN—82°—W。断面は浅い皿状。

E1—11土坑 E区北東部の390—445Gに位置する。長径1.55m、短径0.75m、深さ8cmの隅丸長方形で、長径方位はN—82°—W。断面は浅い皿状。

E1—12土坑 E区東部の385—440Gに位置する。長径1.65m、短径0.91m、深さ46cmの隅丸長方形で、長径方位はN—83°—W。断面は壁面と底面が連続する掘り鉢状。

E1—13土坑 E区東部の385—440Gに位置する。長径1.31m、短径0.75m、深さ12cmの歪んだ隅丸長方形で、長径方位はN—76°—Wを示す。断面は浅い皿状。

E1—14土坑 E区東部の385—445上に位置する。長径2.9m、短径1m、深さ8cmの隅丸長方形で長径方位はN—8°—Wである。断面は浅い皿状を呈する。

E1—16土坑 E区中央部の385・390—460Gに位置する。長径1.7m、短径0.64m、深さ18cmの長楕円形で、長径方位はN—13°—W。断面は皿状。

E1—17土坑 E区中央部の385—460Gに位置する。長径2.01m、短径0.89m、深さ15cmの隅丸長方形で、長径方位はN—11°—W。断面は浅い皿状。

E1—18土坑 E区中央部の385—460Gに位置する。長径1.52m、短径0.69m、深さ22cmの長楕円形で、長径方位はN—12°—E。断面は壁面と底面が連続する掘り鉢状。

E1—19土坑 E区西部の380—480Gに位置する。長径0.66m、短径0.48m、深さ7cmの長楕円形で、長径方位はN—13°—W。断面は浅い箱形。小動物の骨が残存。

(5) 「灰掻き穴」(第24図 P L. 15~17)

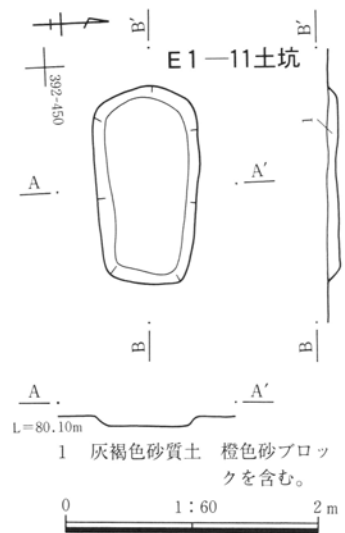
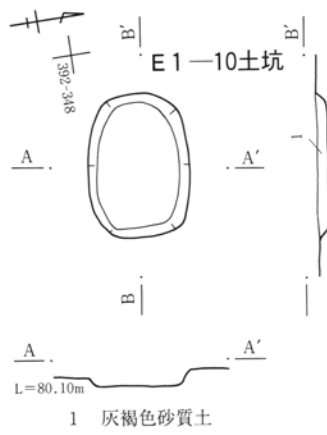
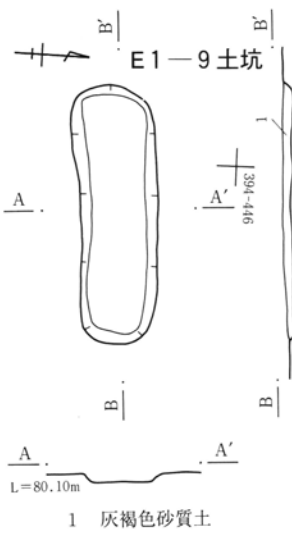
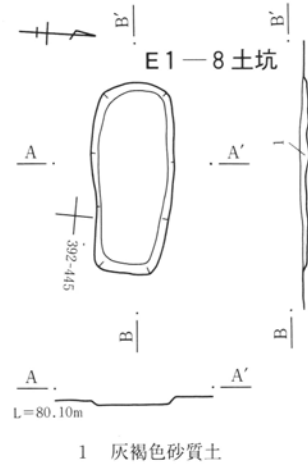
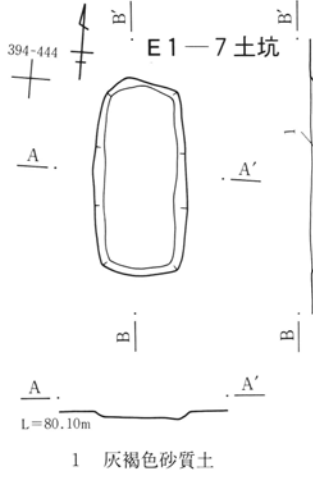
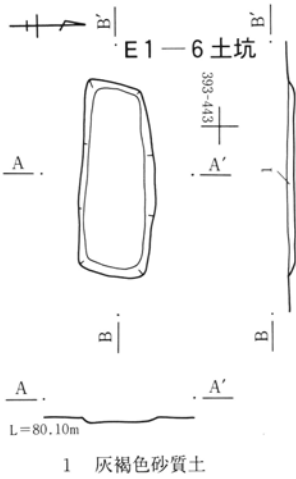
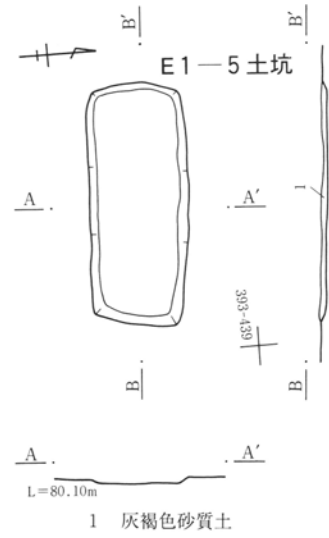
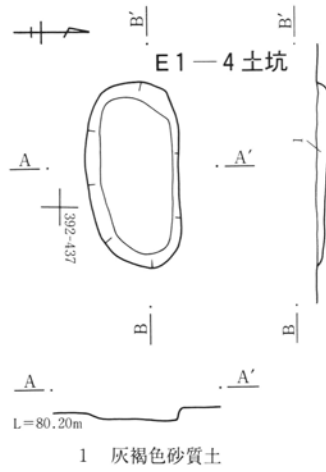
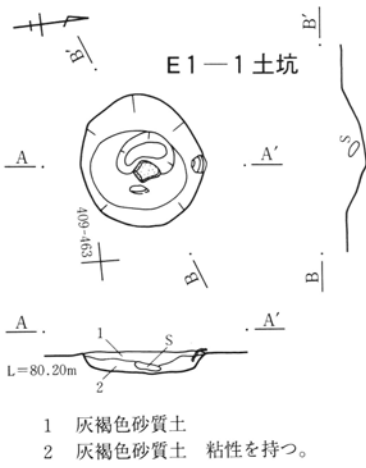
「近世第1面」のC区、D区で確認した。C区では1基のみであるが、D区では複数の土坑が連なった状態のものを2カ所で確認した。埋土はいずれも大量のAs—Aである。これは天明三年の浅間山噴火時に耕地に降り積もったAs—Aを地中に埋めて処理した、いわゆる「灰掻き(穴)」と呼ばれるものである。断面からは、土坑にAs—Aを埋め込んだ後に土坑に蓋をした様子も窺える。

As—Aの処理の仕方について、本遺跡周辺では耕地の隅に集めて山にする方法や土坑や溝を掘って地中に埋める方法が民俗事例として伝わっているが、実際にそのうちの一つが確認できたことになる。

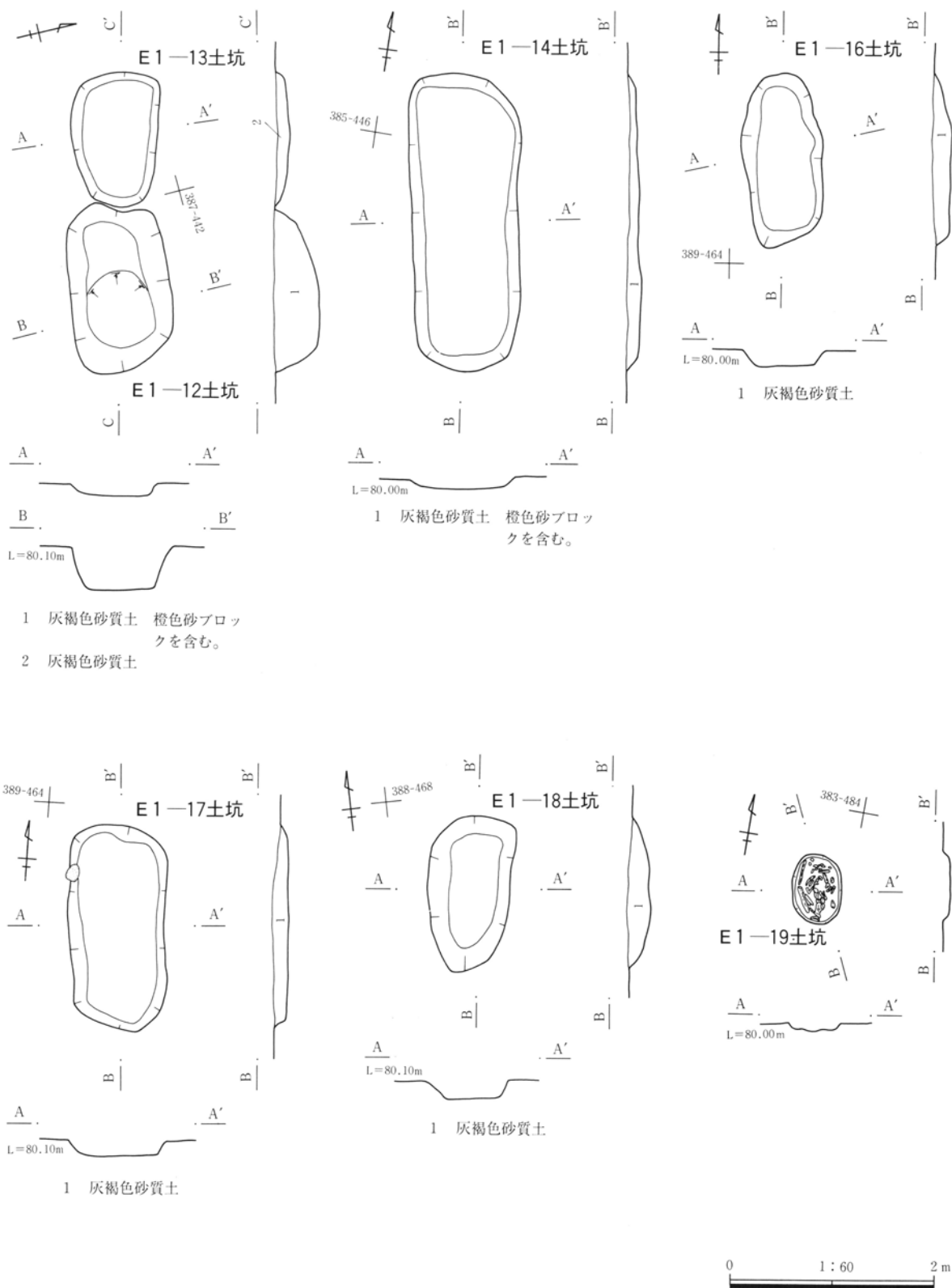
C1—1灰掻き C区中央部の240—530G~240—545Gに位置する。長径15.4m、短径0.62m、深さ48cmの東西に長い長方形で、長径方位はN—90°。断面は箱形。陶磁器の破片が出土。

D1—1灰掻き群 D区東部から北部の300—475・480G~325—475・480Gに位置する。長径方位N—90°の細長い長方形の土坑24基が、南北約28mにわたり並ぶ。各土坑の規模は長径0.41~0.52m、短径0.8~1.1m、深さ11~51cmで、断面は箱形。全体が浅かったり、一部分を深く掘り込んだりするものも多い。南側の土坑の間には農具痕と思われる凹凸が残存。陶磁器や土器の破片が出土。

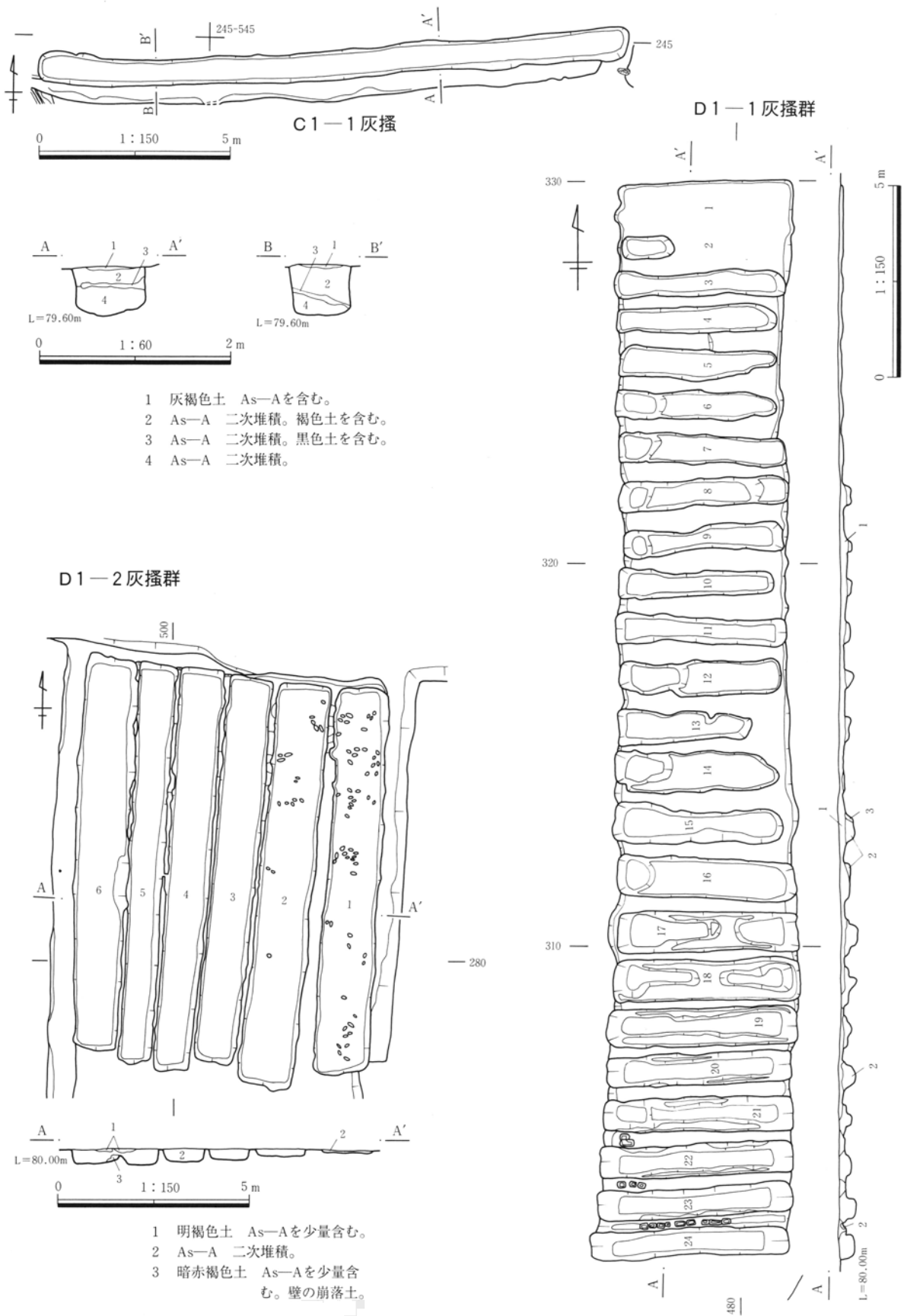
D1—2灰掻き群 D区南東部の275—490・500G~285—490・500Gに位置する。長径方位N—0°の細長い長方形土坑6基が、東西約8mにわたり並ぶ。各土坑の規模は長径10.2~10.9m、短径0.8~1.2m、深さ4~40cmで、西側の土坑ほど深くなる。断面は逆台形から箱形。東側の2基には人間の足跡が残存。陶磁器や土器の破片が出土。



第22図 「近世第1面」土坑(1)



第23図 「近世第1面」土坑(2)



第24圖 「近世第1面」灰搔穴・灰搔穴群

第3章 各時代の調査

3. 遺物

この時代の遺物としては、陶磁器、土器等の破片が大量に出土している。器種も碗、皿、鉢、播り鉢その他多岐にわたっている。その他、銭貨やキセルなどの金属製品、火打ち石や大型の石製品も見られる。

(1) 「近世第1面」溝出土遺物

①A1-1 溝出土遺物 (第25図 P L. 79)

1は陶器碗である。底部片で、底(5.0)cm。内面に鉄釉。外面は無釉。瀬戸・美濃系。

②A1-2 溝出土 (第25図 P L. 79)

1は陶器片口鉢である。体部から底部片で、底(11.0)cm。鉄分の多い灰釉。高台脇以下は無釉。瀬戸・美濃系。18Cか。

③B1-1 溝出土遺物 (第25図 P L. 79)

1～3は碗類である。

このうち、1は磁器で口縁部から下体部片。口(9.4)cm。焼成不良。肥前系。

また、2～3は陶器。2は口縁部から上半部片。口(11.0)cm。飴釉。口縁部に藁灰釉。「尾呂茶碗」。瀬戸・美濃系。18C。3は底部片。底4.0cm。高台以下は無釉。焼成不良。製作地不詳。江戸時代。

4は陶器土瓶の底部片である。底9.9cm。外面に鉄釉。体部と外底は、釉を削り取る。製作地不詳。19C中以降。

5は陶器瓶の頸部片である。耳は一对。灰釉。下半に青緑色の釉。瀬戸・美濃系。18C。

6は陶器練り鉢の底部片である。底(15.2)cm。非常に浅い蛇の目高台。内面に灰釉。目痕2カ所残る。瀬戸・美濃系。19C。

7は火打ち石である。長2.9cm、厚1.8cm、重5g。使用痕は軽微。瑪瑙。

④B1-3 溝出土遺物 (第25図 P L. 79)

1はキセルの吸い口である。径1.1cm。内部に「羅字」片が残存。

⑤C1-1 溝出土遺物 (第25・26図 P L. 79・80)

1～6は碗類である。

まず、1～2は磁器。1は口縁部から下体部片。口(8.0)cm。制作地不詳。近代以降。2は筒型碗の底部片。底4.3cm。大型で、高台部周辺に鋸歯状文。見込みに五弁花。肥前系。

また、3～6は陶器で、下体部から底部片。4は肥前系、他は瀬戸・美濃系。3は底5.0cm。内面に飴釉。4は底(4.9)cm。陶胎染付。抉り緩い。5は底5.2cm。鉄分を多く含む灰釉。高台脇以下は無釉。18C。6は底4.8cm。内面から外面下体部に飴釉。無釉部に鉄化粧。18C。

7～11は皿である。

まず、7・8は磁器で、口縁部から底部片。ともに制作地不詳。近代以降。7は1/8残存で口(13.7)cm、底(7.4)cm、高2.0cm。8は口(15.8)cm、底(8.0)cm、高3.1cm。

また、9～11は陶器で底部片。9は底(4.0)cm。内面に鉄化粧による文様。高台内を深く削る。胎土は青灰色。肥前系。18C前～中。10は底5.3cm。楕円形もしくは木瓜形。高台端部を除き灰釉。「呉須摺絵皿」。いわゆる「御深井」。瀬戸・美濃系。17C中～後か。11は底(7.8)cm。全面に灰釉。瀬戸・美濃系。17Cか。

12は磁器徳利の下体部から底部片である。底4.7cm。銅板プリント。制作地不詳。明治以降。

13は陶器香炉の口縁部片である。口(11.0)cm。外面に丸ノミによる文様が一部残存。瀬戸・美濃系。18C後。

14～19は鉢・播り鉢類である。

このうち14～17は播り鉢。14・15は焼締陶器。14は口縁部から体部片で、口(32.0)cm。播り目は6本一単位。17C後。丹波系。15は底部片で、底(16.0)cm。制作地不詳。16・17は陶器。16は底部片。底(22.0)cm。制作地不詳。17は口縁部片。益子・笠間系。明治以降。

また、18は陶器練り鉢の口縁部片。口縁部を外方に折り返す。灰釉。外面に銅緑釉を流す。瀬戸・美濃系。明治以降。19は陶器鉢の底部片。内面に鉄絵。瀬戸・美濃系。17C。

20は土管の接続部か。近代以降。

21～22は金属製品である。21は用途不明。幅1.3cm、厚0.5cm。長方形か。22は煙管の吸い口。長12.5cm、径1.1cm、重27g。内部に「羅字」片が残存。

23は火打石。長2.9cm、厚2.2cm、重13g。石英。

⑥C1—2 溝出土遺物 (第27図 P L. 81)

1は磁器碗の口縁部から底部片である。1/5残存で、口(7.0)cm、底(4.0)cm、高5.2cm。円筒形碗。焼成不良。肥前系。18C後～19C前。

2は火打石である。長5.0cm、厚2.2cm、重25g。石英。

⑦D1—1 溝出土遺物 (第27・28図 P L. 81)

1～6は碗類である。

まず、1は磁器「湯飲み」。完形で、口7.3cm、底3.2cm、高5.0cm。外面は海浜風景を筆と吹墨で描く。製作地不詳。昭和。

また、2～6は陶器。2・3は下体部から底部片。2は、底(3.7)cm。内面から高台脇に灰釉。内底に目痕一カ所残存。製作地不詳。西日本産。18C。3は底(5.4)cm。陶胎染付。肥前系。4～6は底部片。4は、底(5.8)cm。内面に飴釉。外面に鉄化粧。瀬戸・美濃系。18C。5は底5.4cm。内面に飴釉。外面に鉄化粧。瀬戸・美濃系。18C。6は底5.2cm。高台内は挟り緩い。「なまこ器手碗」。肥前系。18C前～中。

7～9は皿である。

まず、7は磁器で口縁部から底部片。1/4残存で、口(13.3)cm、底(6.6)cm、高3.0cm。内底は蛇の目釉はぎ、中央にコンニャク判による五弁花。肥前・波佐見系。18C後。

また、8・9は陶器。8は「菊皿」の口縁部から底部片。1/6残存で、口(10.6)cm、底(5.0)cm、高2.1cm。体部内面に丸ノミにより菊花を削る。瀬戸・美濃系。大窯4期。16C後半。9は「馬の目皿」の口縁部から体部片。口(27.0)cm。瀬戸・美濃系。19C以降。

10は磁器香炉の口縁部から底部片である。1/2残存で、口9.8cm、底4.4cm、高4.2cm。口縁部から高台脇に施釉。外面に海浜風景を染付。肥前系。18C後～19C前。

11は陶器乗燭の脚部片である。底4.0cm。外面に鉄釉。脚部底、右回転糸切り。瀬戸・美濃系。江戸時代。12は陶器土瓶の蓋の破片である。1/3残存で、径11.8cm。「山水土瓶」。益子・笠間系。明治以降。

13～17は鉢・播り鉢類である。

このうち、13～15は陶器鉢。いずれも瀬戸・美濃系。13・14は片口鉢の底部片。13は底(9.0)cm。内面から高台脇に飴釉。内底に目痕1カ所残存。18C。14は底(11.0)cm。内面から高台脇に灰黄褐色釉。江戸時代。15は鉢の底部片。底(12.4)cm。内面から高台脇に灰釉。内底に目痕4カ所残存。17C～18C。

また、16・17は焼締陶器播り鉢。16は口縁部片。口(28.0)cm。器壁厚い。播り目は粗い。製作地、時期不詳。17は底部片。内底に交差櫛目。堺・明石系。

第3章 各時代の調査

18～20は土器焙烙の口縁部から底部片である。在地系。19C中以降。18は口(33.4)cm。口縁部は短く丸底。19・20は口縁部は短く内湾。丸底。19は口(33.2)cm。20は口(39.0)cm。

21～23は金属製品である。21はキセル雁首。胴部径(1.1)cm。22は角釘か。厚0.3cm。23は鎌か。厚0.4cm。24～28は石製品である。24は蠟石か。長3.5cm、径0.7cm、2.0g。25～28は砥石である。流紋岩。25は短2.2cm、厚0.4～0.8cm。26は厚0.6～1.5cm。27は短3.3cm、厚0.8～1.7cm。28は短2.5cm、厚1.2～2.3cm。

⑧D1—2 溝出土遺物 (第28図 P L. 82・83)

1・2は磁器碗類である。1は端反碗の蓋。1/3残存で、径(8.8)cm。瀬戸・美濃系。19C中。2は小碗の口縁部から体部片。口(8.1)cm。外面に銅板プリント。瀬戸・美濃系。明治以降。

3は磁器皿の口縁部から底部片である。1/5残存で、口(8.4)cm、底(4.8)cm、高2.0cm。白磁。内底に押圧による文様。製作地不詳。19C中。

4・5は陶器灯明皿の口縁部から体部片である。外面は回転ヘラケズリ。口縁部外面に油が付着する。製作地不詳。明治以降。4は1/2残存で、口8.7cm、底3.4cm、高1.7cm。5は1/4残存で、口(11.4)cm、底(5.0)cm、高2.1cm。

6は土器焙烙の口縁部から底部片である。口(36.0)cm、底(32.0)cm、高5.5cm。在地系。江戸時代。

7は寛永通宝である。直径2.50cm、内径2.00cm、穿径0.6cm、厚0.1cm、重2.5g。「文銭」。

8は砥石である。短3.0cm、厚1.4～2.0cm。流紋岩。

⑨D1—3 溝出土遺物 (第29図 P L. 83)

1・2は碗である。1は磁器で口縁部から底部片。口(6.3)cm。口鏝。外面に赤色上絵。製作地不詳。明治時代以降。2は陶器で下部から底部片。底(5.8)cm。京焼風。瀬戸・美濃系か。18C。

3は陶器皿の口縁部から下部部片である。口(13.0)cm。灰釉。外面体部下端は無釉。瀬戸・美濃系。17Cか。

4は陶器乗燭の底部から台部片である。底3.8cm。器壁が厚い。内面に鉄釉。瀬戸・美濃系。19C。

5は磁器鉢の口縁部から底部片である。1/3残存で、口(16.2)cm、底(7.4)cm、高5.5cm。口縁部に呉須。内面に緑の下絵と白土、各色で文様を描く。製作地不詳。明治以降。

⑩E1—1 溝出土遺物 (第29～32図 P L. 83～85)

1～7は碗類である。

このうち1～3は磁器。肥前系。1は口縁部から下部部片。口(10.6)cm。白磁。18C～19C。2・3は底部片。2は底(4.0)cm。高台内部に不明銘。外面に雪輪文が一部残存。器壁は厚い。18C中～後。3は底4.6cm。外底に「渦福」文。外面にコンニャク判による桐文。18C前～中。

また、4～7は陶器。4は口縁部から底部片。1/3残存で、口(10.5)cm、底5.6cm、高7.3cm。飴釉。高台脇以下に鉄化粧。口縁部に藁灰釉。瀬戸・美濃系。18C前～中。5～7は底部片。5は底(4.7)cm。高台内に「清水」銘か。京焼風。肥前系。17C中～後。6は底(5.8)cm。高台径が大きい。飴釉。高台脇以下は無釉。内面一部に藁灰釉。瀬戸・美濃系。17C後～18C前。7は底(4.6)cm。陶胎染付。肥前系。17C後～18C前。

8・9は皿の下部から底部片である。8は陶器。底(15.6)cm。鉄絵。瀬戸・美濃系。17C。9は磁器。底(11.6)cm。鉢の可能性もある。肥前系。18C。

10・11は陶器耳壺である。瀬戸・美濃系。江戸時代。10は口縁部から体部片。口(10.5)cm。11は耳部片。

12は用途不明金属製品である。厚0.5mm。重さ5.7g。三角形か。

13～16は用途不明石製品である。粗粒輝石安山岩。13は長25.2cm、短19.3cm、厚14.4cm、重さ8.1kg。ノ

ミ痕が残存。14は長29.1cm、短25.3cm、厚14.9cm、重さ20.7kg。15は長50.2cm、短24.1cm、厚15.3cm、重さ37.9kg。16は長45.7cm、短22.9cm、厚14.9cm、重さ31.0kg。

17～27は木製品である。いずれもE1-1溝の構造に伴うものである。

このうち17～26は木杭。溝南岸に打ち込まれたものである。護岸用か。いずれも丸木。先端部は尖がり、刃痕が残存。体部から頭部は腐食か。17は、長20.8cm、径3.5cm。18は、長25.0cm、径4.1cm。19は、長29.2cm、径4.9cm。20は、長38.9cm、径6.1cm。21は、長42.1cm、径4.6cm。22は、長44.5cm、径4.8cm。23は、長40.9cm、径5.9cm。24は、長44.2cm、径5.4cm。25は、長46.9cm、径5.5cm。26は、長52.1cm、径5.8cm。

また、27は板状。溝北岸西部の石組底部に敷かれたものである。石組みの基礎か。長37.4cm、短8.2cm、厚2.6～3.4cm。

25・27の材質はいずれもスギ。なお、樹種同定は松葉礼子氏（(株)パレオ・ラボ）による。

①E1-3溝出土遺物（第33図 P.L. 85）

1は陶器皿の底部片である。底（6.0）cm。長石釉。瀬戸・美濃系。17C～18C。

2は石製硯の破片である。厚1.2～0.8cm。粘板岩。

(2) 「近世第1面」土坑等出土遺物

①D1-2灰掻群出土遺物（第33図 P.L. 85）

1は瓦の破片である。厚1.7cm。種類は不明。割れ口摩滅。明治以降。

②E1-1土坑（第33図 P.L. 86）

1は陶器四方鉢である。3/4残存で、口（15.4）cm、底5.4cm、高5.2cm。肥前・武雄系。この遺物についての詳細は第5章第4節に詳しく記載する。

2は土器焙烙の底部片である。在地系。江戸時代。

③E1-2土坑（第33図 P.L. 86）

1は焼締陶器播り鉢の体部片である。堺・明石系。

2は軒先棧瓦の破片である。巴文。明治以降であろう。

(3) 「近世第1面」遺構外出土遺物（第34～38図 P.L. 86～91）

1～34は碗類である。

このうち、1～13は磁器。1・2は口縁部から底部片。1は1/8残存で、口（6.8）cm、底（2.8）cm、高2.8cm。肥前系。17C。2は1/4残存で、口（8.6）cm、底（3.4）cm、高4.7cm。高台内に「九谷」銘。大正・昭和。

3～8は体部片。6は瀬戸・美濃系、他は肥前系。3は口（10.0）cm。梅樹文。呉須の発色は比較的良好。18C前～中。4は口（10.0）cm。雪輪梅樹文。器壁は厚い。18C中～後。5は口（10.0）cm。雪輪梅樹文。18C前～中。6は口（10.2）cm。外面に二重網目文。内面に網目文。18C後。7は口（11.0）cm。外面に梅樹文か。18C。8は梅折枝文。18C。9～13は下体部から底部片。いずれも肥前系で、さらに10以外は波佐見系。9は底（4.2）cm。高台内に不明銘と境線。高台部は重ね焼き剥離痕。18C前～中。10は底（3.3）cm。外面三方にコンニャク印判。やや焼成不良。肥前系。18C前。11は小杯で、底（3.0）cm。外面に染付が一部残る。18C～19Cか。12は底3.0cm。器壁は厚い。18C前～中。13は底（4.0）cm。高台内に不明銘。焼成不良。18C前～中。

また、14～34は陶器。14は口縁部から底部片。1/2残存で、口11.2cm、底4.4cm、高7.1cm。青緑釉碗。高

第3章 各時代の調査

台以下は無釉。肥前系、内野山窯。17C後～18C前。15～21は口縁部から体部片。いずれも瀬戸・美濃系。15・16は小碗。15は口(7.2)cm。内面から高台脇に灰釉。外面口縁部下は回転窺ケズリ。江戸時代。16は口(7.6)cm。灰釉。高台脇以下は無釉。体部下位は回転窺ケズリ。18C。また、17は口(7.0)cm。口縁部に鉄釉。鉄化粧。江戸時代。18は口(8.0)cm。「腰鏝碗」。鉄釉と灰釉を掛け分け。外面に凹線。瀬戸・美濃系。18C後～19C前。19は口(11.0)cm。灰釉。瀬戸・美濃系。江戸時代。20は口(10.0)cm。「天目碗」。天目釉。口縁部下位はほぼ直立し、口唇部は小さく外反する。21は口(12.0)cm。飴釉。22～34は下体部から底部片。22は底(4.6)cm。内面に鉄釉。瀬戸・美濃系。江戸時代。23は小杯で、底(2.8)cm。内面から高台脇に灰釉か。焼成不良。製作地不詳。江戸時代。24は底(5.0)cm。「青緑釉碗」。高台脇以下は無釉。肥前系、内野山窯。17C後～18C前。25は底(5.4)cm。内面から高台内に飴釉。瀬戸・美濃系。江戸時代。26・30は「呉器手碗」。高台内の扱りは緩い。肥前系。26は底(5.0)cm、30は底(5.2)cm。27は底(5.0)cm。内面から高台内に飴釉。瀬戸・美濃系。江戸時代。28は底5.4cm。内面に飴釉。外面は無釉。肥前系。18C。29は底(4.6)cm。京焼き風。高台内に「新」銘か。肥前系。17C後～18C前。31・32は陶胎染付。31は底(5.0)cm。焼成不良。32は底(5.0)cm。33は底(5.6)cm。灰釉か。高台脇以下は無釉。焼成不良。瀬戸・美濃系。17C～18C。34は底(5.6)cm。飴釉。高台以下は無釉。高台の径は大きい。肥前系。17C後～18C前。

35～46は皿である。

このうち、35・36は磁器で底部片。肥前系。35は底(8.0)cm。18C。36は底(7.0)cm。17C後～18C。

また、37から46は陶器。37は口縁部から底部片で1/3残存。口(12.4)cm、底(8.0)cm、高2.2cm。灰釉。高台脇以下は無釉。焼成不良。瀬戸・美濃系。17C。38～40は口縁部から下体部片。瀬戸・美濃系。38は口(11.8)cm。内面から体部外面中位に灰釉。17Cか。39は口(13.0)cm。40は段皿。17C。41～46は下体部から底部片。43は肥前系、その他は瀬戸・美濃系。41は底(5.6)cm。内面に灰釉。外面は無釉。内面に重ね焼き時の痕残存。17C。42は底(6.6)cm。焼成不良のため釉不詳。瀬戸・美濃系か。17Cか。43は底(5.2)cm。京焼風。内底器面は剥離。外底「小松吉」銘。17C中～後。44は底(7.0)cm。「輪禿皿」。外面は無釉。内面に輪状に巡らす。45は底(6.6)cm。灰釉。高台部は無釉。江戸時代。46は底(7.4)cm。「丸皿」。長石釉。高台内に円錐ピン痕1カ所残存。17C。

47・48は磁器仏飯器である。肥前系。47は口縁部から下体部片で、口(7.0)cm。外面に笹文。18C後～19C中。48は脚部片で、底(4.4)cm。18C～19C。

49は陶器秉燭の口縁部から下体部片である。口(6.0)cm。鉄釉。瀬戸・美濃系。

50～52は陶器灯明皿である。50は底部片。底(5.4)cm。内面に灰釉。底部は内削ぎ。瀬戸・美濃系。18C。51は口縁部から底部片。口(10.0)cm、高1.9cm。内面から口縁部に鉄泥。外面口縁部下は回転窺ケズリ。志戸呂系か。18C。52は口縁部から下体部片。口(7.7)cm。志戸呂系。

53～55は陶器香炉・「火入れ」類である。53は「火入れ」の口縁部から体部片。口(10.1)cm。陶胎染付。口縁部を内面に折り返す。口縁部内面から外面に施釉。外面の染付文様は不鮮明。肥前系。18C前～中。54は香炉または「火入れ」の底部片。底(4.6)cm。削り出し輪高台。高台脇まで灰釉。内面は無釉。製作地、時期不詳。55は香炉の底部片。底(9.0)cm。脚が1カ所残存。江戸時代。

56・57は陶器土瓶蓋の破片である。56は1/3残存で、径(4.6)cm。外面に白土による同心円文。制作地不詳。19C中以降。57は1/3残存で、径(5.8)cm。いわゆる「山水土瓶」の小型土瓶の蓋。益子・笠間系。明治以降。

58は陶器徳利の底部片である。底(8.0)cm。外面に飴釉。下体部以下は釉を拭い取る。瀬戸・美濃系。18～19C。

59・60は小型の器種不明陶器である。59は、内外面に柿釉。瀬戸・美濃系。江戸時代。60は径1.55cm、厚0.7cm。ボタン状のものを型で合わせて作る。上面中央のみ透明釉。製作地不詳。19C以降。

61～71は鉢、播り鉢類である。

このうち、61・62は陶器片口鉢。瀬戸・美濃系。61は口縁部から体部片。口(14.0)cm。飴釉。江戸時代。62は底部片。底(8.4)cm。内面は灰釉。高台部は無釉。目痕1カ所残存。18～19C中。

また、63～71は播り鉢。64は陶器で他は焼締陶器。63～67は口縁部片。63は堺・明石系。19C前。64は錆釉。口縁部はやや内湾。瀬戸・美濃系。19C前。65は口縁端部に凹線、口縁部内面に浅い凹線が巡る。丹波系。17C前。66は丹波系。18C中。67は錆釉。口縁部は直線的。瀬戸・美濃系。19C前。68・69は体部片。いずれも錆釉。瀬戸・美濃系。江戸時代。70・71は底部片。70は底(14.0)cm。播り目は密。瀬戸・美濃系。江戸時代。71は丹波系。江戸時代。

72は土器焙烙の口縁部から底部片である。口(40.4)cm、底(37.4)cm、高5.2cm。在地系。

73・74は鍋類である。73は陶器土鍋の口縁部から体部片。口(20.0)cm。74は土器鉢形鍋の口縁部片。口縁端部は小さく外反する。端部上面に浅い凹線。江戸時代。

75・76は土器火鉢であろう。75は体部から底部片。底21.4cm。76は底部片。器表は黒色。体部外面、外型による文様。在地系。江戸時代。

77は陶器植木鉢の口縁部片である。口(17.0)cm。口縁部から外面に黒色の錆釉。19C前以降。

78は陶器で器種不明。

79～84は銭貨である。79・81は「寛永通宝」。79は直径2.25cm、内径1.75cm、穿径0.6cm、厚0.1cm、重2.0g。裏面に「元」字。81は直径2.45cm、内径2.05cm、穿径0.6cm、厚0.15cm、重2.6g。「古寛永」。

80は「永楽通宝」。直径2.45cm、内径2.00cm、穿径0.5cm、厚0.15cm、重3.4g。永楽六(1408)年初鑄。近世初頭まで流通。82も「永楽通宝」か。83は銭種不明。内径1.95cm、厚0.1cm。84は模造銭貨、いわゆる「雁首銭」であろう。径1.55～1.01cm、厚0.15cm、重1.9g。

85～113は金属製品である。

85～90はキセル。85～88は雁首。85は火皿の径1.7cm。胴部欠損。内部に灰残存。86は胴部径0.9cm。火皿は欠損。87は完形。長3.7cm、火皿の径1.8cm、胴部径1.1cm、重6.0g。88はほぼ完形。長5.2cm、火皿の径1.8cm、胴部の径1.0cm、重5.9g。89・90は吸い口。89は径1.1cm。両端欠損。小口付近に凹線3条を巡らす。内部に「羅字」が残存。90は径1.0cm。吸い口部欠損。

91～113は大部分が用途不明。91は「火打ち金」か。厚0.5cm。92～100は角釘か。92・93・94は径0.3cm。95・96・97・100は径0.5cm。98は径0.4cm。99は径0.6cm。101・102は留め具か。緩い「S」字状に湾曲。101は径0.5cm。102は径0.4cm。103は幅1.2cm、厚0.3cm。「L」字状に屈曲。104は径0.5cm。「T」字状か。105は幅1.0cm。厚0.1cm。「く」の字状に屈曲。106は長3.6cm、径1.3cm。円錐台形。107は断面は緩い「U」字状で、一部を管状に丸める。108は厚1.0cm。3カ所が尖る。109は長6.6cm、幅1.6cm、厚1.3cm。長楕円形。110は径2.9～3.2cm、厚0.85cm。重7.9g。リング状。111は長3.9cm、幅4.0cm、厚0.2cm、重8.4g。半円状で両端を折り返す。112・113は利器か。112は厚0.6cm。113は厚0.6cm。

114・115は鉄塊である。114は韃の羽口の破片が融着。115は5.3cm×4.2cm×1.8cmで、重67.6g。

116～120は火打石である。116・118は瑪瑙、他は石英。116は長3.3cm、径1.2～2.3cm、重11.0g。117は長3.6cm、径1.5～2.2cm、重20.0g。118は長3.1cm、径1.7～2.0cm、重11.0g。119は長3.3cm、径1.3～2.1cm、重13.0g。120は長3.3cm、径2.8～3.3cm、重38.0g。

第3章 各時代の調査

(4) 「近世第2面」遺構外出土遺物(第39図 P.L. 92・93)

1～6は碗類である。

このうち1は磁器で、口縁部から下体部片である。口(9.0)cm。体部は直立気味である。外面に植物文。肥前系。17C前～中。

また、2～6は陶器。2・3は口縁から体部片。2は口(11.1)cm。「尾呂茶碗」。飴釉。口縁部にワラ灰釉。瀬戸・美濃系。3は口(11.0)cm。陶胎染付。外面の発色は悪い。肥前系。18C前～中。4～6は下体部から底部片。4は底(7.0)cm。内面に鉄分の多い灰釉。瀬戸・美濃系。江戸時代。5は底4.5cm。「呉器手碗」。高台内の挟りは浅い。肥前系。18C前。6は底5.3cm。内面から高台部に飴釉。内底にワラ灰釉が一部掛かる。瀬戸・美濃系。18C。

7～15は皿である。

このうち、7～10は磁器。肥前系。8は体上部から底部片。底(5.5)cm。波佐見系。17C中～後。9は1/6残存で、口(9.6)cm、底(6.0)cm、高1.95cm。こんにやく判。18C。10は口縁部から下体部片。口(14.0)cm。18C。

また、11～16は陶器。瀬戸・美濃系。11・12・15は口縁部から底部片。11は1/3残存で、口(11.6)cm、底(7.1)cm、高2.8cm。口縁は外反し、端部は内側に肥厚。内面に灰釉。内底に鉄絵。17C。12は1/4残存で、口(11.8)cm、底(6.3)cm、高2.35cm。口縁部は小さく外反。内面から口縁部外面に灰釉。17C。15は口(11.0)cm、底(7.0)cm、高2.5cm。灰釉。高台内は無釉。内底に鉄泥による文様。17中。16は1/4残存で、口(12.2)cm、底(8.0)cm、高1.9cm。内底に鉄絵の具による竹文。17C中～後。13・14は下体部から底部片。13は底(6.4)cm。内面に灰釉。窯道具を使わず、直接重ね焼きしたもの。18C。14は底(7.0)cm。「菊皿」。内面に型押しにより花卉を表す。内面から体部外面中位に灰釉。

17は陶器灯明皿の口縁部から底部片である。1/4残存で、口(11.2)cm、底(5.4)cm、高1.7cm。内面から口縁部外面に鉄泥。外底に油が付着。志戸呂系か。江戸時代。

18は器種不明陶器の口縁部から底部片である。口(8.6)cm、底(4.8)cm、高2.0cm。暗赤褐色釉。焼き締まりはない。製作地、時期不詳。

19・20は焼締陶器播り鉢の口縁部片である。丹波系か。19は口(32.0)cm。口縁部の断面は三角形。17C中～後。20は口(28.0)cm。口縁部は立ち上がり、外面に2条の凹線を巡らす。18C前。

21は土器火鉢であろう。口縁部片で、口(23.0)cm。口縁部は横撫で。在地系。江戸時代～近代。

22は銭貨である。寛永通宝。内径1.95cm、穿径0.6cm、厚0.1cm、重1.2g。「新寛永」。

23～31は金属製品である。

このうち、23～25はキセル。23は雁首で長5.5cm、火皿の径1.5cm、胴部の径1.0cm、重6.5g。24は吸い口。破損する。25は雁首は長4.0cm、火皿の径1.8cm。胴部の径1.1cm。吸い口は長6.5cm、径1.0cm。「羅宇」は破損。重11.6g。

26～28は角釘か。26は頭部で径0.7cm。27も径0.7cm。28はほぼ完形で、長10.1cm、径0.6cm、重10.3g。

29～31は利器か。29は厚0.4cm。30は厚0.3cm。31は厚0.3cm。

(5) 「中世第2面—1」出土遺物(第40図 P.L. 93)

1・2は陶器碗である。瀬戸・美濃系。18C。1は口縁部から体部片。口(11.0)cm。飴釉。口縁部にワラ灰釉。2は底部片。底(5.4)cm。飴釉。内面は無釉。いずれも遺構外出土。

(6) 表採・出土面不明遺物 (第40図 P L. 94)

1～8は碗類である。

このうち、1～5は磁器。1は口縁部から底部片。1/3残存で、口(10.4)cm、底4.0cm、高5.6cm。「端反碗」。底部内面に簡略化した「壽」字文、外面は横線に花卉文。瀬戸・美濃系。19C前～中。2は「湯飲み」の口縁部から底部片。2/3残存で、口7.2cm、底4.0cm、高6.7cm。外面2方に梅花刻印の後、濃みを入れる。肥前系か。19C。3～5は底部片。3は底2.8cm。肥前系。18C後。4は底4.4cm。内底の一部に釉がかからない。焼成不良。肥前系。18Cか。5は底(4.0)cm。外面は雪輪梅樹文か。高台内に堺線。肥前・波佐見系。18C。

6～8は陶器。6は底部片。底(4.0)cm。高台は低く、器壁は薄い。内外面に刷毛による白土がけ。肥前系。江戸時代。7は下部から底部片。底3.4cm。高台以下釉を削る。高台内に不明墨書。製作地不詳。江戸時代。8は体部から底部片。「柳茶碗」。鉄絵の具で柳を描く。高台以下を除き灰釉。瀬戸・美濃系。18C末～19C中。

9は陶器灯明皿の口縁部から底部片である。体部から底部外面は釉を拭い取る。外面に油付着。瀬戸・美濃系。19C前～中。

10は陶器で、器壁や底径、底部形状から急須であろう。製作地不詳。近代以降。

11は磁器で皿か鉢であろう。口(20.0)cm。肥前系。17C前～中。

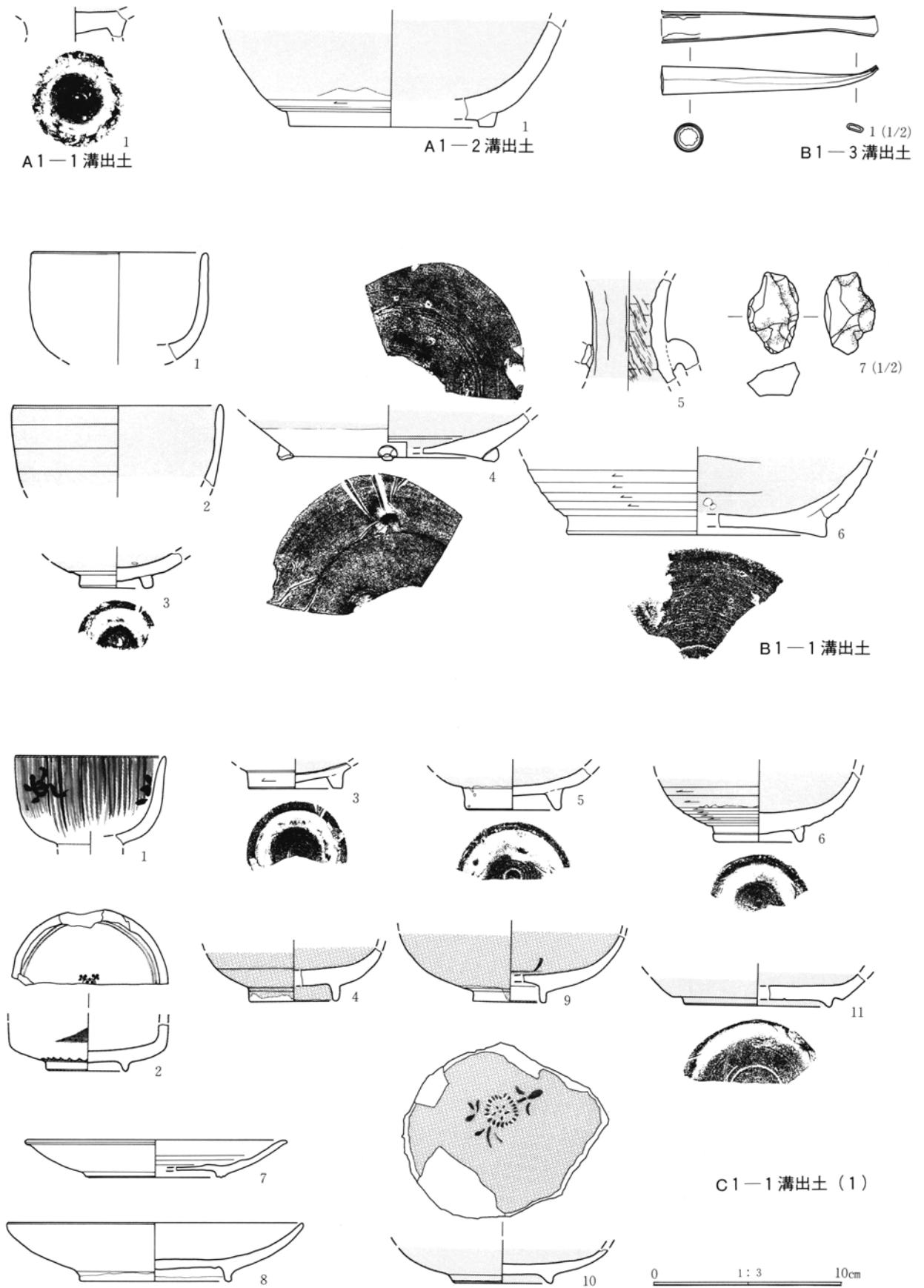
12・13は焼締陶器播り鉢である。13は口縁部片。口(30.2)cm。丹波系。18C前。12は口縁部から上部部片。口(34.0)cm。口縁部内面に小さな段。播り目は8本一単位。堺・明石系。19C。

14・15は土器火鉢である。14は体部片か。赤色に塗られた凹線を境に一方は黒色処理され、他方はヘラ状工具により文様状に抉られる。在地系。時期不詳。15は底部片。底(32.0)cm。低い脚を貼り付ける。時期不詳。

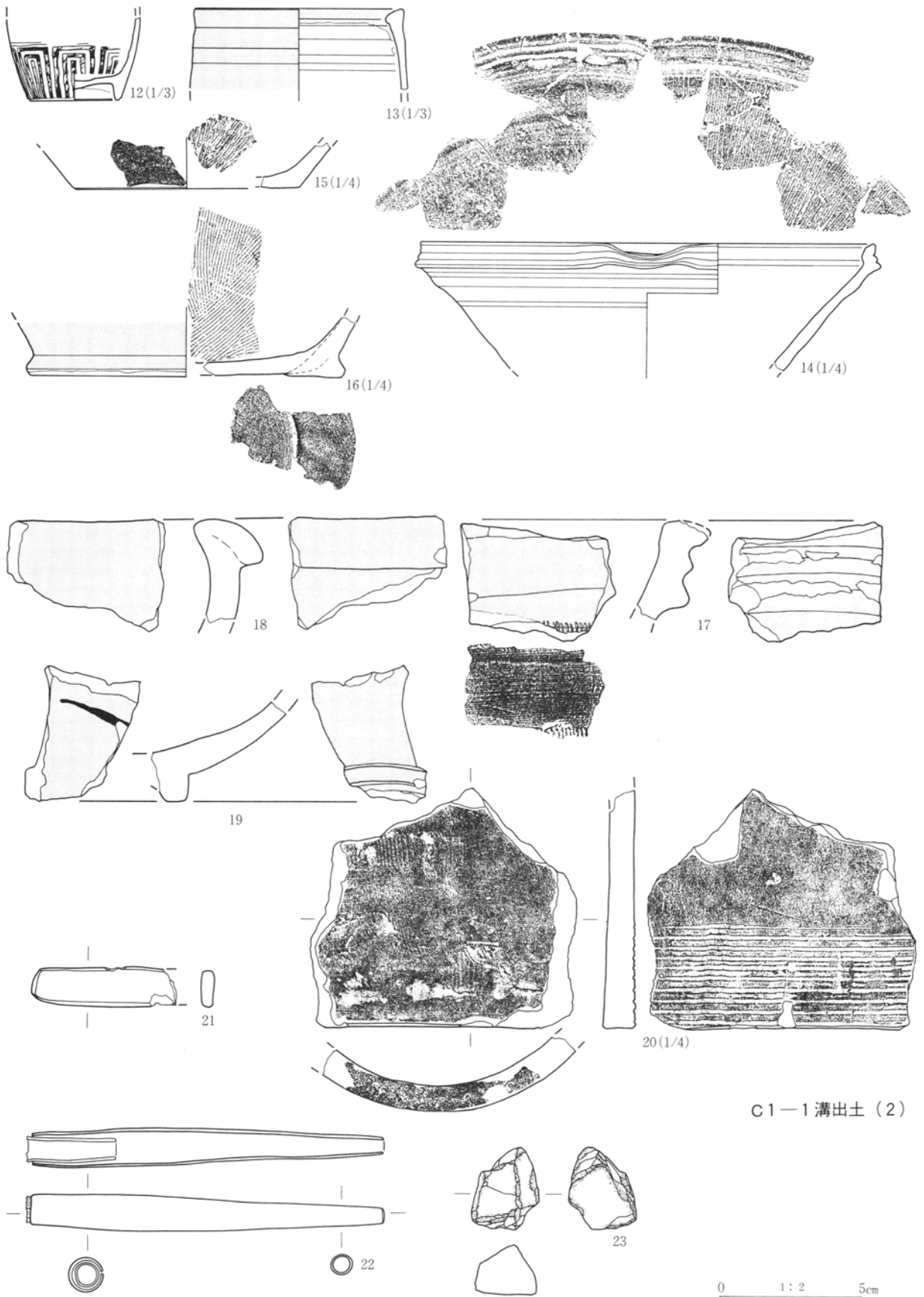
16～21は金属製品である。

このうち、16・17はキセルの吸い口。16は長8.7cm、径1.0cm。17は長6.1cm、径1.0cm。「羅宇」片が残存。また、18～20は用途不明。18は厚0.3cm。19は厚0.4cm。20は径0.4cm。角釘か。21は鎌か。

第3章 各時代の調査

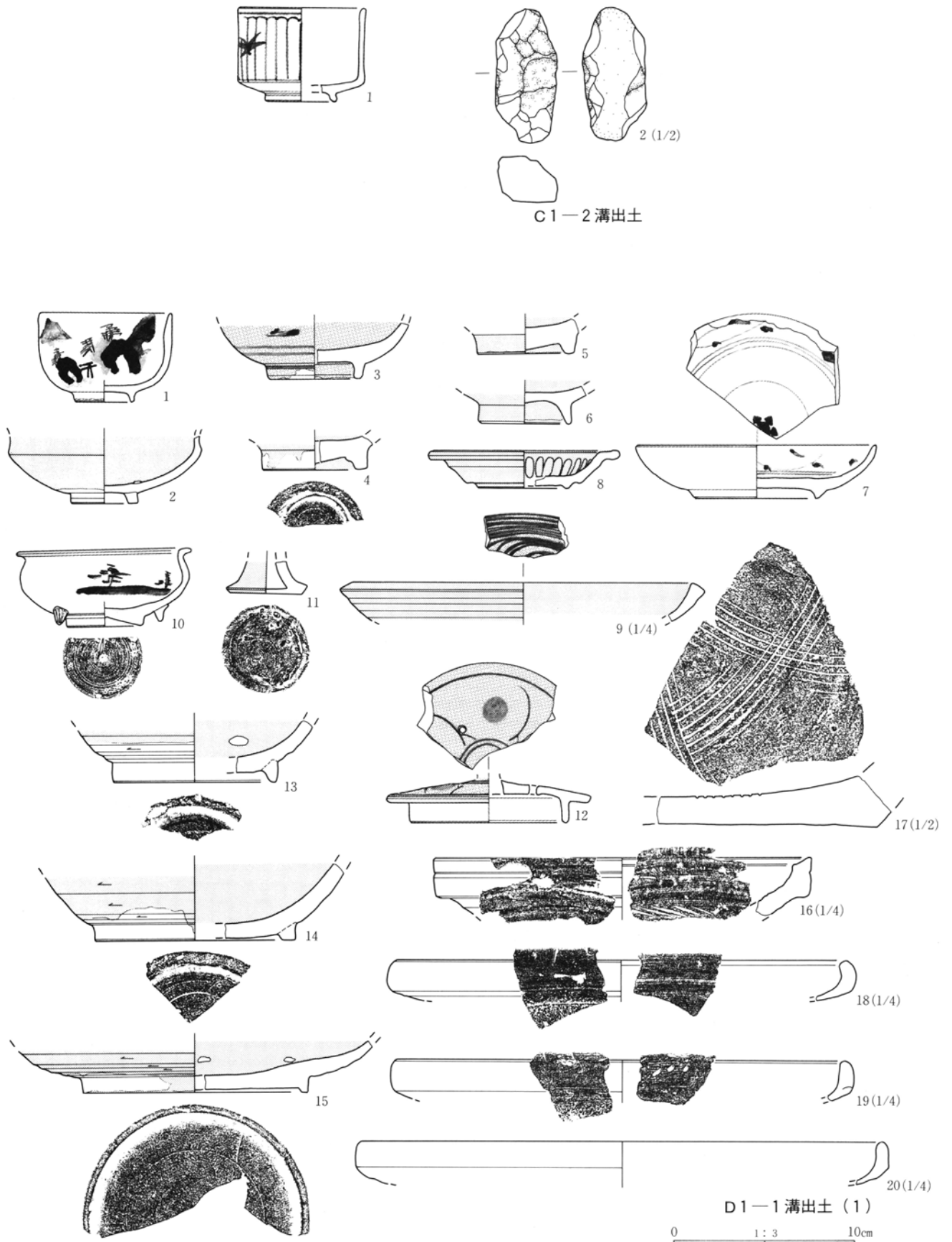


第25図 近世以降の遺物 (1)



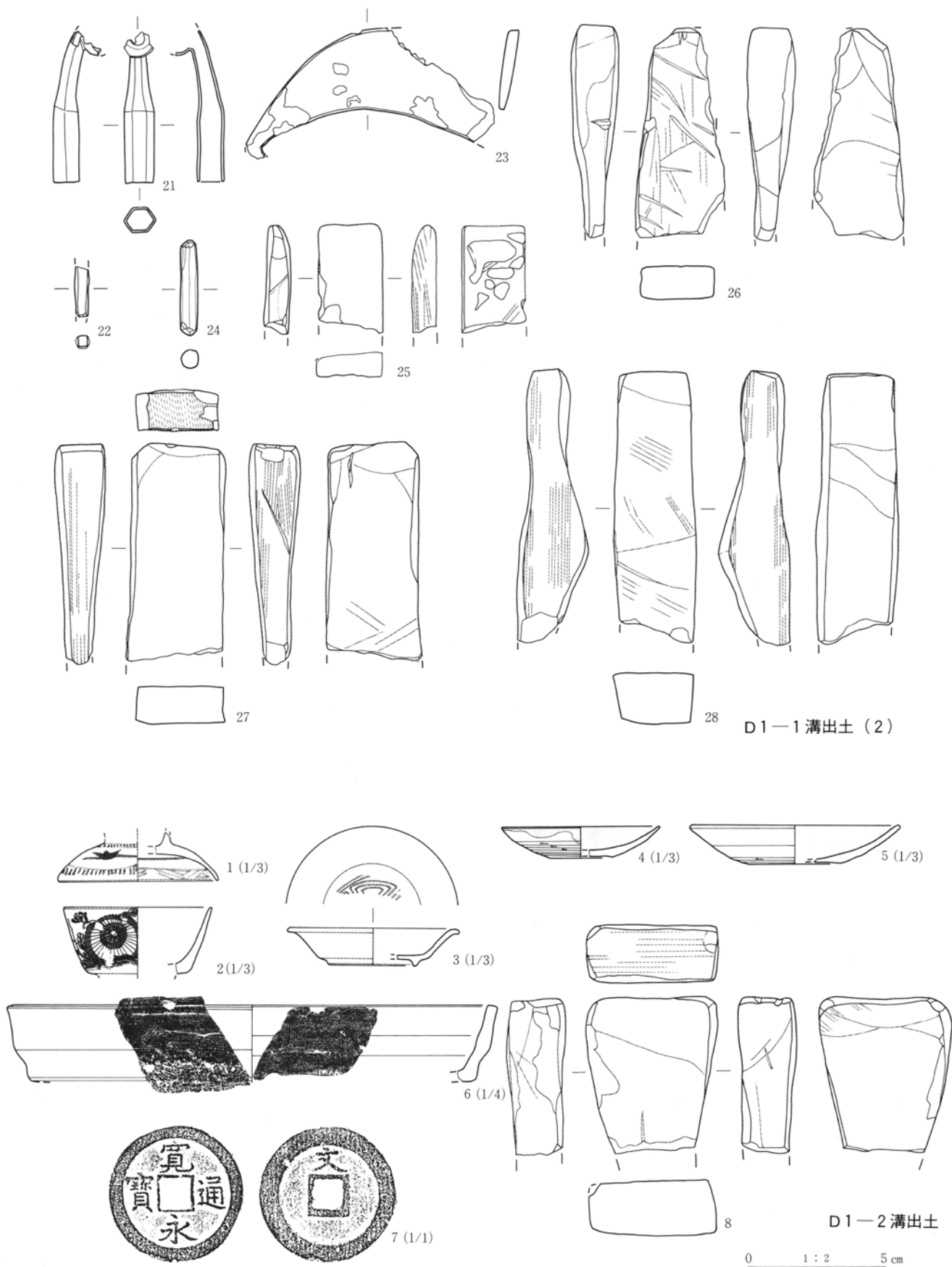
C1-1 溝出土 (2)

第26図 近世以降の遺物 (2)



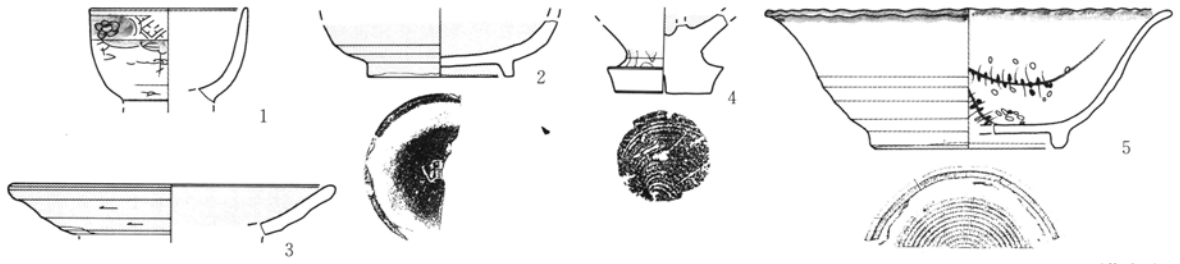
第27図 近世以降の遺物 (3)

第2節 近世以降の遺構と遺物

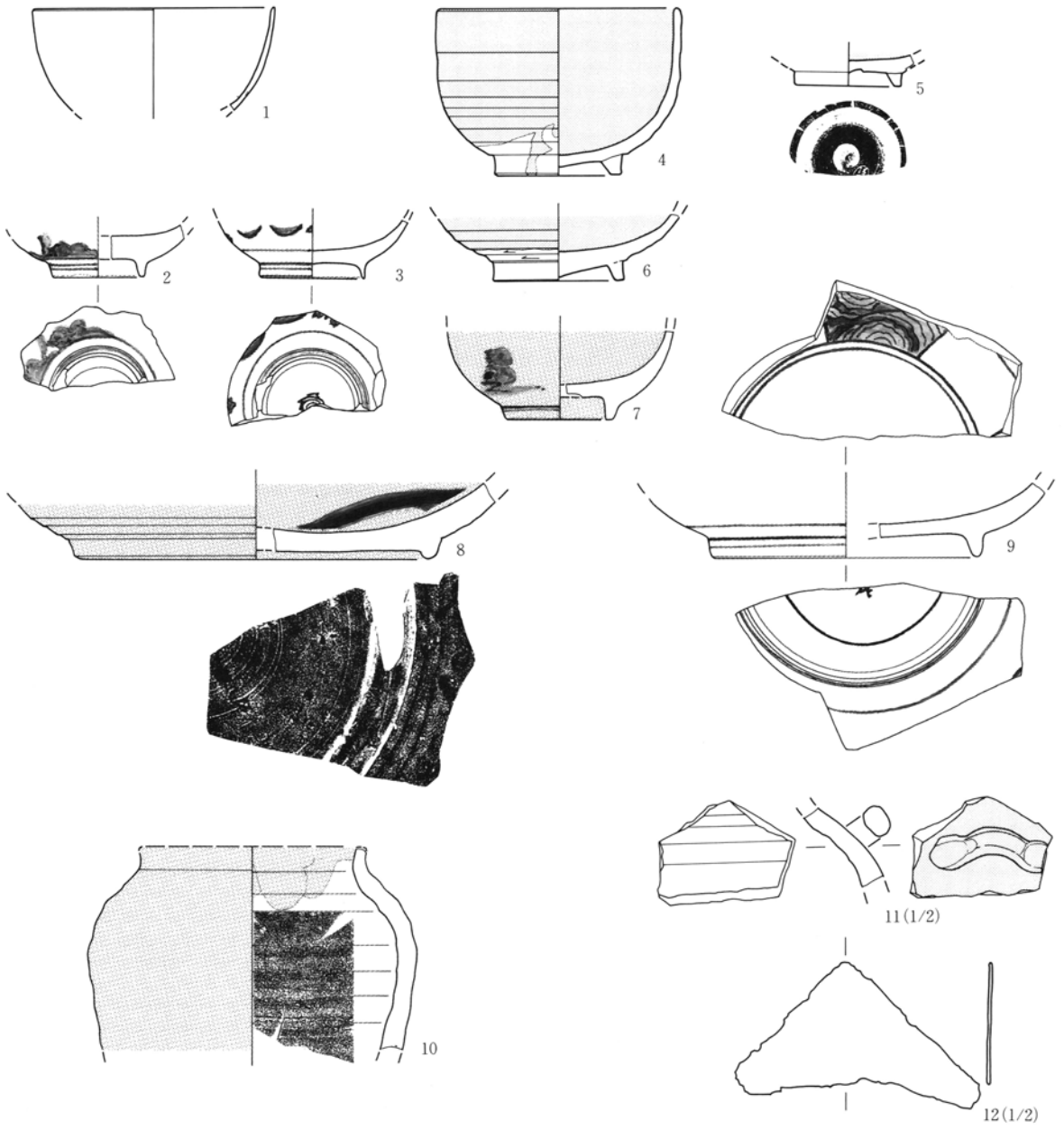


第28図 近世以降の遺物 (4)

第3章 各時代の調査



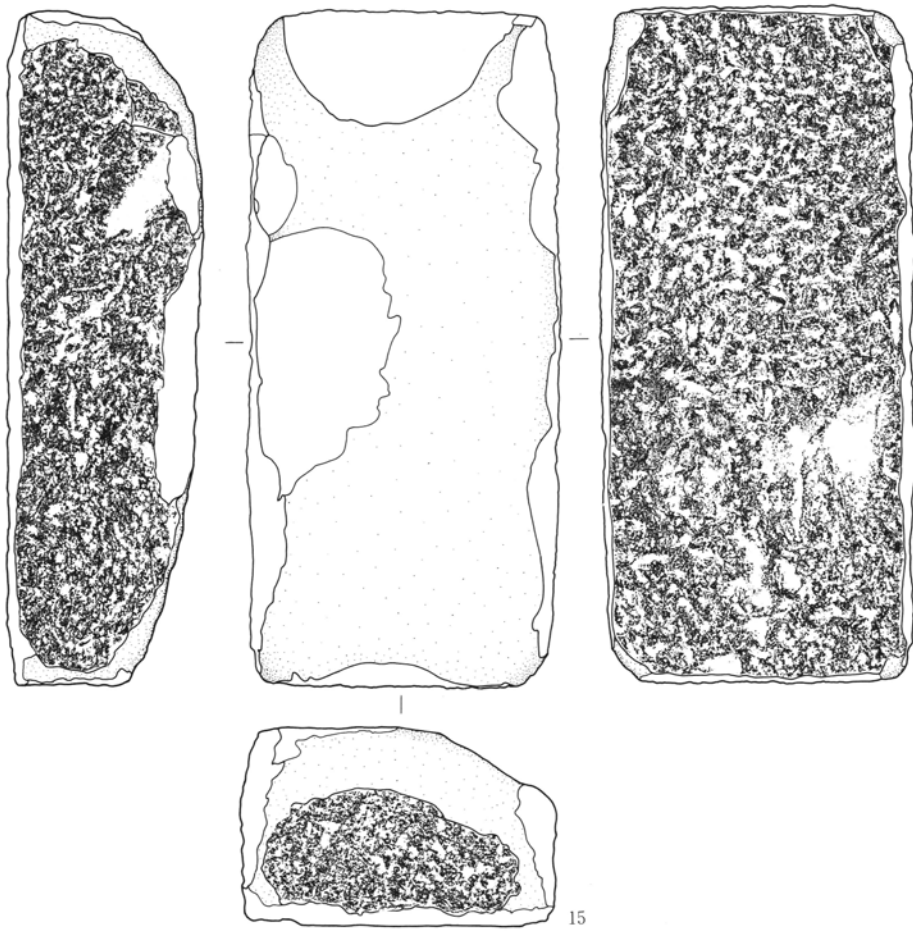
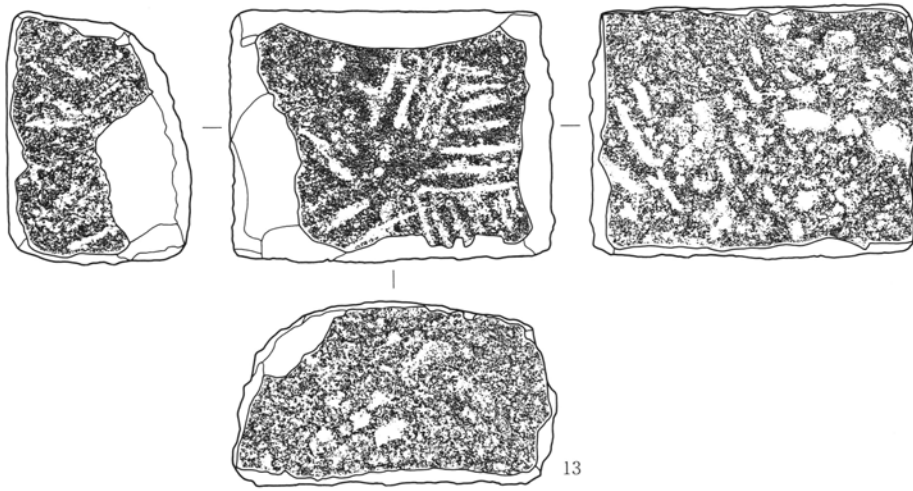
D1-3 溝出土



0 1:3 10cm

第29図 近世以降の遺物 (5)

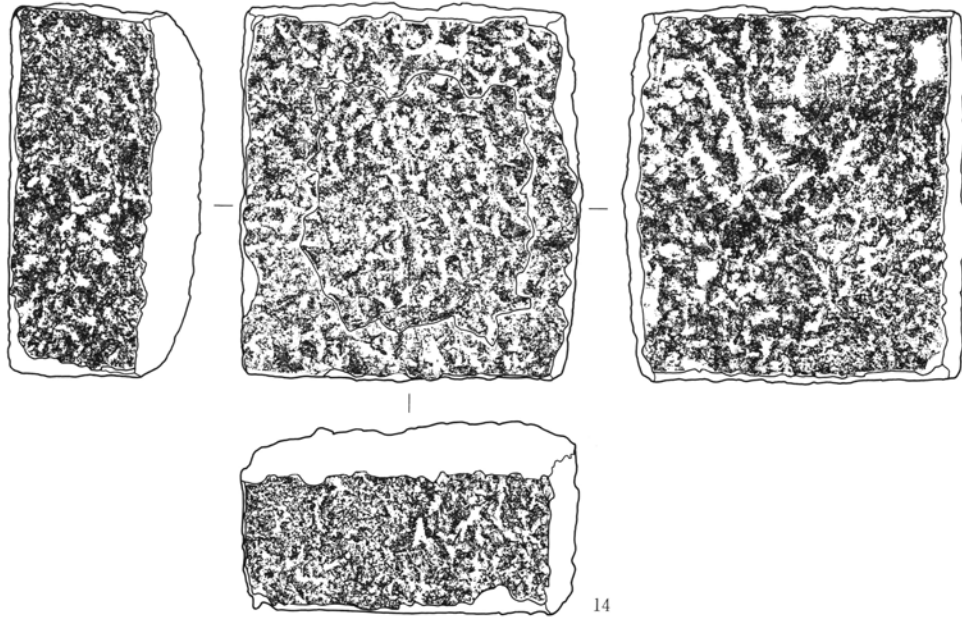
E1-1 溝出土 (1)



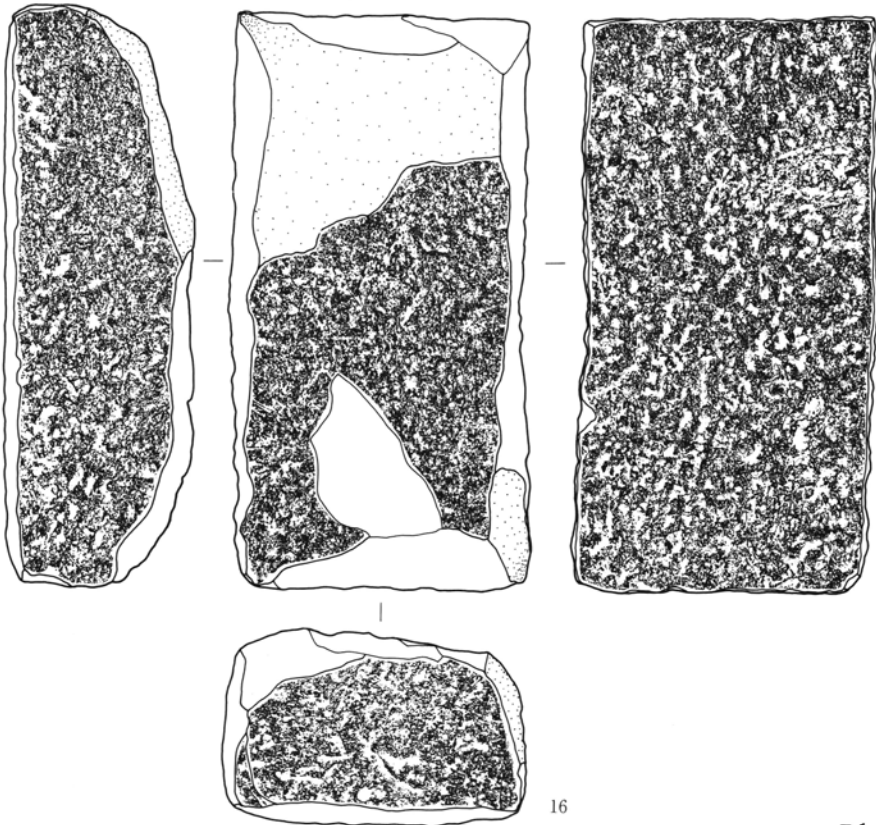
E1-1 溝出土 (2)

0 1 : 6 20cm

第30図 近世以降の遺物 (6)



14

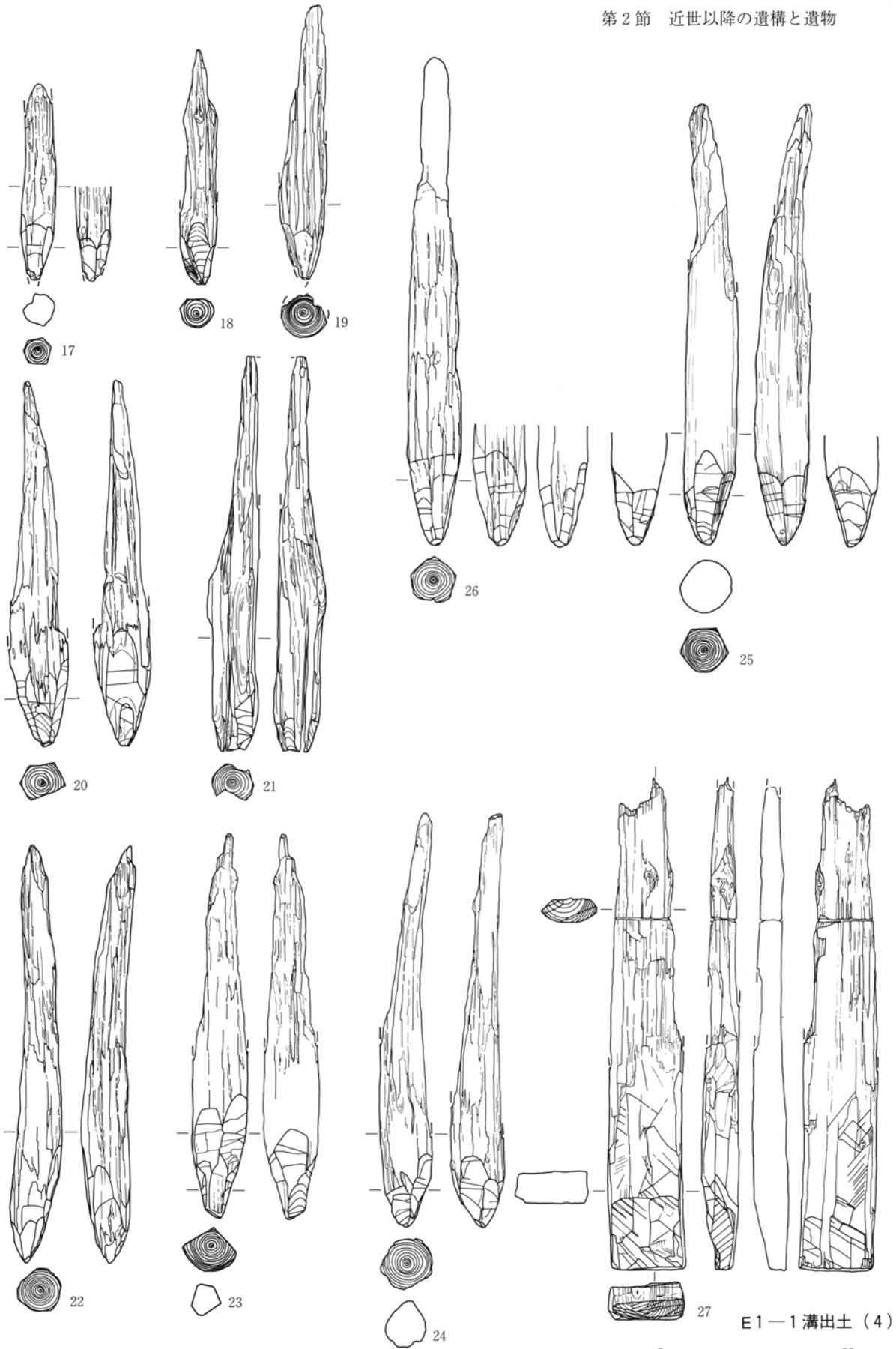


16

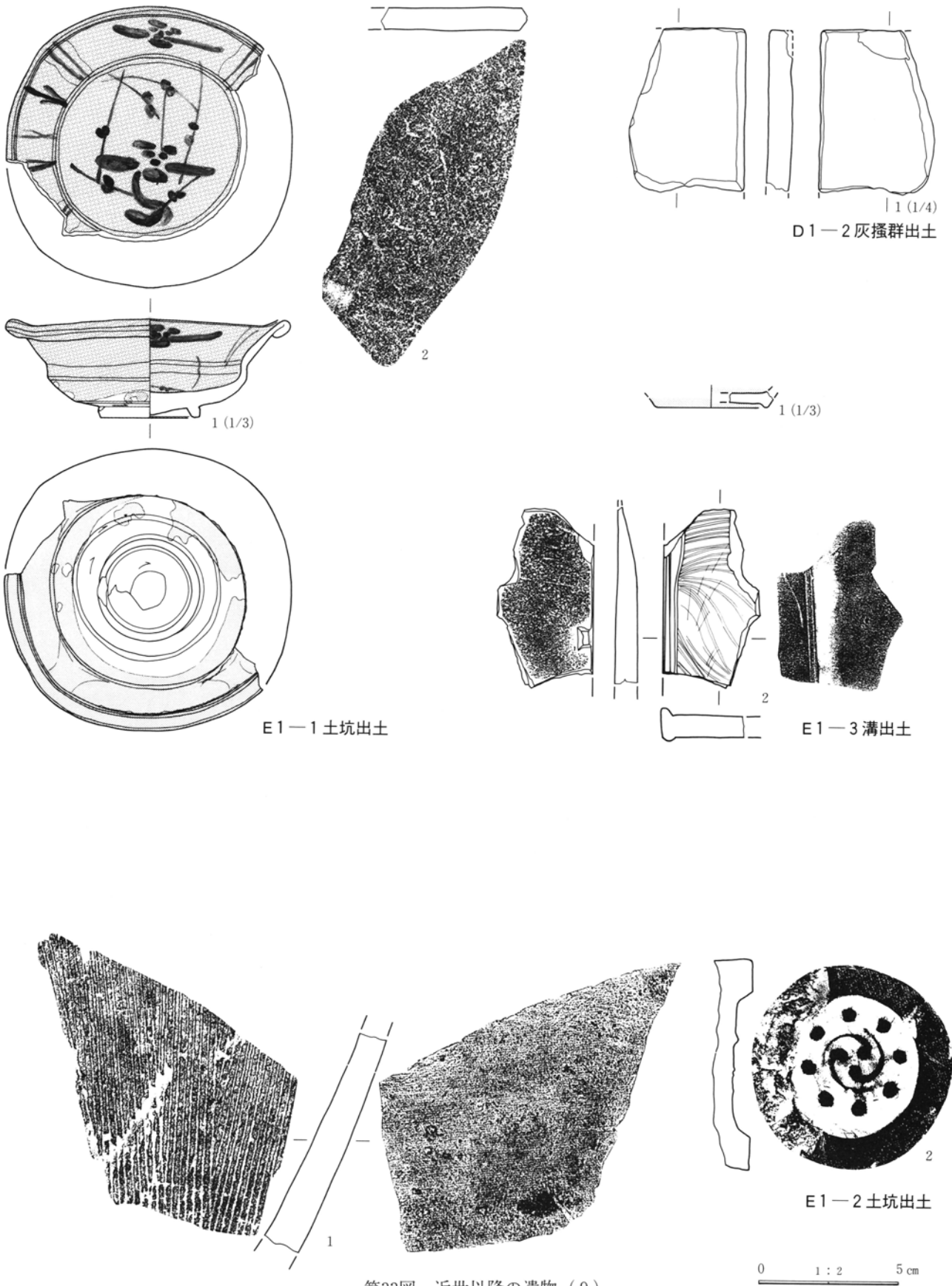
E1-1 溝出土 (3)

0 1 : 6 20cm

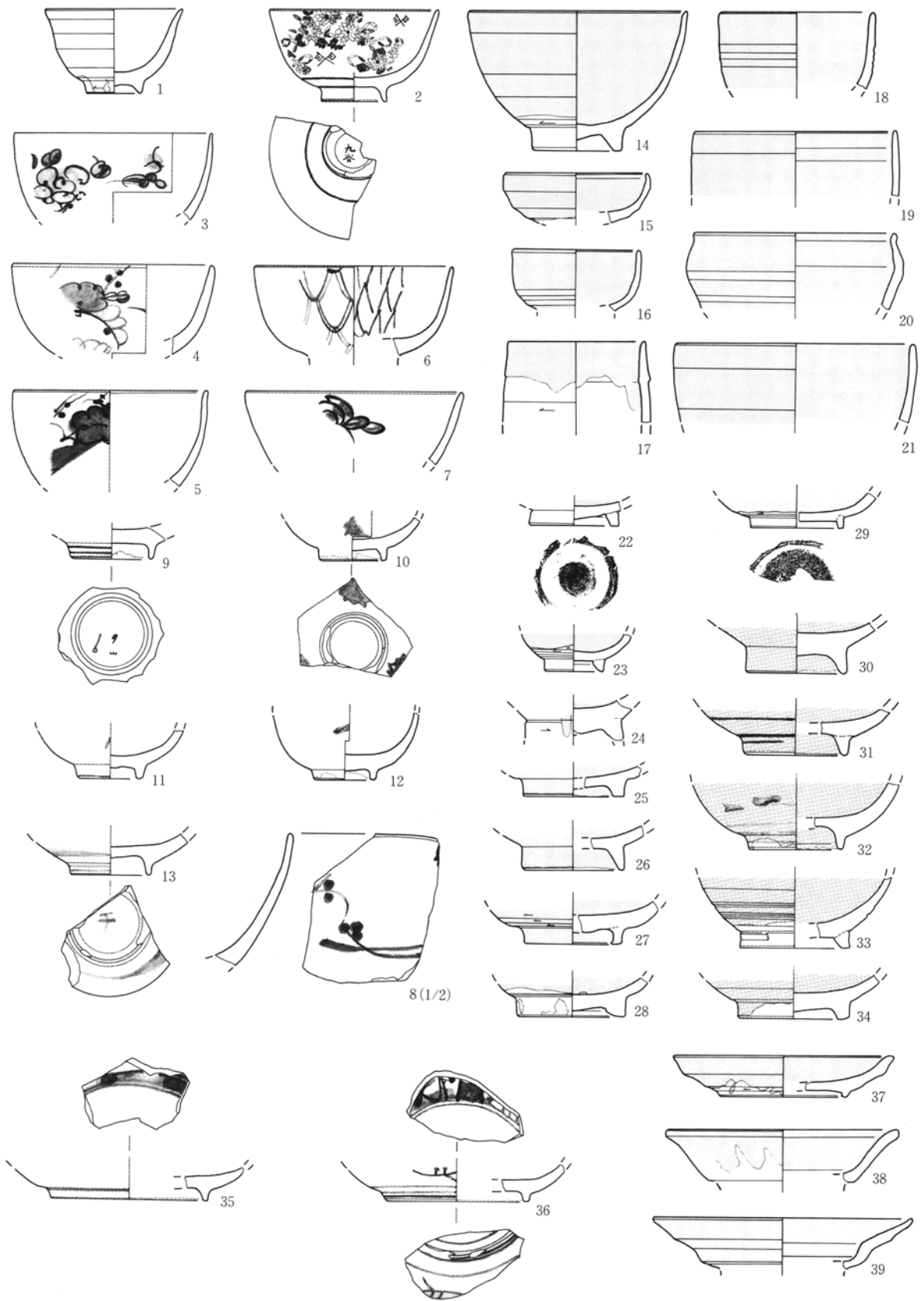
第31図 近世以降の遺物 (7)



第32図 近世以降の遺物 (8)



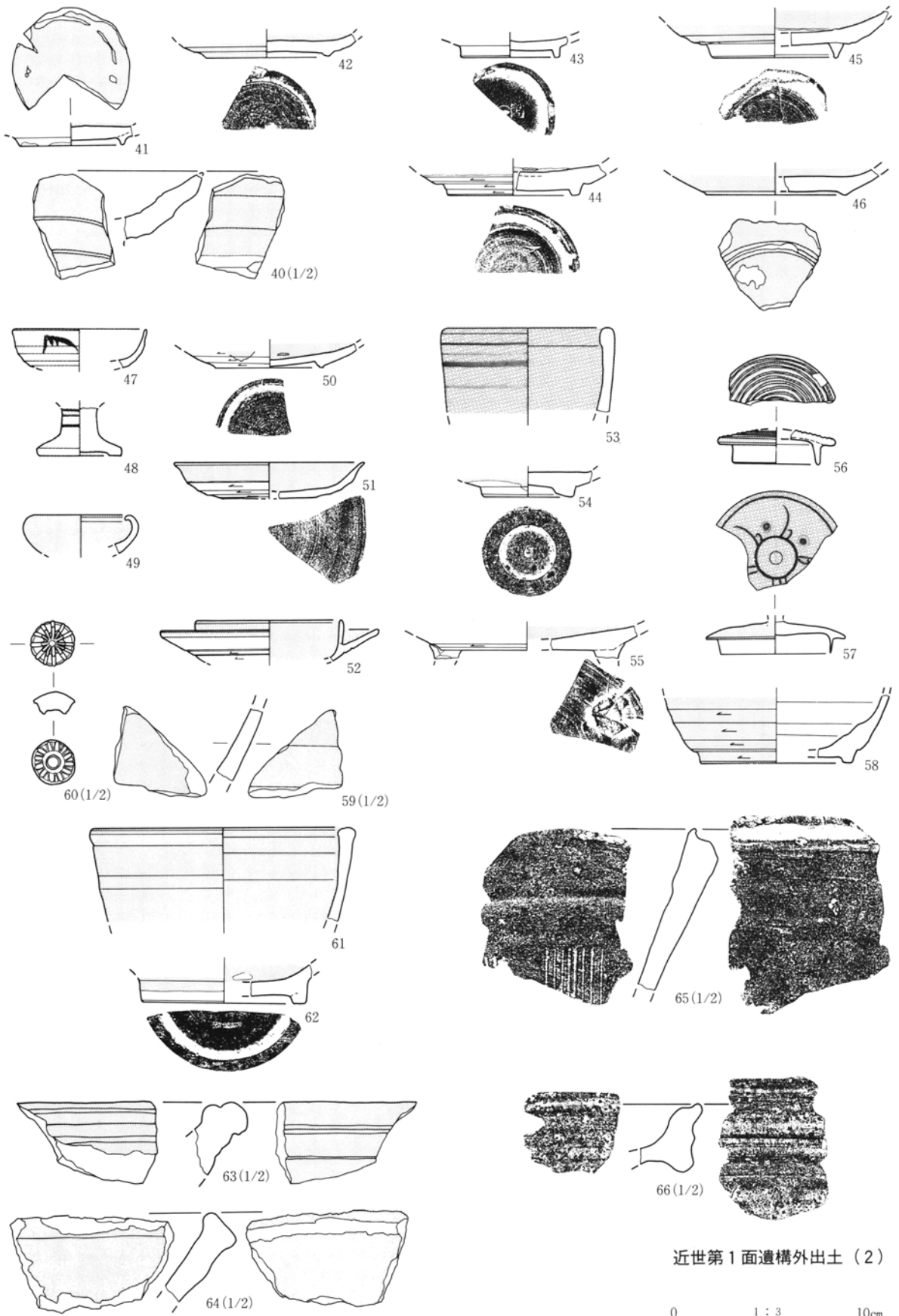
第33図 近世以降の遺物 (9)



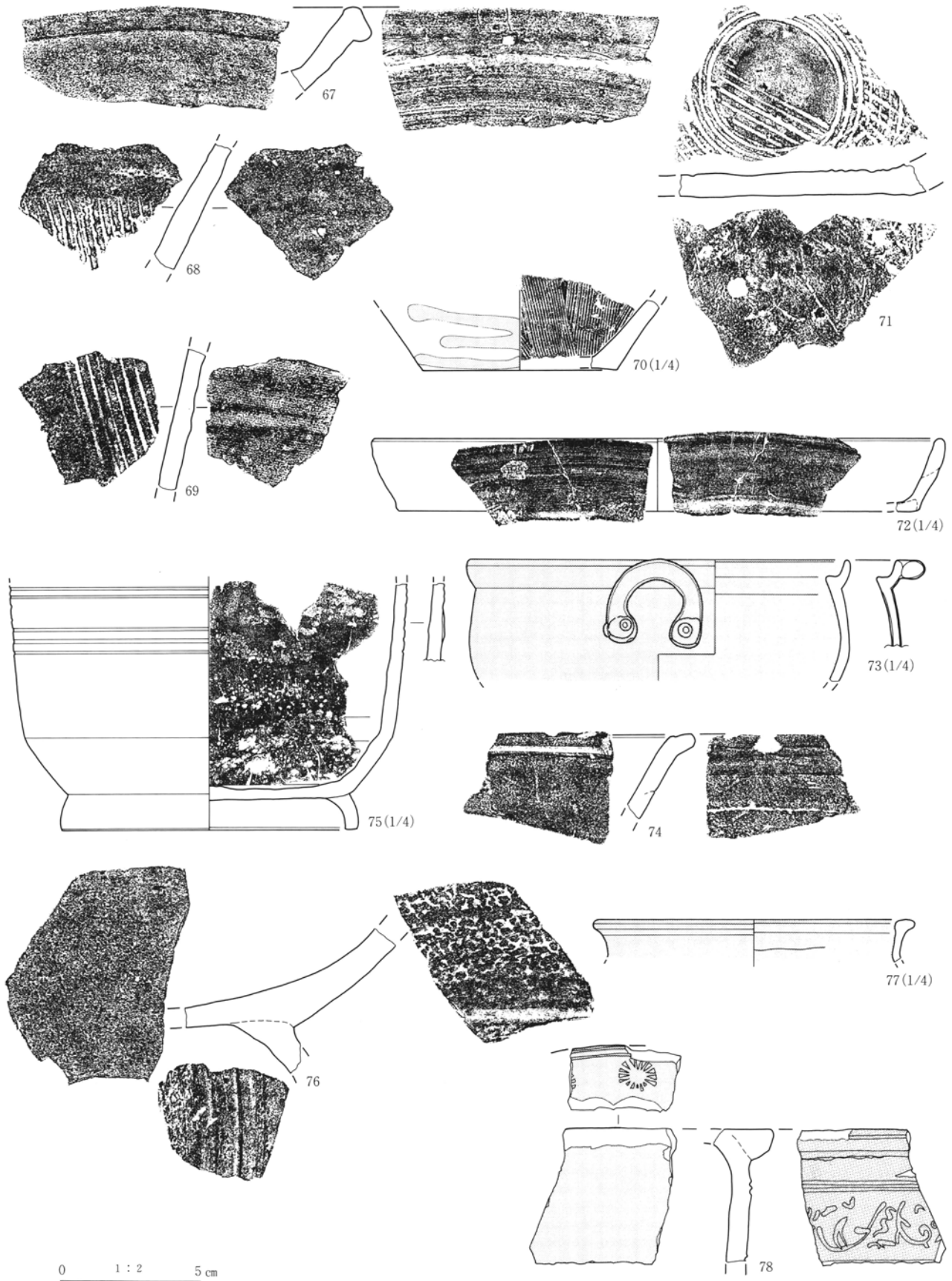
近世第1面遺構外出土(1)

第34図 近世以降の遺物(10)

第3章 各時代の調査



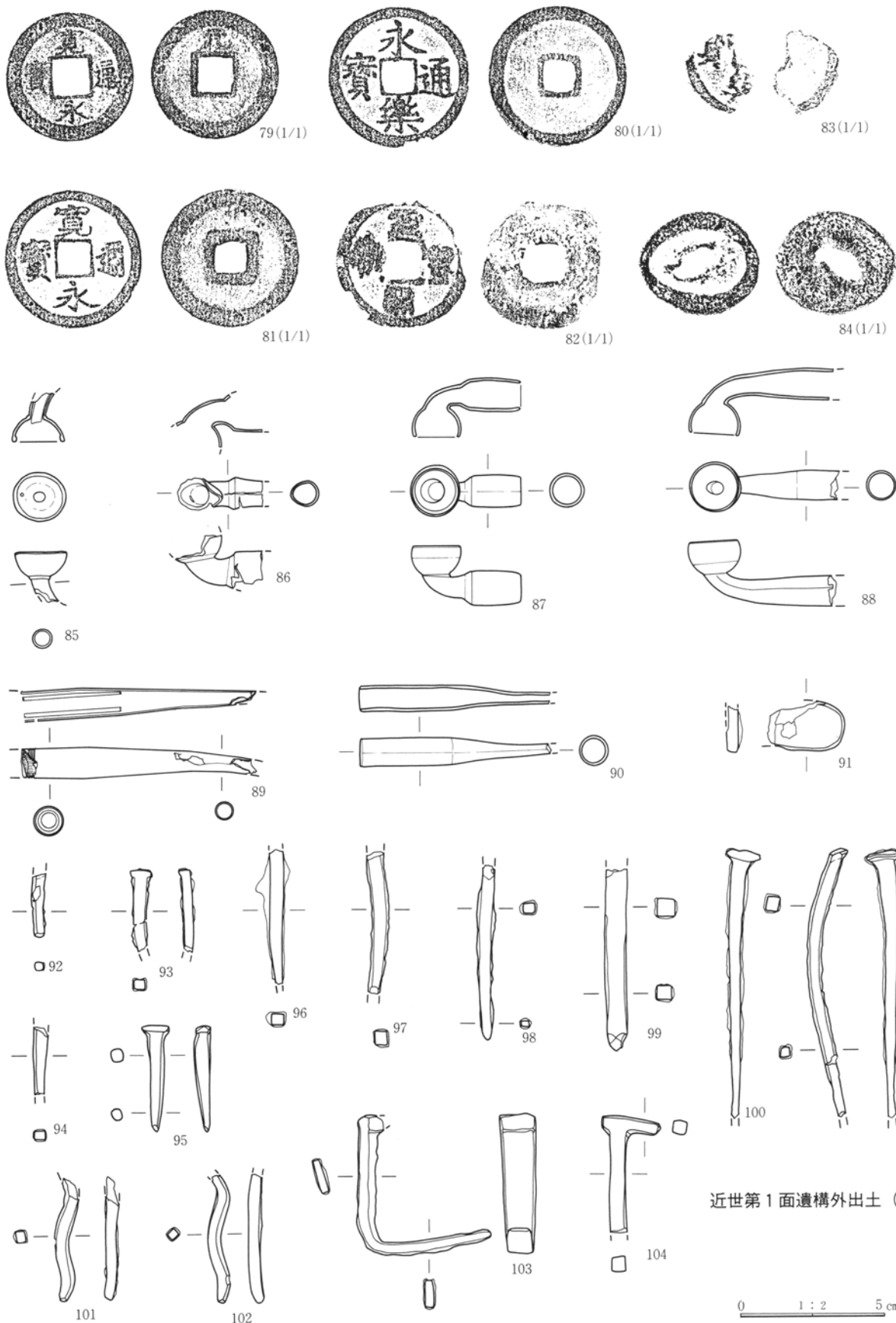
第35図 近世以降の遺物 (11)



第36図 近世以降の遺物 (12)

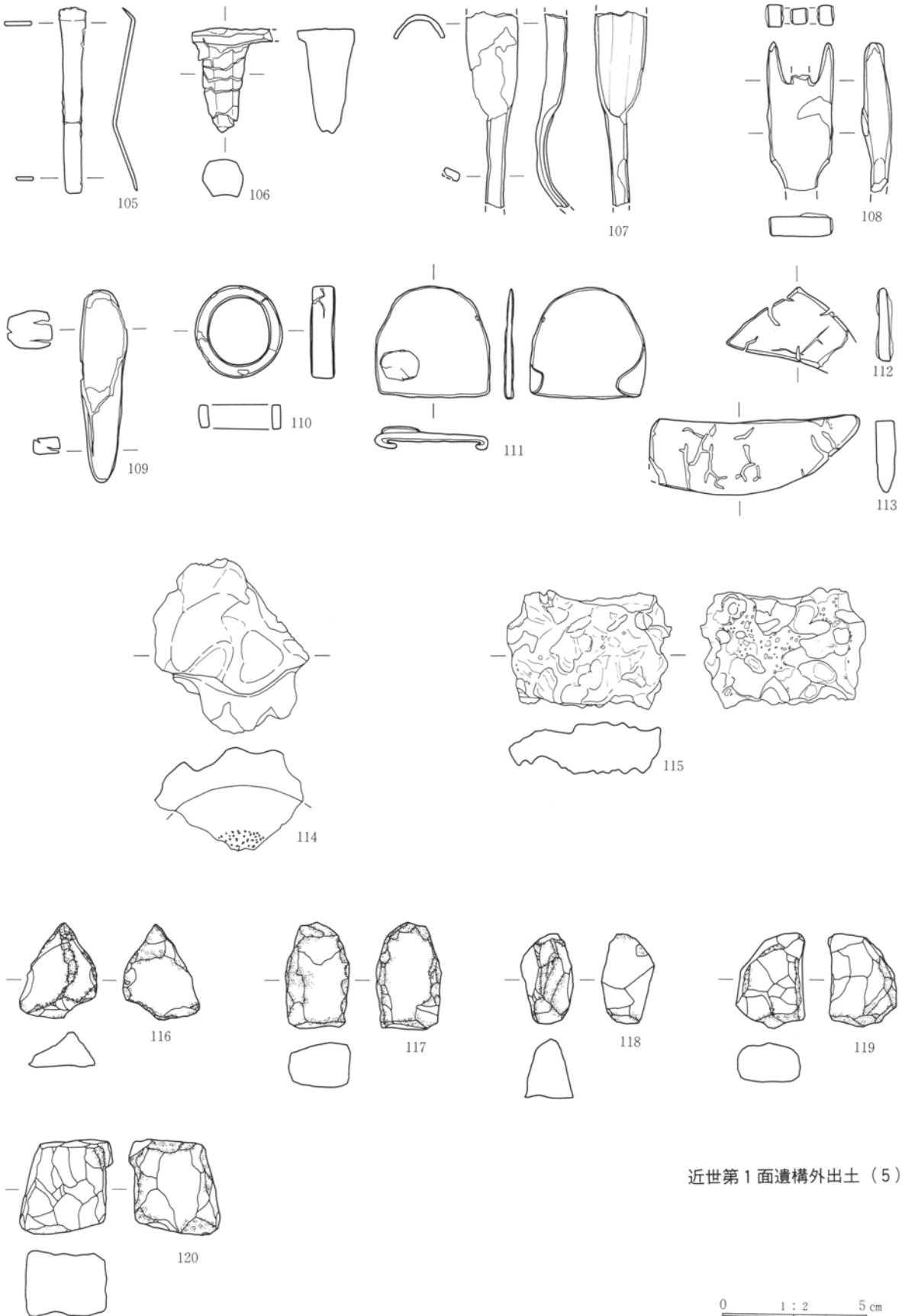
近世第1面遺構外出土 (3)

第3章 各時代の調査



第37図 近世以降の遺物 (13)

第2節 近世以降の遺構と遺物

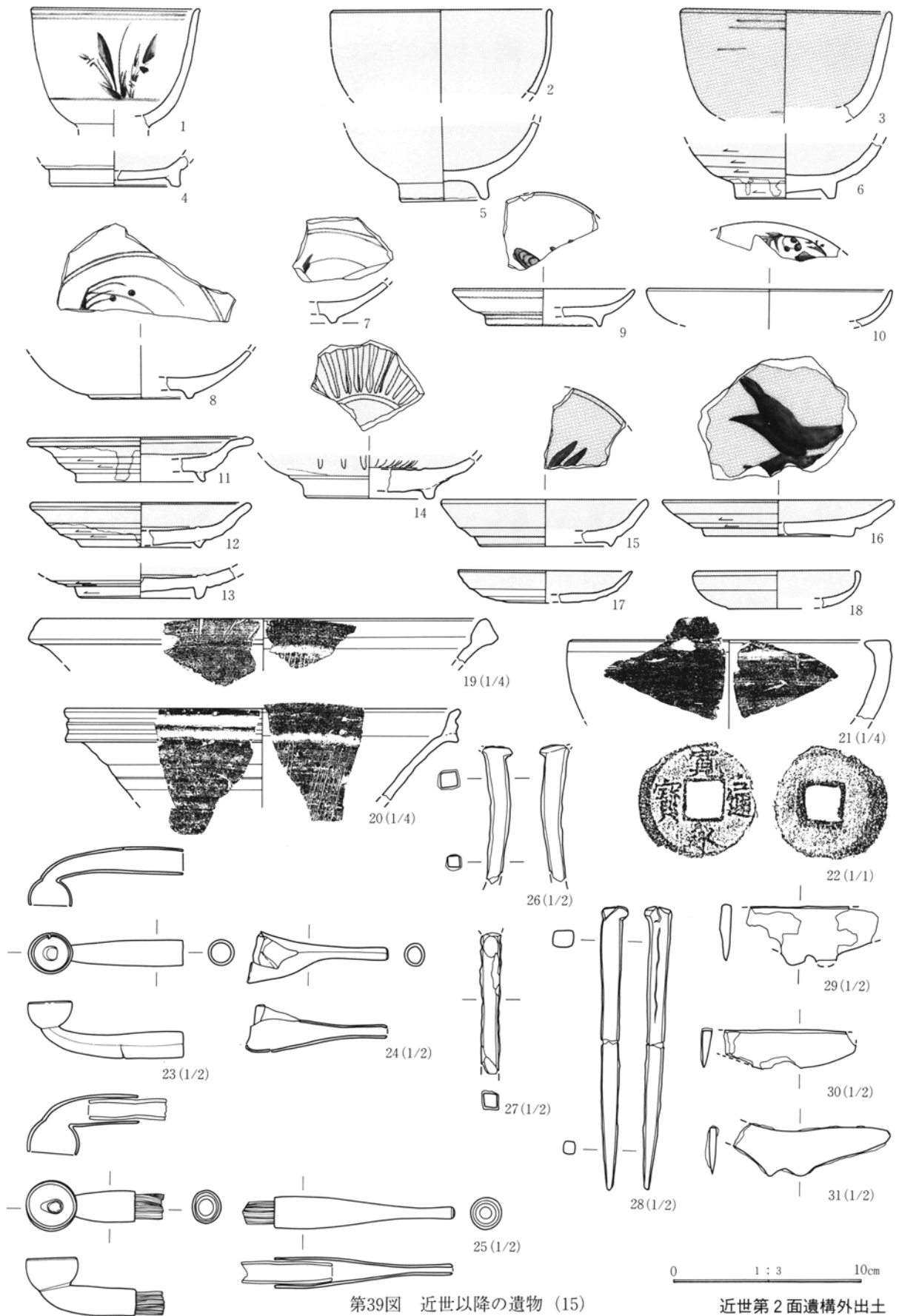


近世第1面遺構外出土(5)

0 1 : 2 5 cm

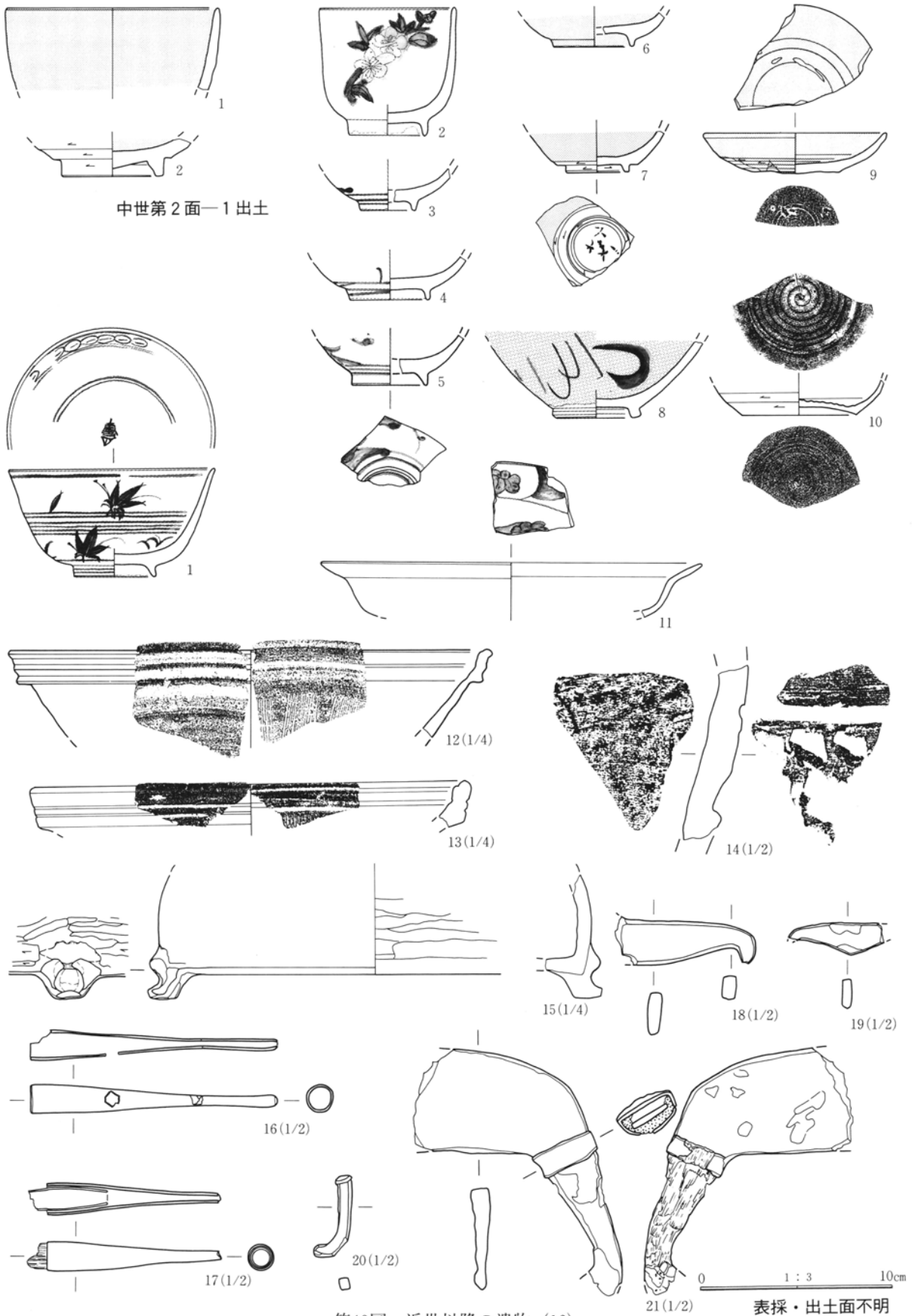
第38図 近世以降の遺物 (14)

第3章 各時代の調査



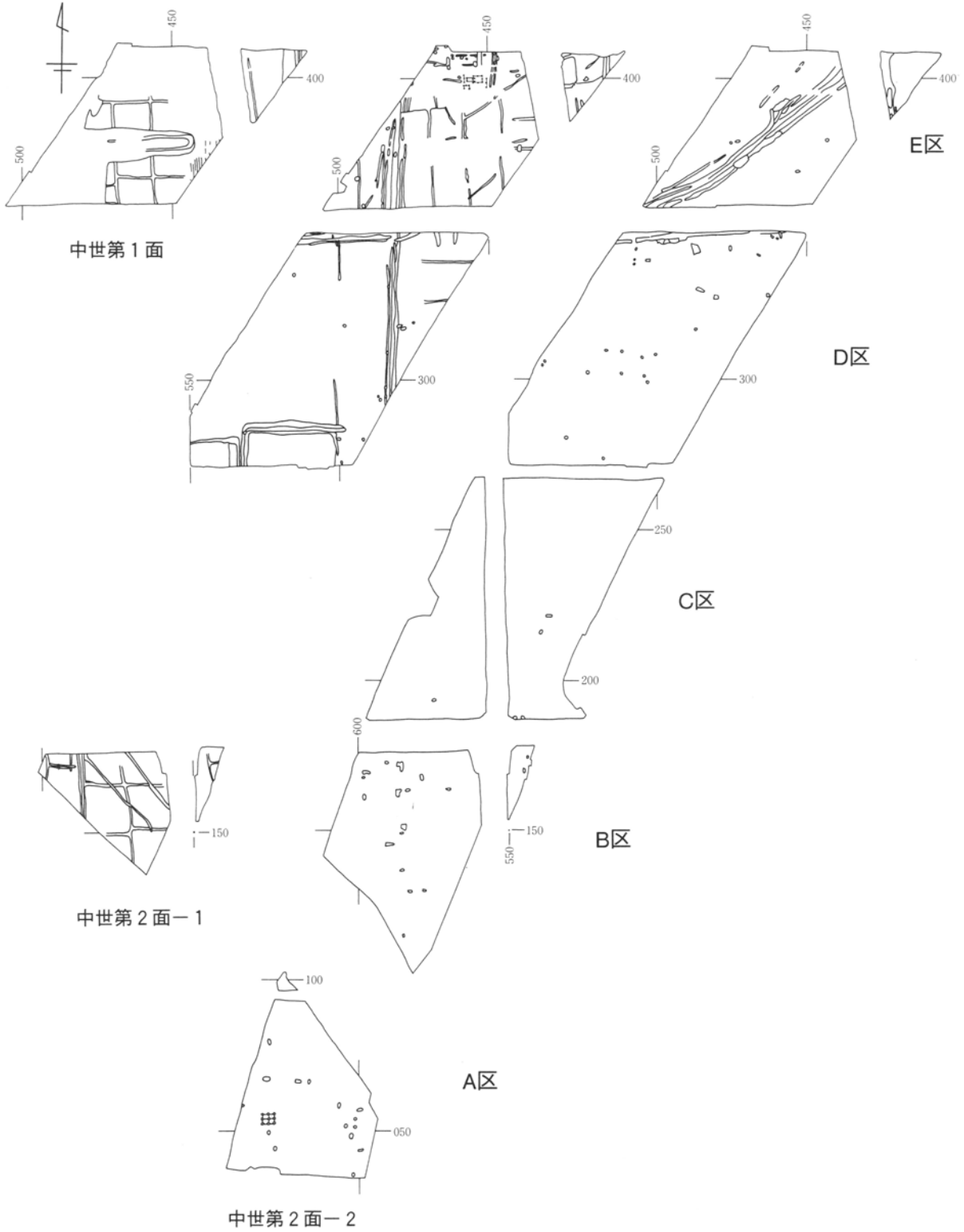
第39図 近世以降の遺物 (15)

近世第2面遺構外出土



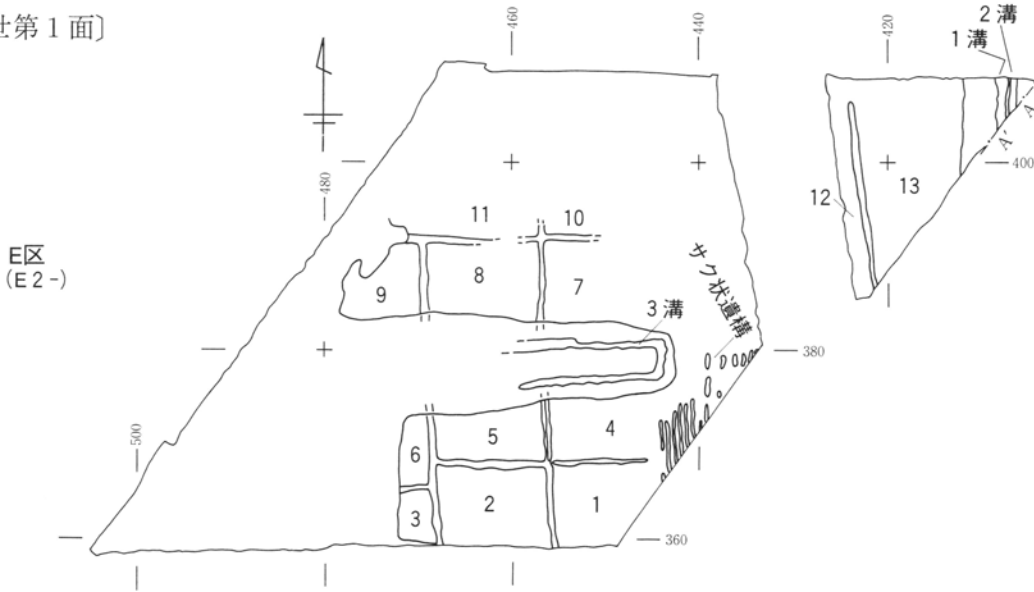
第40図 近世以降の遺物 (16)

第3節 中世の遺構と遺物

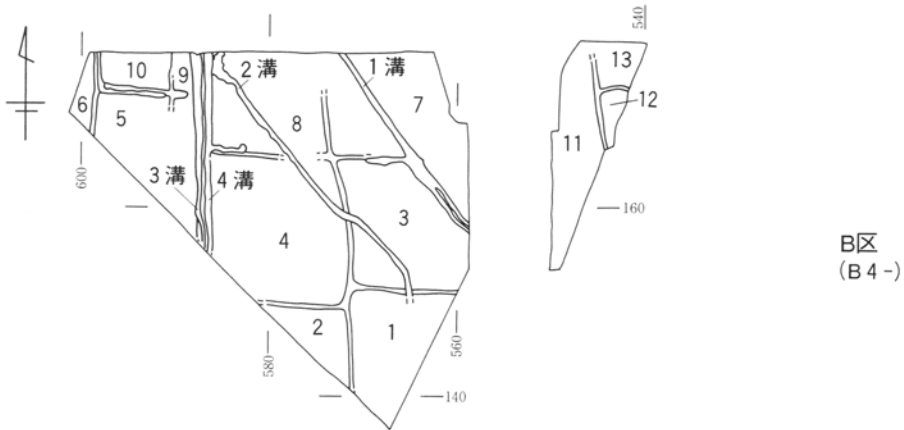


第41図 中世遺構概念図

〔中世第1面〕



〔中世第2面-1〕



第42図 中世遺構配置図(1)

1. 概要

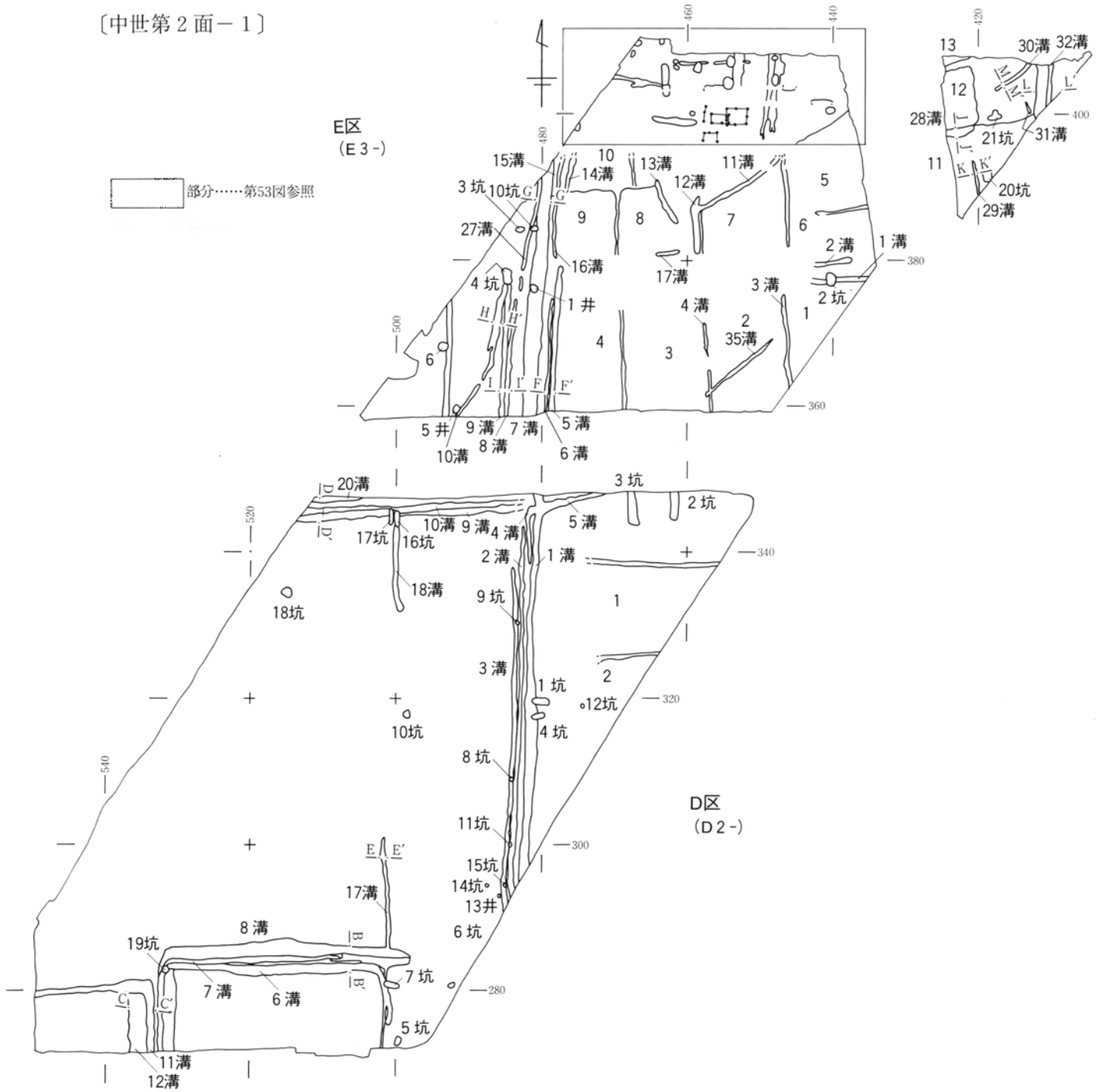
中世の遺構を面として確認したのはB区、D区、E区である。いずれも灰褐色～明橙色土(以下Ⅲ層)内の各層を手掛かりにして調査したものであり、層序や出土遺物からこの時代のもものと判断した(本章第2節参照)。

まずE区では、灰褐色砂質土(大量の灰色砂を含む。E区3層)の下面、さらに暗灰色砂質土(大量の灰色砂を含む。E区5層)と橙色砂(鉄分を含む。E区6層)を同時に除去した面の計二面で遺構を確認した。このうち上位面では、中央部と南部で水田跡、南東端でサク状遺構、北西部で用水路と思われる溝を確認した。また中央部から西部には上位からの掘り込みの跡と思われる土色変色域が見られたが、その後の調査でこの底部から「U」字状に屈曲する溝が見つかった。一方、下位面となる暗灰色砂質土と橙色砂の下面では、南部と北東で水田跡、北部では掘立柱建物跡3棟、柱穴列2列、その他多数の柱穴群を確認した。確認面はAs-B混土(Ⅳ層)の上面である。

第3章 各時代の調査

またD区では、灰色砂質土（橙色砂を含む。D区6層）を除去し、北西部で人間の足跡が残存する水田跡を確認した。また、それ以外の全面には農具痕が残存しており円弧状や直線状に作業された様子が窺える部分もある。さらに溝や土坑も多数見つかっている。これらは、古い方から水田跡、農具痕、溝と土坑の順で

[中世第2面-1]



第43図 中世遺構配置図(2)

新旧関係が認められた。これらの遺構は、E区下位面の遺構と関連性が推定できることや、確認面がともにAs—B混土上面であることから、互いに同時期のものである可能性が高い。

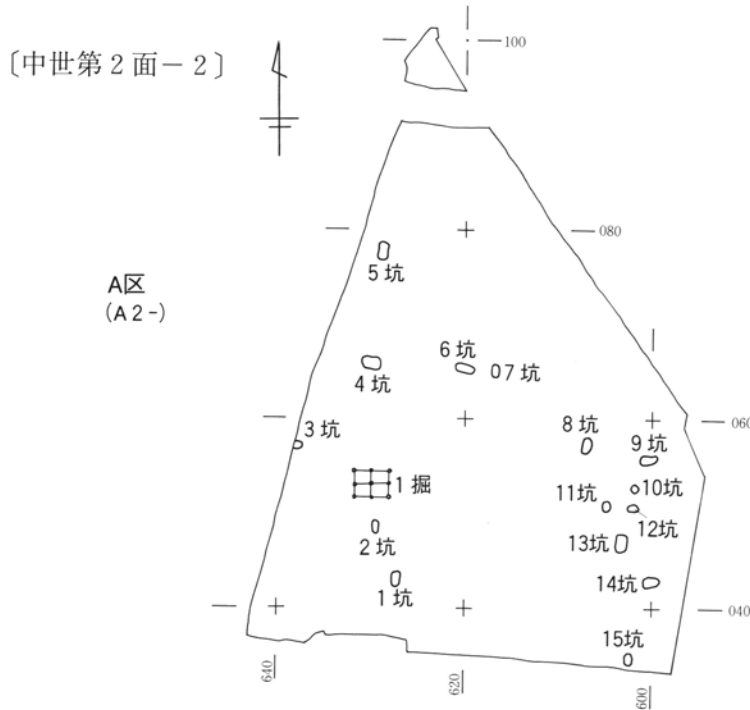
一方、B区北半では黄褐色砂質土（B区北半12層）下面から人間の足跡が残存する水田跡を確認した。また農具痕の可能性もある凹凸も一部で見つかっている。この面は、確認面がAs—B混土上面であることで、E区下位面と近い時期のものと思われるが、遺構の連続性など直接的な関連は認められない。

なお、As—B混土上面で水田跡が確認できたことから、この層は降下したAs—Bとその後に堆積した土層とが耕作により攪拌されることで形成された可能性が高い。

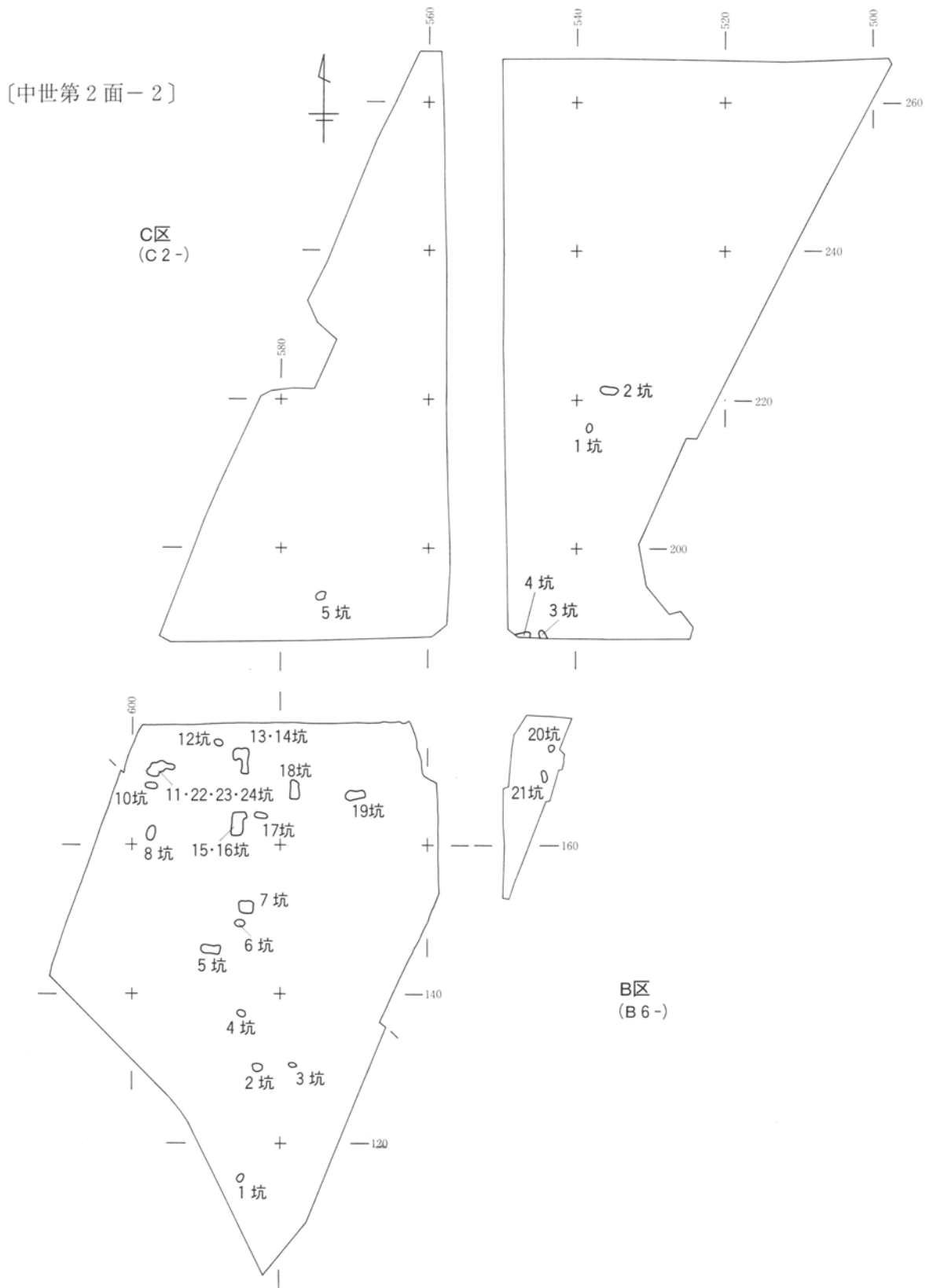
次に、これらの面の調査後As—B混土や直下のAs—B（V層：天仁元・1108年）を除去していく段階で全調査区から土坑多数、加えてD区では溝、E区では溝と道路跡を確認した。精査はAs—Bを完全に除去して行ったが、いずれも埋土に大量のAs—Bを含んでおり、天仁元年の浅間山噴火後の比較的近い時期の所産と考えられる。これらの遺構の上位部は、耕作により土壌が攪拌されてAs—B混土が形成されていくなかで消滅し、前述したこの層上面の遺構とともに確認することはできなかったものと思われる。なお、埋土に大量のAs—Bを含む遺構は古代末または中世に分類されるが、本遺跡の場合はこれらの遺構と後述する古代の遺構との間に関連性が希薄であるために中世のものとして扱う。

以上、中世の遺構は各調査区で複数の時期のものを確認したが、これらの名称は次のとおりとする。まず、E区の上位面を「中世第1面」とし、この面の水田跡を中世第1面水田とする。一方、As—B混土に関連した調査面や遺構群を一括して「中世第2面」とするが、E区の下位面他この層上面で確認された面を「中世第2面—1」、埋土に大量のAs—Bを含む遺構群を「中世第2面—2」と分類する。なお「中世第2面—1」の水田跡は中世第2面水田とする。

この時代の遺物は、完形の「土器」^{かわらけ}の他、青磁器や陶器の破片、木製の曲物の破片や板碑も出土している。

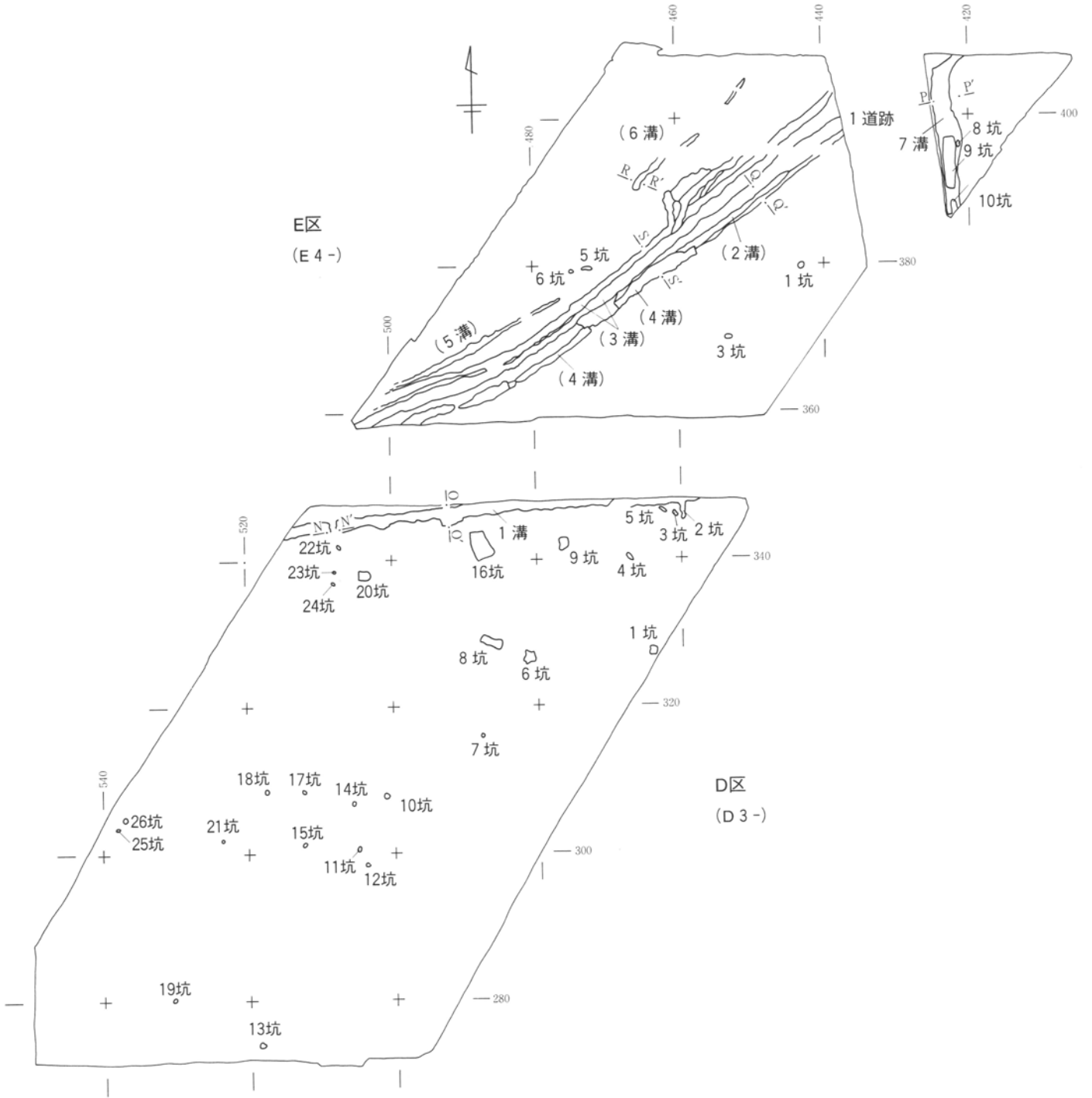


第44図 中世遺構配置図（3）



第45図 中世遺構配置図(4)

[中世第2面-2]



第46図 中世遺構配置図(5)

第3章 各時代の調査

2. 遺 構

(1) 水田跡

水田跡は上位から中世第1面水田、中世第2面—1水田の二時期の水田跡を確認した。両面とも一部の調査区での確認となり、残存状態も良好ではない。しかし、いずれも東西方向、南北方向に区画され、用水路と思われる溝も見つかっている。このうち、D区の中世第2面—1水田やE区の中世第1面・中世第2面—1の水田は、それぞれ同一の単位で区画が設けられた可能性が窺える。

①中世第1面水田（第47図 P L. 18）

E区のみで確認した。これは、中世の洪水で埋没した耕作面と思われる。

区画は中央部から南部、および北東部に位置している。上位からの掘り込みで壊される他、畦畔が途中で消滅する箇所もあるなど残存度は低く、完形の区画はない。確認された区画数は13を数えるが、推定の域を出ない。各区画のうち南北に隣り合うE2—1・4区画では、E2—1区画は北辺を、E2—4区画は南辺と西辺をそれぞれ溝によって区切っている。これらは東側のE2—1サク状遺構との境も不明瞭なことから、他の区画とは異なった目的を持っていた可能性もある。

また、このサク状遺構は調査区の南東端に位置している。畝跡の可能性が高いが、畝の形状などは確認できず断定はできない。「側道部」に連続しているため合わせて観察すると、サク1条は幅20~30cm、深さ3~7cm、走向はN—0°を示す。条数は推定13~14、サク間幅は残存が良好な部分で約70cm前後であるが、殆どのサクが断続していることから、他にも後世の削平を受けて確認できなくなったものがあると思われる。これらの区画やサク状遺構の具体的な規模はつかめなかったが、比較的状态のよいE2—2・5・8区画を手掛かりに、おおよそが推定できる。

まず、これらの区画の東西軸は約12mであり、東隣りのE2—1・4区画も同様である可能性が高い。さらにこの位置から順次東側に向かってE2—1サク状遺構の東西幅、この遺構東端からE2—12・13区画を区切る畦畔まで、さらにこの畦畔からE2—13区画の東辺の段差までが、いずれも約12m間隔であることが判る。また、上位からの掘り込み部分にE2—5・8区画を区切る東西畦畔の存在が予想される。その位置を近隣の区画との位置関係から推測した場合、E2—1サク状遺構の北辺を西に延長したライン（座標値でY=380）が妥当と思われる。この場合、両区画の南北軸は約12mとなる。一方、両区間に畦畔は存在せず一連のものであったとすると、これらの南北軸は東西軸の2倍の規模の約24mとなる。

以上、この水田跡には東西、南北両方向とも約12mを基本単位とした区画が設けられていたと推定できる。

なお、この水田跡の用水路にはE2—1・2溝が相当すると思われる。また、上位からの掘り込みの底部から「コ」の字状に屈曲するE2—3溝が確認された。この溝は、中世第1面水田よりも新しいものであるが、前述したE2—5・8区画境界の畦畔の推定位置であるY=380ラインを挟んで屈曲している。そのため、この水田跡と同様の区画がその後にも踏襲されていたことも推測できる。

E2—1溝 E区北東端の400—405G~405—405Gに位置する。走向はN—2°—E。確認長5.45m、幅85~133cm、深さ50~53cmで、断面は皿状。

E2—2溝 E区北西端の405—405Gに位置する。走向はN—4°—E。確認長4.0m、幅64~78cm、21~23cmで、断面は皿状。

E2—3溝 E区中央部の375—440~455Gに位置する。「コ」の字状に屈曲し、走向はN—84°—W、377—444G付近でN—4°—E、381—444G付近でN—88°—W。確認長35.6m、幅40~120cm、深さ7~20cmで、断面は逆台形。

②中世第2面水田（第42・43・48～52図 PL. 19～28）

B区、D区、E区で確認した。畦畔の残存が悪く完形の区画もないが、東西、南北方向に区画されていたことが判る。一部で人間の足跡が残存している。また、水田に伴う溝も多数確認できた。

まずE区では、北部以外で推定13区画を確認した。区画には溝や段差で区切られるものもあり、畦畔で区画されたものとは目的を違えていた可能性もある。これらの規模については、東西方向では南西部の南北畦畔から順次東側に向かいE3—7溝、E3—1～10区画の南北の畦畔や溝、E3—12区画東辺の段差とE3—29溝、さらにE3—32溝の西側の段差が約12mの距離で設けられている。このうちE3—1～10区画以东のものは、中世第1面水田E区の畦畔などとほぼ同位置にある。なお、上位からの掘り込み部分を挟んだ区画では南北畦畔や溝のラインが若干ずれており、中世第1面水田との相違が窺える。また、南北方向の規模は明瞭な東西畦畔が確認できないため推定はできない。なお、中世第1面水田で東西畦畔の存在が予想されたY=380ライン上にはE3—2溝が位置している。これにより、南北にも約12m単位の地割りがなされた可能性が窺える。

この水田跡に伴う溝は推定24条を数える。このうち前出のE3—7溝は直線的に南北走する大規模な溝である。東西両側には、直線的な溝数条（E3—5～10・14～16・27溝）が併走しており、この部分が水田の主要水路であった可能性が高い。その他、東西走または南北走する溝は配水や区画を規定する目的があったと思われるが、斜行したり確認長が短かったりするものの機能は特定できない。

次にD区では、北西隅で2区画を確認した。東西畦畔2条及び灰白色砂が入り込んだ人間の足跡が残存するのみである。このうちのD2—1区画の南北軸は約12mを測り、E区の二面の水田跡と同一規模で区画された可能性がある。

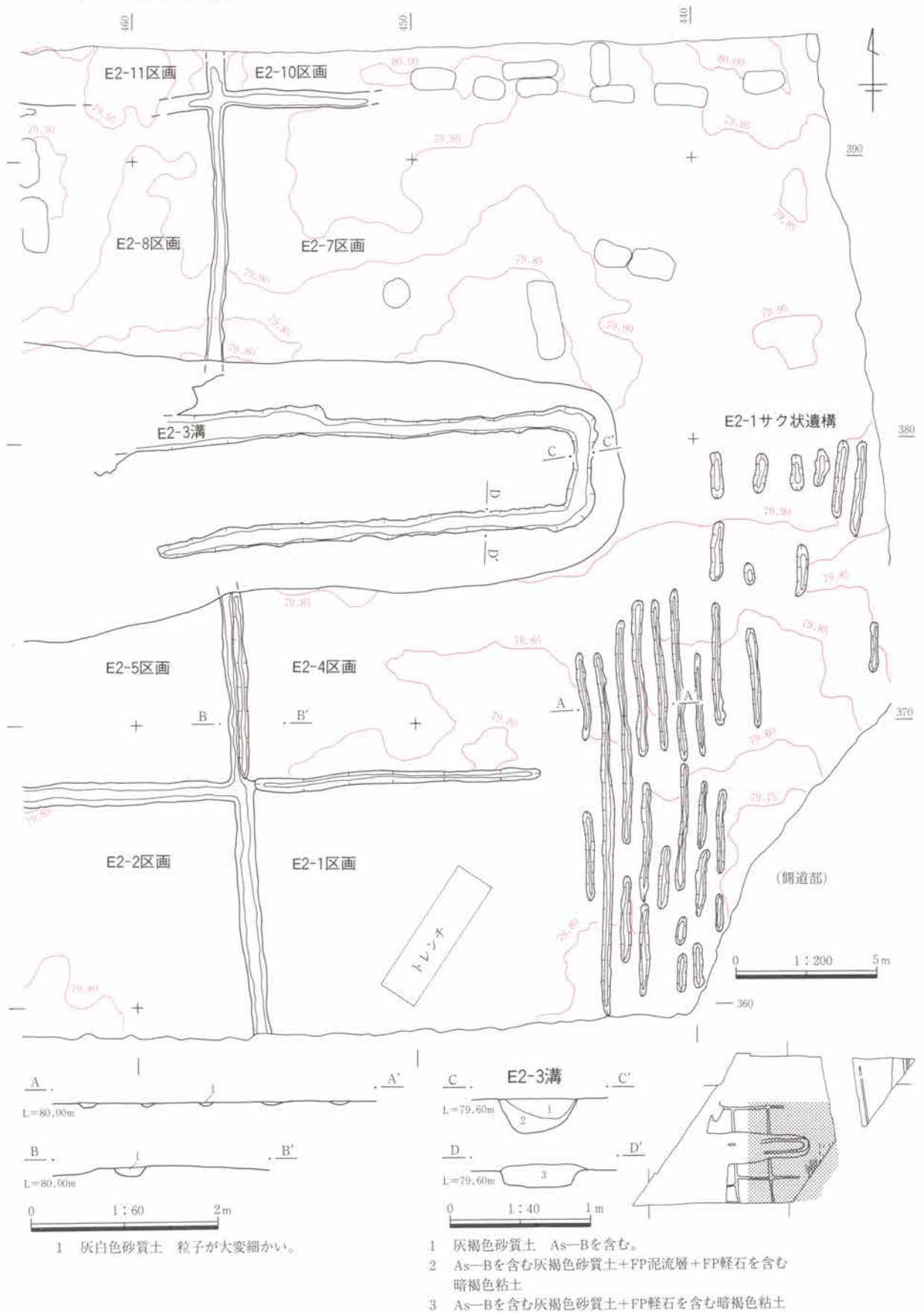
また、それ以外の部分全面には農具痕が残存している。個々の形状は半月状を呈しており黄橙色砂を鋤込んでいる。実際に作業された面はより上位に存在したと思われ、具体的な区画は確認できない。しかし、規則的に作業された様子が窺える部分も見られる。

まず、北西隅では水田区画周辺に農具痕の列10数条が残存している。特徴的な点は、このうちの数条が区画を囲むように北側では円弧状、西側では直線上を呈していることである。この円弧状の部分の内側にも約8条が残存するが、南側のものほど畦畔に併走するように直線的になっている。これは畦畔を避けて作業した状態と思われる。一方、西側の直線部分の内側にもこれと併走する数条が見られる。これらは畦畔を壊しており、特にD2—1・2区画を区切る畦畔の西側には、これを意図的に壊すように農具痕が集中する箇所もある。さらに、南側では直線的に東西走する数条が見られ、D2—2区画を壊している。

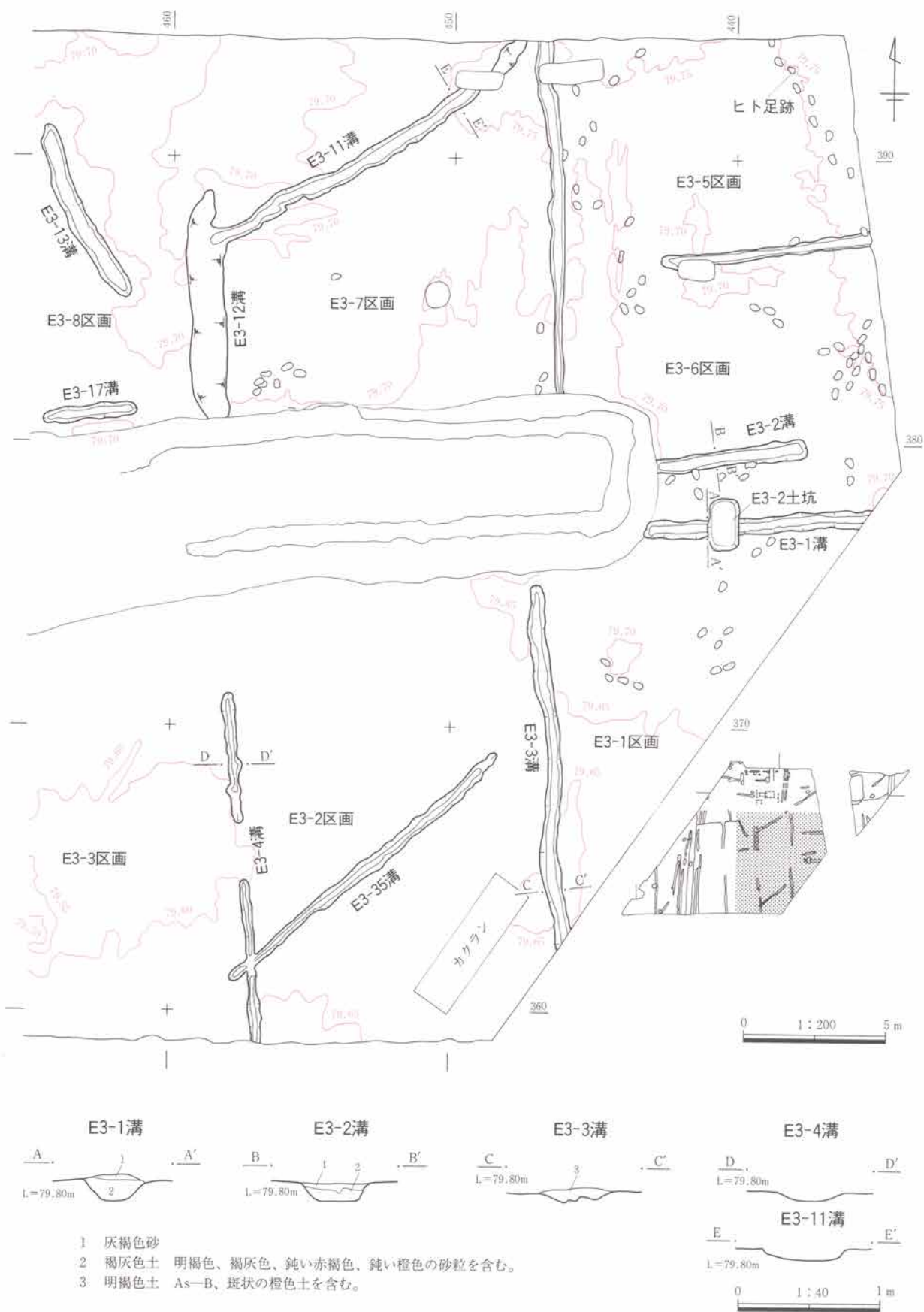
以上、この部分では既存の水田の一部を利用し、その他を作り替える造作がなされたことが示唆される。なお、水田区画の周囲をあたかも陸上競技場のトラックのように作業した点については、使用された農具の特徴によるものとも想像できるが、具体的な考察はできなかった。

一方、中央部には、直線的に東西走する長さ約15mの農具痕の列が約10cm間隔で併走しており、東西に2列、南北約35mにわたっている。この2列の間には南北畦畔が存在した可能性がある。なお、この水田に伴う溝は18条を数える。いずれも耕作痕より新しい時期のものであり、新たに作り替えた耕地に配水するためのものであろうか。このうちD区東部を南北に縦断するD2—1～3溝はE区のE3—7溝等の連続性が見られる。また北端部を東西走するD2—9・10溝とD2—20溝は畦畔と思われる高まりを挟んで併走している。走向や規模から、この水田跡の主要水路である可能性が高い。一方、南部のD2—6～8溝の溝群や南西隅のD2—11・12溝の溝群は、それぞれ「コ」の字や「L」字状に直角に折れた状態であり、耕地を区画

第3章 各時代の調査



第47図 中世第1面水田 E区南東部



第48図 中世第2面水田 E区南東部

第3章 各時代の調査

する役割があった可能性がある。また、D 2—17・18溝の位置は前述したD 2—1～3溝の西約12mに位置しており、E区の水田跡二面と同様な区割りがなされていたことが示唆される。

最後にB区北部では、推定13区画を確認した。畦畔の残存は悪く土色の違いで確認した部分もある。また、広範に灰白色砂の入り込む人間の足跡が残存している。その他、水田面には無数の凹凸が見られる。これらには黄褐色砂が入り込んでおり、足跡とは異なる時期のものと思われる。一部で農具痕と思われるものも見つかっている。その他、区画規模や遺構の連続性など、D区やE区の水田跡との関係は希薄である。

この水田に伴う溝は畦畔の両脇に位置するB 4—3・4溝である。またB 4—1・2溝は斜行し、畦畔を壊していることでこの水田の時期よりも新しいものと思われるが、具体的な機能は不明である。

以下にこの水田に伴う溝を、既出のものを含めて記載する。

B 4—1 溝 B区北部155—555 G～175—575 Gに位置する。走向はN—36°—W。確認長23.1 m、幅36～128 cm、深さ3 cmで、断面は浅い皿状。

B 4—2 溝 B区北部の150—560・565 G～170・175—585 Gに位置する。直線的で、走向はN—41°—W。確認長35.4 m、幅24～60 cm、深さ4～14 cm。底面に凹凸が残存。農具痕か。

B 4—3 溝 B区北西部の155—585 G～175—585 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—4°—W。確認長20.4 m、幅22～76 cm、深さ4～14 cmで、断面は皿状。須恵器、土師器の破片が出土。

B 4—4 溝 B区北西部の155—585 G～175—585 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—0°。確認長21.2 m、幅20～40 cm、深さ13～22 cmで、断面は浅い皿状。

D 2—1 溝 D区南東端から北東端の295—480 G～345—480 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—3°—E。確認長52.4 m、幅48～174 cm、深さ4～15 cmで、断面は浅い皿状。北側でD 2—5溝と交差、中央でD 2—1・4土坑と重複、これらより古い。須恵器、土師器の破片が出土。

D 2—2 溝 D区南東端から北東端の290—480 G～340—480 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—3°—E。確認長50.7 m、幅26～86 cm、深さ4～10 cmで、断面は浅い皿状。一部でD 2—3溝と重複、これより新しい。

D 2—3 溝 D区南東端から北東部の290—480 G～340—480 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—2°—E。確認長46.3 m、幅40～78 cm、深さ4～14 cmで、断面は浅い皿状。D 2—2溝より古い。底部のD 2—8・9・15土坑との新旧関係は不明。陶器の破片が出土。

D 2—4 溝 D区北東部の335—480 G～345—480 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—2°—E。確認長7.1 m、幅34～70 cm、深さ4～6 cmで、断面は浅い皿状。北端がD 2—5溝と重複、新旧関係は不明。

D 2—5 溝 D区北東端の345—470 G～345—480 Gに位置する。直線的で、走向はN—74°—E。確認長11.3 m、幅46～150 cm、深さ9～18 cmで、断面は皿状。D 2—1溝より新しく、D 2—4溝との新旧関係は不明。焼締陶器甕の破片が出土。

D 2—6 溝 D区南西端から南部の270—530 G～275—500 Gに位置する。「コ」の字状を呈し、走向は西側がN—4°—E、282—531 G付近から東はN—90°、282—502 G付近から南はN—11°—W。確認長48 m、幅60～100 cm、深さ9～17 cmで、断面は皿状か。D 2—7・8溝と隣接、これらより古い。東側ではD 2—17溝と交差、新旧関係は不明。また東部と西部でD 2—7・19土坑と重複、前者より古い。須恵器、土師器の破片が多数出土。

D 2—7 溝 D区南西端から南部の270—530 G～280—495 Gに位置する。「L」字状を呈し、走向は西側がN—0°、283—531 G付近から東はN—90°。確認長35.8 m、幅80～100 cm、深さ10～16 cmで、断面は浅い逆

台形か。D 2—6 溝より新しく、D 2—8 溝より古い。D 2—17 溝・19 土坑との新旧関係は不明。焼締陶器甕や須恵器、土師器の破片が出土。

D 2—8 溝 D 区南西端から南部の270—530 G～280—495 Gに位置する。「L」字状を呈し、走向は西側がN—0°、284—531 G付近から東はN—90°。確認長47.9 m、幅130～180 cm、深さ4～9 cmで、断面は浅い皿状。D 2—6・7 溝より新しい。D 2—17 溝・19 土坑との新旧関係は不明。須恵器の破片が出土。

D 2—9 溝 D 区北端から北西端の340—510 G～345—480 Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—86°—E。確認長30 m、幅20～110 cm、深さ2～16 cmで、断面はごく浅い皿状か。北側がD 2—10 溝と重複、これより古い。また、中央部でD 2—16・17 土坑と重複、新旧関係は不明。軟質陶器播り鉢の破片が出土。

D 2—10 溝 D 区北端から北西端の340—510 G～345—480 Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—86°—E。確認長30.2 m、幅50～100 cm、深さ15～25 cmで、断面は皿状。D 2—9 溝より新しい。D 2—16・17 土坑との新旧関係は不明。土師器の破片が出土。

D 2—11 溝 D 区南西隅の270—530 G～275—545 Gに位置する。「L」字状を呈し、走向は東側でN—3°—W、280—533 G付近から西はN—87°—E。確認長24.2 m、幅50～174 cm、深さ6～12 cmで、断面は浅い箱形。東側でD 2—12 溝と隣接、これより新しい。陶器の破片、金属製品が出土。

D 2—12 溝 D 区南西隅の270—535 G～275—535 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—0°。確認長7.9 m、幅230～250 cm、深さ8 cmで、断面はごく浅い。D 2—11 溝より古い。

D 2—17 溝 D 区南部の270—500 G～300—500 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—0°。確認長23.3 m、幅20～56 cm、深さ6～8 cmで、断面は浅い皿状。中央部でD 2—6・7・8 溝と交差、新旧関係は不明。青磁器の破片が出土。

D 2—18 溝 D 区北端から北西端の330—495 G～340—495 Gに位置する。走向はN—4°—W。確認長11.7 m、幅60～86 cm、深さ4～12 cmで、断面は浅い皿状。北端でD 2—16 土坑と重複、新旧関係は不明。

D 2—20 溝 D 区北西端の345—500 G～345—510 Gに位置する。北岸が調査区外に懸かり、走向はN—86°—E。確認長7 mで、断面は逆台形か。

E 3—1 溝 E 区東部の375—435 G～375—440 Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—88°—E。確認長9.1 m、幅52～60 cm、深さ10～12 cmで、断面は逆台形。E 3—2 土坑と重複、これより古い。

E 3—2 溝 E 区東部の375・380—435 G～375—440 Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN—81°—E。確認長5.3 m、幅50～72 cm、深さ11～15 cmで、断面は逆台形。

E 3—3 溝 E 区南東端から東部の360—445 G～375—445 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—5°30′—W。確認長12 m、幅40～66 cm、深さ4～7 cmで、断面はごく浅い皿状。

E 3—4 溝 E 区南端から中央部の355—455 G～370—455 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—6°—W。確認長10.2 m、幅20～48 cm、深さ6～10 cmで、断面は浅い皿状。南部でE 3—35 溝と交差、新旧関係は不明。

E 3—5 溝 E 区南西端から西部の355—475 G～375—475 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—4°—E。確認長20.0 m、幅58～94 cm、深さ5～9 cmで、断面は逆台形。

E 3—6 溝 E 区南西端から西部にかけての355—475 G～370—475 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—4°—E。確認長15.6 m、幅22～50 cm、深さ7～11 cmで、断面はごく浅い皿状。

E 3—7 溝 E 区南西端から西隅の355—480 G～390—475 Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—4°—E。確認長34.4 m、幅150～220 cm、深さ37～49 cmで、断面は箱形。北部でD 2—27 溝と重複、これよ

第3章 各時代の調査

り古い。中央部及び北部のE3-1井戸・10土坑との新旧関係は不明。須恵器、土師器の破片が出土。

E3-8溝 E区南西端から西端の355-480G~370-480Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN-5°-E。確認長16.0m、幅30~60cm、深さ2~4cmで、断面はごく浅い皿状。北側はE3-27溝と連続か。E3-10土坑との新旧関係は不明。

E3-9溝 E区西隅の355-485G~375-480Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN-2°-Eを示す。確認長18.3m、幅46~86cm、深さ5~10cmで、断面は浅い逆台形。北端部でE3-4土坑と重複、新旧関係は不明。

E3-10溝 E区南西隅の355-490G~375-485Gに位置する。断続して「く」字状を呈し、走向は南側はN-32°-E、366-487G付近から北はN-10°-E。確認長19.2m、幅28~112cm、深さ6~8cmで、断面は浅い逆台形。南端でE3-5井戸と北端でE3-4土坑とそれぞれ重複、このうちE3-5井戸より古い。

E3-11溝 E区中央部の385-455G~390-445Gに位置する。直線的であり、走向はN-57°-E。確認長12.0m、幅32~70cm、深さ1~8cmで、断面は浅い皿状。西端部でE3-12溝と重複、新旧関係は不明。

E3-12溝 E区中央部の380-455G~385-455Gに位置する。直線的に南北し、走向はN-0°。確認長7.9m、幅46~102cm、深さ1~2cmで、断面はごく浅い。E3-11溝との新旧関係は不明。

E3-13溝 E区中央部の385-460Gに位置する。走向はN-27°-W。確認長6.6m、幅56~68cm、深さ4~15cmで、断面はごく浅い。

E3-14溝 E区西隅の380-475G~390-475Gに位置する。走向はN-11°-E。確認長4.6m、幅32~94cm、深さ5~6cmで、断面はごく浅い。

E3-15溝 E区西隅の385-475G~390-475Gに位置する。走向はN-9°-E。確認長5.4m、幅32~50cm、深さ7cmで、断面は皿状。

E3-16溝 E区西部の380-475G~385-475Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN-0°。確認長7.6m、幅23~42cm、深さ6~7cmで、断面はごく浅い逆台形。

E3-17溝 E区中央部の380-440Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN-84°-E。確認長3.2m、幅32~50cm、深さ5cmで、断面は浅い皿状。

E3-27溝 E区北東隅の375-480G~390-480Gに位置する。走向はN-11°-E。確認長15.4m、幅24~52cm、深さ10~14cm。E3-7溝・10土坑と重複、このうちE3-7溝より新しい。

E3-28溝 E区北東部の395-420Gに位置する。走向はN-78°-E。確認長3.7m、幅70~130cm、深さ12~14cmで、断面は浅い皿状。

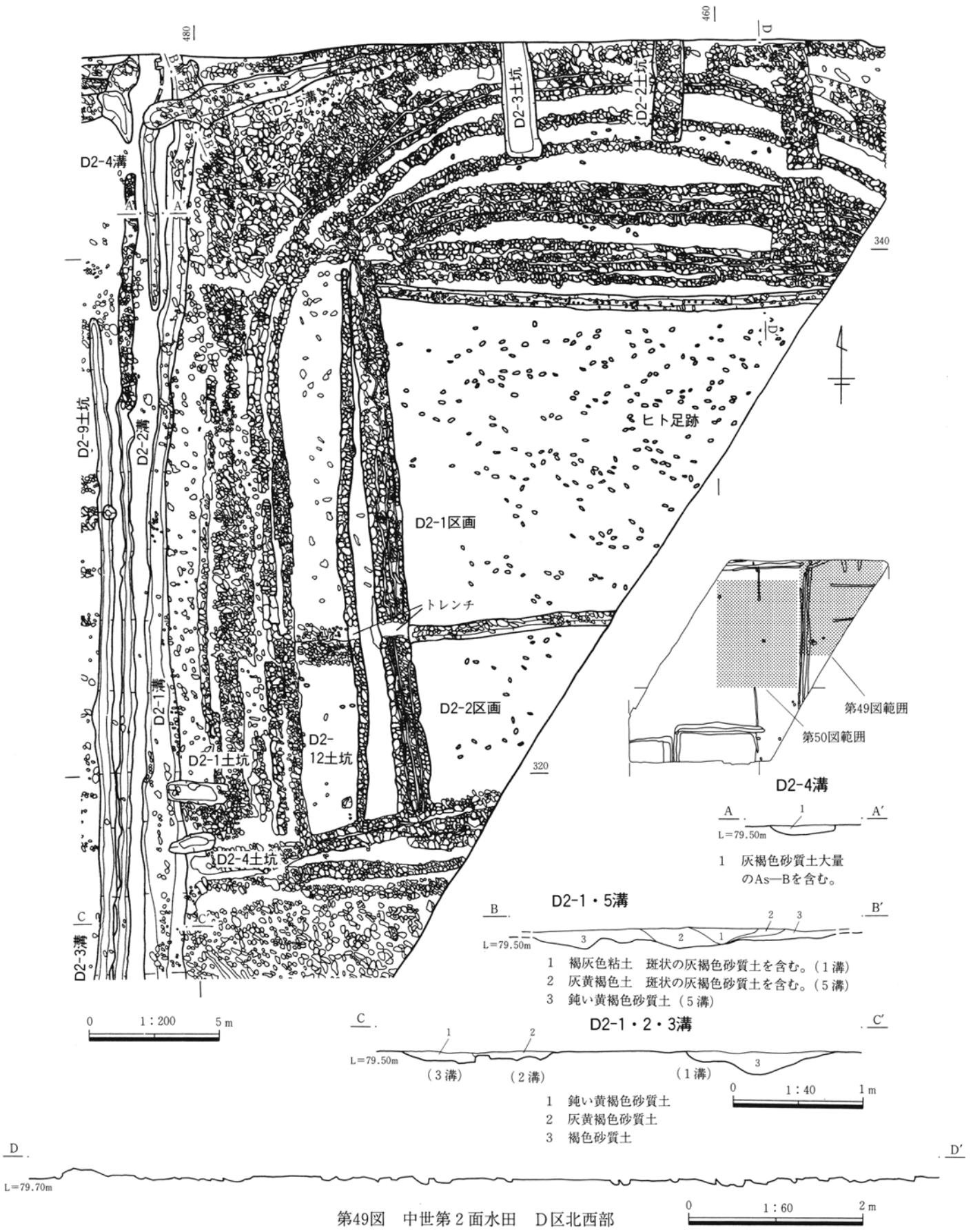
E3-29溝 E区北東部の385-390G~390-420Gに位置する。走向はN-10°-W。確認長4.9m、幅34~50cm、深さ5~7cmで、断面は浅い皿状。

E3-30溝 E区北東部の400-415G~405-410Gに位置する。直線的であり、走向はN-52°30'-E。確認長6.2m、幅34~44cm、深さ6~9cmで、断面は逆台形。

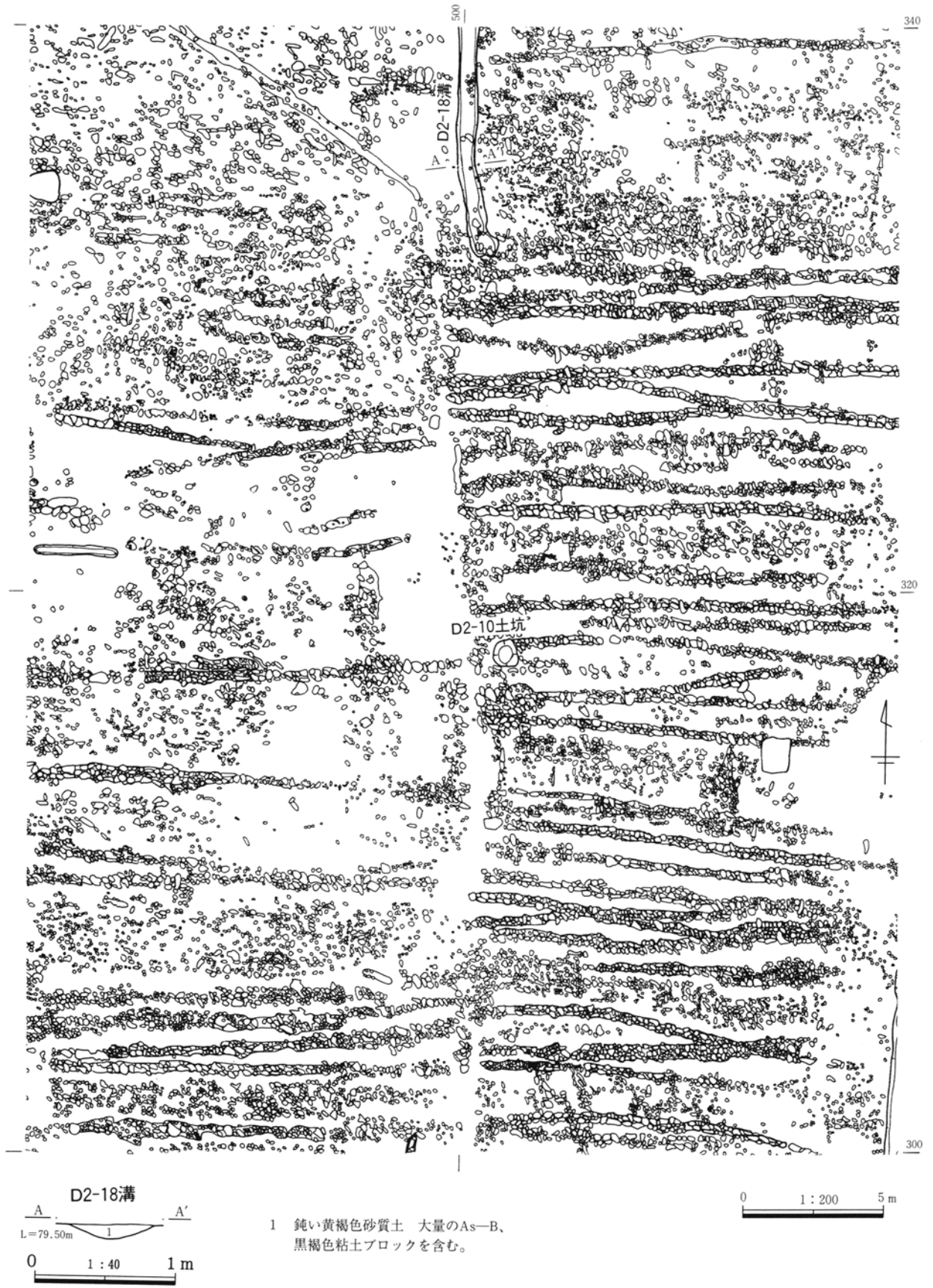
E3-31溝 E区北東部の400-410Gに位置する。走向はN-21°-W。確認長1.8m、幅18~28cm、深さ6cmで、断面はごく浅い。

E3-32溝 E区北東隅の400-405・410G~405-405・410Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN-0°。確認長5m、幅36~70cm、深さ20cmで、断面は皿状か。

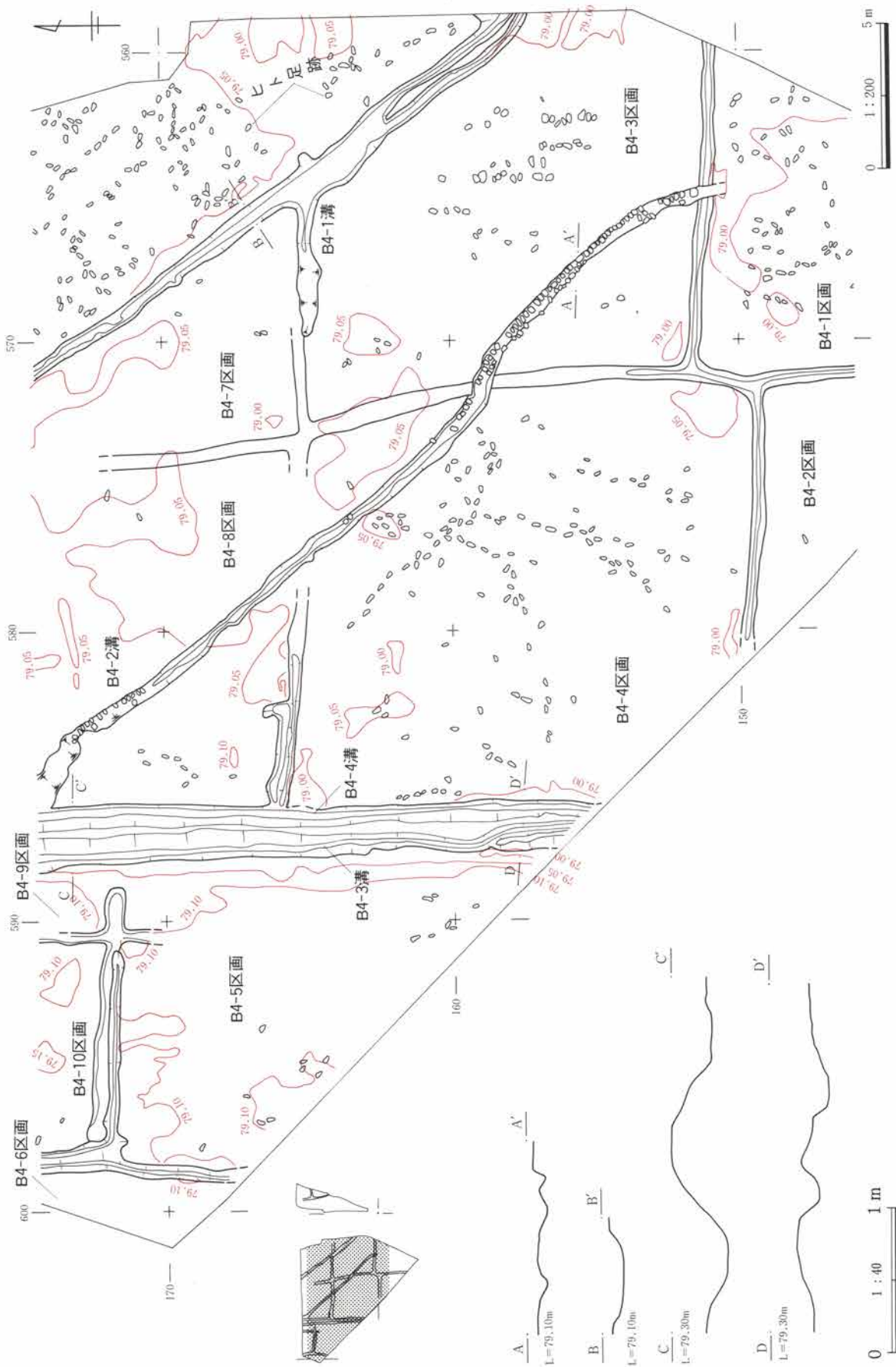
E3-35溝 E区南東部の360-455G~365-445Gに位置する。走向はN-50°-E。確認長12.6m、幅20cmで断面は皿状。E3-4溝との新旧関係は不明。



第49図 中世第2面水田 D区北西部

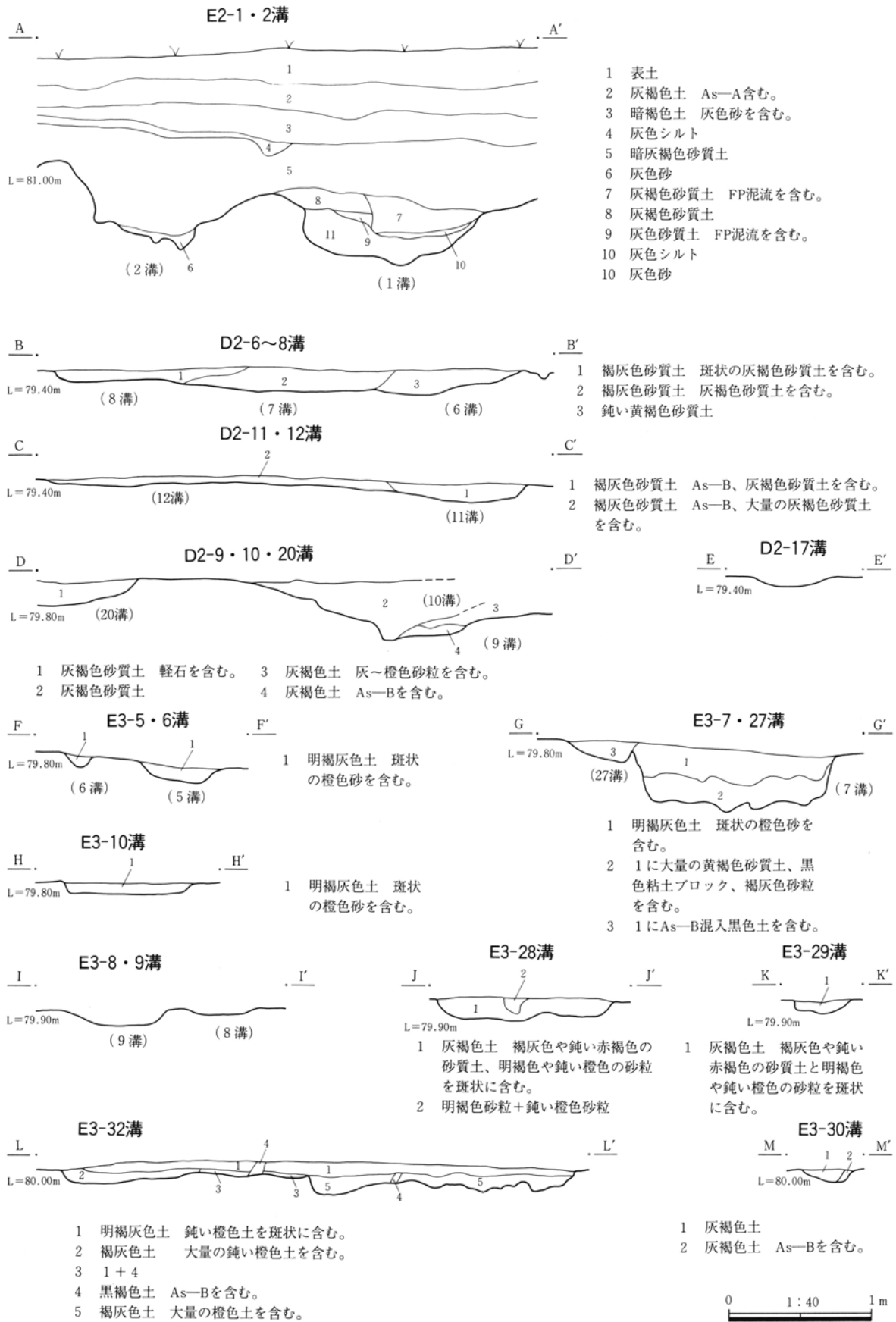


第50図 中世第2面水田 D区中央部



第51図 中世第2面水田 B区中央部

第3章 各時代の調査



第52図 「中世第1面・第2面-1」溝断面

【中世第1面水田 区画計測表】

①E区 (E2-)

番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位
1	—	(10.6)	—	—	2	—	(11.5)	—	—	3	—	—	—	—
4	—	(14.0)	—	—	5	—	(11.7)	—	—	6	—	—	—	—
7	—	—	—	—	8	—	(12.0)	—	—	9	—	—	—	—
10	—	—	—	—	11	—	—	—	—	12	—	—	—	—
13	—	—	10.6	N-5°-W										

【中世第2面水田 区画計測表】

①B区 (B4-)

番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位
1	—	—	—	—	2	—	—	—	—	3	—	(14.0)	—	N-3°-W
4	218.6	15.3	14.5	N-2°-W	5	—	—	10.6	N-2°-E	6	—	—	—	—
7	—	—	—	—	8	—	11.6	—	N-90°	9	—	—	2.1	N-0°
10	—	(7.3)	—	N-60°-W	11	—	—	—	—	12	—	—	—	—
13	—	—	—	—										

②D区 (D2-)

番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位
1	—	—	11.5	N-88°-E	2	—	—	—	—					

③E区 (E3-)

番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^{m²}	長径 ^m	短径 ^m	長径方位
1	—	—	—	—	2	—	—	—	N-2°-W	3	—	—	—	N-2°-W
4	—	—	5.0	N-0°	5	—	—	—	—	6	—	—	—	—
7	—	(11.7)	—	—	8	—	(11.3)	—	—	9	—	—	—	—
10	—	—	4.6	—	11	—	—	—	—	12	—	(8.3)	—	—
13	—	—	—	—										

(2) 掘立柱建物跡・柱穴列・柱穴

掘立柱建物跡は「中世第2面—1」、「同一—2」で確認した。

①「中世第2面—1」(第53・54図 PL. 28・29)

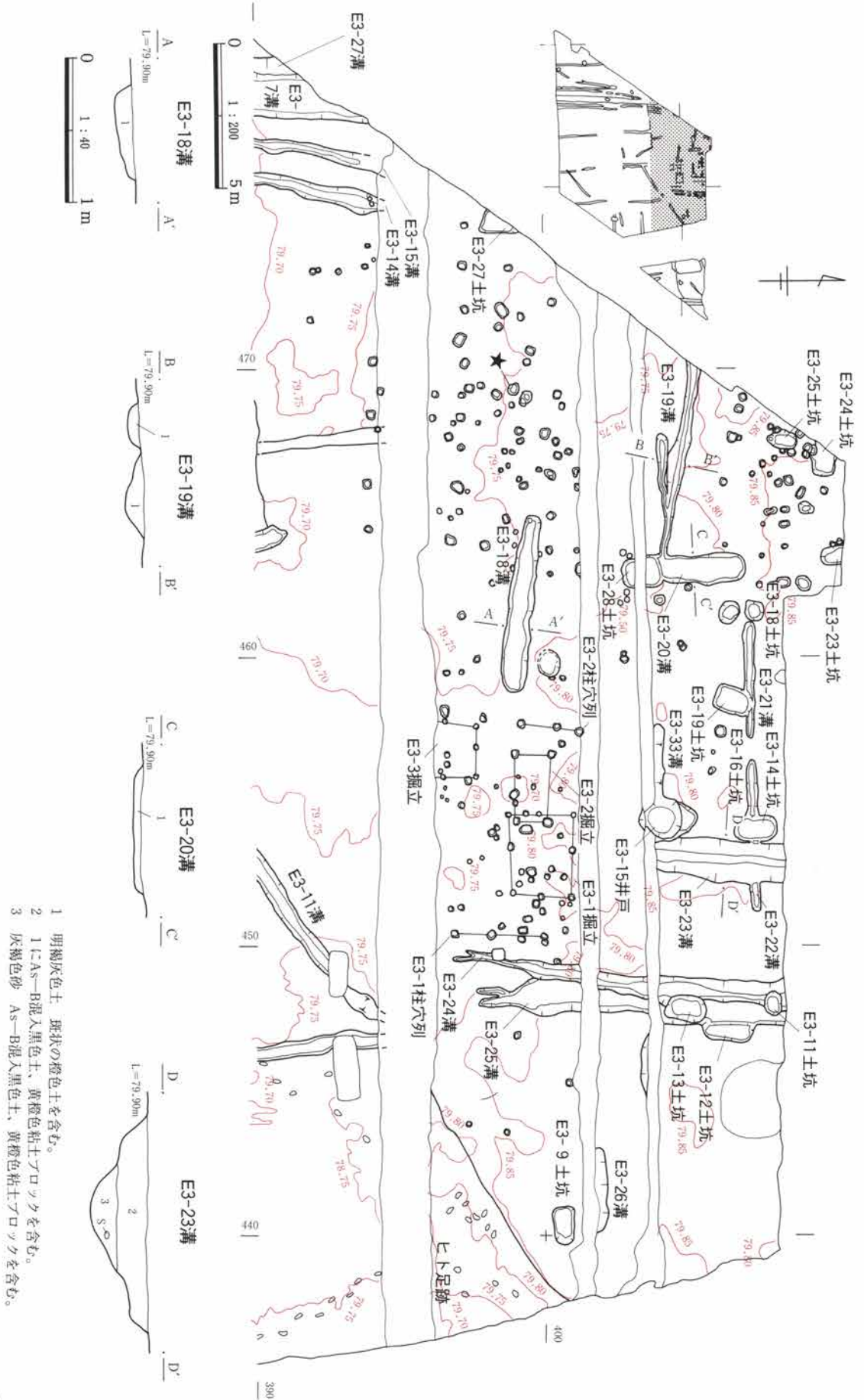
E区北部で約160個の柱穴を確認した。当初は明瞭な掘立柱建物跡は確認できず、柱穴の規模や形状、柱穴間の距離を手掛かりにプランを推定していった。その結果、掘立柱建物3棟、柱穴列2列を確認した。従って、実際の状態とは異なる部分もあると思われる。その他、この部分には多数の掘立柱建物跡が存在したはずであるが、特定はできなかった。遺物は、柱穴痕内から陶器合子蓋が出土した。その他須恵器、土師器の破片が見ついている。

E3—1 掘立柱建物 E区北部の395・400—450Gに位置する。東西2間×南北2間(約2.8m×約2.2m)の東西棟であり、梁西側列のP5は補助的なものか。梁方向はN—1°—Eだが、P7・P8が南に偏るため台形状に歪む。柱間寸法は、桁行P1・P2・P3が1.2m—1.6m、P7・P8・P9が1.15m—1.55m。

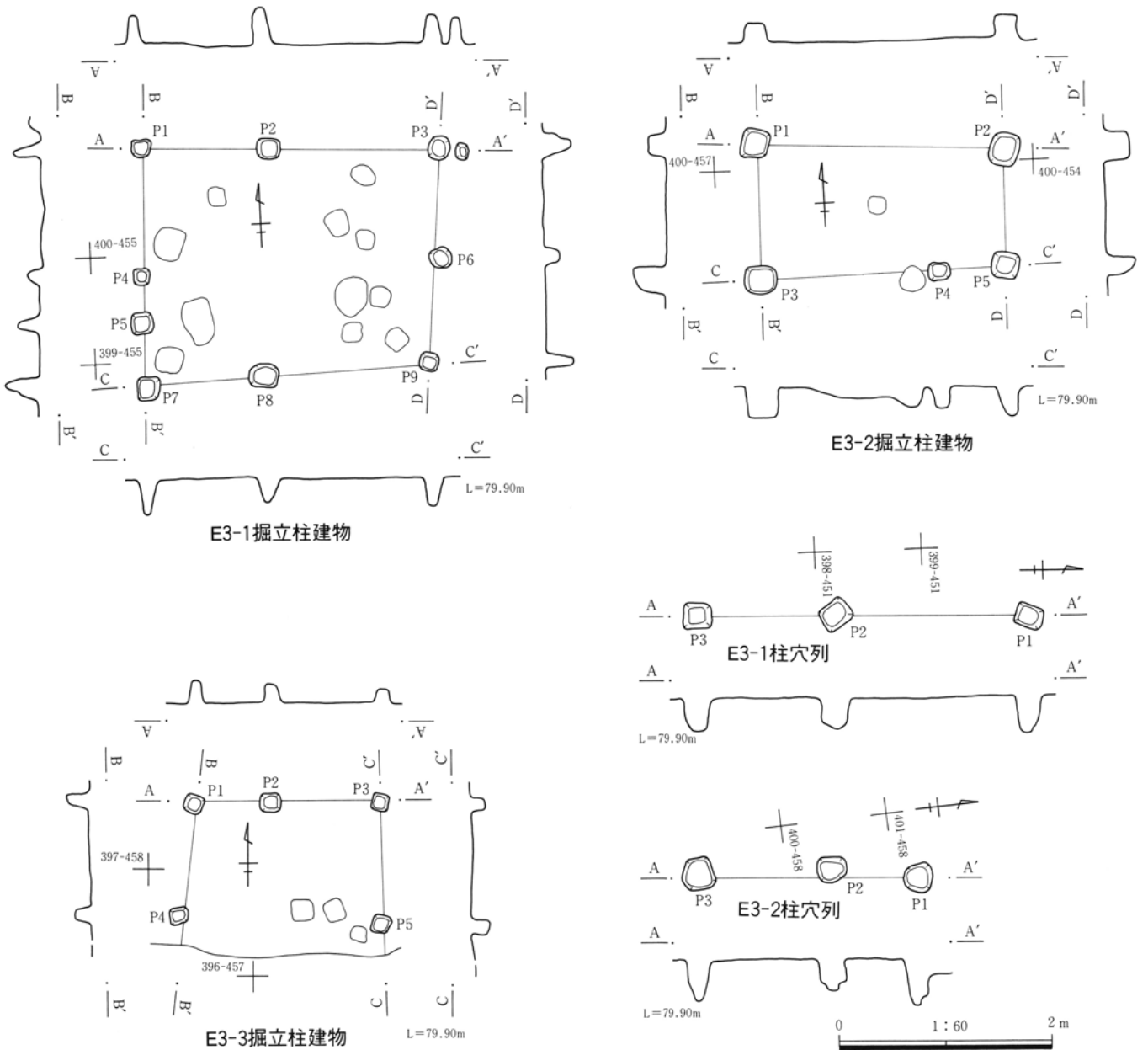
梁行はP1・P4・P5・P7が1.2m—0.4m—0.6m、P3・P6・P9が1.0m—1.05m。柱穴は径15～24cmの方形で、深さは14～33cm。E3—2 掘立柱建物と重複。

E3—2 掘立柱建物 E区北部の395～400—450～455Gに位置する。東西1間×南北1間(約2.3m×約1.2m)の東西棟である。桁南側列のP4は補助的なものか。梁方向はN—0°だが、P2が南に偏るため台形状に歪む。柱間寸法は、桁行P1・P2が2.3m、P3・P4・P5が1.7m—0.6m。梁行P1・P3が1.25m、P2・P5が1.1m。柱穴は径16.5～32.0cm程度の方形で、深さは17～28cm。E3—1 掘立柱建物と重複。

E3—3 掘立柱建物 E区北部の395—445Gに位置する。南部が上位の遺構に壊され全形は不明だが、東西2間(約1.7m)の南北棟になるか。桁方位はN—0°だが、P4が西に偏るため台形状に歪む。柱間寸法は、



第53図 「中世第2面—1」 E区北部



第54図 「中世第2面-1」掘立柱建物、柱穴列

P1・P2・P3が0.7m—1.0m、P1・P4が1.1m、P3・P5が1.15m。柱穴は径15.5～19cmの方形で、深さは12.0～21.5cm。

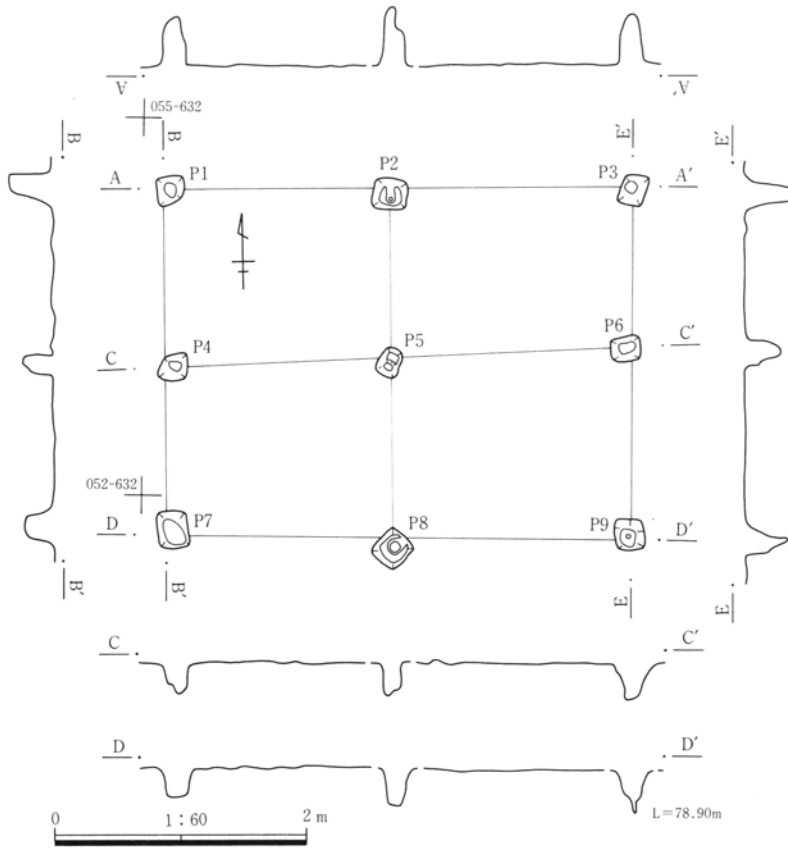
E3-1柱穴列 E区北部の395—450Gに位置する。方位はN—0°。柱間寸法は北から1.8m—1.3m。柱穴は径21～29cmの方形で、深さは29.5～35.0cm。

E3-2柱穴列 E区北部の395・400—455Gに位置する。方位はN—2°—E。柱間寸法は北から0.8m—1.25m。柱穴は径24～30cmの方形で、深さは31～35cm。

②「中世第2面-2」(第55図 PL. 30)

A区で1棟のみを確認した。

A2-1掘立柱建物 A区の050—625・630Gに位置する。東西2間×南北2間(約3.8m×約2.7m)の東西



第55図 A 2 - 1 掘立柱建物

棟総柱である。梁方向はN-0°だが、P5が南にP6が北にそれぞれ偏るため、桁中央列に偏る。柱間寸法は、桁行P1・P2・P3が1.75m—1.9m、P4・P5・P6が1.75m—1.9m、P7・P8・P9が1.8m—1.9m。梁行P1・P4・P7が1.4m—1.3m、P2・P5・P8が1.35m—1.4m。P3・P6・P9が1.3m—1.5m。柱穴は径21~30cmの方形で、深さは25~35cm。柱痕は断面から径8cm程度か。北辺の外側約50cmの位置にはこれと平行する帯状の凹凸が見られる。この建物を造成する際の痕跡とも思われるが推測の域を出ない。

(3) 溝

水田跡に伴う以外の溝は「中世第2面—1」、「同—2」で確認した。

①「中世第2面—1」(第53図 P L. 29)

E区で10条を確認した。大部分がE区北部にあり、前述した掘立柱建物その他柱穴群と関連する可能性もあるが具体的な点は確認できなかった。

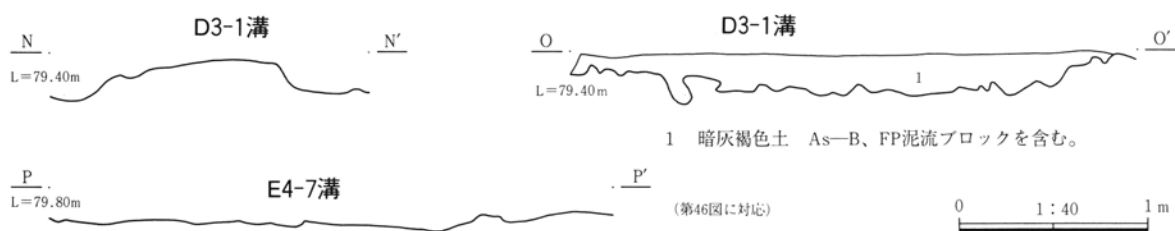
E 3—18溝 E区北西部の395—455G~395—460Gに位置する。走向はN-81°-W。確認長6.1m、幅58~86cm、深さ8~10cmで、断面は浅い逆台形。

E 3—19溝 E区北西隅の400—460G~405—470Gに位置する。2条の溝からなり、全体的な走向はN-78°-W。確認長6.7m、幅18~68cm、深さ11~19cmであり、断面は皿状。東端部でE 3—20溝と重複、新旧関係は不明。

E 3—20溝 E区北西隅の400—460G~405—460Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN-0°。確認長3.2m、幅90~106cm、深さ5~11cmで、断面はごく浅い逆台形。南端でE 3—28土坑と重複、新旧関係は不明。

E 3—21溝 E区北西部の405—455G~405—460Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN-90°。確認長4.1m、幅26~40cm、深さ4~8cmで、断面は皿状。E 3—17土坑と重複、これより古い。須恵器の破片が出土。

E 3—22溝 E区北部の405—450G~405—455Gに位置する。直線的に東西走し、走向はN-90°。確認長5.2m、幅30~40cm、深さ6cmで、断面は逆台形。中央部でE 3—23溝・14土坑と交差、後者より新しい。



第56図 「中世第2面-2」溝断面

E 3—23溝 E区北部の400—450G～405—450Gに位置する。直線的に南北走り、走向はN—3°—E。確認長4.6m、幅128～156cm、深さ34～38cmである。壁面に段を持ち、数回にわたり掘削されたか。E 3—15土坑と重複、新旧関係は不明。

E 3—24溝 E区北東隅の395—445G～405—445Gに位置する。走向はN—6°—E。確認長11.8m、幅12～66cm、深さ11～23cmで、断面は皿状。E 3—25溝、11・12・13土坑と重複、前二者より新しい。

E 3—25溝 E区北東隅の395—445G～405—445Gに位置する。走向はN—3°—E。確認長10.7m、幅18～130cm、深さ6～11cmで、断面は皿状か。E 3—24溝より古い。

E 3—26溝 E区の北東部400—440Gに位置する。直線的に東西走り、走向はN—90°。上位の遺構に壊され全形は確認できないが、確認長2.8mである。

E 3—33溝 E区北西部の400—455Gに位置する。上位の遺構に壊され全形は確認できないが、走向はN—90°。確認長2.8m、深さ12cm。東部でE 3—15井戸と重複、これより古い。

② 「中世第2面-2」(第46・56図 P L. 30)

D区で1条、E区で1条、計2条を確認した。それぞれ東西走、南北走する大規模なものである。このうち、D 3—1溝は中世第2面水田の用水路のD 2—9・10・18溝の直下に位置している。従って、2条とも中世第2面水田からAs—B下面の水田跡(後述)の中間の時期に用水路として機能していた可能性がある。

D 3—1溝 D区北東端から南西端の345—455G～340・345—510Gに位置する。大半が調査区外に懸かり、走行はN—86°—W。確認長57m、幅60～240cm、深さ12～18cmで、断面は浅い皿状。

E 4—7溝 E区北東部の385—420G～405—420Gに位置する。西岸が調査区外に懸かり、走向はN—3°—W。確認長21.6m、幅340cm、深さ7～36cmで、断面は浅い箱形。

(4) 井戸(第57図 P L. 31)

井戸は「中世第2面-1」でD区1基、E区3基、計4基を確認した。いずれも素掘りの井戸である。

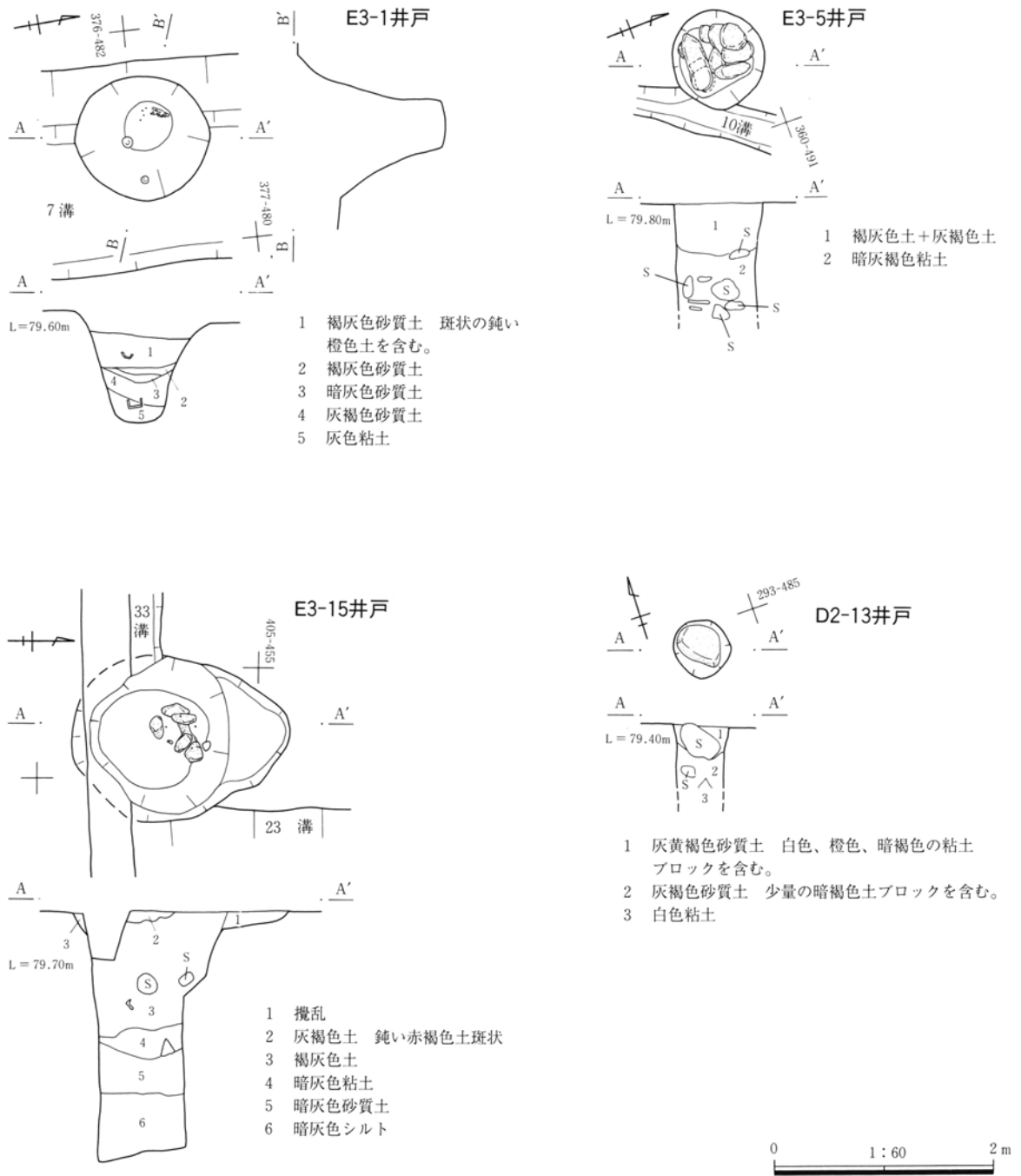
D 2—13井戸 D区南東隅の290—485Gに位置する。長径0.54m、短径0.48m、深さ55cmの楕円形で、長径方位はN—21°—E。径約45cmの礫が出土。

E 3—1井戸 調査区西部の375—480Gに位置する。長径1.24m、短径1.10m、深さ96cmの円形で、長径方位はN—9°—E。断面は緩やかな漏斗状。D 2—7溝の内部にあるが新旧関係は不明。完形の「土器」、^{かわらけ}残存の悪い木製曲物、モモの種が出土。

E 3—5井戸 調査区北西隅の355—490Gに位置する。長径0.94m、短径0.82mの楕円形で、長径方位はN—79°—W。E 3—1溝と重複、これより新しい。板碑、大形の礫複数出土。

E 3—15井戸 調査区北部の400—450Gに位置する。長径2.00m、短径1.40m、深さ216cmの楕円形で、長径方位はN—77°—W。E 3—33溝と重複、これより新しい。木片や炭化米が出土。

第3章 各時代の調査



第57図 「中世第2面-1」井戸

(5) 土坑

土坑は「中世第2面-1」、「同一-2」から多数を確認した。

① 「中世第2面-1」(第58~62図 PL. 32~36)

D区で18基、E区で22基、計40基を確認した。東西、南北方向のものが多くがいずれも機能は不明である。

D2-1土坑 D区東部の315-475・480Gに位置する。長径2.5m、短径0.84m、深さ36cmの長方形で、長径方位はN-88°-W。断面は皿状。D2-1溝と重複、これより新しい。

D2-2土坑 D区北東端の340・345-460Gに位置する。南端が調査区外に懸かり、短径1.14m、深さ6cmの長方形か。長径方位はN-0°。断面は浅い箱形で、底面に農具痕が残存。

D 2—3 土坑 D区北東端の340・345—465 Gに位置する。南端が調査区外に懸かり、短径1.20m、深さ26cmの長方形か。長径方位はN—6°—W。断面は逆台形。

D 2—4 土坑 D区東部の315—475・480 Gに位置する。長径1.78m、短径0.66m、深さ14cmの長楕円形で、長径方位はN—74°—E。断面は箱形。D 2—1 溝と重複、これより新しい。

D 2—5 土坑 D区南端の270—495 Gに位置する。長径1.32m、短径0.46m、深さ50cmの長楕円形で、長径方位はN—24°—E。断面は掘り鉢状。

D 2—6 土坑 D区南端の280—490 Gに位置する。長径0.95m、短径0.65m、深さ34cmの楕円形で、長径方位はN—81°—E。断面は掘り鉢状。須恵器高台付碗の破片が出土。

D 2—7 土坑 D区南隅の280—495・500 Gに位置する。長径1.80m、短径0.70m、深さ8cmの隅丸長方形で、長径方位はN—80°—W。断面はごく浅い。D 2—6 溝と重複、これより新しい。

D 2—8 土坑 D区東部の305—480 Gに位置する。長径0.60m、短径0.46m、深さ32cmの不整形で、長径方位はN—27°—W。断面は掘り鉢状。D 2—3 溝の内部にあるが新旧関係は不明。

D 2—9 土坑 D区北東部の325・330—480 Gに位置する。長径0.54m、短径0.50m、深さ30cmの円形で、長径方位はN—20°—E。断面は掘り鉢状。D 2—3 溝の内部にあるが新旧関係は不明。

D 2—10土坑 D区中央部の315—495 Gに位置する。長径1.04m、短径0.72m、深さ36cmの楕円形で、長径方位はN—18°—E。断面は逆台形で、底面に窪みを持つ。

D 2—11土坑 D区南東部の295—480 Gに位置する。長径0.47m、短径0.30m、深さ36cmの長楕円で、長径方位はN—13°—E。断面は掘り鉢状で、底面に窪みを持つ。

D 2—12土坑 D区東隅の315—470 Gに位置する。長径0.48m、短径0.32m、深さ12cmの不整形で、長径方位はN—40°—E。断面は掘り鉢状。

D 2—14土坑 D区南東隅の290—485 Gに位置する。長径0.64m、短径0.38m、深さ20cmの楕円形で、長径方位はN—73°—E。断面は掘り鉢状。

D 2—15土坑 D区南東隅の290—480 Gに位置する。長径0.35m、短径0.35m。深さ18cmの円形で、長径方位はN—0°。D 2—3 溝の内部にあるが新旧関係は不明。

D 2—16土坑 D区北隅の345—500 Gに位置する。長径2.10m、短径0.64m、深さ24cmの隅丸長方形で、長径方位はN—0°。断面は逆台形。D 2—9・10・18溝と重複、新旧関係は不明。

D 2—17土坑 D区北隅の340・345—500 Gに位置する。長径2.30m、短径0.50m、深さ50cmの長楕円形で、長径方位はN—0°。断面は皿状。D 2—9・10溝と重複、新旧関係は不明。

D 2—18土坑 D区北西隅の330—510・515 Gに位置する。長径1.36m、短径1.14m、深さ74cmの円形である。断面は箱形。

D 2—19土坑 D区南西隅の280—530 Gに位置する。長径0.90m、短径0.80m、深さ28cmの楕円形で、長径方位はN—42°—W。断面は緩やかな掘り鉢状。D 2—6～8 溝と重複、新旧関係は不明。

E 3—2 土坑 E区東部の375—435・440 Gに位置する。長径1.90m、短径1.10m、深さ11cmの隅丸長方形で、長径方位はN—9°—W。断面は浅い皿状。E 3—1 溝と重複、これより新しい。

E 3—3 土坑 E区西隅の380—480 Gに位置する。長径1.36m、短径0.72m、深さ10cmの楕円形で、長径方位はN—76°—E。断面は浅い皿状。

E 3—4 土坑 E区西部の375—480 Gに位置する。長径2.18m、短径1.12m、深さ18cmの隅丸長方形で、長径方位はN—11°—E。断面は浅い箱形。E 3—9・10溝と重複、新旧関係は不明。

第3章 各時代の調査

E 3—6 土坑 E 区の西隅の365—490 G に位置する。長径1.32 m、短径1.04 m、深さ10 cmの楕円形で、長径方位はN—80°—E。断面は浅い皿状。

E 3—9 土坑 E 区北東隅の400—435・440 G に位置する。長径1.30 m、短径0.72 m、深さ14 cmの隅丸長方形で、長径方位はN—79°—E。断面は浅い逆台形。

E 3—10 土坑 E 区西部の380—480 G に位置する。長径1.40 m、短径0.64 m、深さ10 cmの長方形で長径方位はN—82°—W。E 3—7・27溝と重複、新旧関係は不明。

E 3—11 土坑 E 区北隅の405—445 G に位置する。長径0.82 m、短径0.62 m、深さ22 cmの楕円形で、長径方位はN—83°—E。E 3—24・25溝の内部にあるが新旧関係は不明。

E 3—12 土坑 E 区北部の405—445 G に位置する。E 3—24・25溝と重複し、深さ16 cmの隅丸長方形か。断面は浅い皿状。E 3—24溝より古い。

E 3—13 土坑 E 区北部の400・405—445 G に位置する。長径1.46 m、短径0.92 m、深さ30 cmの楕円形で、長径方位はN—9°—W。断面は箱形か。E 3—24・25溝と重複、新旧関係は不明。

E 3—14 土坑 E 区北隅の405—450 G に位置する。長径1.50 m、短径0.84 m、深さ26 cmの隅丸長方形で、長径方位はN—10°—W。断面は箱形。E 3—22溝と重複、これより古い。

E 3—16 土坑 E 区北西部の405—455 G に位置する。長径0.46 m、短径0.42 m、深さ20 cmの円形で、長径方位はN—28°—E。断面は箱形。

E 3—17 土坑 E 区北西部の405—455 G に位置する。長径1.30 m、短径0.92 m、深さ16 cmの隅丸長方形で、長径方位はN—32°—E。断面は浅い箱形。E 3—21溝と重複、これより新しい。

E 3—18 土坑 E 区北西部の405—460 G に位置する。長径0.76 m、短径0.62 m、深さ24 cmの楕円形で、長径方位はN—68°—E。断面は箱形。

E 3—19 土坑 E 区北西部の405—460 G に位置する。長径0.82 m、短径0.68 m、深さ32 cmの楕円形で、長径方位はN—33°—W。断面は掘り鉢状。

E 3—20 土坑 E 区東隅の390—415 G に位置する。長径2.30 m、短径1.04 m、深さ14 cmの長方形で、長径方位はN—7°—W。断面は浅い箱形。

E 3—21 土坑 E 区北東部の400・395—415 G に位置する。長径1.98 m、短径0.56 m、深さ8 cmである。断面は浅い箱形。2基の土坑が重複した状態である。

E 3—23 土坑 E 区北西隅の405・410—460 G に位置する。北半が調査区外に及び、短径0.62 m、深さ12 cmの隅丸長方形か。長径方位はN—9°—W。断面は箱形。

E 3—24 土坑 E 区北西隅の405・410—465 G に位置する。西半が調査区外に及び、短径0.80 m、深さ10 cmの隅丸長方形か。長径方位はN—71°—W。断面は浅い皿状。柱穴と重複、これらより新しい。

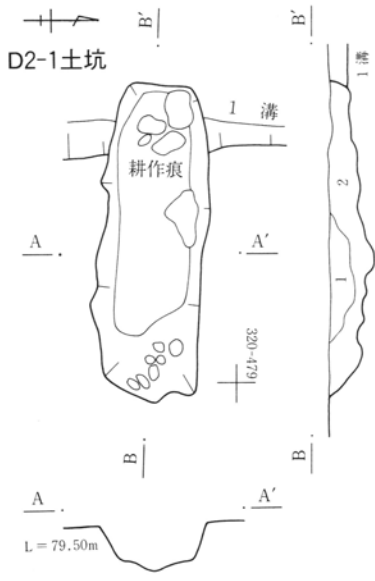
E 3—25 土坑 E 区北西隅の405—465 G に位置する。長径1.00 m、短径0.54 m、深さ12 cmの隅丸長方形で、長径方位はN—6°—E。断面は浅い箱形。南側は柱穴と重複、新旧関係は不明。

E 3—26 土坑 E 区北西部の400—460 G に位置する。測量杭のため完掘はできなかったが、長径0.82 m、短径0.70 m、深さ40 cmの楕円形か。長径方位はN—83°—E。断面は掘り鉢状。

E 3—27 土坑 E 区西隅の395—465・470 G に位置する。調査区外に懸かり、深さ16 cmの楕円形か。断面は浅い箱形。

E 3—28 土坑 E 区北西部の400—460 G に位置する。上位の遺構に壊され、長径1.50 m、短径0.96 m、深さ12 cmの隅丸長方形か。長径方位はN—13°—E。E 3—20溝と重複、新旧関係は不明。

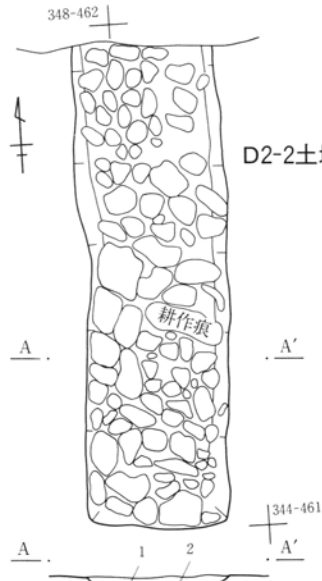
第3節 中世の遺構と遺物



D2-1土坑

L = 79.50m

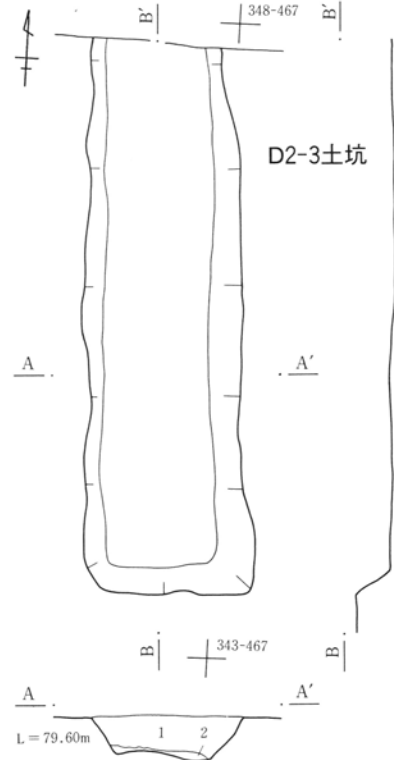
- 1 黒褐色砂質土 As-Bを含む。
- 2 1 + FP泥流ブロック



D2-2土坑

L = 79.60m

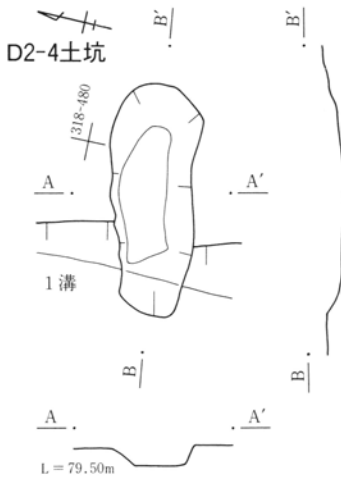
- 1 灰褐色砂質土 黒褐色粘土ブロックを含む。
- 2 黒褐色砂質土As-Bを含む。



D2-3土坑

L = 79.60m

- 1 灰褐色砂質土 黒褐色粘土ブロックを含む。
- 2 大量のAs-Bを含む 黒褐色砂質土 + FP泥流ブロック



D2-4土坑

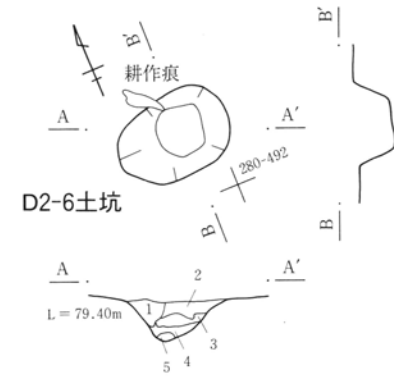
L = 79.50m



D2-5土坑

L = 79.40m

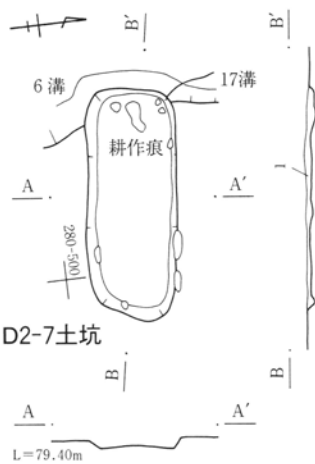
- 1 鈍い黄褐色砂質土 少量のAs-Bを含む。



D2-6土坑

L = 79.40m

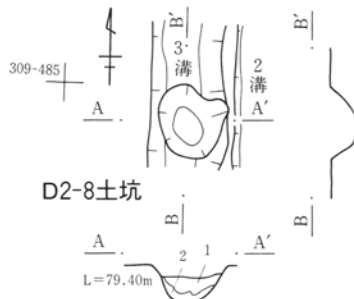
- 1 明黄褐色砂質土
- 2 鈍い黄褐色砂質土
- 3 暗褐色土 大量のAs-B、黒褐色粘土ブロックを含む。
- 4 灰褐色砂質土
- 5 As-B 二次堆積



D2-7土坑

L = 79.40m

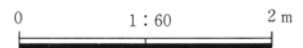
- 1 鈍い黄褐色砂質土



D2-8土坑

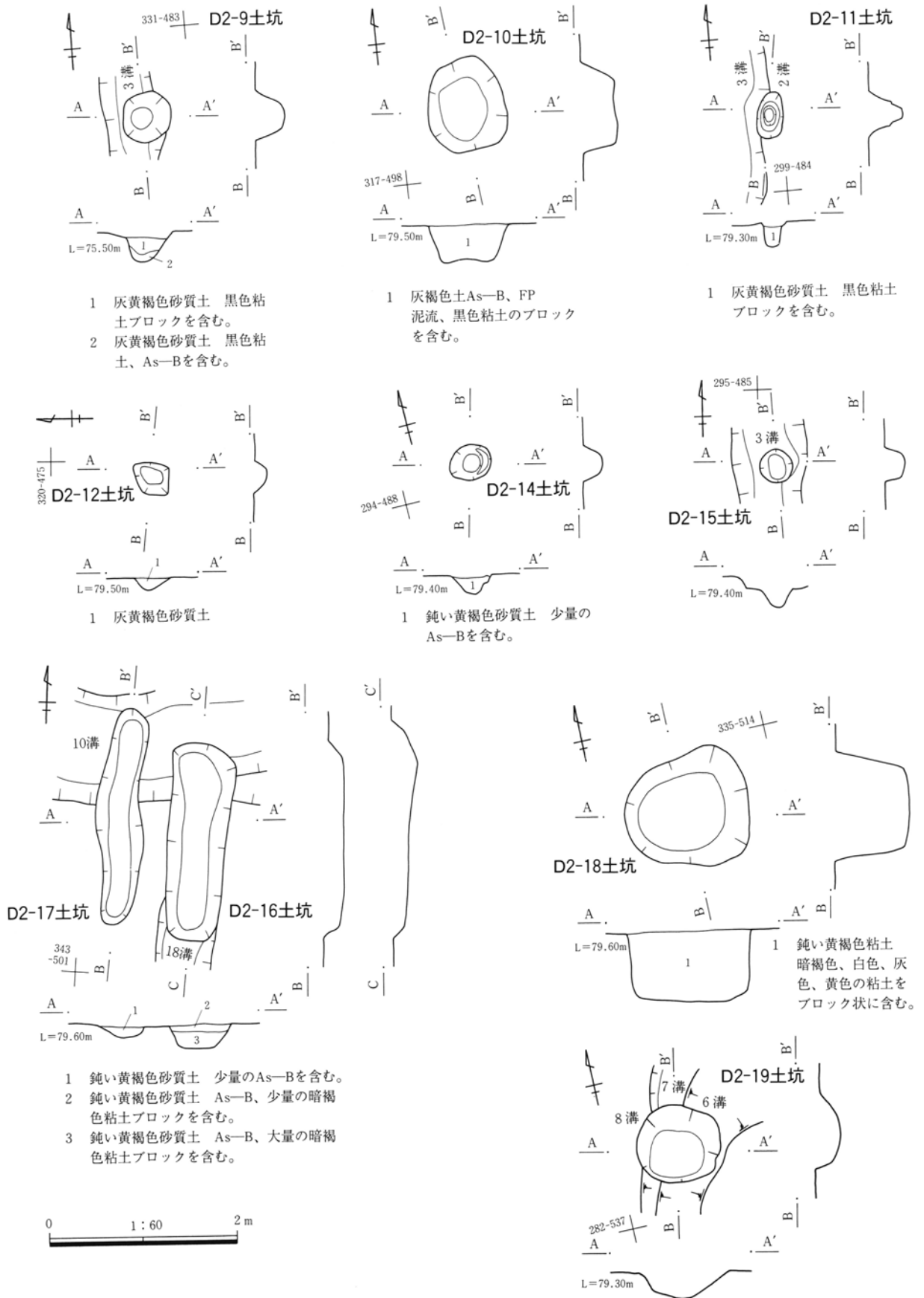
L = 79.40m

- 1 灰黄褐色砂質土 黒色粘土ブロックを含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 黒色粘土、FP泥流のブロックを含む。

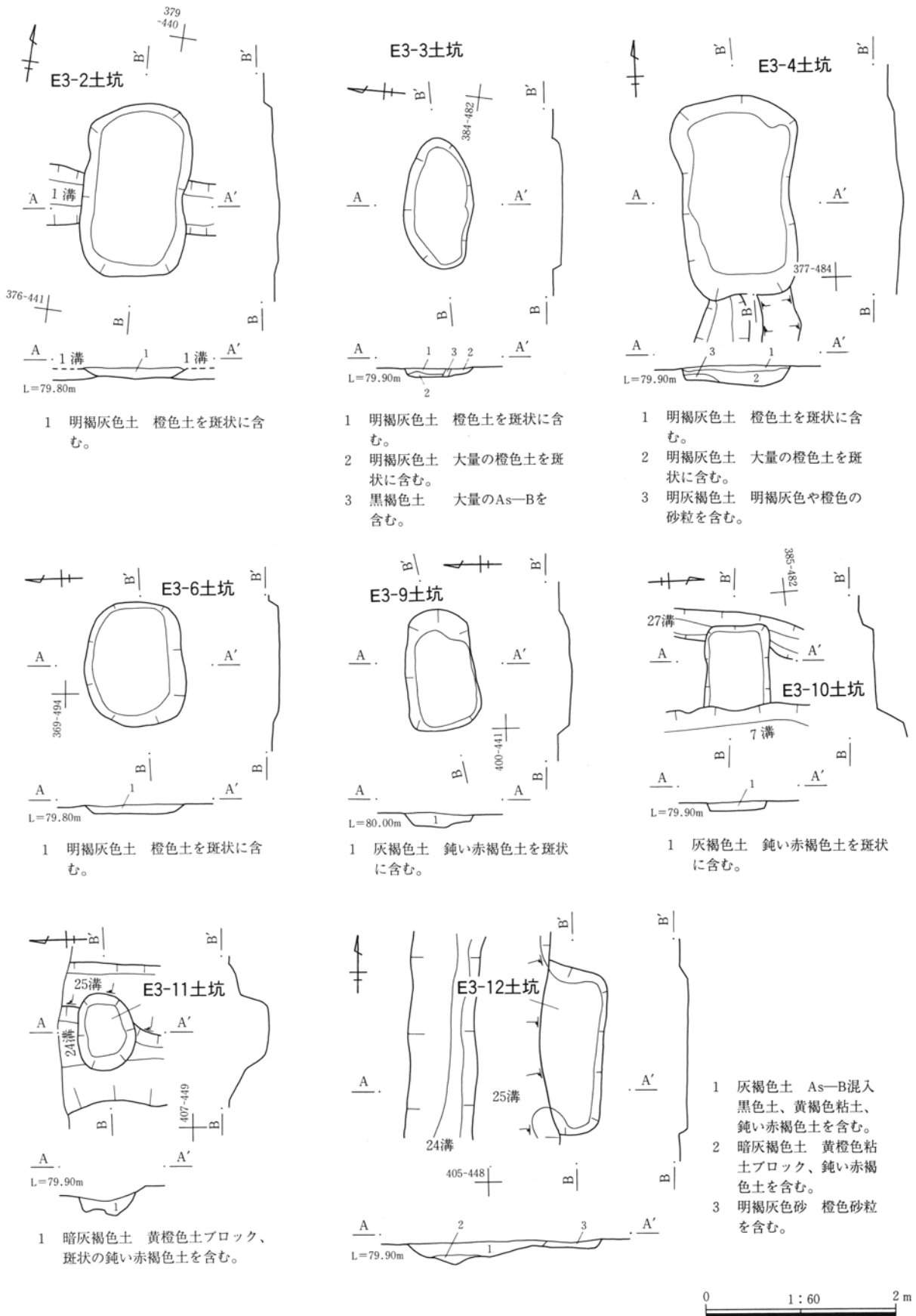


第58図 「中世第2面-1」土坑(1)

第3章 各時代の調査

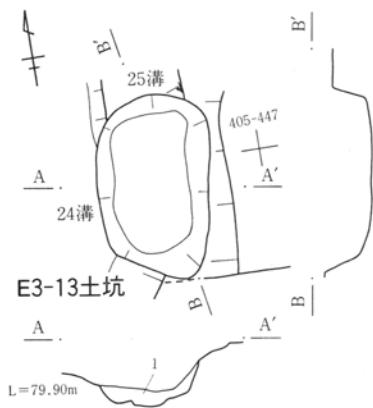


第59図 「中世第2面-1」土坑(2)

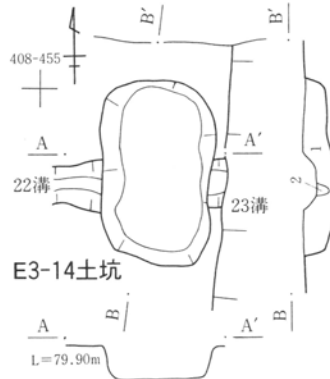


第60図 「中世第2面-1」土坑(3)

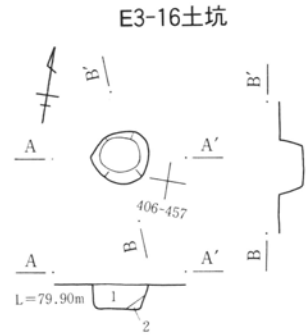
第3章 各時代の調査



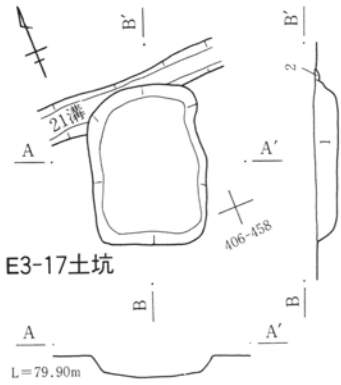
- 1 暗灰褐色土 黄橙色土ブロック、斑状の鈍い赤褐色土を含む。



- 1 灰褐色土 As-B混入黑色土、黄褐色粘土、鈍い赤褐色土を含む。
2 鈍い黄褐色土 黄橙色粘土ブロックを含む。



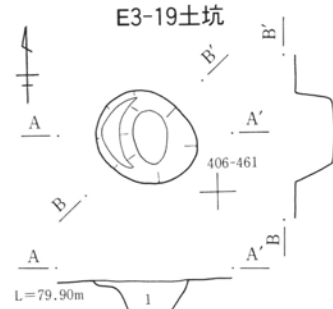
- 1 灰褐色土 鈍い赤褐色土を斑状に含む。
2 黑色土 大量のAs-B、少量の1を含む。



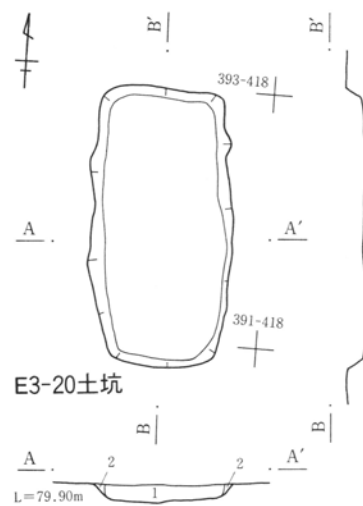
- 1 灰褐色土 鈍い赤褐色土を斑状に含む。
2 明褐色灰色土 橙色土を含む。



- 1 灰褐色土 鈍い赤褐色土を斑状に含む。



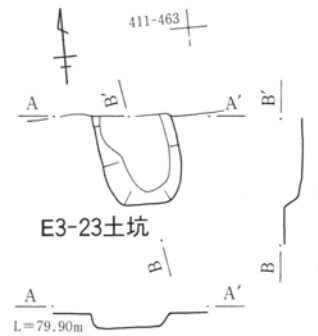
- 1 灰褐色土 鈍い赤褐色土を斑状に含む。



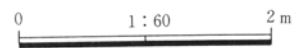
- 1 褐灰色砂質土+鈍い黄褐色砂質土
2 1にAs-B混入黑色土を含む。



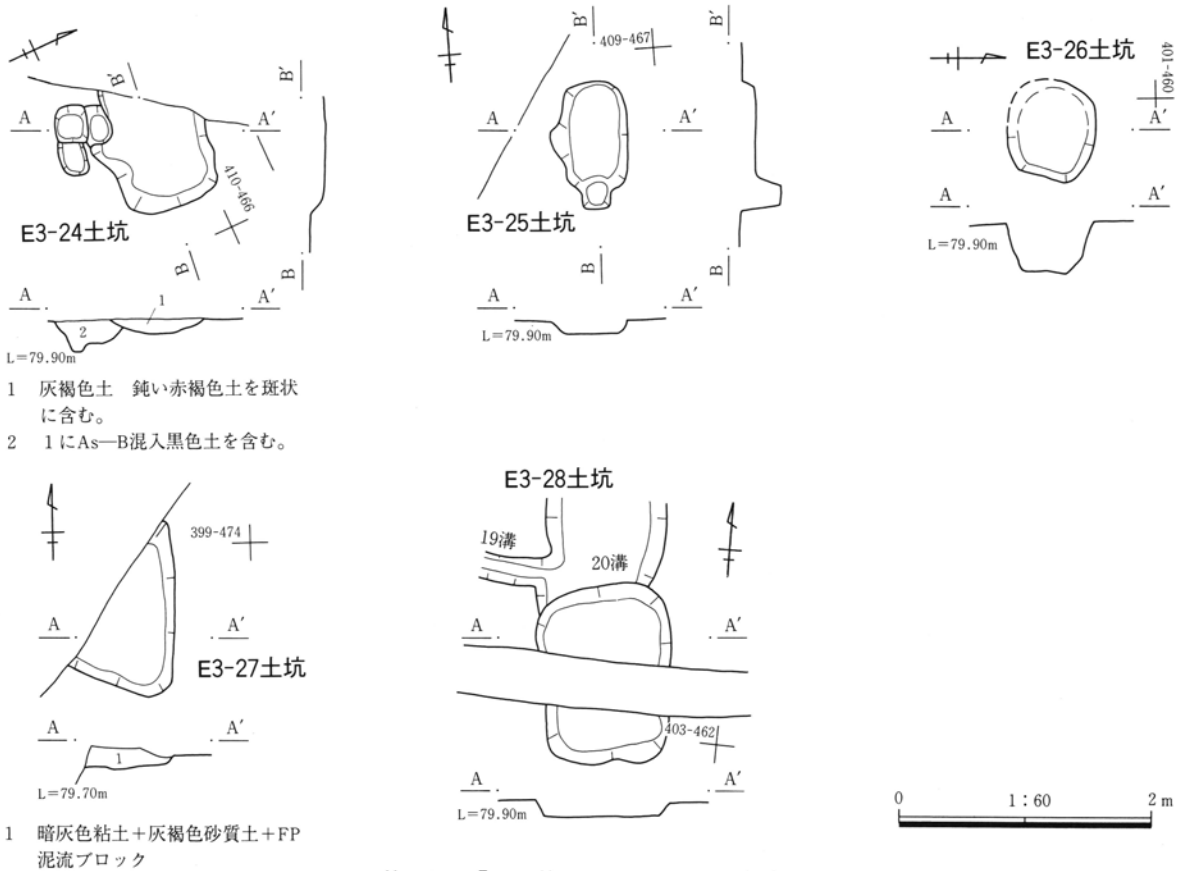
- 1 褐灰色土 褐灰色や鈍い赤褐色の砂質土、明褐色や鈍い橙色の砂粒を含む。



E3-23土坑



第61図 「中世第2面-1」土坑(4)



第62図 「中世第2面-1」土坑(5)

②「中世第2面-2」(第63~71図 PL. 37~45)

A区15基、B区23基、C区5基、D区26基、E区7基の計76基を確認した。このなかには平面形が長方形や隅丸長方形で、東西や南北方向のものが多く、これらは水田に伴って設けられた可能性もある。しかし、中世第1面水田、同第2面水田の区画との関連は確認できなかった。

A 2-1 土坑 A区南西部の040—625 Gに位置する。長径1.72m、短径0.95m、深さ42cmの長楕円形で、長径方位はN—5°—E。同じ位置に2基の土坑が重複した状態である。

A 2-2 土坑 A区南西部の045—625 Gに位置する。長径1.24m、短径0.85m、深さ24cmの長楕円形で、長径方位はN—6°—E。断面は逆台形。

A 2-3 土坑 A区西端部の055—635 Gに位置する。西半は調査区外に懸かり、短径0.97m、深さ30cmの隅丸長方形か。長径方位はN—78°—E。断面は緩やかな播り鉢状。

A 2-4 土坑 A区北西部の055—625・630 Gに位置する。長径2.00m、短径1.08m、深さ33cmの隅丸長方形で、長径方位はN—78°—E。断面は壁面と底面が緩やかに連続する箱形。

A 2-5 土坑 A区北西部の075—625 Gに位置する。長径1.73m、短径0.94m、深さ60cmの隅丸長方形で、長径方位はN—5°—E。断面は箱形で、底面が円形に窪む。

A 2-6 土坑 A区北西部の065—615・620 Gに位置する。長径2.16m、短径0.82m、深さ22cmの隅丸長方形で、長径方位はN—89°—W。断面は逆台形。

A 2-7 土坑 A区中央部の060・065—615 Gに位置する。長径1.16m、短径0.88m、深さ40cmの長楕円形で、長径方位はN—14°—E。断面は箱形。

第3章 各時代の調査

A 2—8 土坑 A区中央部の055—605 Gに位置する。長径1.67 m、短径1.15 m、深さ38 cmの長楕円形で、長径方位はN—6°—E。同じ位置に2基の土坑が重複した状態である。

A 2—9 土坑 A区東部の055—595・600 Gに位置する。長径1.80 m、短径0.90 m、深さ43 cmの長楕円形で、長径方位はN—77°—E。断面は箱形。

A 2—10 土坑 A区東部の055—595・600 Gに位置する。長径1.14 m、短径0.95 m、深さ17 cmの隅丸長方形で、長径方位はN—29°—E。断面は、浅い楕鉢状。

A 2—11 土坑 A区東部の050—600・605 Gに位置する。長径1.07 m、短径0.87 m、深さ59 cmの楕円形で、長径方位はN—9°—W。断面は逆台形。

A 2—12 土坑 A区東部の050—600 Gに位置する。長径0.95 m、短径0.90 m、深さ20 cmの不整形で、長径方位はN—88°—W。断面は浅い逆台形。

A 2—13 土坑 A区南東部の045—600 Gに位置する。長径1.53 m、短径1.25 m、深さ43 cmの長方形で、長径方位はN—10°—E。断面は緩やかな楕鉢状。

A 2—14 土坑 A区南東隅の045—595・600 Gに位置する。長径1.72 m、短径1.20 m、深さ50 cmの長方形で、長径方位はN—86°—E。断面は逆台形。

A 2—15 土坑 A区南東隅の030・035—600 Gに位置する。長径1.23 m、短径0.76 m、深さ31 cmの長楕円形で、長径方位はN—6°—W。断面は楕鉢状。

B 6—1 土坑 B区南西隅の115—585 Gに位置する。長径1.05 m、短径0.85 m、深さ16 cmの楕円形で、長径方位はN—36°—E。断面は浅い皿状。

B 6—2 土坑 B区中央部の125—580 Gに位置する。長径1.30 m、短径1.00 m、深さ37 cmの隅丸長方形で、長径方位はN—0°。断面は楕鉢状。

B 6—3 土坑 B区中央部の125・130—575 Gに位置する。長径0.95 m、短径0.52 m、深さ17 cmの隅丸長方形で、長径方位はN—87°—W。断面は緩やかな楕鉢状。

B 6—4 土坑 B区中央部の135—580・585 Gに位置する。長径0.99 m、短径0.67 m、深さ25 cmの楕円形で、長径方位はN—87°—W。断面は箱形。

B 6—5 土坑 B区中央部の145—590 Gに位置する。長径2.60 m、短径0.97 m、深さ45 cmの隅丸長方形で、長径方位はN—85°—W。断面は箱形。

B 6—6 土坑 B区中央部の45—580・585 Gに位置する。長径1.20 m、短径0.77 m、深さ16 cmの楕円形で、長径方位はN—86°—E。断面は浅い皿状。

B 6—7 土坑 B区中央部の150—580・585 Gに位置する。長径2.10 m、短径1.40 m、深さ42 cmの長方形で、長径方位はN—0°。断面は箱形。

B 6—8 土坑 B区北西部の長径1.71 m、短径1.05 m、深さ55 cmの長楕円形で、長径方位はN—5°—E。断面は下部は箱形、上部は逆台形。

B 6—10 土坑 B区北西部の165—595 Gに位置する。長径1.45 m、短径0.65 m、深さ40 cmの隅丸長方形で、長径方位はN—90°。断面は箱形。2基の土坑が重複した状態である。

B 6—11 土坑 B区北西部の165・170—595 Gに位置する。長径1.35 m、短径1.27 m、深さ70 cmの不整形で、長径方位はN—27°—E。B 6—22・23土坑と重複、B 6—22土坑より新しい。

B 6—12 土坑 B区北部の170—585 Gに位置する。長径1.10 m、短径0.87 m、深さ28 cmの楕円形で、長径方位はN—54°—W。断面は逆台形。

B 6—13土坑 B区北部の170—585 Gに位置する。長径1.33m、短径1.17m、深さ50cmの不整形で、長径方位はN—0°。断面は箱形。B 6—14土坑と接し、新旧関係は不明。

B 6—14土坑 B区北部の165・170—580 Gに位置する。長径3.88m、短径0.80m、深さ45cmの長方形で、長径方位はN—0°。断面は箱形。B 6—13土坑と接し、新旧関係は不明。

B 6—15土坑 B区北部の160—585 Gに位置する。長径2.93m、短径1.27m、深さ48cmの長方形で、長径方位はN—0°。断面は箱形。B 6—16土坑と重複、これより新しい。

B 6—16土坑 B区北部の160—580・585 Gに位置する。長径1.00m、短径0.61m、深さ0.76cmの長方形で、長径方位はN—89°—W。断面は箱形。B 6—15土坑と重複、これより古い。

B 6—17土坑 B区北部の160—580 Gに位置する。長径1.53m、短径0.89m、深さ50cmの隅丸長方形で、長径方位はN—88°—W。断面は逆台形。

B 6—18土坑 B区北部の165—575 Gに位置する。長径2.31m、短径1.24m、深さ50cmの隅丸長方形で、長径方位はN—0°。断面は箱形。同じ位置に複数の土坑が重複した状態である。

B 6—19土坑 B区北部の165—565・570 Gに位置する。長径2.76m、短径0.96m、深さ45cmの長方形で、長径方位はN—90°。断面は箱形。同じ位置に複数の土坑が重複した状態である。

B 6—20土坑 B区北東部の170—540 Gに位置する。長径0.88m、短径0.72m、深さ36cmの不整形で、長径方位はN—12°—W。断面は箱形。

B 6—21土坑 B区北東部の165・170—540 Gに位置する。長径1.72m、短径0.50m、深さ26cmの隅丸長方形で、長径方位N—0°。断面は箱形。底面に楕円形のくぼみを持つ。

B 6—22土坑 B区北西部の165・170—590 Gに位置する。B 6—11土坑と重複し、短径0.68m、深さ14cmの隅丸長方形か。長径方位はN—40°—E。断面は浅い箱形。

B 6—23土坑 B区北西部の165・170—595 Gに位置する。B 6—11・24土坑と重複、深さ67cmの不整形か。それぞれ新旧関係は不明。

B 6—24土坑 B区北西部の165・170—595 Gに位置する。B 6—23土坑と重複し、全形は不明。

C 2—1土坑 B区中央部の215—535 Gに位置する。長径1.16m、短径0.60m、深さ10cmの不正楕円形で、長径方位はN—17°—E。断面は浅い皿状。

C 2—2土坑 B区中央部の220—530・535 Gに位置する。長径2.20m、短径0.76m、深さ40cmの隅丸長方形で、長径方位はN—89°—W。断面は箱形。

C 2—3土坑 C区南隅の185—540 Gに位置する。南半が調査区外に懸かり、深さは74cm。断面は箱形。

C 2—4土坑 C区南隅の185—545 Gに位置する。南半が調査区外に懸かり、深さは52cm。断面は逆台形。

C 2—5土坑 C区南西部の190—570 Gに位置する。長径1.40m、短径0.96m、深さ25cmの楕円形で、長径方位はN—78°—E。断面は緩やかで浅い逆台形。

D 3—1土坑 D区北西隅の325—460 Gに位置する。長径1.32m、短径1.03m、深さ38cmの隅丸長方形で、長径方位はN—83°—E。断面は箱形。

D 3—2土坑 D区北西隅の345—455・460 Gに位置する。北部がD 3—1溝に重複し、短径0.60m、深さ16cmの長方形土坑か。長径方位はN—4°—W。断面は逆台形。新旧関係は不明。

D 3—3土坑 D区北西隅の345—460 Gに位置する。長径0.90m、短径0.40m、深さ14cmの不整形で、長径方位はN—64°—W。断面は浅い箱形。

D 3—4土坑 D区北西部の335・340—465 Gに位置する。長径0.96m、短径0.38m、深さ10cmの長楕円形で、

第3章 各時代の調査

長径方位はN-32°-W。断面は浅い箱形。

D3-5土坑 D区北西隅の345-460Gに位置する。長径1.16m、短径0.46m、深さ16cmの不正方形で、長径方位はN-60°-W。断面は播鉢状。

D3-6土坑 D区北西部の325-480Gに位置する。長径1.69m、短径1.35m、深さ43cmの不正方形で、長径方位はN-26°-E。断面は箱形。

D3-7土坑 D区中央部の315-485Gに位置する。長径0.50m、短径0.36m、深さ12cmの楕円形で、長径方位はN-20°-E。断面は緩やかで浅い皿状。

D3-8土坑 D区北西部の325-480・485Gに位置する。長径1.75m、短径1.14m、深さ42cmの隅丸長方形で、長径方位はN-70°-W。断面は箱形。

D3-9土坑 D区北西部の340-475Gに位置する。長径1.75m、短径1.14m、深さ42cmの隅丸長方形で、長径方位はN-8°-E。断面は箱形。

D3-10土坑 D区中央部の305-500Gに位置する。一辺0.62m、深さ4cmの隅丸正方形で、長径方位はN-47°-W。断面はごく浅い箱形。

D3-11土坑 D区中央部の300-500Gに位置する。長径0.54m、短径0.34m、深さ14cmの隅丸長方形で、長径方位はN-8°-W。断面は浅い箱形。

D3-12土坑 D区中央部の295-500Gに位置する。長径0.50m、短径0.38m、深さ16cmの不整形で、長径方位はN-33°-W。断面は浅いV字形。

D3-13土坑 D区南隅の270-515Gに位置する。長径0.88m、短径0.70m、深さ10cmの不整形で、長径方位はN-40°-E。断面はごく浅い皿状。

D3-14土坑 D区中央部の305-505Gに位置する。長径0.40m、短径0.32m、深さ16cmの不整形で、長径方位はN-20°-E。断面は播鉢状。

D3-15土坑 D区中央部の300-510Gに位置する。長径0.56m、短径0.50m、深さ16cmの楕円形で、長径方位はN-8°-E。断面は播鉢状。

D3-16土坑 D区北部の335・340-485Gに位置する。長径4.15m、短径2.10m、深さ9cmの隅丸長方形で、長径方位はN-24°-W。断面は浅い皿状で、底面に凹凸。

D3-17土坑 D区中央部の305-510Gに位置する。長径0.56m、短径0.40m、深さ12cmの楕円形で、長径方位はN-12°-W。断面は播鉢状。

D3-18土坑 D区西部の305-515Gに位置する。長径0.60m、短径0.43m、深さ12cmの楕円形で、長径方位はN-14°-E。断面は箱形。

D3-19土坑 D区南西部の275・280-530Gに位置する。長径0.52m、短径0.44m、深さ16cmの楕円形で、長径方位はN-20°-E。断面は播鉢状。

D3-20土坑 D区北西部の335-500Gに位置する。長径1.90m、短径1.06m、深さ36cmの隅丸長方形で、長径方位はN-81°-W。断面は箱形。

D3-21土坑 D区西部の300-520Gに位置する。長径0.46m、短径0.36m、深さ22cmの不整形で、長径方位はN-87°-W。断面はV字状。

D3-22土坑 D区の北西部の340-505Gに位置する。長径0.70m、短径0.32m、深さ20cmの不整形で、長径方位はN-44°-W。断面は播鉢状。

D3-23土坑 D区北西部の335-505Gに位置する。長径0.40m、短径0.34m、深さ14cmの不整形で、長径

方位はN—85°—E。断面は播鉢状。

D 3—24土坑 D区北西部の335—505 Gに位置する。長径0.46 m、短径0.34 m、深さ18 cmの楕円形で、長径方位はN—60°—W。断面は播鉢状。

D 3—25土坑 D区西隅の300—535 Gに位置する。長径0.54 m、短径0.42 m、深さ14 cmの不整形で、断面は浅い播鉢状。

D 3—26土坑 D区西隅の300・305—535 Gに位置する。長径0.54 m、短径0.48 m、深さ8 cmの楕円形で、長径方位はN—37°—E。断面は浅い皿状。

E 4—1土坑 E区の375—440 Gに位置する。長径0.84 m、短径0.58 m、深さ66 cmの楕円形で、長径方位はN—9°—E。断面は箱形。

E 4—3土坑 E区の385—440 Gに位置する。長径1.02 m、短径0.62 m、深さ35 cmの楕円形で、長径方位はN—86°—E。断面は逆台形。

E 4—5土坑 E区の375—470 Gに位置する。長径1.38 m、短径0.39 m、深さ43 cmの長楕円形で、長径方位はN—90°。断面は箱形。

E 4—6土坑 E区の375—470 Gに位置する。長径0.64 m、短径0.45 m、深さ16 cmの不整形で、長径方位はN—34°—E。断面は播鉢状。

E 4—8土坑 E区の395—420 Gに位置する。長径0.66 m、短径0.30 m、深さ60 cmの隅丸長方形で、長径方位はN—23°—E。断面は深い逆台形。

E 4—9土坑 E区の389—420 Gに位置する。長径7.04 m、短径1.40 m、深さ39 cmの長方形で、断面は壁面に段を持つ箱形で、底面は著しい凹凸を持つ逆台形。

E 4—10土坑 E区の385—420 Gに位置する。南部が調査区外に懸かるが、短径0.51 m、深さ39 cmの長方形か。長径方位はN—0°。断面は逆台形。

(6) 道 跡 (第72・73図 P L. 46)

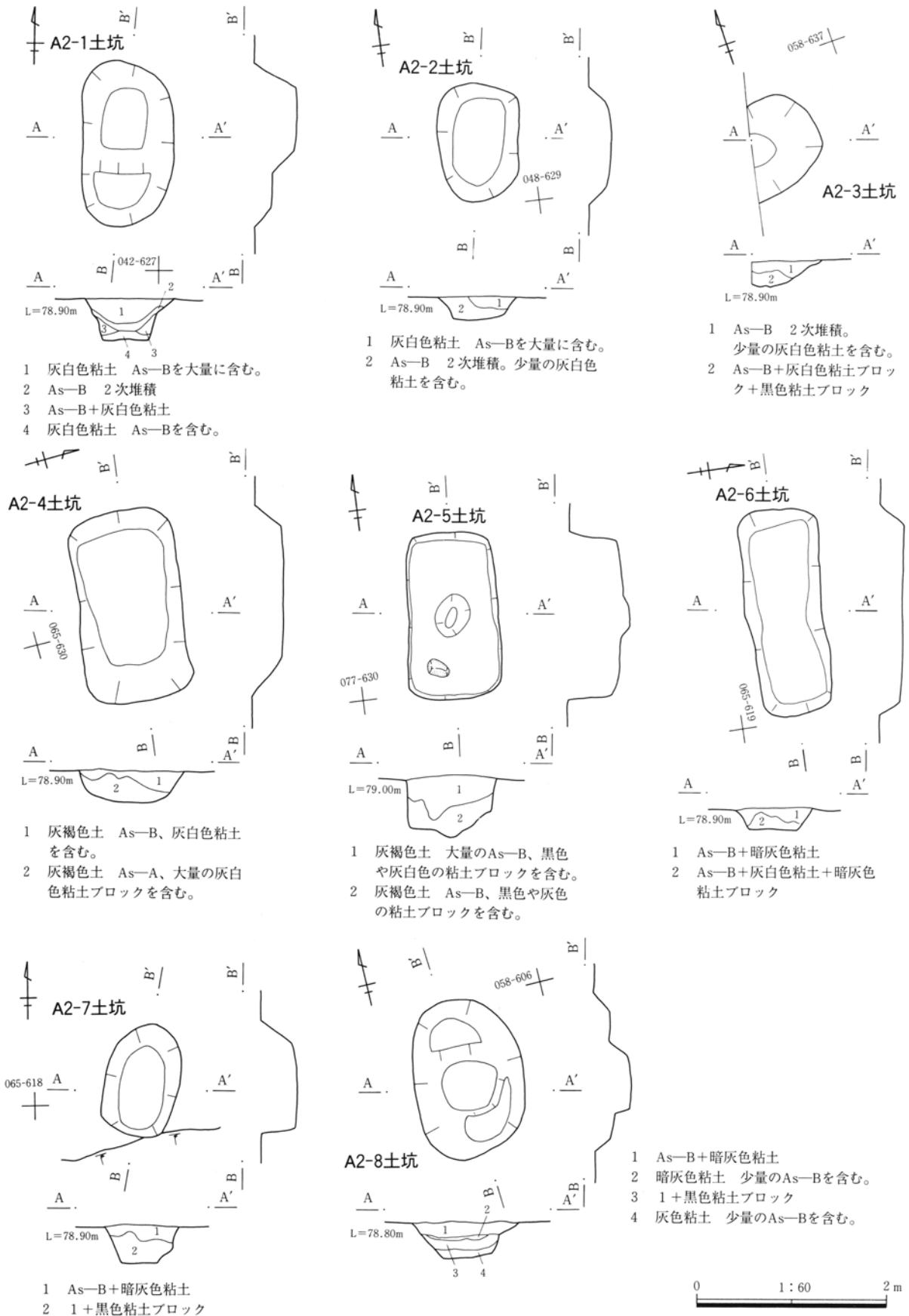
「中世第2面—2」のE区で確認された。

E 4—1道跡 E区の北東部から南西隅の395・405—435 G～355・360—500 Gに位置する。当初は形状が不明瞭な溝群 (E 4—2～6溝) と認識していた。このうち最大規模のE 4—3溝は南東に緩やかに張る円弧状で、全体の走行はN—55°—E。確認長約80 m、幅約180～640 cm、深さは最大約35 cmで、断面は底部に段差を持つ皿状である。埋土は大量のAs—Bを含む砂質土または砂粒である。黒色～灰色を呈し、大部分が固く締まっている。南西部ではその下位からピット列3条を確認した。ピットは計74基で、長径60 cm、短径40 cm、深さ5～10 cm程度の楕円形を呈し、埋土は固い灰色砂である。このピット列は古代道路の調査の際に道路底部に見られる「波板状凹凸面」の一種と思われる。これらの状態から、この溝を道路跡の基底部と判断した。なお、埋土中の固く締まる部分は平面として捉えられなかった。そのため、この道路跡の硬化面はより上位に存在しており後世の削平により確認できなくなったと思われる。

一方、E 4—2・4～6溝は、幅40～200 cm、深さ10 cm程度の規模であるが、E 4—3溝の両側に併走しており、埋土の状態もこの溝と同様である。従ってこれらも道路跡に関連があるものと考え、E 4—3溝も含めてE 4—1道跡と総称した。この場合、確認できた部分での道路幅は約6～12 mとなるが、側溝など具体的な機能の特定には至らず詳細は不明である。

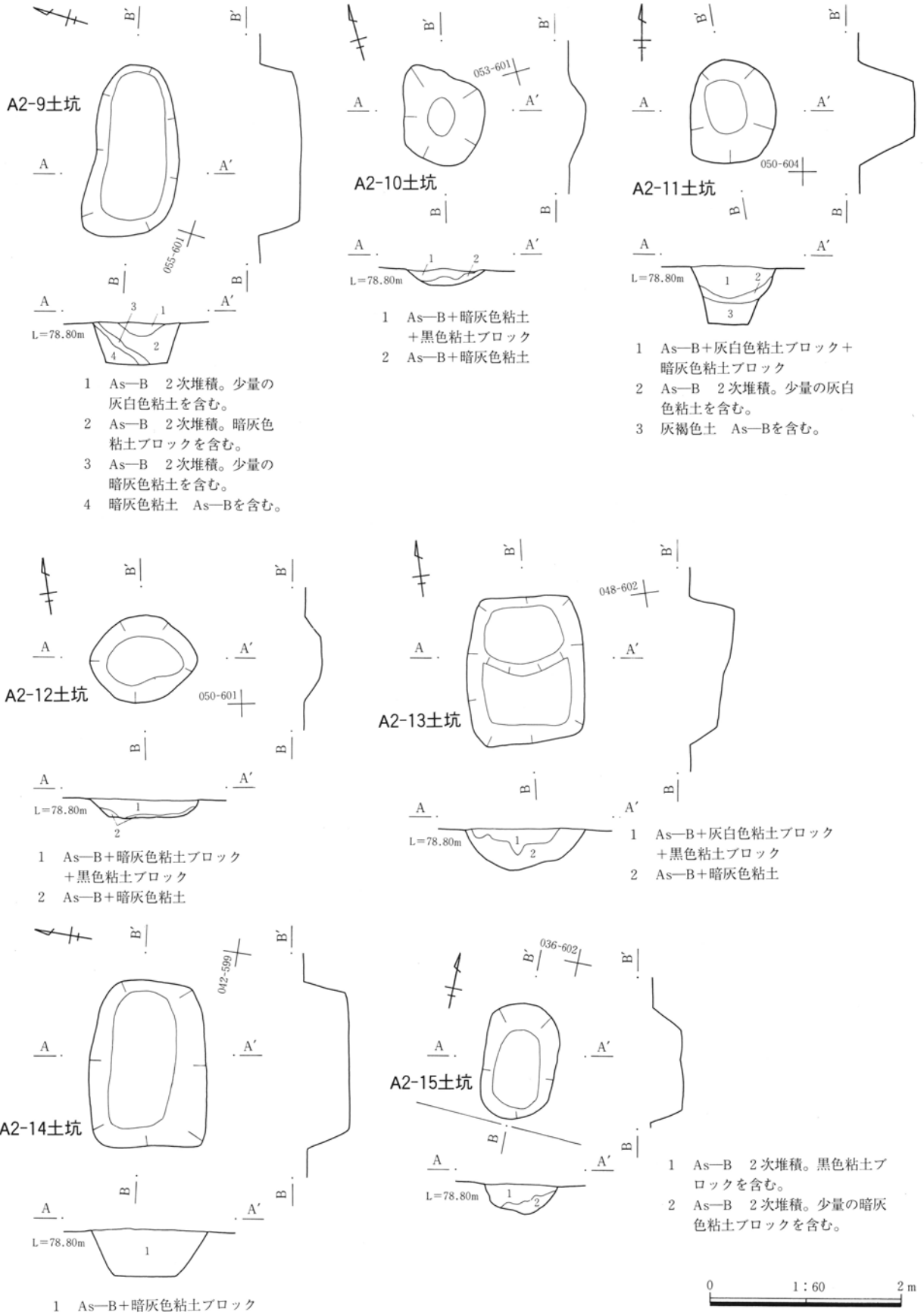
遺物は須恵器、土師器の破片が出土しているが、混入の可能性も高い。

第3章 各時代の調査



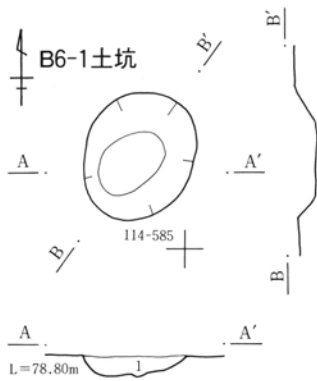
第63図 「中世第2面-2」土坑(1)

第3節 中世の遺構と遺物

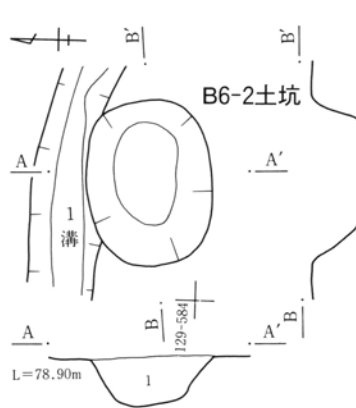


第64図 「中世第2面-2」土坑(2)

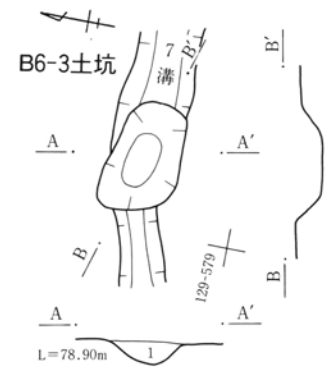
第3章 各時代の調査



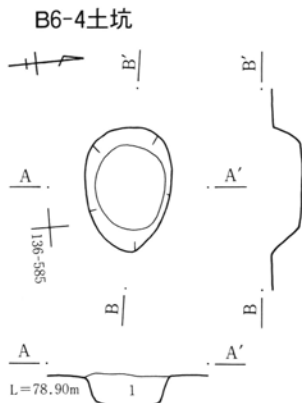
1 灰褐色土 大量のAs-Bを含む。



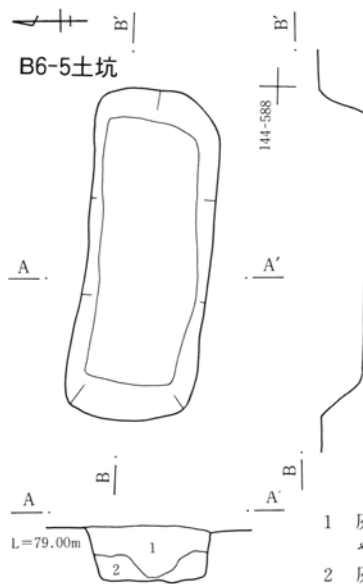
1 灰褐色土 大量のAs-B、灰色や黒色の粘土ブロックを含む。



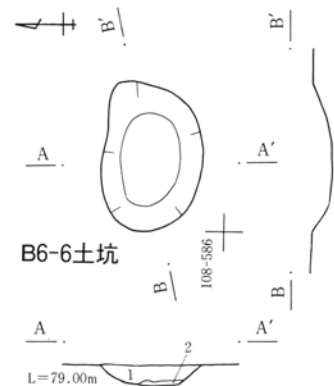
1 灰褐色土 大量のAs-Bを含む。



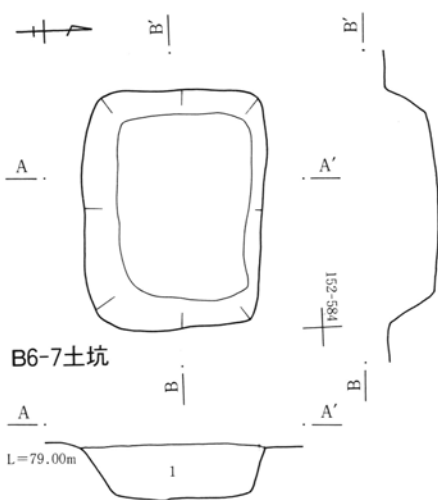
1 灰褐色土 大量のAs-Bを含む。



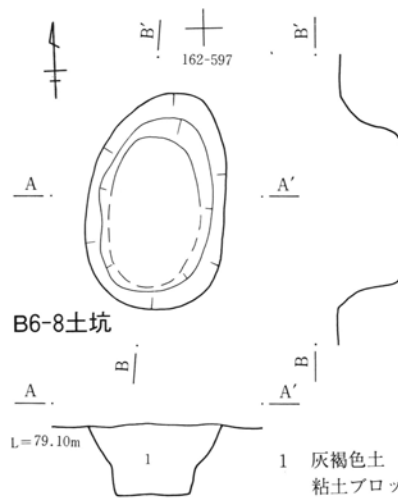
1 灰褐色土 大量のAs-B、灰色や黒色の粘土ブロックを含む。
2 灰褐色土 As-B、灰色や黒色の粘土ブロックを大量に含む。



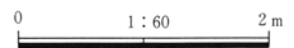
1 灰褐色土 大量のAs-B、少量の灰色粘土ブロックを含む。
2 灰白色土 大量のAs-Bを含む。



1 灰褐色土 大量のAs-B、灰色や黒色の粘土ブロックを含む。

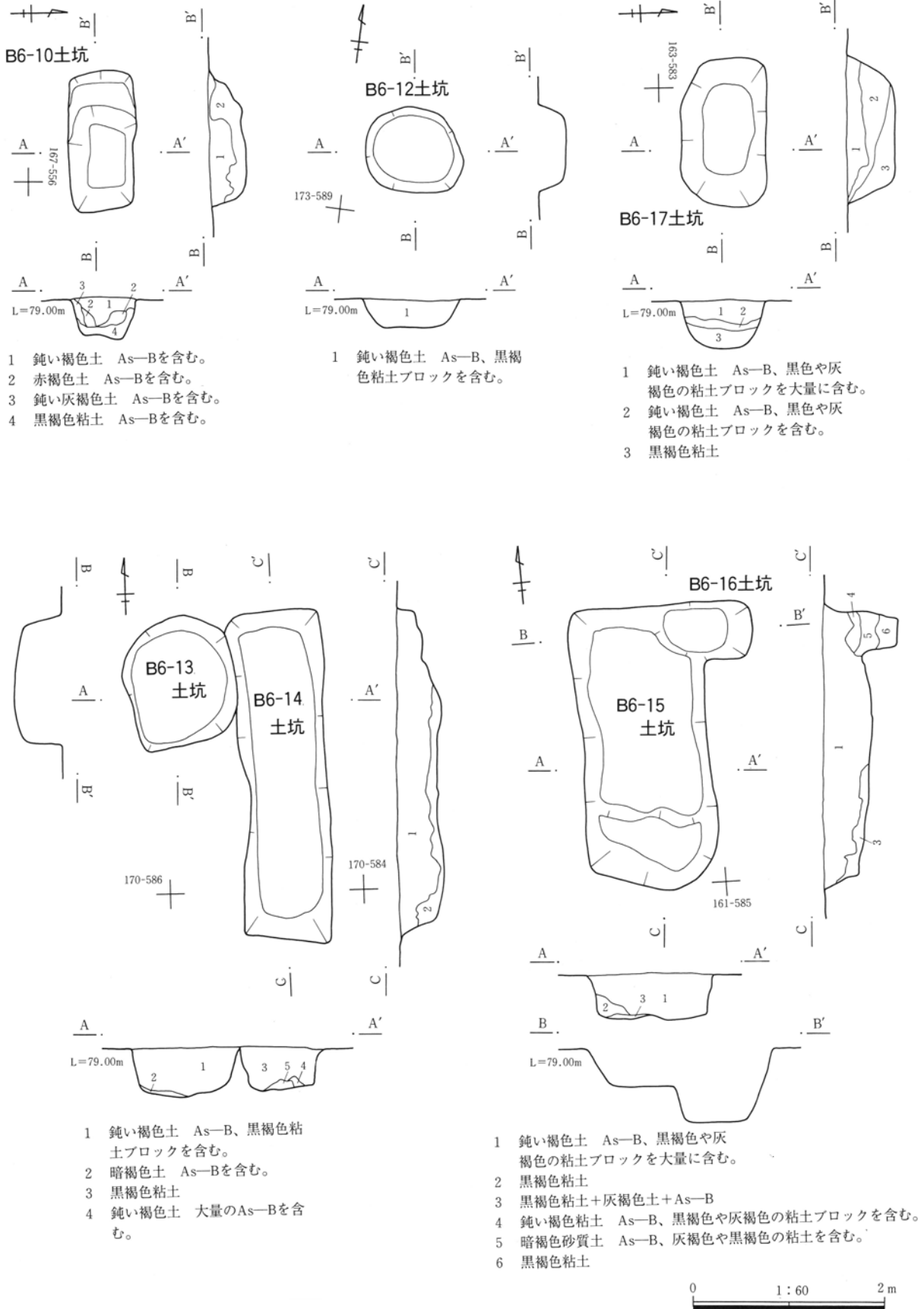


1 灰褐色土 大量のAs-B、黒色粘土ブロックを含む。



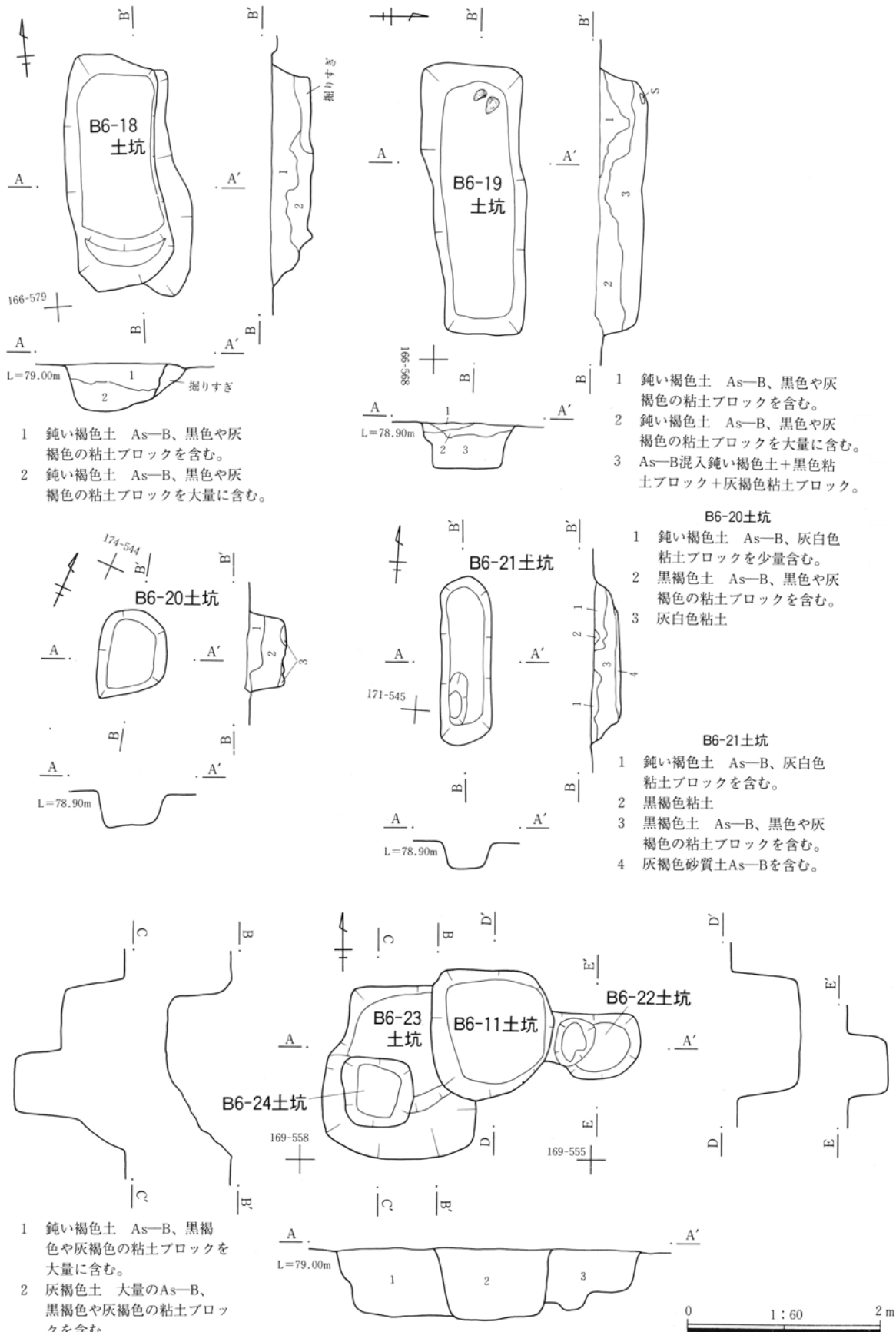
第65図 「中世第2面-2」土坑 (3)

第3節 中世の遺構と遺物



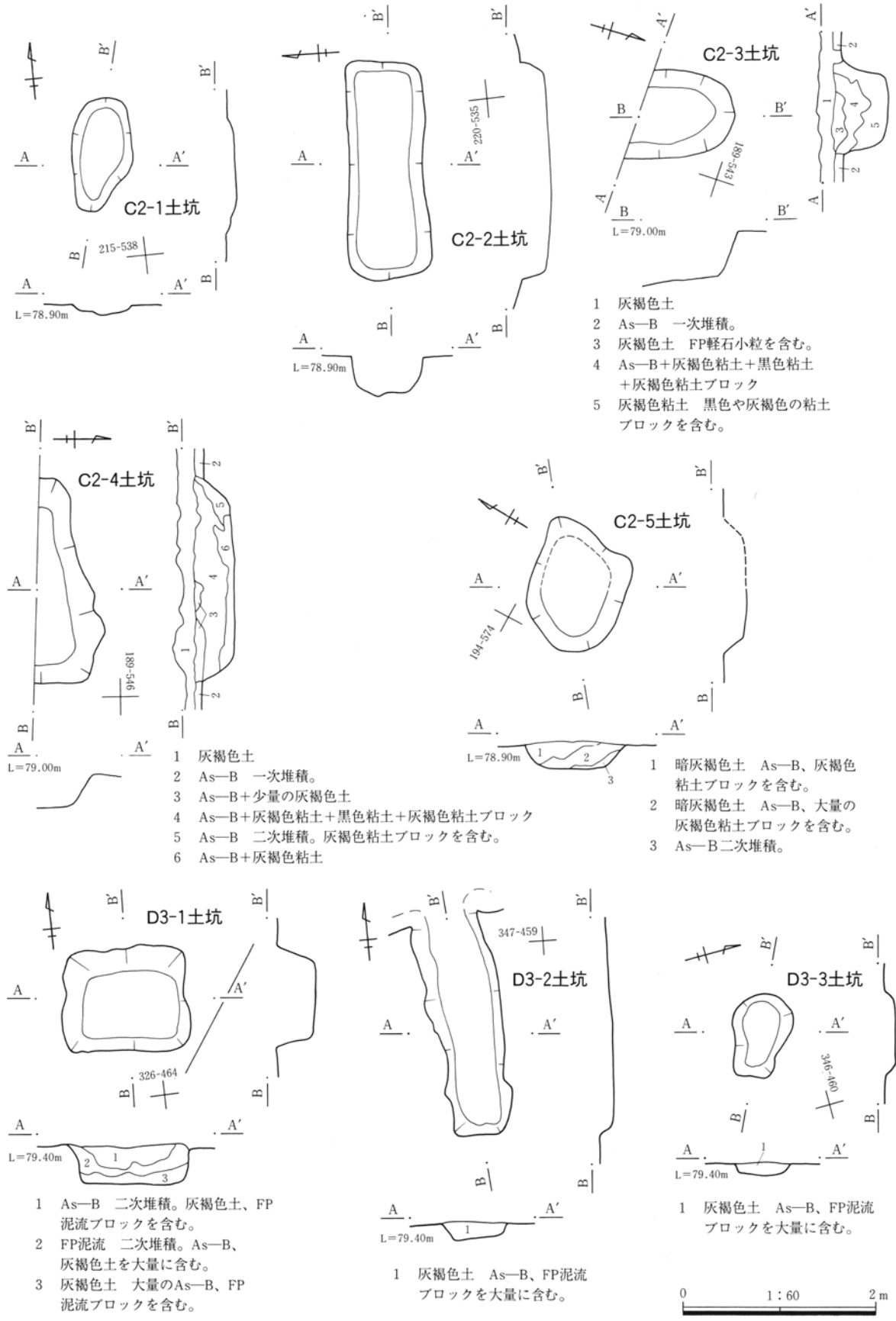
第66図 「中世第2面-2」土坑(4)

第3章 各時代の調査



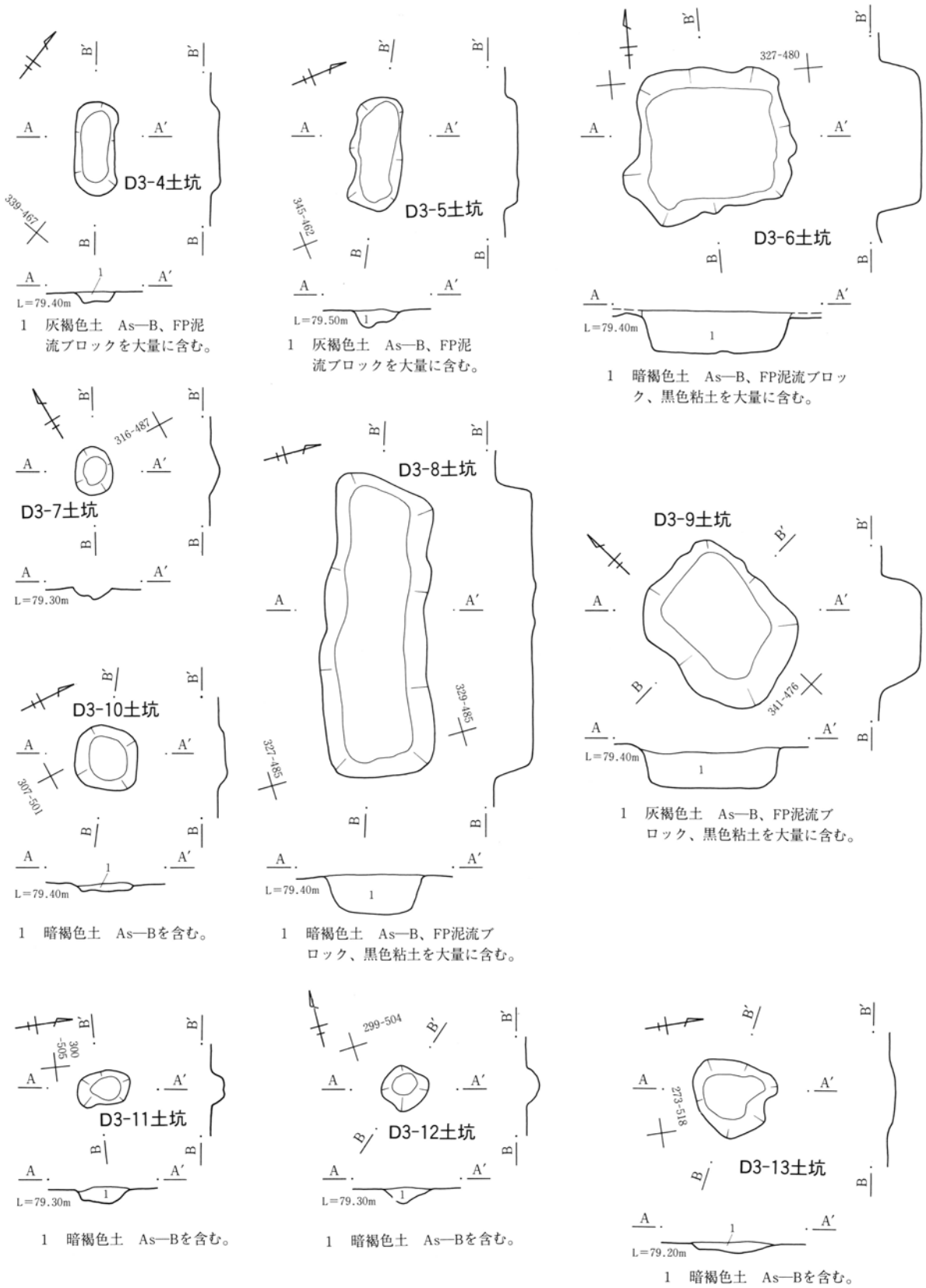
第67図 「中世第2面-2」土坑(5)

第3節 中世の遺構と遺物



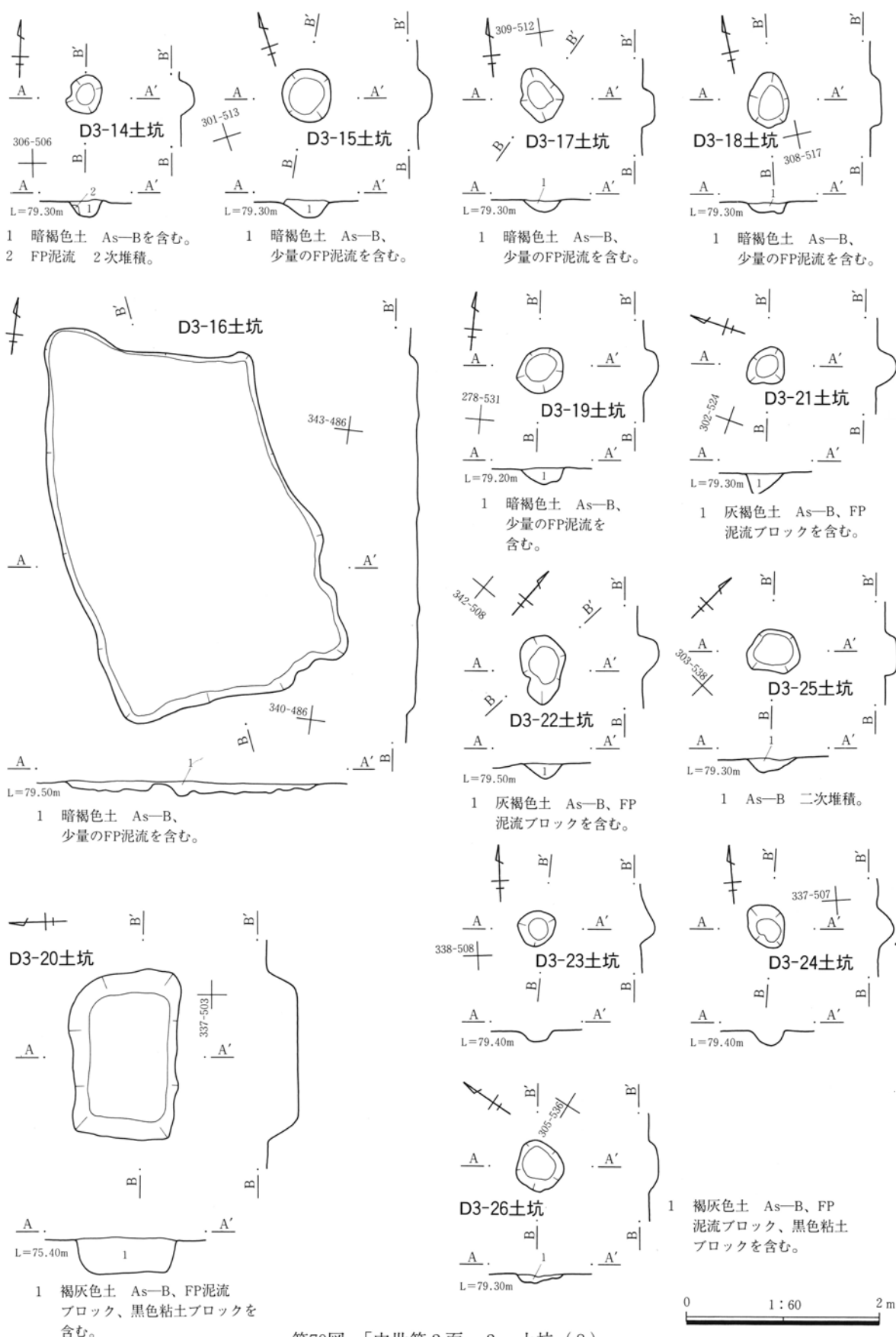
第68図 「中世第2面-2」土坑 (6)

第3章 各時代の調査



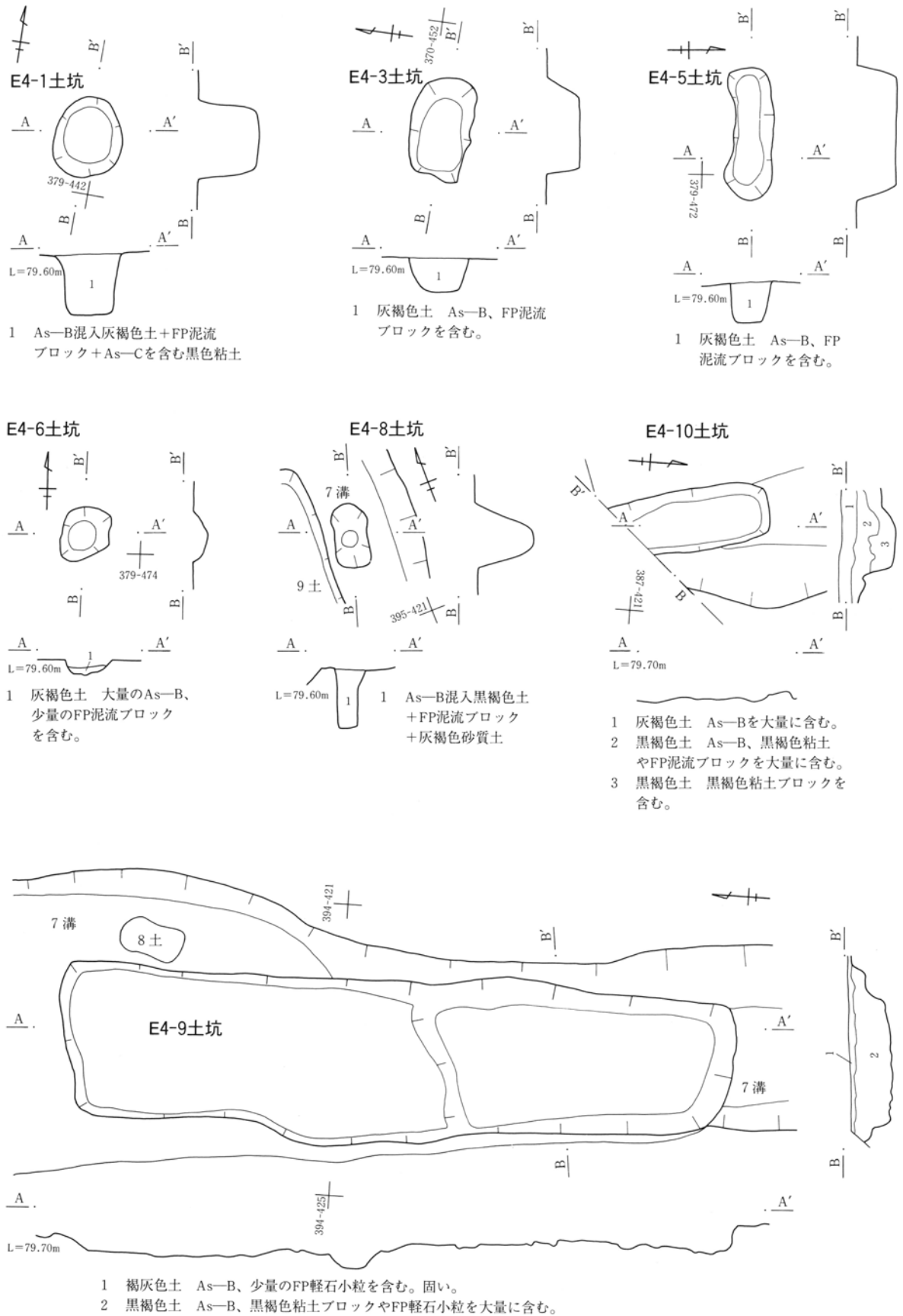
0 1 : 60 2 m

第69図 「中世第2面-2」土坑 (7)

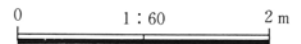


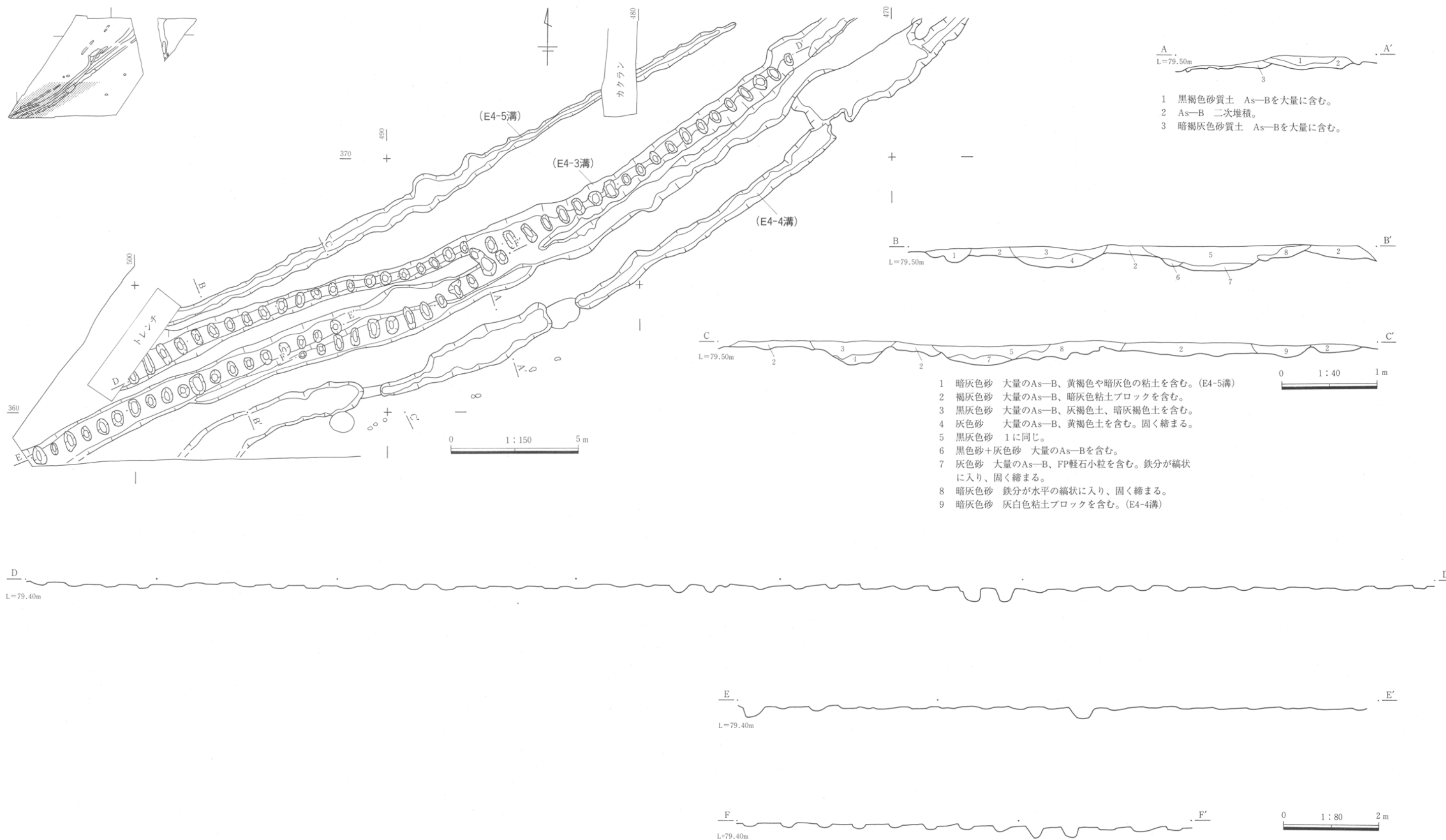
第70図 「中世第2面-2」土坑(8)

第3章 各時代の調査

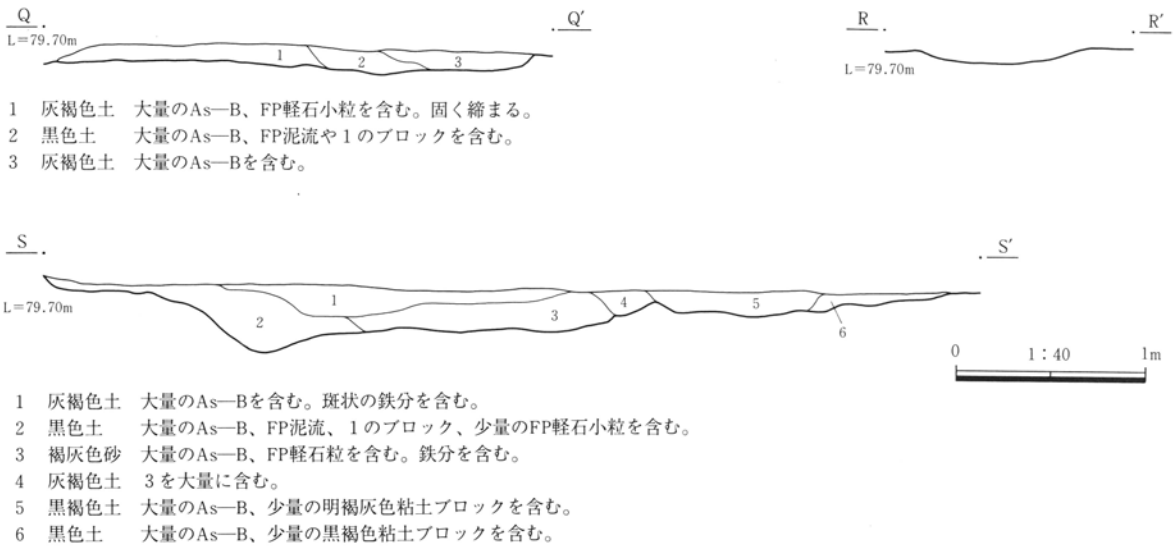


第71図 「中世第2面-2」土坑(9)





第72図 E4-1 道跡



第73図 E4-1 道跡断面図

(第46図に対応)

3. 遺物

この時代の遺物については、量的には少ないものの、完形の「土器」^{かわらけ}の他、中国製青磁器、焼締陶器や軟質陶器の破片が出土した。その他、木製の曲物や板碑も見つかっている。

(1) 「中世第1面」出土遺物(第74図 P L. 96)

1は「土器」である。ほぼ完形で、口11.7cm、底6.8cm、高3.4cm。体部は内湾気味に開く。内底部は凸る。全体的に歪み、底部も不安定。轆轤整形。回転糸切り無調整。胎土は鈍い黄橙色。2・3は焼締陶器甕である。知多窯。2は下体部から底部片。底(13.0)cm。3は体部片であろう。4は軟質陶器挿り鉢の下体から底部片である。底(15.0)cm。内面体部下位と底部周縁は使用により摩滅する。いずれも遺構外出土。

(2) 「中世第2面-1」溝出土遺物(第74図 P L. 96)

- 1はD2-7溝出土。焼締陶器甕または壺の体部片である。知多窯。
- 2はD2-9溝出土。軟質陶器挿り鉢の下体部から底部片である。底(10.0)cm。内面は使用により摩滅。
- 3はD2-5溝出土。焼締陶器甕の体部片である。知多窯。
- 4はD2-17溝出土。中国製青磁碗の体部片である。龍泉窯系。I-5・b類。
- 5はD2-11溝出土。用途不明金属製品である。幅0.8cm、厚0.25cm。

(3) 「中世第2面-1」井戸等出土遺物(第74~75図 P L. 96)

1~3はE3-1井戸出土。このうち1・2は「土器」である。完形で轆轤整形。1は口7.4cm、底4.3cm、高2.3cm。体部は下半が内湾気味で中位から直線的に開く。外面の口縁部下位に段を有する。口縁部は歪む。胎土は橙色。2は口11.6cm、底6.6cm、高3.1cm。体部は直線的で中位に緩い段を有する。胎土は鈍い橙色。また、3は木製曲物で蓋部と身部が合わさった状態である。残存状態は極めて悪く、蓋の天井や側板等の欠損が著しい。径14.5cm、高7.1cm。底板の厚0.5cm未満。側板下部に木釘残存か。

4~5はE3-5井戸出土。いずれも板碑である。緑色片岩。4は完形で、長55.1cm、短16.8cm、厚2.7cm、重5.55kg。種字はキリーク。5は破片で、厚1.75cm。梵字ないしは蓮華座が一部残存。

6はE区北部にある柱穴内からの出土(第53図★印位置)。陶器合子蓋である。径4.4cm、高1.0cm。天井

第3章 各時代の調査

外面に灰釉と花文状のスタンプ文。古瀬戸。13~15C。

(4) 「中世第2面—1」遺構外出土遺物(第75・76図 P L. 96)

1~5はいずれも中国製青磁器である。まず1・2は碗で、口縁部の破片。1は、外面に狭い蓮弁文。龍泉窯系。I—5・b類。2は内面体部に沈線1条、口縁部下に浅い沈線2条か。I—4類。3~5は器種不明。3・4は口縁部片で、4は越州窯系か。5は体部片。内外面にヘラの片彫りによる施文。同安窯系。III—1・C類。6は軟質陶器挿り鉢の口縁部片である。口(27.0)cm。口縁端部の内面は尖り気味。7~10は焼締陶器甕である。知多窯。7・9は体部片。8は下体部片か。10は下体部から底部片。11は軟質陶器火鉢の口縁部から体部片である。口縁部外面にスタンプ文。胎土から中世の産。12・13は器種不明の軟質陶器である。いずれも口縁部片で、口縁部は内面に小さく突出。在地系。

14・15は銭貨である。14は熙寧元宝。直径23.5mm、内径19.5mm、穿径6.5mm、厚1.0mm、重2.3g。北宋の熙寧元(1068)年初鑄。15は天聖元宝。直径24.0mm、内径20.0mm、穿径6.5mm、厚1.0mm、重1.8g。北宋の天聖元(1023)年初鑄。16~18は金属製品である。角釘か。19は用途不明石製品。径(8.3)cm。円筒形か。粗粒輝石安山岩。

(5) 近世面出土遺物(第77図 P L. 97)

6・7は「近世第2面」出土、他は「近世第1面」出土。出土遺構名が記していないものは遺構外出土。

1~9は中国製青磁器である。このうち1~6は碗。1は小碗の口縁部から下体部片。内面は体部下端に沈線2条か。龍泉窯系。E1—2土坑出土。2も口縁部片か。外面に片彫りの縞蓮弁文。3・4は底部片。3は底(7.4)cm。高台外面まで施釉。龍泉窯系。4は底(7.4)cm。大型で鉢ともなるか。内底部に段を有し両側に片彫りによる文様を配する。C1—1溝出土。5・6は体部片か。龍泉窯系。5はI—5・b類。6は外面に幅の狭い凹線と広い凹線を縦に入れる。また7・8は皿である。7は口縁部片。口縁部内にヘラ状工具による沈線、間に丸ノミで凹線。龍泉窯系。8は底部片で、底(5.0)cm。全体を施釉後、底部外面釉を掻き取る。I—2類。同安窯系。E1—1溝出土。9は器種不明で口縁部片か。口(10.0)cm。口縁部は内側に三角形に折り返す。10は土器内耳鍋である。口縁部片で口(26.0)cm。口縁部は短い。E1—1溝出土。

(6) 「古代面」出土遺物(第77図 P L. 97)

1は中国製青磁碗の口縁部片である。外面に片彫りの縞蓮弁文。I—5・b類。龍泉窯系。

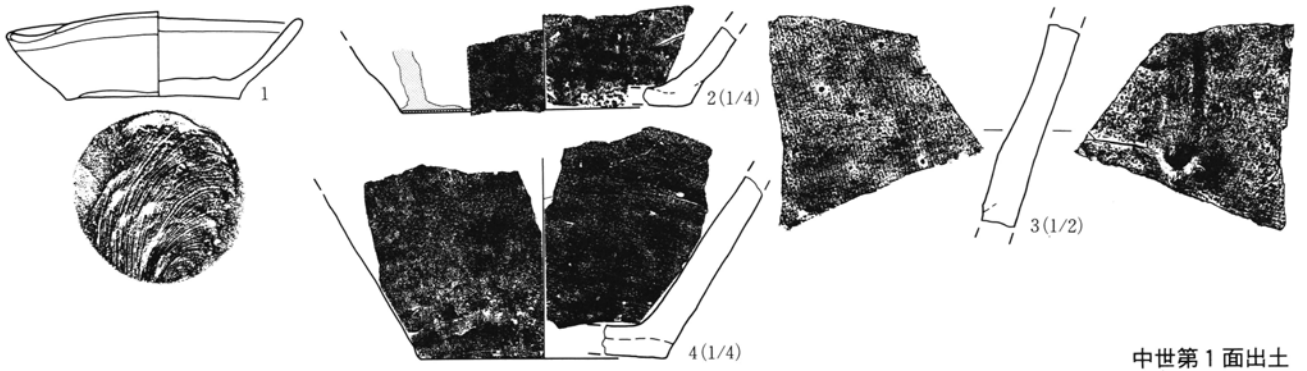
2・3は銭貨である。2は祥符元宝。直径25.5mm、内径19.5mm、穿径6.5mm、厚1.0mm、重3.1g。初鑄は北宋の大中祥符元(1009)年。3は咸平元宝。直径24.5mm、内径18.5mm、穿径6.0mm、厚1.0mm、重3.9g。初鑄は北宋の咸平元(998)年。いずれも遺構外出土。

(7) 「古墳時代以前面」出土遺物(第77図 P L. 97)

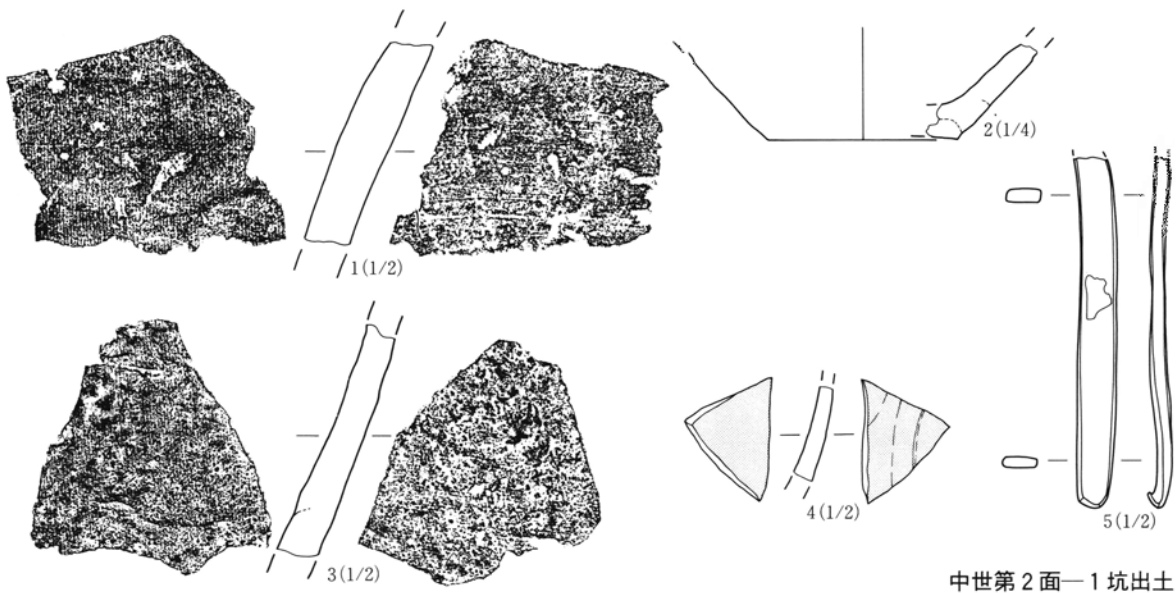
1は焼締陶器鉢の底部片か。底(12.0)cm。B10—2溝出土。

(8) 出土面不明遺物(第77図 P L. 97)

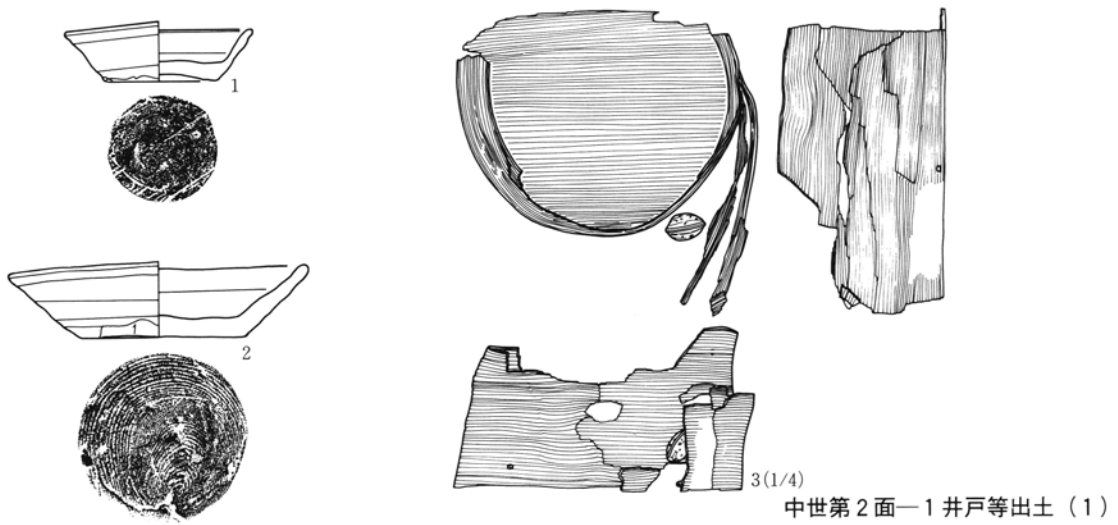
1は陶器香炉の底部片か。「古瀬戸」。15Cか。2は中国製磁器皿の底部片である。底(6.4)cm。内底と底部外面に染付。明代。



中世第1面出土



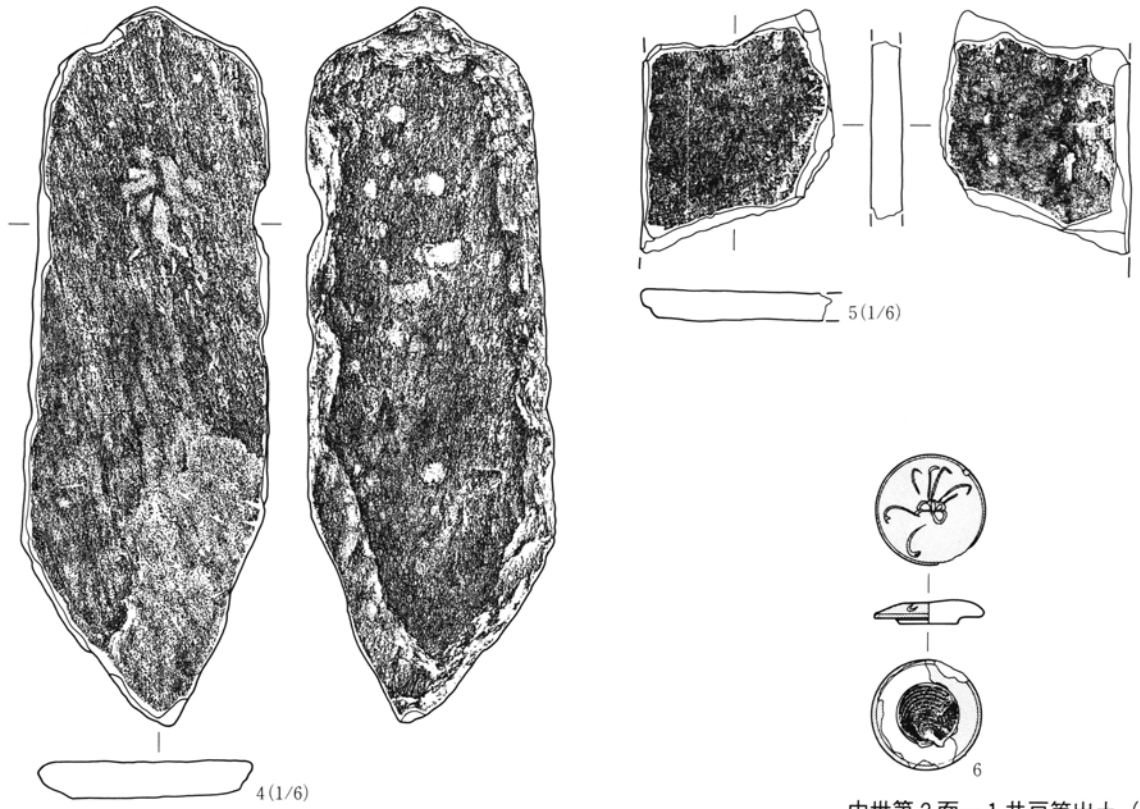
中世第2面—1坑出土



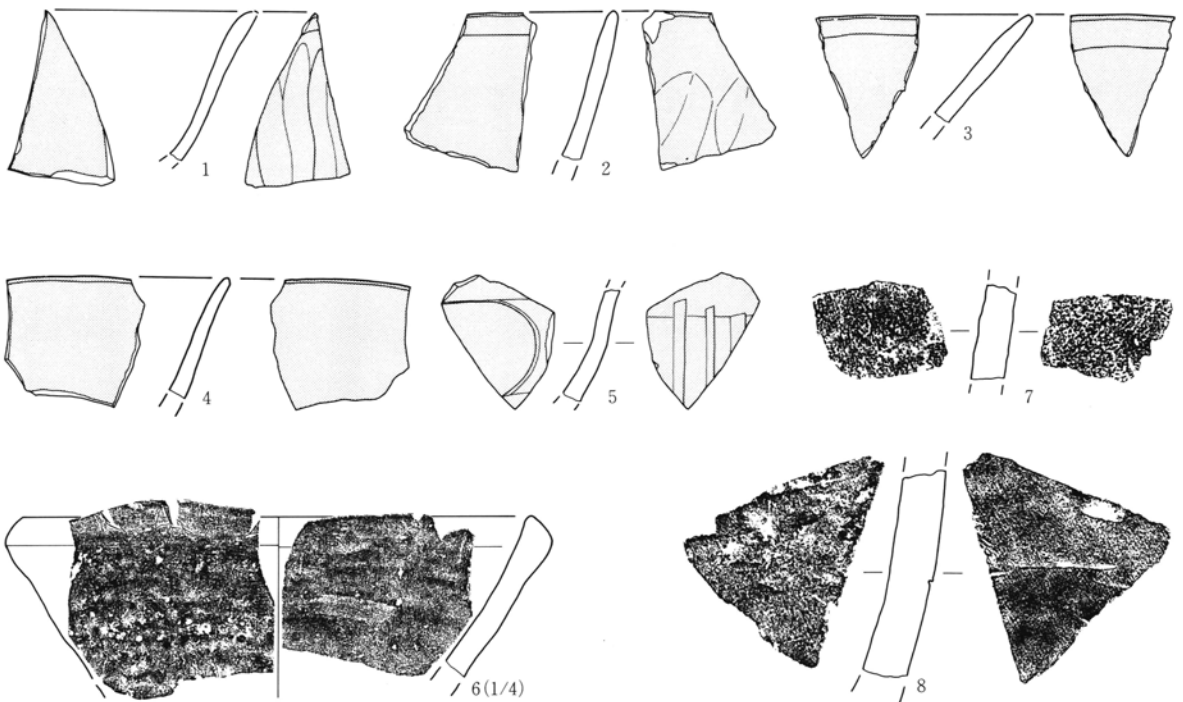
中世第2面—1井戸等出土(1)

0 1:3 10cm

第74図 中世の遺物(1)



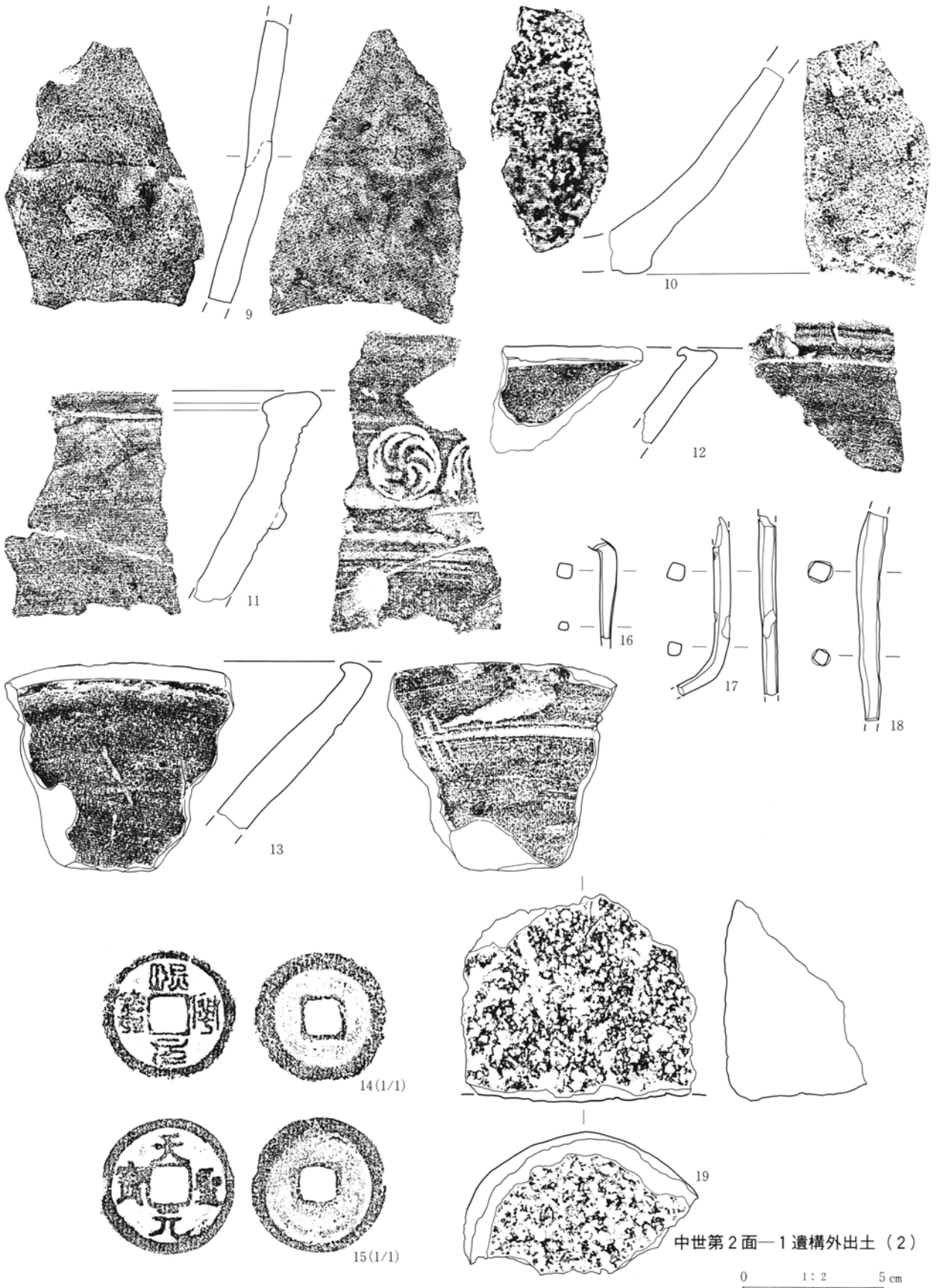
中世第2面—1 井戸等出土 (2)



中世第2面—1 遺構外出土 (1)

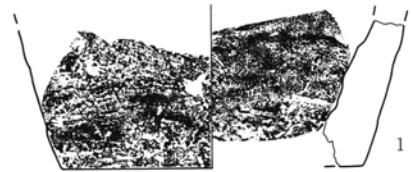
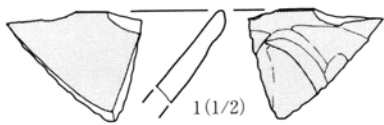
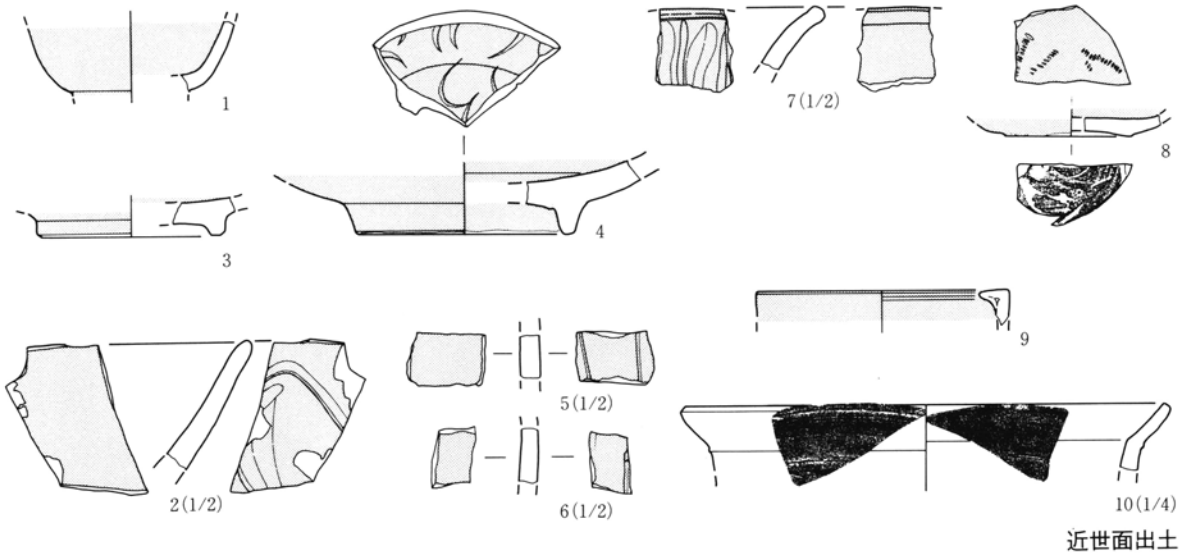
0 1:2 5 cm

第75図 中世の遺物 (2)

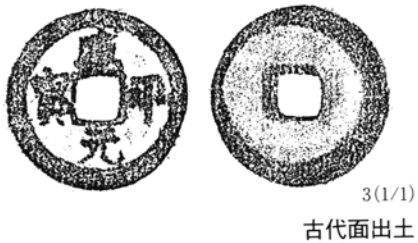
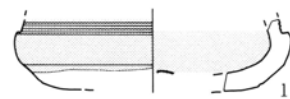
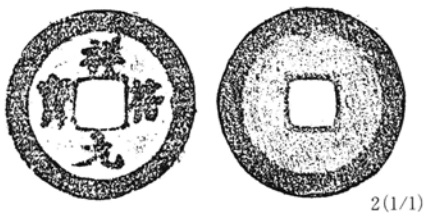


中世第2面-1遺構外出土(2)

第76図 中世の遺物(3)



古墳時代以前面出土



出土面不明

0 1:3 10cm

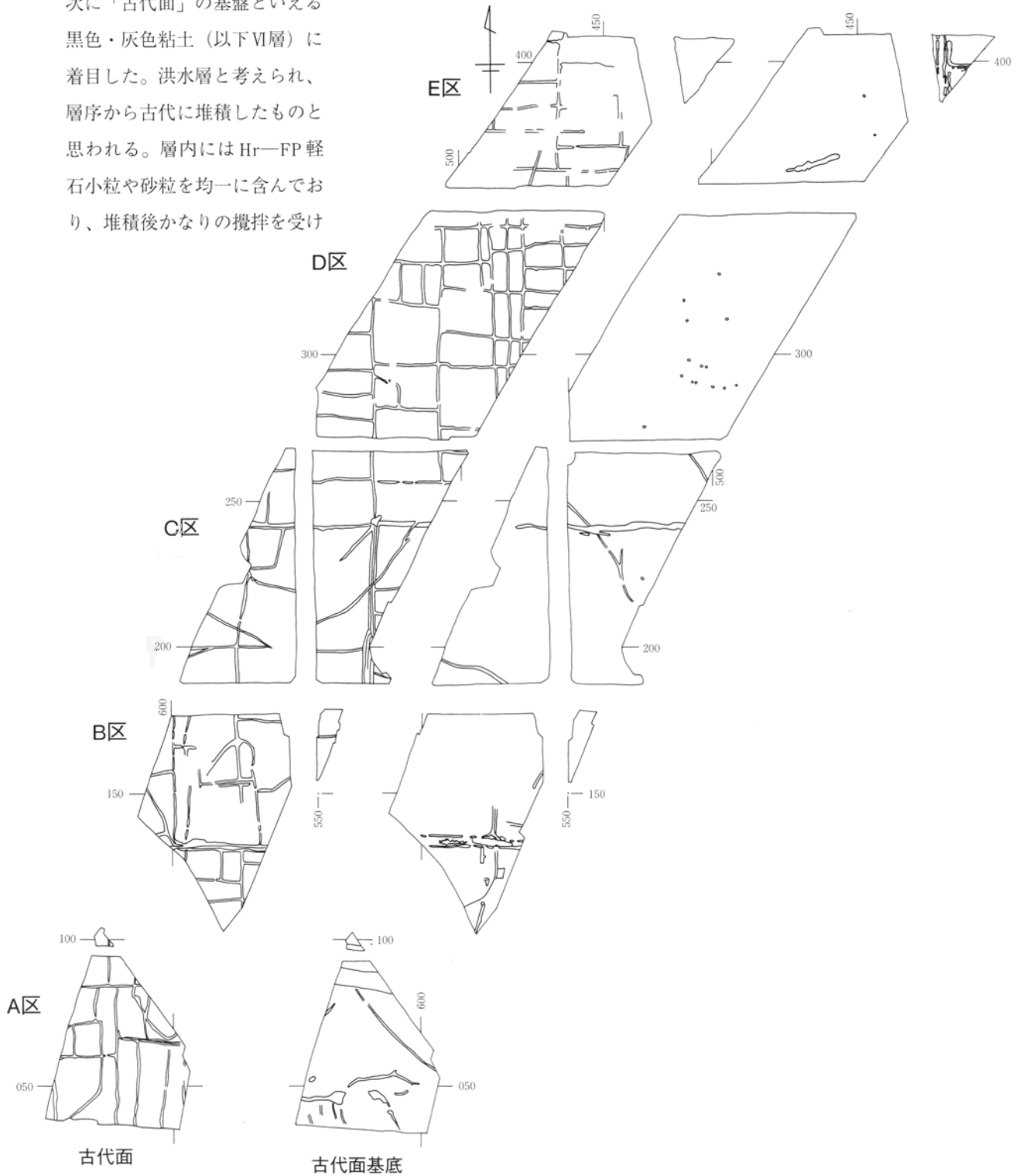
第77図 中世の遺物 (4)

第4節 古代の遺構と遺物

1. 概 要

古代の土層として、まずAs—B（V層）に着目した。この層を完全に除去して、全区で水田跡（As—B下水田）及び土坑2基を確認した。この面を「古代面」と呼ぶ。

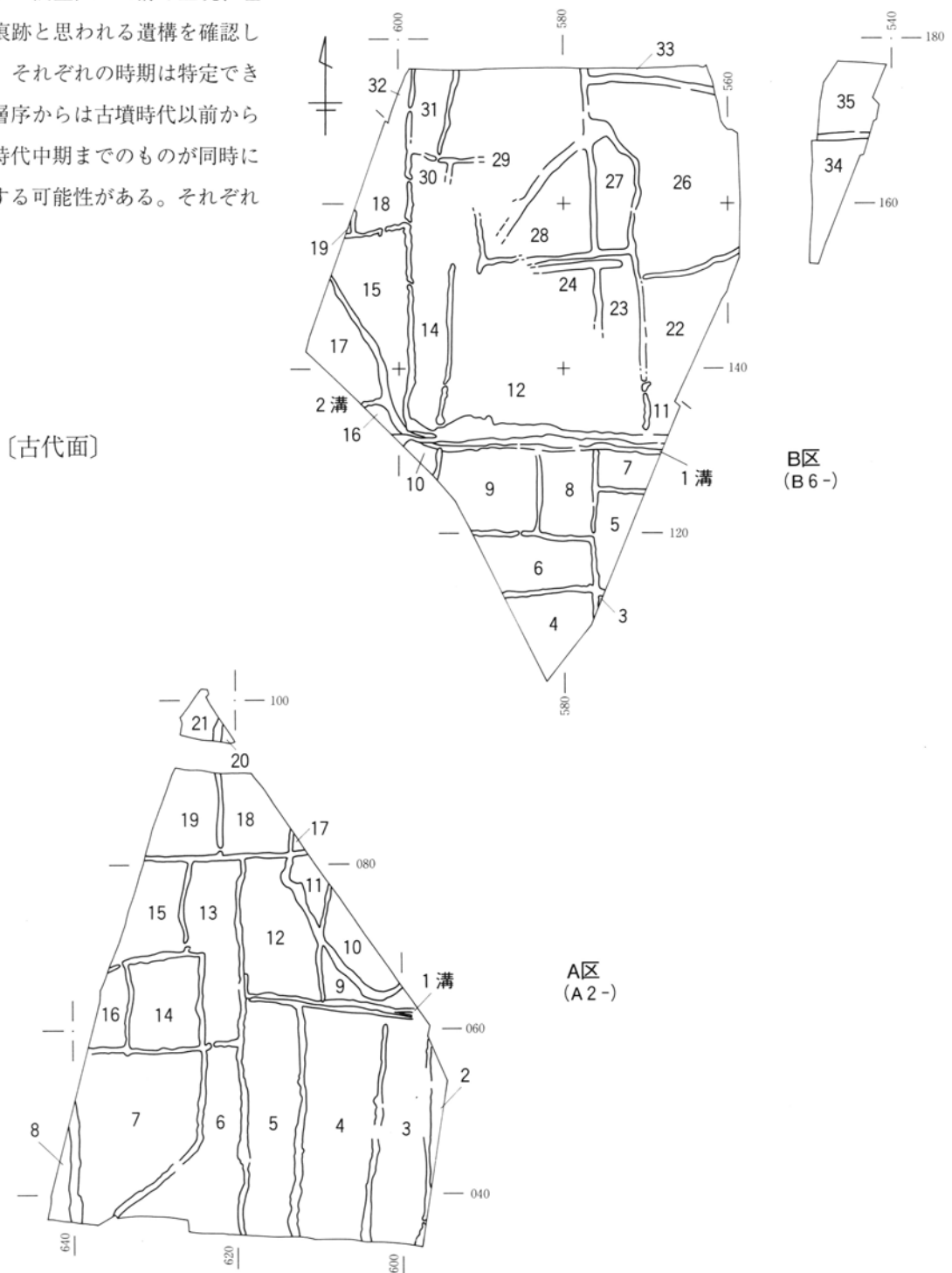
次に「古代面」の基盤といえる黒色・灰色粘土（以下VI層）に着目した。洪水層と考えられ、層序から古代に堆積したものと思われる。層内にはHr—FP軽石小粒や砂粒を均一に含んでおり、堆積後かなりの攪拌を受け



第78図 古代遺構概念図

第3章 各時代の調査

た様子が判る。このIV層を除去したところ、下面の状況は各区で異なっていることが判った。まずD区、E区では6世紀中葉のものと思われるHr—FP泥流（VII層）の上面で遺構確認となり、E区で溝や土坑を確認した。D区では遺構は見つからなかったが、後の調査でHr—FP泥流を埋土に含む土坑を確認した。一方、A区からC区では古墳時代以前のもと思われる暗灰色シルト（XIII層）が堆積しており、部分的に古墳時代のHr—FP泥流、Hr—FA（X層）と思われる土層、As—C混土（XII層）が僅かな層厚で残存している。これらの調査区では溝や土坑、畦畔の痕跡と思われる遺構を確認したが、それぞれの時期は特定できず、層序からは古墳時代以前から平安時代中期までのものが同時に存在する可能性がある。それぞれ

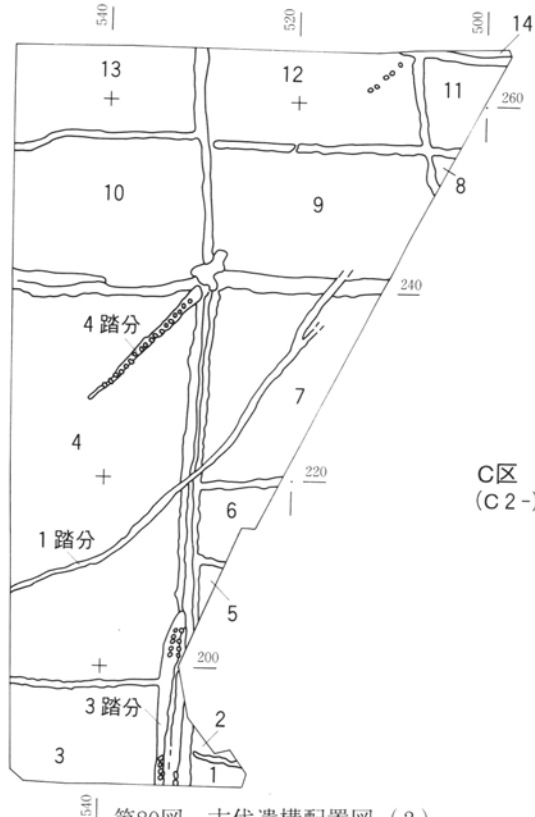
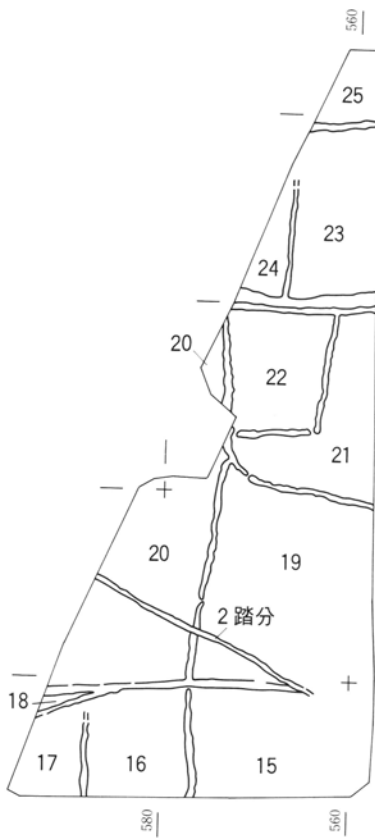
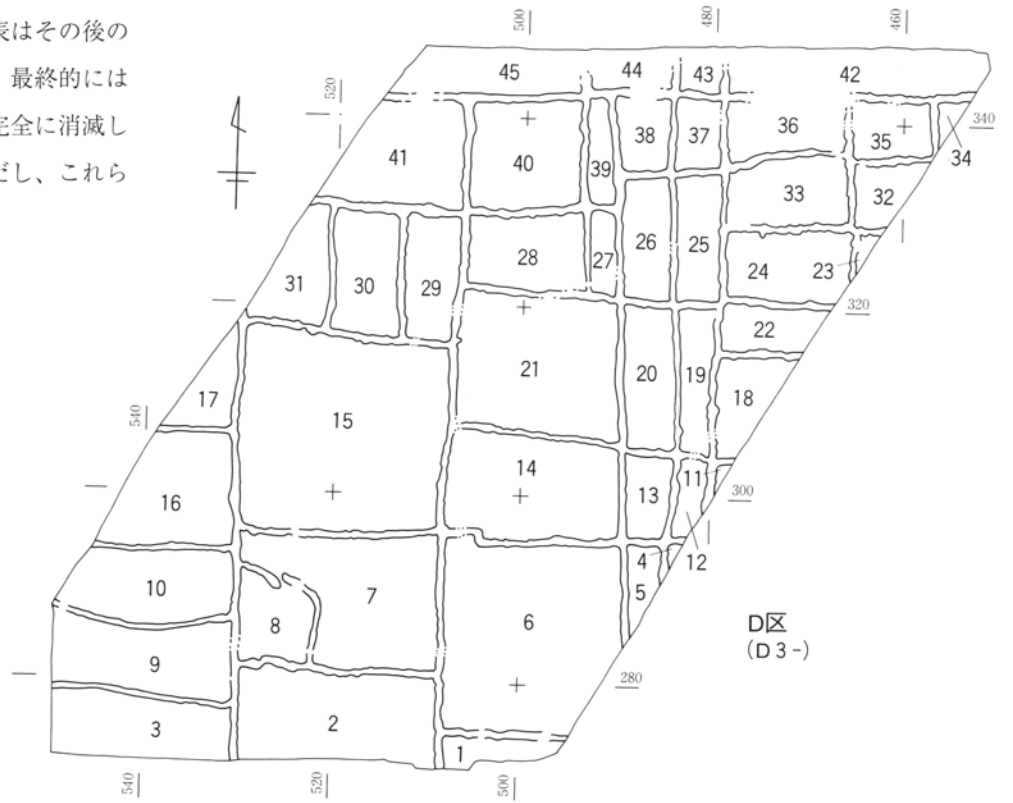


第79図 古代遺構配置図(1)

第4節 古代の遺構と遺物

の掘り込まれた当時の地表はその後の耕作により削平され続け、最終的にはVI層が耕作されることで完全に消滅したものと考えられる。ただし、これらのうち比較的規模の大きな溝は「古代面」のAs-B下水田の大型畦畔との関連が考えられた。そのためVI層を除去した状態を「古代面基底」と呼ぶ。

〔古代面〕

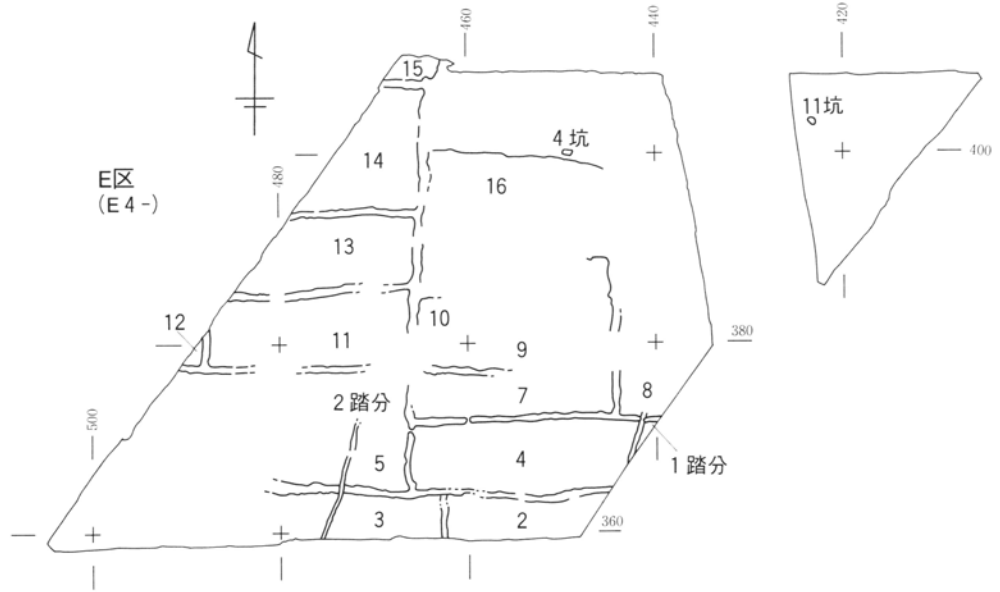


第80図 古代遺構配置図(2)

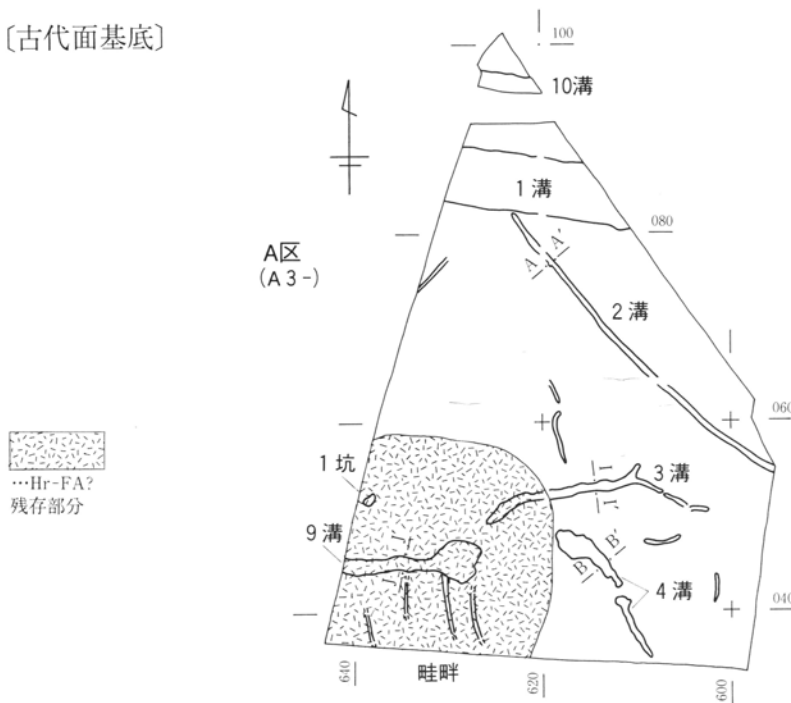
第3章 各時代の調査

なお、この「古代面基底」のC区では北東部から南西に向かい緩やかな傾斜が見られ、この部分にHr—FPその他の土層が残存していた。このため、より下位の地形に起伏があることが予想された。

〔古代面〕

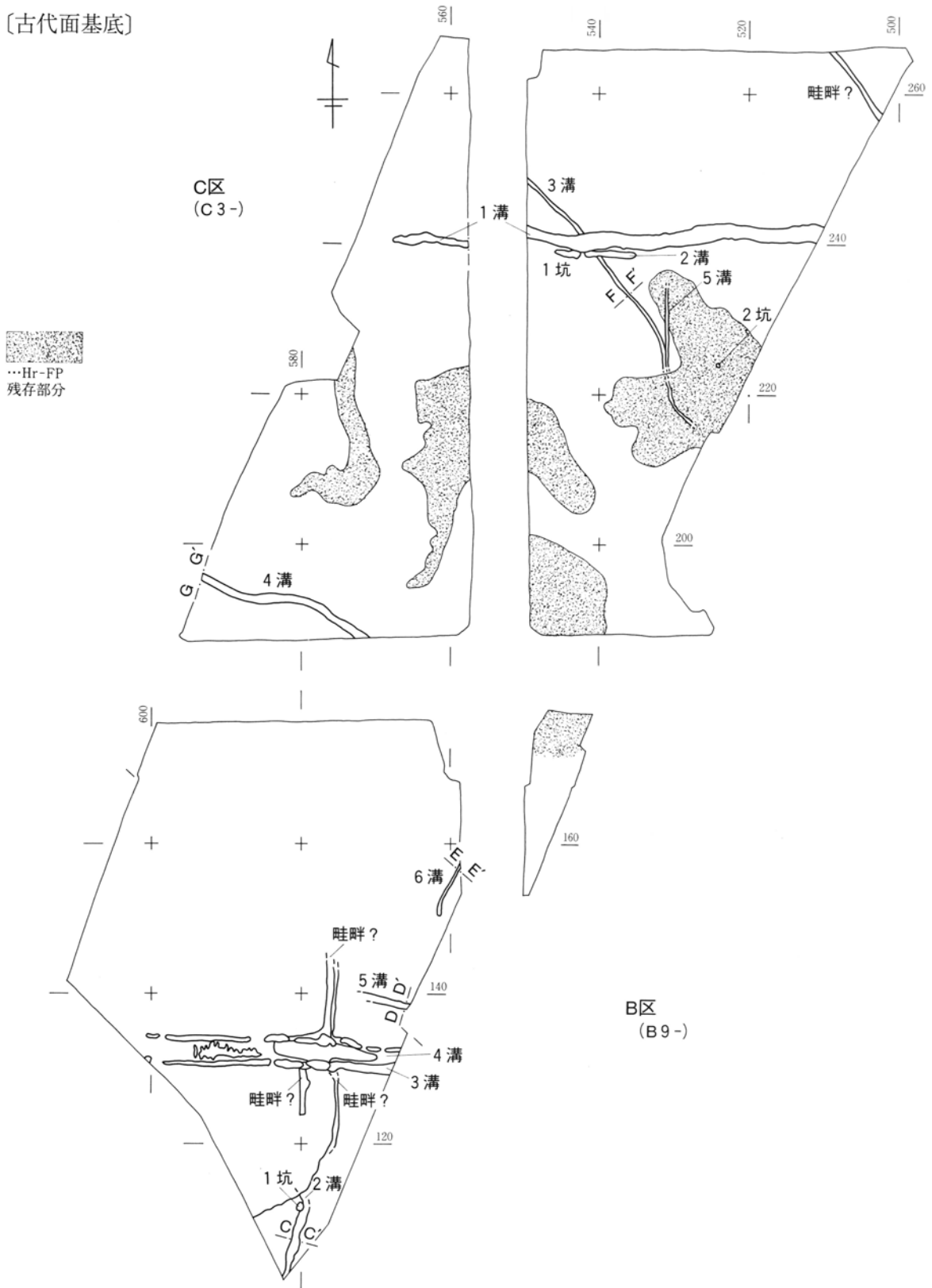


〔古代面基底〕



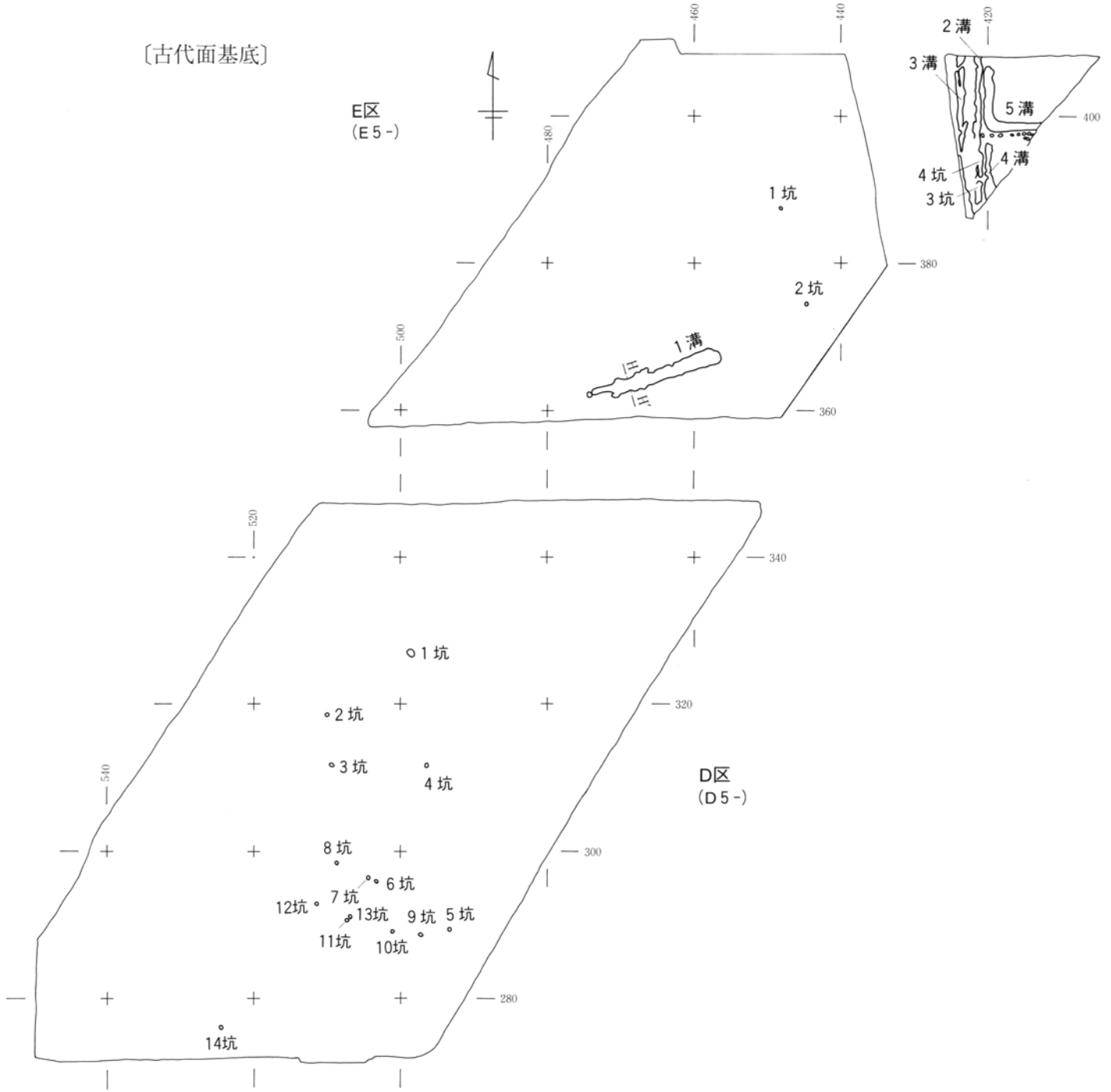
第81図 古代遺構配置図(3)

〔古代面基底〕



第82図 古代遺構配置図(4)

[古代面基底]



第83図 古代遺構配置図(5)

なお、A区のA3-3・9溝、A3-1土坑、及び畦畔と思われる痕跡は前述したHr-FA(X層)と思われる層直下の土層を除去して確認した。そのため古墳時代の所産と判断し、本章第5節に記載した。

遺物は、各面やVI層内から須恵器、土師器の破片が出土している。

2. 遺構

(1) 水田跡

水田跡は「古代面」でAs-B下水田を確認した。また、「古代面基底」では明瞭な水田跡は確認できなか

ったが、畦畔痕跡の可能性もある遺構が見つまっている。

① As—B下水田（第84～88図 P L. 47～54）

遺跡内ほぼ全域で確認した。これは天仁元（1108）年の浅間山噴火により埋没したものである。B区北部や上位の遺構と重複する部分の多いE区を除き、残存はおおむね良好である。IV層を耕土とするが、明確な水田床土の形成は認められない。各畦畔は耕作面からの高さ約5cm前後、底部幅は約50cm程度であるが、幅1mを越えるもの（以下、大型畦畔）も数条ある。区画は基本的に東西方向、南北方向に区切られている。このうちA区では南北軸が東西軸の4倍以上の細長い区画（A2—3～5区画）が東西に連なっている。また、D区では他区のものより小さい区画が多く、規模の等しい区画複数を近接して設けている。特に、東部から北部にかけては東西軸約4mの小型の区画が南北方向2列に並んでいる（D3—4・5区画から北へD3—37・38区画まで）。これらは東西に隣接する区画の規模は同一であり、他の部分とは異なった規則性が見られる。一方、A区、B区では走行が約N—45°—W、またはN—45°—Eの斜行する畦畔で区切られた区画（A2—7・9～12区画、B6—27～29区画）もある。これらは地形の傾斜に対応したものと思われる。

水田面を観察すると、まずE区北東部には農具痕が残存している。状態の良い部分では、それぞれの農具痕は半月状を呈し、東西方向に約1m間隔で直線的に作業された様子が判る。しかしこの部分で区画は残存しておらず、またAs—BやIV層の残存が悪いこともあり、これらがAs—B下水田を作業した時のものか否かは特定できなかった。

また、C区以北では人間の足跡や馬蹄痕が残存している。人間の足跡はC2—10・13区画、D3—3・9・16・17区画の全面で見られ、いずれも区画内を東西方向に往復している様子が判る。これらの区画は現道を挟み南北に連なっており、確認された足跡はこれらの部分を連続して作業した時のものと思われる。一方、馬蹄痕は、C区ではC2—10・13区画、D区では西端から中央部に、E区では南部に残存している。いずれも区画の方向に関わらず歩行しており、農耕に使役されたものかは断定できない。

その他、畦畔を含む全面には小さな凹凸があり、また溝状の窪みも数カ所で見られる。このうち著しい凹凸が帯状に連続したものがB区とC区で見つまっている。いずれも北東から南西走しているが、農具痕などは確認できない。このうちB区のは、B6—22・26区画に跨る。約9m間隔で併走し、その中間の水田面も凹凸が激しい。またC区のは2条に分岐してC2—9・12区画に跨るが、一条は畦畔の水口部、もう一条は畦畔が僅かに屈曲する部分を通過している。一方、斜行する溝状の窪みはC区とE区で複数を確認した。これらは幅10cm、深さ3cm程度の浅いもので、人が歩くことにより自然に窪んだ、いわゆる「踏み分け道」の可能性もある（C2—1～4踏分・E4—1・2踏分）。このうち、C2—4踏分は前述した凹凸の帯を南西に延長した部分で見られる。

これらは、畦畔を壊している部分も多く性格は不明である。さらに、区画とは無関係に「踏み分け道」が形成されたとすれば、この水田跡はAs—Bで埋没した時には放棄されていた可能性もある。なお、C2—4踏分、E4—1踏分の底部やC区の帯状の凹凸の下位では、それぞれピット列を確認した。各ピットは径40～50cm、深さ10cm程度である。この状態は、古代の道路遺構の底部に見られる「波板状凹凸面」の一種に類似しているが、具体的な構造は確認できない。

次に、As—Bに被覆された水田跡はいわゆる「条里型水田」である事例が多いため、この水田跡でも条里型地割りを確認する必要がある。そこで各区の大型畦畔を観察すると、まず東西走するものはB区とC区で見られる。座標値ではB区のはX=132上、C区のはX=242上であり、両者間は「一町」に相当する約109～110mである。従って、これら大型畦畔は条里型地割りに於ける「坪」を規定したもの、いわゆ

第3章 各時代の調査

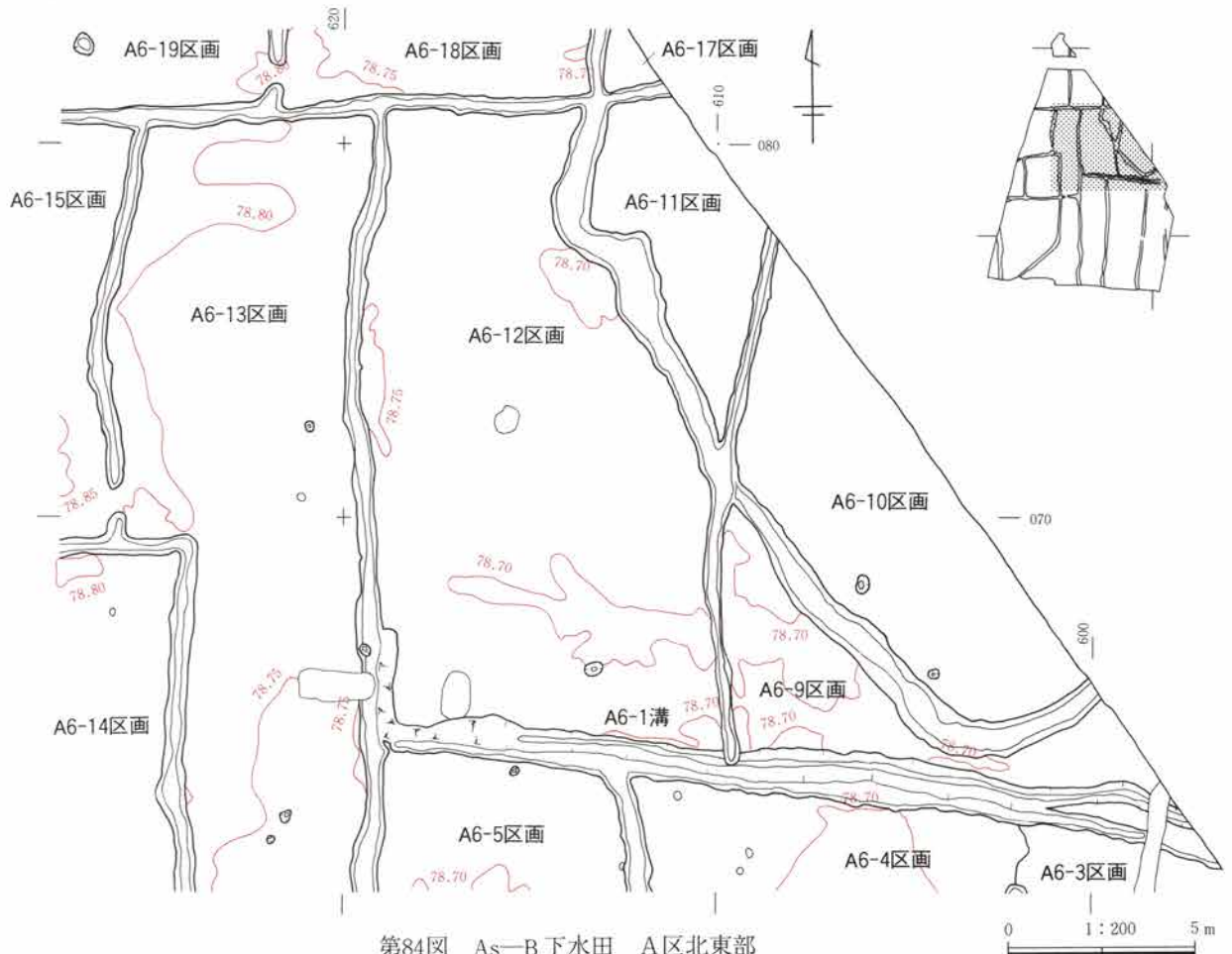
る「坪畦畔」と考えられる。また、南北方向の大型畦畔はC区にあり、座標値でY=530上に位置する。中央部以南は溝状の窪みを伴う大規模なもので、これも「坪畦畔」の可能性が高い。しかし、北部のD区ではこのライン状の畦畔は他のものと違いはなく、また他に南北方向の大型畦畔は見つっていないために断定はできない。以上の状況から、本遺跡のAs-B下水田も「条里型水田」である可能性が高いが、他面の遺構や周辺の遺跡の状況を考え合わせ、より具体的に検討する必要がある。

なお、この水田跡に伴う溝は以下の3条である。このうち、B6-1・2溝はプラン確認時には極めて浅く、天仁元年には廃絶していたと思われるが、その後の精査で「坪畦畔」の下を潜る状態であることが判った。従って、これらの溝はこの畦畔の北側の「坪」から南側の「坪」へと配水する機能を持っていた可能性がある。またA2-1溝は、状態から見て近隣の区画間で用水を調整するためのものであろう。

A2-1溝 A区東部から中央部の060-595G~065-615Gに位置する。「L」字状を呈し、走向はN-85°-W、064-619G以北がN-0°。北端は完結し、西端部は不明瞭。確認長24m、幅45~95cm、深さ3~4cmで、断面はごく浅い皿状。

B6-1溝 B区東部から西部の125-565G~150-605Gに位置する。南西に大きく屈曲し、走向はN-86°-W、132-599G付近でN-26°-W。確認長59.0m、幅40~118cm、深さ6~7cmで、断面は皿状。埋土は灰褐色土で上位は黒色を呈し、VI層に似る。西側でB6-2溝が合するが、新旧関係は不明。

B6-2溝 B区西端の135-600Gに位置する。走向はN-88°-E。確認長2.4m、幅62cm。B6-1溝との新旧関係は不明。



第84図 As-B下水田 A区北東部

第4節 古代の遺構と遺物

【As-B 下水田 区画計測表】

①A区 (A 2-)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
2	—	—	—	—	3	—	—	6.0	N-4°-E	4	—	—	8.5	N-5°-E
5	—	—	6.5	N-2°-E	6	—	—	8.0	N-2°-E	7	—	—	14.0	N-2°-E
8	—	—	—	—	9	—	—	6.8	—	10	—	—	—	—
11	—	—	—	—	12	125.7	16.5	9.1	N-3°-E	13	119.1	22.0	6.4	N-2°-W
14	91.6	11.2	8.7	N-4°-W	15	—	(11.6)	—	—	16	—	(9.75)	—	—
17	—	—	—	—	18	—	—	—	—	19	—	—	—	—
20	—	—	—	—	21	—	—	—	—					

②B区 (B 6-)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
3	—	—	—	—	4	—	—	—	—	5	—	(11.8)	—	—
6	—	—	6.1	N-90°	7	—	—	4.9	N-88°-W	8	64.7	10.1	6.3	N-2°-W
9	120.1※	12.2	10.0	N-89°-W	10	—	—	—	—	11	—	—	—	—
12	366.8	23.5	19.7	N-90°	14	—	—	4.0	N-0°	15	—	(23.0)	—	—
16	—	—	—	—	17	—	—	—	—	18	—	—	5.3	N-2°-E
19	—	—	—	—	22	—	—	—	—	23	—	—	4.4	N-3°-W
24	—	—	—	—	26	—	(22.5)	—	—	27	53.5	13.4	4.5	N-2°-W
28	—	—	—	—	29	—	—	—	—	30	—	—	—	—
31	—	—	4.0	N-5°-E	32	—	—	—	—	33	—	—	—	—
34	—	—	—	—	35	—	—	—	—					

②C区 (C 2-)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	—	—	—	2	—	—	—	—	3	—	—	—	—
4	—	41.0	—	N-2°-E	5	—	—	—	—	6	—	—	7.5	N-88°-W
7	—	(20.6)	—	—	8	—	—	—	—	9	320.9※	23.5	13.8	N-90°
10	—	—	15.2	—	11	—	(9.5)	—	—	12	—	(22.8)	—	N-90°
13	—	—	—	—	14	—	—	—	—	15	—	—	—	—
16	—	—	10.9	N-0°	17	—	—	—	—	18	—	—	—	—
19	—	20.5	—	N-10°-E	20	—	—	—	—	21	—	—	—	—
22	126.9	12.7	10.3	N-0°	23	—	17.4	—	N-4°-E	24	—	(14.6)	—	—
25	—	—	—	—										

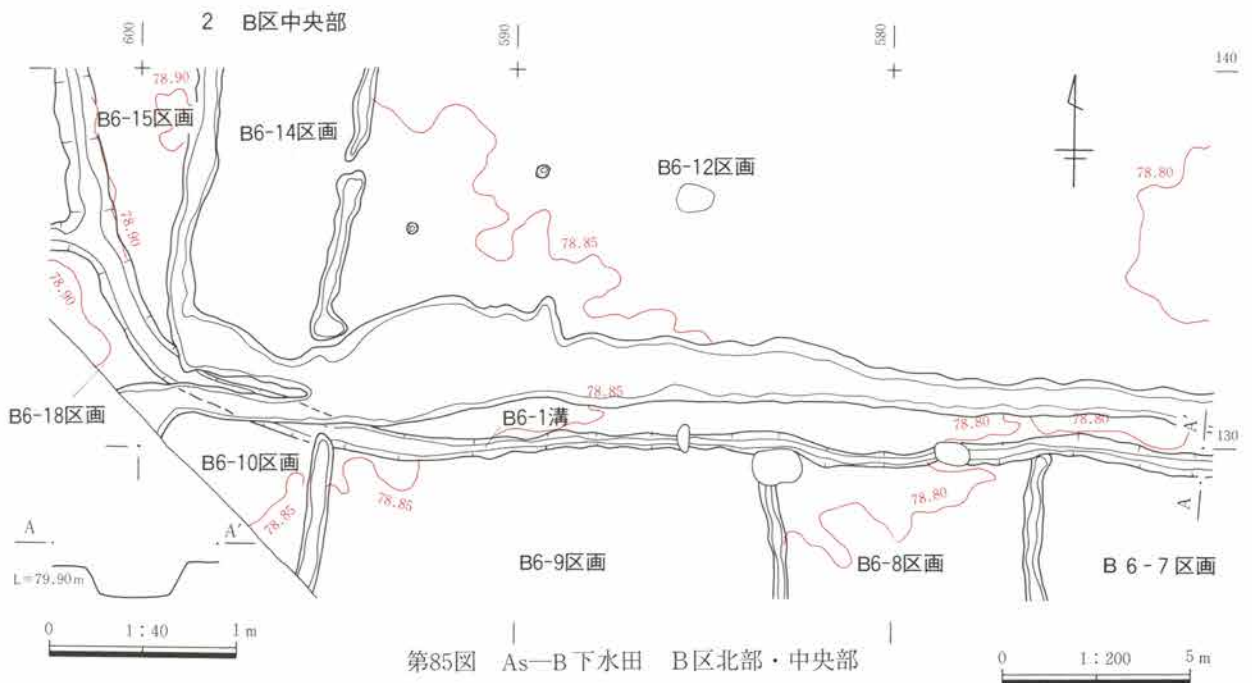
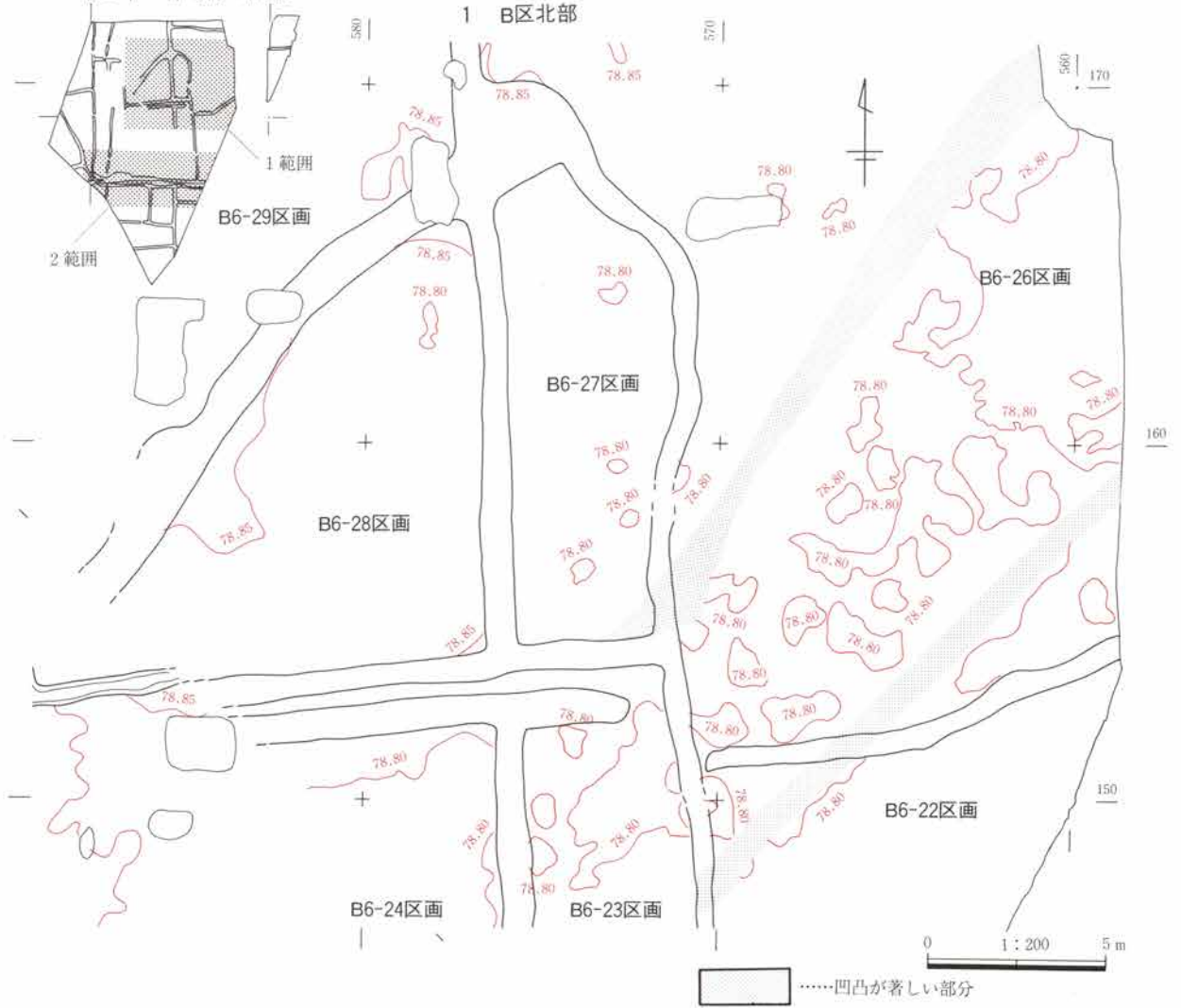
④D区 (D 3-)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	—	—	—	2	—	(21.4)	—	—	3	—	—	—	—
4	—	—	—	—	5	—	—	3.8	N-4°-W	6	379.6	19.8	19.0	N-1°-W
7	204.3	21.4	14.2	N-90°	8	66.2	9.7	8.4	N-0°	9	—	—	6.7	N-86°-W
10	—	—	8.0	N-90°	11	—	—	—	—	12	24.7※	8.3	2.9	N-3°-W
13	39.9	8.5	4.8	N-2°-E	14	190.7	18.3	10.6	N-87°-W	15	452.9	22.8	20.6	N-88°-W
16	—	—	11.2	N-90°	17	—	—	—	—	18	—	(10.8)	—	—
19	51.5	15.2	3.0	N-2°-W	20	79.0	15.1	5.6	N-2°-W	21	246.4	17.2	14.6	N-85°-W
22	—	—	4.6	N-87°-W	23	—	—	—	—	24	96.4	13.2	7.4	N-87°-W
25	64.7	13.5	4.7	N-1°-W	26	65.6	13.0	5.1	N-1°-W	27	25.4	9.1	2.9	N-2°-W
28	102.8	12.5	8.2	N-88°-E	29	76.7	13.2	6.0	N-3°-E	30	93.2	13.3	6.8	N-2°-E
31	108.5	12.6	8.7	N-3°-E	32	—	—	6.4	N-87°-E	33	90.4	12.8	7.4	N-87°-E
34	—	—	—	—	35	47.3	8.4	5.5	N-88°-E	36	69.2	12.7	5.4	N-87°-E
37	35.4	7.3	4.8	N-0°	38	41.5	7.6	5.4	N-3°-W	39	29.3	11.2	2.6	N-3°-W
40	130.9	11.7	11.2	N-2°-E	41	—	—	10.7	N-90°	42	—	—	—	—
43	—	—	3.7	N-3°-E	44	—	(8.8)	—	—	45	—	—	—	—

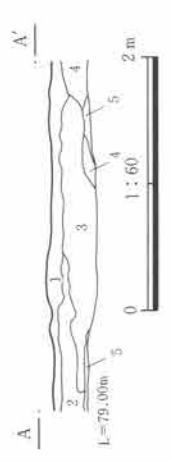
⑤E区 (E 4-)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
2	—	—	—	—	3	—	—	—	—	4	—	—	5.1	N-90°
5	—	—	—	—	7	99.0※	21.3	4.4	N-90°	8	—	—	—	—
9	—	—	—	—	10	—	—	—	—	11	155.8※	21.0	7.7	N-90°
12	—	—	—	—	13	—	—	7.8	N-90°	14	—	—	12.7	N-90°
15	—	—	—	—	16	—	—	—	—					

第3章 各時代の調査



第85図 As-B下水田 B区北部・中央部

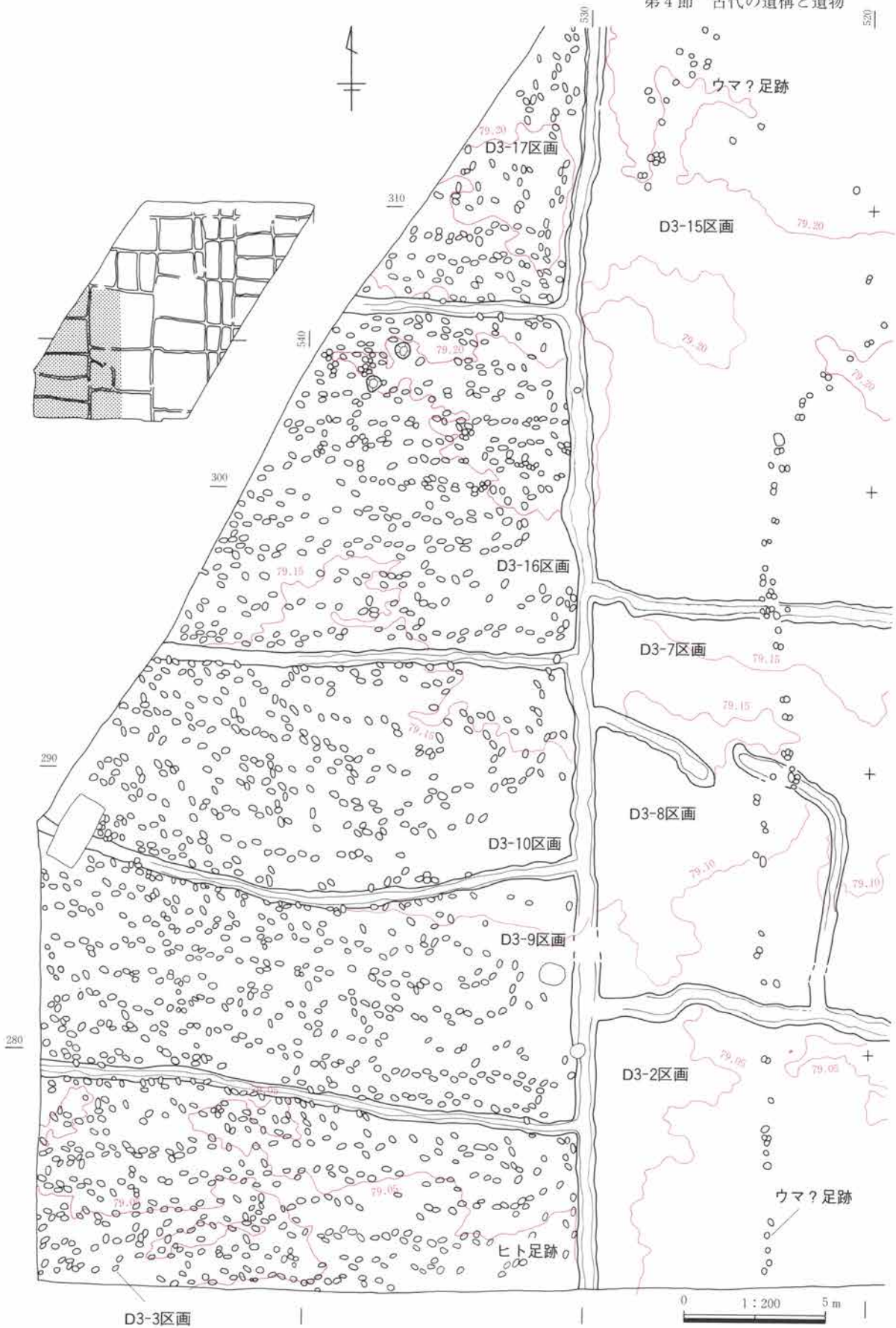


- 1 黒褐色粘土 少量のFP軽石小粒を含む。
- 2 褐灰色粘土 FP軽石小粒を含む。
- 3 褐灰色砂 FP軽石小粒を含む。
- 4 褐灰色シルト FP軽石小粒を含む。
- 5 灰褐色シルト FAを含む。



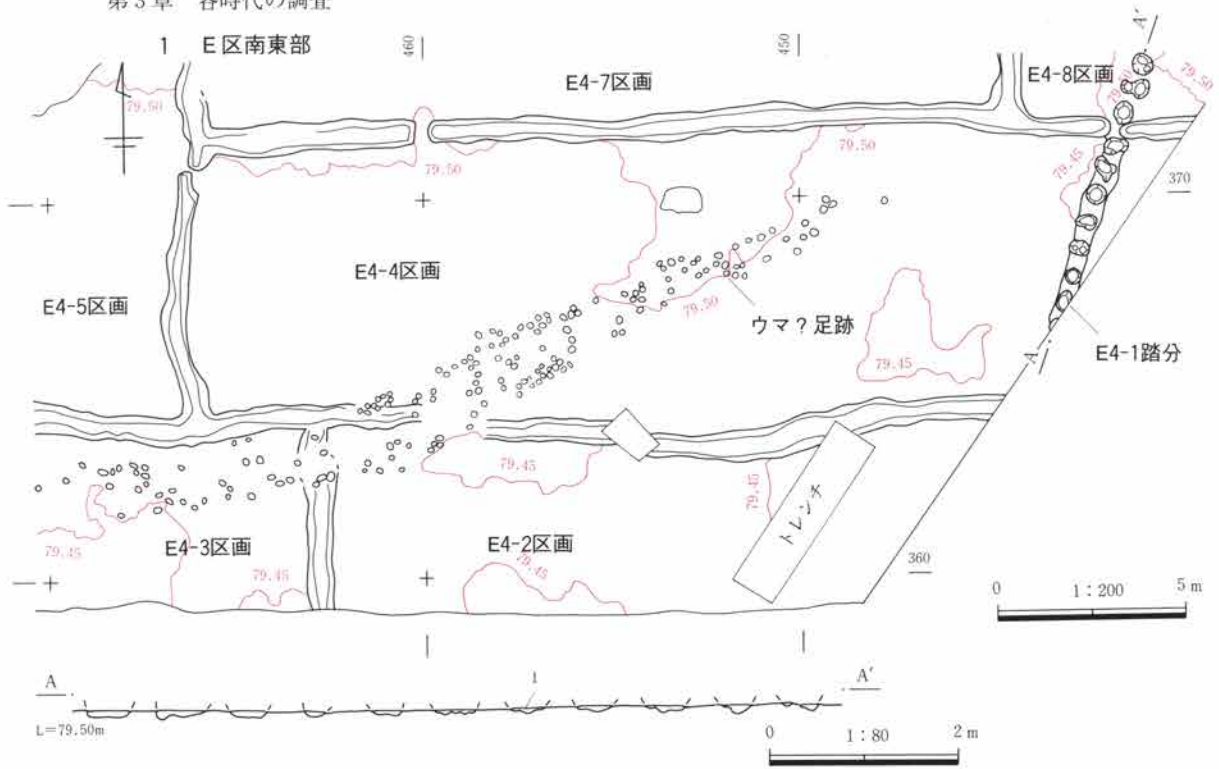
1 黒褐色粘土、灰褐色粘土ブロック、多量のFP軽石小粒、少量のFAを含む。

第86図 As-B下水田 C区北部～北西部

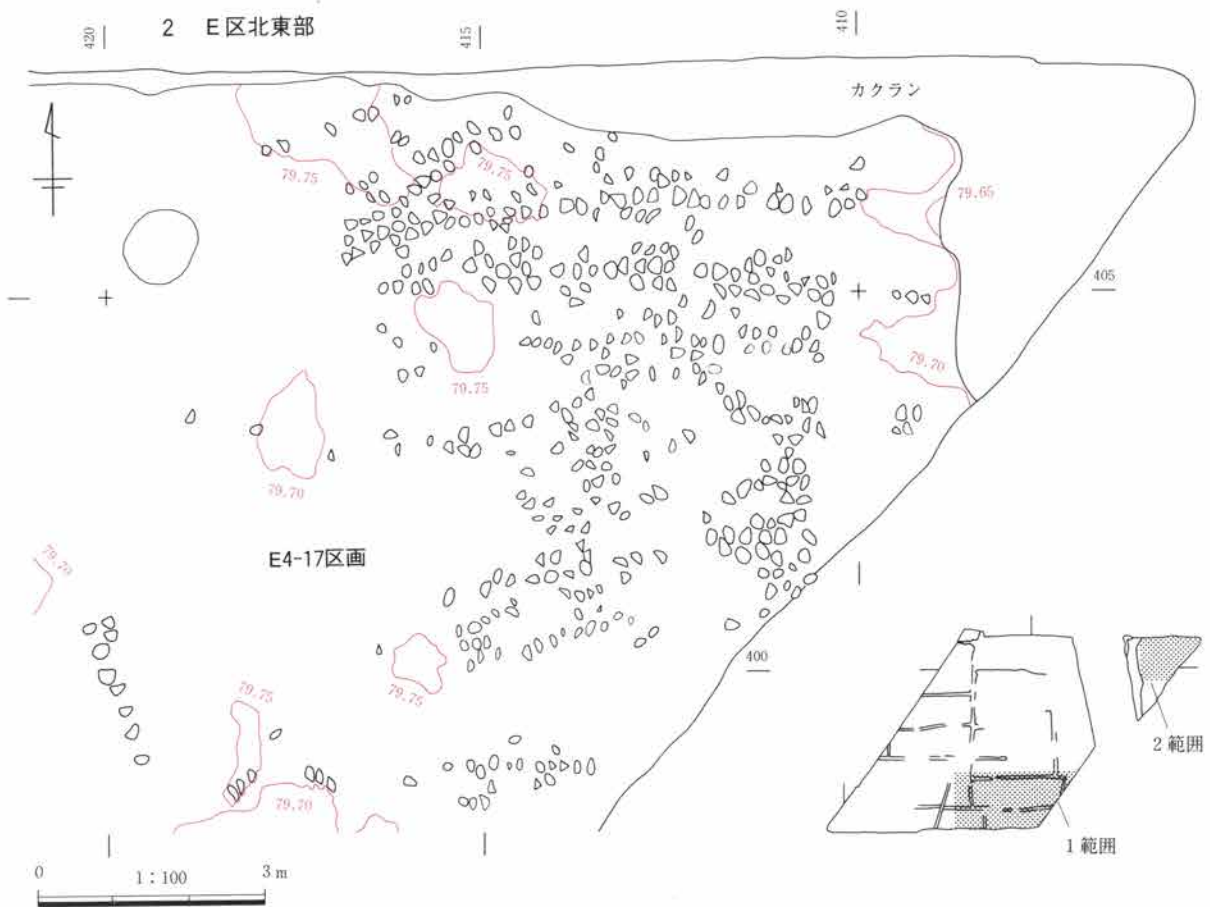


第87図 As-B下水田 D区南西部

第3章 各時代の調査



1 暗褐色砂質土 FP泥流、FP軽石小粒を含む。



第88図 As-B 下水田 E区南東部・北東部

②「古代面基底」の水田跡（P.L. 55）

「古代面基底」では明確な水田跡は確認できなかった。しかし、B区とC区では畦畔の痕跡と思われる遺構5条を確認した。

まず、B区では南部から中央部で南北走る4条を確認した。B9—3・4溝の北部に1条、南部に2条がこれらの溝と直交するように位置している。幅約80～150cm、高さ数cmあり土色の違いで確認した部分も多い。溝南部の2条のうち東側のものは、中央部以北がAs—B下水田のB6—5・7区画とB6—6・8区画とを分ける畦畔の直下に位置している。また溝北部の1条をさらに北に延長した部分には、同じくB6—22・23区画を分ける畦畔が存在する。後述するようにB9—3・4溝の上位にもAs—B下水田の畦畔が位置することからも、これらの畦畔と思われる遺構はAs—B下水田と同様な地割りを持った水田の一部であったことも推測できる。

一方、C区では北東隅で1条を確認した。北西から南東走し、幅50cm、高さ5cmである。後述する古墳時代の各水田跡の大型畦畔（オオアゼ）の走向や規模に類似しており、これらとの関連が推測される。（本章第5節参照。）

(2) 溝（第89～93図 P.L. 55～58）

水田に伴うもの以外の溝は「古代面基底」で確認した。A区で4条、B区で5条、C区で4条、E区で5条、計で18条を数える。このなかで特筆すべきは、上位のAs—B下水田の「坪畦畔」やそれに相当する位置の直下に位置する溝が数条含まれていることである。

まず、B9—3・4溝はともに直線的に東西走し、心心距離で約2.5mで併走している。B区の東西「坪畦畔」直下に位置しており、この畦畔を造成した際に両側から土を盛り上げるために掘り込まれた可能性がある。また、これら2条の間には長楕円形の土坑状の窪みが数基連なっている。この窪みが道路遺構底部に見られる「波板状凹凸面」の一種に類似することで、これらの溝は道路の側溝とも考えられる。しかし、硬化面など具体的な道路構造は確認できず、さらに溝が断続していること、側溝を持つ道路遺構の調査事例と比べ道路幅が狭くなることから断定はできない。また、C3—1溝はC区の東西「坪畦畔」直下に位置している。この畦畔の造成に関わった可能性もあるが、両側から土を盛り上げた状態ではないため水路として機能していたことも考えられる。さらに、E5—2・3溝はともに直線的に南北走し、心心距離で約2.5mで平行している点で、B9—3・4溝と類似している。これらはC区、D区にある南北方向の「坪畦畔」から東側約110mに位置している。この上位には「坪畦畔」は確認できなかったが、中世の水田との関連も考えられる「中世第2面—2」のE4—7溝が位置している。

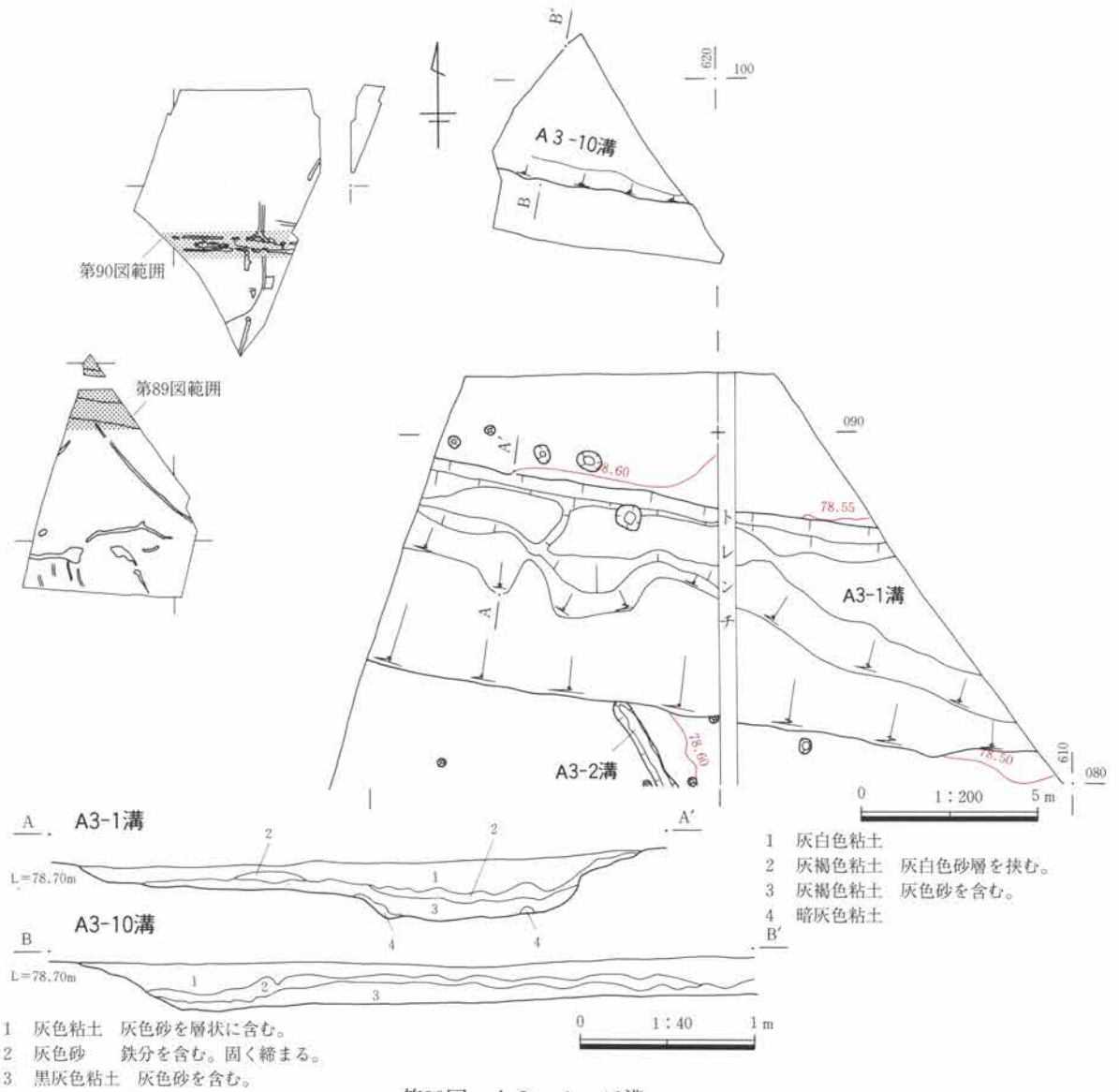
以上、As—B下水田に於いて「坪」を規定していたと思われる位置で、比較的大規模な造作の様子が窺える。このことから、As—B下水田での条里型地割りがそれ以前から継続してきたもので、さらに中世にかけても踏襲されていた可能性が示唆される。ただし、C区やD区の南北方向の「坪畦畔」直下では小規模な溝の痕跡は見られたものの、前述したような大規模なものは残存していない。

一方、A区北部のA3—1・10溝は、ともに比較的規模の大きいものである。走向もほぼ一致しており約8.5m間隔で併走している。そのため、これら2条は重要な機能を持っていた可能性もある。

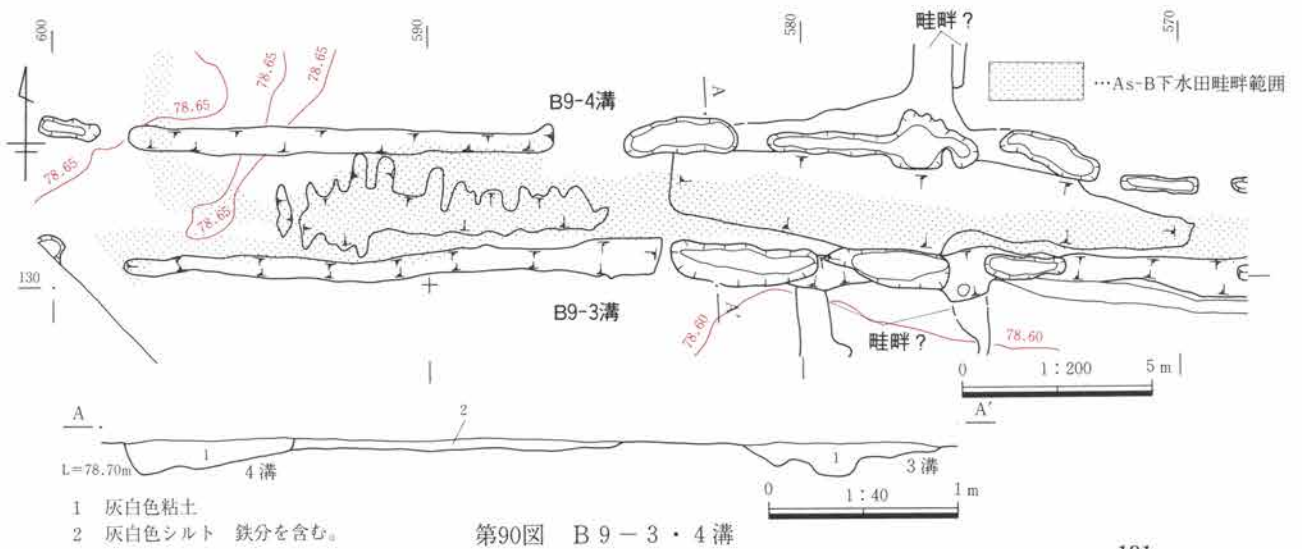
また、E5—5溝は「L」字状に屈曲しており、耕地を区画したものとも考えられる。その他、形状が不明瞭な溝もあり、これらは自然流路とも考えられる。このうちE5—1溝はAs—B下水田で馬蹄痕が集中していた部分の直下に位置している。そのため「踏み分け道」の基底部分である可能性もある。

第3章 各時代の調査

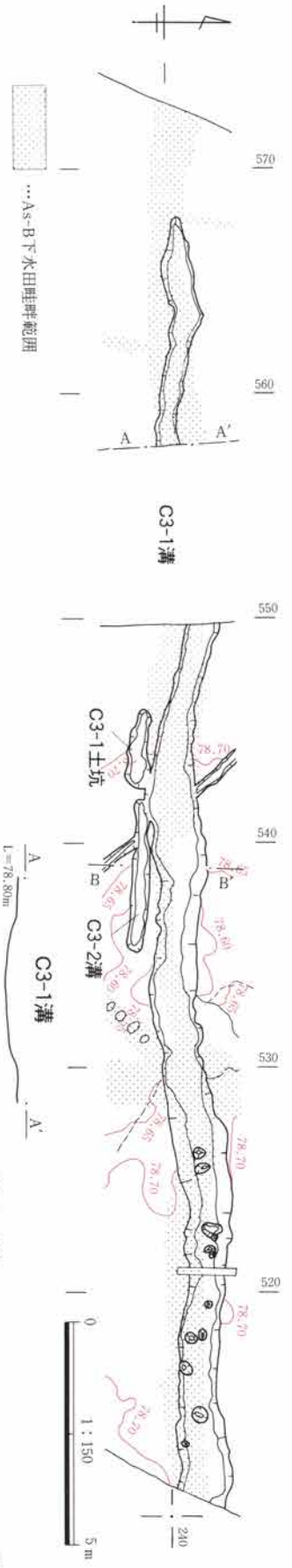
- A 3—1 溝 A区北部の080・085—610G～080・085—625Gに位置する。走向はN—78°—W。確認長15.9m、幅636cm、深さ21～36cmで、断面は壁面に段差を持つ逆台形。
- A 3—2 溝 A区東端から北部の050—595G～080—620Gに位置する。中央部が南西に弧状に張り、全体的な走向はN—45°—W。確認長38.6m、幅36～64cm、深さ8～19cmで、断面は皿状。
- A 3—4 溝 A区南部の035—605G～045—605Gに位置する。断続しているが、全体的な走向はN—35°—W。確認長合計32.2m、幅32～280cm、深さ4～6cmで、断面はごく浅い皿状。
- A 3—10 溝 A区北端の095—620G～095—625Gに位置する。北岸が調査区外に及ぶが、走向はN—80°—W。確認長2.9m、深さ18～26cmで、断面は逆台形か。
- B 9—2 溝 B区南端の100—580G～110—575Gに位置する。走向はN—16°—E。確認長11.1m、幅60～130cm、深さ3～5cmで、断面は浅い逆台形。
- B 9—3 溝 B区東端から西端の125・130—565G～125・130—595Gに位置する。断続するが、直線的に東西走し、走向はN—90°。確認長38.2m、幅34～164cm、深さ9～18cmで、断面は皿状。
- B 9—4 溝 B区東端から西端の130—565G～130—595Gに位置する。断続するが直線的に東西走し、走向はN—90°。確認長40.3m、幅30～160cm、深さ9～12cmで、断面は皿状。
- B 9—5 溝 B区東端の135—565G～140—570Gに位置する。走向はN—78°—W。確認長2.8m、幅44～48cm、深さ4～5cmで、断面は浅い逆台形。
- B 9—6 溝 B区北東部の150—560G～155—560Gに位置する。走向はN—22°—E。確認長3.64m、幅12～28cm、深さ7～10cmで、断面は逆台形。
- C 3—1 溝 C区東端から西部の240—510G～240—565Gに位置する。一部が現道下に懸かるが、直線的に東西走し、走向はN—90°。確認長39.0+10.0m、幅66～260cm、深さ4～18cm、断面は浅い皿状。
- C 3—2 溝 C区中央部の235—535G～235—540Gに位置する。走行はN—0°。確認長6.8m、幅48～76cm、深さ4～16cmで、断面は逆台形。
- C 3—3 溝 C区東端から中央部の215—525G～245—545Gに位置する。走向はN—35°—W。確認長34.6m、幅20～60cm、深さ8cmで、断面は皿状。
- C 3—4 溝 C区南端から西端の185—570G～195—590Gに位置する。走向はN—70°—W。確認長23.2m、幅82～206cm、深さ26cmで、断面は逆台形。
- C 3—5 溝 C区東部の220—530G～230—530Gに位置する。走向はN—88°—W。確認長10m、幅30cm。
- E 5—1 溝 E区南部の360—470G～365—455Gに位置する。走向はN—74°—E。確認長18.6m、幅62～236cm、深さ1～7cmで、断面は浅い皿状。
- E 5—2 溝 E区北西部の390—420G～405—420Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—0°。確認長16.5m、幅22～61cm、深さ6～12cmで、断面は逆台形。
- E 5—3 溝 E区北西部の395—420G～405—420Gに位置する。直線的に南北走し、走向はN—0°。確認長14.6m、幅24～118cm、深さ13～15cmで、断面は皿状。
- E 5—4 溝 E区北西部の385—415G～395—415Gに位置する。走向はN—0°。確認長6.9m、幅32～160cm、深さ3～4cmで、断面は皿状。
- E 5—5 溝 E区北西部の395—410G～405—415Gに位置する。「L」字状に屈曲し、走向はN—90°、398—419G付近で、N—0°。幅52～126cm、深さ23～29cmで、断面は皿状。



第89図 A3-1・10溝

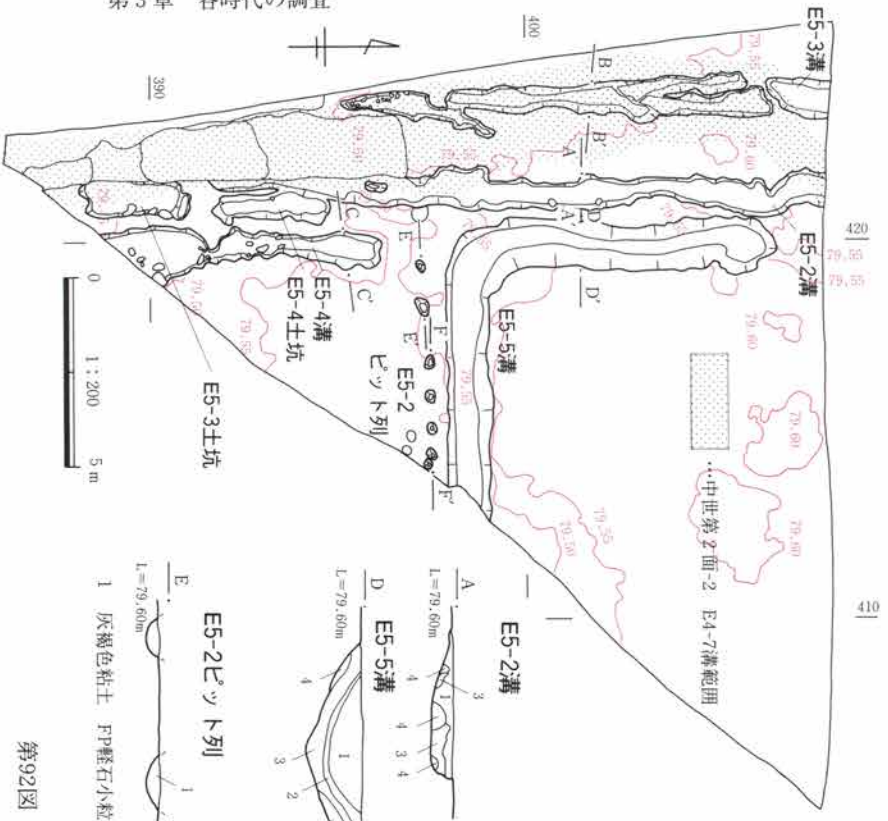


第90図 B9-3・4溝



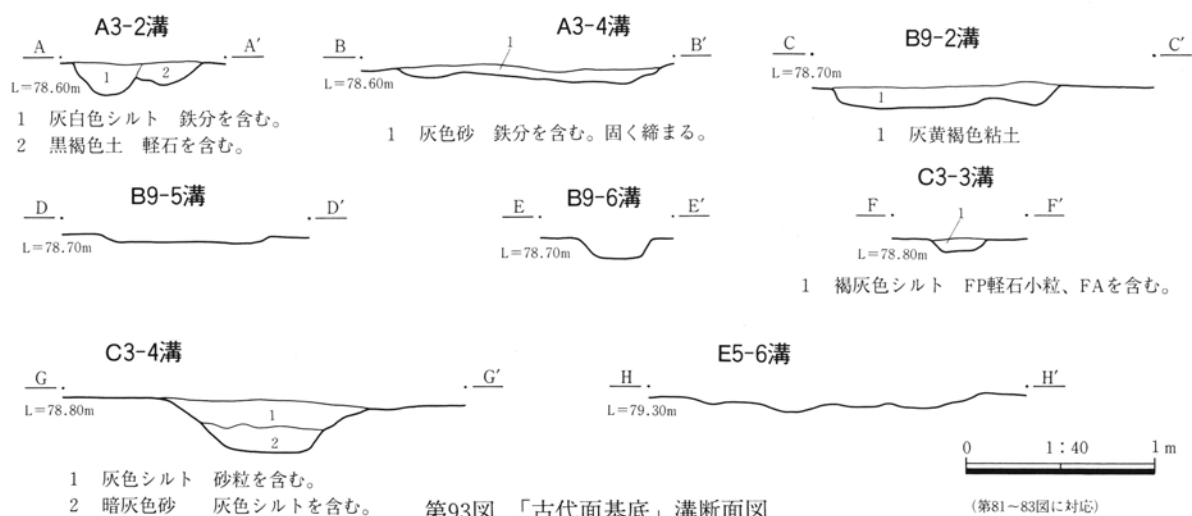
- 1 褐灰色シルト FP軽石小粒、FAを含む。
- 2 1に黒色粘土フロックを含む。
- 3 褐灰色砂質土 FP軽石小粒、FAを含む。

第91図 C3—1・2溝



- 1 灰褐色粘土 鉄分を含み固い。
- 2 1に褐灰色砂を含む。
- 3 1に黄褐色砂粒を含む。
- 4 F.P泥流層 2次堆積。砂質。

第92図 「古代面基底」 E区北東部



第93図 「古代面基底」溝断面図

(第81～83図に対応)

(3) 土 坑

土坑は「古代面」、「古代面基底」でそれぞれ確認した。いずれも機能は不明である。

① 「古代面」(第94図 P L. 59)

E区で2基を確認した。いずれもAs—B下水田との関連はつかめなかった。

E4—4土坑 E区北部の395・440—445Gに位置する。長径0.87m、短径0.6m、深さ9cmの隅丸長方形で、長径方位はN—79°—W。断面は箱形。

E4—11土坑 E区北西部の400—420Gに位置する。長径0.8m、短径0.7m、深さ8cmの不正円形で、長径方位はN—72°—W。断面は箱形。

② 「古代面基底」(第94～95図 P L. 59～61)

B区で1基、C区で2基、D区で14基、E区で4基の計21基を確認した。D区のものHr—FP泥流およびHr—FPを除去した時点で見つかったものであるが、埋土にHr—FP泥流を含んでいるため古代の所産と判断した。これらは実際にはHr—FP泥流の上位から掘り込まれたが、後世の攪拌によりこの層上面では確認できなかったものと思われる。

B9—1土坑 B区南端の110—575・580Gに位置する。長径1.05m、短径0.8m、深さ26cmの不正形で、長径方位はN—58°—W。断面は逆台形。

C3—1土坑 C区北部の235—540・545Gに位置する。長径3.52m、短径0.9m、深さ22cmの不正形で、長径方位はN—86°—W。断面は逆台形。

C3—2土坑 C区東部の220—520Gに位置する。長径0.52m、短径0.47m、深さ8cmの楕円形で、長径方位はN—8°—W。断面は逆台形。

D5—1土坑 D区中央部の325—495Gに位置する。長径1.00m、短径0.64m、深さ20cmの隅丸長方形で、長径方位はN—14°—W。断面は皿状。

D5—2土坑 D区中央部の315—505・510Gに位置する。長径0.55m、短径0.32m、深さ22cmの楕円形で、長径方位はN—33°—E。断面は播り鉢状。

D5—3土坑 D区中央部の310—505Gに位置する。長径0.58m、短径0.53m、深さ10cmの円形で、長径方

第3章 各時代の調査

位はN-0°。断面は皿状。

D5-4 土坑 D区中央部の310-495Gに位置する。長径0.50m、短径0.39m、深さ12cmの楕円形で、長径方位はN-38°-W。断面は掘り鉢状。

D5-5 土坑 D区南東部の285-490Gに位置する。長径0.50m、短径0.40m、深さ13cmの不整形で、長径方位はN-59°-E。断面は箱形。

D5-6 土坑 D区南部の295-500Gに位置する。長径0.42m、短径0.35m、深さ17cmの楕円形で、長径方位はN-25°-E。断面は掘り鉢状。

D5-7 土坑 D区南部の295-500・505Gに位置する。長径0.33m、短径0.28m、深さ8cmの長方形で、長径方位はN-41°-W。断面は掘り鉢状。

D5-8 土坑 D区南部の295-505Gに位置する。長径0.32m、短径0.26m、深さ11cmの不整形で、長径方位はN-43°-E。断面は掘り鉢状。

D5-9 土坑 D区南東部の285-495Gに位置する。長径0.49m、短径0.36m、深さ19cmの楕円形で、長径方位はN-50°-E。断面は掘り鉢状。

D5-10 土坑 D区南東部の285-500Gに位置する。長径0.46m、短径0.31m、深さ7cmの不整形で、長径方位はN-57°-W。断面は掘り鉢状。

D5-11 土坑 D区南部の290-505Gに位置する。長径0.71m、短径0.51m、深さ10cmの不整形で、長径方位はN-80°-W。断面は皿状。

D5-12 土坑 D区南部の290-510Gに位置する。長径0.40m、短径0.29m、深さ14cmの楕円形で、長径方位はN-63°-E。断面は掘り鉢状。

D5-13 土坑 D区南部の290-505Gに位置する。長径0.53m、短径0.35m、深さ9cmの楕円形で、長径方位はN-50°-W。断面は掘り鉢状。

D5-14 土坑 D区南部の275-520Gに位置する。長径0.48m、短径0.33m、深さ14cmの楕円形で、長径方位はN-0°。断面は掘り鉢状。

E5-1 土坑 E区中央部の370-440Gに位置する。長径0.50m、短径0.40m、深さ23cmの円形で、長径方位はN-90°。断面は掘り鉢状。

E5-2 土坑 E区南東部の385-445Gに位置する。長径0.52m、短径0.38m、深さ17cmの楕円形で、長径方位はN-85°-W。断面は掘り鉢状。

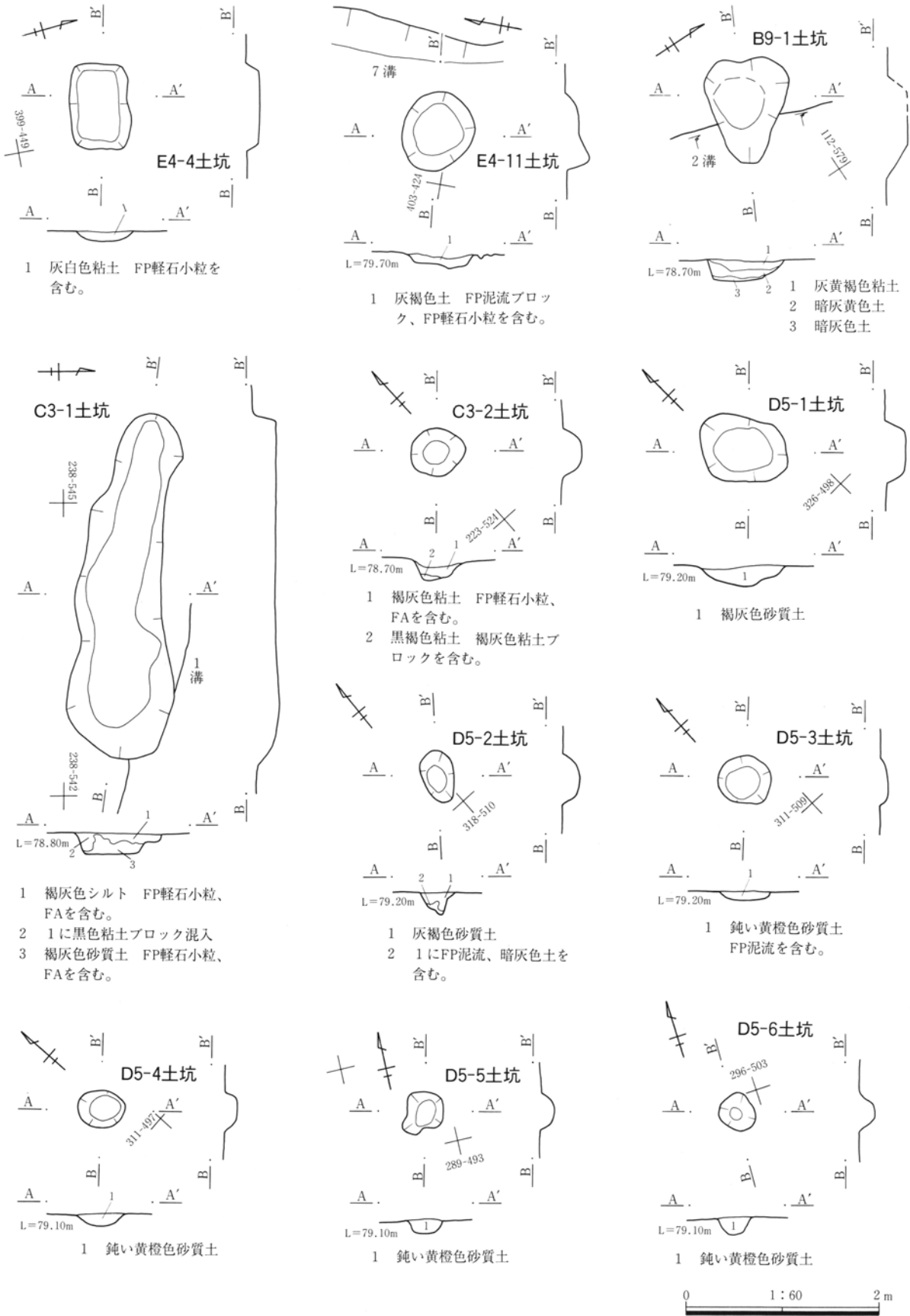
E5-3 土坑 E区北東部の385・390-420Gに位置する。長径2.74m、短径0.82m、深さ10cmの長方形で、長径方位はN-7°-E。断面は浅い皿状で、底面に凹凸がある。

E5-4 土坑 E区北東部の390-420Gに位置する。長径3.19m、短径0.53m、深さ3cmの不整形で、長径方位はN-87°-W。断面は浅い皿状。

(4) ピット列(第92図 PL. 58)

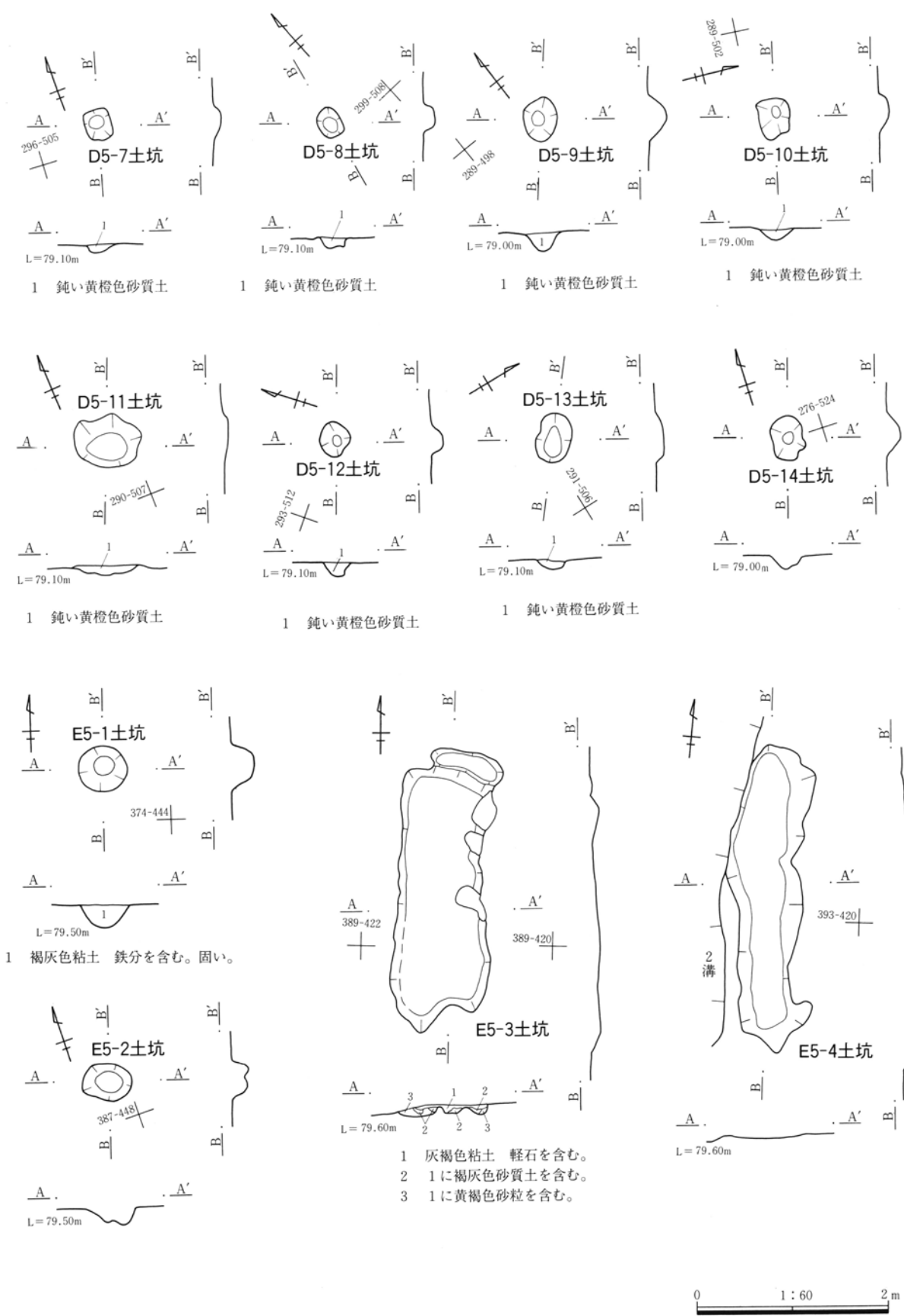
ピット列は、「古代面基底」のE区で1カ所を確認した。

E5-2 ピット列 E区北東部の395-400G~395-415Gに位置する。径22~54cm、深さ7~13cmの楕円形のピット7基が東西方向に並ぶ。As-B下水田の「踏み分け道」や帯状の凹凸のそれぞれの基底部分で見られたピット列同様、道路遺構底部の「波板状凹凸面」に類似する。しかし、この上位には遺構は確認できなかった。また、位置関係からはE5-5溝との関連も考えられる。



第94図 「古代面」、「古代面基底」土坑 (1)

第3章 各時代の調査



第95図 「古代面」、「古代面基底」土坑 (2)

3. 遺物

この時代の遺物としては各面や層内から須恵器、土師器の破片が出土している。殆どが小破片であり、器種が特定できなかったものも多い。

(1) 「古代面」出土遺物(第96図 P L. 98)

1～4は須恵器碗である。轆轤整形。1・2は口縁部から体部片。1は口(12.4)cm。体部はやや内湾して開き、口縁部は僅かに外反する。口唇部は丸い。胎土は黄灰色。2は口(12.0)cm。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。口唇部はやや尖る。胎土は灰色。3・4は底部片。3は、底(7.0)cm。内底部中央は僅かに凸る。回転篋切り。胎土は灰白色。4は底9.1cm。内底部中央は僅かに凹む。回転篋切り後、回転篋削り、外周は手持ち篋削り。胎土は灰色。5は土師器坏である。口縁部から体部片で、口(11.0)cm。口縁部は短く、強く折れ曲がり内傾する。胎土は鈍い橙色。

6は須恵器甕である。胴部片で、外面は平行叩き目。内面は当て目を撫で消す。胎土は灰白色。7は金属製品で角釘か。径0.6cm。以上、いずれも遺構外出土。

(2) 黒色・灰色粘土(VI層)内出土遺物(第96図 P L. 98)

1～3は須恵器碗である。轆轤整形。1・2は口縁部から下体部片。1は口(16.0)cm。体部は内湾気味に開き、口縁部は外反する。口唇部は丸い。胎土は灰白色。内外面一部吸炭。2は口(13.0)cm。口縁部は外反し、口唇部は丸い。胎土は灰黄色。3は高台付碗の底部片で、底(6.6)cm。付け高台は低く「ハ」の字状に開く。断面は矩形。胎土は灰黄色。4・5は土師器坏の口縁部から体部片である。4は1/4残存。口(10.2)cm、底8.0cm、高4.3cm。体部は内湾気味に開き、口縁部は強く折れ内傾する。外面は口縁部に横撫で、体部に横篋削り、底部に篋削り。内面は撫で。胎土は橙色。5は口(11.0)cm。胎土は橙色。

6は須恵器長頸壺の頸部片である。轆轤整形。7は須恵器甕の胴部片である。外面は平行叩き目。内面は青海波状当て具痕。

(3) 「古代面基底」出土遺物(第96図 P L. 98)

1は須恵器高台付碗の底部片である。底7.5cm。付け高台は、やや低く「ハ」の字状に開く。断面は略三角形で、端部はやや尖る。轆轤整形。回転糸切り。E5—5溝出土。2・3は土師器坏の口縁部から体部片である。遺構外出土。2は、口(14.0)cm。口縁部は内湾気味に開く。外面は口縁部に横撫で、体部篋撫で。内面は口縁部に横撫で。胎土は橙色。3は、口(12.0)cm。口縁部は強く折れ、直立気味に立ち上がる。外面は口縁部に横撫で、体部は篋削り。胎土は鈍い橙色。

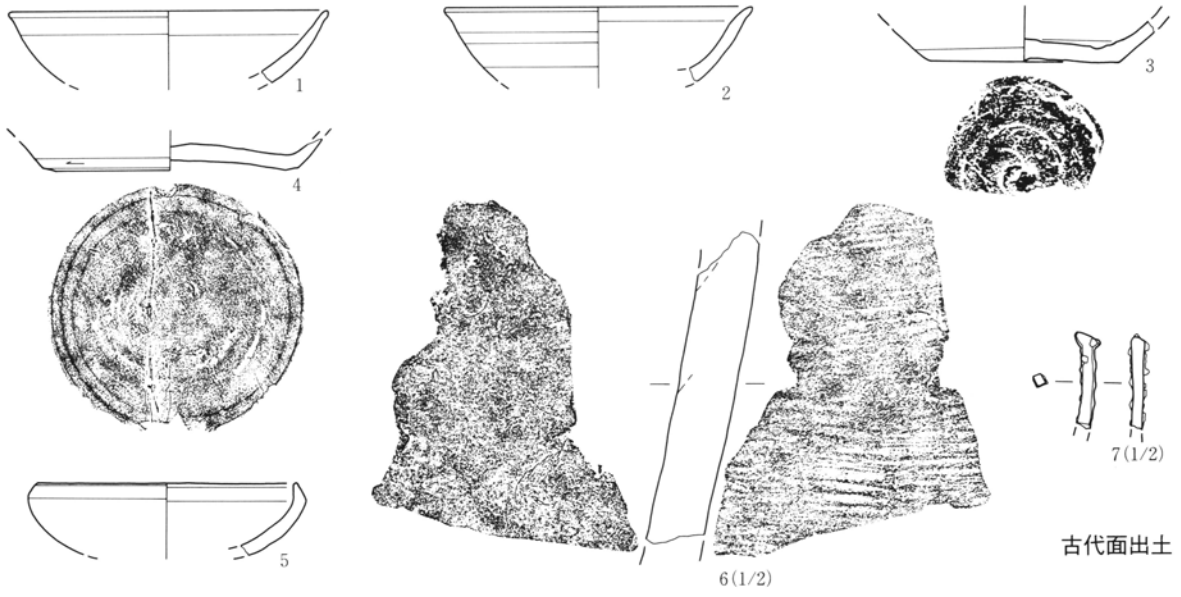
(4) 「近世第1面」出土遺物(第97図 P L. 98)

いずれも須恵器である。轆轤整形。1は蓋である。つまみは扁平。胎土は、鈍い赤褐色。D1—1溝出土。2・3は高台付碗の底部片である。E1—2溝出土。2は底(6.2)cm。付け高台はやや低く「ハ」の字状に開く。断面は矩形。3は底(9.0)cm。付け高台は低く、断面は矩形。回転糸切り。

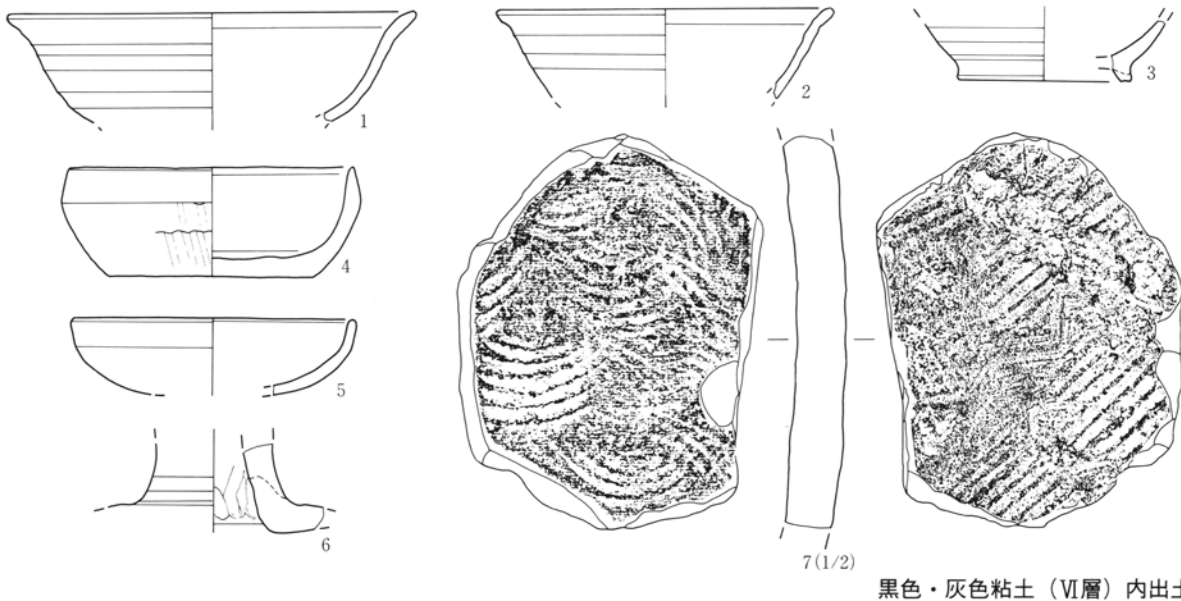
(5) 「中世第2面—1」出土遺物(第97図 P L. 99)

1は須恵器高台付碗の底部片である。底(6.0)cm。付け高台は低く、断面は矩形。D2—6溝出土。2は須恵器甕の口縁部から上体部片である。口(11.0)cm。肩部やや強く張り、口縁部は外反気味に開く。轆

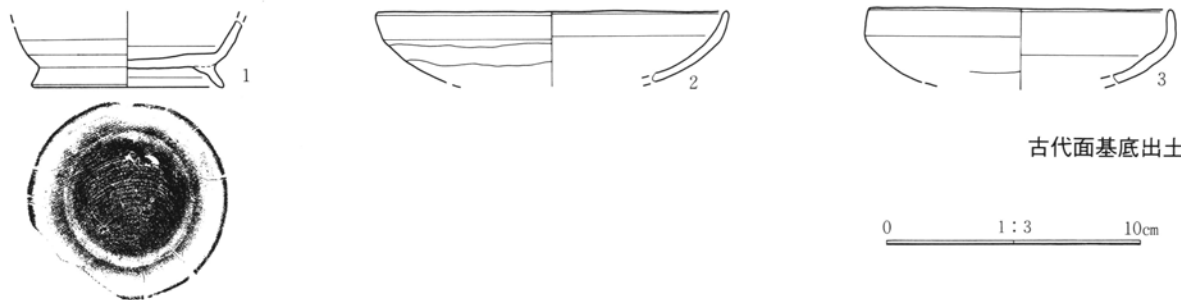
第3章 各時代の調査



古代面出土



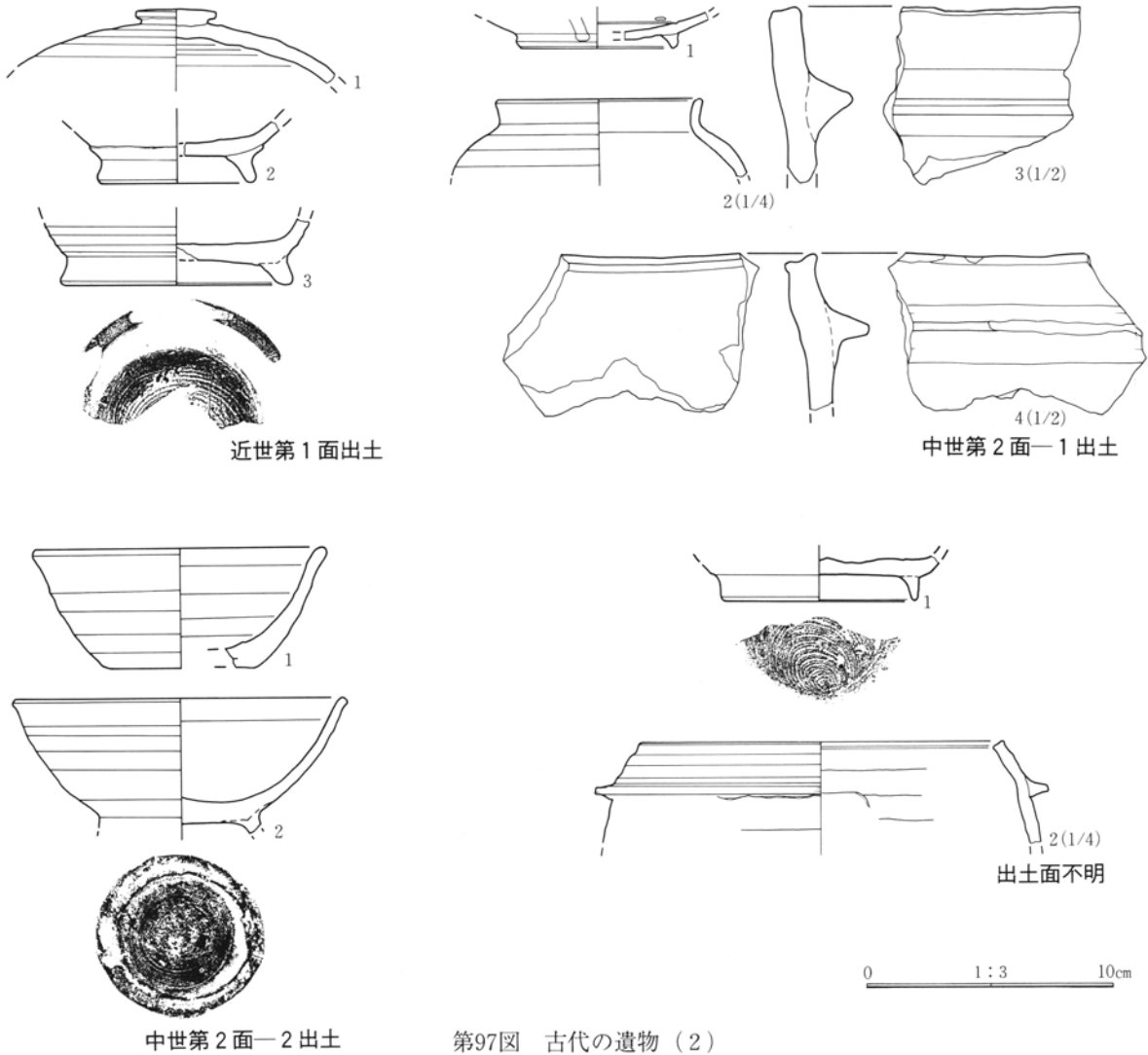
黒色・灰色粘土（Ⅵ層）内出土



古代面基底出土

0 1:3 10cm

第96図 古代の遺物（1）



第97図 古代の遺物（2）

轆轤整形。胎土は灰白色。3・4は羽釜の口縁部片である。いずれも直線的に内傾する。3の口唇部断面は矩形で、上端面は内斜。鏝の断面は三角形で強く張る。内外面は横撫で。胎土は鈍い黄色。4の口唇部外縁は短く突出し、上端面は凹み内傾する。鏝は断面やや下向き。外内面は横撫で。

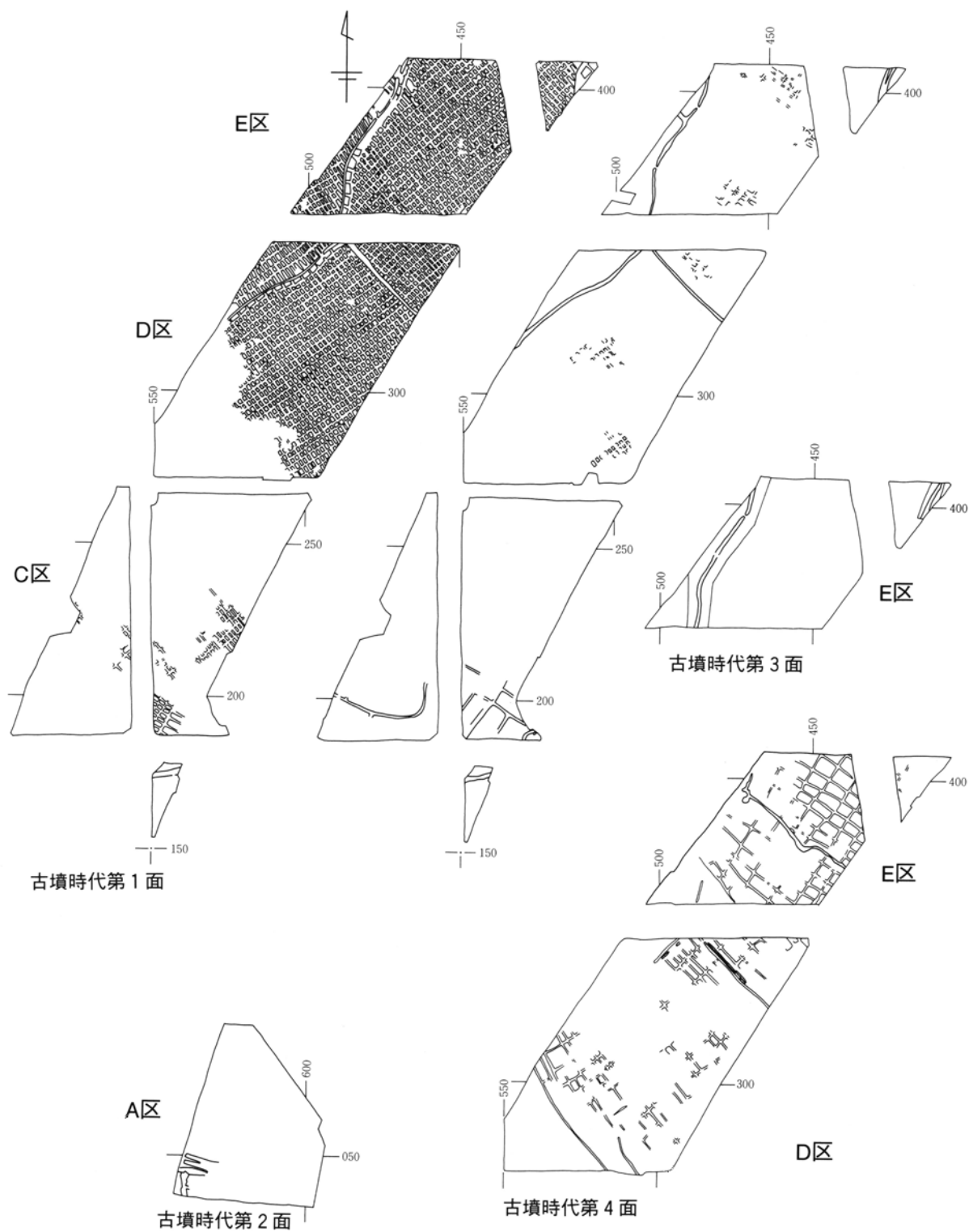
(6) 「中世第2面-2」出土遺物（第97図 P L. 99）

いずれも須恵器碗である。轆轤整形。E 4-1 道跡内の E 4-2 溝出土。1は口縁部から底部片。口(12.0) cm、底(6.0) cm、高4.9cm。平底。体部は内湾気味に開き、口縁部は外反気味に開く。口唇部は丸い。下体部は肥厚。2は高台付碗の口縁部から高台部片。1/5残存で、口(13.4) cm、底(5.5) cm。体部は内湾気味に開き、口縁部は外反気味に開く。口唇部は丸い。内底は凸る。付け高台は欠損。轆轤整形。回転糸切り。

(7) 出土面不明遺物（第97図 P L. 99）

1は須恵器高台付碗の底部片である。底(8.0) cm。内底部に凹凸。付け高台は低く薄い。断面は略三角形。轆轤整形。回転糸切り。2は羽釜の口縁部片である。口(20.0) cm。口縁部は直線的に内傾する。鏝は高く水平につく。

第5節 古墳時代の遺構と遺物



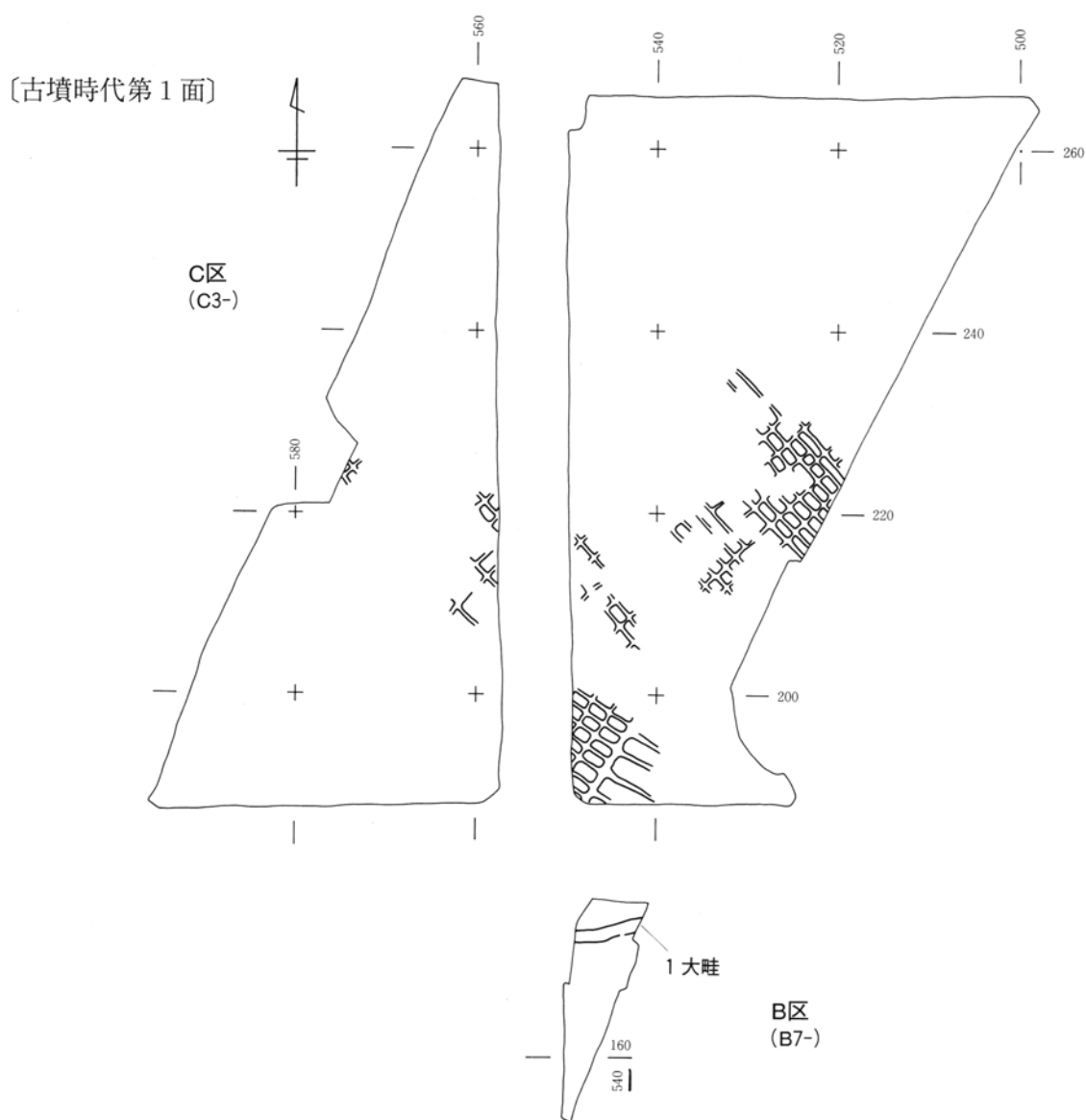
第98図 古墳時代遺構概念図

1. 概 要

古墳時代の土層としてはHr—FP泥流（Ⅶ層）以下As—C混土（Ⅻ層）までの各層が挙げられる。このうちのテフラ関連の層であるHr—FP泥流及びHr—FP（Ⅷ層）、Hr—FA（Ⅹ層）、As—C混土に着目して調査を行った。

まず、Hr—FP泥流はB区以北で堆積している。B区では北東隅で残存しているのみであるが、C区では「古代面基底」で見られた地形が緩やかに低くなる部分に堆積している。さらにD区、E区では層厚約40cmと良好であり直下に降下火山灰のHr—FP薄層が明瞭に確認できる。この二層を同時に除去し、水田跡（Hr—FP下水田）を確認した。この面を「古墳時代第1面」と呼ぶ。

また、Hr—FAもHr—FP泥流とほぼ同じ範囲に堆積しているが、残存のよいD区以北でも層厚数cmで部分的に残存する状態である。この層を除去し、水田跡（Hr—FA下水田）及び土坑を確認した。また、「古代面基底」の調査の際にA区南西部で黄褐色土の堆積が見られたが、この層もHr—FAと判断した。



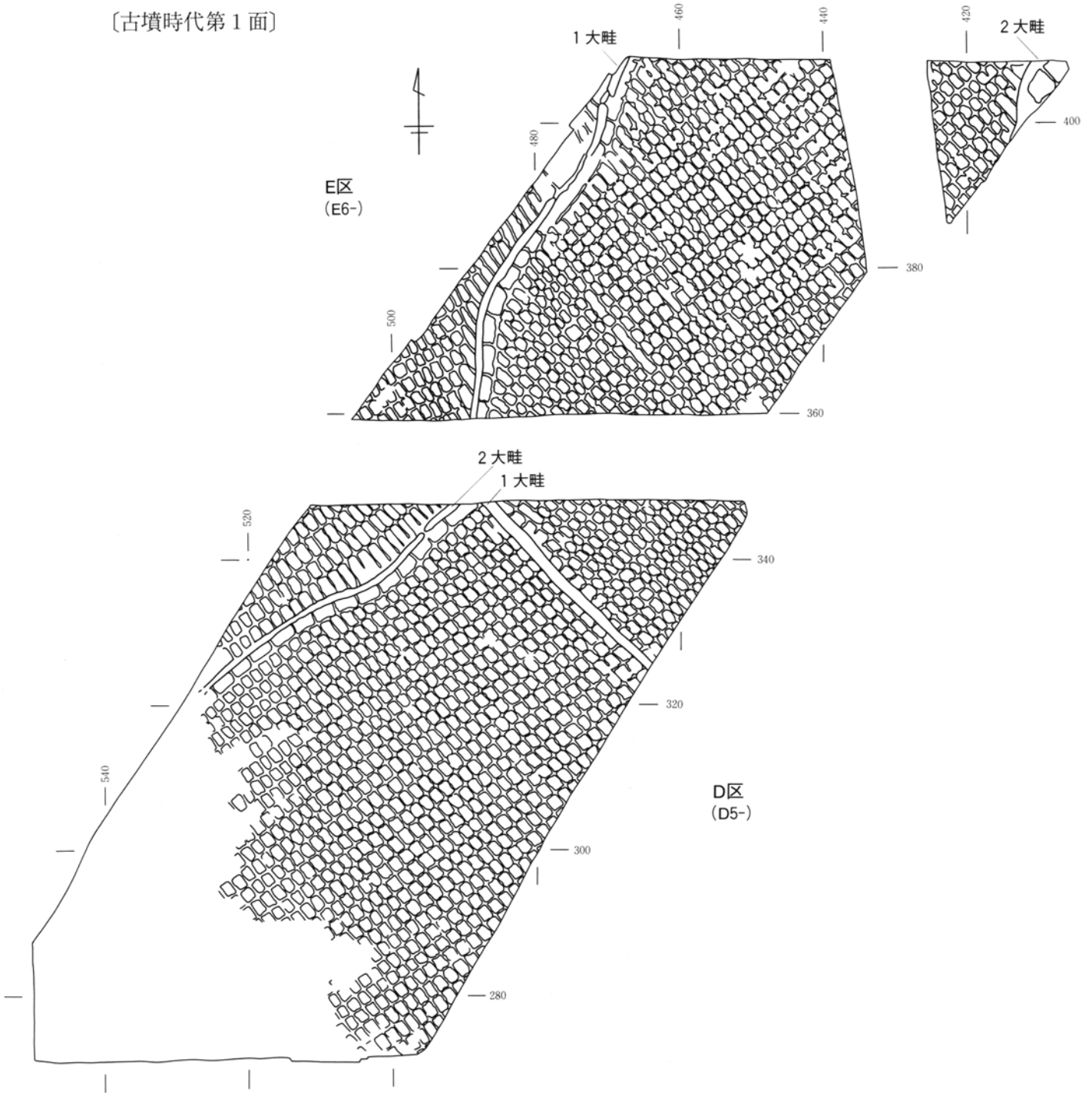
第99図 古墳時代遺溝配置図（1）

第3章 各時代の調査

この層下面より畦畔と思われる痕跡を確認したが、これも Hr—FA 下水田として扱う。これらの面を「古墳時代第2面」と呼ぶ。

さらに、As—C 混土は As—C を大量に含む黒色土である。A区からC区では部分的に残存するのみであ

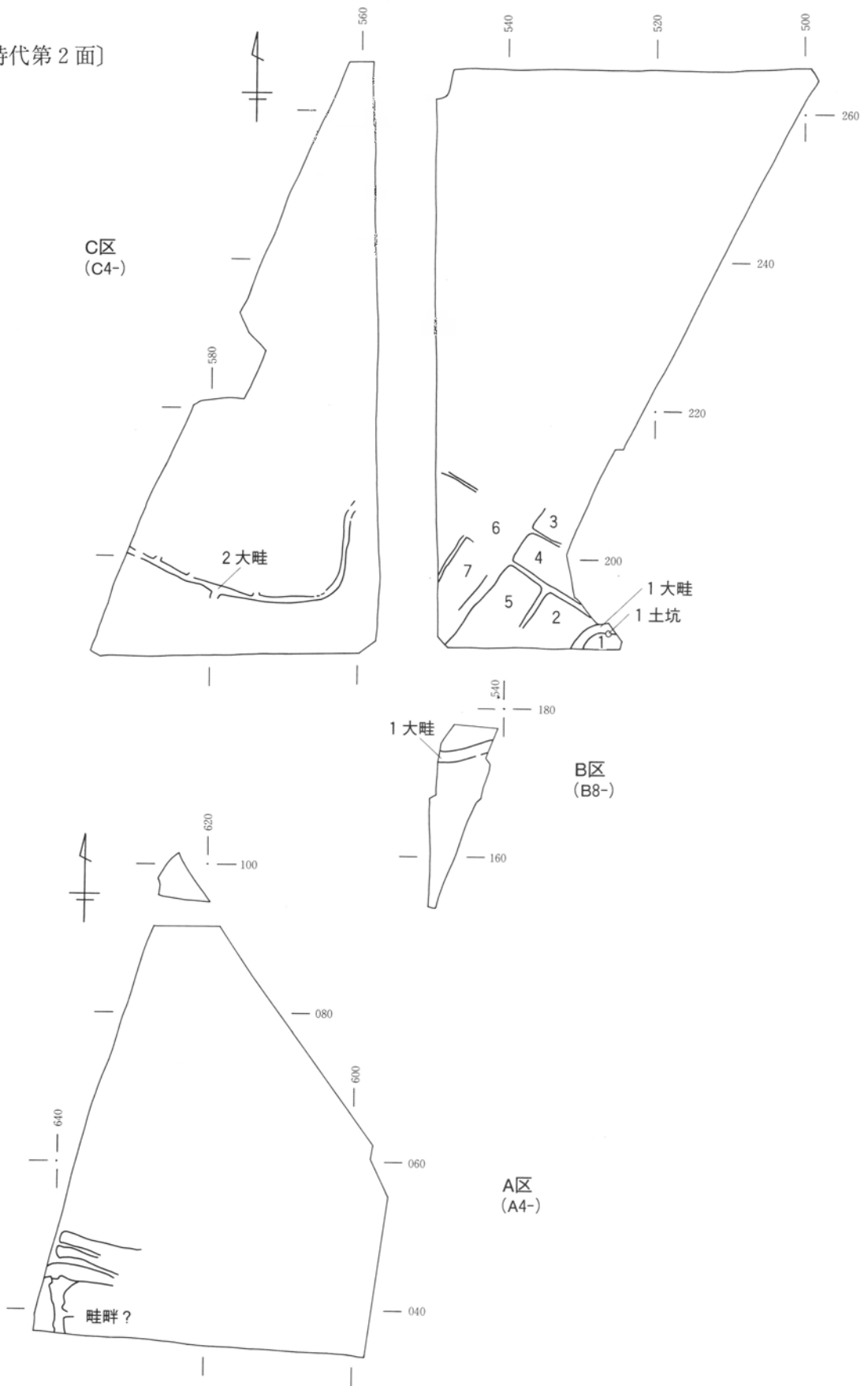
〔古墳時代第1面〕



第100図 古墳時代遺溝配置図(2)

第5節 古墳時代の遺構と遺物

〔古墳時代第2面〕



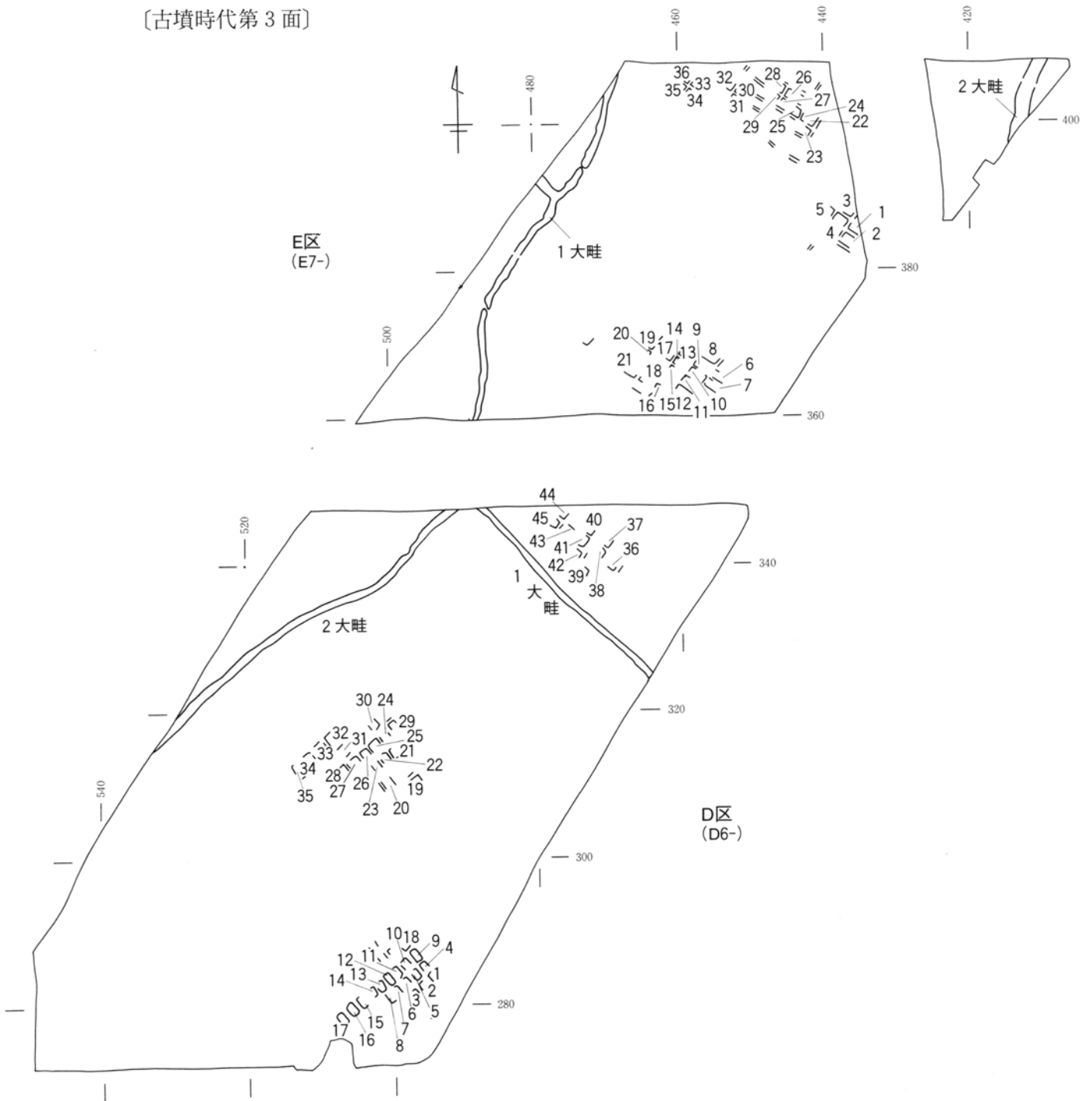
第101図 古墳時代遺溝配置図 (3)

第3章 各時代の調査

るが、D区以北では層厚約3cmで安定した堆積がある。トレンチを設定しこの層上面を調査したところ、E区で大型畦畔2条を確認した（As—C 混土上水田）。この面を「古墳時代第3面」と呼ぶ。

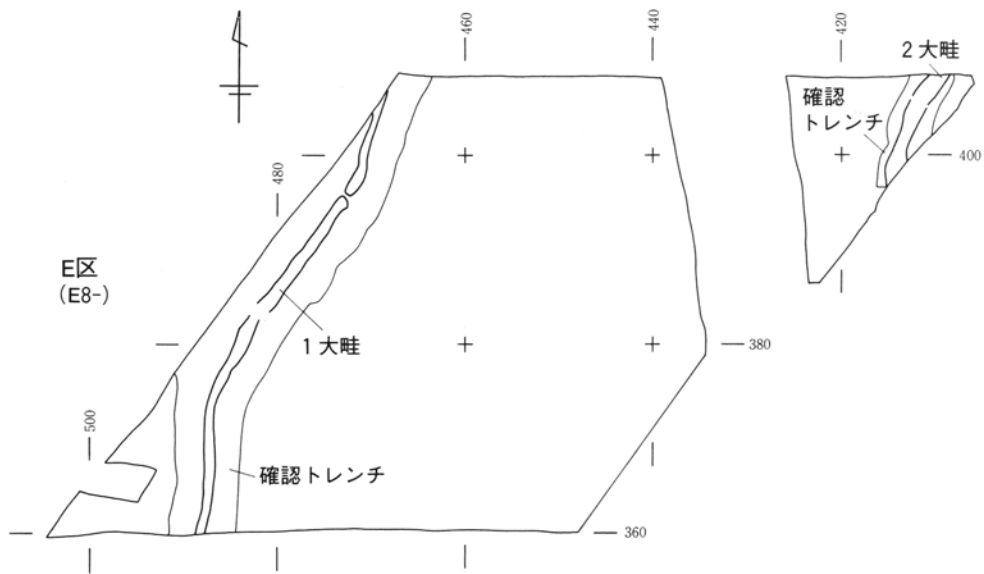
次にD区以北でこの層を徐々に平面掘削していったところ、土色の違いにより水田跡（As—C 混土水

〔古墳時代第3面〕



第102図 古墳時代遺溝配置図（4）

〔古墳時代第3面〕



第103図 古墳時代遺溝配置図（5）

田)、その他溝3条を確認した。この面を「古墳時代第4面」とする。

なお、「古代面基底」のA区では、前述したHr—FA下水田の耕土下位で畦畔の可能性もある痕跡や溝2条、土坑1基を確認した。層序から古墳時代の所産と考えられる。(本章第4節参照)

この時代の遺物は須恵器、土師器の小破片が出土している。特に「古墳時代以前面」で確認された自然河川のうちC6—1河川からは大量の須恵器、土師器、木製品の破片が出土し、器種も多岐にわたっている。なお、この河川はC6—2河川とともに古墳時代の地形に影響を与えたものである。(本章第6節参照)

2. 遺 構

(1) 水田跡

水田跡は古墳時代の各面より、上位からHr—FP下水田、Hr—FA下水田、As—C混土上水田、As—C混土水田の4時期のものを確認した。

まず、上位二面の水田跡はいわゆる「小区画水田」の形態である。耕地を大型畦畔（オオアゼ）により広い区画（大区画）に区切り、その内部に規模の小さい区画（小区画）を多数設けている。そのなかには配水の機能を持ったオオアゼや小区画も見られる。なお明瞭には確認できなかったが、中区画というべき大区画内部での小区画のまとまりの存在が窺える部分もある。以上二面の水田跡はいずれも耕作面と考えられる。またAs—C混土上水田は、E区でオオアゼ2条を確認したのみである。その他具体的な区画は見つかっていないが、他の調査区でも断面観察の結果、オオアゼと思われる高まりを確認した部分がある。さらに、最下位のAs—C混土水田はD区、E区で確認したが、各区画の面積は「小区画水田」の数倍の規模である。この水田跡は耕作面ではなく、水田の中位から下位部である可能性が高い。一方、「古代面基底」A区の畦畔の可能性もある遺構も、層序から古墳時代のものと思われる。

[古墳時代第4面]



第104図 古墳時代遺溝配置図(6)

なお、各水田跡の最小単位の区画について、長径の畦畔をタテアゼ、短径の畦畔をヨコアゼと記述する。

①Hr—FP下水田(第105・107・108～111図 P L. 62～66)

「古墳時代第1面」B区以北で確認した。これは6世紀中葉のHr—FP噴火当時の水田面である。水田耕土は明褐色シルト(Ⅸ層)であり、水田床土は確認できない。小区画は殆どが北西から南東方向にタテアゼを設けており、これは地形の傾斜方向と一致している。

このうち残存状態のよいD区ではオオアゼ2条(D5—1・2大畦)と推定977区画を、E区では大畦2条(E6—1・2大畦)と推定988区画をそれぞれ確認した。小区画、D区南部から西部で土色の違いによ

る識別となったが、それ以外では畦畔は底部幅約50cm、確認面からの高さ約2～3cmで、概して扁平である。さらに耕作面も凹凸が激しい。またオオアゼのうち、D5—1大畦は傾斜に沿って直線上を呈している。これに対しD5—2大畦とE6—1大畦は現道下で連続していると思われ、全体的には等高線に平行して「S」字状に蛇行するものとなろう。また、さらにE区北東隅に一部が懸かるE6—2大畦の東側にも小区画が見られる。従ってD区とE区を合わせた範囲の大区画数は、オオアゼ3条で区切られた4区画(大区画a～d)が推定できる。

この水田跡には明瞭な水路は見られない。しかし、D5—2・E6—1大畦には水口と思われる部分が計3カ所ある他、これらのオオアゼ両側には配水目的と思われる小区画が見られる。

まず、オオアゼのすぐ南東側にはこれと併走する畦畔があり、小区画2～3区画分の間隔のヨコアゼで区切っている(D5—732～744区画・E6—629～640区画)。これらの小区画は用水を大区画a・b内に均等に配分するための水路と考えられる。オオアゼの水口と思われる付近では、これらの形状が細長くなったり、ヨコアゼがオオアゼと隙間をあけたりするが、これは用水を分配し易くしたものであろう。

また、大区画cではこれらのオオアゼ西隣の小区画(D5—745～769区画・E6—705～721区画)は、このオオアゼの蛇行に併せてタテアゼの長さを変えており、形状が著しく細長いものやオオアゼと隙間を設けるものが見られる。これらは結果的に不規則になったとも考えられるが、一方で水量の調整やオオアゼの水口への導水などを意図して設けられた可能性もある。

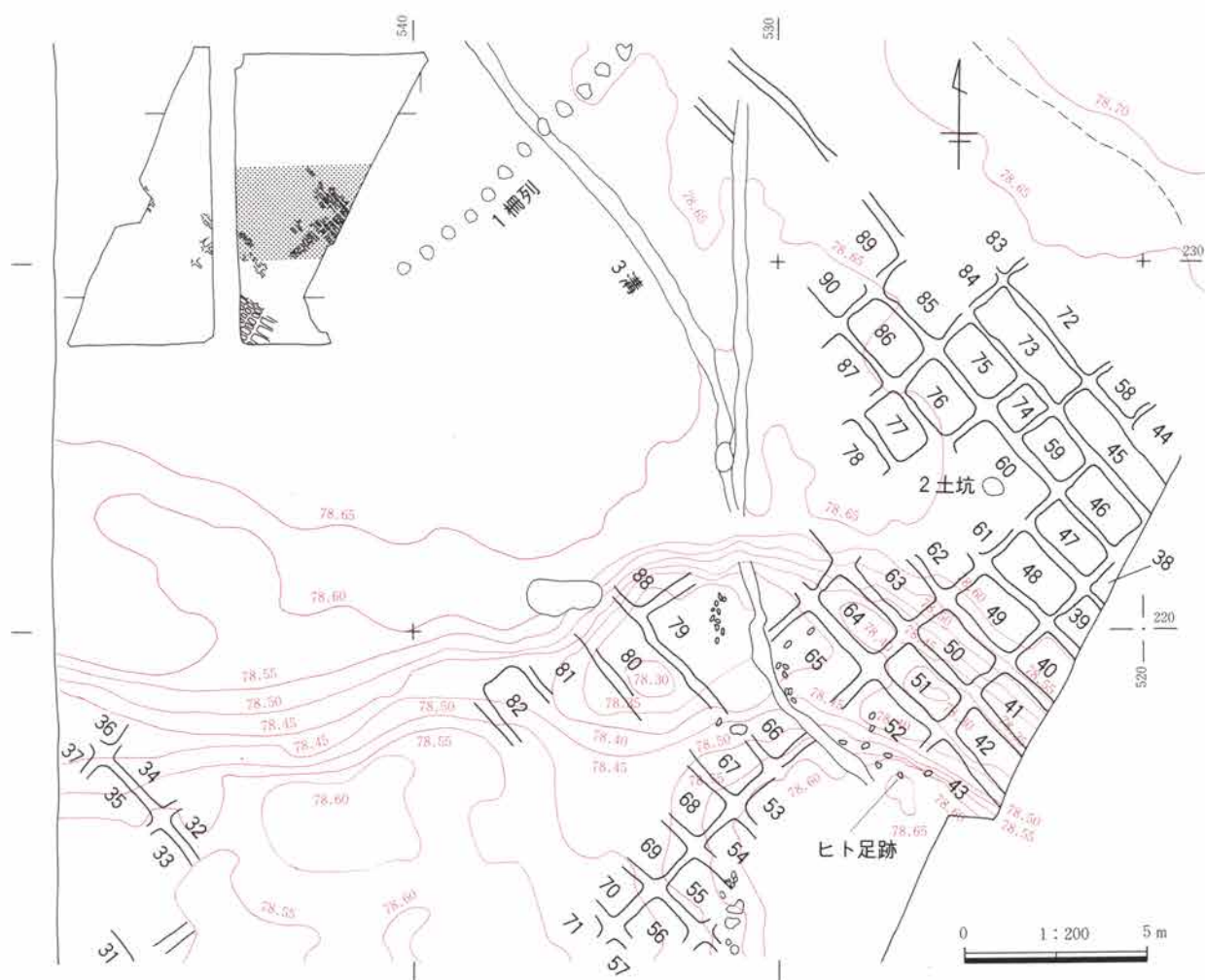
以上の状態から、この水田跡の配水構造については、大区画cを潤してきた用水をD5—2・E6—1大畦で一旦堰き止めて水口に導き、さらに水路となる小区画を経て大区画a・b内に分配する構造であったと考えられる。一方、大区画b北東部ではE6—2大畦西隣の小区画のタテアゼも不規則であり、これらも配水に関連したものと思われる。しかし、このオオアゼ東側の大区画dは台地状に高くなった部分に面積の大きい小区画(E6—788・789区画)を設けており、他とは異なった状態である可能性もある。従って、この大区画では大区画a～cまでの一連のものとは異なる経路で配水していた可能性が高い。

ただし、前述した小区画の状態により畦畔の低い部分すべてを水口と断定するには至らず、各小区画間でのように配水されていたのかは不明である。また用水を各オオアゼの水口に導いた具体的な経路も特定できなかった。

その他各大区画内を観察すると、まず大区画cでは前述したオオアゼ西隣以外の小区画の平均的な規模は、E区では面積約1.9m²前後、長径方位はN—30°—W前後であるが、D区では面積約2.5m²前後、長径方位はN—37°—W前後のものが多い。このことで現道下にオオアゼが存在したか、もしくは中区画が設けられていたかの可能性が考えられる。次に、大区画b・cでは水路となる小区画の南東側では形状が歪んでいる他、D5—1大畦の東側では台形や三角形の小区画が見られ、一部でタテアゼを設けて形状を調整した部分もある。いずれも小区画を造成する際にオオアゼや水路との方向性にずれが生じたためであろう。

次に、水田の状態が良好ではなかった調査区2区を観察する。

まずC区では地形が窪む東部、中央部、南部、西端で土色の違いにより小区画を確認した。推定106区画を数える。東部や中央部の小区画(C3—23～90・99～103区画)はタテアゼの走向はN—36～45°—Wである。一方、南端部の小区画(C3—1～22区画)はタテアゼの走向はN—52～63°—W、さらに短径が2m前後になると思われるものが見られる。この二つの部分を区切るオオアゼは残存していないが、それぞれ異なった大区画ないしは中区画に属するものと思われる。なお、中央部にはタテアゼが北東—南西走る小区画(C3—91～98区画)もあるが、残存度が低く詳しい観察はできない。一方、東部には人間の足跡が残存している。



第105図 Hr—FP下水田 C区中央部～東部

一方B区では、オオアゼと思われる1条(B7-1大畦)を確認したにとどまり、具体的な区画は確認できなかった。

以下にこの水田跡のオオアゼについて記載する。

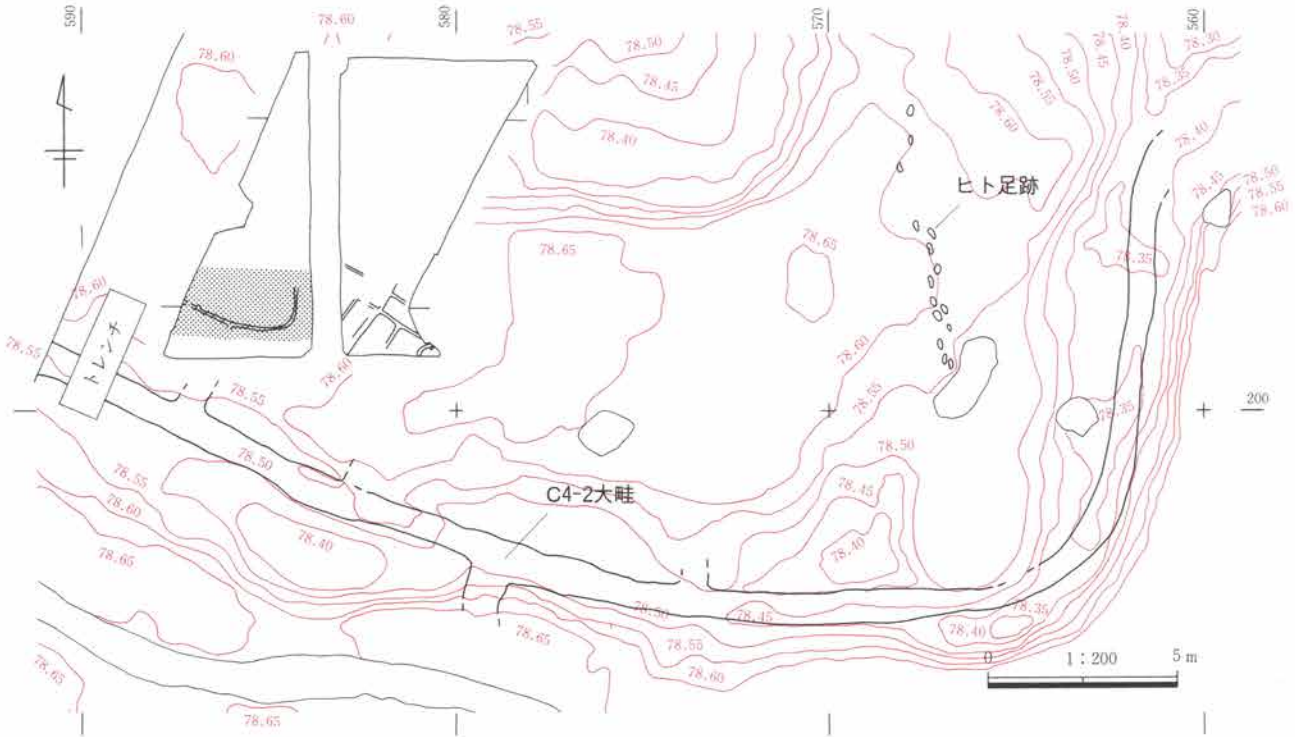
B7-1大畦 B区北東部の170・175—540G～170・175—545Gに位置する。緩やかに蛇行し、走向は東側がN-60°-E、174—545G付近から西側がN-90°。底部幅約30～35cm、確認面からの高さ約4cm。

D5-1大畦 D区北東部の320・325—460G～345—485Gに位置する。直線的に北西—南東走し、走向はN-44°-W。確認長31.5m、底部幅90～210cm、確認面からの高さ10cm。

D5-2大畦 D区北西部の320—525G～345—485Gに位置する。中央部が南東へ弧状に張り、走向は北側でN-45°-E、中央部では次第に東に寄り北端部でN-55°-E。確認長43.1m、底部幅80～120cm、確認面からの高さ10cm。水口と思われる部分は342—473G付近。

E6-1大畦 E区南西端から北西端の355—483G～405—465Gに位置する。緩やかに蛇行し、全体の走向はN-25°-W。確認長56.0m、底部幅90～150cm、確認面からの高さ5～10cm。水口と思われる部分は400—465G～400—470G付近。また、385—475G～395—470Gの畦畔の低い部分も水口か。

E6-2大畦 E区北東隅の395—410G～405—410Gに位置する。走向はN-15°-E。確認長11.2m、底部幅は120cm以上、確認面からの高さ8cm。



第106図 Hr—FA 下水田 C区南東部

②Hr—FA 下水田 (第106～108図 P L. 67～70)

「古墳時代第2面」のB区以北で確認した。この水田跡は6世紀初頭のHr—FA噴火当時の水田面と考えるとよい。Hr—FAの残存状態が悪く、各小区画はこの層と確認面の灰褐色シルト(以下XI層)との土色の違いによる確認となった。XI層は水田耕土となる。

このうち、比較的残存のよいD区では大畦2条(D6—1・2大畦)と推定45区画を、またE区では大畦2条(E7—1・2大畦)と推定35区画をそれぞれ確認した。これ以外にも残存度の低い小区画の痕跡が多数見られるが、いずれも北西から南東方向にタテアゼを設けており、確認できた部分ではHr—FP下水田の小区画の配置と類似している。さらに各オオアゼはHr—FP下水田のものと同位置にあり、水口と思われる部分も一致する箇所がある。その他それぞれの廃絶時期が近いことも考え併せると、この水田跡はHr—FP下水田とほぼ同一の構造を持っていた可能性が高い。ただし、E7—1大畦の中央部にはこれと直交する幅の広い畦畔が存在している。この位置はHr—FP下水田のE6—1大畦の水口と思われる部分に該当しているが、オオアゼは見られなかった。そのため、この水田跡が廃絶され新たにHr—FP下水田が造成された際に、配水の便を考えて異なった地割りを設けたことも想像できる。

次にC区では、確認面の地形は「古墳時代第1面」より大きく窪むようになり、一部で溝状を呈している。この部分でオオアゼと思われる2条(C4—1・2大畦)と推定7区画を確認した。このうちC4—1大畦は、地形の窪みの縁に沿うように「L」字状に大きく走向を変えており、傾斜のある地形に対応して設けられたものと考えられる。小区画は南東部にあるが、確認状態では短径5m以上とD区以北のものに比べて大規模である。これも地形に対応した構造とも思われるが、完形の区画がないため推測の域を出ない。また区画が見つからなかった南西部では、人間の足跡が残存している。

B区では、北東隅でオオアゼと思われる1条(B8—1大畦)のみを確認した。Hr—FP下水田のB7—

第3章 各時代の調査

1大畦と同位置にある。この北側には多数の不定形の窪みが見られるが、農具痕や足跡等の特定はできなかった。

一方A区では、南西隅で畦畔数条を確認した。確認面からの高さは2～3cmである。東西走、南北走する部分があり、他のHr—FA下水田の状態とは異なっている。

B8—1大畦 B7—1大畦と同位置。底部幅約30～35cm、確認面からの高さ約3cm。

C4—1大畦 C区南東端の185・190—525G～185・190—530Gに位置する。円弧状を描き、走向は南側がN—30°—E、191—528G付近から東がN—90°。確認長7m、底部幅10cm、確認面からの高さ2cm。

C4—2大畦 C区南部から南西部の200—590G～205—560Gに位置する。「L」字状に大きく屈曲し、走向はN—78°—W、195—564G付近から北がN—10°—E。確認長41m、底部幅10cm、確認面からの高さ1cm。これに直交すると思われる畦畔痕跡が数カ所に残存。

D6—1大畦 D5—1大畦と同位置。底部幅60cm、確認面からの高さ8cm。

D6—2大畦 D5—2大畦と同位置。底部幅60～110cm、確認面からの高さ10cm。水口と思われる部分は342—473G付近にあるが、若干不明瞭。

E7—1大畦 E6—1大畦と同位置。底部幅80～140cm、確認面からの高さ14cm。水口と思われる部分は393—473G付近、375—487G付近の2カ所。

E7—2大畦 E6—2大畦と同位置。底部幅160～200cm、確認面からの高さ6cm。上部に溝状の窪みが見られる。

③As—C 混土上水田 (第108図 P L. 70)

「古墳時代第3面」のE区で、上位の水田跡二面のオオアゼと同じ位置でE8—1・2大畦を確認した。断面観察の結果、確認面の上部にXI層ないしはこれと類似する層とAs—C混土とが攪拌されたような土層の堆積が見られた。そのため、この水田跡は「水田基底部」の可能性が高い。しかし、洪水層と思われる砂層の堆積が見られる箇所もあり、この部分は耕作面とも考えられる。

その他土層の状況から面調査が不可能な部分も多く、具体的な区画も確認できなかった。しかし、B区やD区では、断面観察により上位のオオアゼ直下にAs—C混土が畦畔状に高まる状態が見られた。以上このことから、上位二面の水田跡を遡る時期にもこれらと同様の大区画を設けた水田が存在した可能性が窺える。

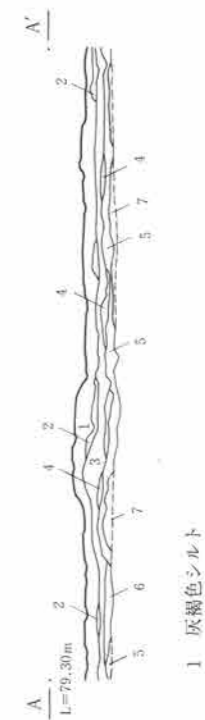
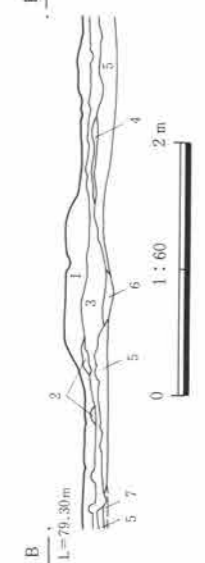
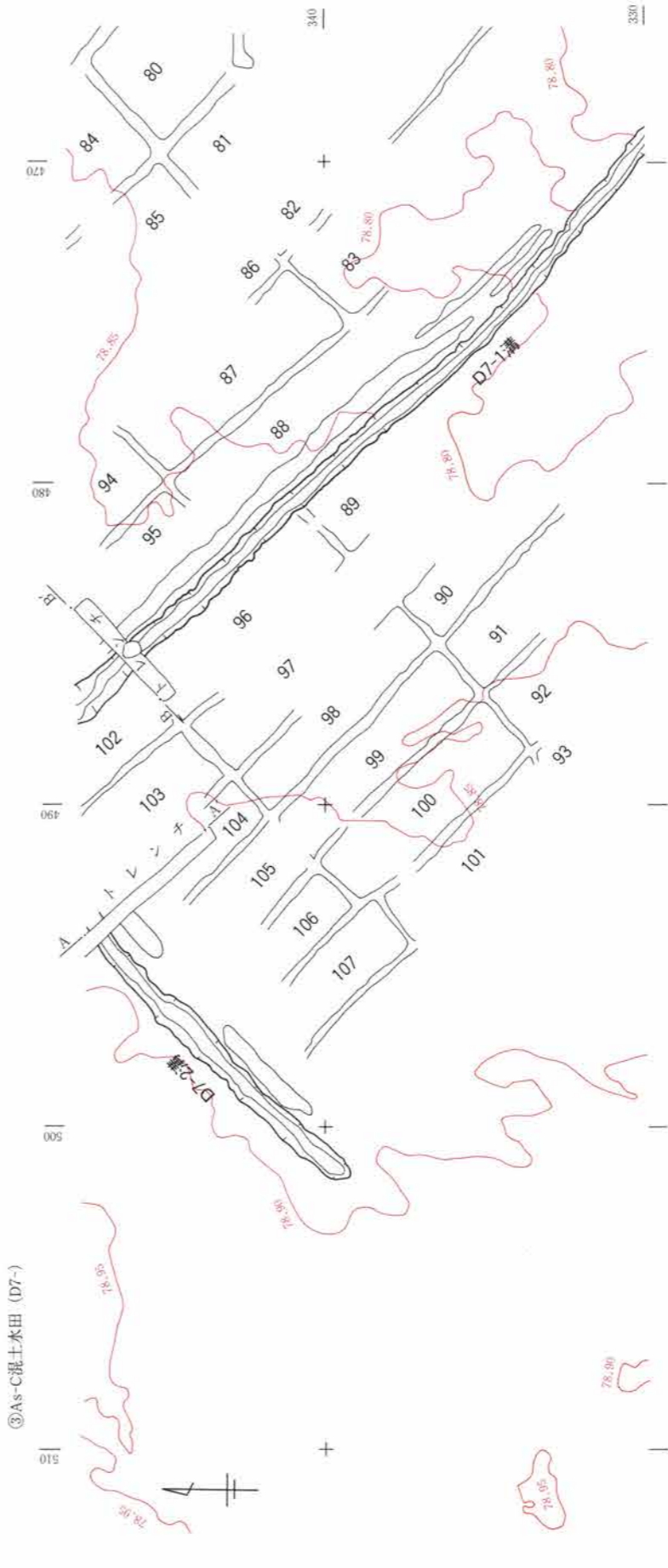
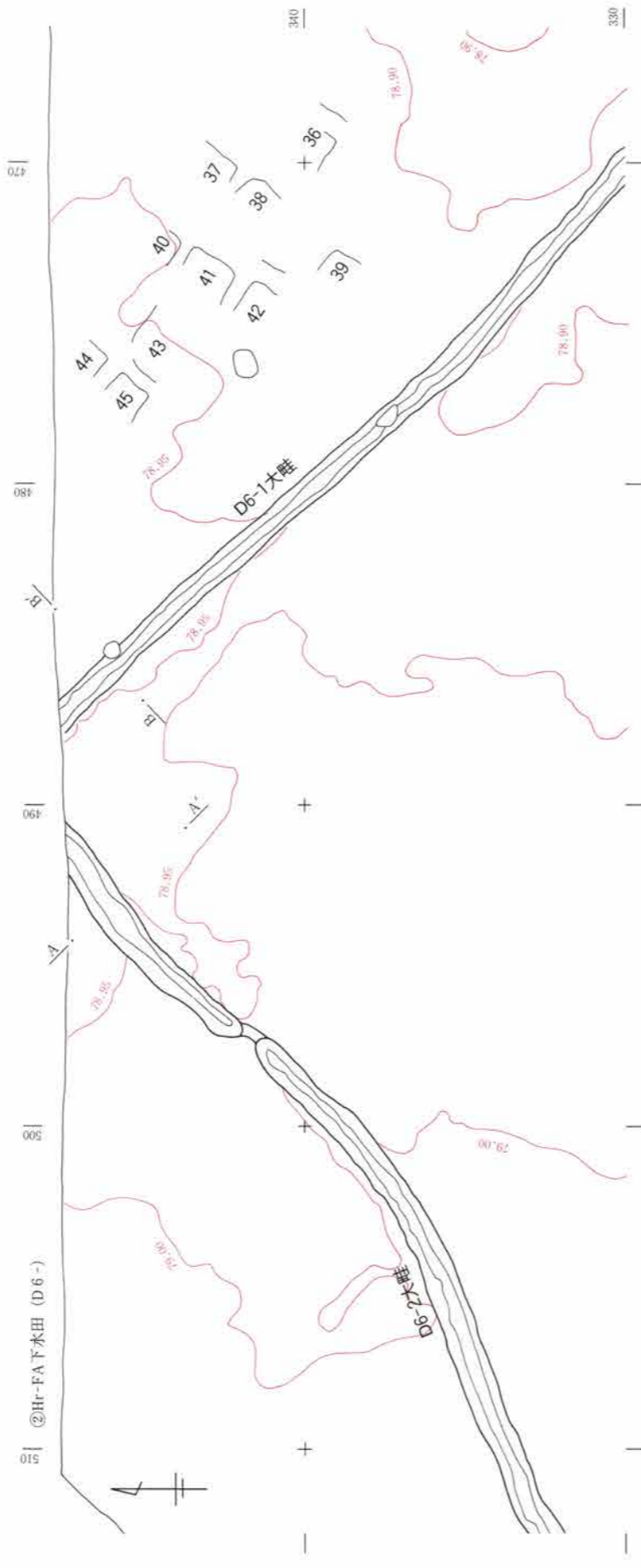
E8—1大畦 E6—1大畦、E7—1大畦と同位置にある。底部幅84～124cm、確認面からの高さ14cmで、水口と思われる部分は393—473G付近の1カ所。

E8—2大畦 E6—1大畦、E7—2大畦と同位置ある。底部幅126～204cm、確認面からの高さ6cm。

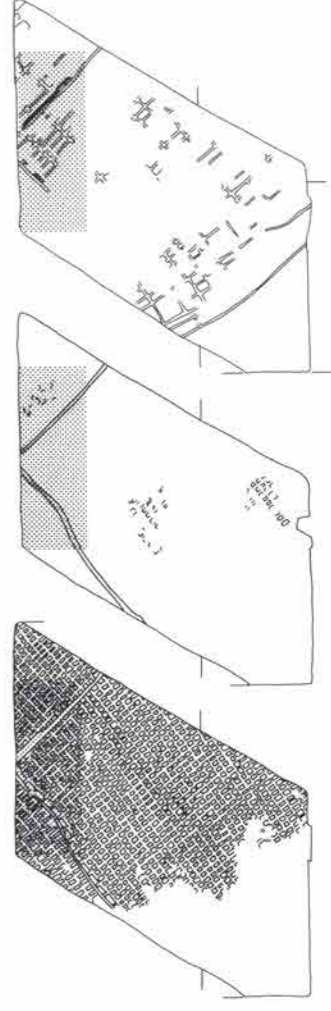
④As—C 混土水田 (第107図 P L. 71・72)

「古墳時代第4面」のD区、E区でAs—C混土を上位から徐々に平面掘削していき、土色の違いにより幅40cm前後の畦畔を確認した。土層の状態が良好なE区北部でAs—C混土層を除去した結果、これらの畦畔は下位の暗灰色シルト（以下XIII層）が約1～2cm程度高まったものであることが判った。

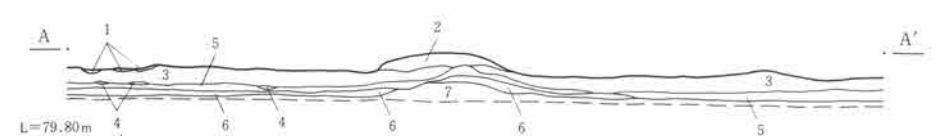
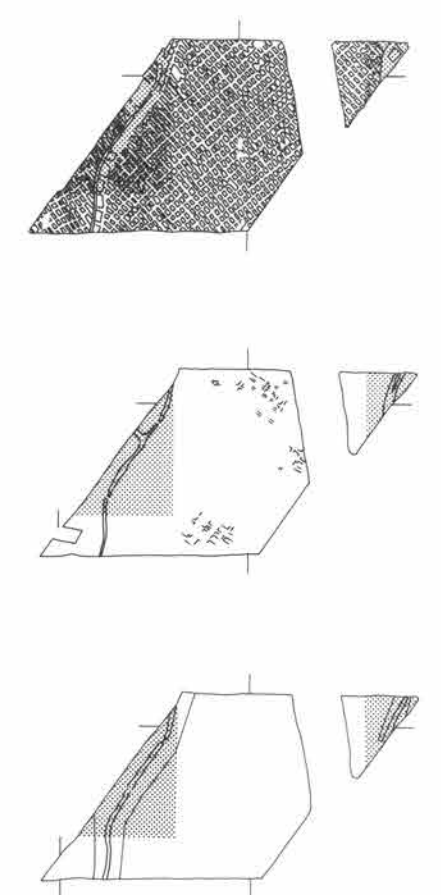
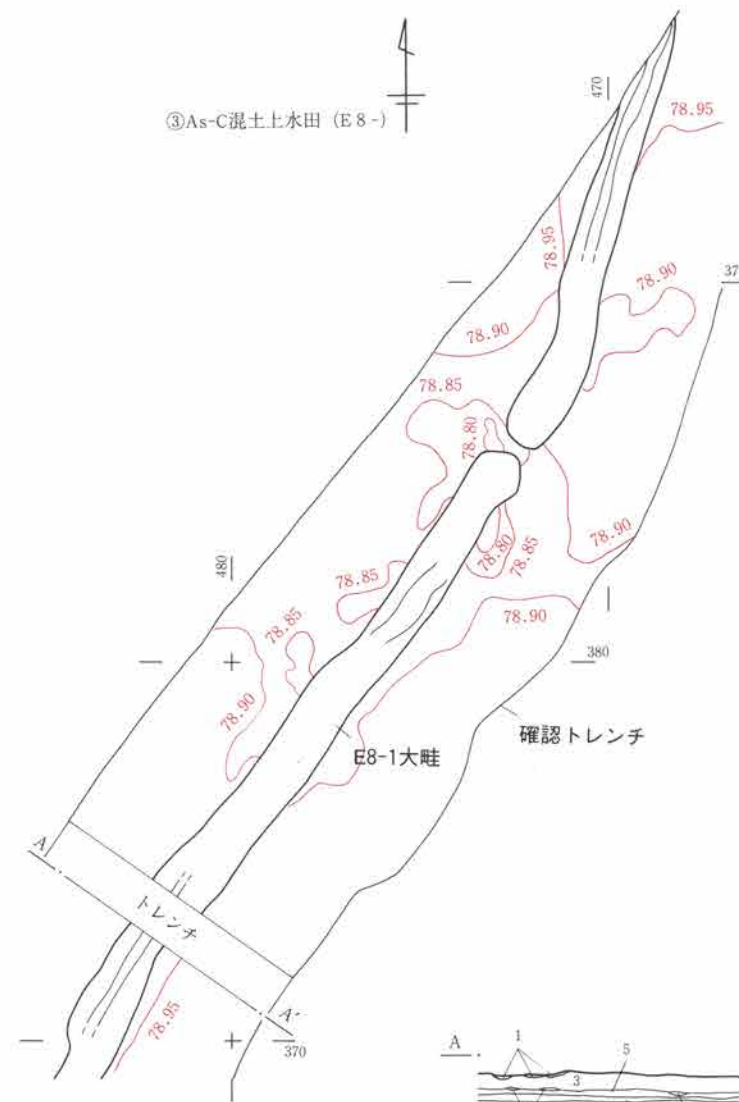
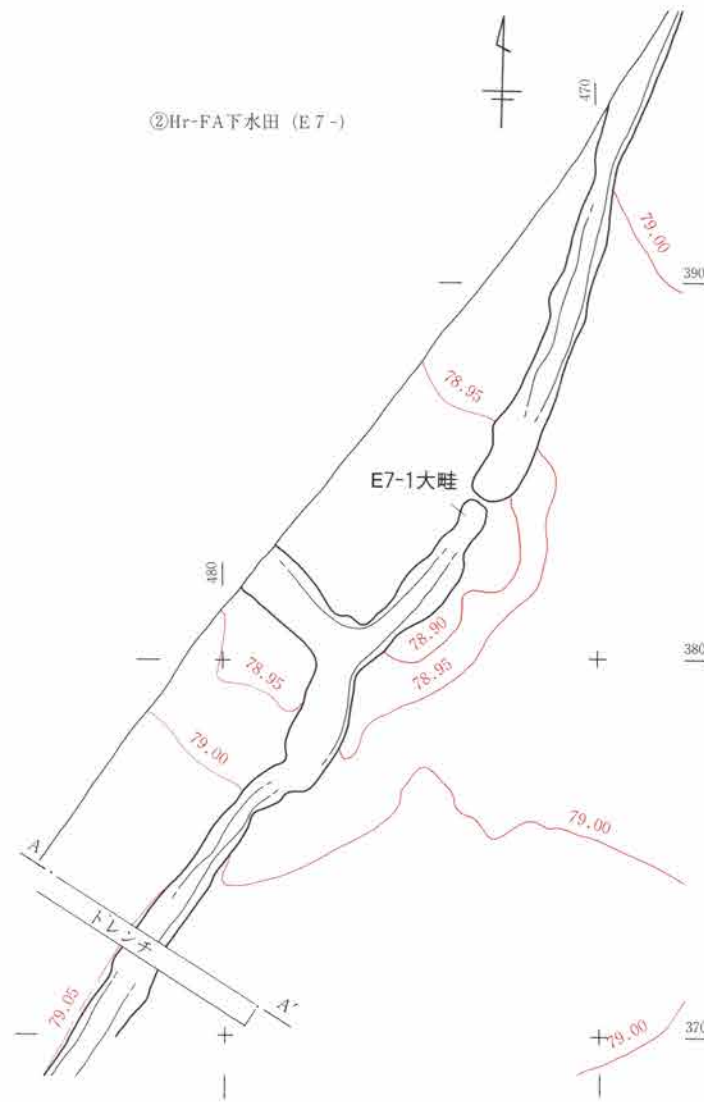
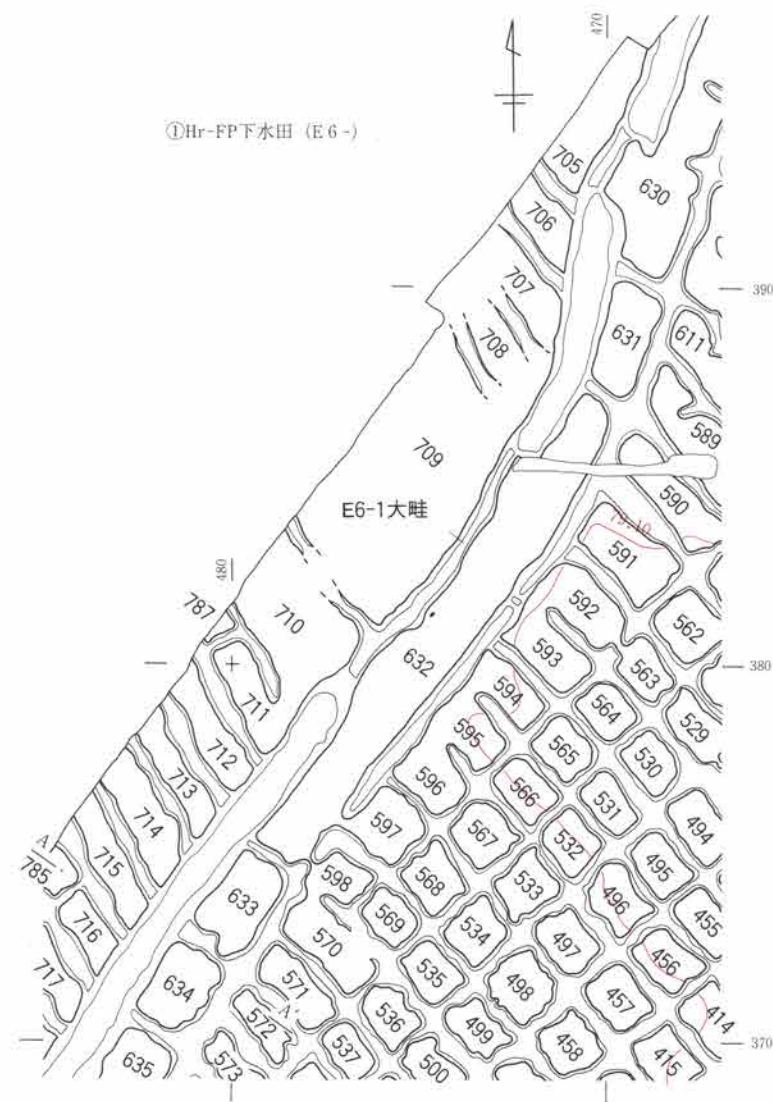
この状態からは、確認された水田跡は洪水層に被覆された耕作面のように見受けられる。しかしAs—C混土を観察すると、4世紀初頭に降下したAs—Cを大量に含む以外、一般的な洪水層内に見られるような小砂粒やシルト等の混入はなく、またXIII層との境界が不明瞭な部分も多い。そのためこの層は洪水層ではなく、降下したAs—Cが耕作によりXIII層と攪拌されて形成されたものと理解できる。従って、この水田跡はAs—C混土を耕土とする水田の中位から下位部である可能性が高い。畦畔の上部は後の耕作により攪拌を受け消滅したが、下部は攪拌を免れ残存したものであると思われる。



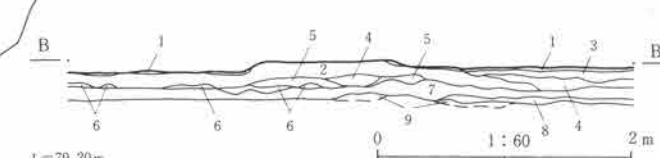
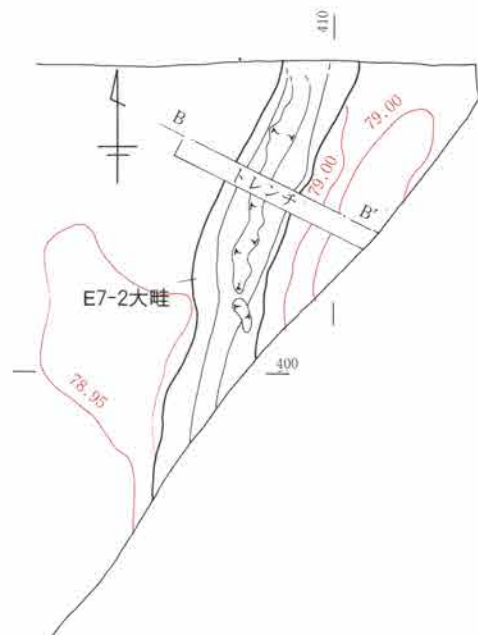
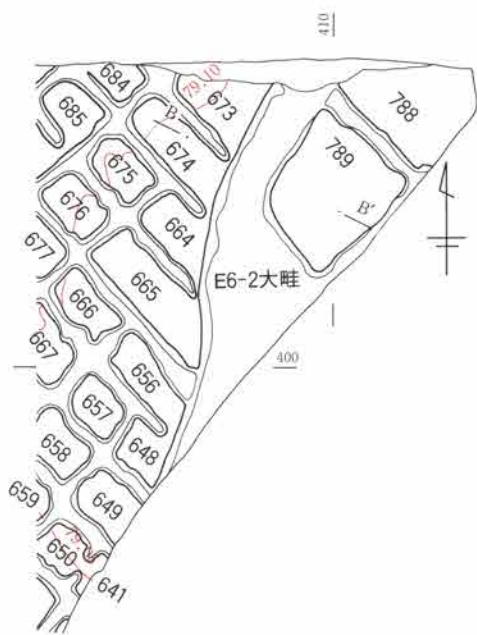
- 1 灰褐色シルト
- 2 Hr-FA 1次堆積
- 3 褐灰色粘土
- 4 黒褐色粘土 少量のAs-Cを含む。3と5の攪拌層か。
- 5 黒褐色粘土 大量のAs-Cを含む。
- 6 褐灰色土 大量の褐灰色砂粒、As-C?を含む。
- 7 黒色粘土 固い。



第107図 古墳時代各水田 D区北部



- 1 灰褐色シルト 炭化物を含む。
- 2 灰褐色シルト 鉄分を含む。
- 3 灰褐色シルト 4と6の攪拌層か。
- 4 Hr-FA 1次堆積。
- 5 灰色粘土
- 6 黒灰色粘土 少量のAs-Cを含む。
- 7 黒色粘土 As-Cを含む。



- 1 灰褐色シルト 炭化物を含む。
- 2 灰褐色シルト 灰白色砂を含む。
- 3 明褐色シルト 灰白色砂を含む。
- 4 灰白色砂
- 5 灰色シルト 鉄分を含む。
- 6 Hr-FA 1次堆積。
- 7 灰色粘土 鉄分を含む
- 8 灰黄色砂
- 9 黒色粘土 As-Cを含む。

第108図 古墳時代各水田 E区北西部・北東部

各調査区ごとに観察すると、まずD区では推定107区画を確認した。殆どの畦畔が断続しており完形の区画は少ないが、タテアゼ7m、ヨコアゼ2mと細長い区画が見られる部分もある。Hr—FP下水田やHr—FA下水田のオオアゼの位置には、一部で他の2倍ほどの幅の断続する畦畔、およびこれに併走する直線的な溝2条(D7—1・2溝)を確認した。これらはともに大区画を規定していた可能性が高い。

さらに、西端から南端には連続する1条の畦畔が見られる。走向は約N—40°—W、幅は他の畦畔と同等であるが、確認長は40mを超える。この畦畔を南東に延長したラインは、「古代面基底」のC区北東隅にある畦畔と思われる高まり(本章第4節参照)にほぼ重なることが判った。両者はともにⅧ層が高まったものである点でも一致している。上位面の水田跡ではこれらの位置の残存度が悪くオオアゼも確認できなかったが、走向や規模から判断してこの高まりも古墳時代の水田のオオアゼとなる可能性がある。ただし、As—C混土下水田と同時期のものであるかは断定できなかった。

一方E区では、推定74区画を確認した。北部や東部、南西部では完形の区画も多く残存している。区画の規模はタテアゼ5～8m、ヨコアゼ2～4m、面積は15～35m²と幅があり、北側から南側に向かい小規模になっているが概してE区のものよりも大きい。オオアゼは確認できず、また上位面の水田跡のオオアゼの位置にも区画が展開していることで、これらとは異なった地割りが設けられていた可能性がある。

D7—1溝 D5—1大畦、D6—1大畦と同位置にある。走向はN—45°—W、確認長32.5m、幅6～12cm、深さ3～5cmで、断面は皿状。須恵器や土師器の破片が出土。

D7—2溝 D5—2大畦、D6—2大畦の位置やや北西の345—490G～335—455Gに位置する。走向はN—45°—W。確認長11.4m、幅6～10cm、深さ3～5cmで、断面は皿状。

E8—2溝 E区南西部の360—485G～365—385Gに位置する。走向はN—14°—E。確認長7.40m、幅20～40cm。位置は、E6—1大畦以下のオオアゼ南端部に該当する。しかし確認長が短く、大区画を規定したものとは判断できない。

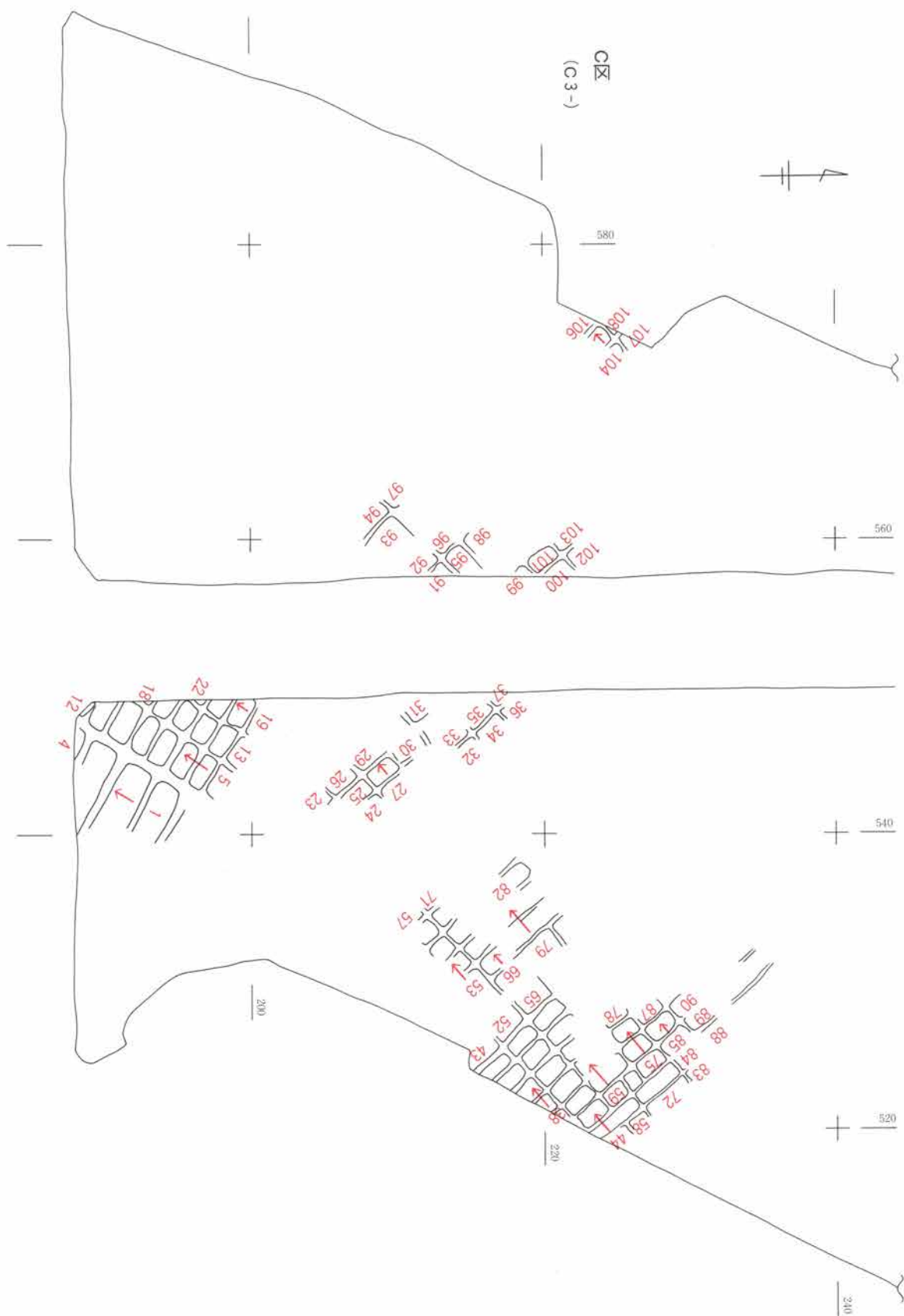
⑤その他の水田跡 (P.L. 73)

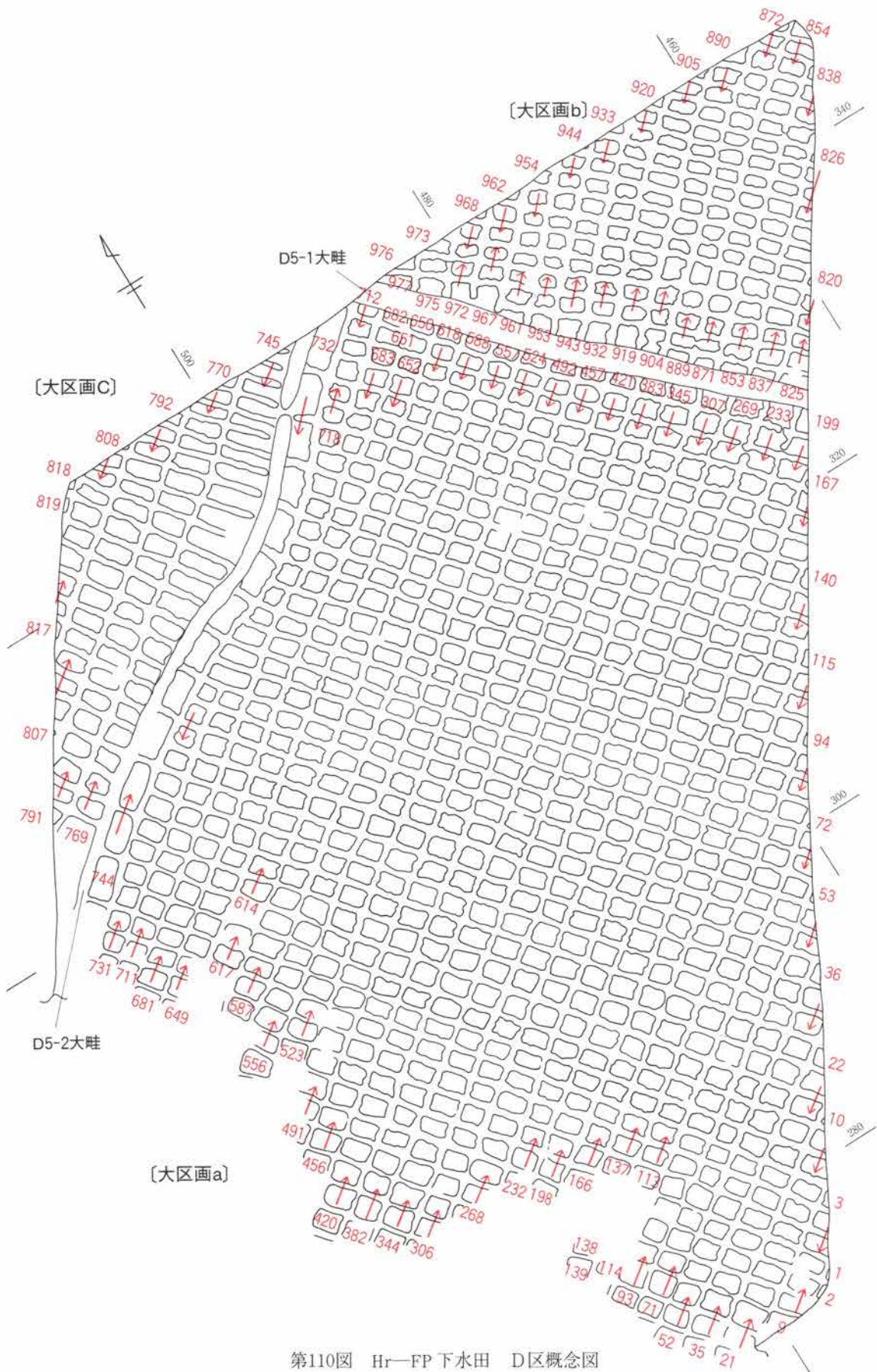
「古代面」のA区では、Hr—FA下水田の耕土下位で畦畔の可能性もある痕跡4条を確認した。走向はN—0～10°—W、幅10～20cm程度であるが区画は確認できず、時期も不明である。

以上、これら4時期の水田跡を総括すると、北西から南東に低くなる地形の傾斜に合わせて北西から南東、及びこれに直交する方向でオオアゼや各区画を設けていることが大きな特徴となっている。これは、古代以降の各水田跡が東西、南北方向を基本とするのと対照的であるが、造成のし易さや配水の効率を考えれば自然のものと言える。この状態ではオオアゼは配水等に最適な部分を選んで造成されるため、長い期間同じ位置に踏襲されていたものと思われ、また、確認範囲内では水路を設けなくとも配水が可能であったと考えられる。ただし、河川なり湧水点からこれらの部分まで用水を導く水路の存在は否定されるものではない。

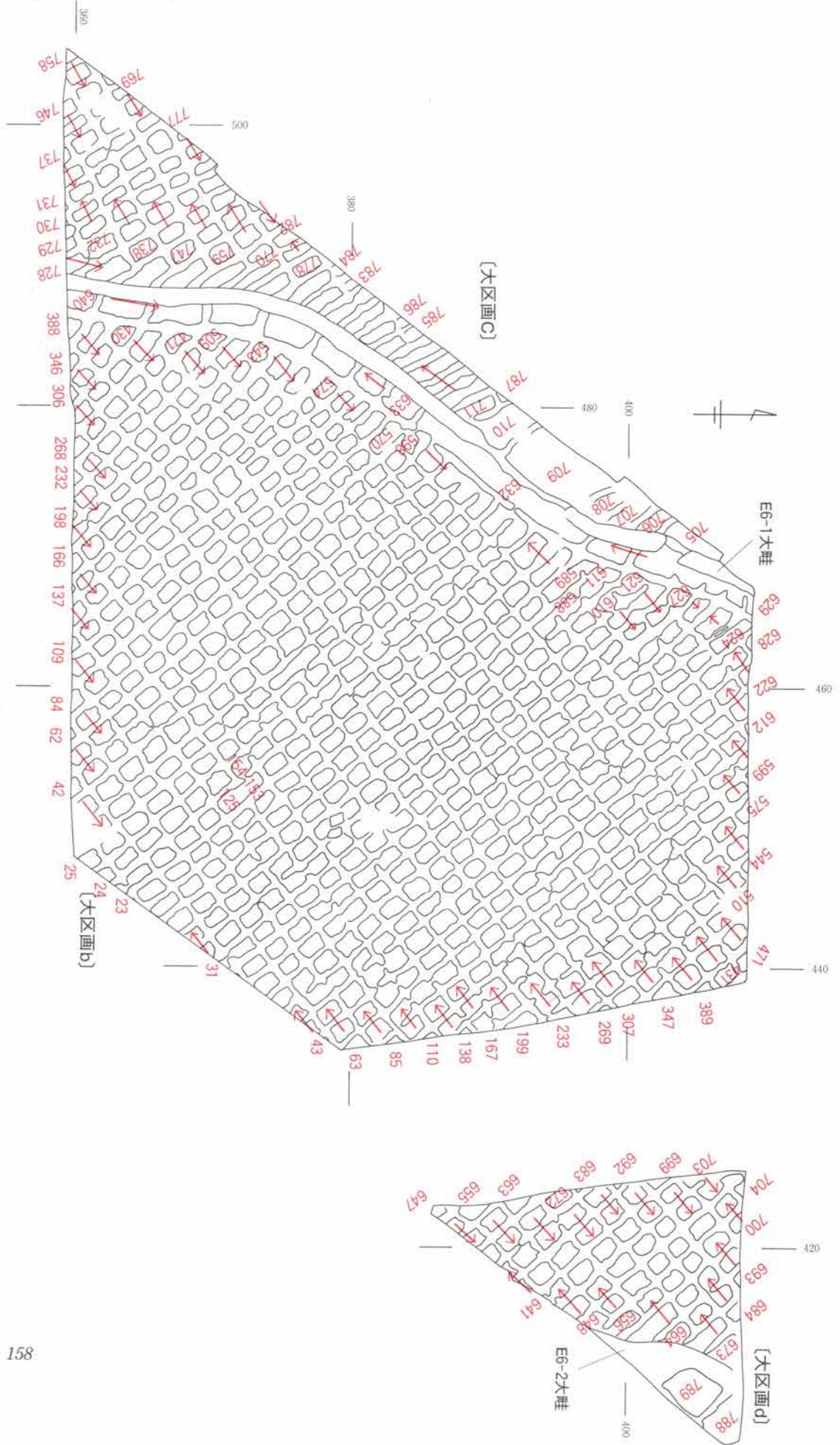
次に、As—C混土水田が本遺跡で最古の水田跡となる訳だが、As—C降下後に耕作された事実は判るものの開田の時期は不明であり、これ以前の水田の存否は確認できない点に注意しなければならない。本遺跡周辺の開田の時期を検討することが今後の大きな課題となろう。なお、C区では地形の傾斜部分でHr—FP下、Hr—FA下の各水田跡が残存していたが、状況から下位に自然河川の存在が予想された。実際その後の調査でC6—1・2河川が確認されており、この河川が埋没後浅い窪みとなっていく過程でこれらの水田が造成されたことが判った。特にC6—1河川の埋土上位部にはAs—Cの二次堆積層が見られ、この部分に限定すれば開田の時期は4C初頭から6C初頭の範囲内と考えられる。

第109図 H→FP下水田 C区概念図





第110図 H1-FP下水田 D区概念図



第111图 H—FP下水田・E区概念图

第5節 古墳時代の遺構と遺物

【Hr—FP 下水田 小区画計測表】

1：C区（C3—）

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	—	1.71	N-65°-W	2	—	—	2.11	N-62°-W	3	—	—	1.90	N-63°-W
4	—	—	—	—	5	—	2.28	—	N-61°-W	6	2.39	2.30	1.04	N-55°-W
7	2.69	2.34	1.15	N-62°-W	8	3.17	2.54	1.25	N-55°-W	9	2.95	2.68	1.10	N-62°-W
10	3.89	2.78	1.40	N-61°-W	11	—	—	1.25	N-62°-W	12	—	—	—	—
13	—	2.05	—	N-52°-W	14	—	2.15	1.20	N-58°-W	15	—	1.90	1.23	N-57°-W
16	—	1.90	1.20	N-52°-W	17	—	—	1.20	N-53°-W	18	—	—	—	—
19	—	—	—	—	20	2.46	2.07	1.19	N-61°-W	21	—	—	1.25	—
22	—	—	—	—	23	—	—	—	—	24	—	—	—	—
25	—	—	1.12	N-41°-W	26	—	2.10	—	N-40°-W	27	—	—	—	—
28	2.46	2.05	1.20	N-39°-W	29	—	—	—	—	30	—	—	—	—
31	—	—	—	—	32	—	—	—	—	33	—	—	—	—
34	—	2.01	—	N-44°-W	35	—	2.02	—	N-45°-W	36	—	—	—	—
37	—	—	—	—	38	—	—	—	—	39	—	—	1.15	—
40	—	—	1.20	N-43°-W	41	—	—	1.10	N-43°-W	42	—	—	1.00	N-42°-W
43	—	—	—	—	44	—	—	—	—	45	—	—	0.90	N-42°-W
46	2.25	2.05	1.10	N-41°-W	47	2.04	2.15	0.95	N-45°-W	48	2.70	2.25	1.20	N-44°-W
49	2.31	2.10	1.10	N-47°-W	50	2.04	2.05	1.00	N-44°-W	51	2.19	2.20	1.00	N-43°-W
52	—	2.27	—	N-48°-W	53	—	—	—	—	54	—	(1.16)	—	—
55	—	—	1.30	N-45°-W	56	—	—	1.30	N-45°-W	57	—	—	—	—
58	—	1.35	—	N-41°-W	59	1.75	1.60	1.10	N-37°-W	60	—	—	1.26	N-42°-W
61	—	—	—	—	62	—	—	1.14	N-41°-W	63	—	—	1.20	N-44°-W
64	2.29	2.30	1.00	N-43°-W	65	—	2.30	—	N-42°-W	66	—	—	—	—
67	—	—	1.35	N-42°-W	68	—	—	1.21	N-45°-W	69	—	—	1.32	N-45°-W
70	—	(1.13)	—	N-45°-W	71	—	—	—	—	72	—	3.46	—	N-41°-W
73	3.34	3.35	1.00	N-40°-W	74	1.03	1.15	0.90	N-56°-W	75	2.41	2.11	1.15	N-41°-W
76	2.29	1.90	1.21	N-40°-W	77	1.93	1.75	1.10	N-36°-W	78	—	1.80	—	N-38°-W
79	—	—	—	—	80	—	—	1.10	N-40°-W	81	—	—	1.40	N-36°-W
82	—	—	1.22	N-40°-W	83	—	—	—	—	84	—	—	—	—
85	—	2.17	—	N-49°-W	86	2.56	2.05	1.25	N-42°-W	87	—	1.86	—	N-42°-W
88	—	—	—	—	89	—	—	—	—	90	—	—	1.15	N-42°-W
91	—	—	—	—	92	—	—	—	—	93	—	—	—	—
94	—	—	—	—	95	—	—	1.30	N-45°-W	96	—	—	—	—
97	—	—	—	—	98	—	—	—	—	99	—	1.09	—	N-41°-W
100	—	1.75	—	—	101	2.14	1.95	1.14	N-37°-W	102	—	—	—	—
103	—	—	—	—	104	—	—	—	—	105	—	—	1.32	—
106	—	—	—	—										

2：D区・E区

①D5—2・E6—1大畦以东D5—1大畦以南の大区画（大区画a）D区（D5—） その1

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	—	—	—	2	—	—	—	—	3	—	—	—	—
4	—	—	1.15	N-35°-W	5	—	—	1.17	—	6	2.10	1.06	1.10	N-31°-W
7	2.48	2.20	1.17	N-30°-W	8	—	—	1.20	—	9	—	—	—	—
10	—	—	—	—	11	—	—	1.28	—	12	—	—	1.14	N-38°-W
13	2.36	1.92	1.15	N-31°-W	14	2.42	1.91	1.25	N-34°-W	15	2.26	2.06	1.09	N-38°-W
16	2.38	2.25	1.11	N-37°-W	17	2.39	2.12	1.22	N-38°-W	18	2.44	2.00	1.26	N-38°-W
19	3.38	2.22	1.59	N-35°-W	20	—	—	—	—	21	—	—	—	—
22	—	—	1.24	—	23	—	—	1.44	N-37°-W	24	2.70	1.98	1.45	N-40°-W
25	2.34	1.75	1.37	N-38°-W	26	2.34	1.35	1.39	N-37°-W	27	2.30	1.44	1.22	N-37°-W
28	2.24	1.96	1.27	N-38°-W	29	2.12	1.94	1.17	N-38°-W	30	2.07	1.95	1.14	N-38°-W
31	2.39	2.04	1.20	N-38°-W	32	2.30	2.00	1.14	N-38°-W	33	2.81	1.98	1.40	N-38°-W
34	—	—	1.23	N-38°-W	35	—	—	—	—	36	—	—	1.33	—
37	—	—	1.42	N-39°-W	38	2.27	1.80	1.32	N-40°-W	39	2.32	1.72	1.32	N-41°-W
40	2.53	1.80	1.39	N-32°-W	41	2.20	1.72	1.21	N-40°-W	42	2.42	1.60	1.50	N-38°-W
43	2.28	1.79	1.31	N-37°-W	44	1.96	1.74	1.15	N-38°-W	45	1.78	1.70	1.30	N-38°-W
46	2.12	1.70	1.30	N-38°-W	47	1.68	1.56	1.15	N-38°-W	48	2.08	1.70	1.26	N-38°-W
49	1.94	1.78	1.17	N-38°-W	50	2.21	1.62	1.42	N-38°-W	51	2.04	1.75	1.20	N-38°-W
52	—	—	—	—	53	—	—	—	—	54	—	—	1.31	N-39°-W
55	—	—	1.30	N-40°-W	56	2.18	1.68	1.50	N-39°-W	57	2.29	1.69	1.28	N-39°-W

第3章 各時代の調査

①D5-2・E6-1大畦以東D5-1大畦以南の大区画(大区画a) D区(D5-1) その2

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
58	2.14	1.62	1.33	N-40°-W	59	2.22	1.62	1.39	N-39°-W	60	2.18	1.40	1.50	N-37°-W
61	1.86	1.35	1.40	N-40°-W	62	1.97	1.49	1.21	N-38°-W	63	1.54	1.30	1.30	N-38°-W
64	1.66	1.49	1.02	N-38°-W	65	1.56	1.36	1.20	N-38°-W	66	2.42	1.72	1.47	N-38°-W
67	1.89	1.54	1.22	N-38°-W	68	2.23	1.66	1.35	N-38°-W	69	1.98	1.63	1.20	N-38°-W
70	2.48	1.70	1.50	N-38°-W	71	1.86	1.57	1.30	N-38°-W	72	—	—	—	—
73	—	—	1.34	—	74	—	1.22	—	N-38°-W	75	1.93	1.60	1.20	N-38°-W
76	2.11	1.78	1.28	N-39°-W	77	2.28	1.79	1.30	N-40°-W	78	2.46	1.75	1.32	N-39°-W
79	2.08	1.66	1.22	N-39°-W	80	2.32	1.72	1.38	N-40°-W	81	2.47	1.74	1.44	N-39°-W
82	2.43	1.86	1.32	N-39°-W	83	2.14	1.64	1.32	N-36°-W	84	2.35	1.84	1.26	N-38°-W
85	2.17	1.90	1.14	N-38°-W	86	1.89	1.65	1.08	N-38°-W	87	2.13	1.80	1.22	N-38°-W
88	2.17	1.54	1.39	N-38°-W	89	—	—	—	—	90	1.87	1.37	1.38	—
91	—	—	1.32	N-38°-W	92	—	1.67	—	N-38°-W	93	1.71	1.60	1.10	N-38°-W
94	—	—	—	N-38°-W	95	—	—	1.15	—	96	—	—	1.15	N-38°-W
97	2.51	1.89	1.37	N-40°-W	98	2.02	1.65	1.24	N-40°-W	99	2.29	1.80	1.27	N-38°-W
100	2.05	1.72	1.18	N-38°-W	101	1.98	1.80	1.18	N-39°-W	102	2.31	1.73	1.44	N-40°-W
103	2.04	1.58	1.27	N-39°-W	104	2.12	1.66	1.30	N-39°-W	105	2.23	1.74	1.35	N-40°-W
106	2.54	1.68	1.54	N-39°-W	107	2.42	1.80	1.42	N-39°-W	108	2.25	1.70	1.32	N-42°-W
109	1.98	1.66	1.16	N-38°-W	110	1.98	1.65	1.06	N-38°-W	111	1.83	1.63	1.12	N-38°-W
112	1.94	1.68	1.22	N-38°-W	113	2.31	1.82	1.25	N-38°-W	114	—	—	—	—
115	—	(1.25)	—	—	116	—	—	1.27	N-40°-W	117	—	—	1.46	N-40°-W
118	2.52	1.95	1.30	N-38°-W	119	2.52	1.94	1.30	N-40°-W	120	2.14	1.78	1.30	N-41°-W
121	2.30	1.82	1.24	N-40°-W	122	2.37	1.84	1.37	N-40°-W	123	2.22	1.88	1.27	N-40°-W
124	2.17	1.95	1.11	N-40°-W	125	2.44	1.97	1.27	N-39°-W	126	2.42	2.56	2.45	N-39°-W
127	2.53	1.92	1.36	N-39°-W	128	2.45	1.95	1.23	N-39°-W	129	2.68	1.97	1.32	N-40°-W
130	2.70	1.86	1.44	N-39°-W	131	2.60	1.80	1.42	N-39°-W	132	2.01	1.80	1.18	N-39°-W
133	2.01	1.80	1.18	N-37°-W	134	1.92	1.80	1.08	N-40°-W	135	1.87	1.63	1.10	N-38°-W
136	2.07	1.70	1.22	N-38°-W	137	2.16	1.73	1.30	N-38°-W	138	—	—	—	—
139	—	1.99	—	—	140	—	—	—	—	141	—	—	1.37	N-36°-W
142	2.04	1.69	1.22	N-39°-W	143	1.99	1.72	1.24	N-39°-W	144	2.10	1.70	1.24	N-40°-W
145	2.16	1.75	1.20	N-40°-W	146	2.57	1.86	1.46	N-38°-W	147	2.40	1.90	1.22	N-40°-W
148	2.19	1.75	1.26	N-41°-W	149	2.16	1.82	1.25	N-40°-W	150	2.43	1.88	1.30	N-39°-W
151	2.15	1.70	1.30	N-40°-W	152	1.90	1.73	1.13	N-40°-W	153	1.96	1.62	1.24	N-40°-W
154	1.97	1.54	1.21	N-38°-W	155	1.92	1.53	1.30	N-39°-W	156	2.06	1.52	1.42	N-39°-W
157	1.97	1.40	1.37	N-40°-W	158	2.36	1.60	1.46	N-39°-W	159	2.13	1.54	1.38	N-39°-W
160	2.08	1.59	1.30	N-39°-W	161	1.84	1.65	1.10	N-38°-W	162	1.74	1.52	1.13	N-37°-W
163	1.82	1.63	1.14	N-37°-W	164	1.86	1.54	1.20	N-38°-W	165	2.27	1.66	1.40	N-38°-W
166	—	—	—	—	167	—	—	—	—	168	—	(1.38)	—	—
169	—	—	1.30	—	170	2.34※	1.82	1.22	N-41°-W	171	2.23	1.68	1.35	N-40°-W
172	2.78	1.76	1.57	N-40°-W	173	2.17	1.71	1.32	N-40°-W	174	2.10	1.79	1.16	N-41°-W
175	2.18	1.82	1.23	N-40°-W	176	2.03	1.59	1.22	N-40°-W	177	1.88	1.49	1.35	N-42°-W
178	1.95	1.46	1.30	N-40°-W	179	2.06	1.70	1.28	N-41°-W	180	1.86	1.60	1.13	N-40°-W
181	2.07	1.60	1.44	N-39°-W	182	2.08	1.67	1.19	N-40°-W	183	2.12	1.67	1.30	N-40°-W
184	1.93	1.74	1.12	N-40°-W	185	2.02	1.69	1.20	N-38°-W	186	2.02	1.64	1.24	N-40°-W
187	2.46	1.82	1.43	N-39°-W	188	2.61	1.84	1.42	N-40°-W	189	2.50	1.82	1.38	N-39°-W
190	2.56	1.86	1.42	N-39°-W	191	2.43	1.83	1.34	N-38°-W	192	1.94	1.77	1.02	N-37°-W
193	1.97	1.82	1.10	N-40°-W	194	1.80	1.65	1.09	N-37°-W	195	2.18	1.83	1.27	N-38°-W
196	2.14	1.66	1.30	N-36°-W	197	2.06	1.70	1.22	N-38°-W	198	—	(1.83)	—	—
199	—	(1.69)	—	—	200	—	—	1.24	N-43°-W	201	2.48	1.76	1.30	N-42°-W
202	2.32	1.77	1.39	N-37°-W	203	1.98	1.70	1.10	N-42°-W	204	2.37	1.80	1.42	N-43°-W
205	2.06	1.84	1.12	N-42°-W	206	2.70	1.70	1.60	N-42°-W	207	2.57	1.87	1.40	N-40°-W
208	2.20	1.90	1.10	N-41°-W	209	2.35	1.89	1.24	N-42°-W	210	2.48	1.88	1.30	N-41°-W
211	2.10	1.92	1.06	N-42°-W	212	2.50	1.22	2.06	N-40°-W	213	2.10	1.86	1.20	N-40°-W
214	2.29	1.78	1.30	N-40°-W	215	1.91	1.65	1.20	N-39°-W	216	2.10	1.82	1.22	N-40°-W
217	2.15	1.68	1.21	N-40°-W	218	2.11	1.61	1.30	N-40°-W	219	2.09	1.58	1.24	N-40°-W
220	2.17	1.84	1.18	N-39°-W	221	1.95	1.60	1.25	N-40°-W	222	2.43	1.64	1.42	N-38°-W
223	2.32	1.64	1.42	N-40°-W	224	2.37	1.72	1.35	N-39°-W	225	2.29	1.76	1.34	N-38°-W
226	1.93	1.75	1.12	N-37°-W	227	1.88	1.78	1.14	N-40°-W	228	1.79	1.74	1.06	N-37°-W
229	1.78	1.74	1.18	N-38°-W	230	1.90	1.54	1.18	N-36°-W	231	2.22	1.62	1.45	N-38°-W
232	—	—	—	—	233	2.66	1.64	1.48	N-45°-W	234	2.61	2.07	1.35	N-43°-W

第5節 古墳時代の遺構と遺物

①D5-2・E6-1大睦以東D5-1大睦以南の大区画(大区画a) D区(D5-1)その3

番号	面積m ²	長径m	短径m	長径方位	番号	面積m ²	長径m	短径m	長径方位	番号	面積m ²	長径m	短径m	長径方位
235	2.30	1.93	1.22	N-42°-W	236	2.50	1.75	1.30	N-42°-W	237	2.09	1.77	1.26	N-42°-W
238	2.49	1.82	1.38	N-43°-W	239	1.97	1.75	1.15	N-43°-W	240	2.54	1.82	1.38	N-43°-W
241	2.24	1.77	1.26	N-40°-W	242	2.40	1.78	1.32	N-41°-W	243	2.45	1.90	1.32	N-42°-W
244	2.32	1.60	1.40	N-41°-W	245	1.81	1.54	1.15	N-39°-W	246	1.94	1.56	1.24	N-40°-W
247	1.94	1.64	1.17	N-40°-W	248	2.05	1.65	1.22	N-40°-W	249	2.15	1.72	1.30	N-39°-W
250	2.07	1.70	1.30	N-39°-W	251	2.10	1.82	1.22	N-40°-W	252	2.27	1.82	1.22	N-40°-W
253	2.13	1.77	1.26	N-40°-W	254	2.34	1.75	1.28	N-40°-W	255	2.37	1.86	1.32	N-41°-W
256	2.51	1.88	1.32	N-41°-W	257	2.45	1.80	1.30	N-40°-W	258	2.38	1.82	1.30	N-39°-W
259	2.51	1.79	1.42	N-40°-W	260	2.02	1.78	1.05	N-40°-W	261	1.96	1.94	1.07	N-40°-W
262	2.02	1.82	1.02	N-40°-W	263	2.46	2.02	1.25	N-40°-W	264	2.31	1.93	1.20	N-38°-W
265	2.15	1.90	1.24	N-36°-W	266	2.70	2.10	1.35	N-36°-W	267	—	—	1.20	—
268	—	—	—	—	269	2.53	2.00	1.30	N-45°-W	270	2.46	1.98	1.35	N-45°-W
271	2.58	2.06	1.30	N-43°-W	272	2.56	1.85	1.40	N-42°-W	273	1.94	1.77	1.10	N-42°-W
274	2.23	1.54	1.32	N-43°-W	275	2.02	1.78	1.14	N-42°-W	276	2.69	1.80	1.55	N-42°-W
277	2.42	1.78	1.29	N-40°-W	278	2.34	1.62	1.37	N-41°-W	279	2.20	1.75	1.20	N-42°-W
280	2.58	1.79	1.40	N-41°-W	281	2.44	1.95	1.21	N-40°-W	282	2.30	1.90	1.22	N-40°-W
283	2.09	1.72	1.20	N-40°-W	284	2.03	1.80	1.22	N-40°-W	285	2.33	1.82	1.26	N-39°-W
286	2.19	1.70	1.20	N-40°-W	287	2.17	1.70	1.18	N-40°-W	288	2.18	1.75	1.28	N-40°-W
289	2.11	1.77	1.21	N-40°-W	290	2.34	1.70	1.32	N-40°-W	291	2.02	1.60	1.20	N-39°-W
292	2.44	1.68	1.50	N-41°-W	293	2.34	1.80	1.30	N-40°-W	294	2.18	1.70	1.22	N-39°-W
295	2.36	1.66	1.43	N-39°-W	296	1.86	1.72	1.17	N-39°-W	297	1.76	1.67	1.05	N-39°-W
298	1.79	1.64	1.12	N-40°-W	299	1.85	1.57	1.22	N-39°-W	300	1.91	1.56	1.14	N-38°-W
301	1.78	1.64	1.18	N-37°-W	302	2.12	1.72	1.28	N-36°-W	303	2.14	1.80	1.25	N-36°-W
304	2.02	1.60	1.28	N-38°-W	305	—	—	1.30	—	306	—	—	—	—
307	2.30	1.92	1.15	N-47°-W	308	2.22	1.80	1.36	N-44°-W	309	1.97	1.60	1.15	N-47°-W
310	2.32	1.66	1.42	N-42°-W	311	2.04	1.73	1.12	N-42°-W	312	2.26	1.62	1.35	N-43°-W
313	2.18	1.66	1.14	N-42°-W	314	2.30	1.80	1.22	N-42°-W	315	2.01	1.68	1.26	N-42°-W
316	2.12	1.56	1.30	N-41°-W	317	1.88	1.50	1.24	N-41°-W	318	2.15	1.72	1.22	N-40°-W
319	2.11	1.73	1.23	N-40°-W	320	2.27	1.70	1.32	N-39°-W	321	2.22	1.77	1.25	N-40°-W
322	2.04	1.82	1.14	N-39°-W	323	2.22	1.82	1.23	N-41°-W	324	2.14	1.78	1.24	N-40°-W
325	2.25	1.80	1.22	N-40°-W	326	2.54	1.95	1.30	N-40°-W	327	2.37	1.90	1.23	N-40°-W
328	2.32	1.92	1.20	N-40°-W	329	2.43	1.98	1.22	N-39°-W	330	2.53	1.81	1.43	N-41°-W
331	2.27	1.70	1.30	N-40°-W	332	2.25	1.70	1.32	N-39°-W	333	2.34	1.73	1.35	N-39°-W
334	1.87	1.72	1.07	N-39°-W	335	2.06	1.85	1.14	N-39°-W	336	2.04	1.76	1.08	N-40°-W
337	2.48	1.90	1.30	N-39°-W	338	2.27	1.97	1.20	N-38°-W	339	2.13	1.85	1.12	N-37°-W
340	2.21	1.76	1.23	N-37°-W	341	2.93	2.05	1.47	N-36°-W	342	3.01	2.08	1.43	N-37°-W
343	2.79	2.00	1.37	N-37°-W	344	—	(2.00)	—	—	345	2.98	1.85	1.14	N-47°-W
346	2.22	1.76	1.29	N-45°-W	347	2.11	1.75	1.28	N-43°-W	348	2.08	1.54	1.22	N-43°-W
349	2.06	1.82	1.17	N-42°-W	350	2.27	1.56	1.34	N-43°-W	351	2.02	1.60	1.17	N-42°-W
352	1.94	1.60	1.23	N-42°-W	353	1.98	1.75	1.64	N-42°-W	354	2.23	1.76	1.30	N-41°-W
355	1.86	1.70	1.10	N-40°-W	356	2.37	1.73	1.38	N-40°-W	357	2.34	1.86	1.23	N-40°-W
358	2.53	2.00	1.32	N-39°-W	359	2.40	2.00	1.22	N-40°-W	360	2.18	1.95	1.10	N-39°-W
361	2.09	1.90	1.11	N-39°-W	362	2.49	1.79	1.30	N-40°-W	363	2.34	2.00	1.25	N-38°-W
364	2.38	1.92	1.28	N-40°-W	365	2.13	1.74	1.13	N-37°-W	366	2.40	1.88	1.30	N-40°-W
367	2.44	1.96	1.24	N-39°-W	368	2.64	2.02	1.36	N-41°-W	369	2.63	2.00	1.34	N-40°-W
370	2.58	1.90	1.40	N-40°-W	371	2.65	2.01	1.30	N-39°-W	372	2.58	2.07	1.30	N-39°-W
373	2.11	2.04	1.00	N-39°-W	374	2.08	1.82	1.18	N-40°-W	375	2.09	1.85	1.10	N-39°-W
376	2.11	1.64	1.24	N-38°-W	377	1.82	1.50	1.20	N-38°-W	378	1.70	1.60	1.00	N-40°-W
379	2.32	1.80	1.34	N-37°-W	380	2.20	1.75	1.30	N-37°-W	381	2.59	1.70	1.52	N-37°-W
382	—	(1.90)	—	—	383	1.71	1.78	0.97	N-47°-W	384	2.18	1.69	1.32	N-44°-W
385	1.70	1.64	1.00	N-43°-W	386	2.13	1.70	1.20	N-42°-W	387	2.12	1.78	1.28	N-42°-W
388	2.31	1.68	1.35	N-43°-W	389	2.07	1.75	1.24	N-42°-W	390	2.15	1.68	1.25	N-40°-W
391	2.30	1.75	1.34	N-42°-W	392	2.09	1.70	1.24	N-41°-W	393	2.23	1.80	1.29	N-41°-W
394	2.26	1.81	1.22	N-41°-W	395	2.30	1.76	1.24	N-40°-W	396	2.12	1.70	1.20	N-41°-W
397	2.25	1.87	1.20	N-40°-W	398	2.31	1.88	1.24	N-39°-W	399	2.04	1.81	1.15	N-39°-W
400	2.34	1.88	1.24	N-40°-W	401	1.94	1.82	1.07	N-38°-W	402	2.35	1.95	1.28	N-40°-W
403	2.15	1.85	1.14	N-37°-W	404	2.22	1.74	1.27	N-40°-W	405	2.07	1.60	1.20	N-39°-W
406	2.14	1.60	1.27	N-38°-W	407	2.29	1.70	1.37	N-38°-W	408	2.48	1.90	1.33	N-40°-W
409	2.52	1.70	1.52	N-39°-W	410	1.96	1.68	1.10	N-39°-W	411	2.00	1.72	1.23	N-39°-W

第3章 各時代の調査

①D5-2・E6-1大畦以東D5-1大畦以南の大区画(大区画a) D区(D5-)その4

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
412	1.90	1.76	1.09	N-40°-W	413	2.10	1.78	1.15	N-39°-W	414	2.14	1.80	1.15	N-37°-W
415	2.47	1.92	1.32	N-38°-W	416	2.26	1.94	1.13	N-39°-W	417	2.46	2.00	1.20	N-41°-W
418	2.55	1.44	1.81	N-37°-W	419	2.72	1.94	1.48	N-37°-W	420	2.58	1.76	1.44	N-37°-W
421	1.56	1.16	0.72	N-47°-W	422	1.97	1.55	1.24	N-45°-W	423	2.06	1.70	1.18	N-43°-W
424	2.26	1.72	1.28	N-43°-W	425	1.97	1.60	1.24	N-43°-W	426	2.03	1.68	1.25	N-40°-W
427	2.12	1.72	1.32	N-42°-W	428	2.21	1.78	1.26	N-40°-W	429	2.05	1.60	1.20	N-40°-W
430	2.08	1.70	1.22	N-40°-W	431	1.90	1.48	1.28	N-40°-W	432	1.90	1.72	1.08	N-40°-W
433	2.18	1.74	1.22	N-40°-W	434	1.98	1.66	1.16	N-40°-W	435	2.02	1.80	1.14	N-40°-W
436	2.03	1.67	1.23	N-40°-W	437	1.94	1.72	1.12	N-40°-W	438	2.03	1.76	1.16	N-40°-W
439	1.90	1.64	1.16	N-40°-W	440	1.91	1.60	1.20	N-40°-W	441	2.17	1.72	1.28	N-37°-W
442	2.58	1.94	1.36	N-40°-W	443	2.34	1.70	1.28	N-39°-W	444	2.62	1.94	1.28	N-38°-W
445	2.62	1.86	1.26	N-38°-W	446	2.58	1.86	1.40	N-40°-W	447	2.83	1.90	1.50	N-39°-W
448	1.97	1.84	0.98	N-39°-W	449	2.04	1.84	1.12	N-39°-W	450	1.93	1.80	1.02	N-38°-W
451	2.34	1.90	1.27	N-39°-W	452	2.15	1.86	1.20	N-37°-W	453	2.58	1.84	1.42	N-38°-W
454	2.53	1.88	1.35	N-39°-W	455	2.56	1.96	1.32	N-40°-W	456	—	(1.96)	—	—
457	1.26	1.70	0.72	N-47°-W	458	1.82	1.70	1.10	N-45°-W	459	2.05	1.75	1.14	N-43°-W
460	2.19	1.83	1.32	N-43°-W	461	2.07	1.52	1.30	N-43°-W	462	2.18	1.80	1.22	N-43°-W
463	2.14	1.75	1.30	N-42°-W	464	2.19	1.74	1.32	N-40°-W	465	2.44	1.90	1.27	N-40°-W
466	2.28	1.86	1.29	N-40°-W	467	2.08	1.78	1.18	N-40°-W	468	2.18	1.80	1.16	N-40°-W
469	2.47	1.94	1.22	N-40°-W	470	2.13	1.77	1.26	N-40°-W	471	1.99	1.67	1.05	N-40°-W
472	2.15	1.75	1.30	N-40°-W	473	2.11	1.86	1.10	N-40°-W	474	2.16	1.70	1.18	N-40°-W
475	1.99	1.80	1.06	N-40°-W	476	2.25	1.72	1.28	N-39°-W	477	2.13	1.80	1.24	N-38°-W
478	2.33	1.84	1.30	N-41°-W	479	2.63	1.82	1.42	N-41°-W	480	2.39	1.84	1.42	N-38°-W
481	2.39	1.96	1.32	N-38°-W	482	2.47	1.82	1.38	N-40°-W	483	2.52	1.70	1.42	N-39°-W
484	2.40	1.92	1.26	N-39°-W	485	2.29	1.82	1.28	N-39°-W	486	—	—	1.20	N-40°-W
487	2.34	1.74	1.32	N-39°-W	488	2.55	1.96	1.38	N-37°-W	489	—	—	1.46	N-38°-W
490	—	—	—	—	491	—	—	—	—	492	1.55	1.78	0.71	N-47°-W
493	1.78	1.75	1.00	N-45°-W	494	1.78	1.63	1.06	N-43°-W	495	2.06	1.60	1.23	N-43°-W
496	2.09	1.64	1.27	N-40°-W	497	2.30	1.55	1.13	N-40°-W	498	2.03	1.62	1.25	N-40°-W
499	2.17	1.78	1.22	N-40°-W	500	2.11	1.66	1.26	N-40°-W	501	2.10	1.70	1.24	N-40°-W
502	2.24	1.64	1.32	N-40°-W	503	1.92	1.58	1.16	N-40°-W	504	2.17	1.62	1.40	N-40°-W
505	2.18	1.70	1.34	N-40°-W	506	1.77	1.68	1.00	N-40°-W	507	2.11	1.62	1.34	N-40°-W
508	1.83	1.66	1.04	N-40°-W	509	1.89	1.54	1.20	N-40°-W	510	1.64	1.64	1.12	N-40°-W
511	1.96	1.66	1.24	N-39°-W	512	1.86	1.50	1.24	N-41°-W	513	2.35	1.82	1.34	N-41°-W
514	2.28	1.78	1.26	N-41°-W	515	2.30	1.84	1.20	N-41°-W	516	2.24	1.80	1.30	N-38°-W
517	2.28	1.78	1.32	N-40°-W	518	2.30	1.80	1.28	N-39°-W	519	2.22	1.74	1.30	N-37°-W
520	2.50	2.04	1.24	N-37°-W	521	2.47	1.90	1.30	N-38°-W	522	2.46	2.06	1.26	N-39°-W
523	—	1.80	—	N-37°-W	524	1.34	1.73	0.72	N-47°-W	525	1.70	1.67	1.00	N-45°-W
526	1.78	1.63	1.06	N-42°-W	527	1.98	1.60	1.24	N-42°-W	528	1.82	1.38	1.36	N-42°-W
529	2.05	1.55	1.32	N-40°-W	530	1.75	1.46	1.26	N-40°-W	531	1.76	1.54	1.12	N-40°-W
532	2.13	1.78	1.25	N-40°-W	533	2.18	1.62	1.30	N-40°-W	534	2.20	1.70	1.34	N-40°-W
535	1.90	1.62	1.15	N-40°-W	536	2.29	1.70	1.38	N-40°-W	537	2.07	1.60	1.24	N-40°-W
538	1.64	1.53	1.14	N-40°-W	539	1.88	1.46	1.17	N-40°-W	540	1.85	1.86	1.00	N-40°-W
541	1.97	1.77	1.17	N-40°-W	542	1.75	1.64	1.12	N-40°-W	543	1.95	1.72	1.10	N-39°-W
544	2.12	1.82	1.24	N-40°-W	545	2.19	1.70	1.30	N-41°-W	546	2.20	1.86	1.28	N-41°-W
547	2.03	1.60	1.28	N-41°-W	548	2.01	1.60	1.16	N-41°-W	549	2.64	1.86	1.36	N-40°-W
550	2.37	1.70	1.42	N-39°-W	551	1.86	1.60	1.14	N-40°-W	552	2.19	1.62	1.40	N-37°-W
553	2.19	1.78	1.28	N-29°-W	554	2.76	2.00	1.46	N-31°-W	555	—	—	1.28	N-39°-W
556	3.18	2.08	1.54	N-36°-W	557	1.41	1.67	0.70	N-42°-W	558	1.62	1.66	1.00	N-42°-W
559	1.85	1.71	1.08	N-42°-W	560	2.02	1.69	1.72	N-43°-W	561	1.82	1.50	1.07	N-43°-W
562	1.71	1.54	1.16	N-40°-W	563	2.00	1.62	1.28	N-40°-W	564	2.13	1.66	1.28	N-40°-W
565	2.04	1.68	1.14	N-40°-W	566	2.06	1.74	1.16	N-40°-W	567	2.22	1.73	1.30	N-40°-W
568	1.87	1.70	1.06	N-40°-W	569	2.64	1.90	1.40	N-40°-W	570	2.78	2.10	1.88	N-40°-W
571	2.15	1.96	1.02	N-42°-W	572	2.25	1.86	1.16	N-41°-W	573	1.89	1.82	1.07	N-40°-W
574	2.20	1.86	1.15	N-40°-W	575	1.76	1.82	1.02	N-40°-W	576	2.23	1.90	1.30	N-40°-W
577	2.24	1.88	1.20	N-40°-W	578	2.21	1.72	1.34	N-40°-W	579	2.11	1.72	1.28	N-41°-W
580	2.06	1.80	1.14	N-41°-W	581	2.22	1.64	1.20	N-41°-W	582	2.18	1.78	1.24	N-40°-W
583	2.53	1.94	1.32	N-39°-W	584	2.67	1.90	1.36	N-39°-W	585	1.94	1.90	1.04	N-39°-W
586	2.41	1.86	1.32	N-38°-W	587	2.09	1.62	1.30	N-29°-W	588	1.58	1.74	0.71	N-41°-W

第5節 古墳時代の遺構と遺物

①D5-2・E6-1大畦以東D5-1大畦以南の大区画(大区画a) D区(D5-1)その5

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
589	1.90	1.75	1.10	N-41°-W	590	1.82	1.67	1.03	N-42°-W	591	2.08	1.72	1.30	N-42°-W
592	2.32	1.94	1.22	N-42°-W	593	2.21	1.86	1.16	N-42°-W	594	2.34	1.86	1.28	N-41°-W
595	1.64	1.56	1.06	N-40°-W	596	2.41	1.92	1.34	N-40°-W	597	2.35	1.78	1.26	N-40°-W
598	2.46	1.96	1.26	N-40°-W	599	2.08	1.94	1.04	N-40°-W	600	2.62	1.82	1.42	N-40°-W
601	2.22	1.68	1.25	N-40°-W	602	1.70	1.78	0.92	N-42°-W	603	2.26	1.92	1.20	N-41°-W
604	2.03	2.04	0.98	N-40°-W	605	2.28	1.82	1.22	N-40°-W	606	1.89	1.90	0.98	N-39°-W
607	2.72	1.96	1.18	N-39°-W	608	2.28	1.90	1.22	N-40°-W	609	2.54	1.89	1.36	N-40°-W
610	2.15	1.84	1.18	N-41°-W	611	2.14	1.76	1.14	N-41°-W	612	2.46	1.90	1.22	N-40°-W
613	2.35	2.00	1.20	N-40°-W	614	—	—	—	—	615	—	(1.74)	—	—
616	2.19	1.90	1.22	N-39°-W	617	—	—	—	—	618	1.37	1.64	0.76	N-41°-W
619	1.59	1.50	1.10	N-41°-W	620	1.68	1.58	1.10	N-42°-W	621	1.72	1.50	1.08	N-42°-W
622	1.58	1.34	1.15	N-38°-W	623	1.82	1.50	1.28	N-41°-W	624	2.07	1.50	1.28	N-41°-W
625	1.78	1.66	1.14	N-40°-W	626	1.97	1.56	1.28	N-42°-W	627	1.74	1.46	1.10	N-40°-W
628	1.98	1.62	1.30	N-40°-W	629	1.86	1.64	1.04	N-42°-W	630	2.17	1.66	1.46	N-40°-W
631	2.36	1.74	1.34	N-40°-W	632	1.73	1.72	1.06	N-42°-W	633	2.01	1.68	1.16	N-41°-W
634	1.90	1.75	1.10	N-40°-W	635	2.21	1.88	1.34	N-40°-W	636	1.80	1.80	1.34	N-40°-W
637	1.86	1.60	1.12	N-40°-W	638	1.92	1.54	1.22	N-40°-W	639	2.04	1.58	1.22	N-40°-W
640	2.31	1.70	1.24	N-41°-W	641	2.02	1.62	1.30	N-41°-W	642	1.98	1.60	1.20	N-40°-W
643	2.08	1.82	1.18	N-40°-W	644	2.30	1.78	1.24	N-39°-W	645	2.26	1.78	1.24	N-39°-W
646	1.90	1.60	1.22	N-40°-W	647	—	—	1.22	N-40°-W	648	—	—	1.24	N-39°-W
649	—	—	—	—	650	1.25	1.62	0.80	N-41°-W	651	3.77	3.54	1.02	N-41°-W
652	1.58	1.54	1.04	N-42°-W	653	1.90	1.50	1.16	N-42°-W	654	1.83	1.56	1.16	N-42°-W
655	1.43	1.28	1.00	N-42°-W	656	1.60	1.28	1.18	N-41°-W	657	1.92	1.74	1.08	N-40°-W
658	2.16	1.66	1.38	N-42°-W	659	1.83	1.64	1.20	N-40°-W	660	1.90	1.48	1.30	N-43°-W
661	1.42	1.56	1.06	N-33°-W	662	2.06	1.54	1.48	N-41°-W	663	2.45	1.92	1.22	N-43°-W
664	2.05	2.00	0.82	N-40°-W	665	2.16	1.93	1.04	N-39°-W	666	1.99	1.76	1.10	N-40°-W
667	2.06	1.76	1.10	N-40°-W	668	1.89	1.62	1.16	N-40°-W	669	2.04	1.74	1.18	N-40°-W
670	2.17	1.64	1.24	N-40°-W	671	2.23	1.60	1.38	N-40°-W	672	2.04	1.54	1.30	N-41°-W
673	2.14	1.70	1.34	N-41°-W	674	2.02	1.56	1.36	N-40°-W	675	1.84	1.58	1.24	N-40°-W
676	2.21	1.64	1.42	N-39°-W	677	2.30	1.64	1.32	N-40°-W	678	1.90	1.72	1.14	N-40°-W
679	2.01	1.78	1.18	N-39°-W	680	2.25	1.88	1.24	N-38°-W	681	—	—	—	—
682	1.34	1.80	0.78	N-41°-W	683	1.86	1.64	1.10	N-42°-W	684	1.84	1.54	1.12	N-42°-W
685	1.85	1.44	1.18	N-42°-W	686	1.46	1.56	0.94	N-42°-W	687	1.55	1.28	1.28	—
688	2.34	2.04	1.20	N-40°-W	689	2.26	1.68	1.30	N-42°-W	690	1.81	1.52	1.32	N-40°-W
691	1.85	1.56	1.30	N-43°-W	692	1.33	1.34	1.04	N-43°-W	693	1.90	1.36	1.26	N-38°-W
694	1.43	1.32	1.20	N-43°-W	695	1.58	1.48	1.06	N-27°-W	696	2.52	2.06	1.20	N-39°-W
697	2.94	2.64	1.20	N-40°-W	698	3.50	2.98	1.22	N-40°-W	699	1.69	1.44	1.18	N-40°-W
700	1.78	1.50	1.14	N-40°-W	701	2.39	1.74	1.42	N-40°-W	702	2.21	1.70	1.24	N-40°-W
703	2.14	1.64	1.30	N-41°-W	704	2.14	1.72	1.30	N-41°-W	705	2.19	1.64	1.40	N-41°-W
706	1.94	1.58	1.23	N-40°-W	707	2.39	1.66	1.48	N-40°-W	708	1.94	1.54	1.22	N-40°-W
709	1.94	1.58	1.28	N-40°-W	710	—	1.42	—	N-39°-W	711	—	(1.28)	—	—
712	1.10	1.50	0.76	N-41°-W	713	1.77	1.60	1.14	N-41°-W	714	1.72	1.68	1.06	N-42°-W
715	1.98	1.58	1.30	N-42°-W	716	1.59	1.54	1.10	N-42°-W	717	1.53	1.44	1.06	N-42°-W
718	1.58	1.32	1.22	N-41°-W	719	1.46	1.24	1.24	—	720	1.66	1.32	1.26	N-40°-W
721	1.82	1.42	1.22	N-40°-W	722	1.90	1.54	1.28	N-40°-W	723	2.13	1.68	1.28	N-41°-W
724	2.47	1.80	1.32	N-41°-W	725	2.34	1.82	1.32	N-37°-W	726	2.03	1.68	1.27	N-36°-W
727	1.93	1.52	1.33	N-38°-W	728	1.67	1.30	1.30	—	729	1.76	1.32	1.32	—
730	1.57	1.32	1.28	N-39°-W	731	—	(1.24)	—	—	732	7.44	4.74	1.68	N-49°-W
733	4.80	3.04	1.52	N-44°-W	734	4.44	2.72	2.54	N-44°-W	735	3.96	2.56	1.58	N-44°-W
736	3.70	2.70	1.42	N-55°-W	737	4.18	2.90	1.24	N-64°-W	738	4.03	2.96	1.28	N-76°-W
739	4.03	2.96	1.28	N-61°-W	740	4.22	2.84	1.56	N-57°-W	741	4.26	3.34	1.30	N-57°-W
742	4.70	3.20	1.48	N-57°-W	743	3.90	2.80	1.46	N-50°-W	744	4.57	2.98	1.54	N-46°-W

②D5-2・E6-1大畦以西、D5-1大畦位北の大区画(大区画b) D区(D5-1)その1

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
820	—	—	—	—	821	—	(1.00)	—	—	822	—	—	1.10	N-47°-W
823	—	—	0.90	N-47°-W	824	—	—	1.08	N-47°-W	825	—	—	0.98	N-45°-W
826	—	—	—	—	827	—	(0.99)	—	—	828	—	—	0.80	—
829	—	—	1.02	N-45°-W	830	—	—	0.96	N-45°-W	831	—	—	0.96	N-45°-W
832	1.67	1.72	1.00	N-43°-W	833	2.03	1.85	1.22	N-45°-W	834	2.02	1.86	1.15	N-47°-W

第3章 各時代の調査

②D5-2・E6-1大畦以西、D5-1大畦位北の大区画(大区画b) D区(D5-1) その2

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
835	1.60	1.55	1.08	N-47°-W	836	1.95	1.80	1.00	N-47°-W	837	1.10	1.60	0.61	N-45°-W
838	—	—	—	—	839	—	—	—	N-45°-W	840	—	—	1.00	N-45°-W
841	1.52	1.54	0.87	N-42°-W	842	1.26	1.66	0.76	N-46°-W	843	1.19	1.56	0.83	N-45°-W
844	1.41	1.87	0.80	N-45°-W	845	1.58	1.76	0.90	N-45°-W	846	1.69	1.99	1.00	N-45°-W
847	1.48	1.67	0.85	N-45°-W	848	1.74	1.88	1.04	N-41°-W	849	2.22	1.93	1.09	N-45°-W
850	1.82	1.73	1.07	N-47°-W	851	1.80	1.79	1.03	N-48°-W	852	1.68	1.93	0.90	N-48°-W
853	1.29	1.85	0.70	N-45°-W	854	—	—	—	—	855	—	—	0.82	N-40°-W
856	1.90	1.83	1.05	N-40°-W	857	1.95	1.86	1.15	N-45°-W	858	1.86	1.91	1.00	N-45°-W
859	1.57	1.68	0.92	N-42°-W	860	1.38	1.81	0.80	N-46°-W	861	1.47	1.72	0.87	N-45°-W
862	1.15	1.55	0.80	N-45°-W	863	1.46	1.67	0.90	N-45°-W	864	1.34	1.63	0.82	N-45°-W
865	1.30	1.52	0.77	N-45°-W	866	1.28	1.47	0.84	N-45°-W	867	1.73	1.34	1.34	—
868	1.52	1.44	1.09	N-47°-W	869	1.30	1.16	1.04	N-48°-W	870	1.18	1.58	0.80	N-48°-W
871	0.97	1.40	0.72	N-45°-W	872	—	—	—	—	873	1.32※	1.49	0.84	N-40°-W
874	1.79	1.48	1.20	N-40°-W	875	1.54	1.65	1.04	N-45°-W	876	1.50	1.60	1.00	N-45°-W
877	1.69	1.65	0.97	N-42°-W	878	1.11	1.62	1.20	N-46°-W	879	1.44	1.65	0.90	N-45°-W
880	1.22	1.47	0.80	N-45°-W	881	1.39	1.65	0.90	N-45°-W	882	1.29	1.49	0.92	N-45°-W
883	1.35	1.40	1.12	N-45°-W	884	1.23	1.44	0.83	N-50°-W	885	1.87	1.34	1.28	N-45°-W
886	1.25	1.26	1.04	N-47°-W	887	1.60	1.68	1.00	N-48°-W	888	1.42	1.66	0.82	N-48°-W
889	1.05	1.50	0.71	N-45°-W	890	—	—	—	—	891	1.70	1.74	1.01	N-45°-W
892	1.89	1.93	0.99	N-45°-W	893	1.68	1.74	1.00	N-41°-W	894	1.62	1.86	0.95	N-46°-W
895	1.23	1.67	0.78	N-45°-W	896	1.31	1.71	0.81	N-45°-W	897	1.45	1.57	0.89	N-45°-W
898	1.32	1.55	0.93	N-45°-W	899	1.57	1.56	0.90	N-45°-W	900	1.21	1.50	0.86	N-45°-W
901	2.14	1.80	1.20	N-47°-W	902	1.71	1.50	1.30	N-51°-W	903	1.31	1.30	1.00	N-51°-W
904	1.97	1.46	0.87	N-47°-W	905	—	—	—	—	906	—	—	—	—
907	1.82	1.98	1.00	N-42°-W	908	1.70	2.00	0.76	N-46°-W	909	1.66	2.10	0.82	N-45°-W
910	1.53	1.86	0.84	N-45°-W	911	1.75	2.13	0.94	N-45°-W	912	1.52	1.98	0.76	N-45°-W
913	1.83	1.94	1.00	N-45°-W	914	1.61	1.82	0.78	N-45°-W	915	1.62	1.84	0.90	N-47°-W
916	1.15	1.68	0.80	N-49°-W	917	1.52	1.72	0.94	N-51°-W	918	1.52	1.68	1.00	N-49°-W
919	2.30	1.54	1.44	N-49°-W	920	—	—	—	—	921	1.32※	1.60	0.86	N-47°-W
922	1.22	1.60	0.96	N-45°-W	923	1.19	1.60	0.82	N-35°-W	924	1.39	1.70	0.86	N-45°-W
925	1.26	1.57	0.80	N-46°-W	926	1.62	1.53	0.95	N-45°-W	927	1.26	1.38	0.98	N-45°-W
928	1.54	1.62	0.90	N-47°-W	929	1.02	1.66	0.74	N-49°-W	930	1.37	1.56	0.94	N-51°-W
931	1.47	1.60	0.96	N-49°-W	932	2.41	1.65	—	N-49°-W	933	—	—	—	—
934	1.65	1.75	1.04	N-50°-W	935	1.48	1.54	0.90	N-45°-W	936	1.39	1.60	0.84	N-46°-W
937	1.73	1.68	1.04	N-47°-W	938	1.42	1.57	0.94	N-48°-W	939	1.38	1.44	0.98	N-47°-W
940	1.26	1.55	0.79	N-49°-W	941	1.26	1.52	0.95	N-51°-W	942	1.82	1.83	0.98	N-49°-W
943	2.17	1.62	1.40	N-49°-W	944	—	—	—	—	945	1.23	※1.48	0.80	N-45°-W
946	1.30	1.36	0.86	N-46°-W	947	1.34	1.38	1.10	N-47°-W	948	1.17	1.54	0.75	N-50°-W
949	1.15	1.25	1.01	N-45°-W	950	0.94	1.29	0.80	N-49°-W	951	1.02	1.30	0.90	N-52°-W
952	1.11	1.28	0.72	N-50°-W	953	1.60	1.55	1.40	N-43°-W	954	—	—	0.94	N-49°-W
955	1.38	1.38	1.00	N-48°-W	956	1.14	1.48	0.89	N-48°-W	957	1.21	1.32	0.99	N-49°-W
958	1.34	1.70	0.80	N-50°-W	959	—	—	0.70	N-50°-W	960	1.55	1.47	1.10	N-40°-W
961	1.29	1.72	0.67	N-43°-W	962	—	—	—	—	963	1.70※	1.58	1.07	N-48°-W
964	1.46	1.54	0.90	N-49°-W	965	1.26	1.57	0.82	N-47°-W	966	1.54	1.64	0.89	N-50°-W
967	2.39	1.58	1.50	N-45°-W	968	—	—	—	—	969	1.32※	1.39	0.93	N-49°-W
970	1.34	1.58	0.85	N-47°-W	971	1.14	1.56	0.95	N-50°-W	972	1.81	1.38	1.38	N-45°-W
973	—	—	1.00	N-47°-W	974	1.65	1.94	1.00	N-50°-W	975	2.25	1.80	1.39	N-38°-W
976	—	—	—	—	977	—	—	0.96	N-46°-W					

③D5-2・E6-1大畦以西、D5-1大畦位北の大区画(大区画b) E区(E6-1) その1

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
23	—	—	1.02	N-39°-W	24	—	—	1.10	N-39°-W	25	—	—	1.02	N-39°-W
31	—	—	—	—	32	—	—	1.16	N-41°-W	33	—	—	1.04	N-39°-W
34	—	—	1.15	N-40°-W	35	1.66	2.12	0.88	N-39°-W	36	2.12	2.00	1.00	N-37°-W
37	1.80	1.98	0.95	N-39°-W	38	1.81	1.80	1.02	N-39°-W	39	1.70※	1.78	0.96	N-39°-W
40	—	—	—	—	41	—	—	1.24	—	42	—	—	—	—
43	—	1.94	—	N-35°-W	44	—	—	1.30	N-39°-W	45	—	—	1.00	N-44°-W
46	—	—	1.20	N-44°-W	47	—	—	1.20	N-42°-W	48	1.70	1.78	0.99	N-40°-W
49	1.78	1.80	0.95	N-39°-W	50	2.12	1.78	1.18	N-41°-W	51	1.54	1.74	0.87	N-39°-W
52	1.74	1.70	1.16	N-37°-W	53	1.93	1.78	1.07	N-39°-W	54	1.86	1.94	0.97	N-37°-W

第5節 古墳時代の遺構と遺物

③D5-2・E6-1大畦以西、D5-1大畦位北の大区画(大区画b)E区(E6-1)その2

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
55	2.00	1.72	1.30	N-39°-W	56	1.88	1.94	0.94	N-39°-W	57	2.22	1.90	1.27	N-39°-W
58	1.98	1.92	1.10	N-38°-W	59	2.19	1.80	1.20	N-39°-W	60	2.08	1.82	1.20	N-39°-W
61	1.85※	1.90	0.97	N-40°-W	62	—	—	—	—	63	—	—	—	—
64	2.01	1.67	1.22	N-38°-W	65	1.95	1.72	1.02	N-39°-W	66	1.59	1.70	0.98	N-39°-W
67	2.06	1.67	1.30	N-47°-W	68	1.56	1.43	1.02	N-38°-W	69	1.66	1.54	1.08	N-37°-W
70	1.42	1.50	0.86	N-39°-W	71	1.82	1.60	1.00	N-41°-W	72	2.05	1.81	1.15	N-39°-W
73	1.35	1.44	0.90	N-40°-W	74	1.71	1.55	1.20	N-35°-W	75	1.43	1.56	0.93	N-37°-W
76	1.80	1.70	1.08	N-39°-W	77	2.44	2.06	1.27	N-39°-W	78	2.19	1.97	1.18	N-39°-W
79	1.72	1.66	1.05	N-38°-W	80	2.12	1.65	1.28	N-37°-W	81	1.70	1.62	1.02	N-39°-W
82	2.22	1.80	1.24	N-40°-W	83	1.92	1.86	1.03	N-40°-W	84	1.27	—	1.20	N-84°-W
85	—	—	—	—	86	2.29※	1.70	1.35	N-40°-W	87	1.87	1.70	1.15	N-38°-W
88	2.18	1.75	1.26	N-39°-W	89	1.52	1.50	1.02	N-39°-W	90	2.07	1.70	1.26	N-39°-W
91	2.18	1.90	1.20	N-38°-W	92	1.83	1.75	0.94	N-39°-W	93	1.74	1.50	1.06	N-37°-W
94	1.68	1.40	1.12	N-41°-W	95	1.63	1.52	1.05	N-39°-W	96	1.70	1.56	1.10	N-40°-W
97	1.48	1.55	1.03	N-39°-W	98	1.50	1.60	0.90	N-37°-W	99	1.53	1.52	1.10	N-39°-W
100	1.91	1.60	1.27	N-39°-W	101	1.61	1.40	1.08	N-39°-W	102	1.94	1.84	1.02	N-38°-W
103	2.21	1.73	1.27	N-40°-W	104	1.82	1.75	1.10	N-39°-W	105	1.91	1.78	1.19	N-40°-W
106	1.36	1.36	0.98	N-40°-W	107	2.03	1.70	1.28	N-40°-W	108	2.02※	1.98	1.07	N-40°-W
109	—	—	0.85	N-39°-W	110	—	—	—	—	111	1.85	1.72	1.08	N-40°-W
112	1.90	1.75	1.07	N-40°-W	113	2.26	1.75	1.40	N-46°-W	114	2.01	1.66	1.24	N-39°-W
115	1.43	1.74	0.80	N-39°-W	116	2.08	1.60	1.26	N-39°-W	117	1.61	1.40	1.14	N-38°-W
118	1.64	1.64	1.00	N-39°-W	119	1.78	1.92	0.94	N-39°-W	120	1.66	1.64	1.00	N-38°-W
121	1.86	1.70	1.40	N-39°-W	122	1.85	1.54	1.16	N-40°-W	123	1.46	1.48	0.92	N-39°-W
124	1.49	1.15	0.94	N-37°-W	125	4.08	3.76	1.10	N-42°-W	126	2.05	1.58	1.22	N-39°-W
127	1.71	1.60	1.08	N-39°-W	128	1.39	1.60	1.08	N-39°-W	129	2.22	1.73	1.22	N-40°-W
130	2.26	1.98	1.24	N-39°-W	131	1.92	1.70	1.14	N-40°-W	132	1.54	1.65	0.94	N-40°-W
133	1.75	1.62	1.10	N-40°-W	134	1.59	1.58	1.12	N-40°-W	135	1.33	1.42	1.00	N-39°-W
136	—	—	1.20	N-42°-W	137	—	—	—	—	138	—	—	—	—
139	2.01※	1.92	1.05	N-39°-W	140	2.09	1.69	1.20	N-40°-W	141	2.14	1.80	1.28	N-40°-W
142	1.62	1.80	1.28	N-40°-W	143	2.38	1.72	1.44	N-39°-W	144	1.74	1.70	1.02	N-39°-W
145	1.82	1.68	1.13	N-39°-W	146	1.90	1.78	1.12	N-38°-W	147	1.62	1.67	0.90	N-39°-W
148	1.57	1.52	1.04	N-39°-W	149	1.66	1.63	1.10	N-38°-W	150	2.16	1.68	1.27	N-38°-W
151	1.99	1.80	1.18	N-38°-W	152	1.78	1.78	0.98	N-37°-W	153	1.50	1.54	0.97	N-43°-W
154	1.63	1.45	1.08	N-39°-W	155	1.63	1.37	1.24	N-38°-W	156	1.46	1.47	1.04	N-38°-W
157	1.88	1.42	1.40	N-28°-W	158	1.71	1.50	1.28	N-39°-W	159	1.53	1.24	1.20	N-40°-W
160	1.48	1.58	1.06	N-40°-W	161	1.67	1.42	1.20	N-40°-W	162	1.42	1.45	1.00	N-40°-W
163	1.50	1.55	1.00	N-39°-W	164	1.55	1.59	1.10	N-42°-W	165	1.10	1.42	0.85	N-43°-W
166	—	—	1.16	N-44°-W	167	2.02※	1.42	1.38	N-36°-W	168	1.76	1.53	1.12	N-39°-W
169	1.59	1.60	1.00	N-40°-W	170	1.94	1.72	1.12	N-40°-W	171	2.02	1.92	1.10	N-39°-W
172	2.38	1.90	1.30	N-39°-W	173	1.80	1.84	1.06	N-39°-W	174	2.16	1.90	1.18	N-39°-W
175	1.63	1.58	0.97	N-38°-W	176	2.10	1.93	1.10	N-39°-W	177	1.98	1.70	1.16	N-39°-W
178	2.15	1.92	1.23	N-38°-W	179	—	—	1.10	N-38°-W	180	1.75	1.74	0.96	N-39°-W
181	1.82	1.70	1.18	N-37°-W	182	1.78	1.75	1.11	N-36°-W	183	1.83	1.68	1.10	N-37°-W
184	1.69	1.62	1.02	N-40°-W	185	1.94	1.89	1.06	N-38°-W	186	1.98	1.90	1.12	N-38°-W
187	2.15	1.60	1.30	N-40°-W	188	2.03	1.88	1.07	N-39°-W	189	1.95	1.75	1.20	N-40°-W
190	1.58	1.70	1.06	N-40°-W	191	1.89	1.64	1.18	N-40°-W	192	1.64	1.43	1.03	N-40°-W
193	1.45	1.43	1.03	N-39°-W	194	1.50	1.35	1.12	N-42°-W	195	1.08	1.53	0.73	N-43°-W
196	1.82	1.65	1.24	N-44°-W	197	—	—	0.88	N-44°-W	198	—	—	—	—
199	—	—	1.20	N-36°-W	200	2.59	2.15	1.17	N-35°-W	201	2.09	1.87	1.12	N-39°-W
202	1.61	1.66	1.00	N-40°-W	203	1.89	1.85	1.05	N-40°-W	204	2.04	1.89	1.10	N-39°-W
205	2.47	1.98	1.20	N-39°-W	206	1.64	2.00	0.82	N-39°-W	207	2.18	1.90	1.22	N-39°-W
208	1.93	1.82	1.04	N-38°-W	209	1.93	1.80	1.14	N-39°-W	210	1.92	1.68	1.10	N-39°-W
211	—	—	1.02	N-32°-W	212	—	—	1.12	N-38°-W	213	2.03	1.82	1.23	N-39°-W
214	1.65	1.79	0.97	N-37°-W	215	1.74	1.75	1.00	N-39°-W	216	1.95	1.84	1.00	N-40°-W
217	2.09	1.72	1.22	N-36°-W	218	1.78	1.53	1.10	N-38°-W	219	1.74	1.57	1.02	N-38°-W
220	2.26	1.65	1.44	N-40°-W	221	1.70	1.63	1.06	N-39°-W	222	2.22	1.66	1.42	N-40°-W
223	1.56	1.55	1.04	N-40°-W	224	1.94	1.62	1.26	N-40°-W	225	1.57	1.66	1.00	N-40°-W
226	1.64	1.60	1.04	N-39°-W	227	1.81	1.40	1.26	N-42°-W	228	1.37	1.57	0.83	N-43°-W
229	1.88	1.66	1.13	N-44°-W	230	1.34	1.62	0.80	N-44°-W	231	1.73	1.70	1.09	N-43°-W

第3章 各時代の調査

③D5-2・E6-1大畦以西、D5-1大畦位北の大区画(大区画b)E区(E6-1)その3

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
232	—	—	—	—	233	—	1.78	—	N-39°-W	234	1.98	1.57	1.20	N-40°-W
235	2.22	1.76	1.30	N-41°-W	236	2.20	1.80	1.25	N-42°-W	237	1.86	2.08	0.92	N-40°-W
238	1.94	1.70	1.15	N-40°-W	239	1.76	1.65	1.10	N-39°-W	240	2.06	1.54	1.33	N-39°-W
241	1.34	1.45	0.91	N-39°-W	242	1.84	1.68	1.22	N-39°-W	243	1.81	1.76	1.10	N-39°-W
244	2.03	1.92	1.05	N-39°-W	245	1.89	1.98	0.97	N-39°-W	246	1.89	1.55	1.20	N-38°-W
247	2.14	1.97	1.14	N-38°-W	248	1.88	1.58	1.14	N-39°-W	249	1.95	1.72	1.10	N-38°-W
250	2.17	1.84	1.12	N-39°-W	251	1.79	1.84	1.02	N-35°-W	252	2.22	2.06	1.04	N-38°-W
253	2.16	1.83	1.18	N-41°-W	254	4.25	4.40	1.00	N-40°-W	255	2.74	1.83	1.50	N-40°-W
256	1.89	1.85	1.00	N-39°-W	257	2.47	1.90	1.42	N-40°-W	258	1.85	1.74	1.13	N-40°-W
259	2.24	1.82	1.20	N-40°-W	260	1.70	1.64	1.07	N-40°-W	261	1.76	1.75	1.00	N-39°-W
262	2.09	1.79	1.10	N-42°-W	263	1.32	1.75	0.70	N-43°-W	264	1.93	1.66	1.17	N-44°-W
265	1.11	1.59	0.83	N-44°-W	266	1.66	1.42	1.23	N-43°-W	267	1.18	1.28	0.88	N-47°-W
268	1.11	1.44	1.10	N-44°-W	269	—	—	—	—	270	2.36※	1.90	1.20	N-39°-W
271	2.39	1.92	1.26	N-40°-W	272	2.55	1.78	1.38	N-40°-W	273	2.06	1.94	0.93	N-39°-W
274	1.96	1.95	0.92	N-39°-W	275	1.79	1.78	1.00	N-38°-W	276	1.73	1.66	1.03	N-39°-W
277	2.16	1.74	1.24	N-39°-W	278	1.53	1.56	1.10	N-39°-W	279	1.85	1.64	1.13	N-39°-W
280	1.94	1.73	1.05	N-38°-W	281	1.70	1.50	1.06	N-39°-W	282	1.79	1.75	1.02	N-39°-W
283	1.65	1.65	0.90	N-38°-W	284	1.79	1.60	1.10	N-38°-W	285	2.08	1.82	1.08	N-36°-W
286	1.63	1.50	1.00	N-39°-W	287	1.86	1.70	1.20	N-38°-W	288	2.14	1.82	1.13	N-39°-W
289	1.84	1.84	1.02	N-40°-W	290	1.84	1.78	1.10	N-39°-W	291	2.68	1.93	1.45	N-35°-W
292	2.15	1.94	1.20	N-39°-W	293	2.64	1.86	1.30	N-40°-W	294	1.70	1.75	0.88	N-40°-W
295	1.87	1.76	1.14	N-40°-W	296	1.72	1.80	1.02	N-40°-W	297	1.76	1.80	1.05	N-39°-W
298	2.46	1.82	1.40	N-42°-W	299	1.15	1.54	0.88	N-43°-W	300	1.75	1.70	1.07	N-44°-W
301	1.34	1.74	0.76	N-44°-W	302	1.69	1.54	1.00	N-43°-W	303	1.77	1.66	1.09	N-47°-W
304	1.40	1.58	1.04	N-44°-W	305	—	—	0.85	N-40°-W	306	—	—	—	—
307	2.16※	1.85	1.18	N-45°-W	308	2.14	1.70	1.24	N-43°-W	309	2.63	2.20	1.40	N-40°-W
310	2.28	1.78	1.30	N-40°-W	311	1.62	1.73	0.96	N-38°-W	312	1.48	1.60	0.84	N-39°-W
313	1.90	1.80	1.03	N-39°-W	314	2.04	1.83	1.10	N-38°-W	315	2.16	1.90	1.12	N-38°-W
316	1.93	1.85	1.17	N-39°-W	317	2.03	1.90	1.05	N-39°-W	318	2.14	1.84	1.28	N-38°-W
319	1.74	1.70	1.00	N-39°-W	320	1.89	1.85	1.02	N-39°-W	321	1.79	1.72	1.04	N-40°-W
322	2.03	1.84	1.10	N-38°-W	323	1.65	1.66	0.92	N-37°-W	324	1.97	1.90	1.05	N-39°-W
325	2.11	1.92	1.03	N-38°-W	326	2.02	1.94	1.07	N-44°-W	327	2.13	1.83	1.12	N-38°-W
328	2.05	1.97	1.12	N-38°-W	329	1.50	1.59	0.95	N-38°-W	330	2.14	1.88	1.62	N-40°-W
331	1.96	1.75	1.20	N-38°-W	332	2.09	1.60	1.45	N-43°-W	333	1.64	1.58	1.00	N-40°-W
334	1.74	1.57	1.15	N-40°-W	335	1.33	1.60	0.93	N-40°-W	336	1.48	1.40	1.07	N-39°-W
337	2.14	1.72	1.42	N-42°-W	338	0.97	1.37	0.68	N-34°-W	339	1.65	1.48	0.93	N-44°-W
340	0.97	1.36	0.75	N-44°-W	341	1.63	1.43	1.15	N-43°-W	342	1.41	1.50	0.90	N-44°-W
343	1.89	1.60	1.12	N-47°-W	344	1.37	1.50	0.93	N-42°-W	345	1.19	1.40	1.02	N-42°-W
346	—	—	—	—	347	2.38	1.80	1.37	N-43°-W	348	2.08	1.80	1.22	N-40°-W
349	2.13	1.75	1.30	N-39°-W	350	2.14	1.62	1.32	N-40°-W	351	2.45	1.90	1.30	N-40°-W
352	1.82	1.80	0.93	N-39°-W	353	2.16	2.06	0.94	N-39°-W	354	1.97	1.85	1.04	N-39°-W
355	1.88	1.60	1.10	N-39°-W	356	1.96	1.76	1.06	N-39°-W	357	2.01	1.84	1.07	N-40°-W
358	1.94	1.84	1.00	N-39°-W	359	1.82	2.04	0.90	N-38°-W	360	2.22	1.70	1.28	N-39°-W
361	1.66	1.45	1.10	N-39°-W	362	1.80	1.97	0.92	N-37°-W	363	1.88	1.85	1.04	N-38°-W
364	1.74	1.83	0.97	N-38°-W	365	1.68	1.78	0.95	N-41°-W	366	1.81	1.60	1.03	N-38°-W
367	1.75	1.76	0.93	N-40°-W	368	1.67	1.50	1.15	N-40°-W	369	1.34	1.52	0.94	N-40°-W
370	1.94	1.84	1.05	N-40°-W	371	2.00	1.52	1.30	N-40°-W	372	2.43	1.77	1.35	N-39°-W
373	2.37	1.76	1.30	N-39°-W	374	1.70	1.62	1.06	N-43°-W	375	2.07	1.91	1.25	N-40°-W
376	1.53	1.72	0.90	N-40°-W	377	1.57	1.52	1.00	N-39°-W	378	2.58	1.66	1.61	N-46°-W
379	1.32	1.60	0.88	N-43°-W	380	1.45	1.33	1.08	N-44°-W	381	1.18	1.68	0.72	N-44°-W
382	2.14	2.00	1.04	N-45°-W	383	1.87	1.77	1.15	N-47°-W	384	1.72	1.55	1.10	N-47°-W
385	1.64	1.74	1.00	N-47°-W	386	1.62	1.65	1.10	N-46°-W	387	2.03	2.55	0.78	N-47°-W
388	—	—	—	—	389	—	—	—	—	390	2.34	1.60	1.45	N-37°-W
391	2.13	1.84	1.12	N-40°-W	392	1.86	1.66	1.10	N-39°-W	393	2.03	1.72	1.15	N-40°-W
394	1.96	1.58	1.17	N-40°-W	395	1.76	1.82	0.97	N-39°-W	396	1.66	1.82	0.88	N-39°-W
397	2.14	1.72	1.32	N-39°-W	398	1.86	1.85	0.92	N-39°-W	399	2.28	1.95	1.12	N-39°-W
400	1.90	1.78	0.97	N-39°-W	401	2.10	2.00	1.15	N-35°-W	402	1.66	1.84	0.90	N-30°-W
403	2.23	1.94	1.12	N-41°-W	404	1.84	1.73	1.08	N-38°-W	405	1.90	1.98	1.04	N-36°-W
406	2.05	1.80	1.20	N-38°-W	407	1.90	1.75	1.18	N-40°-W	408	1.88	1.78	1.14	N-38°-W

第5節 古墳時代の遺構と遺物

③D5-2・E6-1大畦以西、D5-1大畦位北の大区画(大区画b)E区(E6-1)その4

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
409	2.18	2.08	1.19	N-38°-W	410	2.24	1.88	1.18	N-41°-W	411	2.29	2.04	1.14	N-40°-W
412	1.84	1.80	1.06	N-41°-W	413	1.80	1.77	1.10	N-40°-W	414	2.26	1.70	1.18	N-41°-W
415	2.00	1.54	1.28	N-38°-W	416	2.19	1.68	1.34	N-40°-W	417	1.50	1.72	1.10	N-43°-W
418	1.78	1.65	1.18	N-40°-W	419	1.30	1.33	1.00	N-42°-W	420	1.21	1.45	0.82	N-39°-W
421	1.30	1.58	0.90	N-44°-W	422	0.76	1.32	0.54	N-43°-W	423	1.67	1.64	1.08	N-43°-W
424	1.70	1.62	1.12	N-43°-W	425	1.14	1.64	0.84	N-45°-W	426	1.50	1.39	1.14	N-45°-W
427	1.58	1.68	1.05	N-45°-W	428	1.45	1.50	1.04	N-47°-W	429	2.66	2.52	1.12	N-47°-W
430	1.80	1.58	1.23	N-50°-W	431	1.69※	1.56	1.28	N-39°-W	432	2.66	1.88	1.47	N-37°-W
433	1.84	1.67	1.14	N-40°-W	434	2.26	1.94	1.20	N-39°-W	435	2.58	1.97	1.36	N-40°-W
436	2.94	2.08	1.46	N-40°-W	437	1.86	1.78	1.06	N-39°-W	438	1.78	1.80	1.08	N-39°-W
439	2.00	1.80	1.18	N-39°-W	440	2.02	1.80	1.14	N-39°-W	441	2.13	1.78	1.32	N-39°-W
442	1.82	1.82	1.00	N-39°-W	443	1.85	1.87	1.02	N-39°-W	444	1.70	1.58	1.08	N-38°-W
445	1.89	1.60	1.16	N-39°-W	446	1.80	1.73	1.06	N-38°-W	447	1.83	1.68	1.12	N-34°-W
448	1.62	1.60	0.98	N-37°-W	449	1.87	1.82	1.10	N-40°-W	450	2.20	1.88	1.28	N-38°-W
451	2.01	1.84	1.12	N-37°-W	452	2.34	1.63	1.38	N-41°-W	453	1.50	1.62	0.98	N-40°-W
454	1.59	1.42	1.14	N-41°-W	455	1.77	1.76	1.03	N-40°-W	456	1.94	1.62	1.17	N-40°-W
457	1.93	1.58	1.22	N-38°-W	458	1.90	1.48	1.30	N-40°-W	459	1.52	1.55	1.06	N-38°-W
460	1.90	1.68	1.07	N-40°-W	461	1.82	2.00	0.90	N-38°-W	462	1.42	1.66	0.88	N-39°-W
463	1.06	1.20	0.80	N-40°-W	464	0.95	1.44	0.64	N-43°-W	465	1.39	1.66	0.98	N-43°-W
466	1.70	1.73	1.12	N-43°-W	467	1.04	1.40	0.62	N-45°-W	468	1.76	1.72	1.14	N-45°-W
469	1.56	1.42	1.22	N-45°-W	470	1.60	1.76	0.88	N-47°-W	471	—	—	1.10	N-39°-W
472	2.41	1.78	1.46	N-40°-W	473	—	—	1.10	N-40°-W	474	1.94	1.82	1.10	N-39°-W
475	2.38	1.77	1.40	N-40°-W	476	2.55	1.92	1.36	N-40°-W	477	2.03	1.92	1.22	N-39°-W
478	2.30	1.90	1.08	N-39°-W	479	2.24	2.00	1.16	N-39°-W	480	2.22	2.06	1.12	N-39°-W
481	2.26	2.06	1.12	N-39°-W	482	2.38	1.94	1.18	N-39°-W	483	2.20	1.98	1.18	N-39°-W
484	2.04	2.00	1.04	N-38°-W	485	2.29	1.86	1.22	N-39°-W	486	1.63	1.74	0.92	N-38°-W
487	2.12	1.82	1.12	N-41°-W	488	1.85	1.76	1.12	N-39°-W	489	2.06	1.94	1.12	N-40°-W
490	2.11	1.74	1.22	N-40°-W	491	1.90	1.86	0.98	N-37°-W	492	2.31	1.66	1.38	N-41°-W
493	1.67	1.52	1.16	N-40°-W	494	2.06	1.84	1.15	N-41°-W	495	1.77	1.62	1.14	N-40°-W
496	2.03	1.66	1.26	N-40°-W	497	1.85	1.60	1.20	N-40°-W	498	2.22	1.75	1.42	N-40°-W
499	1.57	1.40	0.92	N-40°-W	500	1.75	1.74	1.04	N-39°-W	501	1.30	1.20	0.94	N-38°-W
502	0.90	1.05	0.75	N-39°-W	503	1.12	1.40	0.88	N-33°-W	504	1.26	1.55	0.86	N-38°-W
505	1.17	1.45	0.85	N-52°-W	506	1.70	1.57	1.10	N-43°-W	507	1.27	1.59	0.82	N-45°-W
508	2.56	2.44	1.03	N-45°-W	509	1.80	1.50	1.34	N-45°-W	510	1.86※	1.78	1.06	N-39°-W
511	2.61	1.78	1.44	N-40°-W	512	2.59	2.06	1.30	N-40°-W	513	1.93	2.02	1.04	N-39°-W
514	2.15	2.10	1.02	N-39°-W	515	1.99	2.10	1.02	N-39°-W	516	1.87	1.76	1.16	N-39°-W
517	2.08	1.90	1.15	N-39°-W	518	2.47	1.74	1.36	N-39°-W	519	1.90	1.85	1.07	N-39°-W
520	1.58	1.74	0.98	N-38°-W	521	2.13	1.72	0.94	N-38°-W	522	1.65	1.72	0.94	N-38°-W
523	1.61	1.52	1.00	N-39°-W	524	1.98	1.74	1.26	N-39°-W	525	1.66	1.62	1.04	N-40°-W
526	1.66	1.45	1.08	N-40°-W	527	1.98	1.50	1.24	N-39°-W	528	2.59	1.70	1.56	N-41°-W
529	1.82	1.82	1.05	N-40°-W	530	1.67	1.52	1.15	N-41°-W	531	1.61	1.62	1.04	N-40°-W
532	1.72	1.44	1.38	N-40°-W	533	1.86	1.40	1.30	N-52°-W	534	1.91	1.44	1.38	N-47°-W
535	1.67	1.52	1.08	N-41°-W	536	1.64	1.58	1.00	N-39°-W	537	1.31	1.52	1.00	N-38°-W
538	1.10	1.36	0.80	N-39°-W	539	1.10	1.33	0.75	N-38°-W	540	0.93	1.08	0.98	N-37°-W
541	1.84	2.15	0.93	N-53°-W	542	1.91	1.70	1.12	N-52°-W	543	1.26	1.30	1.15	N-58°-W
544	—	—	—	—	545	2.16※	1.85	1.26	N-40°-W	546	1.93	1.73	1.12	N-40°-W
547	1.74	1.92	0.95	N-34°-W	548	2.02	1.82	1.10	N-39°-W	549	2.05	2.02	1.06	N-39°-W
550	2.06	1.98	0.98	N-39°-W	551	1.97	1.84	1.08	N-39°-W	552	1.97	1.84	1.10	N-39°-W
553	1.61	1.68	0.90	N-39°-W	554	1.47	1.58	0.92	N-38°-W	555	2.09	1.80	1.27	N-39°-W
556	1.91	2.04	0.95	N-38°-W	557	2.16	2.02	1.17	N-39°-W	558	1.66	1.58	1.06	N-39°-W
559	1.86	1.62	1.12	N-39°-W	560	1.83	1.86	1.02	N-40°-W	561	2.15	1.90	1.22	N-39°-W
562	2.34	1.67	1.45	N-40°-W	563	1.56	1.60	1.12	N-44°-W	564	1.66	1.50	1.22	N-41°-W
565	1.78	1.50	1.18	N-44°-W	566	1.80	1.64	1.23	N-43°-W	567	1.98	1.56	1.44	N-41°-W
568	1.98	1.42	1.34	N-35°-W	569	1.50	1.42	1.34	N-41°-W	570	3.25	2.38	0.90	N-42°-W
571	2.22	2.38	0.90	N-42°-W	572	1.31	1.98	0.80	N-37°-W	573	1.26	1.67	0.62	N-36°-W
574	1.40	1.48	0.92	N-36°-W	575	—	—	1.15	N-40°-W	576※	1.50	1.64	1.04	N-39°-W
577	1.76	2.07	0.96	N-39°-W	578	1.94	1.78	1.04	N-43°-W	579	2.03	2.02	1.00	N-39°-W
580	1.99	1.85	1.12	N-39°-W	581	2.02	1.72	1.10	N-40°-W	582	1.58	1.74	0.84	N-39°-W
583	2.00	2.00	1.05	N-38°-W	584	1.63	1.52	1.06	N-39°-W	585	1.71	1.67	1.00	N-39°-W

第3章 各時代の調査

③D5-2・E6-1大畦以西、D5-1大畦位北の大区画(大区画b)E区(E6-)その5

番号	面積 ^m	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^m	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^m	長径 ^m	短径 ^m	長径方位
586	1.86	1.80	1.17	N-39°-W	587	1.69	1.82	1.06	N-39°-W	588	2.06	1.86	1.17	N-39°-W
589	4.78	4.16	1.34	N-38°-W	590	3.46	3.62	0.90	N-38°-W	591	3.80	2.73	1.32	N-41°-W
592	2.94	2.32	1.30	N-44°-W	593	2.79	2.32	1.30	N-44°-W	594	2.12	2.18	0.96	N-44°-W
595	2.29	2.00	1.18	N-43°-W	596	2.47	1.90	1.33	N-45°-W	597	2.61	1.54	1.66	N-43°-E
598	1.45	1.46	1.07	N-56°-W	599	—	—	—	—	600	—	—	1.00	N-39°-W
601	1.93	1.70	1.08	N-39°-W	602	1.82	1.78	1.12	N-39°-W	603	1.97	1.78	1.08	N-39°-W
604	1.83	1.67	1.08	N-40°-W	605	1.85	1.98	0.90	N-39°-W	606	1.63	1.60	1.16	N-41°-W
607	1.76	1.72	1.05	N-39°-W	608	1.46	1.75	0.94	N-32°-W	609	1.55	1.64	1.04	N-38°-W
610	1.71	1.46	1.14	N-39°-W	611	3.12	3.08	0.97	N-39°-W	612	—	—	—	—
613	—	—	1.47	N-39°-W	614	2.19	1.94	1.16	N-42°-W	615	2.27	1.80	1.34	N-40°-W
616	1.70	1.86	0.98	N-39°-W	617	1.77	1.77	1.00	N-41°-W	618	1.67	1.66	1.14	N-44°-W
619	1.69	1.86	0.97	N-39°-W	620	2.72	2.50	1.16	N-38°-W	621	2.32	1.80	1.34	N-39°-W
622	—	—	—	—	623	1.96	1.66	1.22	N-39°-W	624	2.86	3.37	0.83	N-39°-W
625	3.00	2.40	1.16	N-41°-W	626	1.82	2.14	0.90	N-44°-W	627	1.86	1.50	1.45	N-59°-W
628	—	—	—	—	629	—	—	—	—	630	11.40	8.27	1.34	N-20°-W
631	3.74	2.96	1.30	N-18°-W	632	21.63	14.72	1.50	N-36°-W	633	3.72	2.32	1.46	N-36°-W
634	3.19	2.27	1.58	N-34°-W	635	4.59	3.02	1.38	N-37°-W	636	5.46	3.64	1.66	N-18°-W
637	4.64	3.32	1.30	N-0°	638	4.56	3.58	1.12	N-0°	639	3.90	3.16	1.26	N-7°-W
640	—	—	1.26	N-10°-W	641	—	—	—	—	642	—	—	—	—
643	—	—	1.06	—	644	—	—	1.28	—	645	—	—	1.17	N-42°-W
646	—	—	1.20	N-42°-W	647	—	—	—	—	648	1.54	1.36	1.10	N-43°-W
649	—	—	1.20	N-44°-W	650	—	—	1.23	—	651	2.11	1.76	1.28	N-42°-W
652	2.21	1.74	1.28	N-42°-W	653	2.18	1.82	1.30	N-42°-W	654	2.02	1.60	1.16	N-42°-W
655	—	—	1.34	N-42°-W	656	—	—	0.82	N-40°-W	657	1.54	1.46	1.10	N-42°-W
658	1.85	1.70	0.98	N-44°-W	659	2.21	1.95	1.25	N-40°-W	660	2.16	1.88	1.10	N-42°-W
661	2.45	1.96	1.22	N-41°-W	662	2.30	2.00	1.30	N-42°-W	663	—	—	—	—
664	—	—	1.15	N-41°-W	665	4.55	3.70	1.20	N-42°-W	666	1.76	1.84	0.97	N-40°-W
667	2.22	1.83	1.28	N-42°-W	668	2.13	1.90	1.08	N-44°-W	669	1.98	1.70	1.14	N-40°-W
670	2.20	2.02	1.10	N-40°-W	671	2.33	1.84	1.20	N-41°-W	672	1.57	1.85	0.95	N-42°-W
673	—	—	—	—	674	3.35	—	1.12	N-43°-W	675	1.72	1.68	1.12	N-41°-W
676	1.80	1.65	1.10	N-40°-W	677	1.76	1.63	1.10	N-40°-W	678	1.73	1.51	1.23	N-42°-W
679	1.82	1.74	1.12	N-44°-W	680	2.10	1.66	1.20	N-39°-W	681	1.86	1.48	1.24	N-40°-W
682	2.13	2.08	1.12	N-41°-W	683	—	—	—	—	684	—	—	1.04	N-43°-W
685	1.84	1.65	1.18	N-41°-W	686	1.77	1.50	1.23	N-40°-W	687	1.49	1.40	1.13	N-48°-W
688	1.45	1.40	1.18	N-42°-W	689	1.53	1.45	1.15	N-40°-W	690	1.94	1.70	1.36	N-39°-W
691	1.97	1.50	1.43	N-44°-W	692	—	—	—	—	693	—	—	—	—
694	1.94	1.78	1.05	N-40°-W	695	2.30	1.93	1.32	N-45°-W	696	2.24	1.96	1.10	N-40°-W
697	2.02	1.82	1.10	N-40°-W	698	1.39	1.44	0.98	N-43°-W	699	—	—	—	—
700	—	—	0.94	N-45°-W	701	1.75	1.65	1.16	N-42°-W	702	2.07	1.65	1.30	N-40°-W
703	—	—	—	—	704	—	—	—	—	—	—	—	—	—

④D5-2・E6-1大畦以西の大区画(大区画c)D区(D5-)その1

番号	面積 ^m	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^m	長径 ^m	短径 ^m	長径方位	番号	面積 ^m	長径 ^m	短径 ^m	長径方位
745	—	—	—	—	746	—	—	0.84	N-36°-W	747	—	—	0.88	N-37°-W
748	2.83	2.88	0.94	N-39°-W	749	—	—	0.90	N-41°-W	750	2.58	3.34	0.74	N-40°-W
751	3.15	3.40	0.96	N-38°-W	752	2.94	3.58	0.84	N-40°-W	753	3.97	3.74	1.04	N-42°-W
754	4.61	3.80	1.18	N-37°-W	755	5.46	4.00	1.36	N-37°-W	756	5.37	4.00	1.34	N-36°-W
757	3.88	3.56	1.10	N-36°-W	758	3.67	3.20	1.22	N-36°-W	759	3.65	2.64	1.30	N-35°-W
760	2.64	2.50	1.10	N-35°-W	761	2.66	1.98	1.38	N-33°-W	762	2.10	1.84	1.10	N-32°-W
763	2.21	1.90	1.22	N-31°-W	764	1.85	1.74	1.12	N-31°-W	765	2.28	1.74	1.34	N-34°-W
766	2.05	1.72	1.08	N-33°-W	767	1.85	1.64	1.28	N-32°-W	768	2.09	1.92	1.08	N-34°-W
769	—	—	2.62	N-52°-W	770	—	—	—	—	771	—	—	0.90	N-41°-W
772	2.13	2.62	0.86	N-40°-W	773	2.37	2.60	0.86	N-31°-W	774	2.34	2.66	0.82	N-41°-W
775	2.58	2.62	0.94	N-42°-W	776	3.50	2.92	1.23	N-37°-W	777	2.93	2.74	1.20	N-37°-W
778	2.97	2.44	1.24	N-36°-W	779	2.80	2.30	1.32	N-36°-W	780	2.45	2.20	1.18	N-36°-W
781	—	—	1.04	N-33°-W	782	—	—	—	—	783	—	—	0.76	N-38°-W
784	2.46※	2.42	1.02	N-32°-W	785	2.30※	2.14	1.16	N-31°-W	786	1.94	2.08	0.94	N-31°-W
787	2.66	2.00	1.40	N-34°-W	788	2.54	2.04	1.38	N-33°-W	789	2.34※	1.88	1.36	N-32°-W
790	—	—	1.00	N-34°-W	791	—	—	—	—	792	—	—	0.95	—
793	—	—	1.00	N-40°-W	794	2.69	2.60	1.08	N-38°-W	795	3.10	2.56	1.20	N-37°-W

第5節 古墳時代の遺構と遺物

④D5-2・E6-1大畦以西の大区画(大区画c)D区(D5-)その2

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
796	2.28	2.58	0.29	N-37°-W	797	2.78	2.58	1.06	N-36°-W	798	3.18	2.46	1.16	N-36°-W
799	2.98	2.64	1.16	N-36°-W	800	3.51	2.54	1.38	N-35°-W	801	2.97	2.64	1.16	N-35°-W
802	2.24	2.20	1.08	N-33°-W	803	2.31	2.22	1.12	N-32°-W	804	2.33	2.04	1.26	N-31°-W
805	—	—	1.00	N-31°-W	806	—	—	1.42	N-34°-W	807	—	—	—	—
808	—	—	—	—	809	—	—	1.02	N-37°-W	810	1.99※	2.22	0.98	N-37°-W
811	1.88	2.14	0.84	N-33°-W	812	2.81	2.08	1.32	N-33°-W	813	2.31	2.04	1.16	N-35°-W
814	—	—	1.32	N-35°-W	815	—	—	1.38	N-34°-W	816	—	—	1.00	N-33°-W
817	—	—	1.10	—	818	—	—	—	—	819	—	—	1.26	—

⑤D5-2・E6-1大畦以西の大区画(大区画c)E区(E6-)その1

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
705	—	—	—	—	706	—	—	1.14	N-35°-W	707	—	—	1.12	N-37°-W
708	—	—	1.12	N-30°-W	709	—	6.32	—	N-37°-W	710	—	—	2.10	N-32°-W
711	2.81	3.00	0.92	N-26°-W	712	—	—	0.88	N-30°-W	713	—	—	0.72	N-31°-W
714	—	—	1.04	N-28°-W	715	—	—	0.90	N-27°-W	716	1.70	1.93	0.83	N-30°-W
717	2.10	2.58	0.78	N-29°-W	718	2.46	3.15	0.85	N-37°-W	719	—	—	0.78	N-38°-W
720	2.30	2.52	0.90	N-34°-W	721	3.02	3.34	1.00	N-36°-W	722	1.89	2.00	0.92	N-34°-W
723	2.32	3.50	0.72	N-31°-W	724	2.46	3.14	0.85	N-32°-W	725	3.25	2.82	1.04	N-37°-W
726	3.56	2.60	1.30	N-41°-W	727	3.43	2.60	1.26	N-32°-W	728	—	—	1.00	N-31°-W
729	—	—	—	—	730	—	—	—	—	731	—	—	—	—
732	2.41	2.10	1.09	N-31°-W	733	1.70	1.98	0.92	N-30°-W	734	1.48	2.05	1.15	N-28°-W
735	1.76	1.88	0.95	N-31°-W	736	—	—	0.94	N-35°-W	737	—	—	—	—
738	2.19	1.92	1.16	N-34°-W	739	1.93	1.80	1.02	N-31°-W	740	1.89	1.74	1.00	N-24°-W
741	1.29	1.88	0.63	N-28°-W	742	1.91	1.70	1.20	N-31°-W	743	1.47	1.82	0.84	N-35°-W
744	1.90	1.83	1.02	N-34°-W	745	1.24	1.90	0.56	N-34°-W	746	—	—	1.00	N-34°-W
747	2.06	1.84	1.20	N-32°-W	748	1.94	1.95	1.05	N-27°-W	749	2.02	2.05	0.94	N-28°-W
750	1.80	2.02	0.90	N-28°-W	751	1.53	1.85	0.83	N-28°-W	752	2.04	1.70	1.20	N-31°-W
753	1.54	1.80	0.95	N-35°-W	754	—	—	1.04	N-34°-W	755	1.18	1.74	0.70	N-34°-W
756	1.79	1.72	1.04	N-34°-W	757	1.93	1.74	1.08	N-31°-W	758	—	—	—	—
759	1.92	1.64	1.20	N-33°-W	760	1.54	1.60	1.00	N-32°-W	761	1.33	1.44	0.86	N-31°-W
762	1.27	1.44	0.86	N-30°-W	763	1.01	1.45	0.74	N-28°-W	764	1.40	1.70	0.90	N-28°-W
765	2.34	1.58	1.50	N-31°-W	766	—	—	0.80	N-35°-W	767	—	—	1.08	N-34°-W
768	—	—	0.65	N-34°-W	769	—	—	—	—	770	1.39	1.78	0.88	N-32°-W
771	2.10	1.70	1.25	N-33°-W	772	1.86	1.78	1.06	N-32°-W	773	1.76	1.90	1.00	N-31°-W
774	—	—	0.84	N-30°-W	775	—	—	0.70	N-28°-W	776	—	—	0.80	N-28°-W
777	—	—	0.64	—	778	1.90	2.07	0.98	N-31°-W	779	—	—	0.72	N-27°-W
780	—	—	1.04	N-34°-W	781	—	—	1.22	N-33°-W	782	—	—	1.22	—
783	—	—	0.76	N-38°-W	784	—	—	0.98	—	785	—	—	1.00	N-31°-W
786	—	—	7.04	—	787	—	—	—	—					

⑥E6-2大畦以东の大区画(大区画d)E区(E6-)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
788	—	—	—	—	789	8.98	3.30	2.80	N-43°-E					

【Hr-FA下水田 小区画計測表】

(1) C区(C4-)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	—	—	—	2	—	—	—	—	3	—	—	—	—
4	—	—	5.00	N-59°-W	5	—	—	5.45	N-37°-W	6	—	—	—	—
7	—	—	5.00	N-37°-W										

(2) D区・E区

①D6-1・2大畦で区切られた大区画D区(D6-)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	—	—	—	2	—	—	—	—	3	—	—	—	—
4	—	—	1.07	N-36°-W	5	1.44※	1.40	1.05	N-39°-W	6	—	—	—	—
7	—	—	—	—	8	—	—	—	—	9	1.69	1.65	1.15	N-39°-W
10	—	—	1.30	—	11	—	1.66	—	N-44°-W	12	1.51	1.70	0.90	N-35°-W
13	1.41	1.40	1.05	N-39°-W	14	—	1.50	—	N-24°-W	15	—	—	—	—
16	1.94	1.65	1.25	N-38°-W	17	1.66※	1.75	1.00	N-43°-W	18	—	—	—	—
19	—	—	—	—	20	—	—	1.30	—	21	—	—	—	—
22	—	—	1.20	—	23	—	—	1.15	—	24	—	—	1.28	—

第3章 各時代の調査

①D6-1・2大畦で区切られた大区画D区 (D6-1)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
25	—	—	1.30	—	26	—	—	1.30	—	27	—	—	—	—
28	—	—	—	—	29	—	—	1.25	—	30	—	—	1.18	—
31	—	1.66	—	—	32	—	—	—	—	33	—	—	—	—
34	—	—	—	—	35	—	—	—	—					

②D6-1・E7-1大畦で区切られた大区画D区 (D6-1)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
36	—	—	—	—	37	—	—	—	—	38	—	—	—	—
39	—	—	—	—	40	—	—	—	—	41	—	—	—	—
42	—	—	—	—	43	—	—	—	—	44	—	—	—	—
45	—	—	—	—										

③D6-1・E7-1大畦で区切られた大区画E区 (E7-1)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	—	—	—	2	—	—	1.60	—	3	—	—	—	—
4	2.24※	2.00	1.20	N-54°-W	5	—	—	—	—	6	—	—	1.13	—
7	—	—	1.21	—	8	—	—	—	—	9	—	—	—	—
10	2.94※	2.50	1.20	N-54°-W	11	—	—	—	—	12	—	—	—	—
13	—	—	—	—	14	—	—	—	—	15	—	—	—	—
16	—	—	—	—	17	—	—	—	—	18	—	—	—	—
19	—	—	—	—	20	—	—	—	—	21	—	—	—	—
22	—	—	—	—	23	—	—	—	—	24	—	—	—	—
25	—	—	1.30	—	26	—	—	1.20	—	27	—	—	—	—
28	—	—	—	—	29	—	—	—	—	30	—	—	—	—
31	—	—	—	—	32	—	—	—	—	33	—	—	—	—
34	—	—	—	—	35	—	—	—	—	36	—	—	—	—

【As-C混土水田・区画計測表】

(1) D区 (D7-1) その1

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
1	—	—	—	—	2	—	—	—	—	3	—	—	—	—
4	—	—	—	—	5	—	—	—	—	6	—	—	—	—
7	—	—	—	—	8	—	—	—	—	9	—	—	—	—
10	—	—	1.94	N-42°-W	11	9.14※	5.04	1.88	N-42°-W	12	—	—	—	—
13	—	—	—	—	14	—	—	2.10	N-42°-W	15	—	—	1.84	N-42°-W
16	—	—	—	—	17	—	—	—	—	18	—	—	—	—
19	—	—	1.37	N-31°-W	20	—	—	—	—	21	—	—	—	—
22	—	—	—	—	23	—	—	—	—	24	—	—	—	—
25	—	—	—	—	26	6.05※	3.10	2.00	N-34°-W	27	—	—	—	—
28	—	—	—	—	29	6.10	4.30	1.40	N-43°-W	30	6.10	4.30	1.40	N-43°-W
31	—	—	—	—	32	—	3.60	—	N-40°-W	33	8.64	3.50	2.50	N-32°-W
34	7.90	3.48	2.24	N-30°-W	35	—	—	—	—	36	—	—	—	—
37	—	—	1.48	—	38	—	—	—	—	39	—	—	—	—
40	—	4.42	—	—	41	—	—	—	—	42	—	—	—	—
43	—	—	—	—	44	9.82※	5.65	1.80	N-33°-W	45	40.38	6.76	5.96	N-63°-E
46	—	—	1.50	N-28°-W	47	—	—	3.00	N-28°-W	48	—	—	—	—
49	—	—	2.48	N-30°-W	50	—	—	1.58	N-30°-W	51	—	—	—	—
52	—	—	—	—	53	—	—	—	—	54	—	—	—	—
55	—	—	2.22	N-41°-W	56	—	—	—	—	57	—	—	—	N-40°-W
58	10.79※	5.72	1.96	N-41°-W	59	—	—	—	—	60	8.88※	3.70	2.35	N-50°-W
61	6.29	3.52	1.76	N-49°-W	62	—	—	—	—	63	—	—	—	—
64	—	—	—	—	65	—	—	—	—	66	—	—	—	—
67	—	—	—	—	68	—	—	1.90	N-41°-W	69	—	—	—	—
70	—	(1.94)	—	—	71	—	(2.14)	—	—	72	—	—	—	—
73	—	—	—	—	74	—	—	—	—	75	—	—	—	—
76	—	—	—	—	77	—	—	—	—	78	—	—	1.60	N-42°-W
79	—	—	2.68	N-40°-W	80	—	—	3.45	N-44°-W	81	—	—	—	—
82	—	—	—	—	83	—	(2.68)	—	—	84	—	—	3.40	N-45°-W
85	—	—	—	—	86	—	—	—	—	87	16.11※	7.30	2.30	N-42°-W
88	—	—	—	—	89	—	—	—	—	90	—	—	1.62	N-46°-W
91	—	—	2.08	N-44°-W	92	—	(2.14)	—	—	93	—	—	—	—

第5節 古墳時代の遺構と遺物

(1) D区 (D7ー) その2

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
94	—	—	—	—	95	—	—	—	—	96	—	—	—	—
97	—	—	—	—	98	10.77※	7.30	1.40	N-46°-W	99	12.48※	7.04	2.04	N-44°-W
100	14.54※	7.04	2.04	N-44°-W	101	—	—	—	N-44°-W	102	—	—	—	—
103	—	—	2.08	N-42°-W	104	—	—	1.52	N-46°-W	105	—	—	—	N-44°-W
106	—	—	1.44	N-44°-W	107	—	—	1.82	N-41°-W					

(2) E区 (E8ー)

番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位	番号	面積㎡	長径m	短径m	長径方位
7	—	—	—	—	8	—	—	3.20	N-58°-W	9	—	—	3.10	N-57°-W
10	—	—	3.00	N-59°-W	11	—	—	3.20	N-33°-E	12	—	—	3.00	N-61°-W
13	—	—	2.90	N-62°-W	14	—	—	—	—	15	—	—	—	—
16	20.18※	5.20	3.90	N-57°-W	17	17.25	5.16	3.90	N-57°-W	18	16.74※	5.10	3.30	N-58°-W
19	14.26※	5.10	2.90	N-56°-W	20	24.23※	5.00	5.00	—	21	18.82※	4.76	4.08	N-58°-W
22	14.11※	4.35	3.30	N-60°-W	23	15.15※	4.50	3.45	N-61°-W	24	—	—	—	—
25	—	—	—	—	26	20.22※	5.35	3.80	N-55°-W	27	17.78	4.44	4.04	N-52°-W
28	16.46	4.90	3.40	N-56°-W	29	23.03	6.30	3.65	N-58°-W	30	23.34※	7.08	3.24	N-60°-W
31	35.06※	7.65	4.65	N-59°-W	32	—	(4.28)	—	—	33	—	—	3.30	—
34	—	—	3.60	—	35	25.11※	6.88	3.72	N-53°-W	36	17.10※	7.00	3.85	N-53°-W
37	—	—	—	—	38	—	—	—	—	39	—	—	4.50	N-53°-W
40	31.41	7.00	4.50	N-60°-W	41	21.71	6.80	3.20	N-60°-W	42	26.70	7.32	3.84	N-56°-W
43	22.22	7.20	3.30	N-55°-W	44	22.78※	5.80	3.90	N-54°-W	45	16.29※	5.00	3.40	N-57°-W
46	—	—	—	—	47	—	9.52	—	N-51°-W	48	35.99	8.48	4.28	N-51°-W
49	—	8.12	—	N-52°-W	50	—	—	—	—	51	25.78※	6.15	4.40	N-53°-W
52	33.05	6.28	5.40	N-55°-W	53	24.30	6.00	4.00	N-59°-W	54	14.67	5.35	2.70	N-59°-W
55	16.37	5.20	3.15	N-59°-W	56	23.63※	5.05	4.70	N-56°-W	57	18.74	5.60	3.40	N-56°-W
58	—	—	—	—	59	—	—	6.88	N-51°-W	60	28.96※	7.70	3.90	N-48°-W
61	28.78	8.48	3.64	N-46°-W	62	—	—	—	—	63	—	(2.34)	—	—
64	—	—	—	—	65	—	—	—	—	66	22.17※	8.90	2.50	N-62°-W
67	—	—	—	—	68	—	—	—	—	69	—	—	—	—
70	—	—	5.02	N-51°-W	71	—	(3.72)	—	—	72	—	(2.84)	—	—
73	—	—	—	—	74	11.86※	5.35	2.35	N-41°-W					

(2) 溝 (第104・112図 P L. 73)

水田に伴う以外の溝は「古墳時代4面」のE区で1条、また「古代面基底」A区のHr—FA下水田耕土の下位で2条を確認した。

①「古墳時代4面」

E区で1条を確認した。

E9—1溝 E区南東部から北西部の370—435G～400—470Gに位置する。蛇行し形状は不規則。走向は北西端、北東から南西走しN—22°—E、396—473G付近から東側大部分は、北西から南東走しN—44～45°—W。確認長50.9m、幅40～160cmで、断面は浅い。走向はAs—C混土水田のタテアゼに一致し、屈曲部はHr—FP下水田以下のオオアゼの水口と思われる位置に当たる。そのため、As—C混土水田とAs—C混土下の中間の時期に、配水目的で設けられた可能性もあるが推測の域を出ない。埋土に砂粒を含む。As—Cの二次堆積層か。

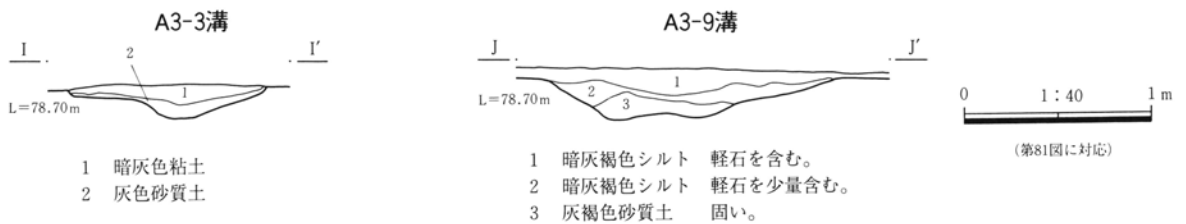
②「古代面基底」

2条を確認した。いずれも機能は不明である。

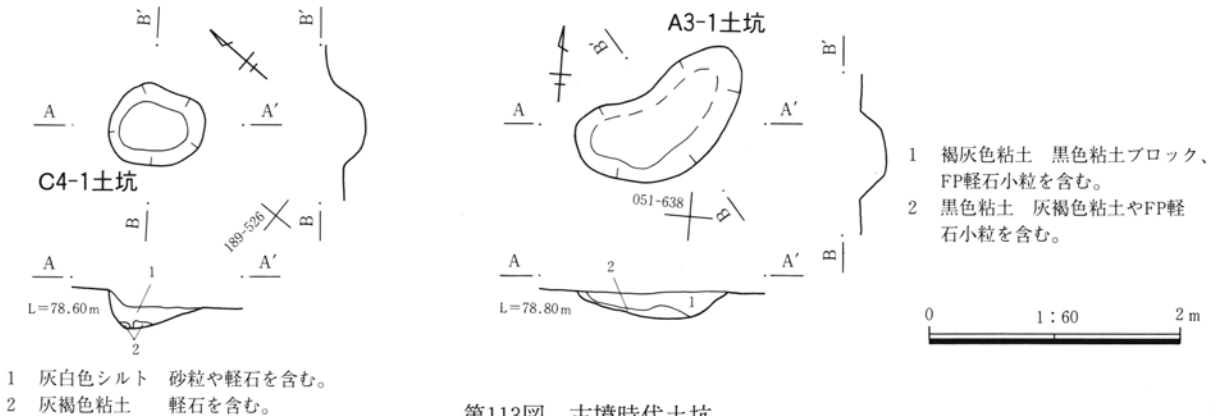
A3—3溝 A区中央部の050—600G～045—625Gに位置する。中央部で屈曲し、走向は西側がN—74°—E、054—611G付近より東側がN—67°—W。確認長21.4m、幅26～120cm、深さ1～18.5cmで、断面は皿状。本来は別個の2条の溝であったか。

A3—9溝 A区南西隅の040・045—625G～040・045—645Gに位置する。東端部が円形を呈するが全体の

第3章 各時代の調査



第112図 古墳時代溝断面



第113図 古墳時代土坑

走向はN-88°-E。確認長14.8m、幅105~440cm、深さ15~26cmで、断面は皿状。

(3) 土 坑 (第113図 P L. 73)

古墳時代第2面 (Hr-FA 下面) のC区で1基、また「古代面基底」のA区でHr-FA 下水田耕土の下位で1基を確認した。いずれも機能は不明である。

① 「古墳時代第2面」

C4-1土坑 C区東端の185・190—525Gに位置する。長径0.72m、短径0.6m、深さ26cmの長楕円形で、長径方位はN-40°-W。断面は皿状。C4-1大畦を壊す。

② 「古代面基底」

A3-1土坑 A区西部の050—635Gに位置する。長径1.47m、短径0.69m、深さ21cmの不正形で、長径方位はN-54°-W。断面は皿状。

3. 遺 物

この時代の遺物としては、須恵器や土師器の破片がある。特に「古墳時代以前面」のC6-1河川では、埋土のAs-C層より上位部から多くの破片が出土した。その他、全般的に小破片であり摩滅のために細部の観察が困難である。以下、これらのうち4世紀代に比定されるものを古墳時代前期の遺物、それ以降のものを古墳時代中~後期の遺物として記載する。なお、出土遺構の記載がないものは遺構外出土である。

(1) 古墳時代前期の遺物

① 「古墳時代第1面」出土遺物 (第114図 P L. 100)

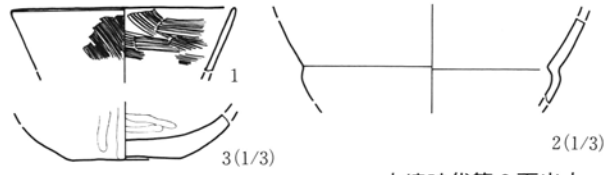
1は土師器埴である。口縁部片。内面に強い左斜行刷毛目。外面にも一部刷毛目か。

② 「古墳時代第2面」出土遺物 (第114図 P L. 100)

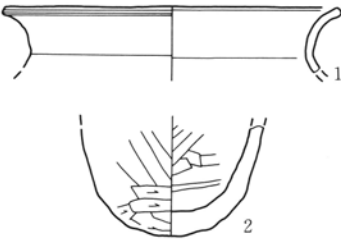
第5節 古墳時代の遺構と遺物



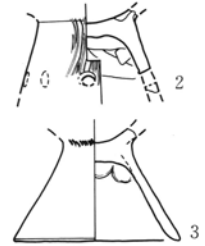
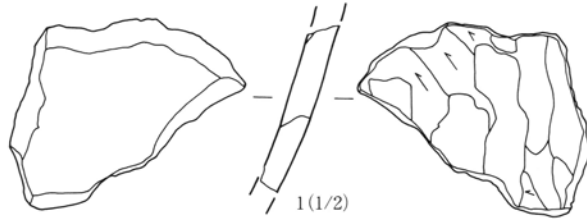
古墳時代第1面出土



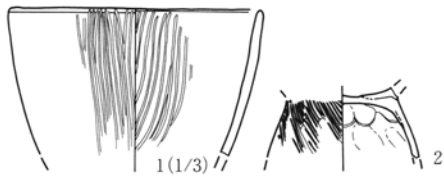
古墳時代第2面出土



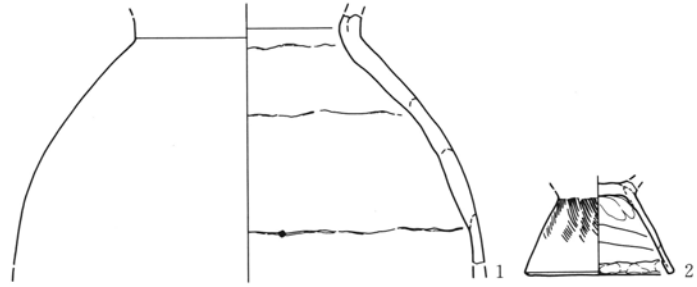
古墳時代第3面出土



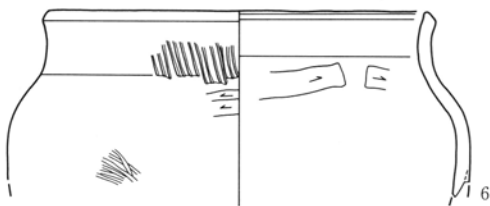
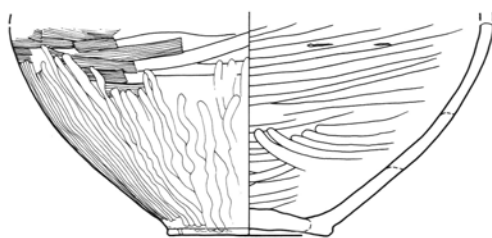
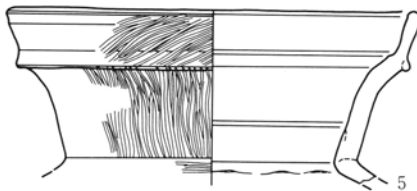
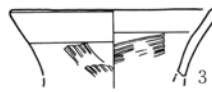
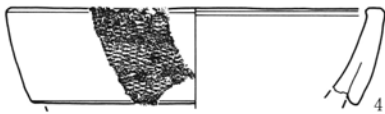
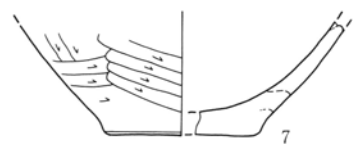
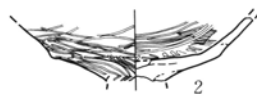
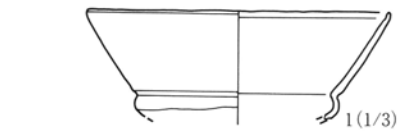
古墳時代第4面出土



古代面基底出土



古墳時代以前出土

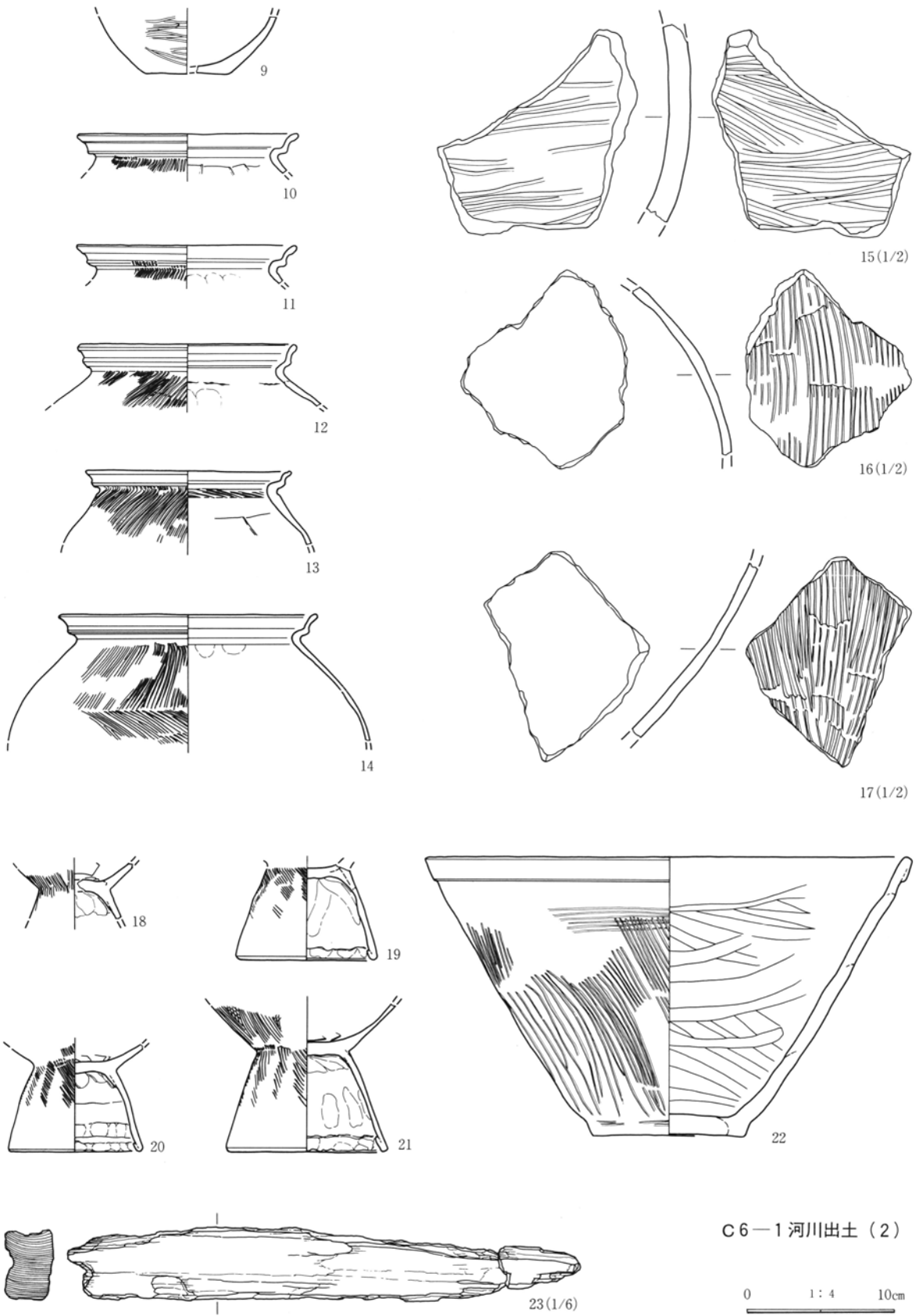


C6-1 河川出土 (1)

0 1:4 10cm

第114図 古墳時代前期の遺物 (1)

第3章 各時代の調査



第115図 古墳時代前期の遺物(2)

いずれも土師器である。1は埴まはた壺の口縁部片か。口(11.0)cm。内面に強い左斜行刷毛目。外面に一部左斜行刷毛目。内面は黒色。胎土は鈍い橙色。2は埴の体部片である。口縁はやや内湾しながら開く。胎土は橙色。3は器種不明の底部片である。底4.2cm。外面は撫で後縦篋磨き。内面は撫で後横篋磨き。胎土は鈍い橙色。

③「古墳時代第3面」出土遺物(第114図 P L. 100)

いずれも土師器である。1は甕の口縁部片である。口(18.0)cm。口縁部は外反して開き、上端は強く外反する。内外面とも口縁部に横撫で。胎土は浅黄色。2は甕の底部片か。外面は体部に左斜行篋削り、下体部に横篋削り。内面は体部に右斜行篋削り、下体部に横篋削り。調整は荒い。胎土は灰黄色。

④「古墳時代第4面」出土遺物(第114図 P L. 100)

いずれも土師器である。1は甕の体部片か。外面は篋削り後篋撫でか。胎土は鈍い黄橙色。D7—1溝出土。2は高坏の脚部片。径約0.7cmの穿孔5カ所か。外面は縦篋磨き。内面は横撫で。胎土は灰黄色。3は「S字状口縁台付甕」の台部片か。底(8.8)cm。台部は直線的に開き、端部がやや外反するが一部歪む。外面は下体部に刷毛目か。台部の内部上位に指頭痕残存。一部吸炭。胎土は鈍い橙色。

⑤「古代面基底」出土遺物(第114図 P L. 100)

いずれも土師器である。C3—4溝出土。1は埴の口縁部片か。口(10.0)cm。内外面は縦篋磨き。胎土は明赤褐色。2は「S字状口縁台付甕」の台部片。台部は直線的に開く。外面上部は左斜行刷毛目後、縦方向の擦り消し。台部の内面上部に指頭痕残存。胎土は灰白色。

⑥「古墳時代以前面」出土遺物(第114図 P L. 100)

いずれも土師器である。C6—9溝出土。1は壺の口縁下部から上体部片である。胎土は橙色。2は「S字状口縁台付甕」の台部片。底7.8cm。台部は直線的に開き端部を内側に折り返す。外面は上位に左斜行刷毛目後、縦方向の擦り消し。台部の内面上部と折り返し部に指頭痕残存。胎土は灰橙色。

⑦C6—1河川出土遺物(第114・115図 P L. 100~103)

1~22はいずれも土師器である。1は埴の口縁部から体部片である。口(12.0)cm。口縁部は直線的に開き底部は丸底か。胎土は浅黄色。2は高坏の坏部片である。体部は扁平で口縁部は直線的に大きく開く。外面は篋磨き。内面は細い横刷毛目後、円弧状の篋磨き。胎土は鈍い黄橙。3は埴か壺の口縁部片か。口(11.0)cm。口縁部は外反して開く。外面は横撫で。上体部内外に斜刷毛目。胎土は鈍い橙色。

また、4~9は壺か。4は口縁部片。口(20.0)cm。口縁部は内湾気味に開き、外側に幅の広い粘土帯を継ぎ合わせる。外面に網目状の文様。胎土は鈍い橙色。5は口縁部から頸部片。口(22.0)cm。頸部は「く」の字状に開き、屈曲部に突帯を巡らす。外面に篋磨き。胎土は灰黄色。6は口縁部から体部片。口(20.0)cm。口縁部は外反しながら立ち上がり、口唇部はやや尖る。外面は口縁部に横撫で、頸部に縦刷毛目か。また上体は横篋削り、篋磨き。内面は篋削り。胎土は浅黄色。7は下体部から底部片。底(8.0)cm。外面は篋削り。内面は篋撫で、篋削り。胎土は灰黄色。8は体部から底部片。底8.6cm。平底で葉状痕残存。体部は球形か。外面は体部に横刷毛目と下体部に篋撫で後、縦篋磨き。内面は横篋撫で。体部断面にも刷毛目か。胎土は鈍い黄橙。9は底部片。底5.4cm。外面は篋削りの後篋磨き。内面は撫で。外面に炭素吸着か。胎土は浅黄色。

10~21は甕である。15以外は「S字状口縁台付甕」。10~14は口縁部から上体部片。外面の上体部に右斜行刷毛目。11・12・14は内面の上体部に指頭痕残存。10・13は内面に篋削り。10は口(15.0)cm。胎土は浅黄色。11は口(15.0)cm。外面は口縁部下段にも縦刷毛目。胎土は浅黄色。12は口(14.8)cm。胎土は浅黄色。13は口(14.0)cm。口縁部2段目は短く直立気味。外面は口縁部下位から上体部に右斜行刷毛目。一部

第3章 各時代の調査

に横刷毛目か。内面は口縁部と体部の境の屈曲部に左斜行刷毛目。14は口(17.6)cm。外面は体部に右斜行刷毛目。その下位に左斜行刷毛目、方向は下から上。胎土は鈍い橙色。15~17は胴部片。15は内外面に篋磨き。胎土は鈍い黄橙色。16・17は外面に刷毛目、内面に撫で。内面に指頭痕残存。断面は吸炭。胎土は鈍い黄橙。18~21は台部片。いずれも外面に左斜行刷毛目後、縦方向の擦消し。内面は台部上部に指頭痕残存。18の胎土は鈍い橙色。19~21の台部は直線的に開き端部を折り返す。内面は折り返し部とその付近に指頭痕残存。19は底(9.6)cm。胎土は黄橙色。20は底9.2cm。胎土は黄橙色。21は底11.6cm。胎土は灰黄色。

22は鉢である。1/4残存で口(33.0)cm、底10.3cm、高18.8cm。平底で体部は直線的に大きく開く。口縁部は折り返すか。外面は口縁部に横撫で、体部に横篋磨き後縦刷毛目、部分的に縦篋磨き。内面は篋撫で。胎土は鈍い黄橙色。

23は用途不明木製品である。長45.5cm、幅7.5cm、厚5.2cm。

(2) 古墳時代中~後期の遺物

①「古墳時代第1面」出土遺物(第116図 P.L. 102)

1は土師器坏である。2/3残存で、口(13.5)cm、高4.9cm。底部はやや扁平。受け部で丸みを持つ稜をなす。口縁部は外反気味に開き、口唇部は丸い。外面は口縁部に横撫で、体部に篋削り。内面は口縁から体部に横撫で、底部は撫で。胎土は橙色。

②「古墳時代第2面」出土遺物(第116図 P.L. 102)

いずれも土師器杯の口縁部から体部片である。1は口(12.0)cm。体部は丸い。口縁部は短く内湾気味に強く開く内斜口縁。外面は口縁部に横撫で、下体部は篋削り。内面は口縁部に横撫で、体部は斜行篋磨き。黒色処理。胎土は鈍い橙色。2は口(12.0)cm。体部は扁平か。受け部は稜をなし口縁部は外反気味に開く。口唇部はやや尖る。外面は口縁部に横撫で。胎土は橙色。3は口(12.0)cm。受け部はやや丸みを持ち稜をなす。口縁部は直線的でやや開き気味に立つ。口唇部は丸い。外面は口縁部に横撫で、体部に篋削り。内面は横撫で。胎土は橙色。

③「中世第2面—1」出土遺物(第116図 P.L. 102)

1は須恵器甕の体部片か。外面に平行叩き目。内面に同心円当て具痕。胎土は灰色。

④「古代面」出土遺物(第116図 P.L. 102)

いずれも須恵器である。1は高坏か器台の脚であろう。脚部は強く外反して開く。轆轤整形。底(9.0)cm。胎土は灰色。2は甕の体部であろう。外面は格子叩き目。内面は青海波状当て具痕。胎土は灰色。

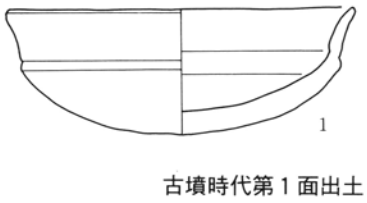
⑤C6—1河川出土遺物(第116図 P.L. 102)

いずれも土師器である。1~3は坏。1は口縁部から下体部片。口(10.0)cm。体部は丸い。口縁部は短く、直線的に強く開く内斜口縁。外面は口縁部から上体部に横撫で、底部に篋削り。内面は、斜行篋磨き。胎土は鈍い橙色。2は口縁部から上体部片。口(12.0)cm。口縁部は直線的に強く開く内斜口縁。外面は口縁部に横撫で。内面は斜行篋磨き。胎土は橙色。3は口縁部から体部片。口(11.0)cm。口縁部はゆるく内湾し、口唇部は丸い。外面は篋削りの後斜行篋磨き、内面は斜行篋磨き。胎土は鈍い橙色。

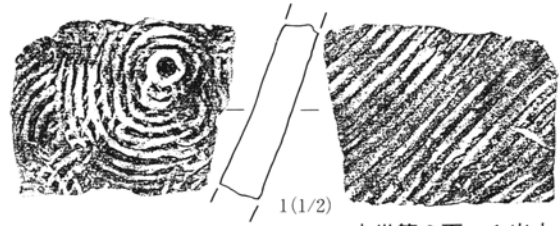
4・5は甕。4は2/3残存で、口(10.3)cm、底4.5cm、高16.4cm。平底。体部は丸いが歪む。口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部は外反する。外面は口縁部に横撫で、体部に篋削り。内面は口縁部に横撫で、体部に撫で。胎土は砂粒を含む鈍い橙色。5は頸部片。体部は外内に篋撫で。頸部に刷毛面。

6は甕。外面は篋削り。内面に指押さえ、篋撫で。摩耗著しい。整形痕不明瞭。胎土は浅黄色。

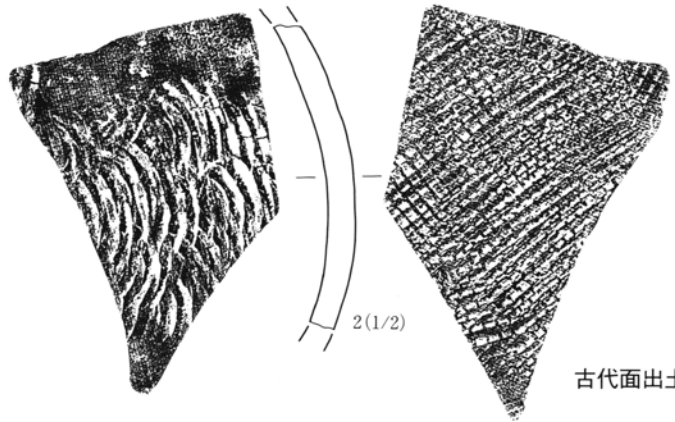
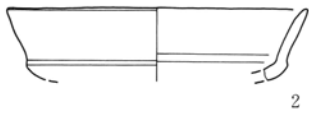
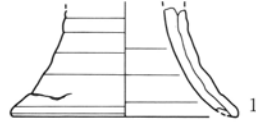
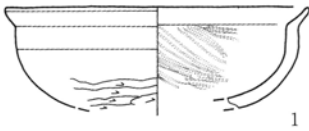
第5節 古墳時代の遺構と遺物



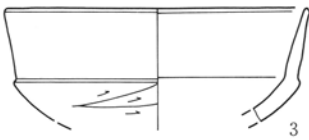
古墳時代第1面出土



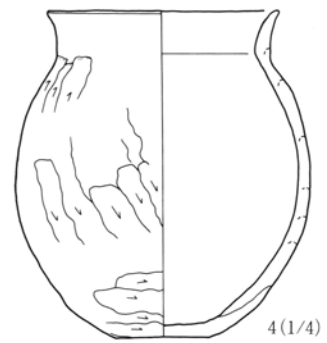
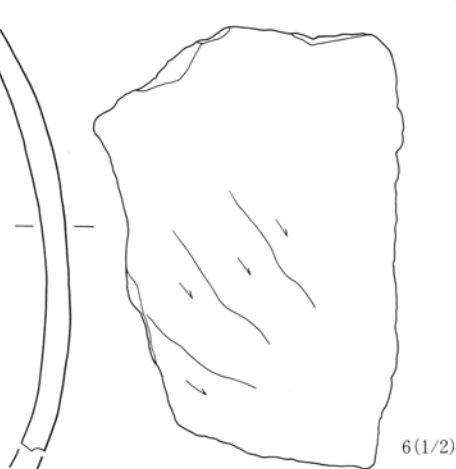
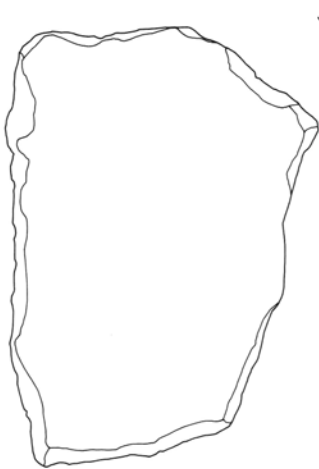
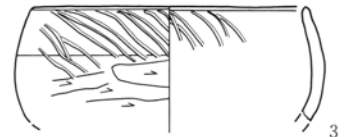
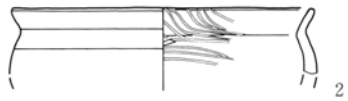
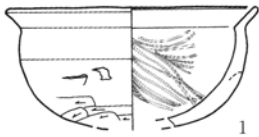
中世第2面-1出土



古代面出土



古墳時代第2面出土



C6-1 河川出土

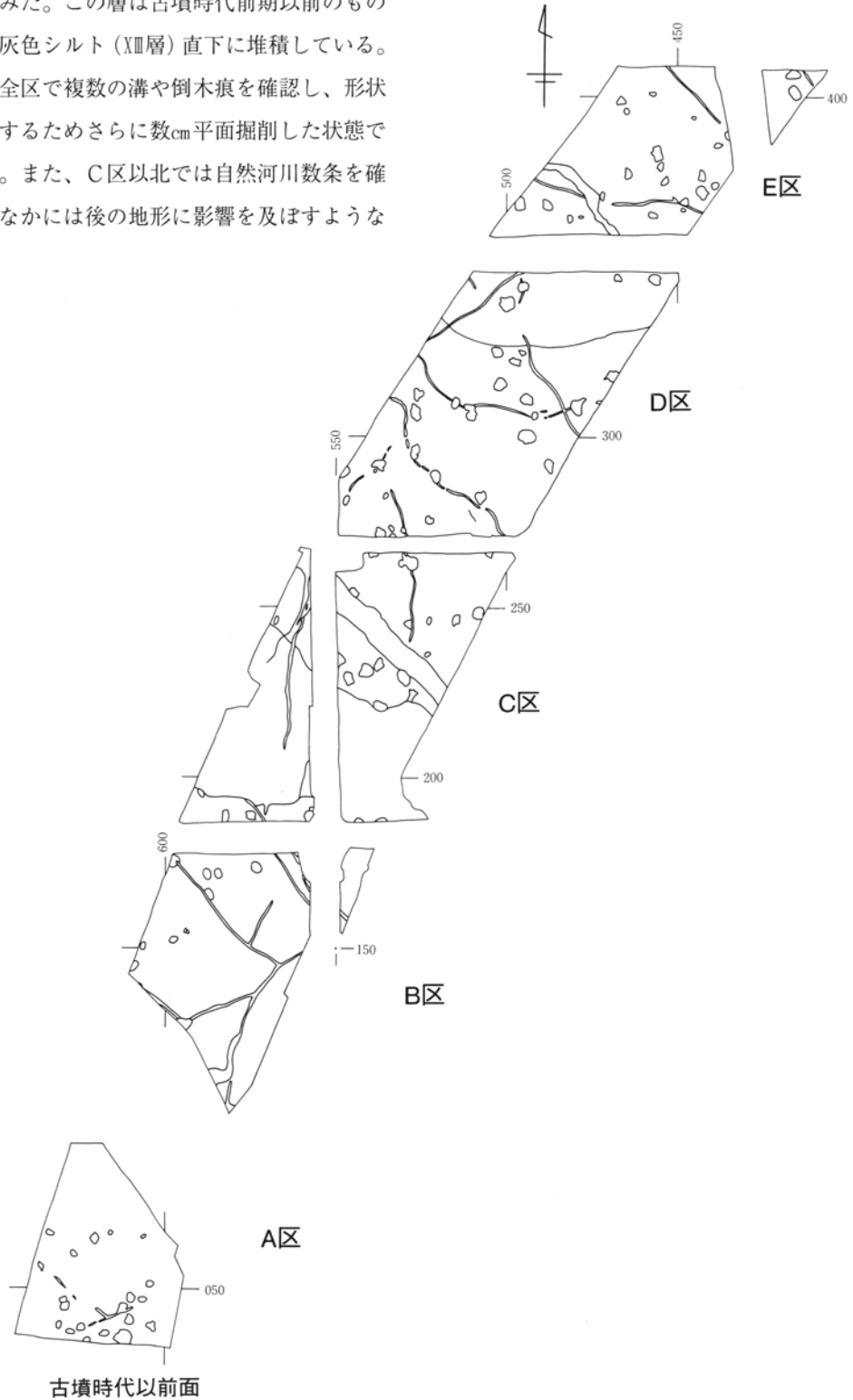
0 1:3 10cm

第116図 古墳時代中期~後期の遺物

第6節 古墳時代以前の遺構と遺物

1. 概要

各時代の面の調査後、灰色シルト（XIV層）上面で遺構確認を試みた。この層は古墳時代前期以前のものと思われる暗灰色シルト（XIII層）直下に堆積している。調査の結果、全区で複数の溝や倒木痕を確認し、形状をより明確にするためさらに数cm平面掘削した状態で精査を行った。また、C区以北では自然河川数条を確認した。このなかには後の地形に影響を及ぼすような



第117図 古墳時代以前遺構概念図

ものもある。それぞれの具体的な年代は不明であるが、本遺跡周辺が水田化される以前の環境を示唆するものである。この面を「古墳時代以前面」と呼ぶ。

この面の調査後、各区で約2万年前の浅間山の山体崩壊による前橋泥流（XVI層）上部に到る確認トレンチを設定して調査した。その結果、遺構や遺物は確認できなかったため、各区の発掘調査を終了した。そのため、この「古墳時代以前面」が本遺跡での最終確認面となる。

なお、A区からC区にかけての「古代面基底」では主に暗灰色シルトを掘り込む溝や土坑を確認した。これらの遺構は本章第4節にまとめて記載したが、このなかには古墳時代以前の遺構も含まれる可能性がある。遺物は縄文時代の石器等が出土している。

2. 遺 構

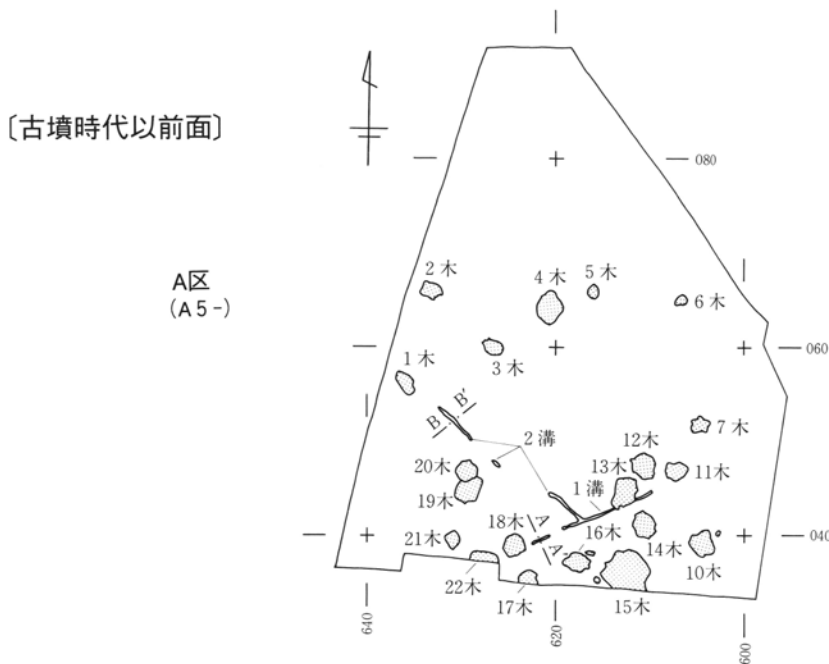
(1) 溝 (第118～121図 P L.74～77)

溝はA区で2条、B区で10条、C区で4条、D区で5条、E区で4条、計25条を確認した。走向は北西から南東走、または北東から南西走するものが多く、これは地形の傾斜に従ったものである。いずれも機能は不明であり、蛇行したり形状が不明瞭であったりするものは自然流路の可能性もある。

A 5—1 溝 A区北部の035—620 G～040—605 Gに位置する。直線的であり、走向はN—66°—E。確認長10.9m、幅24cm、深さ3～9cmで、断面は逆台形。中央でA 5—2溝と合するが、新旧関係は不明。

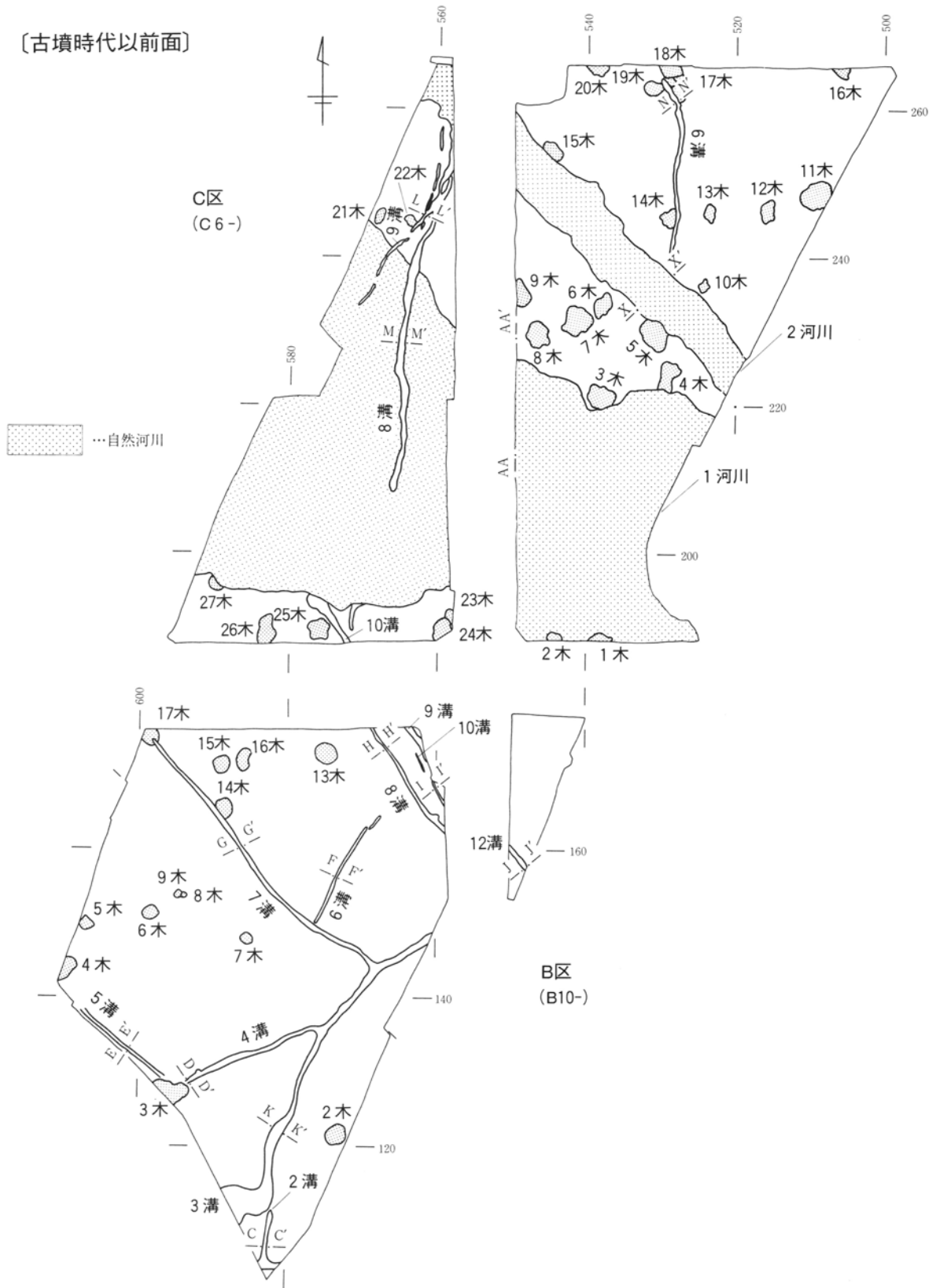
A 5—2 溝 A区中央部の040—615 G～050—630 Gに位置する。大きく二分され、全体的な走向はN—52°—W。確認長4.5m+4.9m、幅24～36cm、深さ4～9cmで、断面は逆台形。A 5—1溝との新旧関係は不明。

B 10—2 溝 B区南端の095—580 G～110—580 Gに位置する。大きくL字状に屈曲し、走向はN—81°—E、099—583 G付近でN—6°—E。確認長9.9m、幅60cm、深さ14～18cmで、断面は逆台形。屈曲部が調査区外に懸かるが、実際は2条の溝となるか。



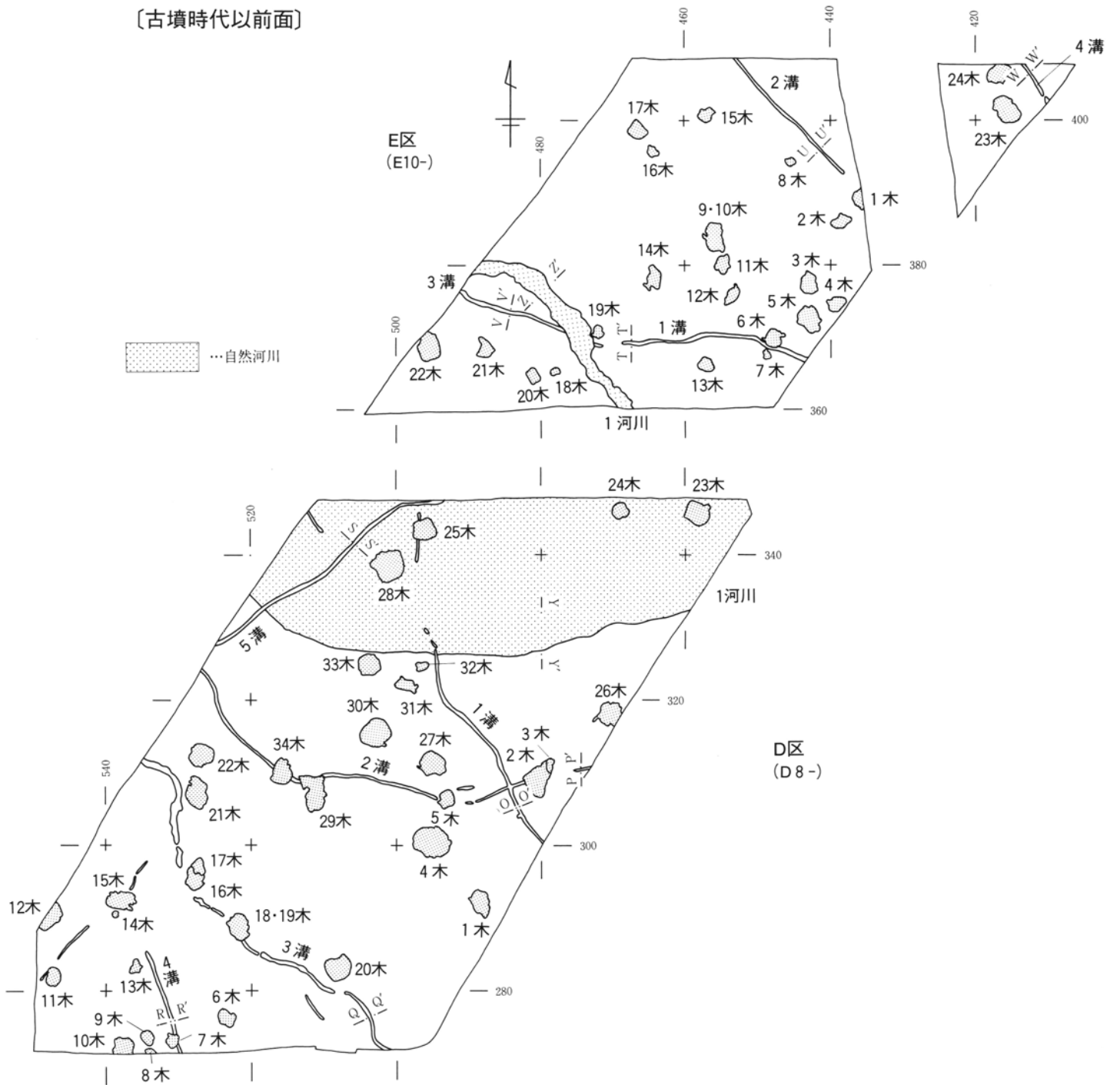
第118図 古墳時代以前遺構配置図 (1)

〔古墳時代以前面〕



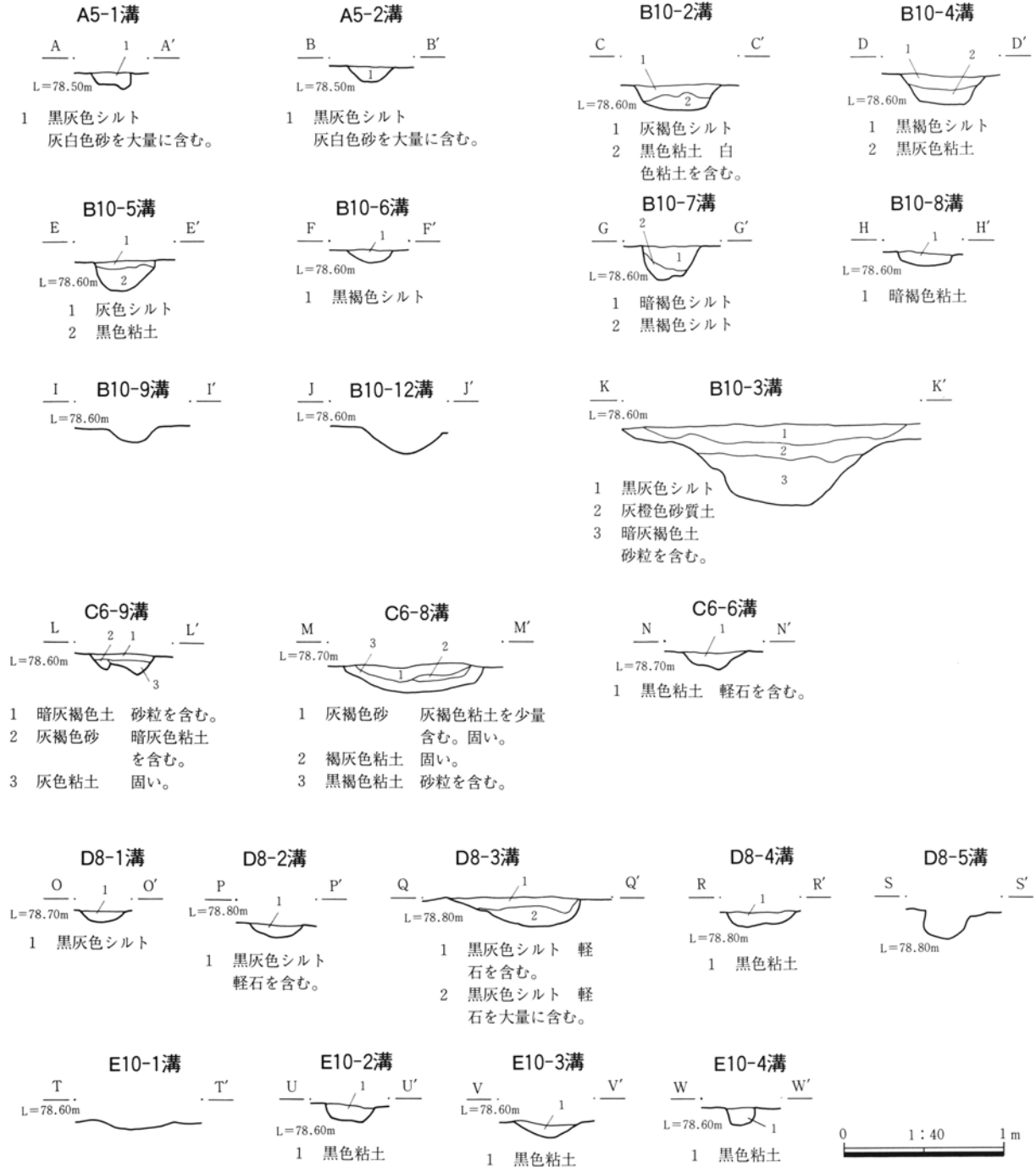
第119図 古墳時代以前遺構配置図(2)

〔古墳時代以前面〕



第120図 古墳時代以前遺構配置図(3)

第3章 各時代の調査



(第118~120図に対応)

第121図 古墳時代以前溝断面

B10—3溝 B区南端から東端の105・110—585G～145—560Gに位置する。走向はN—23°—E。確認長34.1m、幅40～500cm、深さ19～32cmで、断面は逆台形。北側でB10—7溝と合流し、中央でB10—4溝が分岐。新旧関係は不明。

B10—4溝 B区中央部から西部の125—590G～135—575Gに位置する。中央が南東に張り、全体の走向はN—68°—E。確認長18.9m、幅40～84cm、深さ20～26cmで、断面は逆台形。B10—3溝との新旧関係は不明。

B10—5溝 B区西部の125—595G～135—605Gに位置する。走向はN—51°—W。確認長13.9m、幅32～46cm、深さ5～21cmで、断面は皿状。

B10—6溝 B区中央部から北部の150—575G～160—565Gに位置する。中央が北西に緩やかに弧状に張り、全体の走向はN—30°—E。確認長17.3m、幅20～34cm、深さ6～9cmで、断面は皿状。南端でB10—7溝と合するが、新旧関係は不明。

B10—7溝 B区の東部から北西部の140—565G～170—595Gに位置する溝である。緩やかに蛇行し、全体の走向はN—44°—W。確認長43.9m、幅32～92cm、深さ14～25cmで、断面は緩やか揺り鉢形。B10—6溝との新旧関係は不明。

B10—8溝 B区北東部の160—555G～170—565Gに位置する。走向はN—35°—W。確認長17.2m、幅28～120cm、深さ7～18cmで、断面は浅い箱形。

B10—9溝 B区北東部の165—555G～175—560Gに位置する。中央が調査区外に懸かるが、走向はN—34°—W。確認長3.5m+5.8m、幅16～32cm、深さ5～11cmで、断面は浅い皿状。

B10—10溝 B区北東部の170—560Gに位置する。形状はやや不明瞭。走向はN—23°—W。確認長2.6m、幅10～18cm、深さ5cmで、断面は浅い。

B10—12溝 B区北東隅の155—545Gに位置する。走向はN—37°—W。確認長3.4m、幅46～62cm、深さ12～15cmで、断面は皿状。

C6—6溝 C区北東部の235—525G～260—530Gに位置する。形状はやや不明瞭。緩やかに蛇行し、全体の走向はN—3°—W。確認長25.2m、幅20～90cm、深さ6～12cmで、断面は皿状。

C6—8溝 C区中央部から北西部の205—555G～255—565Gに位置する。形状はやや不明瞭。緩やかに蛇行し、全体の走向はN—9°—E。確認長48.6m、幅24～124cm、深さ7～20cmで、断面は皿状。

C6—9溝 C区北西部から西部の230—570G～250—555Gに位置する。形状はやや不明瞭。走向はN—34°—E。確認長16.7m、幅8～96cm、深さ6～12cmで、断面は皿状。

C6—10溝 C区南端の185—570G～190—575Gに位置する。走向はN—41°—W。確認長8.3m、幅48～164cm、深さ12～20cmで、断面は皿状。

D8—1溝 D区東端から北西部の300—475G～320—495Gに位置する。緩やかに蛇行し、全体の走向はN—29°—W。確認長32m、幅32～40cm、深さ4～14cmで、断面は皿状。南でD8—2溝と交差、新旧関係は不明。

D8—2溝 D区東端から西端の310—570G～320—525Gに位置する。南側に大きく弧状に張り、走向はN—73°—W、306—494G付近でN—80°—W、308—513G付近でN—40°—W。確認長44.5m、幅20～46cm、深さ3～12cmで、断面は浅い皿状。

D8—3溝 D区南西端から西端の270—500G～310—535Gに位置する。大きく蛇行し、走向はN—36°—W、279—518G付近でN—55°—W、296—529G付近でN—19°—W。確認長48.4m、幅16～160cm、深さ3～18cmで、断面は皿状。

第3章 各時代の調査

D8—4溝 D区南端から西部の270—525G～285—530Gに位置する。直線的で、走向はN—19°—W。確認長14.5m、幅28～50cm、深さ5～15cmで、断面は逆台形。

D8—5溝 D区西端から北端の325—520G～345—490Gに位置する。中央が南東に弧状に張るが、全体の走向はN—58°—E。確認長37.4m、幅28～44cm、深さ13～23cmで、断面は逆台形。

E10—1溝 E区南東端から南部の365—440G～365—465Gに位置する。中央が北に緩やかに張り、走向はN—67°—W、370—451G付近でN—87°—Eを示す。確認長25.3m、幅32～70cm、深さ2～8cmで、断面は浅い箱形。

E10—2溝 E区東部から北端の390—435G～405—450Gに位置する。走向はN—42°—W。確認長21.6m、幅20～42cm、深さ2～9cmで、断面は逆台形。

E10—3溝 E区中央から西端の365—470G～375—490Gに位置する。走向はN—69°—W。確認長16.8m、幅20～56cm、深さ7～12cmで、断面は浅い皿状。

E10—4溝 E区北東端の400—410G～405—410Gに位置する。走向はN—37°—W。確認長6.1m、幅20～22cm、深さ11cmで、断面は逆台形。

(2) 倒木痕 (第118～120図)

倒木痕はA区で20基、B区13基、C区27基、D区34基、E区24基、計118基を確認した。

(3) 自然河川 (第119・120・122図 PL. 77・78)

自然河川はC区で2条、D区で1条、E区で1条、計4条を確認した。C区では「古代面基底」より下位の調査の際に地形に緩やかな傾斜が見られ、下位に大規模な自然河川の存在が予想されていた。実際、本調査面でこの部分直下からC6—1・2河川が確認されたことで、この2条が後の地形に影響を与えていたことが判明した。

C6—1河川 C区南半を占める大規模なものである。走向は北西から南東。幅は45m以上か。数箇所でもトレンチ調査をした結果、断面からはこの河川が次第に埋まってゆく様子が見られ、また埋土のうちのAs—C (第122図同河川22層) 内部や上下から土器片が多数出土した。そのためこの層を除去して調査したところ、複雑に蛇行する流路を確認した (PL. 77—7・8)。このAs—Cは二次堆積の可能性が高いが夾雑物は少なく、この軽石の降下後の近い時期のものと思われる。そのため、これらの流路はこの自然河川の4世紀初頭の状態と考えられる。

出土した土器の破片は古墳時代の土師器、須恵器であり、器種も多岐にわたっている。

C6—2河川 C区北西端から東端に位置する。走向はN—45°—W。確認長36m、幅5～8m、深さ50cmで、断面は浅い逆台形。

D8—1河川 D区北部を占める大規模なもので、北岸は現道下に掛かり、幅20m以上か。当初は黄褐色砂礫層 (第122図同河川1層) で埋まる幅約2～3mの溝と認識したが、断面観察の結果この状態はこの河川が埋没していく最終段階であることが判った。この河川上に溝1条と倒木4基が確認されている。

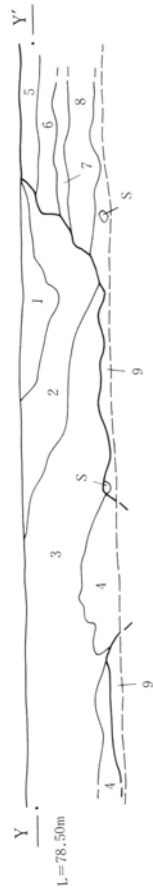
E10—1河川 D区西端から南端に位置する。走向は北西から南東。確認長26m、幅1～5m、深さ50cmで、断面は皿状。E10—3溝を分断しており、この溝より新しいか。

C6-2河川



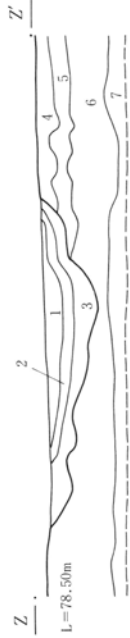
- 1 黑色粘土 大量のAs-Cを含む。
- 2 黑色粘土
- 3 黒褐色粘土
- 4 黑色粘土 大量の砂粒を含む。
- 5 倒木痕

D8-1河川



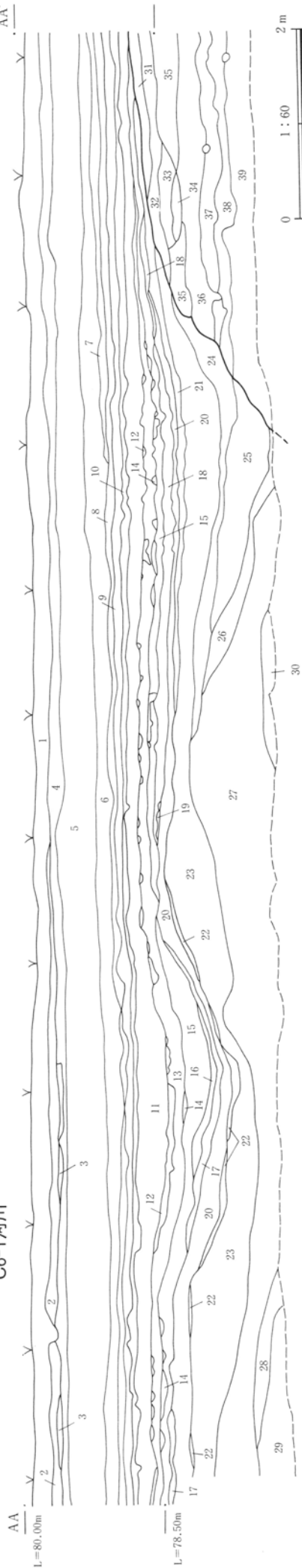
- 1 黄褐色砂礫 (≒50mm) 黒色粘土ブロックを含む。
- 2 黄褐色砂礫 (≒20mm) 鉄分を含む。
- 3 黄褐色砂礫 (≒20mm) 上層は粘性を持つ。黒色や灰褐色の砂が互層堆積する。
- 4 暗黄褐色礫 (≒150mm)

E10-1河川



- 1 黑色粘土 表面は黄灰色を呈する。
- 2 灰色シルト 大量の軽石を含む。
- 3 黒色粘土 最下層は白色を呈する。
- 4 灰色粘土
- 5 灰色シルト 黄色粘土を含む。
- 6 灰色シルト 白色粘土を含む。
- 7 灰白色シルト

C6-1河川



(第119・120図に対応)

第122図 自然河川断面

第3章 各時代の調査

(C 6—1 河川土層注記)		20 黒色粘土	As—Cを含む。 } (XII層)
1 表土	(I層)	21 黒色シルト	As—Cを含む。 }
2 灰褐色土	As—Aを含む。(II層)	22 As—C	二次堆積層?
3 As—A	二次堆積層。	23 黒灰色シルト	砂粒を含む。
4 橙色土		24 暗灰色シルト	
5 灰褐色砂質土	} (III層)	25 暗灰色砂	
6 灰褐色土		26 黒灰色シルト	
7 暗灰褐色土	As—Bを含む。 } (IV層)	27 暗灰色砂	自然木を含む。
8 暗灰色土	As—Bを含む。 }	28 黒灰色砂	自然木を含む。
9 As—B	(V層)	29 黒色シルト	砂礫、自然木を含む。
10 黒色粘土	(VI—1層)	30 砂礫層	
11 灰色粘土	(VI—2層)	31 暗灰色シルト	(XIII層)
12 Hr—FP 泥流	(VII層)	32 灰色シルト	(XIV層)
13 褐色シルト	(IX層)	33 灰色シルト	軽石を大量に含む。
14 Hr—FA	(X層)	34 灰色シルト	黄色粘土、黒色シルトを含む。
15 灰色粘土	(XI層)	35 灰色シルト	黄色粘土を含む。 } (XIV層)
16 黒色土	灰色砂を含む。	36 灰—黒灰色シルト	} (XV層)
17 暗灰色粘土		37 灰色シルト	
18 暗灰色シルト		38 灰白色シルト	軽石を含む。 }
19 灰黄色砂		39 灰白色シルト	礫を含む。 }

3. 遺物 (第123図 PL. 103)

各面から縄文期の石器9点、弥生期のものと思われるガラス製品1点が出土した。出土面ごとに見ると、「古墳時代以前面」の2点の他、古墳時代以前の遺構も含まれる可能性がある「古墳代面基底」からも5点が出土している。しかし、これらの遺物はそれぞれの遺構の時期を決定するものではなく、従って「古墳時代以前面」の遺構を縄文時代の所産とすることはできない。

そこで、本節では出土面が上位の遺物から記載する。なお、1点以外は遺構外出土である。

(1) 「古代面基底」出土

1・2は石鏃である。1は、長3.5cm、短2.9cm、厚0.4cm、重1.6g。硬質頁岩製。A3—4溝出土。2は、長2.4cm、短1.6cm、厚0.4cm、重1.4g。一部欠損か。黒曜石製。3は石槍。長7.7cm、短4.1cm、厚0.9cm、重33.2g。チャート製。4はバチ型打製石斧。長12.0cm、短3.8—6.8cm、厚1.3—1.9cm、重147.9g。粗成輝石安山岩製。5は丸玉。径0.52cm、厚0.36cm。ガラス製。弥生時代か。

(2) 「古墳時代第1面」出土

1はスクレイパーである。長6.4cm、短4.4cm、厚1.1cm、重40.1g。黒色頁岩製。

(3) 「古墳時代第2面」出土

1は石鏃である。長2.2cm、短1.6cm、厚0.3cm、重0.8g。黒曜石製。

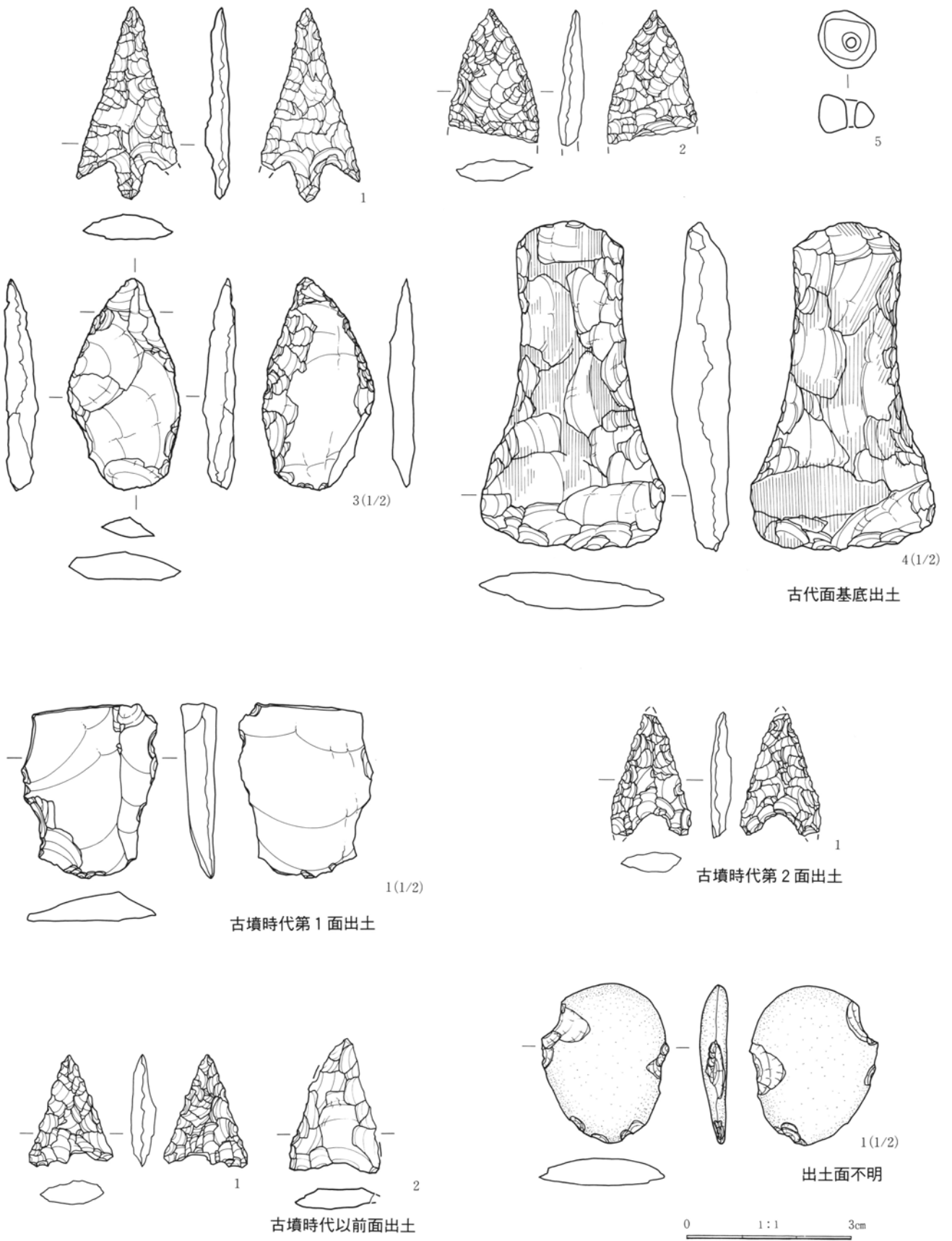
(4) 「古墳時代以前面」出土

1・2は石鏃である。いずれも黒曜石製。1は、長2.1cm、短1.4cm、厚0.5cm、重0.9g。2は、長2.6cm、短1.7cm、厚0.4cm、重1.3g。

(5) 出土面不明

1は石錘か。長5.8cm、短4.6cm、厚1.0cm、重32.7g。硬質頁岩製。

第6節 古墳時代以前の遺構と遺物



第123図 古墳時代以前の遺物

第4章 自然科学分析

〔自然科学分析の目的〕

本遺跡の発掘調査では、テフラ層や火山性泥流層、洪水層などを手掛かりとして、10以上の調査面で遺構を確認した。そこで調査面や遺構、遺物包含層の時期を判断する目的でテフラ・土層分析を行った。試料採取地点は第2・3・6～11・21～23の各地点である。(第9～20地点でも参考として土壌を採取した。)

また、確認された遺構は各時代の水田跡が中心であるが、実際に機能していたのかが不明な部分もある。さらに本遺跡周辺の開田の時期はつかめなかった。そこで、これらを推定する目的で各土層の植物珪酸体(プラントオパール)分析を実施した。新たな時期の水田跡が確認されたり、同時期の水田跡でも異なった状態が見つかったりした場合、必要に応じて試料を採取した。それぞれの目的や内容を以下に示す。

① As—A 混土下水田の農具痕が残存する区画の性格の推定。

【地点】 As—A 混土下水田B区のB1—4区画(第1地点)・B1—10区画(第2地点)

【内容】 この水田跡は「水田基底部」と判断したが、農具痕の残る区画の性格は特定できなかった。そこで、農具痕の覆土、即ち水田耕土と考えた土層(第1地点)、また「水田基底部」と考えた土層(第2地点)からそれぞれ試料を採取した。

② As—A 混土水田以前の水田耕作の可否の推定。

【地点】 「中世第2面の2」B区のB6—2土坑の壁面(第3地点)、「古代面基底」B区2カ所(第4・5地点)、「古墳時代以前面」、C区壁面3カ所(第6～8地点)

【内容】 B6—2土坑壁面では、As—B下水田以下の土層状態が良好であるため試料を採取した(第3地点)。「古代面基底」では水田跡の可能性もある遺構が確認された。そこで耕土と思われる部分(第4地点)と畦畔と思われる部分(第5地点)からそれぞれ試料を採取した。またC区の「古墳時代以前面」C6—1河川の上位ではA区やB区では殆ど残存していない古墳時代の土層が堆積している。これらの直下から残存度の低い水田痕跡を確認したため、各地点で試料を採取した(第6～8地点)。

③ As—B下水田に於ける足跡の残存する区画とその他の区画の水田耕作の可否の推定。

【地点】 As—B下水田D区壁面(第9～20地点)

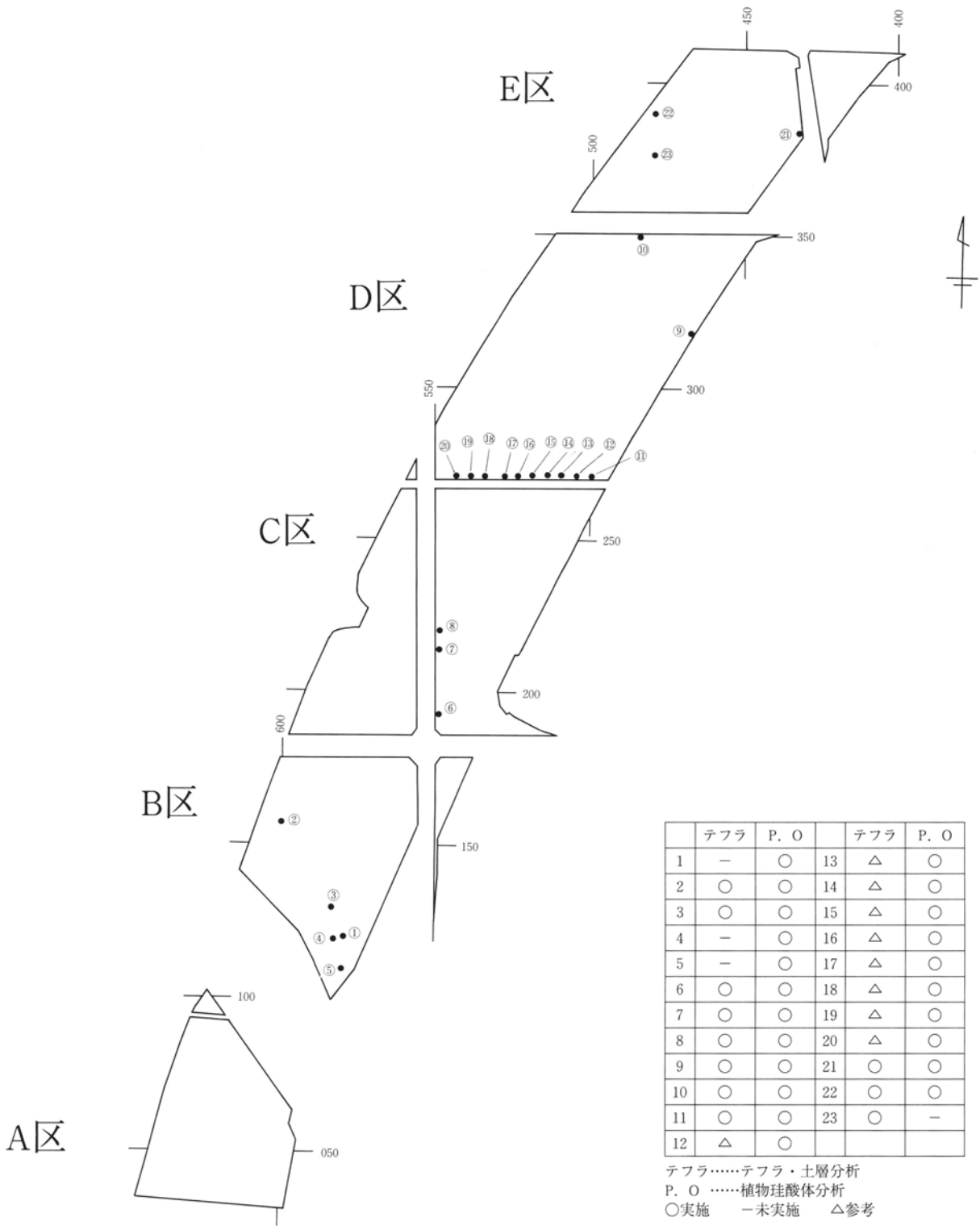
【内容】 As—B下水田のC区・D区では人間やウマの足跡が残存する区画が西側に連続している。そのため、この水田はAs—Bで埋没する時点でこれらの区画以外は既に放棄されていた可能性も考えられた。この点の推定には、より広範囲から試料を採取する必要がある、特にD区南壁では狭い間隔で採取地点を設定した。

④ 本遺跡の各土層に於ける水田耕作の可否の推定。

【地点】 E区東壁(第21地点)・E区西壁(第22地点)

【内容】 E区は本遺跡のなかで最も多くの土層が堆積しており、確認された水田跡も多い。そのためこの区の東西両壁の多数の土層から試料を採取した。

以上、各分析は株式会社古環境研究所に業務委託をして行った。その分析結果報告を以下に掲載する。このなかには遺構に対する見解など編著者とは異なる部分もあるので了解されたい。(各試料採取地点の位置は第124図を参照。)



第124図 宿横手三波川遺跡自然科学分析ポイント図

群馬県、宿横手三波川遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 宿横手三波川遺跡の土層とテフラ

1. はじめに

群馬県域の完新世に形成された火山灰土には、浅間火山や榛名火山をはじめとする関東地方とその周辺に分布する火山のほか、九州地方の鬼界カルデラなど遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。そこで起源が不明なテフラ層や形成年代の不明な土層などが認められた宿横手三波川遺跡において、地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、テフラ検出分析を行って示標テフラの層位を把握し、土層の堆積年代に関する資料を収集することになった。

調査の対象となった地点は、第2地点、第3地点、第6地点、第7地点、第8地点、第9地点、第10地点、第11地点、さらに第21地点、第22地点、第23地点の合計11地点である。

2. 土層の層序

(1) 第2地点

第2地点では、下位より暗灰色粗粒火山灰混じり暗灰色砂質土（層厚5cm以上）、黄褐色砂質土（層厚4cm）、白色軽石混じり灰色砂質土（層厚16cm、軽石の最大径8mm）、褐色土（層厚7cm）、白色軽石混じり灰色砂質土（層厚13cm、軽石の最大径12mm）、黄色砂層（層厚2cm）、灰色土（層厚5cm）、灰白色軽石層^g（層厚2cm）が認められる（図表1）。

これらの土層のうち、最下位の土層中に含まれる暗灰色粗粒火山灰は、その岩相や層位などから1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B, 新井, 1979）に由来すると考えられる。また最上位の灰白色軽石層は、層相から1783（天明3）年に浅間火山から噴出した浅間A軽石（As-A, 荒牧, 1968）に同定される。

(2) 第3地点

第3地点では、下位より灰色土（層厚5cm以上）、暗灰色土（層厚6cm）、灰色軽石混じり暗灰色土（層厚3cm、軽石の最大径5mm）、基底に白色軽石を含む灰色シルト層（層厚16cm、軽石の最大径18mm）、黒色粘質土（層厚3cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）が認められる（図表1）。これらの土層のうち、最上位の暗灰色粗粒火山灰層は、その層相からAs-Bに同定される。

(3) 第6地点

第6地点では、下位より黒灰色粘質土（層厚10cm以上）、黒褐色粘質土（層厚10cm）、灰色軽石に富む黒褐色粘質土（層厚2cm、軽石の最大径3mm）、灰色軽石混じり黒色粘質土（層厚7cm）、灰色粘質土（層厚5cm）、灰色がかった黄色火山灰層（層厚2cm）、灰色粘質土（層厚9cm）、黒色土（層厚0.3cm）、灰白色細粒火山灰層（層厚0.3cm）、黒色土（層厚0.1cm）、桃色シルト層（層厚3cm）、白色軽石混じり灰白色砂層（層厚3cm、軽石の最大径3mm）、円磨された白色軽石に富む灰色粘質土（層厚14cm、軽石の最大径3mm）、黒褐色泥層（層厚2cm）、成層したテフラ層（層厚5.8cm）、黒褐色砂質土（層厚1cm）、暗灰色砂質土（層厚12cm）、黄灰色粗粒火山灰および白色軽石（最大径3mm）混じり灰色土（層厚21cm）、褐色がかった灰色砂層（層厚8cm）、

灰色砂層（層厚 5 cm）、灰色がかった褐色砂質土（層厚 7 cm）、黄褐色砂層（層厚 2 cm）、灰色土（層厚 15 cm）、暗灰色表土（層厚 14 cm）が認められる（図表 1）。

これらの土層のうち、黒褐色粘質土中に多く含まれる灰色軽石は、その特徴から 4 世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間 C 軽石（As-C, 新井, 1979）に由来すると考えられる。また灰白色細粒火山灰層は、層相から 6 世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ層（Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）の最上部に同定される。さらに成層したテフラ層は、下位より粗粒の褐色軽石混じり黄灰色細粒軽石層（層厚 2 cm, 軽石の最大径 12 mm）、桃褐色細粒軽石層（層厚 1 cm, 軽石の最大径 2 mm）、黒灰色粗粒火山灰層（層厚 0.8 cm）、黄色細粒軽石層（層厚 2 cm, 軽石の最大径 2 mm）から構成される。このテフラ層は、As-B に同定される。

(4) 第 7 地点

第 7 地点では、埋没した谷の断面を観察することができた。谷の基盤にあたる土層としては、下位より灰色や赤桃色の角礫を多く含む泥流堆積物（層厚 5 cm 以上, 礫の最大径 54 mm）、黄色軽石混じり灰白色シルト層（層厚 16 cm, 軽石の最大径 7 mm）、灰白色シルト層（層厚 15 cm）、白色軽石に富む灰白色シルト層（層厚 8 cm, 軽石の最大径 3 mm）、灰白色シルト層（層厚 14 cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚 24 cm）、風化の進んだ灰白色シルト層（層厚 24 cm）の連続が認められる（図表 1）。

埋没谷の覆土としては、下位より木本類の植物遺体に富む暗褐色泥炭層（層厚 13 cm）、木本類の植物遺体を少量含む黒灰色泥炭層（層厚 24 cm）、砂混じり黒灰色泥層（層厚 12 cm）、葉理の発達した灰色砂層（層厚 28 cm）、黒灰色泥炭層をレンズ状に挟む灰色砂層（層厚 23 cm）、黒灰色泥炭層（層厚 9 cm）、灰色軽石層（層厚 3 cm, 軽石の最大径 6 mm）、黒灰色泥炭層（層厚 12 cm）、黒泥層（層厚 3 cm）、灰色砂層（層厚 1 cm）、暗灰色粘質土（層厚 3 cm）、灰色粘土層（層厚 7 cm）、葉理の発達した灰色砂層（層厚 8 cm）、若干色調の暗い灰色粘土層（層厚 20 cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚 3 cm）、灰色砂質土（層厚 11 cm）、黒色土（層厚 0.2 cm）、灰白色細粒火山灰層（層厚 0.2 cm）、黒色土（層厚 0.1 cm）、黄桃色シルト層（層厚 6 cm）、白色軽石混じり黄灰色砂質土（層厚 7 cm, 軽石の最大径 3 mm）、白色軽石混じり灰色粘質土（層厚 25 cm, 軽石の最大径 4 mm）、黒色粘質土（層厚 5 cm）、成層したテフラ層（層厚 8 cm）が認められる。

成層したテフラ層の上位には、さらに下位より黒褐色砂質土（層厚 2 cm）、暗灰色砂質土（層厚 4 cm）、灰色土（層厚 21 cm）、黄灰色砂層（層厚 3 cm）、灰褐色土（層厚 11 cm）、灰色土（層厚 9 cm）、灰色砂層（層厚 1 cm）、灰色土（層厚 6 cm）、黄色土（層厚 3 cm）、灰色土（層厚 2 cm）、黄色砂層（層厚 1 cm）、黄褐色土（層厚 5 cm）、白色軽石層（層厚 2 cm, 軽石の最大径 4 mm）、白色軽石混じり褐色土（層厚 13 cm, 軽石の最大径 4 mm）、灰色表土（層厚 14 cm）が認められる。

埋没谷の基盤にあたる土層のうち最下位の泥流堆積物は、その層相や層位などから、約 2 万年前^{*1}に浅間火山で発生した山体崩壊に由来する前橋泥流堆積物（新井, 1964, 早田, 1990）に同定される。その上位の土層中に含まれる黄色軽石は、その岩相から、約 1.9~2.4 万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 1994, 未公表資料）に由来すると考えられる。その上位の白色軽石については、その層位や岩相などから、約 1.7 万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第 1 軽石（As-Ok 1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1994）に由来すると考えられる。さらに灰色粗粒火山灰層は、その層相から約 1.3~1.4 万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992）に同定される。

谷の覆土のうち灰色軽石層は、その層相から As-C に同定される。また灰白色細粒火山灰層は、層相から

第4章 自然科学分析

Hr-FPの最上部に同定される。成層したテフラ層は、As-Bに同定される。さらに白色軽石層は、層位や層相から、As-Aに同定される。

(5) 第8地点

第8地点でも、谷を埋没させた土層を観察できた。ここでは、黒褐色粘質土（層厚5cm以上）の上位に、下位より灰色軽石混じり黒色粘質土（層厚13cm、軽石の最大径4mm）、黄色砂層（層厚3cm）、暗灰色砂質土（層厚3cm）、灰色粘質土（層厚6cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚3cm）、灰色粘質土（層厚5cm以上）が認められた（図表1）。これらのうち、黒色粘質土中に含まれる灰色軽石は、その岩相からAs-Cに由来すると考えられる。また黄灰色粗粒火山灰層は、第6地点や第7地点において、Hr-FPの下位に認められた灰色がかった黄色または黄色の粗粒火山灰層と同一と判断される。

(6) 第9地点

第9地点では、下位より白色軽石混じり灰色土（層厚10cm）、灰色粘質土（層厚7cm）、灰色軽石混じり黒灰色土（層厚4cm、軽石の最大径6mm）、灰色粘質土（層厚4cm）、白色軽石混じり黄灰色細粒火山灰層（層厚3cm、軽石の最大径2mm）、灰色土（層厚13cm）、黒泥層（層厚0.3cm）、桃色シルト層（層厚0.3cm）、黒泥層（層厚0.1cm）、黄白色細粒火山灰層（層厚0.3cm）、黒泥層（層厚0.1cm）、黄白色シルト層（層厚7cm）、黄色砂層（層厚6cm）、灰白色シルト層（層厚6cm）、灰色粘質土（層厚8cm）、成層したテフラ層（層厚6.8cm）、暗灰色土（層厚3cm）、灰色砂質土（層厚10cm）、黄褐色砂層（層厚6cm）、灰色砂質土（層厚23cm）、褐灰色土（層厚12cm）、灰色土（層厚6cm）、黄褐色土（層厚5cm）、灰色土（層厚5cm）、黄褐色土（層厚4cm）、灰色表土（層厚13cm）が認められた（図表2）。

これらの土層のうち、黒灰色土中に多く含まれている灰色軽石は、その岩相から4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C、新井、1979）に由来すると考えられる。またその上位の白色軽石混じり黄灰色細粒火山灰層は、層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ層（Hr-FA、新井、1979、坂口、1986、早田、1989、町田・新井、1992）に同定される。

Hr-FAの上位の黄白色細粒火山灰層は、その層相からHr-FPの最上部に同定される。したがって、その上位の黄色シルト層は、その層位からHr-FPの堆積に伴って発生した火山泥流堆積物（早田、1989）の可能性が非常に大きい。

成層したテフラ層は、下位より灰色砂質細粒火山灰層（層厚0.2cm）、褐色軽石混じり灰色粗粒火山灰層（層厚1cm、軽石の最大径7mm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚0.4cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚0.8cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚0.4cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、桃色細粒火山灰層（層厚1cm）からなる。このテフラ層は、その層相からAs-Bに同定される。

発掘調査では、Hr-FPに伴う火山泥流堆積物の直下およびAs-B直下から、畦畔遺構が検出されている。

またAs-Cの上位の黄褐色砂層直下からは、農具痕が検出されている。

(7) 第10地点

第10地点では、黒灰色粘質土（層厚5cm以上）、暗灰色土（層厚4cm）、灰色軽石に富む黒灰色土（層厚6cm、軽石の最大径7mm）、灰色粘質土（層厚9cm）、黄色細粒火山灰層（層厚0.5cm）、灰色砂層（層厚3cm以上）が認められた（図表2）。

これらの土層のうち、黒灰色土中に多く含まれている灰色軽石は、その岩相からAs-Cに由来すると考えられる。またその上位の黄色細粒火山灰層は、層相からHr-FAに同定される。

(8) 第11地点

第11地点では、黒灰色粘質土（層厚 5 cm 以上）、褐色がかかった灰色土（層厚 9 cm）、灰色軽石に富む暗灰色土（層厚 5 cm、軽石の最大径 7 mm）、灰色粘質土（層厚 5 cm）、黄灰色細粒火山灰層（層厚 0.4 cm）、砂混じり灰色土（層厚 9 cm）、黒灰色土（層厚 0.2 cm）、黄白色細粒火山灰層（層厚 0.2 cm）、黒灰色土（層厚 0.1 cm）、黄白色シルト層（層厚 3 cm）、円磨された白色軽石混じり灰白色シルト層（層厚 14 cm）、若干色調の暗い灰色粘質土（層厚 7 cm）、As-B（層厚 6 cm）が認められた（図表 2）。

これらの土層のうち、黒灰色土中に多く含まれている灰色軽石は、その岩相から As-C に由来すると考えられる。また、その上位の黄灰色細粒火山灰層は、層相から Hr-FA に同定される。さらにその上位の黄白色細粒火山灰層は、その層相から Hr-FP の最上部に同定される。したがって、その上位のシルト層は、その層位から Hr-FP の堆積に伴って発生した火山泥流堆積物の可能性が大きい。

(9) 第21地点

第21地点では下位より緑色泥流堆積物（層厚 5 cm 以上、石質岩片の最大径 34 mm）、灰色砂質土（層厚 5 cm）、黄色砂質土（層厚 13 cm）、灰白色砂質土（層厚 19 cm）、白色軽石混じり灰色砂質土（層厚 17 cm、軽石の最大径 6 mm）、白色軽石を少量含む灰色土（層厚 7 cm、軽石の最大径 4 mm）、灰白色シルト層（層厚 5 cm）、成層したテフラ層（層厚 25 cm）、凝灰質白色砂質シルト層（層厚 17 cm）、暗灰色砂質土（層厚 11 cm）、白色細粒軽石に富む暗灰色土（層厚 8 cm）、暗灰色粘質土（層厚 11 cm）、暗褐色土（層厚 4 cm）、暗灰色土（層厚 5 cm）、灰色軽石混じり暗灰色土（層厚 5 cm、軽石の最大径 5 mm）、灰色粘質土（層厚 11 cm）、黄色細粒火山灰層（層厚 2 cm）、黄灰色粘質土（層厚 12 cm）、黒灰色土（層厚 0.2 cm）、黄白色細粒火山灰層（層厚 0.3 cm）、桃白色シルト層（層厚 7 cm）、層理の発達した灰色砂層（層厚 18 cm）、桃色シルト層（層厚 3 cm）、層理の発達した黄色砂層（層厚 15 cm）、円磨された白色軽石混じり灰色粘質土（層厚 9 cm）、灰色粗粒火山灰混じり暗灰色砂質土（層厚 17 cm）、灰色土（層厚 9 cm）、黄色砂層（層厚 4 cm）、褐色砂質土（層厚 5 cm）、円磨された白色軽石混じり灰色土（層厚 16 cm、軽石の最大径 17 mm）、黄灰色砂質土（層厚 22 cm）、白色軽石混じり灰色砂質土（層厚 13 cm、軽石の最大径 6 mm）、灰色盛土（層厚 12 cm）が認められた（図表 2）。

発掘調査では、これらのうち、灰色軽石が多く含まれる暗灰色土の下位から疑似畦畔が、その上位の灰色粘質土、黄色細粒火山灰層、黄白色細粒火山灰層、黄色砂層の 4 層準から畦畔が検出されている。また、その上位の黄灰色砂層および上位より 2 層目の白色軽石混じり灰色砂質土の基底からは、農具痕が検出されている。後者の畠の年代は、白色軽石の降灰後と考えられる。

最下位の泥流堆積物は、層相から前橋泥流堆積物に同定される。成層したテフラ層は、下部の灰色粗粒火山灰層（層厚 19 cm）と上部の成層した灰白色細粒火山灰層（層厚 6 cm）から構成されている。このテフラ層は、その層相から As-YP に同定される。黄色細粒火山灰層は、その層相から Hr-FA に同定される。その上位の黄白色細粒火山灰層は、層相から Hr-FP の最上部に同定される。Hr-FP の上位には、砂層やシルト層など洪水堆積物が認められる。これらは、Hr-FP の堆積に伴って発生した火山泥流堆積物と考えられる。

暗灰色砂質土中に多く含まれる灰色粗粒火山灰は、その層位や岩相から、As-B に由来すると考えられる。また、上位より 2 層目の灰色砂質土中に含まれる白色軽石は、比較的よく発泡しており、班晶に斜方輝石や単斜輝石が認められる。このことから、As-A に由来すると考えられる。

(10) 第22地点

第22地点では、下位より灰色粘質土（層厚 12 cm）、暗灰色土（層厚 11 cm）、成層したテフラ層（層厚 10 cm）、暗灰褐色砂質土（層厚 3 cm）、灰色砂質土（層厚 13 cm）、灰白色砂質土（層厚 13 cm）、黄灰色砂質土（層厚 25 cm）、灰色表土（層厚 13 cm）が認められた（図表 2）。

第4章 自然科学分析

発掘調査では、これらのうち、上位より3層目の灰白色砂質土の直下（中世2面）から畠遺構が、またその上位の黄灰色砂質土の直下（中世1面）からは畦畔が検出されている。成層したテフラ層は、下位より青灰色細粒火山灰層（層厚0.2cm）、褐色軽石混じり黄灰色粗粒火山灰層（層厚1cm、軽石の最大径8mm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）、桃褐色粗粒火山灰層（層厚2cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚6cm）からなる。このテフラ層は、その層相からAs-Bに同定される。

(1) 第23地点

第23地点では、下位より灰色シルト層（層厚2cm以上）、成層したテフラ層（層厚33cm）、黄灰色砂層（層厚7cm）、乳白色シルト層（層厚3cm）、黒泥層（層厚9cm）、白色軽石混じり灰色粗粒火山灰層（層厚8cm、軽石の最大径5mm）、黒灰色泥層（層厚6cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚0.4cm）、黒灰色泥層（層厚5cm）が認められた（図表2）。

これらのうち、成層したテフラ層は、下部の灰色粗粒火山灰層（層厚27cm）と上部の成層した黄白色細粒火山灰層（層厚6cm）から構成されている。このテフラ層は、その層相からAs-YPに同定される。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

第3地点の土層断面において、As-Bの下位より採取された土壌試料を対象にテフラ検出分析を行い、示標テフラの層位を求めて土層の堆積年代に関する資料を収集することにした。試料は基本的に5cmごとに採取された試料の2点である。また、第6地点、第7地点、第8地点の3地点において採取されたテフラ層および洪水堆積物の試料4点についても、テフラ検出分析を行ってテフラ粒子の特徴から示標テフラとの同定を行うとともに、洪水堆積物の年代に関する資料を収集することを試みた。さらに、E区において、起源の不明な軽石および肉眼で認められなかったテフラの検出を目的として、テフラ検出分析を行うことになった。分析の対象となった試料は、第21地点から採取された7試料である。テフラ検出分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。第3地点の試料4には、スポンジ状によく発泡した灰白色軽石（最大径1.3mm）が少量含まれている、この軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その特徴からAs-Cに由来すると考えられる。

一方、試料2には、このAs-C起源の軽石のほかに白色の軽石（最大径1.2mm）が含まれている。軽石の発泡はあまりよくなく、斑晶に角閃石や斜方輝石が認められる。なお試料3付近に認められた白色軽石も、同じテフラに由来すると考えられる。これらの軽石は、その岩相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳洪川テフラ（Hr-FA、新井、1979、坂口、1986、早田、1989、町田・新井、1992）に由来すると考えられる。以上のことから、試料4付近にAs-C、また試料3付近にHr-FAの各々の降灰層準がある可能性が考えられる。

第6地点の試料1には、あまり発泡のよくない白色軽石（最大径1.2mm）が比較的多く含まれている。軽

石の班晶としては角閃石や斜方輝石が認められる。これらの特徴から、試料1のテフラ層は、Hr-FAに同定される。

第7地点の試料2の砂層中には、比較的良好に発泡した灰白色軽石（最大径1.9mm）が多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その特徴からAs-Cに由来すると考えられる。また試料1には、あまり発泡のよくない白色軽石（最大径1.2mm）が比較的多く含まれている。軽石の班晶としては、角閃石や斜方輝石が認められる。これらの特徴から、試料番号1のテフラ層は、Hr-FAに同定される。

第8地点の試料1の砂層には、比較的良好に発泡した灰白色軽石（最大径3.3mm）が比較的多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その特徴からAs-Cに由来すると考えられる。

第21地点の試料13には、スポンジ状に細かく発泡した白色軽石（最大径2.1mm）が比較的多く含まれている。軽石の班晶には斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その層位や岩相などから、As-BP Groupに由来する可能性が大きい。試料3には、スポンジ状に比較的良好に発泡した灰白色軽石（最大径2.3mm）が比較的多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その層位や岩相などから、As-Cに由来すると考えられる。産状から、この試料3付近にその降灰層準があると思われる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

示標テフラとの同定を行うために、第21地点の試料番号12と9、さらに第23地点の試料番号2と1の4試料について、位相差法（新井，1962）により屈折率の測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を表2に示す。第21地点の試料番号12に含まれる火山ガラスの屈折率（ n ）は、1.501-1.503である。重鉱物としては、斜方輝石のほかに単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.704-1.709である。この試料に含まれるテフラは、その特徴からAs-Ok1に由来すると考えられる。

第21地点の試料番号9には、重鉱物として斜方輝石のほかに単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.706-1.711である。このテフラは、その層位や斜方輝石の屈折率などから、約1.1万年前*¹に浅間火山から噴出した浅間総社軽石（As-Sj，早田，1990，1996）に同定される可能性が大きい。E区10面自然河川断面の試料番号2にも、重鉱物として斜方輝石のほかに単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.706-1.711である。このテフラも、その層位や斜方輝石の屈折率などから、As-Sjに同定される可能性が大きい。E-1区10面自然河川断面の試料番号1には、斜方輝石や単斜輝石が少量含まれている。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.704-1.709である。As-Sjのすぐ上位にあり、若干低い斜方輝石の屈折率をもつテフラはこれまでに知られていない。層厚が薄いために、水成あるいは風成再堆積層の可能性もあるものの、従来知られていないテフラの可能性も残される。

5. 考察—洪水堆積物の層位について

宿横手三波川遺跡における土層観察の結果、多くの層準に洪水堆積物および洪水堆積物起源の粒子をとくに多く含む土層を観察することができた。洪水堆積物は、As-Cの上位でHr-FAの下位、Hr-FPの上位でAs-Bの下位、As-Bの上位でAs-Aの下位にある。これらのうちHr-FPの上位でAs-Bの下位にあるものに

第4章 自然科学分析

については、Hr-FPとの間に黒色土の薄層は認められるものの、火砕流堆積物に由来する桃色細粒物質を多く含む層相や他の地点でも同様な層位にあることなどから、Hr-FPの堆積に伴って発生した火山泥流(早田, 1989, 1995)に対比される。その上位には、洪水堆積物起源の粒子をとくに多く含む灰色砂質土が存在する、Hr-FPの火山泥流堆積物との間に明瞭な層界が認められる。これらのことから、この灰色砂質土については、火山泥流発生後しばらく時間が経過してから形成された可能性も考えられる。なお、Hr-FAの上位でHr-FPの下位にも灰色砂質土が認められた。この土層の母材については、Hr-FAの堆積に伴って発生した火山泥流(早田, 1989)に由来する可能性が考えられる。

6. 小 結

宿横手三波川遺跡において地質調査とテフラ検出分析を合わせて行った。その結果、下位より前橋泥流堆積物(約2万年前^{*1})、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.8~2.1万年前^{*1})、浅間大窪沢第1軽石(As-Ok1, 約1.7万年前^{*1})、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前^{*1})、浅間総社軽石(As-Sj, 約1.1万年前^{*1})、浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)、榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、浅間A軽石(As-A, 1783年)のテフラ層あるいはテフラ粒子を検出することができた。さらに、河川の氾濫に由来すると思われる砂層が、As-Cの上位でHr-FAの下位、Hr-FPの上位でAs-Bの下位、As-Bの上位でAs-Aの下位に各々認められた。

D区における発掘調査により検出された畦畔遺構の層位は、少なくともHr-FPに伴う火山泥流堆積物直下、As-B直下、As-Bの上位の黄褐色砂層の直下の3層準にある。またAs-Bの上位の黄褐色砂層の直下からは、畠遺構も検出されている。E区における発掘調査では、As-C混じりの土層直下から疑似畦畔が、As-Cの上位でHr-FAの下位の灰色粘質土、Hr-FA、Hr-FP、As-Bの上位でAs-Aの下位にある洪水砂層の直下(中世2面)、As-Bの上位でAs-Aの下位にある砂質土の直下(中世1面)で畦畔遺構が検出されている。また、砂質土の直下(中世1面)およびAs-A混じりの灰色砂質土の直下から、畠遺構や復旧痕が検出されている。

文 献

- 新井房夫(1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫(1967) 前橋泥流の噴出年代と岩宿I文化期-日本の第四紀層の¹⁴C年代XXXIII-. 地球科学, 70, p.37-38.
- 新井房夫(1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定-テフロクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫(1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
- 新井房夫(1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法」, 東京大学出版会, p.138-149.
- 荒牧重雄(1968) 浅間火山の地質. 地団研専報, no.14, p.1-45.
- 町田洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984) テフラと日本考古学-考古学研究に関するテフラのカタログ. 古文化財科学会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984) 浅間火山, 黒班~前掛期のテフラ層序. 日本第四紀学会講演要旨集,

no.14, p.69-70.

坂口一 (1986) 榛名二ツ岳起源 FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.

早田勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.

早田勉 (1990) 群馬県の自然と風土. 群馬県史通史編, 1, p.37-129.

早田勉 (1994) 群馬の示標テフラと自然環境. 笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会編「群馬の岩宿時代の変遷と特色予稿集」, p.20-24.

早田勉 (1995) 古墳時代の榛名山大噴火と災害. 速水融・町田洋編「文明と環境—人口・疾病・災害」, p.105-113, 朝倉書店.

*1:放射性炭素(14C)年代.

表1 宿横手三波川遺跡におけるテフラ検出分析結果

地区	地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
B区	第3地点	2	++	白, 灰白	1.3, 1.2
		4	+	灰白	1.3
C区	第6地点	1	++	白	1.2
C区	第7地点	1	++	白	1.2
		2	+++	灰白	1.9
C区	第8地点	1	++	灰白	3.3
E区	第21地点	1	+	灰白	2.4
		3	++	灰白	2.3
		4	-	-	-
		5	-	-	-
		7	-	-	-
		11	-	-	-
		13	++	白	2.1

++++:とくに多い, ++++:多い, ++:中程度, +:少ない, -:認められない. 最大径の単位は, mm.

表2 宿横手三波川遺跡における屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス(n)	鉱物	斜方輝石(γ)
第21地点	9	-	opx>cpx	1.706-1.711
第21地点	12	1.501-1.503	opx>cpx	1.704-1.709
第23地点	1	-	(opx, cpx)	1.704-1.709
第23地点	2	-	opx>cpx	1.706-1.711

opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石. ()は量の少ないことを示す. 屈折率の測定は, 温度一定型位相差法(新井, 1972, 1993)による.

II. 宿横手三波川遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（ SiO_2 ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，1987）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

宿横手三波川遺跡の発掘調査では、複数の層準から水田遺構や畠遺構が検出された。ここでは、これらの遺構におけるイネおよびイネ科栽培植物の検討を主目的として分析を行った。

2. 試料

試料は、第1地点から第22地点の22地点から採取された計74点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾（ 105°C ・24時間）
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスビーズ添加（直径約 $40\mu\text{m}$ ・約0.02g）
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法（ 550°C ・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散（300W・42KHz・10分間）
- 5) 沈底法による微粒子（ $20\mu\text{m}$ 以下）除去、乾燥
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5}g ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ヒエ属型（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属型（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属は0.75である。

4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図表3～図表6に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。なお、B区の第1地点と第2地点を除く各地点については、水田跡の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。

[イネ科]

イネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族

[イネ科-タケ亜科]

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（おもにクマザサ属）、マダケ属型（マダケ属、ホウライチク属）、タケ亜科（未分類等）

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

5. 考 察

(1) 稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、群馬県内では密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出されていることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

表1 宿横手三波川遺跡におけるイネの植物珪酸体（プラント・オパール）の検出状況

記号：◎5,000個/g以上，○3,000個/g以上，△3,000個/g未満，×未検出，－該当試料なし

層準\地点	B区					C区			E区	
	1	2	3	4	5	6	7	8	21	22
As-A 混	◎	－	－	－	－	－	－	－	◎	－
As-A 直下	－	◎	－	－	－	－	－	○	◎	－
As-B 直下	－	－	◎	－	－	○	－	－	－	◎
Hr-FP 直下	－	－	－	－	－	△	－	－	△	－
Hr-FA 直下	－	－	－	△	△	△	○	－	◎	－
As-C 混	－	－	△	－	－	×	×	－	△	－
As-C 下	－	－	－	－	－	×	－	－	△	－

層準\地点	D区											
	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
As-B 直下	◎	－	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Hr-FP 泥流直下	◎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
Hr-FP 直下	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
Hr-FA 直下	△	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
As-C 混	×	×	△	－	－	－	－	－	－	－	－	△
As-C 下	×	×	×	－	－	－	－	－	－	－	－	×

1) 第1地点

As-A 混の復旧痕（試料1）について分析を行った。その結果、イネが9,700個/gと高い密度で検出された。

第4章 自然科学分析

したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

2) 第2地点

As-A直下層(試料1)について分析を行った。その結果、イネが5,100個/gと高い密度で検出された。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

3) 第3地点

As-B直下層(試料0)からAs-Cの下層(試料4)までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料0)、Hr-FA混層(試料1)、As-C混層(試料2)からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料0)とHr-FA混層(試料1)では、密度が6,000個/gおよび7,900個/gと高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

As-C混層(試料2)では密度が1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

4) B区 Hr-FA 洪水直下層

第4地点と第5地点から採取された2試料について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。密度は前者で1,600個/g、後方で2,300個/gといずれも比較的低い値である。ただし、同層は直上をHr-FA洪水層で覆われていることから、上層から後代のものが混入したとは考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

5) 第6地点

現表土の下層(試料1)からAs-Cの下層(試料14)までの層準について分析を行った。その結果、現表土の下層(試料1)からAs-C直上層(試料11)までの各層からイネが検出された。このうち、As-Bの下層(試料7)では密度が12,000個/gと極めて高い値であり、明瞭なピークが認められた。また、As-Bの上層(試料2、3)やAs-B直下層(試料6)でも密度が3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の層準では、密度が800~2,300個/gと比較的高い値である。

6) 第8地点

Hr-FA直下層(試料1)からAs-C直下層(試料3)までの層準について分析を行った。その結果、Hr-FA直下層(試料1)とAs-C直上層(試料2)からイネが検出された。このうち、前者では密度が3,800個/g、後者でも3,700個/gといずれも比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

7) 第7地点

As-A直下層(試料1)とその下層(試料2)について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、前者では密度が3,800個/g、後者でも4,600個/gといずれも比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

8) 第9地点

As-B直下層(試料1)からAs-Cの下層(試料7)までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料1)からAs-C直上層(試料4)までの各層からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料1)では密度が5,100個/g、Hr-FPに伴う火山泥流堆積物直下(試料2)でも6,000個/gといずれも高い値である。また、Hr-FP直下(試料3)でも3,000個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層で

は稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。Hr-FA直下(試料4)では密度が700個/gと低い値である。

9) 第10地点

Hr-FA直下層(試料1)からAs-Cの下層(試料7)までの層準について分析を行った。その結果、Hr-FA直下(試料1)からイネが検出された。密度は3,000個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

10) 第11地点

As-B直下層(試料1)、As-C混層(試料2)、As-Cの下層(試料3、4)について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料1)とAs-C混層(試料2)からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料1)では密度が5,100個/gと高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-C混層(試料2)では密度が800個/gと低い値である。

11) 第12地点～第19地点

As-B直下層から採取された8試料について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。密度は5,900～8,800個/gと高い値である。したがって、これらの地点では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

12) 第20地点

As-B直下層(試料1)からAs-Cの下層(試料5)までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料1)、As-B下層(試料2)、As-C混層(試料3)からイネが検出された。このうち、As-B下層(試料2)では密度が10,400個/gとかなり高い値であり、As-B直下層(試料1)でも6,800個/gと高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-C混層(試料3)では密度が800個/gと低い値である。

13) 第21地点

As-A混層(試料1)からAs-Cの下層(試料12)までの層準について分析を行った。その結果、As-A混層(試料1)からAs-C混層(試料10)までの各層からイネが検出された。このうち、As-A混層(試料1)、As-A下層(試料3)、As-B混層(試料5)、Hr-FA直下層(試料8)では密度が5,300～6,600個/gと高い値であり、As-A下層(試料2)とAs-Bの上層(試料4)でも3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の層では、密度が700～2,200個/gと比較的低い値である。

14) 第22地点

As-Bの上層(試料1)からAs-B直下層(試料4)までの層準について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料4)では密度が9,100個/g、As-Bの上層(試料1、2)でも5,200～5,300個/gと高い値である。また、As-B直上層(試料3)でも4,600個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(2) 植物珪酸体分析から推定される植生・環境

ヨシ属は比較的湿ったところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。

イネ以外の分類群では、下位層準を中心にヨシ属が比較的多く検出され、ススキ属型やタケ亜科は比較的

第4章 自然科学分析

少量である。おもな分類群の推定生産量によると、As-C混層～Hr-FA直下層より下位では、ヨシ属が圧倒的に卓越していることが分かる。

以上のことから、稲作が開始される以前の遺跡周辺は、ヨシ属などが繁茂する湿地の環境であったと考えられ、As-C混層もしくはHr-FA直下層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。なお、稲作の開始以降もヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していたことも考えられる。

6. まとめ

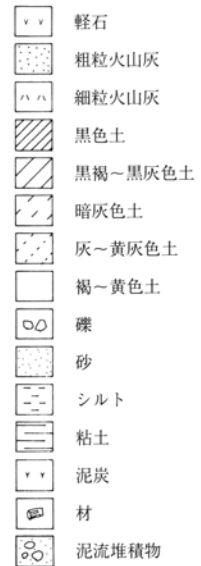
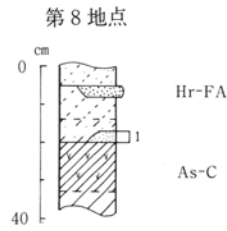
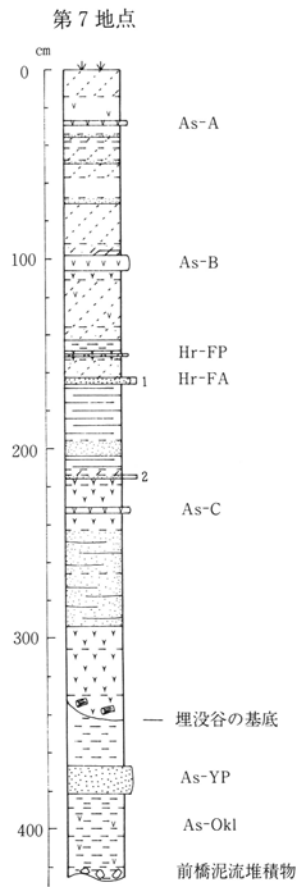
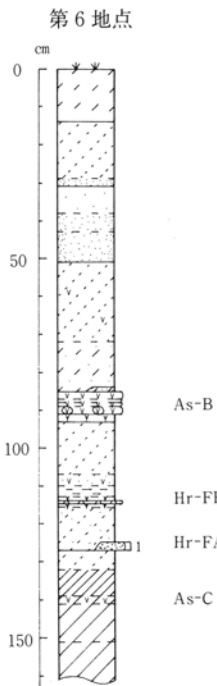
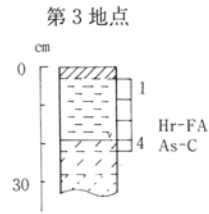
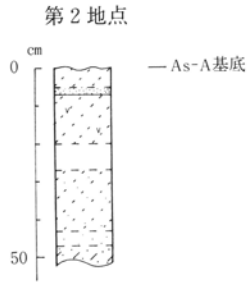
植物珪酸体（プラント・オパール）分析の結果、畦畔遺構が検出された浅間Bテフラ（As-B, 1108年）直下層、榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP, 6世紀中葉）に伴う火山泥流堆積物直下層、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）直下層からはイネが多量に検出され、これらの遺構で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、浅間A軽石（As-A, 1783年）混層、As-Bの上層、浅間C軽石（As-C, 4世紀中葉）混層などでも、稲作が行われていた可能性が認められた。

本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが繁茂する湿地の環境であったと考えられ、浅間C軽石（As-C, 4世紀中葉）混層もしくは榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）直下層の時期に、そこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。

文献

- 杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点. 植生史研究, 第2号, p.27-37.
- 杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体. 富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—. 考古学と自然科学, 20, p.81-92.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

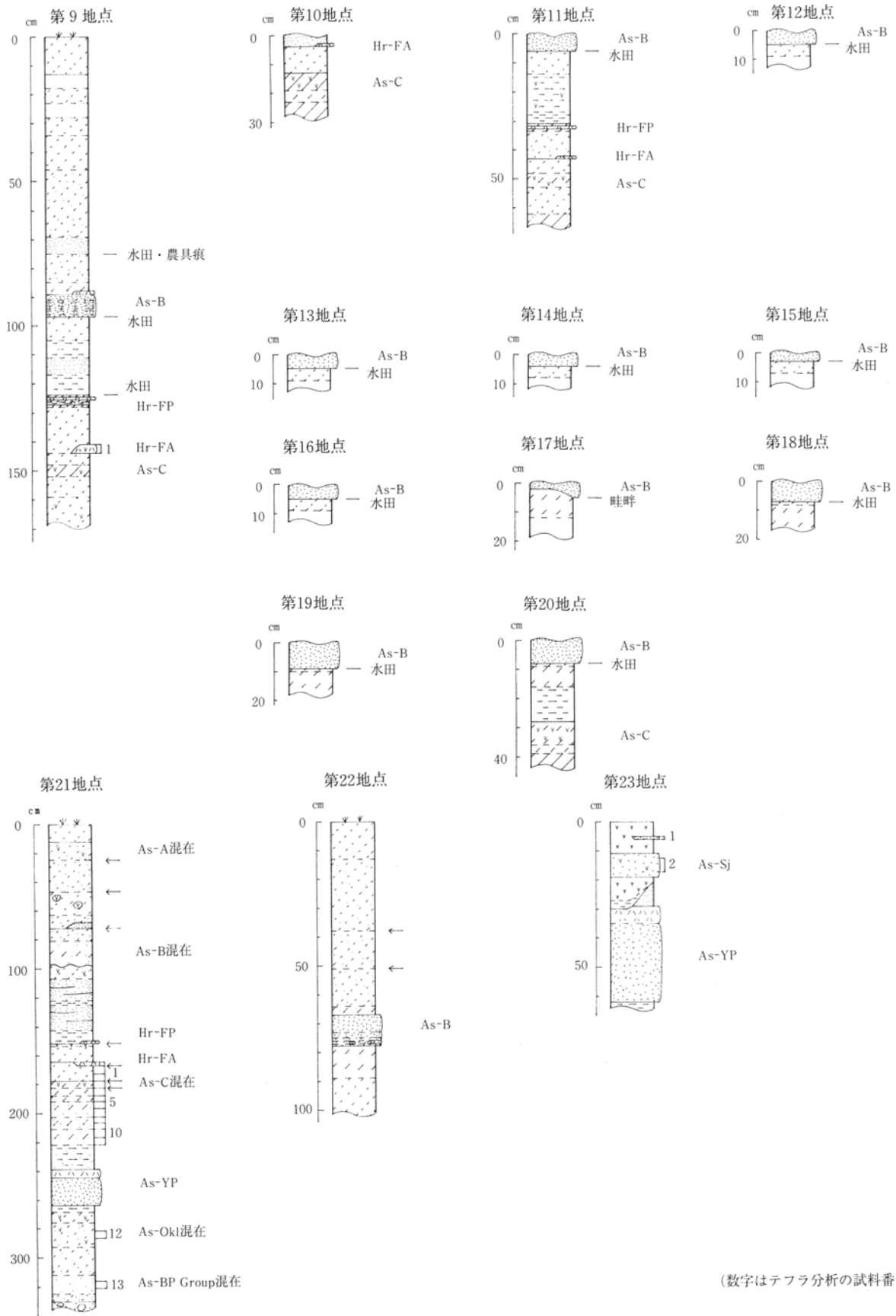
（編集者註）擬似畦畔・・・「水田基底部」と同義である。



(数字はテフラ分析の試料番号)

図表1 宿横手三波川遺跡土層柱状図(1)

第4章 自然科学分析



図表2 宿横手三波川遺跡土層柱状図(2)

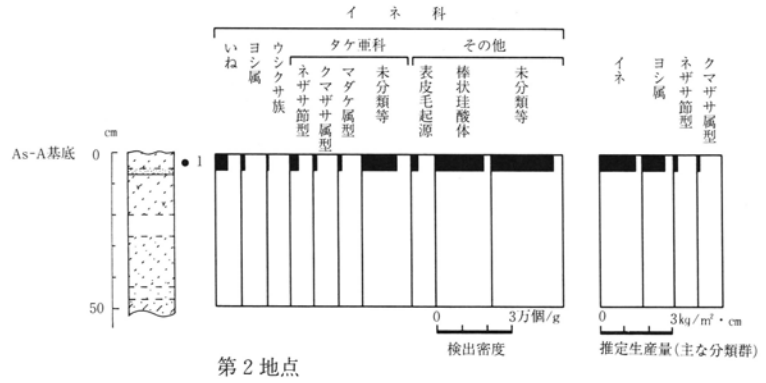
検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	第1地点		第2地点	
	1	2	1	2
イネ科				
イネ	97	51		
オオムギ族(穎の表皮細胞)				
ヨシ属			15	
ススキ属型	37			
ウシクサ族	52		7	
シバ属				
Bタイプ				
タケ亜科				
ネザサ節型	45	37		
クマザサ属型		15		
マダケ属型	7	15		
未分類等	127	146		
その他のイネ科				
表皮毛起源	22	29		
棒状珪酸体	305	197		
茎部起源				
未分類等	313	256		
樹木起源				
その他				
植物珪酸体総数	1005	767		

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	2.84	1.50
ヨシ属		0.92
ススキ属型	0.46	
ネザサ節型	0.21	0.18
クマザサ属型		0.11

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。



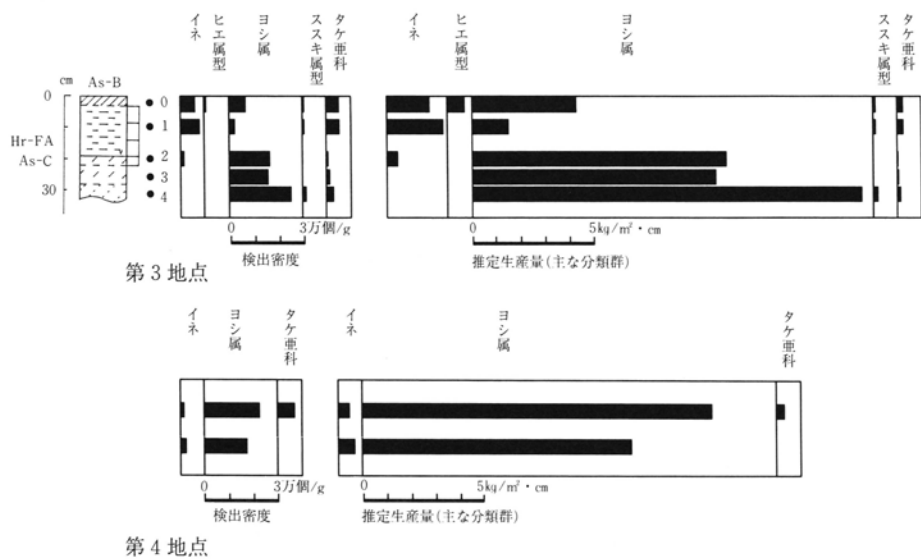
検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	第3地点				第4地点	第5地点
	0	1	2	3	4	1
イネ	60	79	15			16
ヒエ属型	8					23
ヨシ属	68	24	106	159	254	228
ススキ属型	8	8			15	176
タケ亜科	53	55	8	15	30	71

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	1.77	2.31	0.44			0.46	0.68
ヒエ属型	0.63						
ヨシ属	4.27	1.49	10.48	10.04	16.00	14.39	11.11
ススキ属型	0.09	0.10			0.18		
タケ亜科	0.25	0.26	0.04	0.07	0.14	0.34	

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。



図表3 宿横手三波川遺跡植物珪酸体分析結果(1)

第4章 自然科学分析

検出密度 (単位: $\times 100$ 個/g)

分類群\試料	第6地点													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
イネ	22	31	30	8		37	120	15	8	22	23			
ヒエ属型											8			
ヨシ属		8		23	7	15	15	61		45	62	45	69	83
ススキ属型	7	8		15		7		8				7	8	
タケ亜科	37	8	30	8						22	8	30	8	

推定生産量 (単位: $\text{kg}/\text{m}^2 \cdot \text{cm}$)

イネ	0.65	0.90	0.90	0.22		1.10	3.53	0.45	0.22	0.66	0.69			
ヒエ属型											0.66			
ヨシ属		0.48		1.45	0.46	0.94	0.95	3.84		2.83	3.94	2.84	4.34	5.21
ススキ属型	0.09	0.10		0.19		0.09		0.09			0.09	0.09		
タケ亜科	0.18	0.04	0.15	0.04						0.11	0.04	0.14	0.04	

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

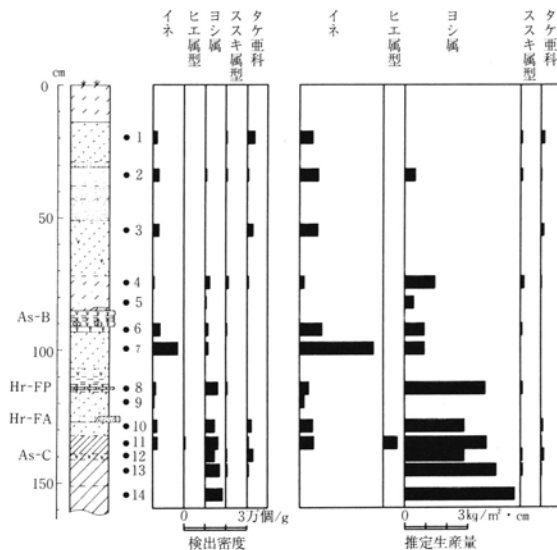
検出密度 (単位: $\times 100$ 個/g)

分類群\試料	第7地点		第8地点		
	1	2	1	2	3
イネ	38	46	38	37	
ヒエ属型					
ヨシ属	8		38	75	46
ススキ属型	23	8	8	15	
タケ亜科	15	8	38	60	23

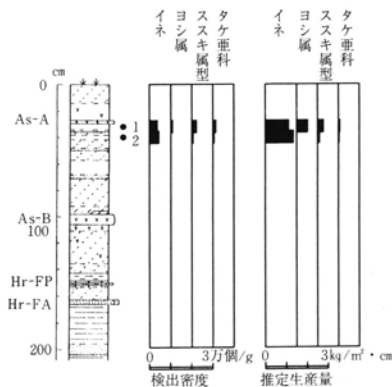
推定生産量 (単位: $\text{kg}/\text{m}^2 \cdot \text{cm}$)

イネ	1.11	1.34	1.12	1.10	
ヒエ属型					
ヨシ属	0.48		2.40	4.72	2.88
ススキ属型	0.28	0.09	0.09	0.19	
タケ亜科	0.07	0.04	0.18	0.29	0.11

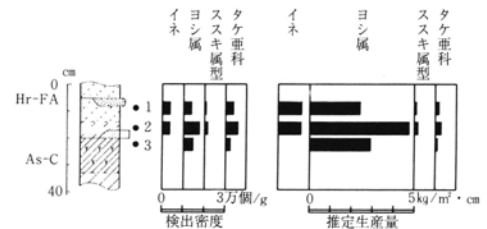
※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。



第6地点



第7地点



第8地点

図表4 宿横手三波川遺跡植物珪酸体分析結果(2)

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	第9地点							第10地点				第11地点					
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	1	2	3	4		
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	51	60	30	7				30									
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	14	7	45	75	106	91	15	82	135	212	187			128	196	120	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type		7	7	7													
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)		7	15	7				7						22	30	23	15

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	1.49	1.76	0.88	0.22				0.88						2.85	0.22		
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.91	0.47	2.83	4.71	6.67	5.74	0.95	5.19	8.50	13.37	11.83			8.11	12.34	7.55	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type		0.09	0.09	0.09													
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)		0.04	0.07	0.04				0.04						0.11	0.15	0.11	0.07

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

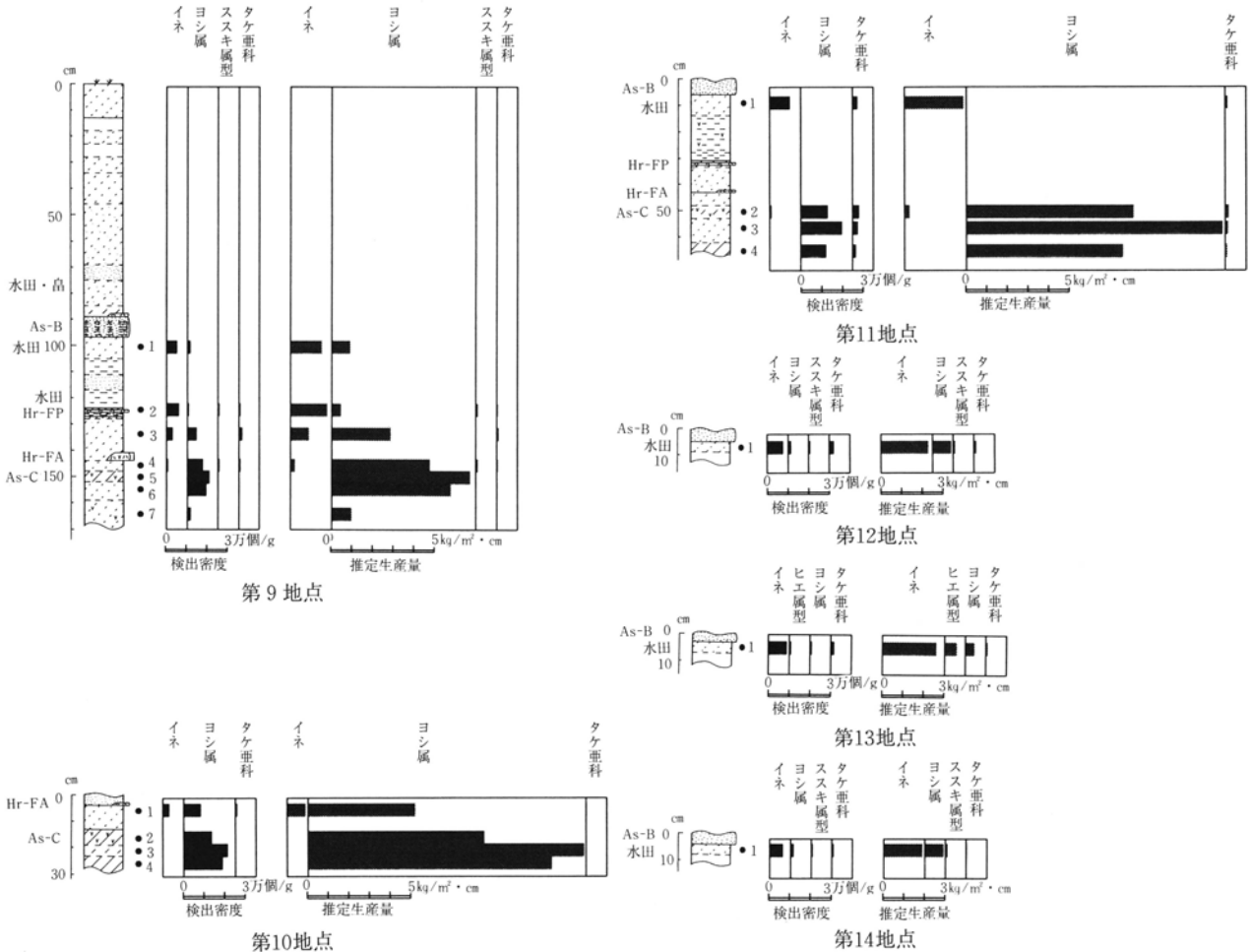
検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	第12地点							第18地点		第19地点		第20地点					
		1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	3	4	5	
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	77	88	63	59	74	66	75	53	73	51	68	104	7				
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type		7				8		7									
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	14	7	14		22	19		8	22	51	30	7	139	150	132		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7		7		15	8		15			8		14				
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	21	15	7	22		12		22	8	7		8	7	22	14	7	

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

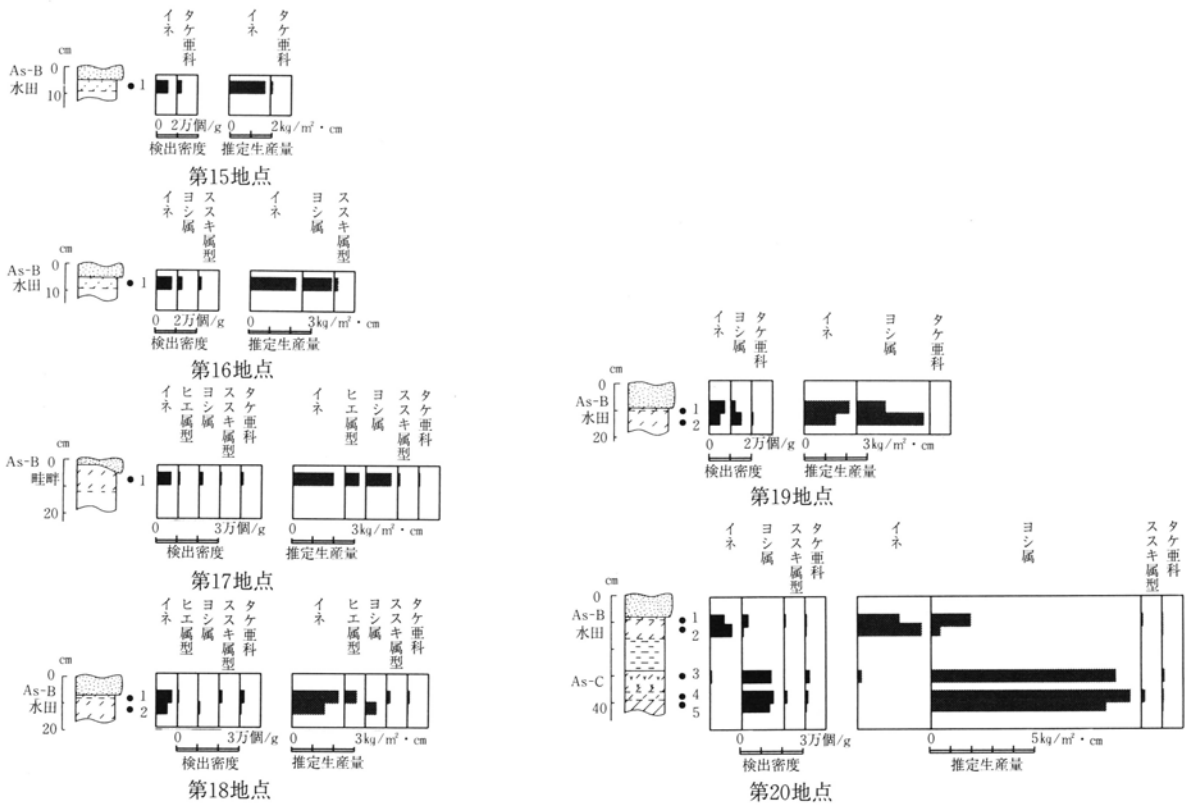
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	2.27	2.60	1.85	1.74	2.17	1.94	2.20	1.56	2.14	1.51	2.00	3.06	0.21				
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type		0.62				0.65		0.63									
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.89	0.46	0.88		1.40	1.22		0.48	1.38	3.24	1.91	0.47	8.75	9.46	8.32		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09		0.09		0.18	0.10		0.19			0.09		0.18				
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.10	0.07	0.03	0.11		0.06		0.11	0.04	0.04		0.04	0.11	0.07	0.04		

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。



図表5 宿横手三波川遺跡植物珪酸体分析結果 (3)

第4章 自然科学分析



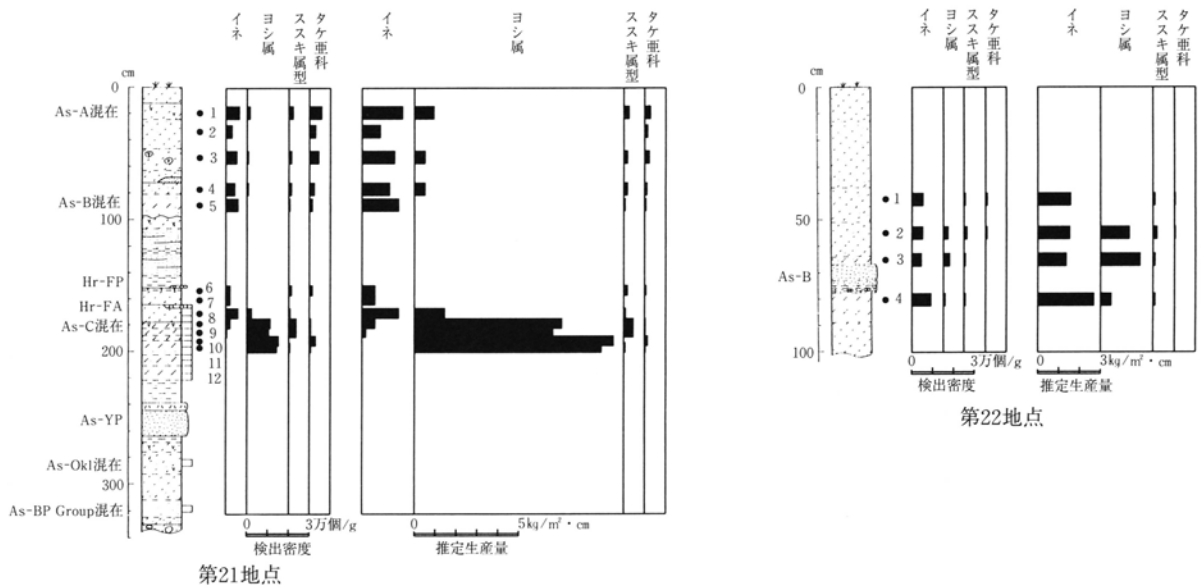
検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群\試料	第21地点												第22地点			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
イネ	60	30	53	45	60	22	22	60	22	7			53	52	46	91
ヨシ属	15		8	8				23	112	105	151	142		22	30	8
ススキ属型	22		15	15	7	15		8	37	37		7	8	15	8	8
タケ亜科	59	30	45	23	15	15			7	7	30	7	8	7		

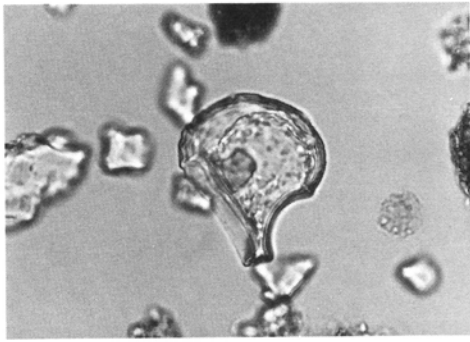
推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	1.94	0.88	1.56	1.33	1.76	0.66	0.66	1.77	0.66	0.22			1.55	1.54	1.34	2.67
ヨシ属	0.93		0.48	0.48				1.42	7.07	6.60	9.51	8.96		1.41	1.92	0.48
ススキ属型	0.27		0.19	0.19	0.09	0.19		0.09	0.46	0.46		0.09	0.09	0.19	0.09	-0.09
タケ亜科	0.28	0.14	0.22	0.11	0.07	0.07			0.04	0.04	0.14	0.04	0.04	0.04		

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。



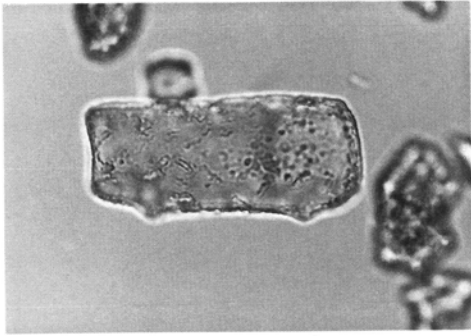
図表6 宿横手三波川遺跡植物珪酸体分析結果(4)



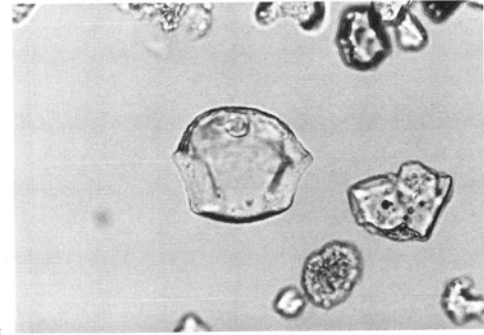
1



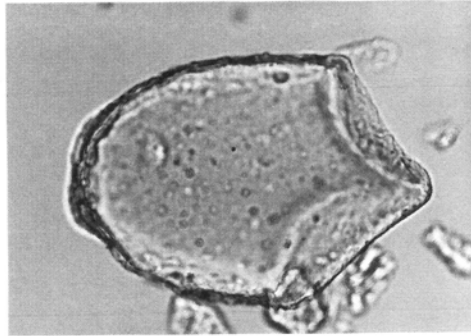
2



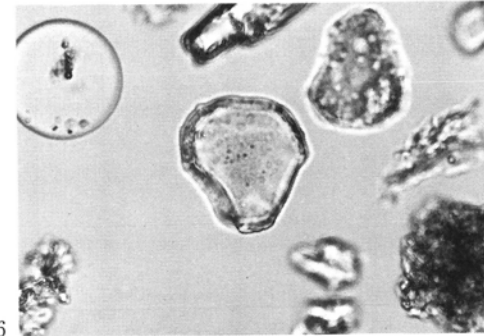
3



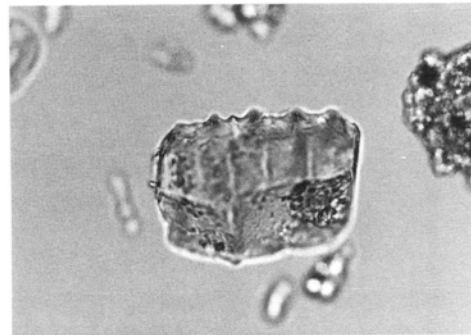
4



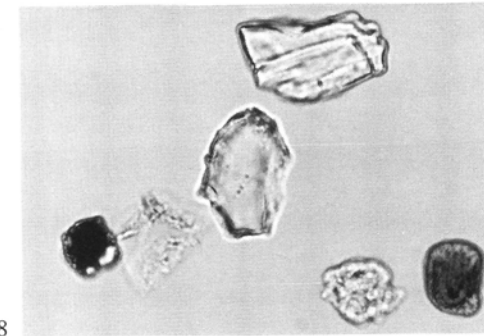
5



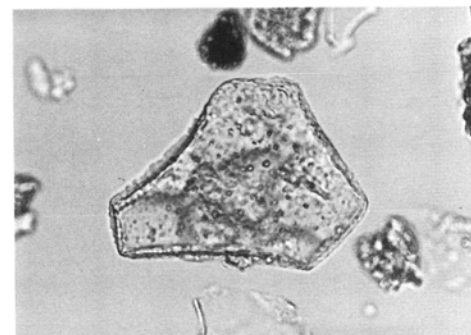
6



7



8



9

0 50 100 μm

No	分類群	地点	試料名
1	イネ	7	1
2	イネ	6	7
3	ヒエ属型	8	3
4	ジュズダマ属	14	1
5	ヨシ属	13	1
6	ススキ属型	21	5
7	ネザサ属型	10	1
8	マダケ属型	21	1
9	多角形板状 (コナラ属など)	9	4

写真1 宿横手三波川遺跡植物珪酸体写真

第5章 考 察

第1節から第3節は、主に各時代の水田跡について高井佳弘・岩崎琢郎が執筆した。また第4節は、「近世面」の土坑から出土した陶器四方鉢（E 1—1 土坑1）について、矢口裕之が執筆した。

第1節 As—A 混土下水田の農具痕について （岩崎）

第3章第2節では、As—A 混土下水田の多数の区画内に見られる連続した農具痕について記述した。ここでは、これらの農具痕について再度考察する。農具痕は確認された形状から大きく3種類に分類したが、以下に簡単にまとめて示す。

a 型：区画内に幅約20cmの農具痕が直線的に連続し、溝状の凹凸を形成する状態のもの。多くで長方形ないしは丸みを持った刃先の痕跡が残存し、溝の断面は緩やかな「V」字状、「U」字状に傾斜する。

b 型：幅約20cm前後の細長い長方形の農具痕が直線的に並ぶ状態のもの。各農具痕の底部は斜方向に緩やかに傾斜する。

c 型：径約15～20cmの楕円形や半円形の農具痕が直線的に並ぶ状態のもの。断面は「V」字状を呈する。

初めにこれらの状態をもとに、使用された農具を推定してみたい。まずa型の残存のよい部分やb型では、個々の農具痕は幅約20cmの細長い短冊状を呈しているが、これは四角い刃先がある程度の距離を動いた痕跡と考えられる。さらに農具痕の溝の断面や個々の農具痕底面に傾斜が見られることは、刃先を地面に対して傾けて突き込んだか、突き込んだ後に左右どちらかに返したかした様子を示唆している。この状態からは、足で踏み込んで使うスキ（鋤）類が使用されたことが推定できる。さらに刃先の痕跡の形状や幅を考えると具体的には「エンガ（柄鋤・延鋤）」が想定できよう。これは群馬地方で広く使用された深耕用農具であり、その他埼玉や北関東の一部にも分布していたものである。かなりの大型であり、スキ（ヘラ）部分の長さ1m以上、柄の長さ2m以上に及ぶものも珍しくない。使用法は柄を支えるように両手で持ち、片足で踏み込んでスキを地中に差し込んだ後、土を返すために体ごとエンガを傾けるものである。この動作を後退しながら繰り返すのが普通であるが、深くまで耕せるようになるにはかなりの習熟が必要であったという。

これに対しc型の個々の農具痕を観察すると、a類やb類のものに比べて刃先の移動距離が短く、傾斜も急であることが判る。この状態からは、振り下ろして刃を地面に入れ込むクワ類が用いられたと思われる。これらは主に「テंगा（手鋤）」と呼ばれることが多い。

これらの農具痕はいずれもAs—Aを鋤込んでおり、天明三（1783）年の浅間山噴火以降の作業によるものと判るが、これらが残存した第一の原因として、農具が通常の耕作時よりも深部に及んだことがある。さらに、区画内を連続して作業した痕跡として確認できた点については、この作業が一回限りのものであり、その後の農具痕と重複しなかったことが指摘できる。なお、水田を深部まで耕作した場合、水田床土が破壊され保水は困難になると言われる。そこで、この一連の作業は水田を畠に転化するために行われた可能性も出てこよう。以上の点は、この作業の特徴を示すものともなる。

そこで、これらの農具痕を天明三年の浅間山噴火で被災した水田を復旧した痕跡として検討する必要がある。この災害でAs—Aに覆われた耕地を復旧する方法としては、この軽石を耕地の隅に集めて山にする①か、耕地に土坑や溝を掘りその中に埋め込む②かが知られている。それに加えて、「エンガ」などで水田の深部に鋤き込んで処理した方法があるとすれば、前述した一連の作業の特徴を矛盾なく説明で

きる。このような事例は近年、上滝五反畑遺跡や東町V遺跡（第2章第3節参照）で報告されている。また、As—A が耕土に混じったため水田が使用できなくなり、水田床土を破壊するような方法で復旧した後に畝として使用したとも推測できる。事実、①の軽石の山は「ハイヅカ（灰塚）」、「スナヤマ（砂山）」、さらに田の中にある島状の畝を表す「タジマ・タッチマ（田島）」などと呼ばれ、その部分を畝に転化して桑や大豆などを植えた事例が伝わっている。

しかし、本遺跡の事例の場合、災害復旧の跡と捉えるには難点がある。

まず、農具痕の埋土に混入するAs—Aの量の問題がある。水田面にAs—Aが堆積した状態で農具を用いれば、この軽石が大量に鋤込まれることになる。しかし、確認した大部分の農具痕では、耕土の下部に鋤込んで処理したと考えるには少ない量であった。

さらに大きな問題として、本遺跡内では①や②による復旧方法が確認できた点がある。②に該当するものとしてはC1—1灰搔やD1—1・2灰搔群が調査されている。また①については地元の方からのお話により知り得た。具体的な場所が特定できなくなったのは残念であるが、昭和40年代の圃場整備まで数カ所に残存していたということである。これらの事実から、軽石を水田全面に鋤き込むという効率の悪い復旧方法を採る理由が希薄になる。

一方、本遺跡の周辺地域には耕土にAs—Aが混入した水田の伝承も多く、例えばシロカキ後時間をおくと土が固くなり苗が立たず、両側から土寄せをしたことや、逆に麦の栽培には適したことを知ることができる。その他、耕作が困難で良質の米は収穫できないものの、実際水田として利用されていたことが窺える事例が多い。そのため、被災した水田を畝に転化したことについても即断はできない。さらに耕土の直下に水田床土が形成されるとは限らないため、深耕の結果保水が困難になるとも断定はできない。

ただし、C1—1灰搔のすぐ南部や南東部のC1—7・8・14区画に残存する農具痕は比較的明瞭な溝を形成しており、内部に大量のAs—Aが鋤込まれている点で他とは異なった状態である。この一帯がAs—A処理に使用されており、これらの区画も復旧後に畝に転化された可能性も出てこよう。

以上、農具痕の確認状態のみでは、復旧を意図した作業の痕跡であるのか、通常の耕作によるものであるのかは断定できなかった。勿論、水田面に①や②で処理しきれなかったAs—Aが残存したため、通常よりも深い部分まで耕作したことは否定できないが、この場合、①や②と同レベルの復旧方法とは言いがたい。また、農具の深浅は栽培される作物の種類にもよる。そこで、様々な状態の農具痕に於いて自然科学分析を行い、作物を推定する方法もあろう。その他、農具痕の残存する水田跡については民俗事例の援用など、様々な視点から検証しなければならない。

〔参考・引用文献〕

『上滝五反畑遺跡』	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	1999
『東町V遺跡』	高崎市教育委員会	1996
『上州のくらし 民具』	塩崎昇 煥乎堂	1977
『高崎市東部地区の民俗』群馬県民俗調査報告書第20集	高崎市教育委員会	1977
『南大類町の民俗』高崎市民俗調査報告書第3集	高崎市教育委員会	1997

第2節 古代以降の土地区画について (岩崎)

1. 遺跡内及び周辺部に於ける条里型地割りの推定

第3章第4節では、As—B下水田がいわゆる「条里型水田」である可能性を指摘した。まずB区の東西大型畦畔(X=132・①)、C区の東西大型畦畔(X=242・②)の間隔が109~110mであり条里型地割りの「一町」に相当するため、それぞれ「坪畦畔」であると考えた。またC区の南北大型畦畔(Y=530・③)も規模から判断して「坪畦畔」であると思われた。ここでは、遺跡内の他の時期の遺構や、近隣の遺跡の状況などを考え併せ、遺跡内及び周辺部に於ける条里型地割りについてより具体的に検討したい。

最初に遺跡内の条里型地割りについて、前述したAs—B下水田の3条の大型畦畔を中心軸とした推定ラインを設け、これに該当する遺構を再確認する。

まず、東西方向のラインでは以下の状態が確認できた。

- ・①、②の大型畦畔直下に「古代面基底」のB 9—3・4溝、C 3—1溝がそれぞれ位置する(第90・91図参照)。これらは畦畔造成時の痕跡、道路跡、水路などと推測され、「坪」を規定する位置で大規模な造作がなされたことが判る。上位の「近世第1面」As—A混土水田ではそれぞれの位置に東西畦畔が見られる。
- ・北側のX=352ライン(④)付近では、現道に懸かることもあり「坪畦畔」その他は確認できない。上位には「中世第2面—1」のD 2—9・10・20溝、及び「中世第2面—2」のD 3—1溝が位置する。特に「中世第2面—1」の溝群は中央に畦畔を挟み、中世第2面水田の中心的な用水路と考えた。また、南北方向のラインでは以下の状態が確認できた。
- ・③の直下では、①や②のような溝は確認できない。上位の「近世第1面」As—A混土水田では、このやや西側のY=533ライン上にD 1—3溝やC区の南北畦畔が位置している。これらは調査区を南北に縦断しており、地割り上重要な位置を規定した可能性を考えた。
- ・西側のY=640ライン(⑤)付近には南北畦畔が1条見られる。幅は他のものと同様であるが、③にもこのような畦畔が存在し、これが「坪畦畔」である可能性は否定できない。上位の「近世第1面」のA 1—2溝もほぼこの位置と重なる。この溝はAs—A混土水田の用水路と考えた。幅は推定2m以上であり、さらに現用水路もこの溝を壊して西側に併走する。
- ・東側のY=420ライン(⑥)の位置では坪畦畔は確認できない。下位には「古代面基底」のE 5—2・3溝が位置する。これらは①の同面B 9—3・4溝の状態と類似している。上位の「中世第2面—2」でもE 4—7溝が位置する。いずれも「坪」を規定していた可能性が指摘された。

このように、As—B下水田での条里型地割りはこの水田跡を遡る時期から見られ、さらに中世、近世に至るまで一部が踏襲されてきた可能性が判った。

第二に、この条里型地割りを周辺の遺跡に拡大して検討してみたい。第125図は前述した推定ラインを延長、拡大して概念的に示したものである。これに同時調査となった西横手遺跡群、及び既に条里型地割りが推定されている西横手遺跡群I・IIの遺構を重ね合わせると以下のようなことが判った。

- ・西横手遺跡群に於いては、東西方向では⑤の北のX=462ライン上に中世以降のものと思われる大規模河川が位置する。条里型地割りに従ったものか。また、やや北には古代のBC—10溝(X=471・⑧)が位置する。この溝は比較的大規模であり特別な目的も想定されたが、位置的には「坪」を規定していたものか断定できない。南北方向では、古代のA—47・48溝の2条が⑥に該当する。これらは、前述したE 5—2・3溝と同一である可能性が高い。

・西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱの「B軽石下水田跡」で条里型地割りが推定されていた位置は⑨～⑪である。これらは、本遺跡で推定された条里型地割りのラインと東西、南北ともほぼ一致する。

以上、As—B下水田をもとに本遺跡周辺の条里型地割りがほぼ特定できたとと言える。また、この地割りの一部が近世以降まで残っていた可能性も窺えた。ただし、これらの位置が後世でも重要なものであったのか、それとも偶然的に踏襲されたに過ぎないのかは不明である。

その他、条里型地割りについては、利根川の北岸を含めたより広範囲の発掘調査事例を照合し、具体的に検討することが必要であろう。

2. その他の地割りの踏襲について

本遺跡では、古代以降の各水田跡を通して、条里型地割り以外にも同位置に畦畔や水路が設けられている箇所が見られた。代表例として、中世第1面水田と中世第2面水田のそれぞれE区では、ほぼ同じ地割りが見られたことが挙げられる(第3章第3節参照)。その他、各水田を記載する際に触れたものも含めて、主なものを整理して示しておく。

・Y=482上には「近世第1面」のD1—1・2溝、下位には「中世第2面—1」のD—1・2・3溝、E3—7溝が位置している。これらはそれぞれがAs—A混土下水田、中世第2面水田の主要水路と考えられたものである。なお、より下位のAs—B下水田ではこの位置には水路は見られない。ただしD区では、南北に細長い区画が南北方向に連続した列が2列隣接しており、周辺とは異なった状態が見られる(D3—4・5区画から北へD3—37・38区画まで)。これらの部分が中世になり溝に転化されたことも想定できるが、直接的な関連はつかめなかった。

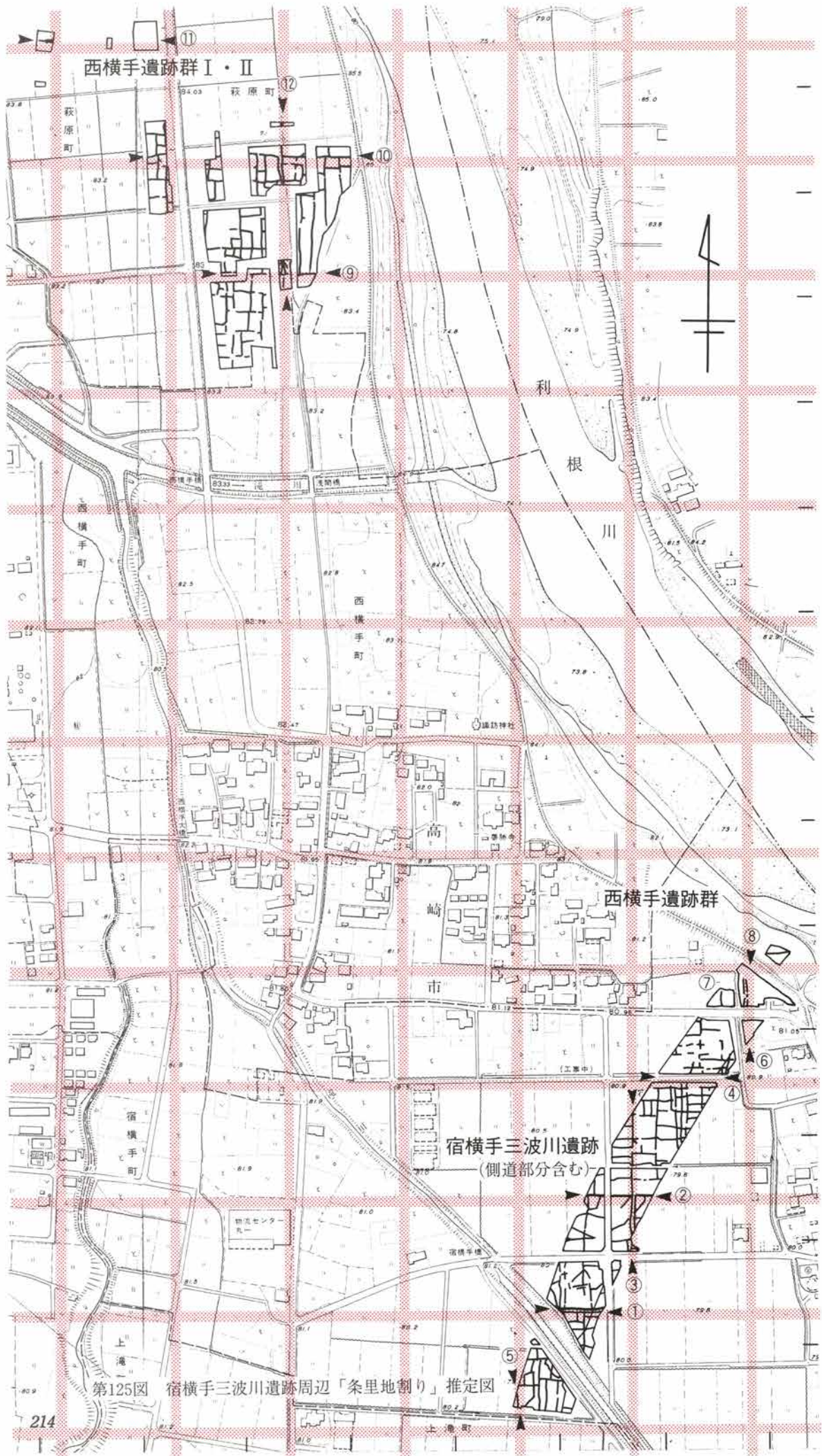
・Y=587上には「近世第1面」のB1—1溝、下位には「近世第2面」の段差上の南北畦畔、さらに「中世第2面—2」では中央に畦畔を挟むB4—3・4溝が位置している。これらもそれぞれがAs—A混土下水田、近世第2面水田、中世第2面水田に於いて主要な畦畔や水路として考えられたものである。ここでは、畦畔を挟む溝が段差上の畦畔、さらに溝と転化しているが基本的な地割りは踏襲されていたことが判る。

その他、一つ一つ取り上げないものの、古代以降の各水田跡で同位置に畦畔を設けている部分が見られた。ただし、これらは特に幅が広いものではなく、これらの位置がより広い区画を規定するような重要なものであるかについては断定できない。

なお、「近世第1面」E区のE1—1溝は屋敷の周濠であり、この北部が屋敷内に該当すると考えた。この位置では下面の「中世第1面」では遺構は確認できず、その下面の「中世第2面—1」では掘立柱建物跡他多数の柱穴を確認した。従って、中世以降、この部分は居住域等として機能してきたと推測される。

[参考文献]

- | | | |
|--------------------|------------------|------------|
| 『宿横手三波川遺跡』 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 1999 第247集 |
| 『西横手遺跡群(Ⅰ)』・『同(Ⅱ)』 | 高崎市教育委員会 | 1989・1990 |
- (西横手遺跡群については同時編集の『西横手遺跡群』を参照されたい。)



第3節 As—B下水田と「かたあらし」農法 (高井)

宿横手三波川遺跡では調査範囲全面にわたってAs—Bの残りがよく、ほぼ全域でその下面の水田跡を調査することができた。これらと同時代の水田跡は、この遺跡の南に接続する遺跡、すなわち、上滝榎町遺跡、上滝五反畑遺跡などでも見られ、前節で述べられているように、この一体が当時広い水田地帯であり、しかもそれが条里制によって区画されていることが判明した。このような広大な水田跡の広がり、群馬県の平野部、特にその西半部ではごく普通に見られることであり、決して珍しいものではない。この地域の低地部ではかなりの確率でAs—Bが純層で堆積しているのが見つかり、その下面を調査すると必ずと言っていいほど水田跡が存在しているのである。平安時代後半という時点で、水田として利用することが可能な土地は、既にほぼ全て水田として開発されていたのではないと思われるほどである。これはある意味では驚くべきことである。当時の人口がどれほどであったのか、想像の域を出ないが、現在とは比べものにならないくらい少なかったことは間違いない。その人口差を考えた場合、この水田の広さはあまりに広大であり、現代の感覚では違和感を覚える。しかし、これら水田跡は、As—Bが降下した時点で、はたして水田として耕作されていたのであろうか。畦で区画された状態からみて、それが水田であったことは間違いないにしても、その中には、休耕・耕作放棄など、様々な理由で、噴火当時に耕作されていなかった水田が含まれている可能性があるのではなかろうか。As—B下水田の状況を見てみると、このような素朴かつ根本的な疑問がわいてくる。ところが、このような疑問に、これまでの発掘調査は十分に答えてきたとは思えない。

As—B下水田を調査すると、その水田面はただ平坦なわけではなく、いろいろな凹凸が見つかる。それはヒトや動物の足跡である場合もあるが、多くは何によるものかよく分からないものである。そして、このような凹凸がある水田面の状態は、水田の区画によって一定ではない。こういった水田面の状態の違いは、それが埋没する直前の水田の状態を反映するものであるが、もしかするとそれは、As—B降下当時、その水田が耕作されていたものか、あるいは既に廃棄状態にあったものかの違いを示すものかもしれない。そして、実際にその視点から検討した例は既にいくつか見られるようである。

宿横手三波川遺跡でも、区画によって水田面の状態の違いがみられるところがある。この遺跡のAs—B下水田のほとんどには水田面に畦とは方向の異なる足跡などが多く残り、それが畦を踏みつぶしているところがある。典型的なのはB・C・E区などにみられる。特にC区の1～4踏分と名付けられたものは、区画の方向に対して斜めに走り、畦をいくつも越えている。これらは水田耕作の上で重要な畦を踏みつぶしていること、さらに、踏分道の形成にはある程度の時間が必要であったと考えられることから、この水田区画は休耕してかなりの時間が経っているか、あるいは既に廃棄されていた状態であると考えるのが妥当であろう。これに対し、C区からD区にかけてのC2-10・13区画、D3-3・9・16・17区画だけは、斜めの踏分や溝などは全くみられず、その代わりに、何らかの耕作行為を思わせる足跡が残っているのである(本文67ページ参照)。この足跡は、畦の一辺と同じ方向、つまり水田区画と同じ方向に平行して幾筋もみられ、おそらく、この区画の中を狭い幅で往復したことによって残されたものであると思われる。残念ながらこの足跡を残した作業が何であるかは、考える資料に乏しく不明であるが、この状態が他の区画と休耕・放棄された区画とが混在していたと考えている。このような状態が当時の一般的な姿、つまり、毎年このように両者が混在しているのか、あるいは、このような状態はこの時のみなのかは確証がなく断定できない。後者であれば、それには浅間山の火山活動が大きく影響していることが考えられよう。天仁元年の大噴火以前にも何らかの火山活動があり、それによって当年の農作業が控えられた可能性が考えられる。しかし、私は、次に述べるような文献史学の成果から、前者、つまり耕作と休耕が混在していた可能性を考えなければならないのではな

第5章 考 察

いかと考えている。

ここではAs—B降下時、すなわち浅間山の天仁元年（1108年）の噴火の時点の問題としているが、その50～100年前、すなわち平安時代の中期ごろの水田耕地の中に、連年耕作される安定耕地と、年によって耕作されないこともある不安定耕地とが混在していたという事実は、かつて戸田芳実氏によって明らかにされたことである（「中世初期農業の一特質」『日本領主制成立史の研究』（岩波書店）1969.2。初出は京都大学文学部読史会創立五十周年記念『国史論集』1959.11。）。

以下、氏のご研究を簡単にまとめて紹介させていただく。

戸田氏は「栄山寺文書」に現存する栄山寺牒を用い、平安中期の永祚2年（990）から康平2年（1059）にいたる間、栄山寺領の大和国にある荘園の田地について、「見作」・「不作」の割合がどのように変化するかを検討された。「見作」とはその時点で現実に耕作されていた田、「不作」とは耕作されていない田のことである。

この永祚2年から康平2年の間に、検討の対象となる栄山寺牒は15通残っていて、栄山寺領田の坪付（この荘園は大和国の条里制施行地内に存在している）と坪の中の寺田面積とが詳細に記録されている。そして、そこには各坪の寺領田の中に見作田がどれほどあるかが注記されているのである。これによって同一の坪の見作・不作の割合が、約70年間の15通の文書でどのように変動しているかが分かるのである。戸田氏はその中で、寺領が大部分を占める大和国宇智郡、十市郡の35個の坪（当時の荘園は散在的な傾向が強く、坪内の一町の土地全てが寺領である場合は少ない。つまり、各坪に何段かずつ散在するのが一般的なものであるが、戸田氏はそれらのうち、坪内の大部分が栄山寺領田になっている坪を選ばれた。）について、坪のうちのどれほどが寺領の土地で、そのうちのどれほどが見作であるかを一覧表にされ、変動の状態を具体的に示された。

その結果、ほとんどが見作で、その割合があまり変動しないいわば安定耕地と、見作・不作の割合が年によって大きく変動する不安定耕地、その中間の割合を示す耕地とがあることが判明した。このうち注目されるのは不安定耕地の存在であるが、一例として十市郡西十六条五里七坪の場合をみてみよう。この坪は12通の牒に現れ、いずれも10段（＝1町）、つまり坪全体が栄山寺領となっているが、その坪内の見作田は次のように変遷している。

正暦5	寛弘3	寛仁元	治安元	万寿2	長元2	長元9	長久2	永承元	永承5	天喜2	康平2
(994)	(1006)	(1017)	(1021)	(1025)	(1029)	(1036)	(1041)	(1046)	(1050)	(1054)	(1059)
10段	0段	3段	2段	8段	10段	7.42段	2.32段	3段	4段	7.12段	7.12段

正暦5年には坪内の田地のうちの10段、つまり全部が「見作」＝耕作されていたのであるが、次の寛弘3年には0段、すなわち坪の全体が「不作」＝休耕状態になっていた。さらに寛仁元年は3段、治安元年は2段と少ない面積が耕作され、次の万寿2年は8段と増加し、さらに長元2年にはまた10段と全体が耕作されている。このように、坪の全体が耕作されていた状態から全く耕作されない状態まで、その割合が年によって大きく変動していることが見て取れる。このような坪が、検討された35個のうち17個もあるのである。戸田氏はこのような不安定耕地が当時広く存在していたとされ、さらに、このように一時的に耕作放棄（あるいは休耕）される耕地を当時「かたあらし」という用語で呼んでいたことを古歌から明らかにされた。氏のあげた歌をひとつ紹介しておく、「早苗とるやすのわたりのかたあらしこそぞのかり田はさびしかりけり」

というものが拾玉集に納められている。

さらに景観的なあり方については、この拾玉集の歌や荘園文書などから、「かたあらし」は特定の場所に集中しているのではなく、耕作されている土地と混在している（前掲『日本領主制成立史の研究』179ページ）と推定されている。

ただし戸田氏は、「かたあらし」的耕作について、二圃制的な農業が整然と行われていたと考えるのは非常に危険であると注意されている。「二圃制の確立ということはそれなりに安定した生産諸条件を前提とするが、(中略)不安定耕地の存在は、むしろ中世初期特有の農業生産諸条件の不安定性から考えるべきである」（前掲書181ページ）と氏は指摘されている。

先述した宿横手三波川遺跡の水田跡の状況は、この「かたあらし」を考えると理解しやすい。平行した足跡が残された区画が「見作」の田地、その他が「不作」の田地であると考えるのである。「かたあらし」が一カ所に集中するのではなく、耕作されている土地と混在しているという推定も、遺跡の状況と一致する。もちろん、先述したように、この遺跡における水田の状況がこの年に特別なものであったのか、あるいは毎年同様な状況であったのかが不明であるため、安易に「かたあらし」の実例であると断定するのは避けなければならないが、その類似は検討に値すると思われる。As—B下の水田が「かたあらし」農法を取り入れたものなのか否かは、この宿横手三波川遺跡だけの検討だけで確定できるものではなく、広く県内の水田跡を対象として考える必要がある。残念ながら今回はこれ以上の検討を行っていないので、詳細は今後の検討に譲らなければならないが、このような検討はAs—B下水田の性格を考える上で必要不可欠であると考えられる。

戸田氏の研究は1959年に発表されたものであり、既に40年以上が経っている。「かたあらし」の存在は中世の文献史学研究者にとって常識の部類に属することではないかと考えられる。ところが、その存在を知っている考古学研究者はあまり多いとはいえず、それと考古学的事実とをつきあわせて検討する試みもほとんど行われていない。それどころか、畦に囲まれた区画を見つけ、それを「水田跡」であると確定できればそれでよしとし、それ以上は検討しない場合の方が多いのではないかとすら思われる。この状況は、水田跡の研究の上では、きわめて残念なことである。もちろん、文献から判明した「かたあらし」をそのまま考古学的事実の解釈に適用すればよいというわけではない。考古学の立場としては、あくまでも考古学的事実の厳密な検討を行い、その上でそれを文献史学などの成果とも突き合わせ、水田耕作の実態に迫らなければならないが、その際、この「かたあらし」の問題は避けて通ることのできないものであり、考古学的な立場から何らかの言及が行われるべきであろう。

今後上記のような視点で考古学的な検討を行う場合、明らかにしなければならない課題がいくつかある。まずひとつは、区画によって水田面の状況が異なることが、はたして耕作・休耕の違いを示すものなのか否かを確定すること、そして、それが過去に遡ってどのように変遷しているのか、それを何らかの方法で知ることである。区画によって表面の状態に大きな差があり、それから休耕の期間に差があると考えられるとか、プラントオパールのみ見られない層が水田面に堆積しているとか、そのような事実はきわめて重要であろう。今後群馬県内で発見された多くのAs—B水田について、その報告を集成・検討するとともに、上記のような視点で遺跡の発掘調査に当たることが必要であろう。

第4節 宿横手三波川遺跡出土の肥前陶器について (矢口)

1. 出土した肥前産陶器の年代と産地

遺跡のE1-1土坑より出土した陶器の破片は、遺物洗浄後の観察により肥前産陶器の特徴を示していることが明らかになり、その年代や産地および製品の用途から考えられる遺構の文化史的性格などが問題になった。著者は遺物の鑑定を行うため佐賀県立九州陶磁文化館の家田淳一氏、吉永陽三氏、佐賀県教育委員会の大橋康二氏、武雄市教育委員会の原田保則氏からご教示を得て調査を進めることができた。

遺物は、口径15.4cm、高さ5.2cmの皿の形を呈した陶器の破片であり、見込みには鉄絵で梅枝が描かれ、その外側は区画を表すかのような線と松葉の様な紋様がみられる。釉は不透明の灰釉で暗灰色を呈している。胎土は赤褐色のやや細かな土で、破断面のそれは黒色の岩片を含み灰色を呈している。遺物の器形は茶懐石などにみられる向付けの形をした深皿状の器形で四方鉢(よほうばち)に分類される。口縁部は外側に折り返した折縁からなり、高台は無釉で、ややシャープでしっかりした削りだしを呈しているのが特徴的である。

遺物を概観すれば、作りの出来映えの良さに絵を奪われる。鉢の見込みに描かれた梅樹の枝振りの強さは手慣れた絵付けの熟練した手をおもわせる。また、鉢の表面に窯傷などが無いことは、この製品が重ね焼きの最上位におかれた製品であることを物語っており、製品が上手の高級品を指向した茶陶の一種であることが推測される。

これらの遺物の特徴や陶器の製造法からみてこの遺物は、肥前産陶器の絵唐津梅枝文四方鉢に分類・呼称される。また、遺物の製造年代は肥前陶器のⅡ期(大橋,1984)にあたる、西暦1590~1610年代と推定される。遺物の製造産地は、既存発掘資料の陶器片などの類例から推定し、武雄系唐津と呼ばれる製品群を製造した窯群であると思われ、絵唐津の優品であるといった観点から小山路窯跡(内田皿屋窯)の製品である可能性が考えられる。

2. 小山路窯跡とその出土遺物(第126図 写真2)

小山路窯跡(内田皿屋窯)は、武雄市東川登町大字永野内田に位置する窯跡で、現状は畑と宅地からなっている。近年、武雄市教委の発掘調査が行われ、3室の焼成室を確認する推定全長35~40m前後の階段状連房式登窯であることが判明している。窯跡から出土した遺物は陶器のみで、皿と碗を主体に向付・鉢・瓶・播鉢などである。青唐津の中には高台内に施釉するタイプの皿もあり、これらは古い構造とされる窯跡の製品に共通する技法と考えられる。

小山路窯は、伝世品の中でも絵唐津の優れた製品を製造した窯として知られており、その絵付けは美濃窯の織部様式の影響を強く受けた作風が知られている(中里,1980;土岐市美濃陶磁歴史館,1983)。

現在、知られている小山路窯出土の製品資料は、武雄市教育委員会の発掘調査資料と佐賀県立九州陶磁文化館所蔵の陶器片資料、出光美術館所蔵の陶器片資料、個人所蔵の資料などである。今回は、この中で武雄市教委の資料と九陶所蔵の資料および、個人所蔵の資料から遺跡出土の遺物の類似性を検討した。

絵唐津の優品を製造した窯跡では、伊万里市の焼山・市若屋敷・甕屋の谷窯などのグループであるが釉の色調や高台の作り、胎土などが微妙に違う。武雄系唐津のグループの中でも絵唐津の出来映えは微妙に違いがあり、市内武内町の山崎御立目窯跡に類似の皿があるが、鉄絵の発色と高台の違いに特徴がある。

結局、他の窯跡との比較を進めながら小山路窯跡製品群と遺物を検討すると、丁寧な高台の作りだしや灰釉の色調、細かな胎土とその色調などの特徴から、最もこれらの資料群が遺跡出土の遺物との類似性が高いと思われる。こうしたことから、現状の資料からは、遺跡出土の遺物は、小山路窯の製品である可能性が最も高いといえる。

文献

中里太郎右衛門（1980）唐津. 日本やきもの集成, 11, 九州I, 平凡社, PP93-102.

大橋康二（1984）肥前陶磁の変遷と出土分布. 国内出土の肥前陶磁, 古唐津・伊万里の流通をさぐる, 佐賀県立九州陶磁文化館, PP152-169.

土岐市美濃陶磁歴史館（1983）古唐津-美濃と唐津の交流を訪ねて-, 土岐市美濃陶磁歴史館, 78P.



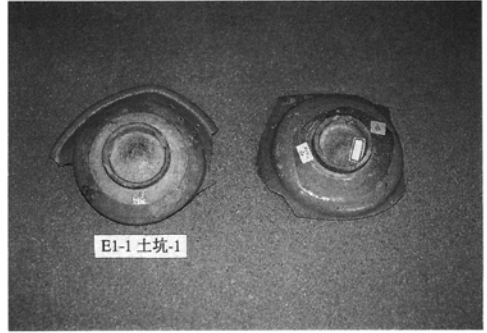
現在の小山路（内田皿屋）窯跡



九州陶磁器文化館所蔵の小山路窯跡資料

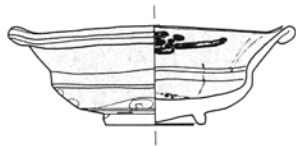


窯跡周辺に散在する陶器片の状況

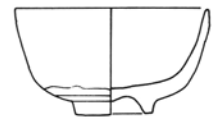


三波川遺跡出土遺物との比較

写真2 小山路窯跡と出土遺物



遺跡から出土した遺物 (E1-1土坑-1)



小山路窯跡から出土した遺物 (個人所蔵)



第126図 小山路窯跡出土遺物の実測図

[宿横手三波川遺跡・遺構名称対照表]

1. 近世面

掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称
E 1—2 井戸	E—1区1面2号土坑	E 1—3 井戸	E—1区1面3号土坑	E 1—15井戸	E—1区1面15号土坑

2. 中世第1面

掲載名称	調査時名称
E 2—3 溝	E—1区4面1号溝

3. 中世第2面—1

掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称
B 4—1 溝	3 B区4面2号溝	B 4—2 溝	3 B区4面1号溝	B 4—3 溝	3 B区5面2号溝
B 4—4 溝	3 B区5面1号溝	D 2—13井戸	D区2面13号土坑	E 3—1 井戸	E—1区3面1号土坑
E 3—5 井戸	E—1区3面5号土坑	E 3—15井戸	E—1区3面15号土坑		

4. 中世第2面—2

掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称
B 6—1 土坑	B区2面1号土坑	B 6—2 土坑	B区2面2号土坑	B 6—3 土坑	B区2面3号土坑
B 6—4 土坑	B区2面4号土坑	B 6—5 土坑	B区2面5号土坑	B 6—6 土坑	B区2面6号土坑
B 6—7 土坑	B区2面7号土坑	B 6—8 土坑	B区2面8号土坑	B 6—10土坑	3 B区6面1号土坑
B 6—11土坑	3 B区6面2号土坑	B 6—12土坑	3 B区6面3号土坑	B 6—13土坑	3 B区6面4号土坑
B 6—14土坑	3 B区6面5号土坑	B 6—15土坑	3 B区6面6号土坑	B 6—16土坑	3 B区6面7号土坑
B 6—17土坑	3 B区6面8号土坑	B 6—18土坑	3 B区6面9号土坑	B 6—19土坑	3 B区6面10号土坑
B 6—20土坑	3 B区6面11号土坑	B 6—21土坑	3 B区6面12号土坑	B 6—22土坑	3 B区6面13号土坑
B 6—23土坑	3 B区6面14号土坑	B 6—24土坑	3 B区6面15号土坑	C 2—5 土坑	C—1区2面1号土坑

5. 古代面

掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称
C 2—1 踏分	—	C 2—2 踏分	—	C 2—3 踏分	B区2面1号溝
C 2—4 踏分	B区2面2号溝				

6. 古代面基底

掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称
B 9—1 溝	B区3面1号溝	B 9—2 溝	B区3面2号溝	B 9—3 溝	B区3面3号溝
B 9—4 溝	B区3面4号溝	B 9—5 溝	3 B区9面1号溝	B 9—6 溝	B区9面2号溝
B 9—1 土坑	B区3面1号土坑				

7. 古墳時代以前面

掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称	掲載名称	調査時名称
B10—1 溝	B区4面1号溝	B10—2 溝	B区4面2号溝	B10—3 溝	B区4面3号溝 ・3 B区10面3号溝
B10—4 溝	B区4面4号溝	B10—5 溝	B区4面5号溝		
B10—7 溝	3 B区10面8号溝	B10—8溝	3 B区10面5号溝	B10—9溝	3 B区10面2号溝
B10—10溝	3 B区10面4号溝	B10—11溝	3 B区10面3号溝	B10—12溝	3 B区10面1号溝
C 6—1 河川	C—1区6面1～4・ 7号溝、C—2区6面 4・11溝	C 6—2 河川	C—1区6面5号溝		
		E10—1 河川	E—1区10面5号溝		
		D 8—1 河川	D区8面6号溝		

備考

- ・「3 B区」とは、平成9年度に調査されたB区北半を示す。
- ・水田区画名については、調査時に○号水田、○号畠と呼んでいたものを「区画」と統一した。整理作業時に番号を新しく付けたり、変更したりしたものもある。

発掘調査報告書抄録

フリガナ	シュクヨコテサンバガワイセキ
書名	宿横手三波川遺跡
副書名	北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第2集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第273集
編著者名	岩崎琢郎 熊谷 健
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 TEL 0279 (52) 2511
発行年月日	2001年2月28日

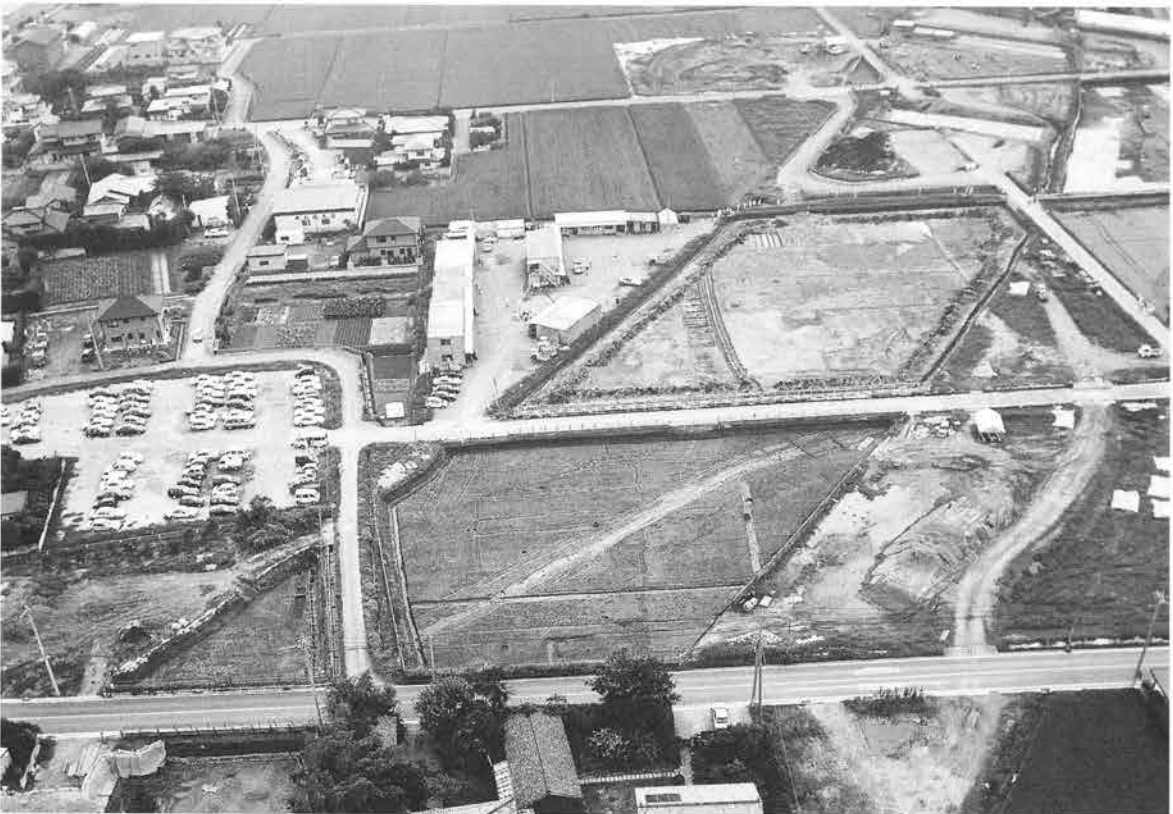
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 。'。"	東経 。'。"	調査期間	調査面積 (㎡)	原因
		市町村	遺跡番号					
シュクヨコテサンバガワ 宿横手三波川	タカサキシ 高崎市 シュクヨコテマチ 宿横手町	10202		36°19'24"	139°4'50"	19960701 } 19980331	19,530	北関東自動車道建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宿横手三波川	水田	近世	水田跡・溝・土坑・灰掻き(穴)	陶磁器・土器・金属・石製品	農具痕が残る水田
		中世	水田跡・掘立柱建物跡・溝・土坑・道跡	陶磁器・ ^{かわらけ} 土器・木製曲物・板碑	
		古代	水田跡・溝・土坑	須恵器・土師器	「条里型水田」
		古墳	水田跡・溝・土坑	須恵器・土師器	「小区画水田」
		古墳以前	溝・土坑・倒木痕 自然河川	石器・ガラス製品	

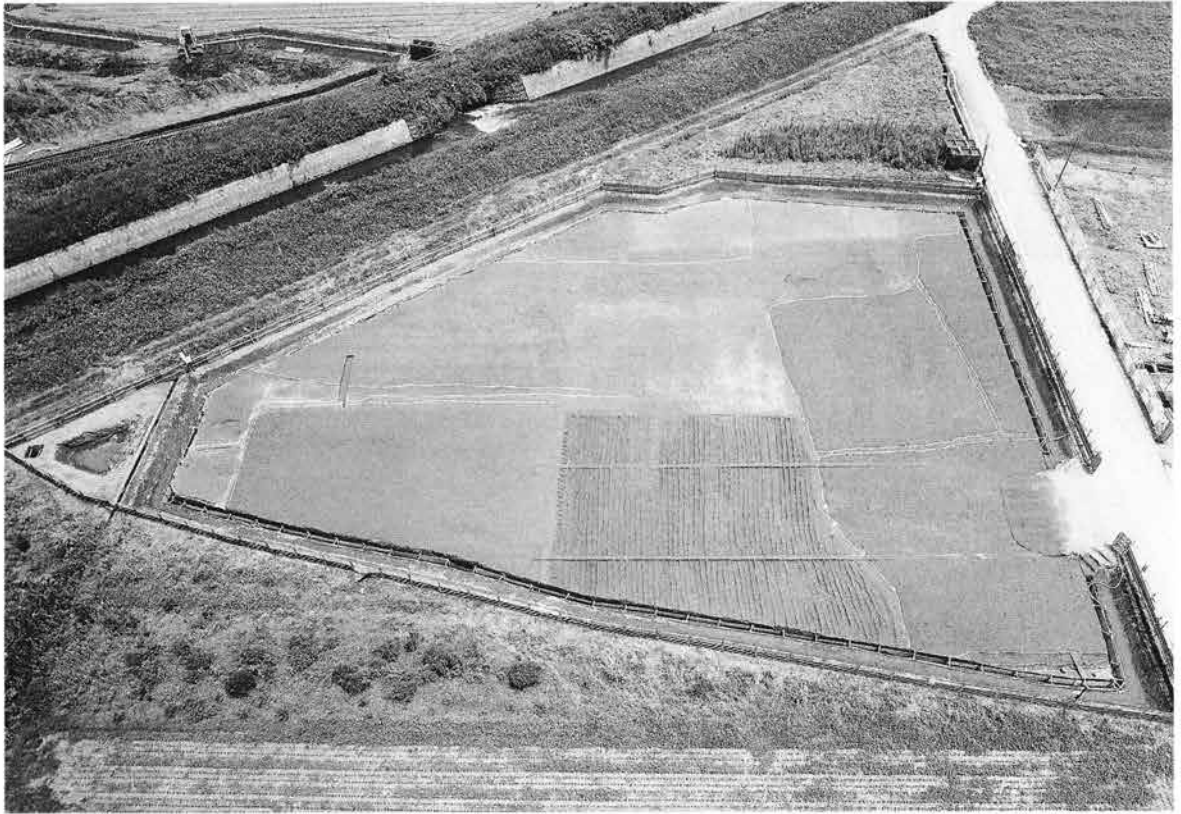
写真図版



1 宿横手三波川遺跡全景（南より）



2 宿横手三波川遺跡全景（北より）



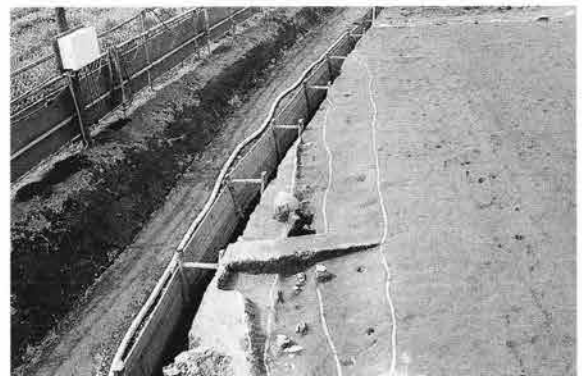
1 As-A 混土下水田A区 (西より)



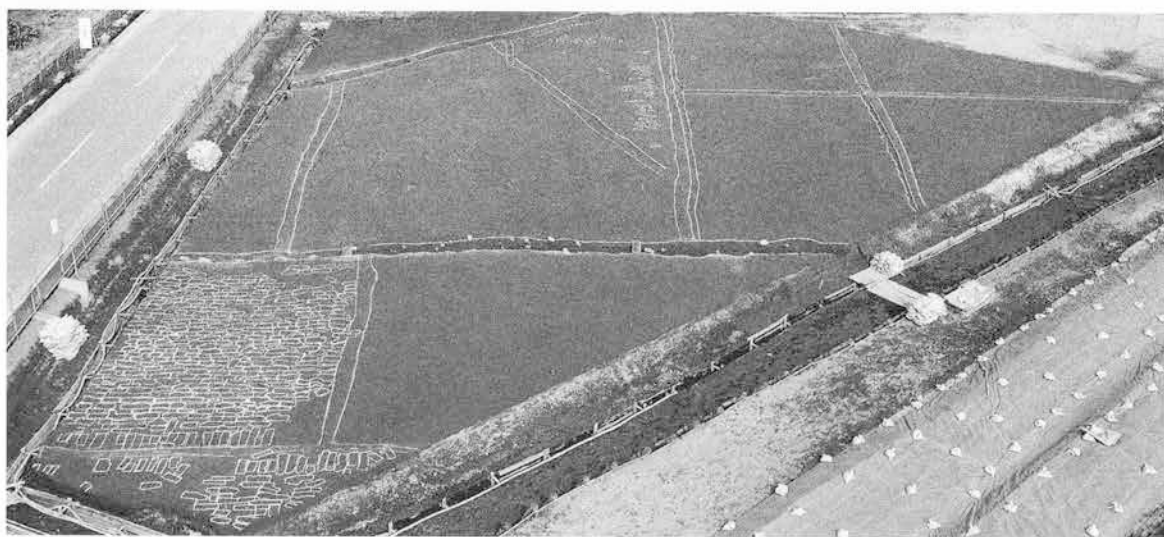
2 A1-1 区画 (上が北)



3 A1-1 区画農具痕 (東より)



4 A1-2 溝 (南より)



1 As—A 混土下水田B区北半 (西より)



2 As—A 混土下水田B区南半 (左上が北)



3 B 1—4 区画農具痕 (北西より)



4 B 1—18・19区画農具痕 (北より)



1 B1-1 溝北半 (北より)



2 B1-2~4 溝 (南東より)



3 B1-5 溝 (東より)



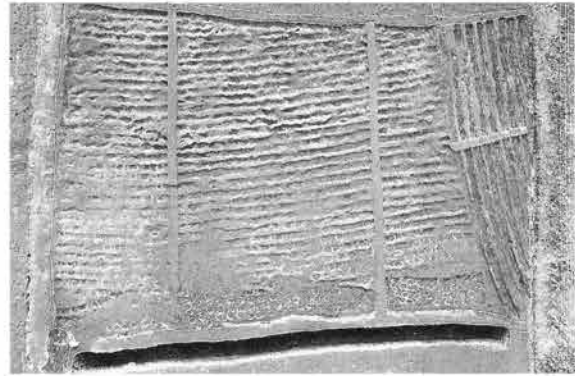
4 As-A 混土下水田C区西半 (北東より)



1 As-A混土下水田C区東半(南より)



2 C1-2区画農具痕(北西より)



3 C1-7・8区画(下が北)



4 C1-8区画農具痕(南より)



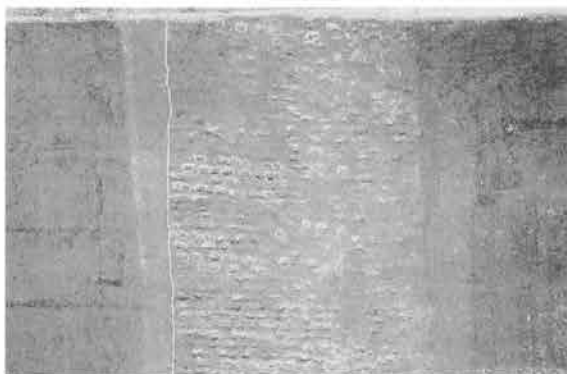
5 C1-7区画農具痕(東より)



6 C1-14区画(南より)



7 C1-14区画農具痕(南西より)



1 C1-10区画 (下が北)



2 C1-15区画 (東より)



3 C1-1溝北半 (北西より)



5 C1-1溝北西部石組 (南より)



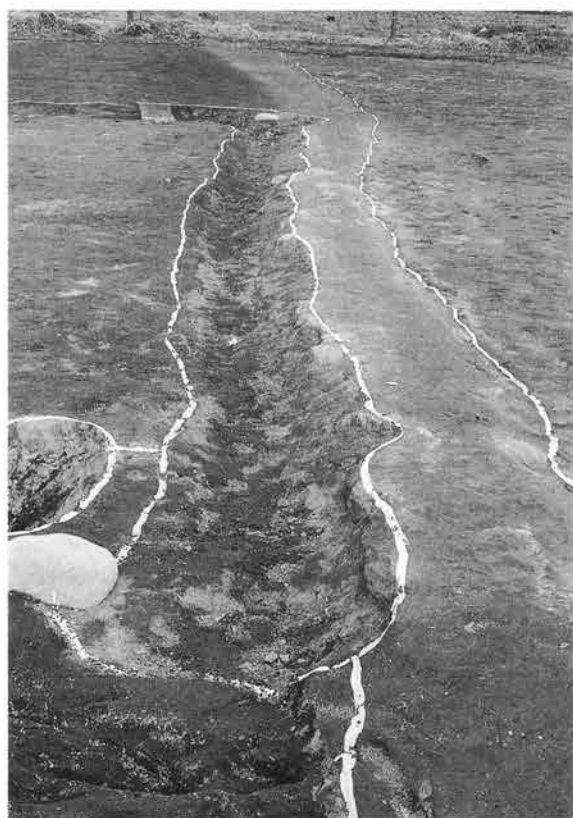
6 C1-1溝中央部石組 (南より)



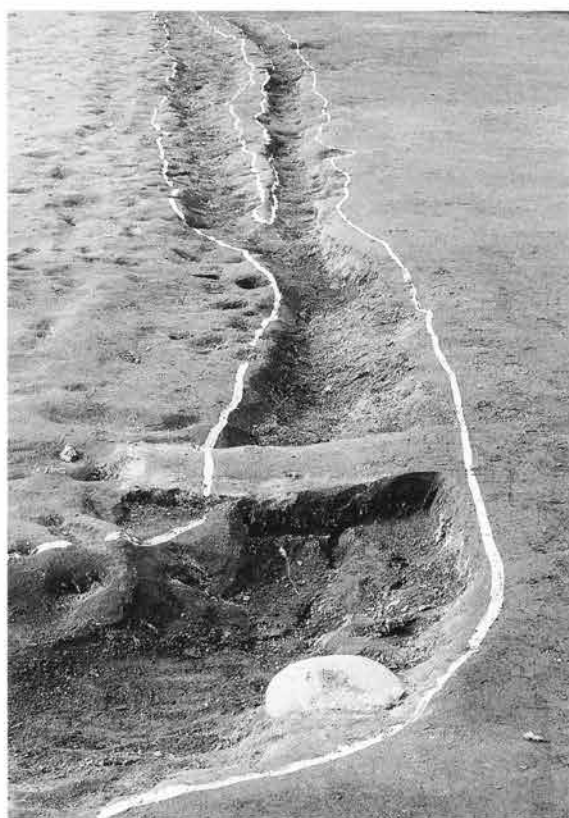
4 C1-1溝南半 (北西より)



7 C1-1溝南東部石組 (北より)



1 C1-2溝 (南より)



2 C1-1・2溝 (東より)



3 C1-6・7溝 (東より)



4 C1-5溝 (西より)



1 As—A 混土下水田D区 (下が北)



2 As—A 混土下水田D区北部 (東より)



3 D1—3・4区画農具痕 (北西より)



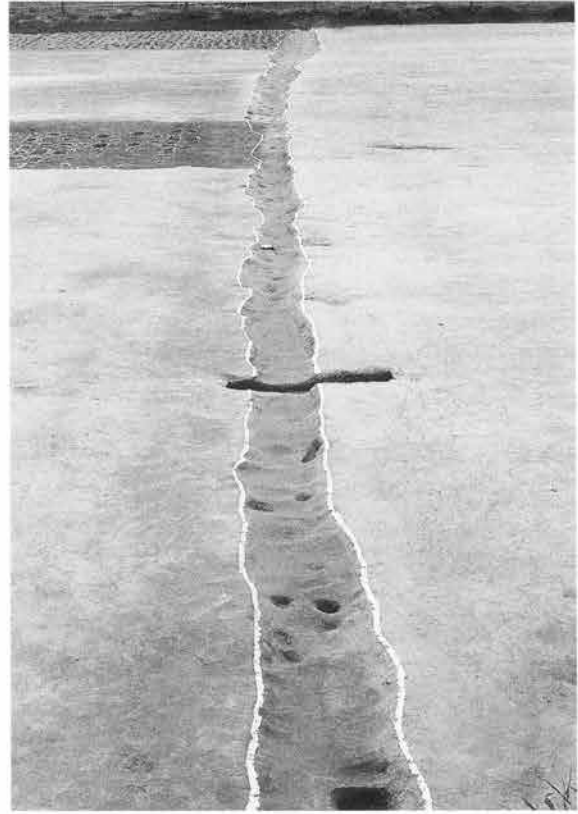
4 D1—5区画農具痕 (南より)



5 D1—6区画農具痕 (西より)



1 D1-8区画ヒト足跡 (南より)



2 D1-1・2溝 (北より)



3 D1-2溝北部石組 (東より)



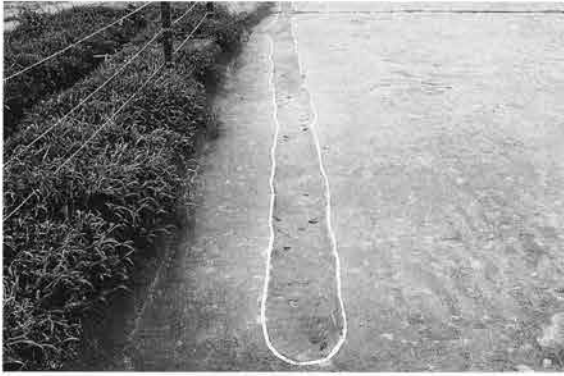
4 D1-2溝南部石組 (南より)



5 D1-5溝 (北より)



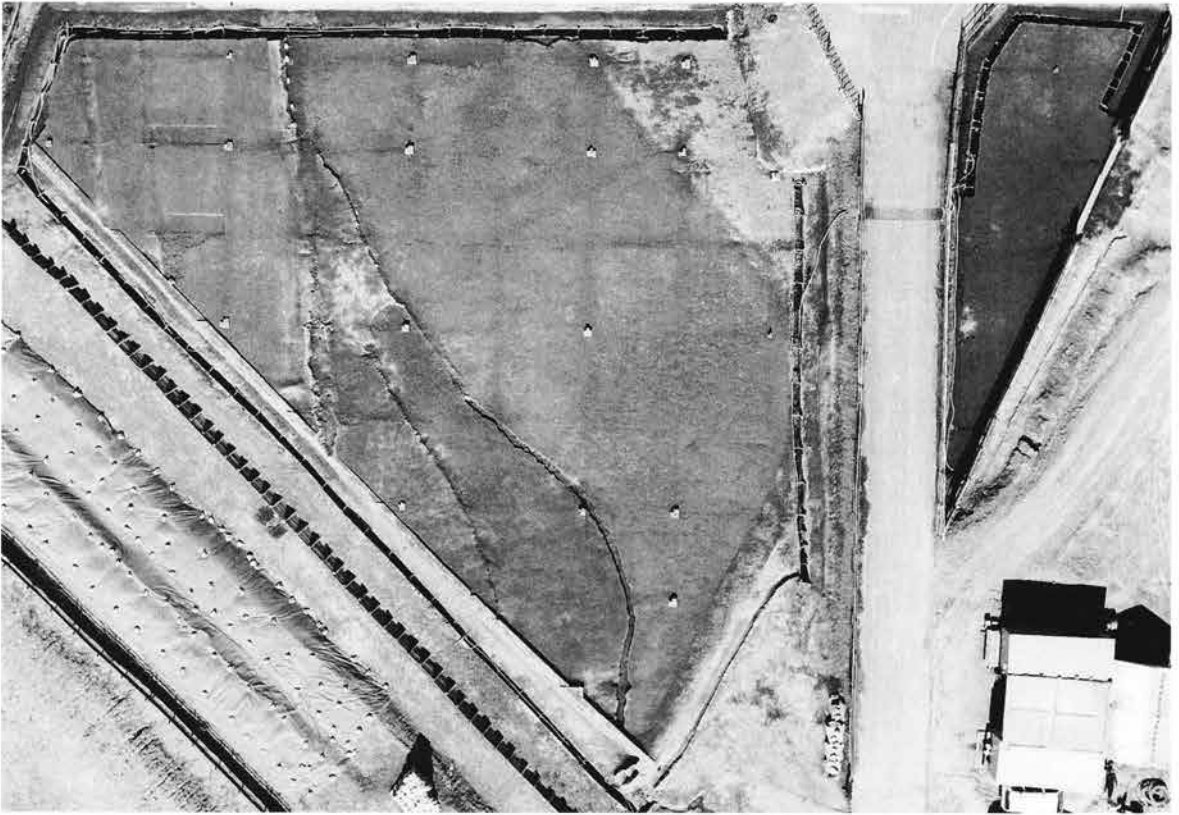
6 D1-3溝 (北より)



1 D1-4溝 (東より)



2 D1-6溝 (西より)



3 近世第2面水田B区 (上が北)



4 B3-1溝 (南東より)



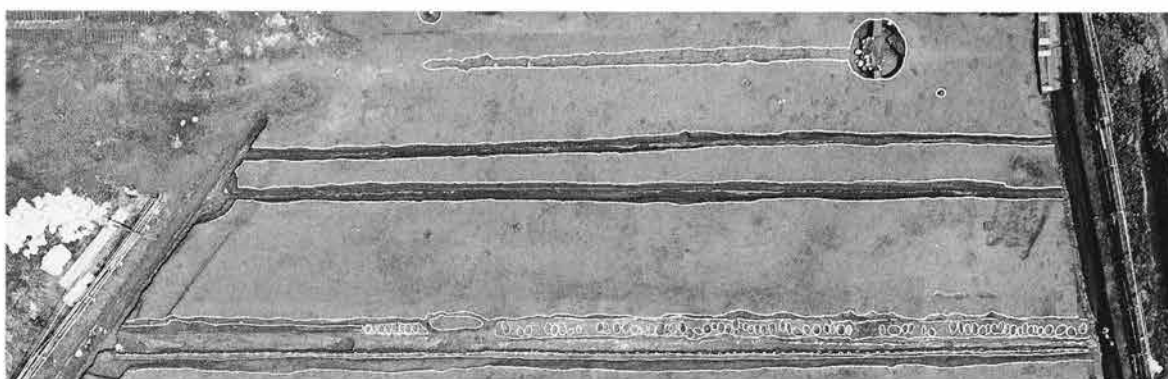
5 近世第2面水田B区北~中央部 (北より)



1 近世第2面水田B区西部（東より）



2 近世第2面水田B区北部石列（南東より）



3 近世第1面E区北部（上が北）



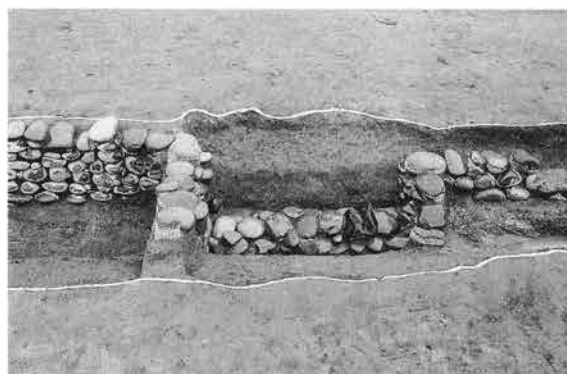
4 E1-1溝確認状態（西より）



5 E1-1溝確認状態（南西より）



6 E1-1溝石組（南東より）



7 E1-1溝出入口部分（南より）



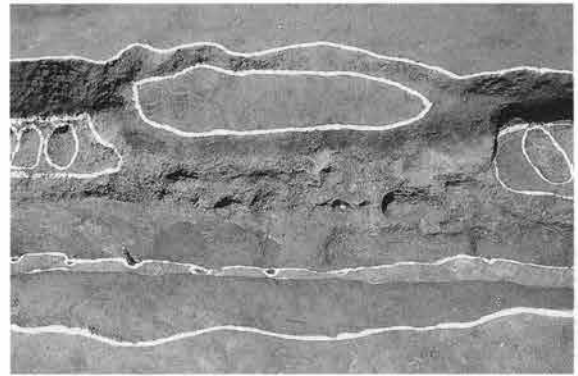
1 E1-1 溝石組西部 (南より)



2 E1-1 溝石組東部 (南より)



3 E1-1 溝掘り形 (東より)



4 E1-1 溝出入口部分掘り形 (南より)



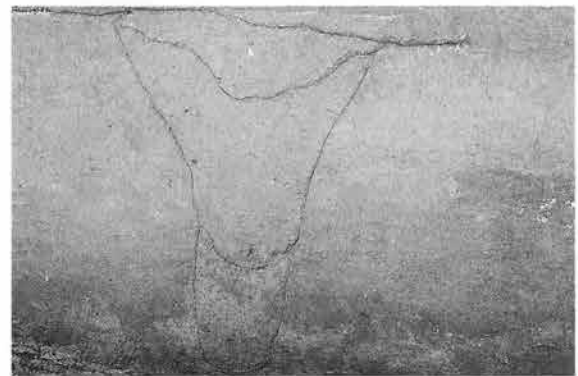
5 E1-1 溝断面 (西より)



6 E1-2・3 溝 (東より)



7 E1-2 溝断面 (西より)



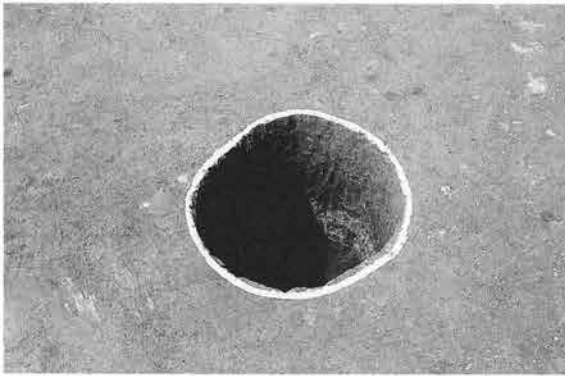
8 E1-3 溝断面 (西より)



1 E1-2井戸 (東より)



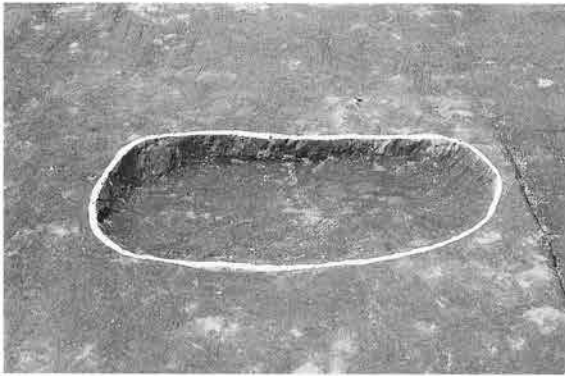
2 E1-3井戸 (東より)



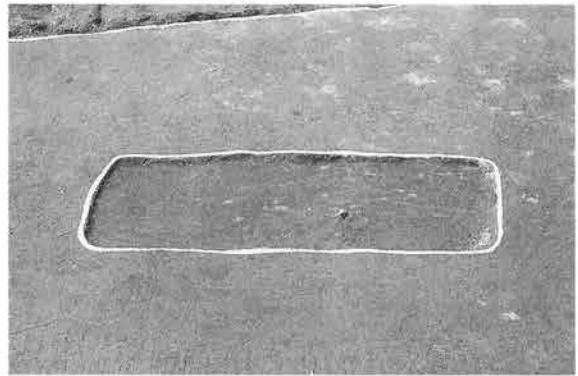
3 E1-15井戸 (南より)



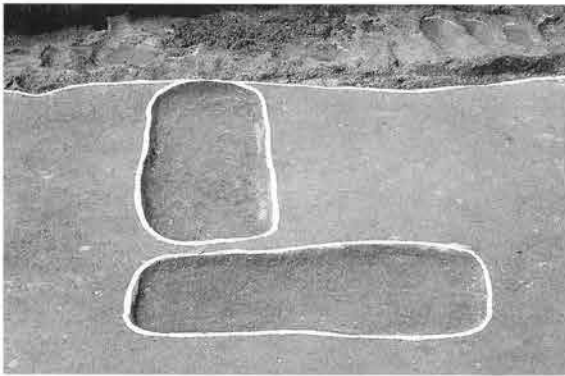
4 E1-1土坑 (東より)



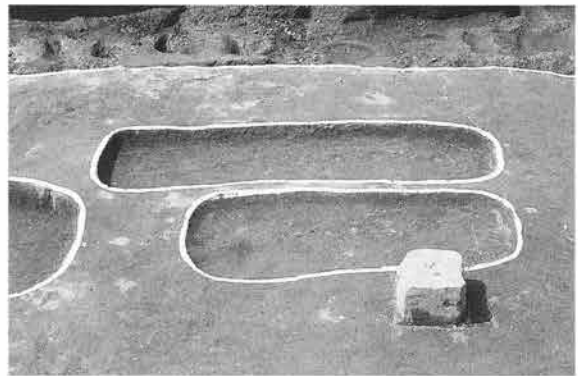
5 E1-4土坑 (南より)



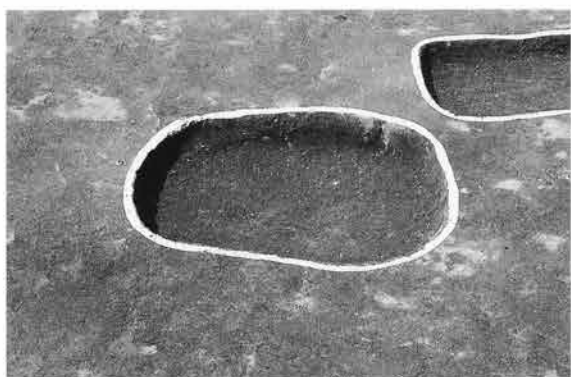
6 E1-5土坑 (南より)



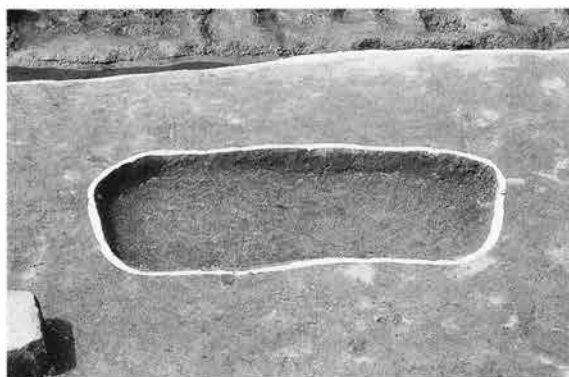
7 E1-6・7土坑 (南より)



8 E1-8・9土坑 (南より)



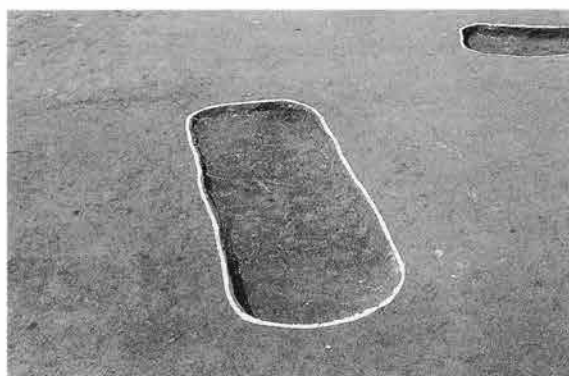
1 E 1—10土坑 (南より)



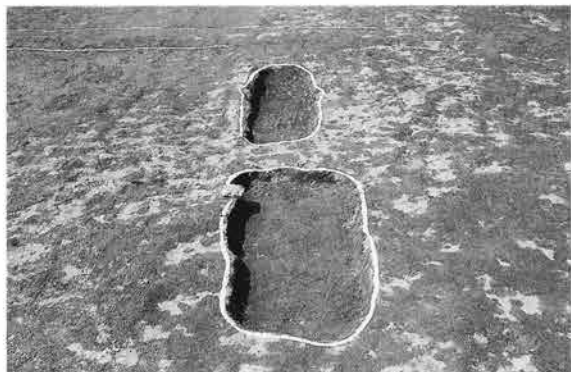
2 E 1—11土坑 (南より)



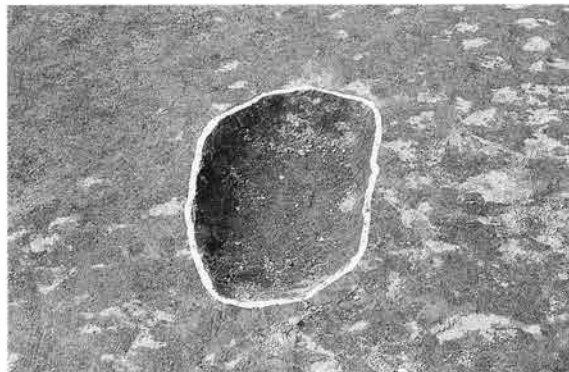
3 E 1—12・13土坑 (南より)



4 E 1—14土坑 (南より)



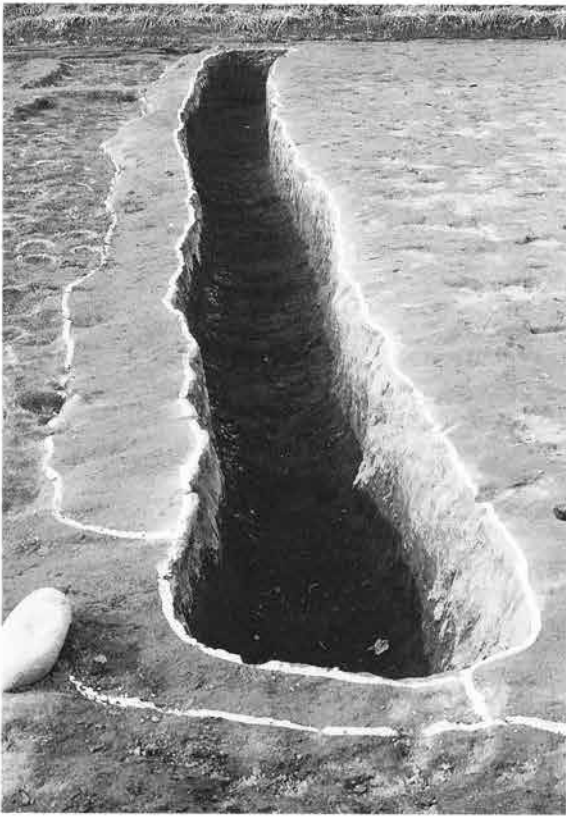
5 E 1—16・17土坑 (南より)



6 E 1—18土坑 (南より)



7 E 1—19土坑 (東より)



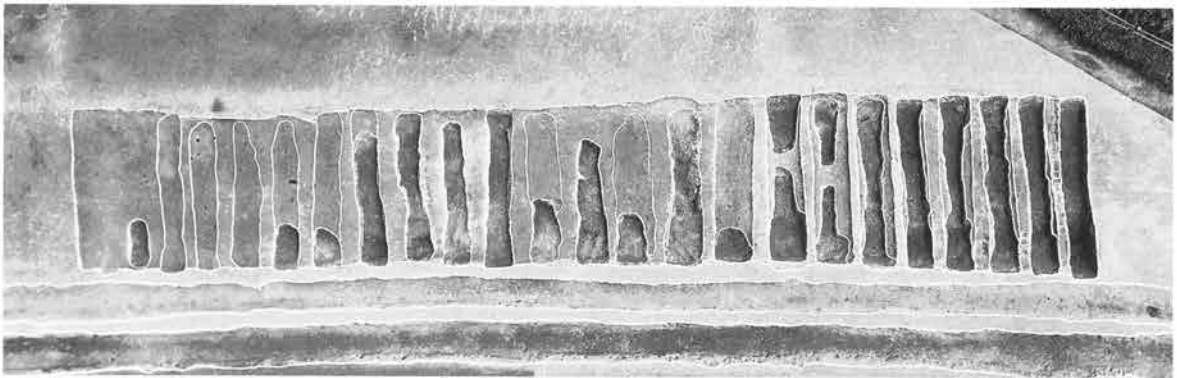
1 C1-1 灰搔 (東より)



2 C1-1 灰搔西側断面 (東より)



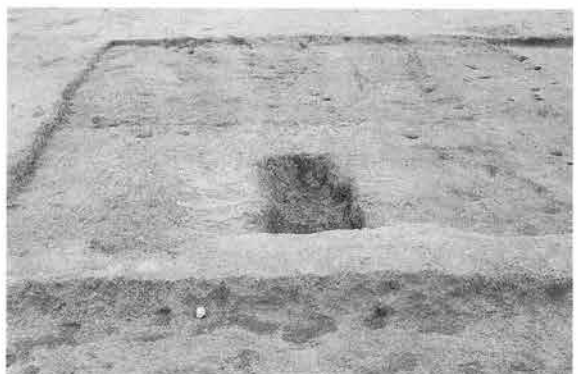
3 C1-1 灰搔東側断面 (東より)



4 D1-1 灰搔群 (左が北)



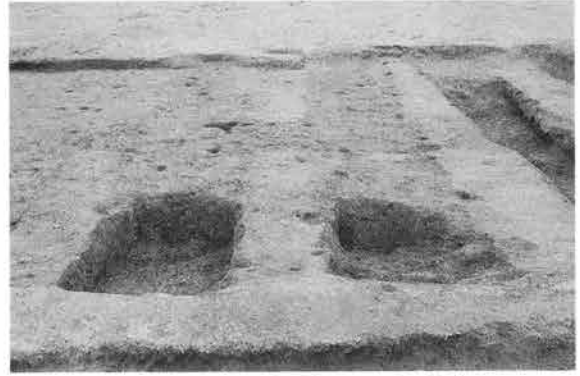
5 D1-1 灰搔群 (南東より)



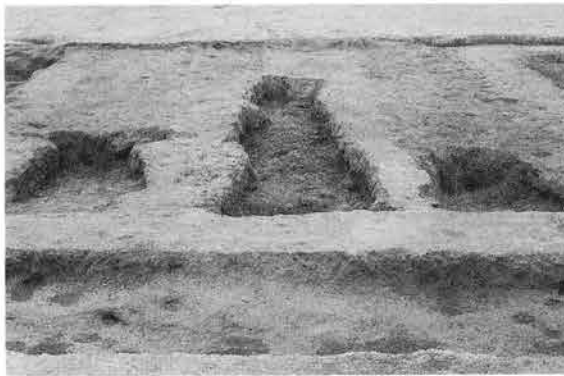
6 D1-1 灰搔群 1~3 (西より)



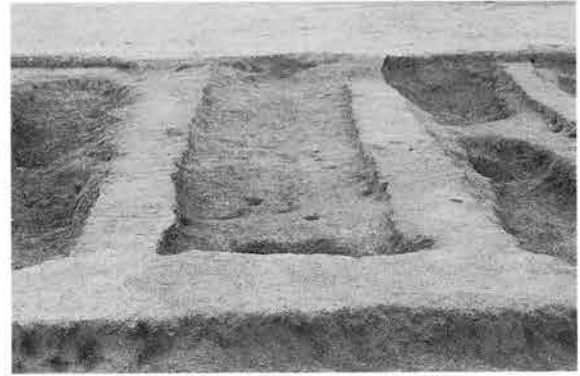
1 D1-1 灰掻群4・5 (西より)



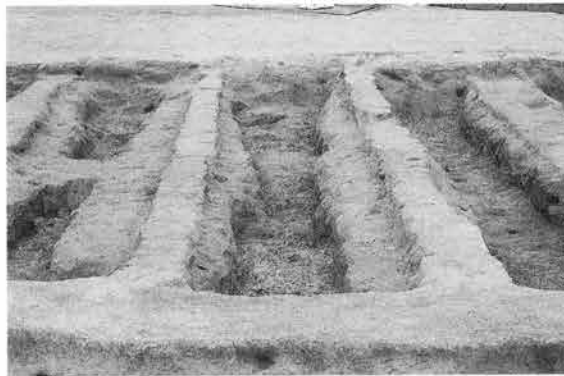
2 D1-1 灰掻群6・7 (西より)



3 D1-1 灰掻群12~14 (西より)



4 D1-1 灰掻群15~17 (西より)



5 D1-1 灰掻群18~20 (西より)



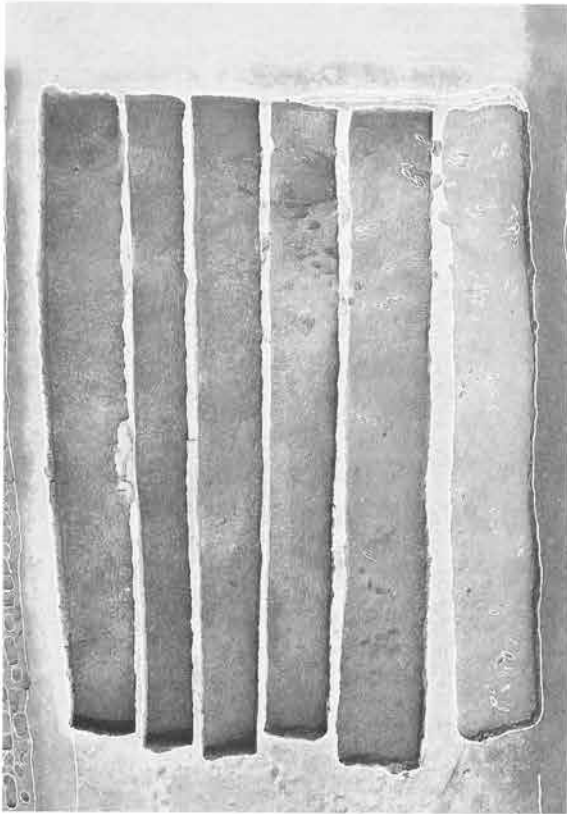
6 D1-1 灰掻群20~22 (西より)



7 D1-1 灰掻群22~24 (西より)



8 D1-1 灰掻群断面南部 (西より)



1 D1-2 灰掻群 (上が北)



2 D1-2 灰掻群 (北より)



3 D1-2 灰掻群 (東より)



4 D1-2 灰掻群東部 (北より)



5 D1-2 灰掻群南西部 (北より)



6 D1-2 灰掻群断面西部 (南より)



1 中世第1面水田E区 (上が北)



2 E2-1 サク状遺構 (南より)



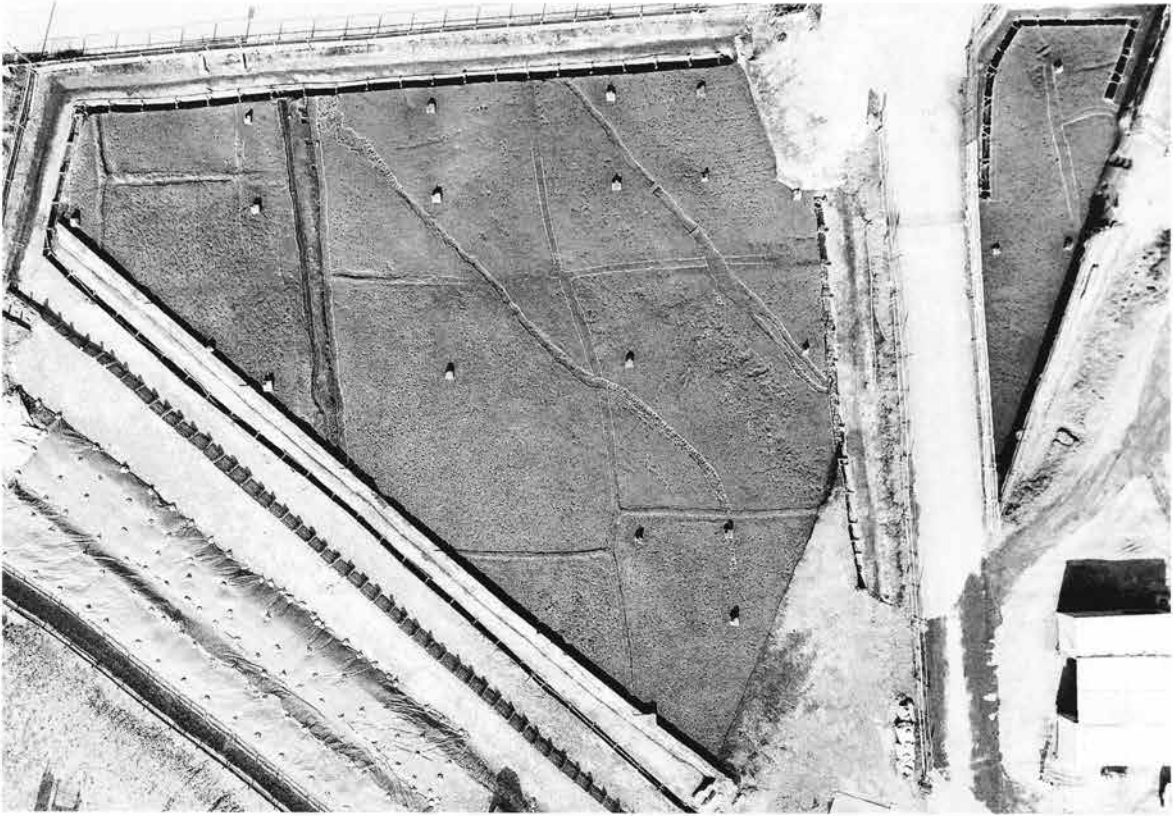
3 中世第1面水田E区南部 (南東より)



4 E2-3 溝 (東より)



5 E2-1.2 溝 (北東より)



1 中世第2面水田B区（上が北）



2 中世第2面水田B区北西部（南東より）



3 B4-3·4溝（北東より）



4 B4-1溝（北西より）



5 B4-2溝（北西より）